

東五十子・川原町

児玉郡市広域市町村圏組合
小山川クリーンセンター・湯かっこ建設工事関係発掘調査報告

〈第2分冊〉

2002

東五十子遺跡調査会

目 次

序
例言
凡例
目次

東五十子遺跡調査会会長 福島 巖

〈第1分冊〉		〈第2分冊〉	
I	調査に至る経過 …………… 1	4	東五十子遺跡の集落
II	遺跡の環境	(1)	竪穴住居 ……………489
1	地理的環境 …………… 2	(2)	グリッド ……………648
2	歴史的環境 …………… 4	5	川原町遺跡の集落
III	調査の方法と経過	(1)	竪穴住居 ……………654
1	調査の方法 …………… 5	(2)	土壌 ……………691
2	調査の経過 …………… 5	(3)	グリッド ……………694
IV	調査の成果	6	縄文土器
1	遺跡の概要 …………… 6	(1)	東五十子遺跡 ……………696
2	中・近世の遺構と遺物	(2)	川原町遺跡 ……………699
(1)	溝 …………… 8	V	分析と考察
(2)	井戸 …………… 52	1	東五十子遺跡古墳周堀内のテフラ ……………700
(3)	方形竪穴状遺構 ……………114	2	東五十子遺跡出土埴輪の蛍光X線分析 ……704
(4)	土壌 ……………145	3	文字線刻紡錘車の分析 ……………710
(5)	火葬土壌 ……………225	VI	まとめ ……………715
(6)	建物 ……………227		写真図版
(7)	集石遺構 ……………229		
(8)	性格不明遺構 ……………231		
(9)	グリッド ……………234		
(10)	試掘調査時出土遺物 ……………254		
(11)	表面採集遺物 ……………259		
3	古墳群		
(1)	古墳 ……………260		
(2)	グリッドその他の出土遺物 ……………475		

4 東五十子遺跡の集落

(1) 竪穴住居

検出した竪穴住居の総数は78軒にのぼる。すべての竪穴住居が中央の埋没谷を回避して、南北の微高地上に分布している。北側微高地に3軒、南側微高地に75軒が立地する。北側微高地の3軒のうち、SI-01は、他の2軒SI-02・03とも離れ単独で存在する。SI-02・03は調査区北辺に位置し、ST-16と切り合い関係にあるが、同墳との時間的前後関係が明らかではない。以北に形成される集落南縁の一角をなす可能性も考えられるが、少なくとも今次調査区の範囲にあっては、古墳群と集落とが著しく重複する様相は認めない。

いっぽう、南側微高地では、調査区の南東寄りおよび南西側の段丘崖沿の中央部で分布密度が高く、調査区中央の埋没谷に接近するにつれて分布の度合いを低くする。

また、耕作と風化による表土層の浸食が著しく、確認面から床面までがきわめて浅い事例や、すでに覆土を失い、床面下の掘り方のみを確認した事例も多い。

南側微高地のうち南西、南および東側では、調査区外に遺構が延長していることから、河川による段丘崖の形成作用、土取りによる浸食により相当部分の遺構が滅失していることが想定される。本来の竪穴住居の分布は、原地形に従って、さらにこれらの方向に拡大するものと考えてよい。往時の河川流路にもよるが、台地下に隣接する川原町遺跡や小山川南岸に対峙する岡部町六反田遺跡にも並行期の集落遺跡の存在が知られており、これらの遺跡群との有機的関連が想定される。往時の河川流路にもよるが、周辺遺跡と一連の集落を形成していた可能性もまた否定できない。

9世紀代に属する一部の竪穴住居は、確認面上層から覆土に至るまで夥しい量の土師器、須恵器の小片を混入する包含層を形成していた。これらの遺構は、住居としての本来の用途が終了した後、生活材の廃棄場所としての機能を担ったと推測される。

なお、古墳周堀によって破壊されている4～5世紀代の竪穴住居跡を除けば、古墳との重複、切り合い関係にある遺構は少ない。古墳の築造年代は、中期末から終末期初頭にかけてであり、TK-47～MT-15段階と埴輪消滅期を前後するTK-43～TK217段階の二時期に集中するが、6世紀代に属する竪穴住居は、調査区南端に位置するSI-34・64の2軒に過ぎない。7世紀後半以降、古墳群内への集落の進出が認められるが、その場合もなお、一部古墳周堀と重複する事例を除き、多くが古墳周堀を回避して設営されている。これらのことから、鬼高期以降、一定期間の集落選地は、古墳群の存在を意識してなされた可能性が高い。

SI-01 (図321)

位置：F-3、G-3グリッドに位置する。

形状：南側をST-06および攪乱により切られている。一辺3.8m程度の方形を呈するものと推測される。

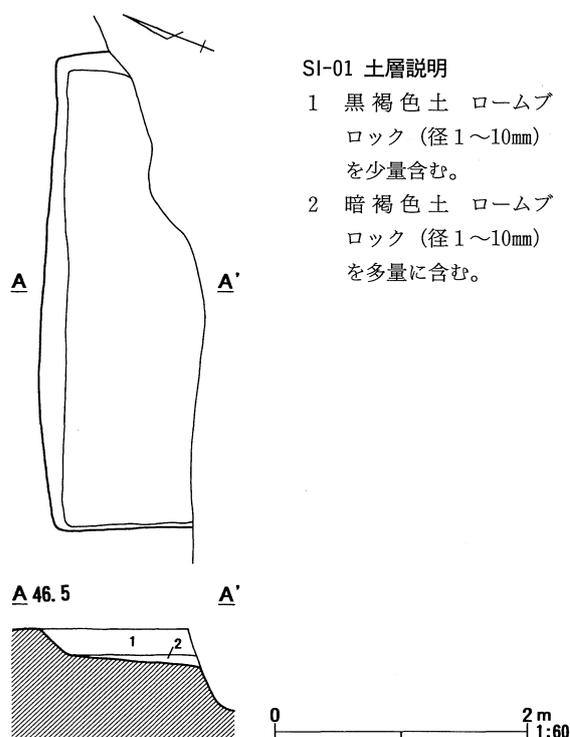
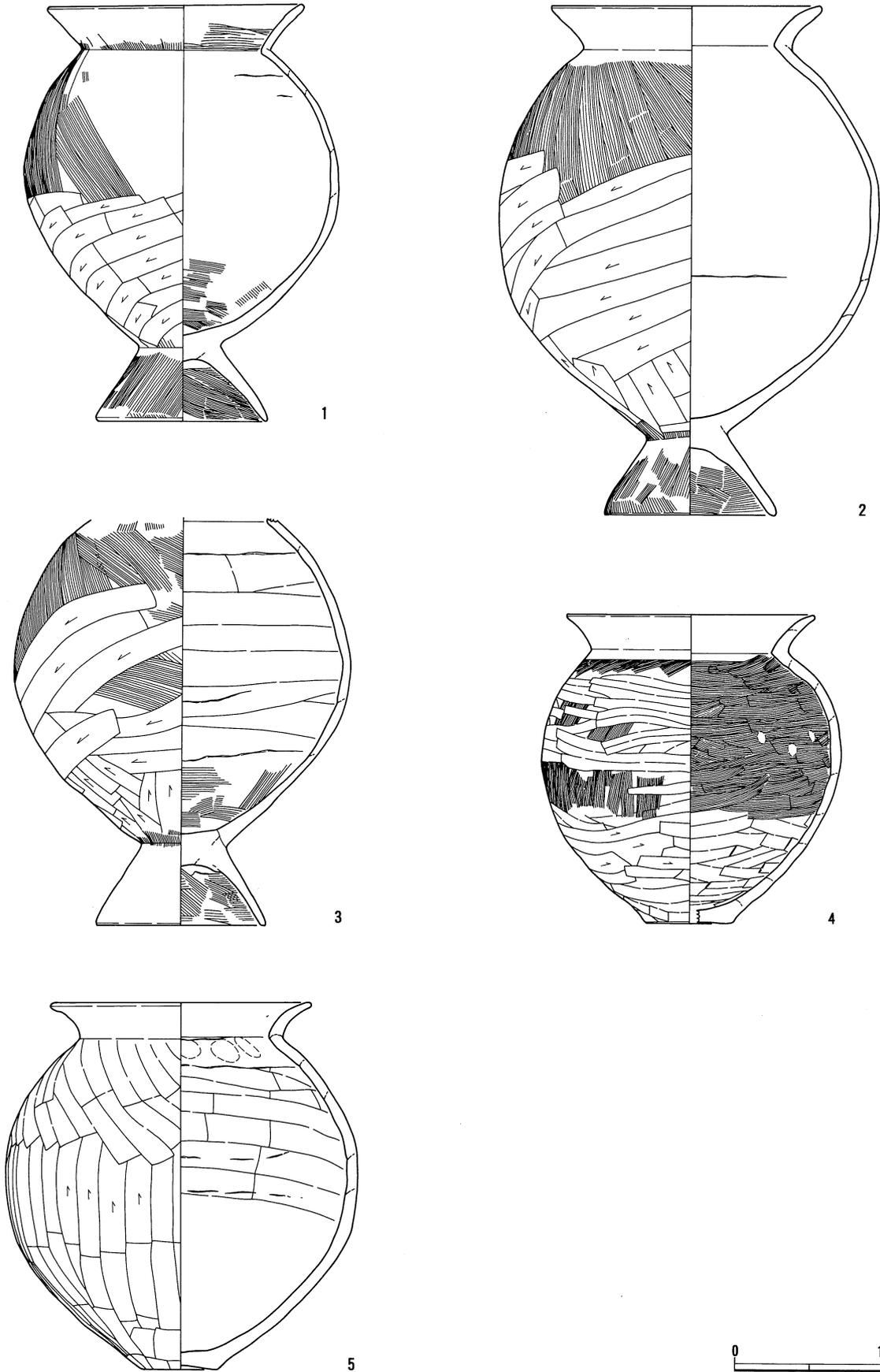


図321 SI-01



5
 图322 SI-01 出土遺物

SI-01

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 台付甕	口径 16.8 底径 11.1 器高 28.2	粘土紐積み上げ成形。球状の胴部、直線的に外反する口縁部、「ハ」字状に開いた台部。	外面一口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部上半斜縦位ハケメ、下半斜横位ヘラケズリ、台部斜縦位ハケメ。内面一口縁部横位ハケメ、胴部ハケメ後ヘラナデ、台部斜横位ハケメ。	白色粒・褐色粒・礫 内外一橙～にぶい黄橙色	ほぼ完形。
2	土師器 台付甕	口径 18.0 底径 11.4 器高 34.5	粘土紐積み上げ成形。球状の長い胴部、直線的に外反する口縁部、「ハ」字状に開いた台部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半斜縦位ハケメ、下半斜横位ヘラケズリ、台部斜縦位ハケメ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、台部斜横位ハケメ。	礫 内外一明褐色	胴部～台部 1/8欠損。
3	土師器 台付甕	口径 — 底径 11.2 器高 —	粘土紐積み上げ成形。球状の長い胴部、「ハ」字状に開いた台部。	外面一口縁部上半斜縦位ハケメ、下半斜横位ヘラケズリ、台部ハケメ後ヘラナデ。内面一口縁部横位ヘラナデ、台部斜横位ハケメ。	礫 内外一にぶい赤褐色	胴部上位～下位 1/3欠損。
4	土師器 甕	口径 16.4 底径 (5.7) 器高 20.8	粘土紐積み上げ成形。胴部中位に膨らみをもち、口縁部は直線的に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半ハケメ後横位ヘラナデ、下半横位ヘラナデ・ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ハケメ、下半横位ヘラナデ。	黒色粒・礫・雲母 内外一にぶい黄橙色	胴部中位～底部 1/2欠損。
5	土師器 甕	口径 16.9 底径 5.0 器高 24.8	粘土紐積み上げ成形。胴部中位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半斜縦位ヘラナデ、下半縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫・角閃石 内外一にぶい橙～にぶい黄橙色	3/4。

構造：覆土は、単層で、ロームブロックを若干含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、炉、貯蔵穴の存在は確認できない。床はロームブロックを多量に含む暗褐色土を充填して貼床を構築している。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。掘り方は中央部に向かって緩やかに傾斜している。床面下には土壌その他の遺構は認められない。

遺物：遺物は、覆土中から、ほぼ完形に復原される1点を含む土師器台付甕3点、甕2点を検出したほか、土師器片若干が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から4世紀後半代と判断される。

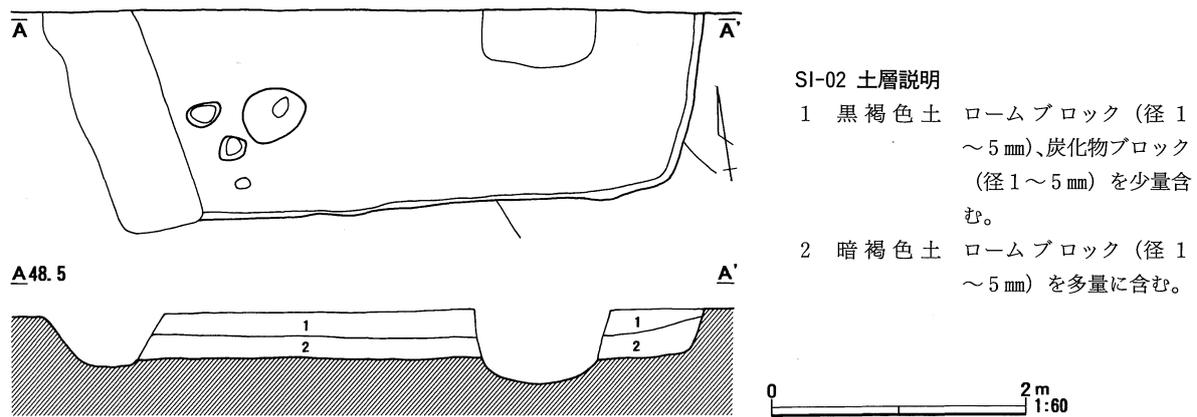
SI-02 (図323)

位置：M-2グリッドに位置する。

形状：北側1/3程度が調査区外にあり、ST-16の周堀を切って構築され、西壁は攪乱により失っている。中央東よりの壁際には後代の土壌が存在し床面の一部が切られている。プランは、南東隅が鈍角を描き、東壁のプランが緩やかにカーブする。原形は一辺4.5m程度の不整形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層にロームブロック、炭化物を含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、炉ないしカマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは40cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器片が若干出土しているが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆



SI-02 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm)、炭化物ブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含む。

図323 SI-02

無であった。

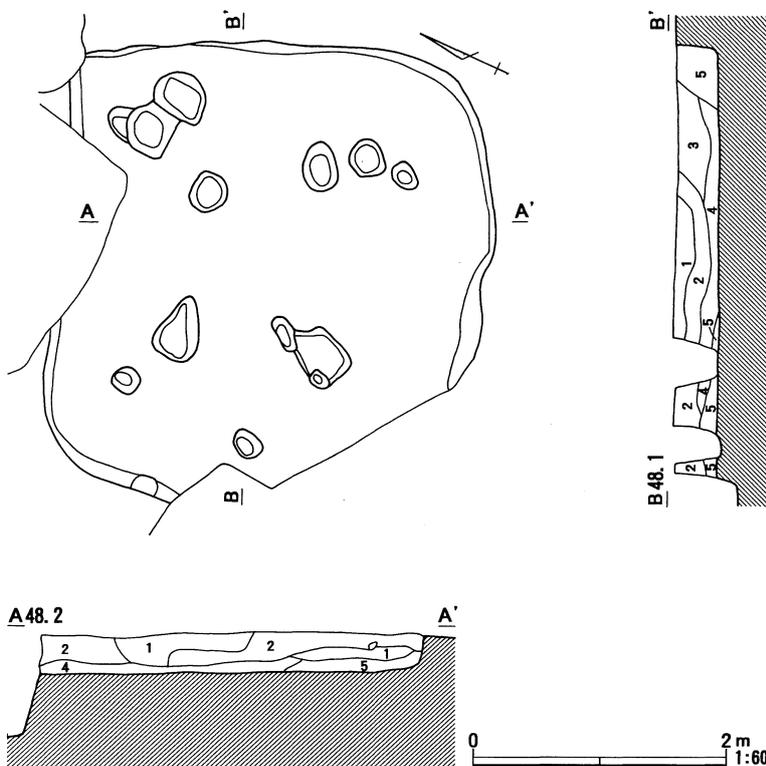
時期：ST-16とは切合い関係にあるが、二遺構の時間的前後関係は、覆土の観察からは明らかではなく、所属時期の詳細は不明である。

SI-03 (図324)

位置：N-1 グリッドに位置する。

形状：北西壁を SF-17に、南西壁の一部を SF-18により切られ、南西隅と南東壁の一部が ST-16と重複する。プランは、3.5×3.7mの隅丸方形を呈する。

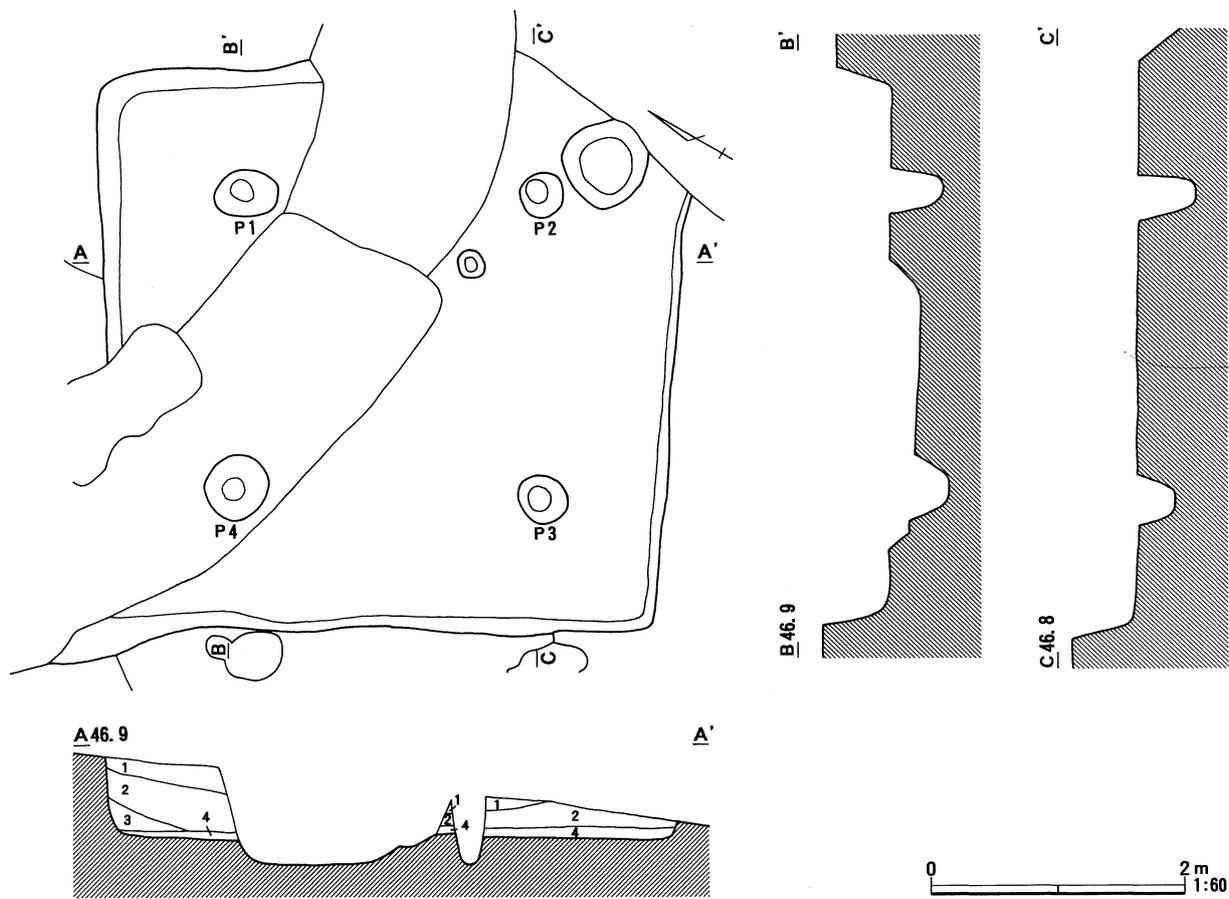
構造：覆土は、下層にロームブロックを含む黄褐色土、上層にロームブロック、炭化物、焼土を含む黒褐色



SI-03 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 5 ~ 10mm)、炭化物ブロック (径 1 ~ 5 mm)、焼土ブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 5 ~ 10mm)、炭化物ブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径 10 ~ 15mm) を多量に含み、炭化物ブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック (径 5 ~ 10mm) を含む。
- 5 黄褐色土

図324 SI-03



SI-04 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）、炭化物ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック（径1mm±）を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり強。貼床層。

図325 SI-04

土の堆積を認める。柱穴、壁溝、炉ないしカマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは32～37cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器片が若干出土しているが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：ST-16とは切合い関係にあるが、二遺構の時間的前後関係は、覆土の観察からは明らかではなく、所属時期の詳細は不明である。

SI-04 (図325・326)

位置：E-13・14、F-13・14グリッドに位置する。

形状：北西隅から北東壁中央にかけてをST-18の周堀により切られ、南東隅を土取りにより失っている。プランは一辺4.5mの正方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層にロームブロック、炭化物を含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴はP 1～P 4の4基を検出した。壁溝の存在は確認できない。南東隅に貯蔵穴を検出した。径67cm、深さ44cmを測り、黒色土が堆積する。出土遺物の様相からカマドが付設されてしかるべき時期であるが、遺存する範囲では検出できなかった。カマドが付設されていた場合、貯蔵穴との位置的な関係から、ST-18の周堀により破壊を被っている可能性が高い。床はロームブロックを多量に含む暗褐色土を敷いて構築している。確認面から床面までの深さはもともと遺存状態の良い北西壁際で58cmを測る。掘り方は、若干の起伏を認めるものの、おおむね平坦である。床面下には土壌その他の遺構は認められない。

遺物：遺物は、床面直上ないし若干の間層を挟んで土師器の坏、高坏、甕、甑、壺を検出したほか、覆土中

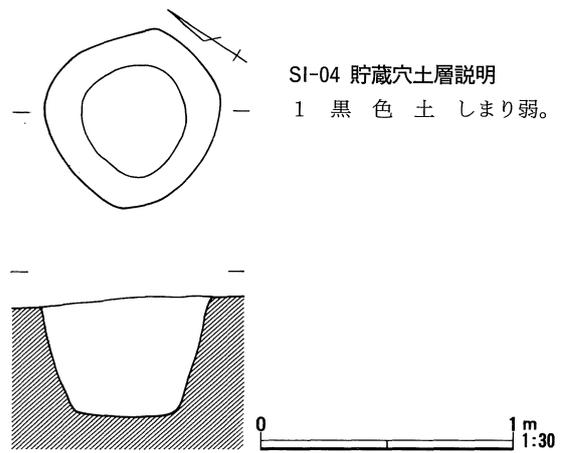


図326 SI-04 貯蔵穴

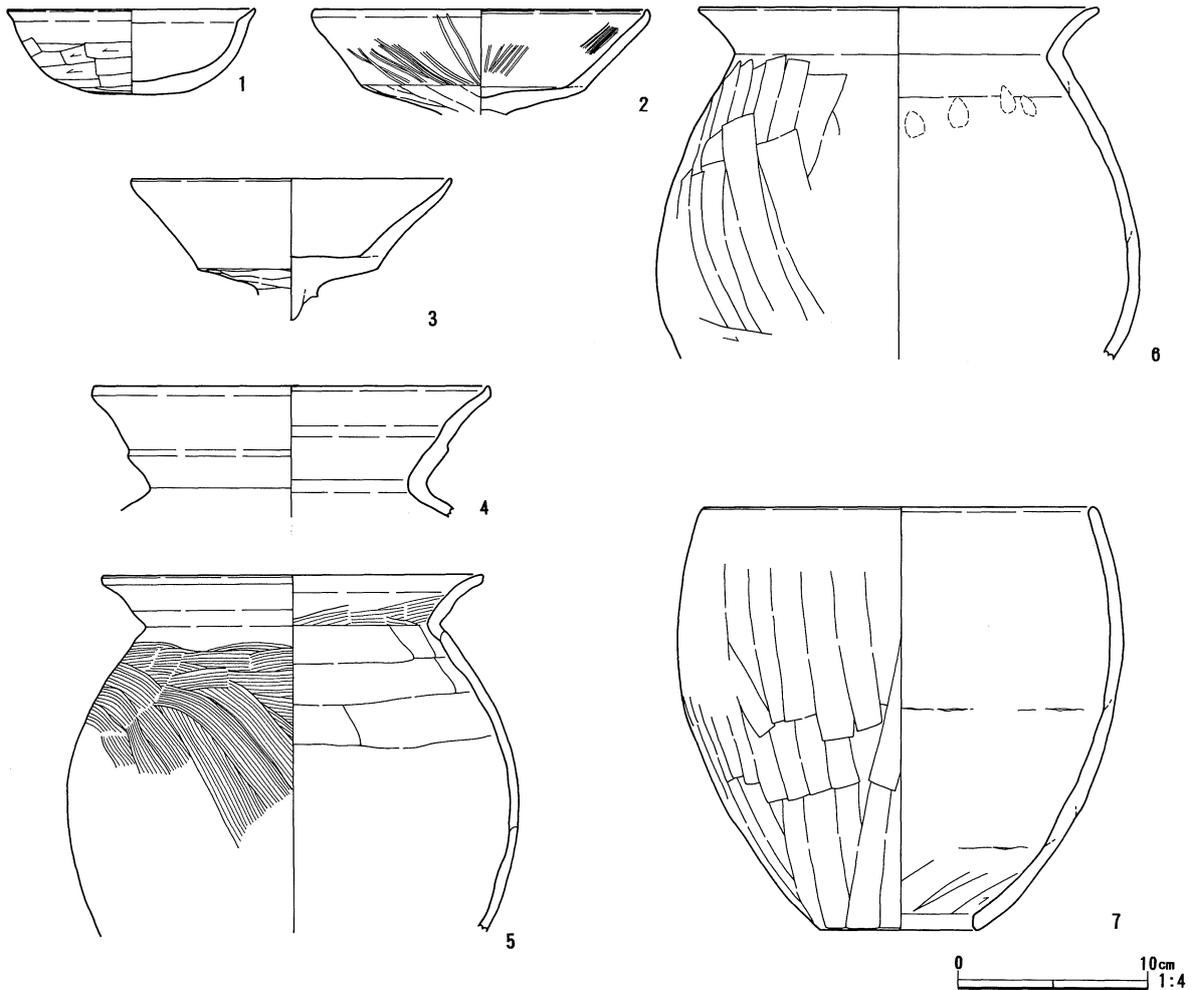


図327 SI-04 出土遺物

SI-04

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 4.5	体部は彎曲し、口縁部は短く外傾。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	褐色粒・黒色粒・石英 内外一明赤褐色	4/5。
2	土師器 高坏	口径 17.6 底径 — 器高 —	坏部は平底から直線的に外反し、口唇部が僅かに内傾。	外面一口縁部ヨコナデ後放射状ヘラケンマ、底部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ後放射状ヘラケンマ、底部ヘラナデ。	褐色粒・黒色粒・石英 内外一明赤褐色	坏部残存。
3	土師器 高坏	口径 16.8 底径 — 器高 —	坏部は平底から直線的に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	褐色粒・黒色粒・石英 内外一にぶい赤褐色	坏部残存。
4	土師器 壺	口径 20.8 底径 — 器高 —	口縁部中位に段差をもち、口縁端部は平坦で僅かに内傾。	外面一口縁部～胴部上位ヨコナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	褐色粒・黒色粒・雲母 内外一明褐色	口縁部～胴部 3/5。
5	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	中位に膨らみをもつ胴部から、口縁部は直線的に外反。	外面一口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部斜縦位ハケメ。内面一口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外一にぶい赤褐色	口縁部～胴部下位残存。
6	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 — 器高 —	胴部中位に膨らみをもつやや短胴で、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜縦位ヘラナデ、中位横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一にぶい褐色	口縁部～胴部中位 1/4。
7	土師器 甗	口径 20.4 底径 8.3 器高 22.5	胴部中位に膨らみをもつやや短胴で、口縁部は内彎。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ。内面一口縁部～胴部上・中位ヘラナデ、下位斜縦位ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 内外一にぶい褐色	5/6。

から、土師器片若干の出土を見た。

時期：所属時期は出土遺物の型式から5世紀後半代と判断される。

SI-05 (図328)

位置：F-13・14グリッドに位置する。

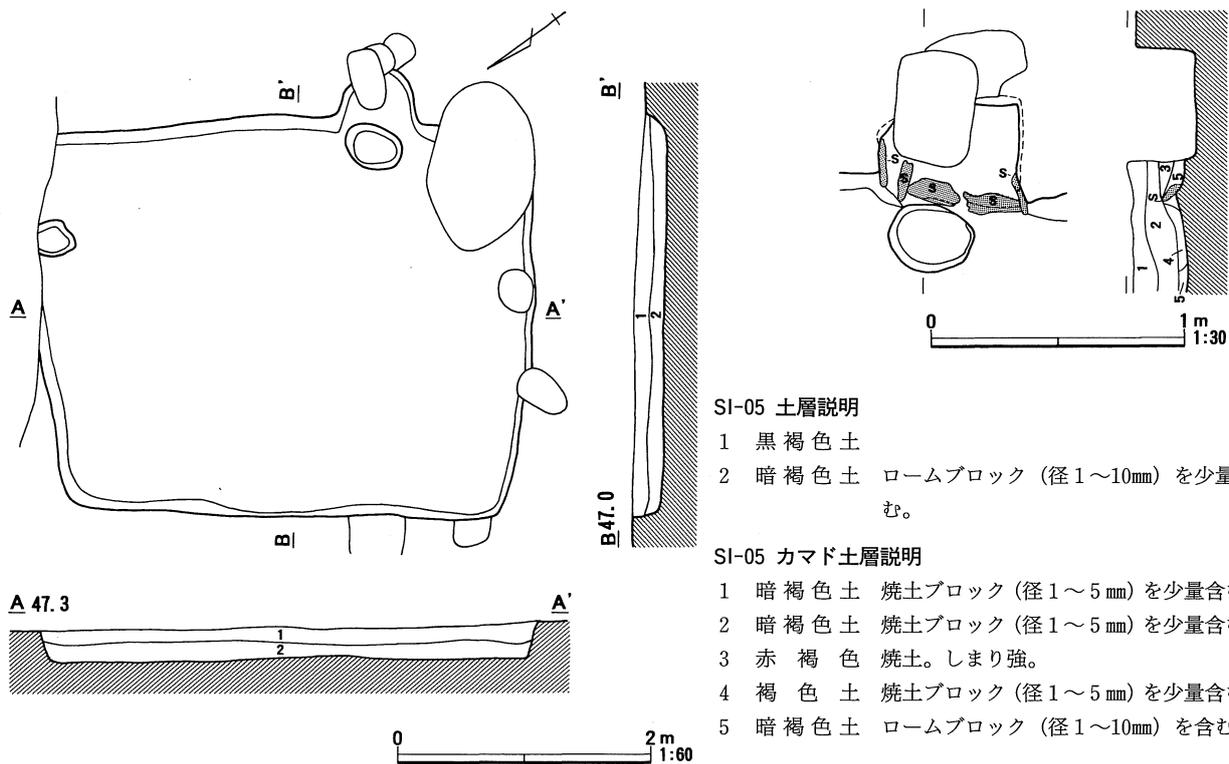
形状：北東壁の一部をST-18の周堀により、南東隅をSK-635により、カマドの燃焼部立ち上がりの一部をピットにより切られている。プランは、3.2×3.9mの長方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層に黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。

南東壁の南東隅寄りにカマドを付設する。カマドは壁掘込構造の燃焼部をもち、幅56cm、奥行き46cmを測る。袖部を有さず、煙道を認めない。焚口および側壁の焚口より絹雲母片岩の板石を配する。いずれの板石も被熱しているが、とくに側壁を構成する板石はカマドの掘り込みに密着し、奥壁との被熱面が一連であることから原位置をとどめるものと判断される。焚口の板石は床面近くで検出しているが、元来は焚口天井部の構造材として使用されていた可能性が高い。カマドに伴う遺物は認められない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは40cm前後を測る。

遺物：遺物は、床面直上で灰釉の長頸壺上半部を、覆土から土錘1点を検出した。

時期：所属時期は灰釉長頸壺の型式から9ないし10世紀代と判断される。



SI-05 土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。

SI-05 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 赤褐色 焼土。しまり強。
- 4 褐色土 焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を含む。

図328 SI-05

SI-05

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	灰釉陶器 長頸瓶	口径 10.0 底径 — 器高 —	膨らみをもつ胴部上位から、頸部は上位が緩やかに外反し、口縁部はやや外反。	内外面ロクロ整形。	黒色粒 内外一灰色	口縁部~胴部中位 2/3。
2	土 錘	長さ:5.7 厚さ:1.5 孔径:0.6	細砂粒	にぶい黄橙色		完形。

SI-06 (図330)

位置：G-12・13グリッドに位置する。

形状：東隅をSF-33により、西隅から中央部にかけてをSF-55により、南隅から南東壁の上部をSK-639により切られている。プランは、3.2×3.85mの長方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層にロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。南東壁の南東隅近くにカマドを付設する。カマドは燃焼部と煙道部境界が不明瞭で、袖部の有無も明らかではない。

最大幅65cm、奥行き103cmを測る。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器および須恵器片が若干出土しているが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明である。

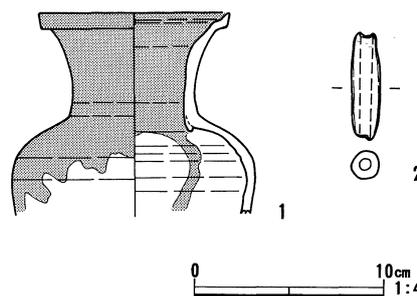
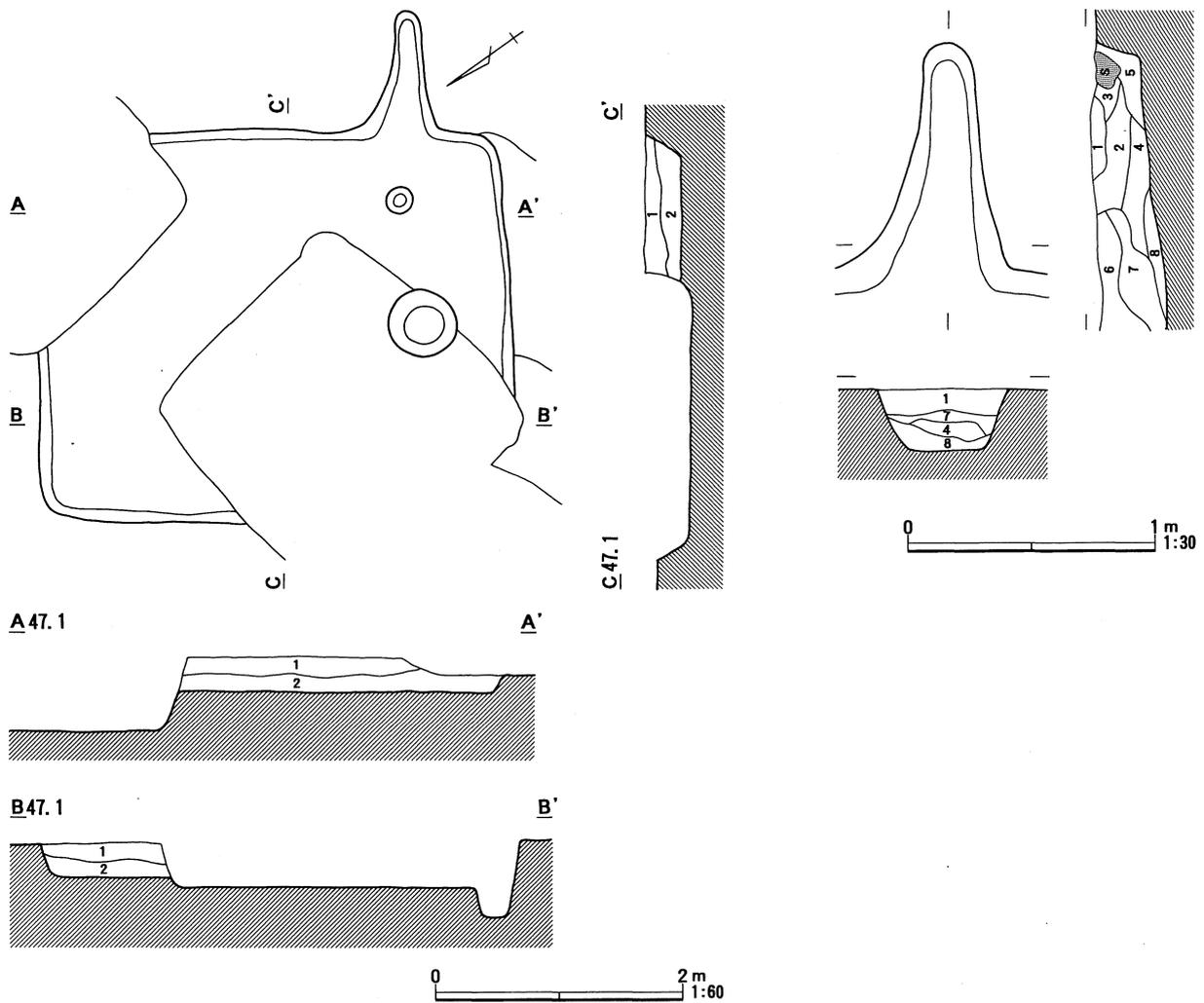


図329 SI-05 出土遺物



SI-06 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径1mm±）を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。

SI-06 カマド土層説明

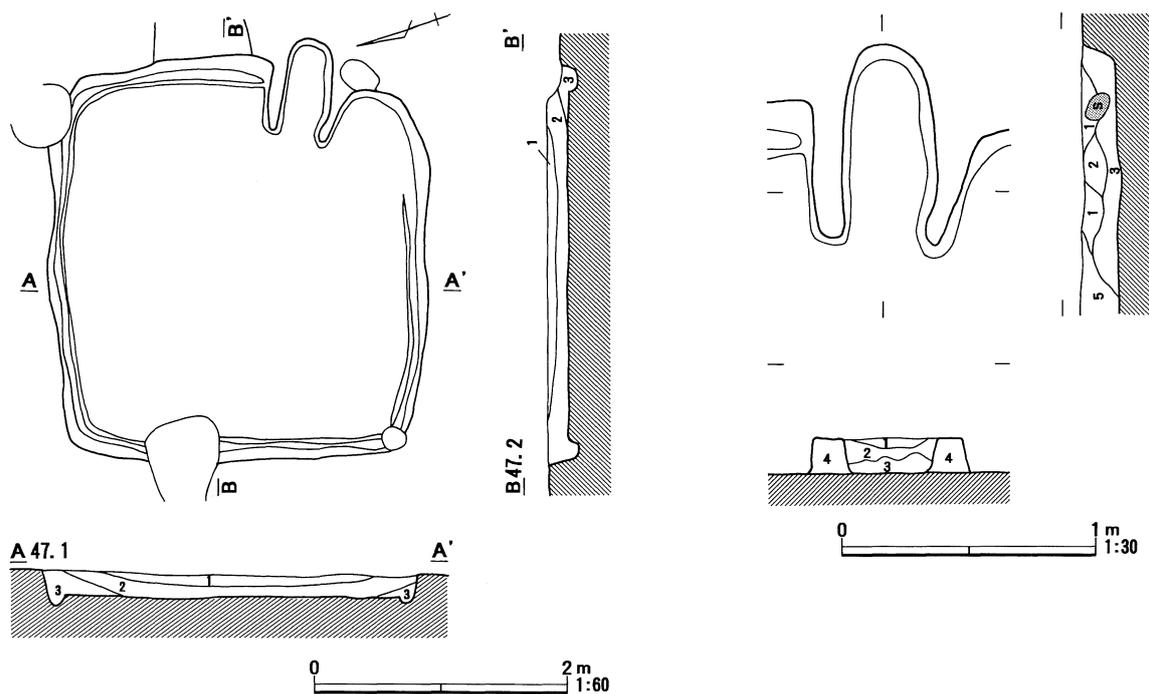
- 1 黒色土 焼土ブロック（径1～2mm）、白色粘質土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 2 黒色土 焼土ブロック（径1～5mm）、炭化物ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 3 黒色土 焼土ブロック（径1～10mm）を多量に含む。
- 4 黒色土 焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む、炭化物ブロック（径1～3mm）を多量に含む。
- 5 黒色土 ロームブロック（径1～2mm）、炭化物ブロック（径1～5mm）を多量に含む。
- 6 黒色土 ロームブロック（径1mm±）を少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。
- 8 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。

図330 SI-06

SI-07 (図331)

位置：G-13グリッドに位置する。

形状：壁の一部をSK-645、ピット、攪乱などにより切られているが、ほぼ全形をとどめる。プランは、3.0×



SI-07 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。

SI-07 カマド土層説明

- 1 黒色土 焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1mm±)、白色粘質土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を含む。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 5 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。

図331 SI-07

3.2mの長方形を呈する。

構造：覆土は、壁際の下層にロームブロック、焼土ブロックを含む暗褐色土の堆積を認めるほか、全体にロームブロック、炭化物を含む黒色土の堆積を認める。柱穴、貯蔵穴の存在は確認できない。壁溝は南東隅を除いて全周する。南東壁の南東隅寄りにカマドを付設する。燃焼部は、先端を壁側に掘り込むものの、ほぼ全体が造付構造となっている。幅38cm、奥行85cmを測る。袖部は焼土ブロックを含む黒色土により構築され、遺存状態は良好である。煙道部の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、須恵器高台碗1点、羽釜片1点を検出したほか、土師器および須恵器の小片が若干出土したのみで、床面直上、カマド内部における遺物は認められない。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から10世紀後半代と判断される。

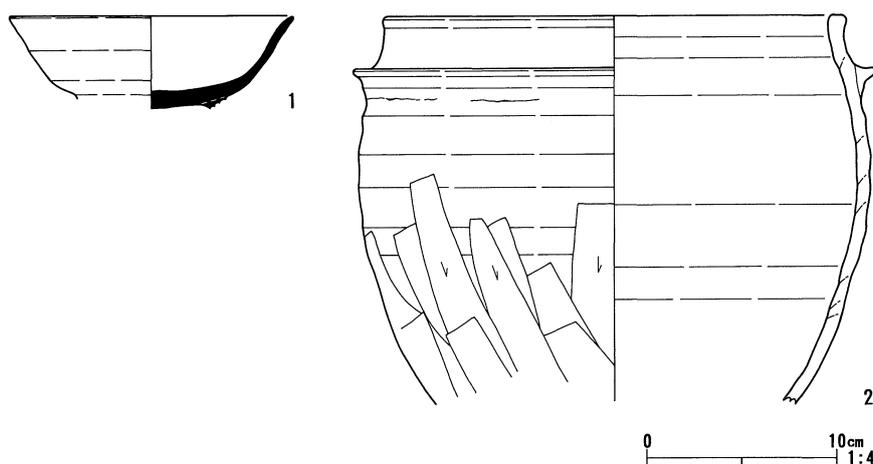


図332 SI-07 出土遺物

SI-07

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 高台碗	口径 (15.0) 底径 — 器高 —	体部下半に僅かな膨らみをもち 口縁部は緩やかに外反。底部は 平底。	体部ロクロ整形、底部切り離し 不明。	白色粒・褐色粒・ 片岩 内外一橙 ～にぶい橙色	3/5。
2	須恵器 羽釜	口径 (24.0) 底径 — 器高 —	胴部中位に膨らみをもち、口縁 部は彎曲気味に内傾。鏝はほぼ 水平に付き、口唇部は平坦で水 平。	外面一ロクロ整形、胴部下半斜 縦位ヘラケズリ。内面一ロクロ 整形。	白色粒・黒色粒・ 石英・角閃石 内外一にぶい橙 ～灰褐色	口縁部～胴部下 位 1/3。

SI-08 (図333)

位置：G-13・14グリッドに位置する。

形状：壁の北東隅をSK-651～654により切られている。プランは、2.95×3.65mの長方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は全面的な貼床構造をもたないが、中央北西寄りの一部を不整形に掘り込み、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を充填している。その他の部分はローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、須恵器坏1点、土製品紡錘車1点を検出したほか、土師器および須恵器の小片が若干出土したのみで、床面直上における遺物は認められない。

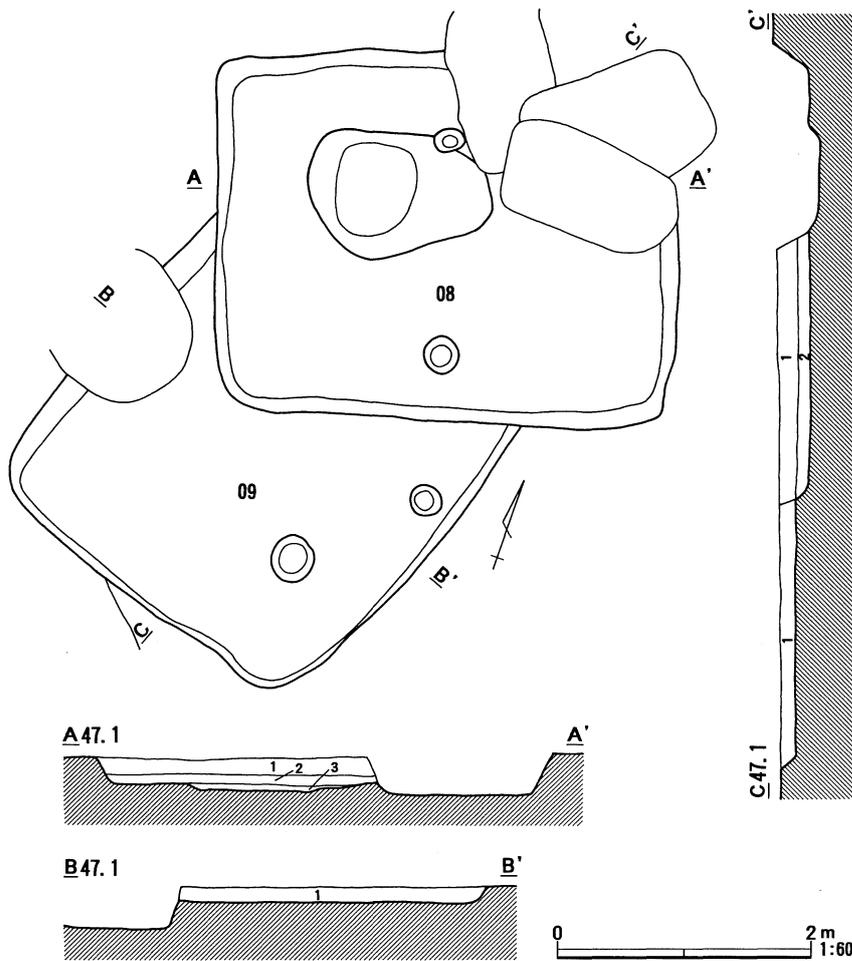
時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から9世紀中葉から後半代と判断される。

SI-09 (図333)

位置：G-14グリッドに位置する。

形状：北側1/3程度をSI-08により、西壁の一部をSK-655により切られ、南西隅SI-10を切っている。プランは、一辺3.05m程度の方角を呈するものと推測される。

構造：覆土は単層で、ロームブロック、粘土ブロック、白色パミスを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面と



SI-08 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり強。貼床層。

SI-09 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、粘土ブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1~5mm) を少量含む。

図333 SI-08・09

している。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは12cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、須恵器坏1点を検出したほか、土師器および須恵器の小片が若干出土したのみで、床面直上における遺物は認められない。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から10世紀後半代と判断される。

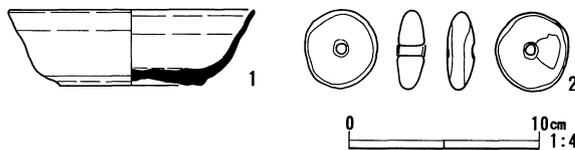


図334 SI-08 出土遺物

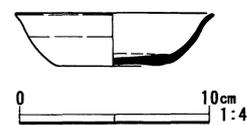


図335 SI-09 出土遺物

SI-08

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器坏	口径 (12.8) 底径 7.5 器高 4.0	体部下位に僅かな膨らみもち口縁部は緩やかに外反。底部は平底で、立ち上がり部分に稜をもつ。	体部ロクロ整形、底部右回転篋切り。	白色粒・黒色粒 内外一灰色	2/3。
2	土製紡錘車	直径：4.2	厚さ：1.4 孔径：0.5 白色粒	橙〜にぶい黄橙色		ほぼ完形。

SI-09

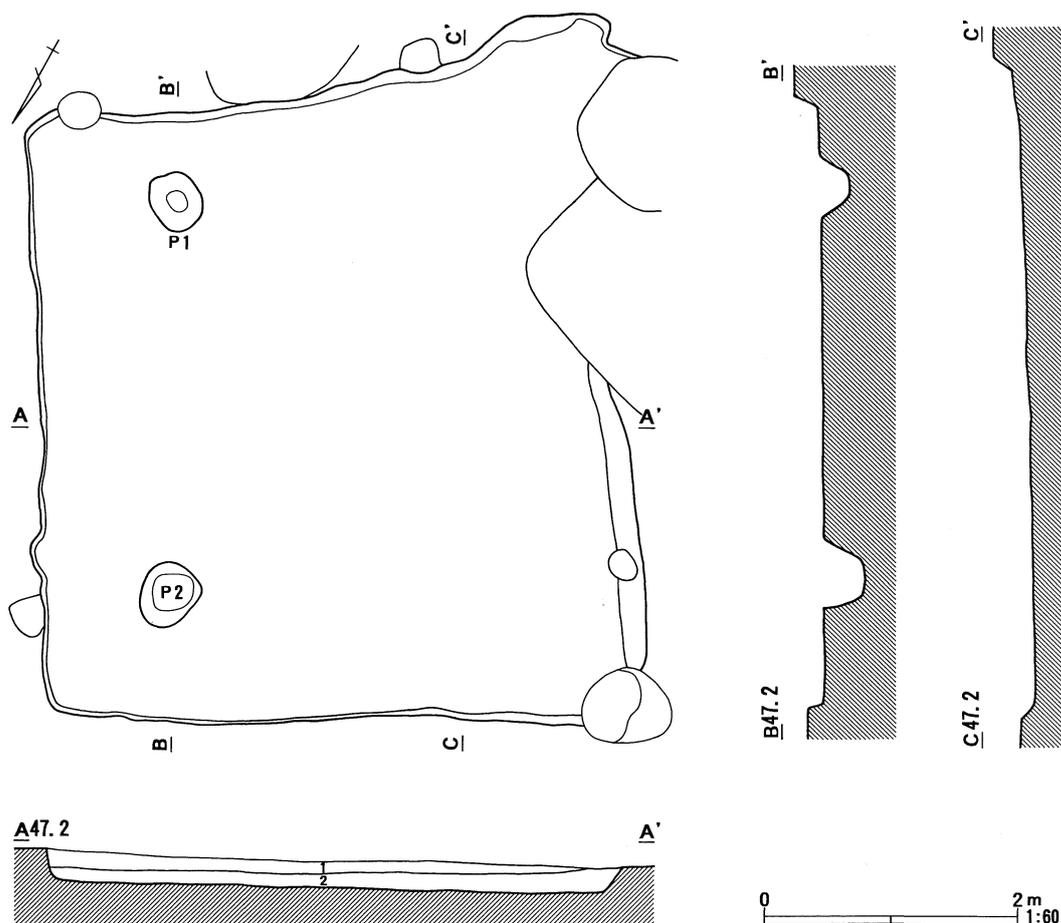
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 坏	口径 10.4 底径 5.5 器高 2.8	体部下位に僅かな膨らみをもち 口縁部は彎曲気味に外反。底部 は平底。	体部ロクロ整形、底部回転糸切 り。	白色粒・黒色粒・ 石英・角閃石 内外一橙〜にぶ い橙色	1/2。

SI-10 (図336)

位置：G-14、H-14グリッドに位置する。

形状：東壁の一部を SI-09 により切られている。プランは、中軸部で 4.4×5.0m を測る。長方形を呈し、北東隅が外側に歪む。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴は P1・P2 の 2 基を検出した。壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面はおおむね平坦であるが、西から東へ緩やかに傾斜している。床面東西端の比高差は 8 cm 程度である。確認面から床面までの深さは 20~27cm を測る。



SI-10 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径 1mm±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5mm) を少量含む。

図336 SI-10

遺物：遺物は、覆土から、甕の上半部片 1 点を検出したほか、土師器の小片が若干出土したのみで、床面直上における遺物は認められない。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から 4 世紀後半代と判断される。

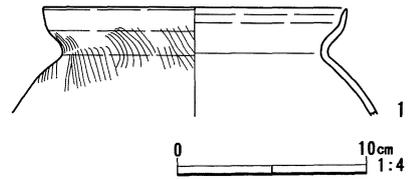


図337 SI-10 出土遺物

SI-10

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 (16.0) 底径 — 器高 —	口縁部は中位の弱い稜から、直立気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外—にぶい褐色	口縁部～胴部上位 1/3。

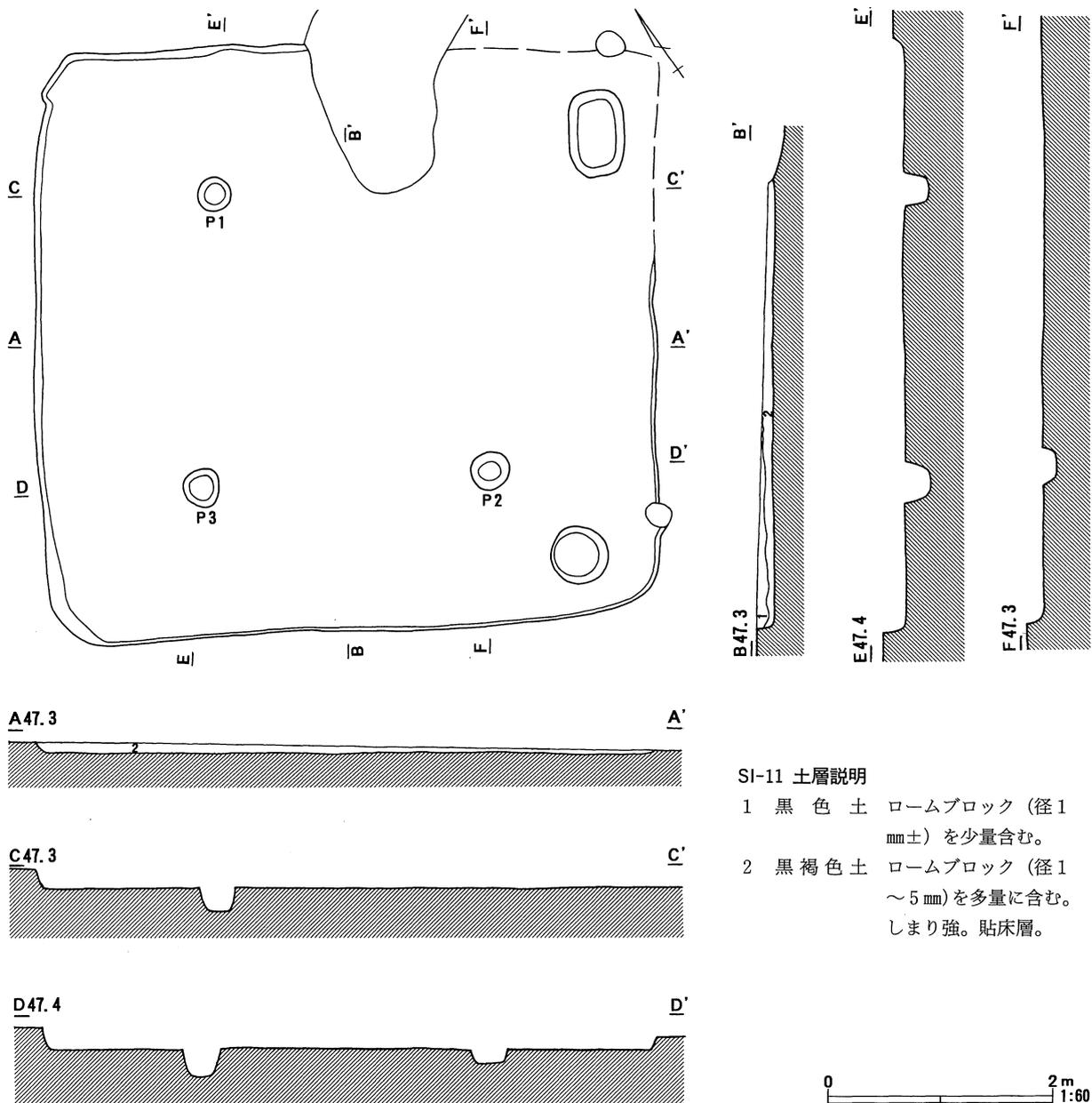


図338 SI-11

SI-11 (図338)

位置：G-14・15、H-14・15グリッドに位置する。

形状：東壁の一部を攪乱により切られているほか、確認面までが浅いため、耕作により北東隅周辺の壁立上りを失っているプランは、一辺5.5mの隅丸正方形を呈する。

構造：現地表から確認面までが浅いため、覆土は、南西壁近くにわずかに残るのみで、ロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴はP 1～P 3の3基を検出した。壁溝、炉ないしカマドの存在は確認できない。北東隅と南東隅とに、それぞれ隅丸長方形と円形の浅い掘り込みが存在する。床はロームブロックを多量に含む黒褐色土を充填して貼床を構築しており、硬化が著しい。中央部より北東側の貼床層は耕作により破壊を被っている。掘り方は、若干の起伏を認めるものの、おおむね平坦である。床面下には土壌その他の遺構は認められない。

遺物：遺物は、床面直上で、高坏の坏部1点のみを検出した。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から5世紀後半代と判断される。

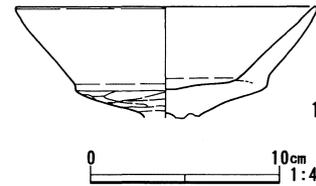
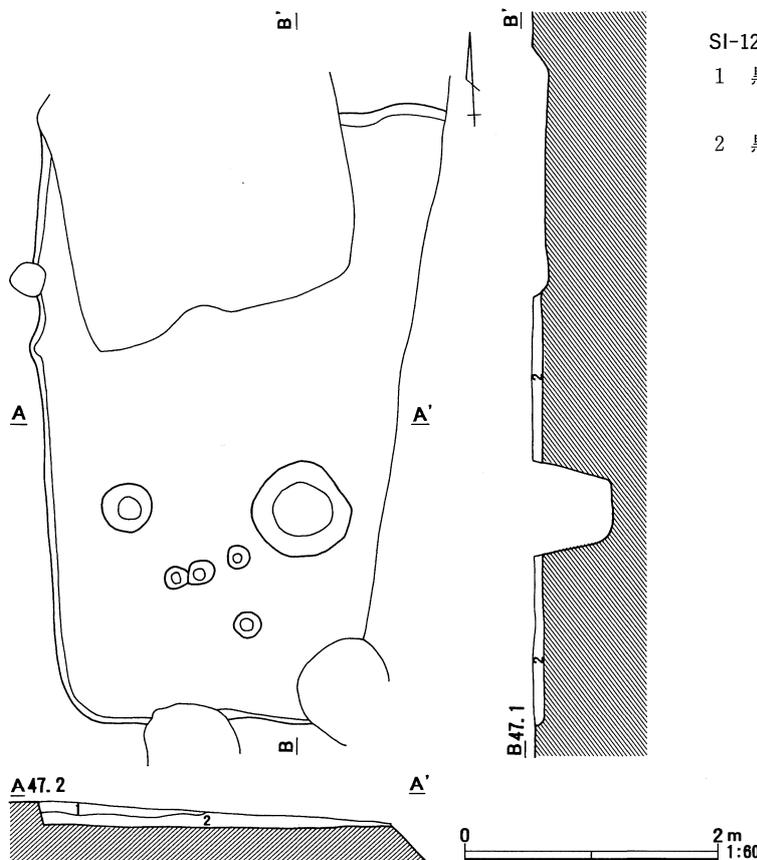


図339 SI-11 出土遺物

SI-11

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 高坏	口径 15.9 底径 — 器高 —	坏部は平底から稜をもって直線的に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ。内面一口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外一赤褐色	坏部3/4。



SI-12 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径1mm±）を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。しまり強。貼床層。

図340 SI-12

SI-12 (図340)

位置：G-15グリッドに位置する。

形状：北壁の一部を攪乱により、南壁をSK-667により切られているほか、東側2/5が調査区外にあり、すでに土取りにより失われている。プランは、一辺4.8m程度の方形を呈するものと推測される。

構造：現地表から確認面までが浅いため、覆土は、西壁近くにわずかに残るのみで、ロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、炉ないしカマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床はロームブロックを多量に含む黒褐色土を充填して貼床を構築しており、硬化が著しい。中央部より東側の貼床層は、上層部分が耕作により破壊を被っている。掘り方は、若干の起伏を認めるものの、おおむね平坦である。床面下には土壌その他の遺構は認められない。

遺物：遺物は、覆土から、土師器および須恵器片が若干出土しているが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明であるが、住居の構造から古墳時代と推測される。

SI-13 (図342)

位置：H-15グリッドに位置する。

形状：北東隅をSK-667およびSK-6により切られている。プランは、3.1×3.65mの隅丸長方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロック、白色パミスを含む黒褐色土、上層にロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。南東隅に東方へ伸びるカマドを付設する。カマドは燃焼部と煙道部境界が不明瞭で、袖部の有無も明らかではない。最大幅約70cm、奥行き140cmを測る。床は全面的な貼床構造をもたないが、随所に不整形の掘り込みがあり、ロームブロックを多量に含む黒色土を充填している。その他の部分はローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するも

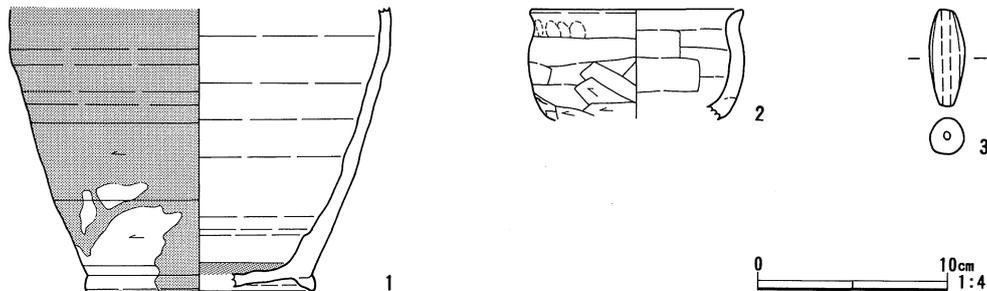
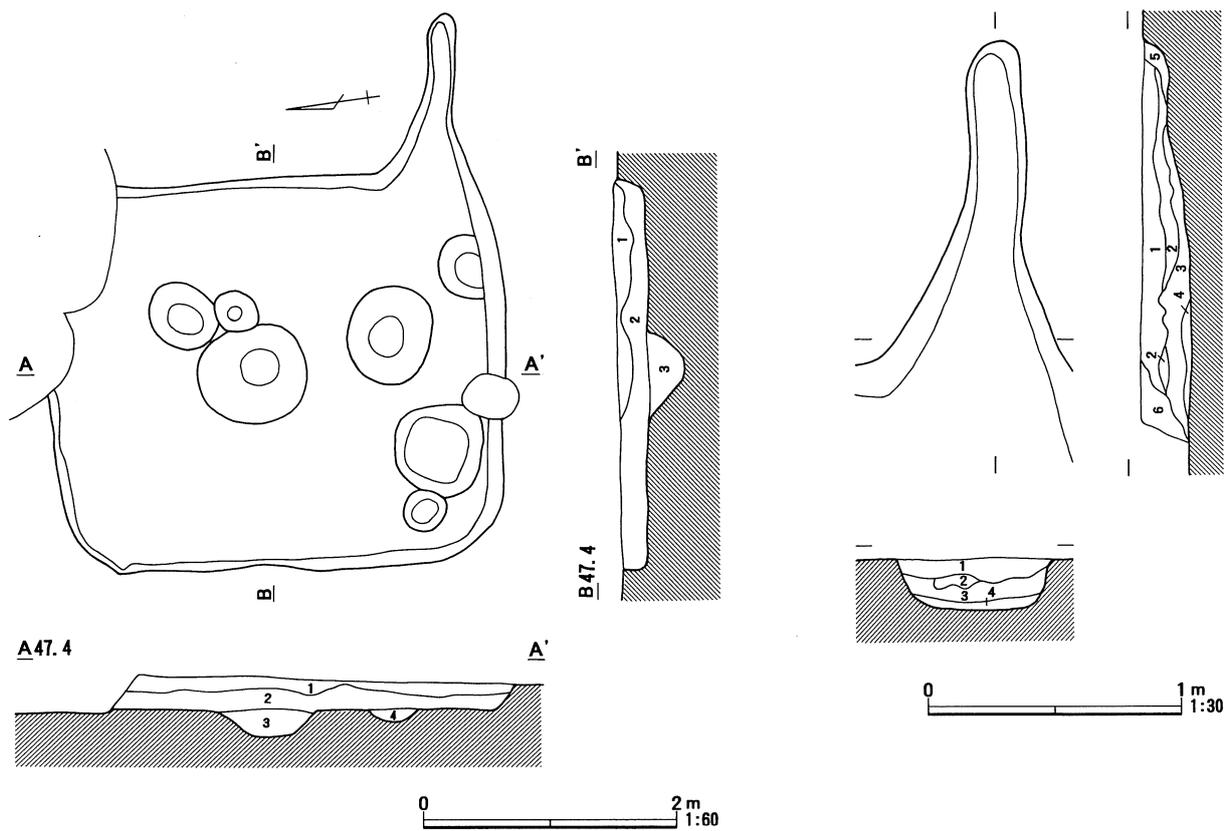


図341 SI-13 出土遺物

SI-13

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	灰釉陶器 長頸瓶	口径 — 底径 (12.0) 器高 —	胴部上位に膨らみをもち、低い高台を付す。	胴部ロクロ整形後、外面下半回転ヘラケズリ。底部調整不明。外面施釉、内面自然釉。	白色粒・黒褐色 内外面一灰黄色	胴部中位～底部 1/4。
2	土師器 小形甕	口径 (11.1) 底径 — 器高 —	膨らみのない胴部から、口縁部は短く外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ナデ後半ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	角閃石 内外面一にぶい 黄橙色	口縁部～胴部下 位2/3。
3	土 錘	長さ：5.1 厚さ：1.9 孔径：0.4	石英	にぶい褐色		完形。



SI-13 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~30mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- 3 黒色土 ロームブロック (径1~50mm) を多量に含む。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。

SI-13 カマド土層説明

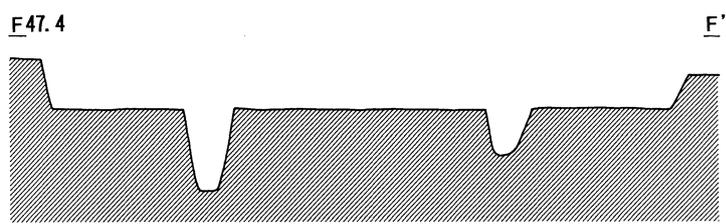
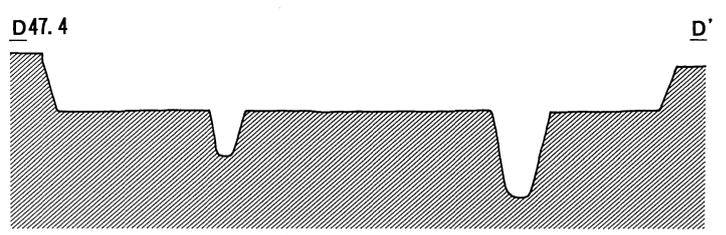
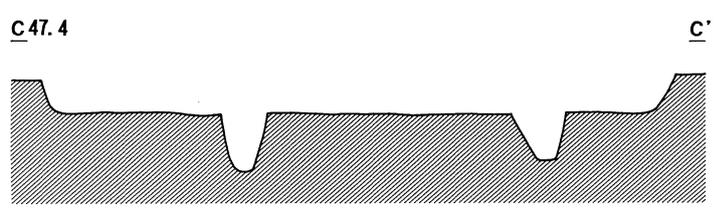
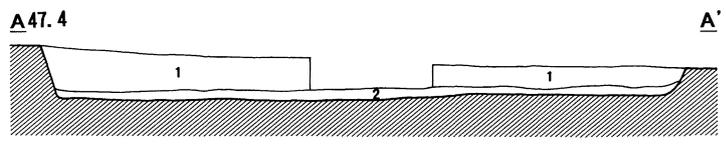
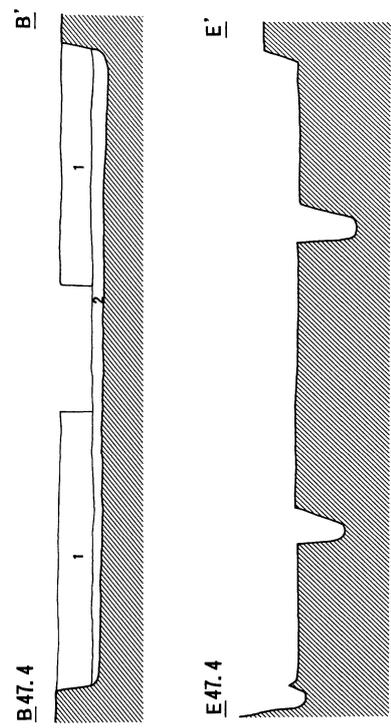
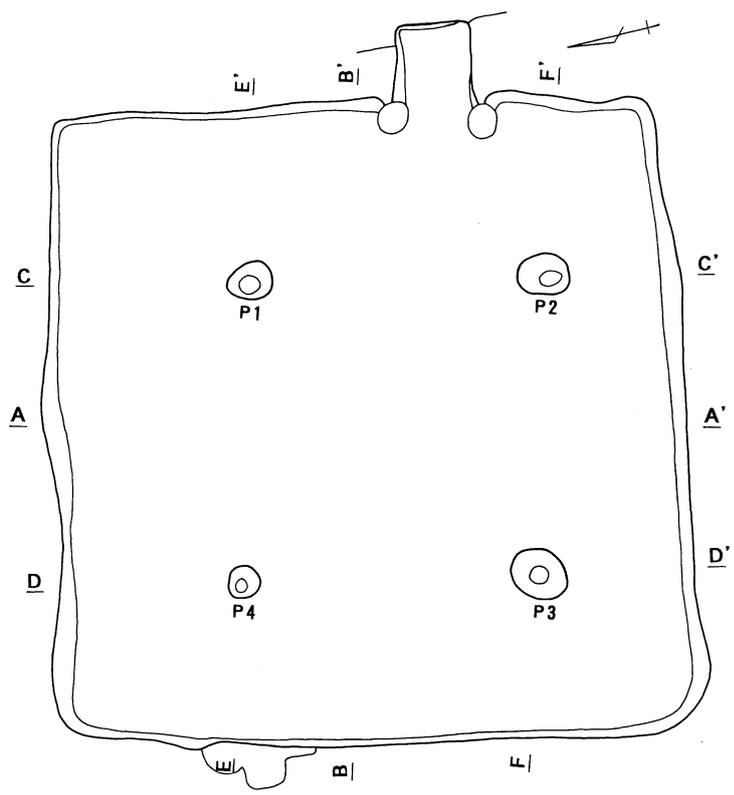
- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~30mm) を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を含む。
- 3 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 5 黒色土 ロームブロック (径1~5mm±) を少量含む。
- 6 黒色土 焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。

図342 SI-13

の、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20~27cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から、灰釉長頸瓶下半部片、土錘各1点を検出したほか、混入品と考えられる土師器小型甕、土師器の小片が若干出土したのみで、床面直上における遺物は認められない。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から平安期と推測される。



SI-14 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~10 mm) を多量に、焼土ブロック (径1~5 mm)、白色パミス (径1 mm±) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~5 mm) を多量に含む。しまり強。貼床層。



図343 SI-14

SI-14 (図343・344)

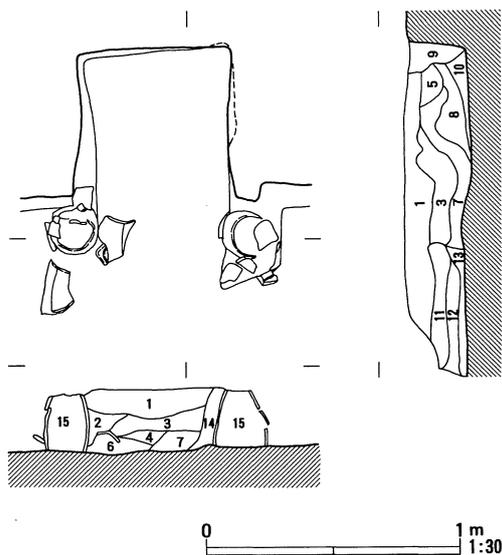
位置：H-15・16グリッドに位置する。

形状：カマド燃焼部の先端が調査区外にあり、土取りにより失われている。プランは、4.15mの正方形を呈する。

構造：覆土は単層で、ロームブロック、焼土、白色パミスを含む黒色土の堆積を認める。柱穴はP1～P4の4基を検出した。壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁の中央やや南寄りにカマドを付設する。燃焼部は方形を呈する壁掘込構造で、幅65cm、奥行き85cmを測る。両袖部の先端に、土師器の甕を倒立状態で埋め込んでいる。煙道部は確認できない。床はロームブロックを多量に含む暗褐色土を敷いて構築している。確認面から床面までの深さはもっとも遺存状態の良い西壁際で34cmを測る。掘り方は、緩やかな起伏を認めるもの、おおむね平坦である。床面下には土壌その他の遺構は認められない。

遺物：遺物は、カマドの袖先端の甕2点のほか、床面直上ないし若干の間層を挟んだ状態で土師器の坏6点、甕2点、須恵器高台坏1点を検出し、さらに覆土から土師器、須恵器片を若干量の出土を見た。

時期：所属時期は床面出土遺物の型式から7世紀末葉から8世紀初頭と判断される。



SI-14 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック(径1～5mm)、焼土ブロック(径1～5mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック(径1～5mm)を少量含む。
- 3 黒色土 焼土ブロック(径1～10mm)を多量に含む。
- 4 褐色土 焼土ブロック(径1～5mm)を少量含む。
- 5 赤褐色土 焼土ブロック凝固層。
- 6 黒色土 ロームブロックと焼土ブロックを若干含む。
- 7 黒褐色土 ロームブロック(径1～5mm)、焼土ブロック(径1～5mm)を少量含む。
- 8 黒色土 炭化物(径1～5mm)を少量含み、焼土ブロック(径1～5mm)を多量に含む。
- 9 黒褐色土 ロームブロック(径1～10mm)、焼土ブロック(径1～5mm)を多量に含む。

- 10 黒色土 炭化物ブロック(径1mm±)を多量に含む。
- 11 黒色土 ロームブロック(径1～10mm)を多量に含む。
- 12 黒色土 ロームブロック(径1～5mm)、焼土ブロック(径1～2mm)を少量含む。
- 13 黒色土 ロームブロック(径1～5mm)、白色粘質土ブロック(径1～5mm)を少量含む。
- 14 暗褐色土 ロームブロック(径1～5mm)、焼土ブロック(径1～2mm)、白色粘質土ブロック(径1～5mm)を少量含む。
- 15 黒褐色土 ロームブロック(径1～5mm)、焼土ブロック(径1～2mm)、白色粘質土ブロック(径1～5mm)を少量含む。

図344 SI-14 カマド

SI-14

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器高台付坏	口径 18.9 底径 12.2 器高 4.8	体部は浅く、「ハ」の字状に開く低い高台を付す。	体部ロクロ整形、底部右回転ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒 内外一灰色	口縁部一部欠損。

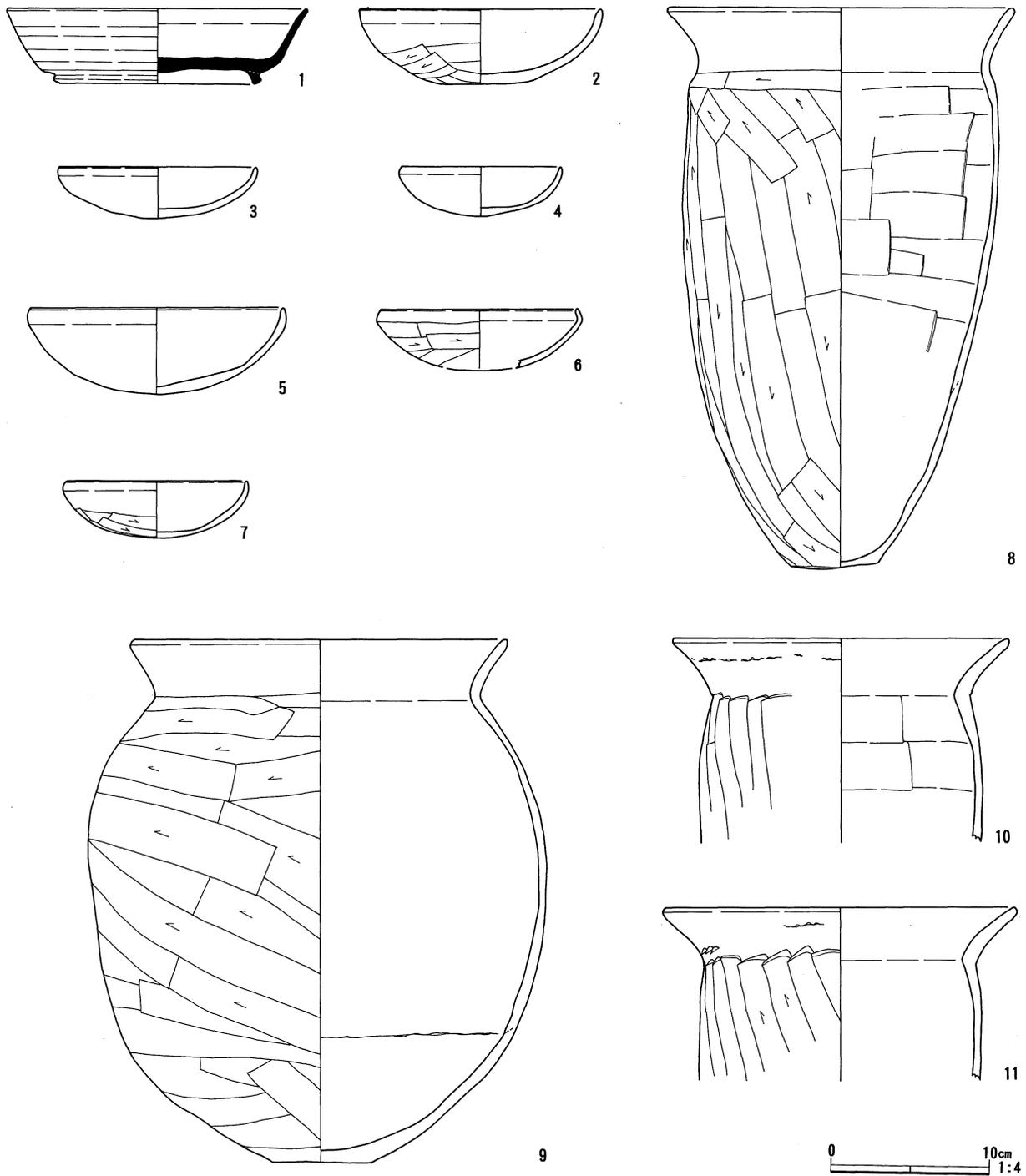


図345 SI-14 出土遺物

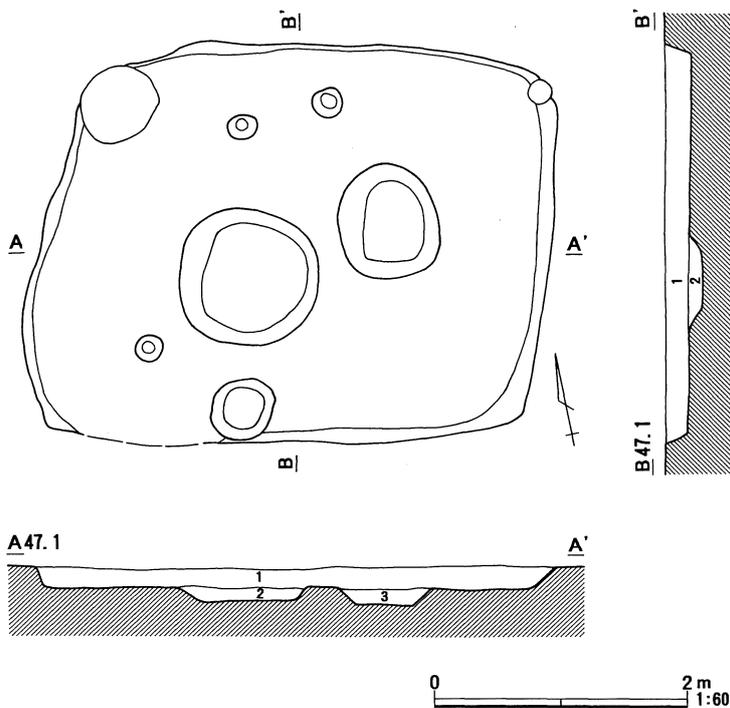
2	土師器 坏	口径 15.2 底径 — 器高 4.7	緩やかな体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ナデ。	石英・雲母 内外—黄褐色	口縁部一部欠損。
3	土師器 坏	口径 12.4 底径 — 器高 3.2	緩やかな体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部不明瞭。内面—口縁部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—明褐色	1/2。

4	土師器 坏	口径 10.0 底径 — 器高 3.1	緩やかな体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部不明瞭。内面—口縁部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—明褐色	1/2。
5	土師器 坏	口径 (16.0) 底径 — 器高 5.5	緩やかな体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—橙色	1/4。
6	土師器 坏	口径 (12.4) 底径 — 器高 (3.7)	緩やかな体部から、口縁部は短く内傾。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—明赤褐色	口縁部～体部下位 2/3。
7	土師器 坏	口径 (11.4) 底径 — 器高 3.6	緩やかな体部から、口縁部は彎曲気味に内傾。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ナデ。	黒色粒 内外—にぶい黄褐色	1/3。
8	土師器 甕	口径 21.6 底径 5.5 器高 35.7	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒・石英 内外—褐色	7/8。
9	土師器 甕	口径 23.5 底径 6.3 器高 33.3	粘土紐積み上げ成形。胴部中位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	口縁部・胴部一部欠損。
10	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	黒色粒・石英 内外—明褐色	口縁部～胴部上位 1/3。
11	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち口縁部は直線的に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—明褐色	口縁部～胴部上位 1/3。

SI-15 (図346)

位置：H-13グリッドに位置する。

形状：ST-19の周堀と重複する。プランは、3.15×4.0m前後の不整な隅丸長方形を呈する。



SI-15 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1～5mm)、白色パミス (径 1mm±) を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径 1～50mm) を多量に含む。
- 3 黒色土 ロームブロック (径 1～10mm) を多量に含む。

図346 SI-15

構造：覆土は単層で、ロームブロック、白色パミスを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴、カマドの存在は確認できない。床は全面的な貼床構造をもたないが、中央の2か所に不整円形に掘り込みがあり、ロームブロックを多量に含む黒色土を充填している。床面はローム層の掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは17～20cmを測る。

遺物：遺物は、プラン確認段階で覆土上層から土師器坏2点、土錘1点を検出したほか、覆土から土師器の小片が若干出土したのみで、床面直上における遺物は認められない。

時期：本住居には確実に伴う遺物を認めず、所属時期は不明である。

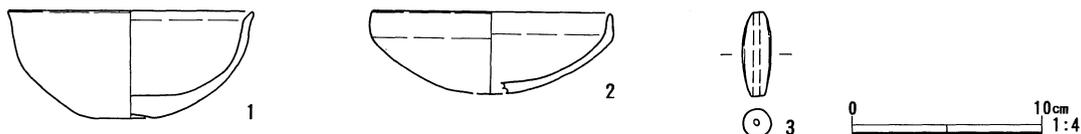


図347 SI-15 出土遺物

SI-15

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 12.8 底径 3.0 器高 5.7	僅かな膨らみをもつ体部から、口縁部は短く外反。底部は小さな平底。	外面一口縁部～体部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・雲母・石英・角閃石 内外面一明赤褐色	口縁部一部欠損。
2	土師器坏	口径 (12.6) 底径 — 器高 (4.3)	緩やかな体部から、口縁部は直立気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外面一赤褐色	1/3。
3	土錘	長さ：4.5 厚さ：1.5 孔径：0.3	黒色粒	におい黄褐色		ほぼ完形。

SI-16 (図349)

位置：H-10・11グリッドに位置する。

形状：南西隅から北東隅にかけてをSD-13により切られ、ST-19の周堀を切っている。プランは、2.7×3.3m前後の不整な方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックと多量に含む暗褐色土、上層にロームブロックと礫を含む暗灰褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。南東壁中央南よりにカマドを付設する。燃烧部は半分ほどを壁に掘り込む構造で、幅74cm、奥行き106cmを測る。袖部は右袖はほとんど遺存していない。左袖は焼土ブロックを含む黒色土により構築され、遺存状態は良好である。煙道部の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としていて、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

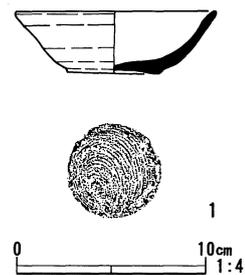
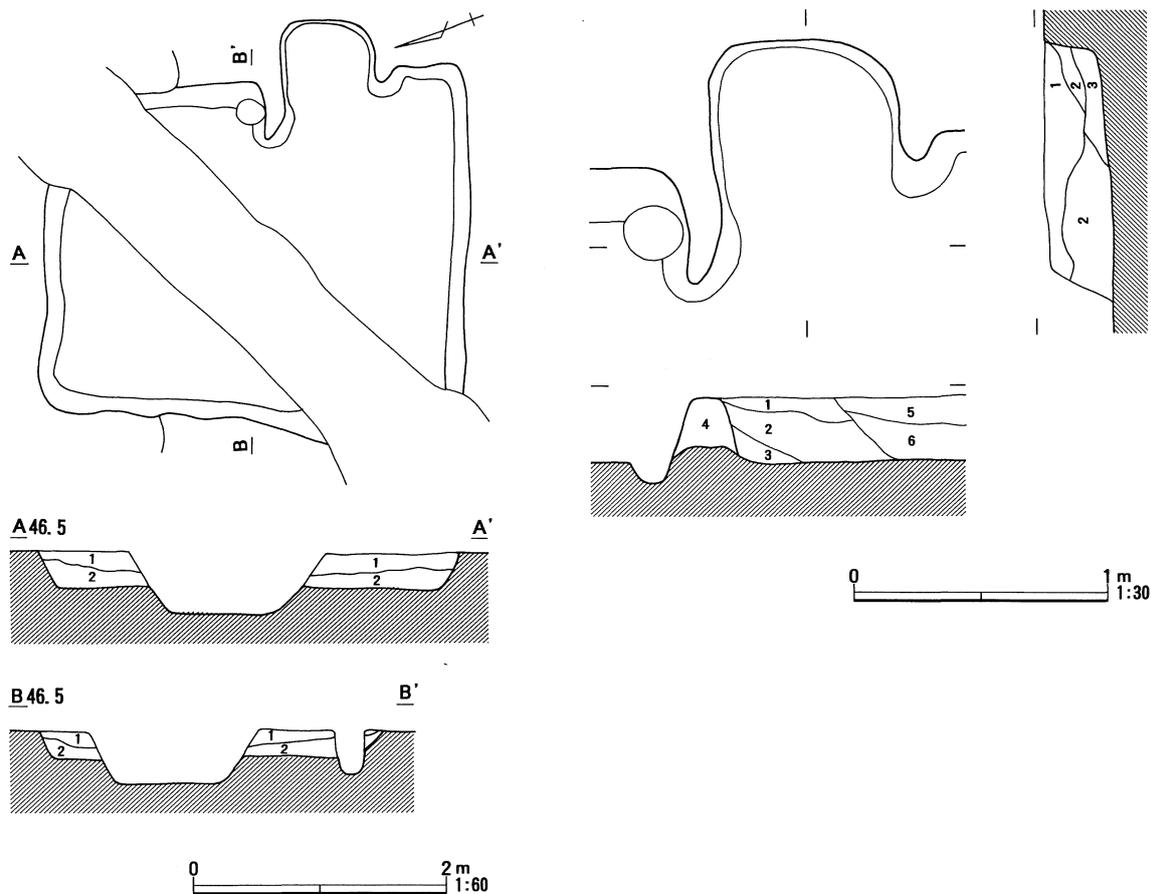


図348 SI-16 出土遺物

SI-16

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器坏	口径 10.6 底径 4.9 器高 3.3	体部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がる。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	褐色粒・雲母 内外面一明褐色	ほぼ完形。



SI-16 土層説明

- 1 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、礫（径5～15mm）を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

SI-16 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を多量に含む。
- 3 黒褐色土 炭化物（径1～5mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を多量に含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、焼土ブロック（径1～2mm）、白色粘質土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 5 暗灰褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、礫（径5～15mm）を少量含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

図349 SI-16

遺物：遺物は、覆土からほぼ完形の酸化焰焼成須恵器坏1点のほか、微細な土師器、須恵器片が相当量出土した。

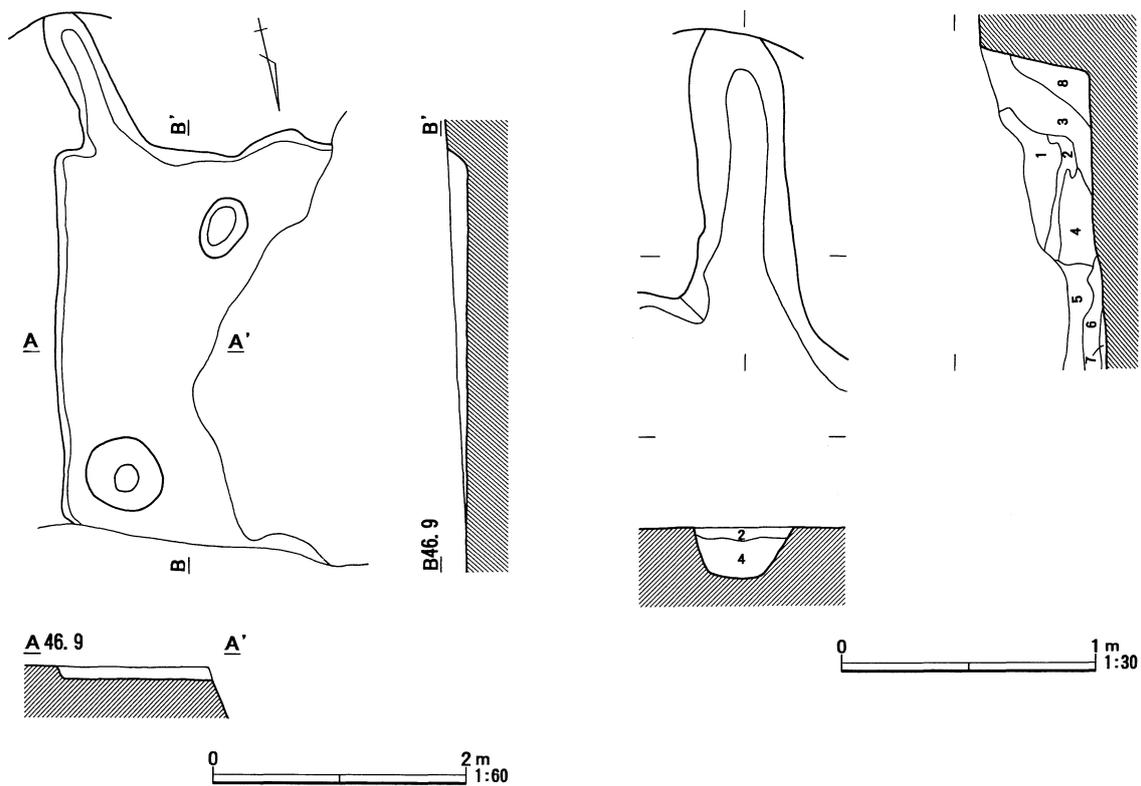
時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から10世紀後半代と判断される。

SI-17 (図350)

位置：I-13・14グリッドに位置する。

形状：ST-19の周堀内部に構築された住居である。プランは、1辺3.0m程度の方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、ロームブロックを僅かに含む黒色土で、ST-19の覆土との識別は困難である。ST-19の周堀の



SI-17 土層説明 (単層)

黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。

SI-17 カマド土層説明

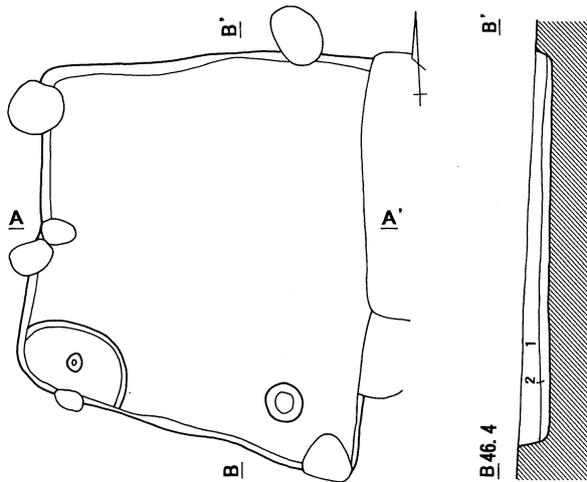
- 1 黒色土 ロームブロック (径1~30mm) を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1~10mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含み、焼土ブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 4 黒褐色土 炭化物 (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~2mm)、白色粘質土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 7 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 8 黒色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。

図350 SI-17

調査過程で、ローム層を掘り込んでいた東半のみのプランを検出できた。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。南壁の南東隅近くにカマドを付設する。煙道部が斜め方向に長く伸びる構造で、燃焼部は住居内に存在したものと考えられるが、全く原状をとどめていない。煙道部の幅45cm、奥行き115cmを測る。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。円形および楕円形の掘り込みが2基存在する。確認面から床面までの深さは遺存状態の良い南壁際で10cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器小片が若干出土しているが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明であるが、ST-19の周堀との切り合いから古墳時代以降と推測される。



SI-18 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック(径1~5mm)、白色パミス(径1mm±)を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径1~20mm)を多量に含む。

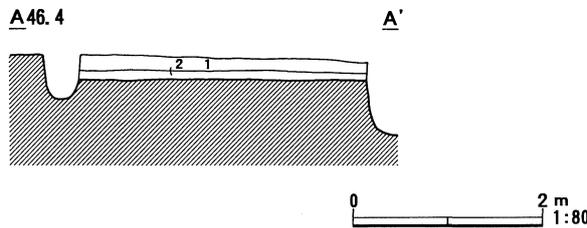


図351 SI-18

SI-18 (図351)

位置：G-10、H-10グリッドに位置する。

形状：北東隅から東壁の大部分をSF-16および攪乱により切られている。プランは、2.8×3.4m前後の不整な方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックと多量に含む暗褐色土、上層にロームブロックと礫を含む暗灰褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から灰釉の高台碗1点、酸化焙焼成須恵器2点、土錘1点を検出したほか、覆土から土師器、須恵器の小片が若干出土したものの、床面直上における遺物は認められない。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から10世紀後半代と判断される。

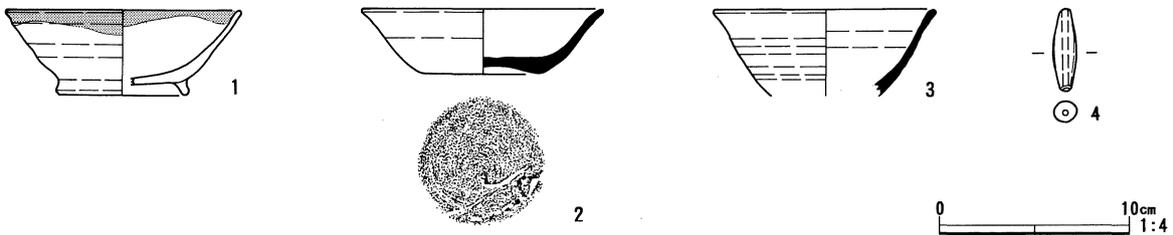


図352 SI-18 出土遺物

SI-18

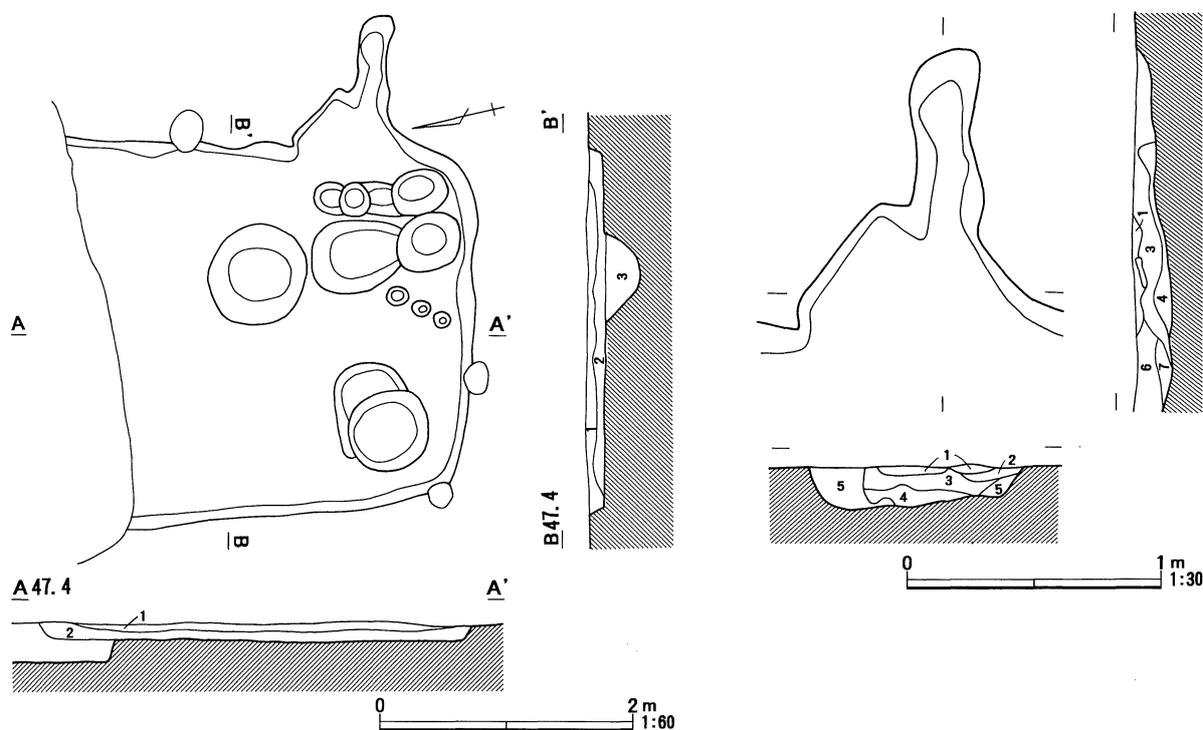
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	灰釉陶器 高台碗	口径 12.4 底径 6.6 器高 4.5	膨らみのない体部から、口縁部は緩やかに外反。高台は低く、端部は鋭さを欠く。	体部ロクロ整形、底部回転ナデ。	黒色粒 内外面一灰白色	1/2。

2	須恵器 坏	口径 12.7 底径 6.2 器高 3.5	膨らみのない体部から、口縁部は彎曲気味に外反。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	黒色粒・褐色粒・角閃石 内外面 — 橙色	口縁部～体部 1/3 欠損。
3	須恵器 坏	口径 (11.6) 底径 — 器高 —	緩やかな体部から、口縁部は彎曲気味に肥厚して外反。	内外面一ロクロ整形。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外面 — にぶい黄色	口縁部～体部下 位 1/3。
4	土 錘	長さ：4.3 厚さ：1.2 孔径：0.3	白色粒 黒褐色			完形。

SI-19 (図353)

位置：J-12グリッドに位置する。

形状：北西隅から北壁、北東隅にかけてSI-201と重複している。プランは、3.1×3.5mの不整な隅丸長方形



SI-19 土層説明

- 1 黒色土
- 2 黒色土 ロームブロック (径1～5mm) を少量含む。
- 3 黒色土 黄灰白色粘質土ブロック (径1～5mm) を少量含む。

SI-19 カマド土層説明

- 1 暗灰褐色土 ロームブロック (径1～2mm) を少量含む。
- 2 黒灰褐色土 焼土ブロック (径1～2mm) を少量含む。
- 3 暗褐色土 灰化物ブロック (径5～15mm)、焼土ブロック (径1～5mm) を多量に含む。
- 4 暗褐色土 焼土ブロック (径1～5mm) を多量に含む。
- 5 黒褐色土 焼土ブロック (径1～3mm) を少量含む。
- 6 黒色土
- 7 暗褐色土 ロームブロック (径1～2mm)、黄灰白色粘質土 (径1～3mm) を少量含む。

図353 SI-19

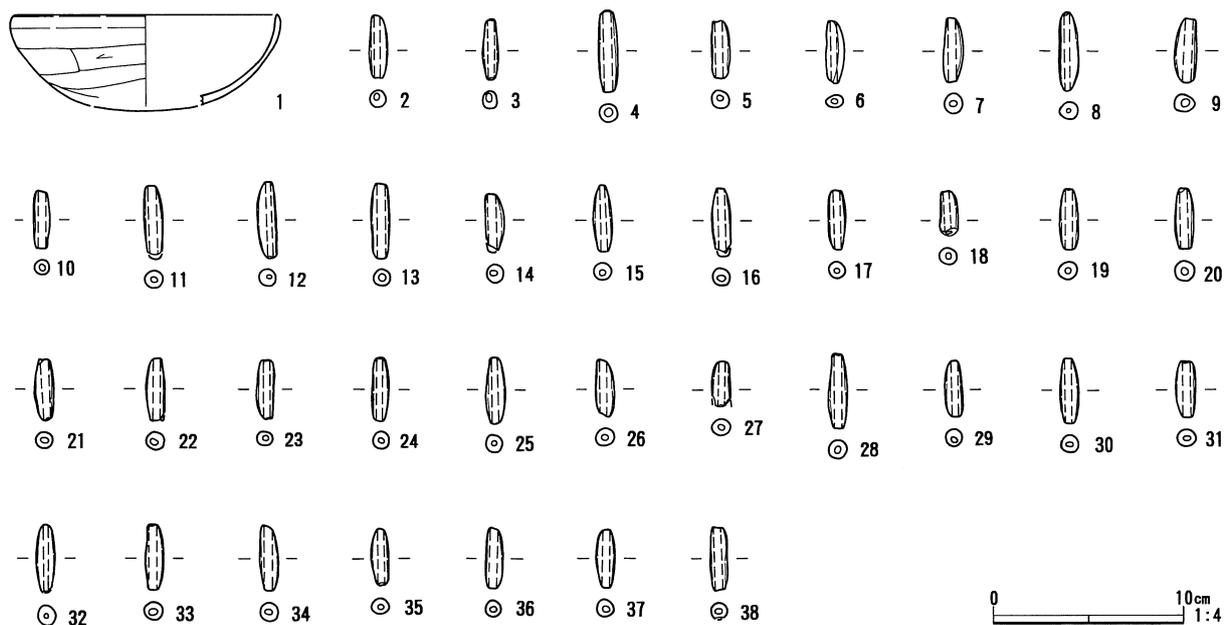


図354 SI-19 出土遺物

を呈する。

構造：覆土は、下層に黄色灰白色粘質土ブロックを含む黒色土、上層に単純な黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁南東隅よりにカマドを付設する。カマド燃焼部は壁掘込構造で、幅80cm前後、奥行き65cmの不整形を呈する。煙道部は最大幅28cm、長さ75cmを測る。床は全面的な貼床構造をもたないが、随所に不整形に掘り込みがあり、ロームブロックを多量に含む黒色土を充填している。その他の部分はローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは12～18cmを測る。

遺物：遺物は、床面直上で小型の土錘37点が集中的に出土したほか、覆土から土師器坏片1点、土師器、須恵器坏小片多数を検出した。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から7世紀後半代と判断される。

SI-19

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径(14.0) 底径— 器高—	体部はやや深く、口縁部は彎曲 気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、体部 ～底部ヘラケズリ。内面—口縁 部～底部ナデ。	黒色粒・褐色粒・ 石英 内外面—橙色	口縁部～体部下 位1/3。
2	土錘	長さ：3.4	厚さ：1.0 孔径：0.3	白色粒 黒褐色		完形。
3	土錘	長さ：3.3	厚さ：0.9 孔径：0.3	白色粒 黒褐色		完形。
4	土錘	長さ：4.4	厚さ：1.0 孔径：0.5	細砂粒 黒褐色		完形。
5	土錘	長さ：3.1	厚さ：1.0 孔径：0.4	白色粒 黒褐色		完形。
6	土錘	長さ：3.4	厚さ：0.7 孔径：0.4	黒色粒 黒褐色		完形。
7	土錘	長さ：3.5	厚さ：1.0 孔径：0.4	白色粒 黒褐色		完形。
8	土錘	長さ：4.2	厚さ：0.9 孔径：0.3	白色粒 黒褐色		完形。
9	土錘	長さ：3.5	厚さ：1.0 孔径：0.4	細砂粒 黒褐色		完形。
10	土錘	長さ：3.1	厚さ：0.8 孔径：0.3	黒色粒 黒褐色		完形。
11	土錘	長さ：(3.7)	厚さ：1.0 孔径：0.4	細砂粒 灰黄褐色		一部欠損。
12	土錘	長さ：4.1	厚さ：0.9 孔径：0.3	白色粒 灰黄褐色		完形。
13	土錘	長さ：4.0	厚さ：0.9 孔径：0.4	細砂粒 黒褐色		完形。

14	土	錘	長さ：(3.0) 厚さ：1.0 孔径：0.4 細砂粒 黒褐色	一部欠損。
15	土	錘	長さ：3.5 厚さ：0.9 孔径：0.3 細砂粒 黒褐色	完形。
16	土	錘	長さ：(3.4) 厚さ：1.0 孔径：0.4 白色粒 黒褐色	一部欠損。
17	土	錘	長さ：3.2 厚さ：0.9 孔径：0.3 細砂粒 黒褐色	完形。
18	土	錘	長さ：(2.4) 厚さ：0.9 孔径：0.3 細砂粒 黒褐色	2/3。
19	土	錘	長さ：3.3 厚さ：1.0 孔径：0.4 細砂粒 暗灰黄色	完形。
20	土	錘	長さ：3.2 厚さ：1.1 孔径：0.5 白色粒 黒褐色	完形。
21	土	錘	長さ：3.3 厚さ：0.9 孔径：0.5 細砂粒 黒褐色	一部欠損。
22	土	錘	長さ：3.3 厚さ：0.9 孔径：0.4 細砂粒 黒褐色	一部欠損。
23	土	錘	長さ：3.2 厚さ：0.8 孔径：0.4 細砂粒 黒褐色	完形。
24	土	錘	長さ：3.4 厚さ：0.9 孔径：0.4 細砂粒 黒褐色	完形。
25	土	錘	長さ：3.6 厚さ：0.9 孔径：0.3 細砂粒 灰黄褐色	完形。
26	土	錘	長さ：3.0 厚さ：1.0 孔径：0.4 細砂粒 黄灰色	一部欠損。
27	土	錘	長さ：(2.4) 厚さ：0.9 孔径：0.4 細砂粒 黒褐色	3/4。
28	土	錘	長さ：4.0 厚さ：1.0 孔径：0.3 黒色粒 黒褐色	完形。
29	土	錘	長さ：3.0 厚さ：0.9 孔径：0.4 細砂粒 褐灰色	完形。
30	土	錘	長さ：3.5 厚さ：1.0 孔径：0.4 白色粒 黒褐色	完形。
31	土	錘	長さ：3.1 厚さ：0.9 孔径：0.4 細砂粒 褐灰色	完形。
32	土	錘	長さ：3.7 厚さ：1.1 孔径：0.2 白色粒 黒褐色	一部欠損。
33	土	錘	長さ：3.5 厚さ：1.0 孔径：0.5 褐色粒 におい黄褐色	完形。
34	土	錘	長さ：3.5 厚さ：0.9 孔径：0.5 細砂粒 におい黄橙色	完形。
35	土	錘	長さ：3.1 厚さ：0.9 孔径：0.4 褐色粒 におい黄橙色	一部欠損。
36	土	錘	長さ：3.3 厚さ：0.9 孔径：0.4 褐色粒 におい黄橙色	完形。
37	土	錘	長さ：3.2 厚さ：0.9 孔径：0.4 褐色粒 灰黄褐色	完形。
38	土	錘	長さ：3.5 厚さ：(0.8) 孔径：0.4 細砂粒 におい黄橙色	一部欠損。

SI-20 (図355・356)

位置：J-11・12、K-11グリッドに位置する。

形状：西壁の一部と北東隅周辺を中心にSD-13、SK-440、攪乱などにより切られている。プランは、隅丸正方形を呈し、一辺8.3mを測る大型住居である。

構造：覆土は壁際付近にロームブロック、黒褐色土ブロックを含む黒色土、住居中央部に単純な黒色土の堆積を認める。柱穴はP1～P4の4基を検出した。壁溝は東壁中央から北東隅にかけてと南西隅周辺を除き全周する。また、南および西壁溝から住居中央に向かい直角方向に派生して溝が連続している。住居内に仕切りのための構造が存在した可能性を示す。貯蔵穴を南西隅に検出した。径99×84cm、深さ36cmを測り、上層に黒色土、下層にロームブロックを多量に含む黒色土が堆積する。炉は存在を確認できない。床は全面的な貼床構造をもたないが、中央部分のみは周辺部よりも若干ローム層を掘り下げ、ロームブロックを多量に含む黒褐色土を充填し貼床を構築している。貼床部は硬化が著しい。その他の部分はローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

遺物：遺物は床面直上で高坏1点、小型器台、

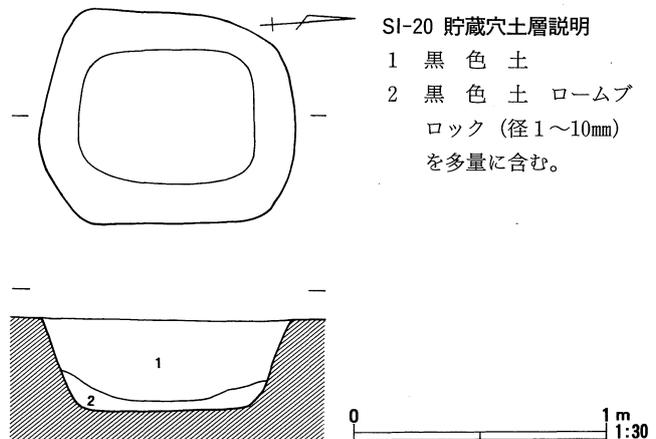
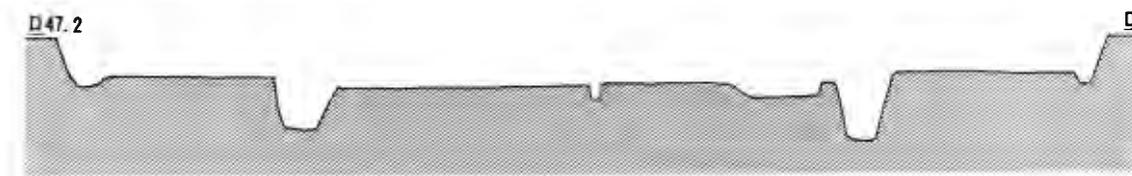
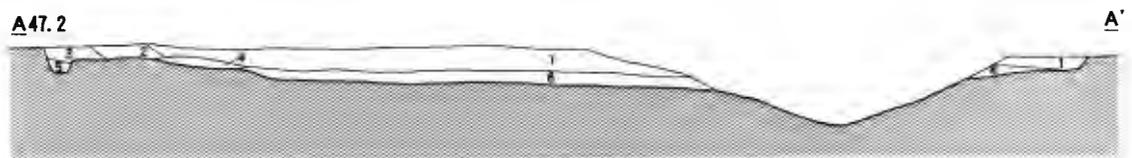
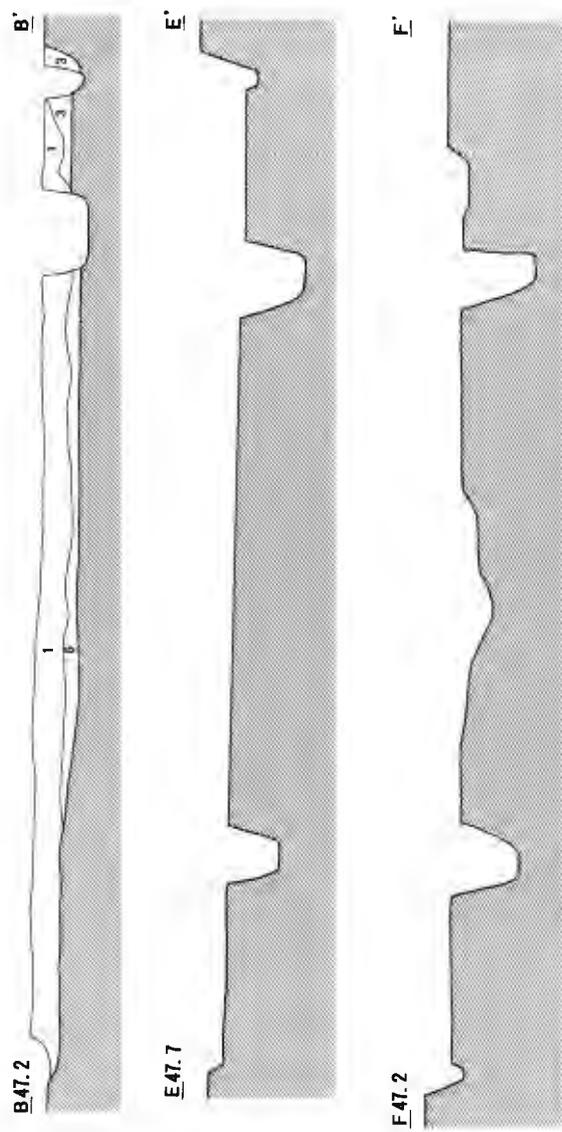
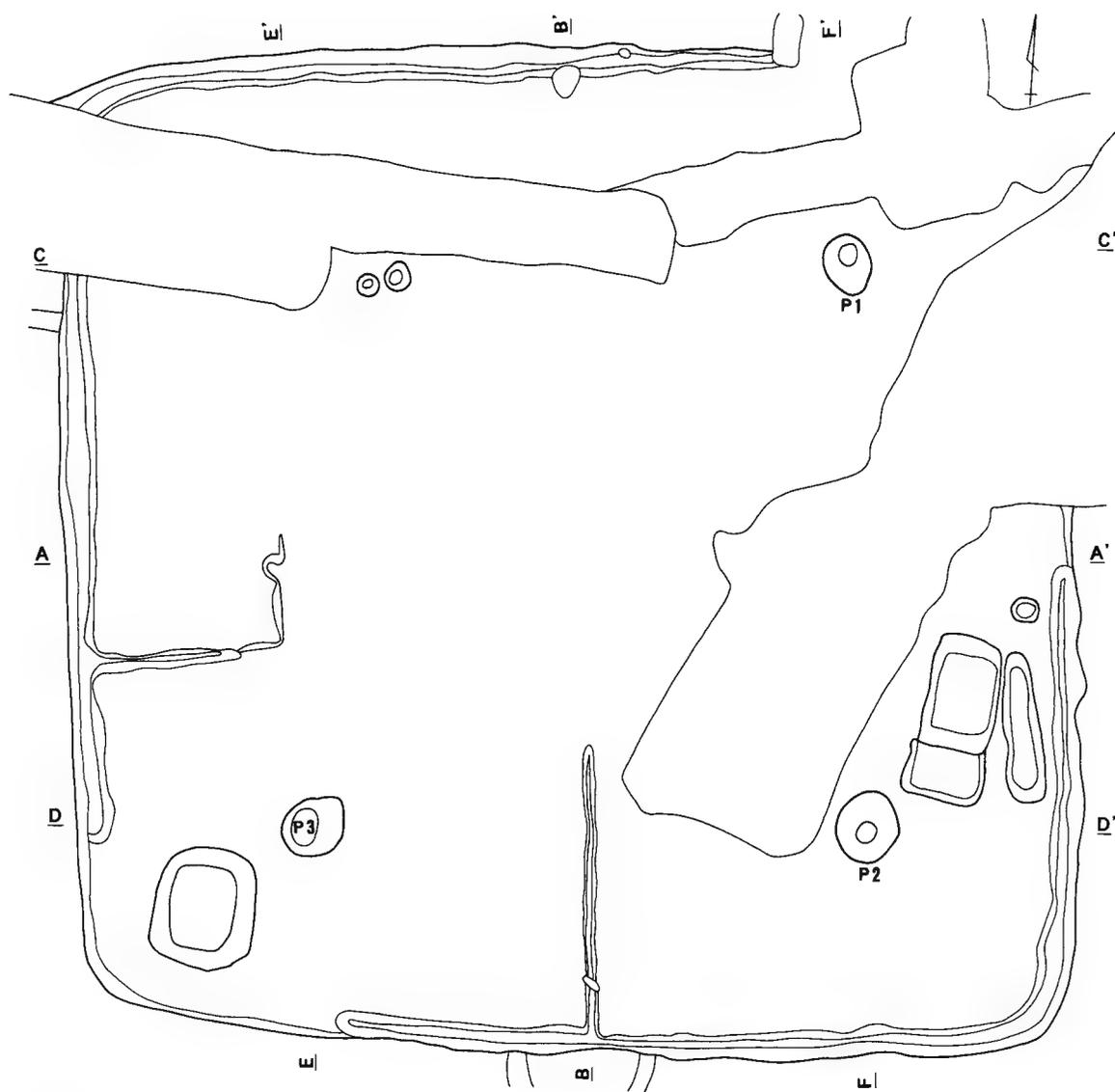


図355 SI-20 貯蔵穴



SI-20 土層説明

- 1 黒色土
- 2 黒色土 黒褐色土ブロック (径10~20mm) を多量に含む。
- 3 黒色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 5 暗褐色土
- 6 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり強。貼床土。

0 2m 1:60

図356 SI-20

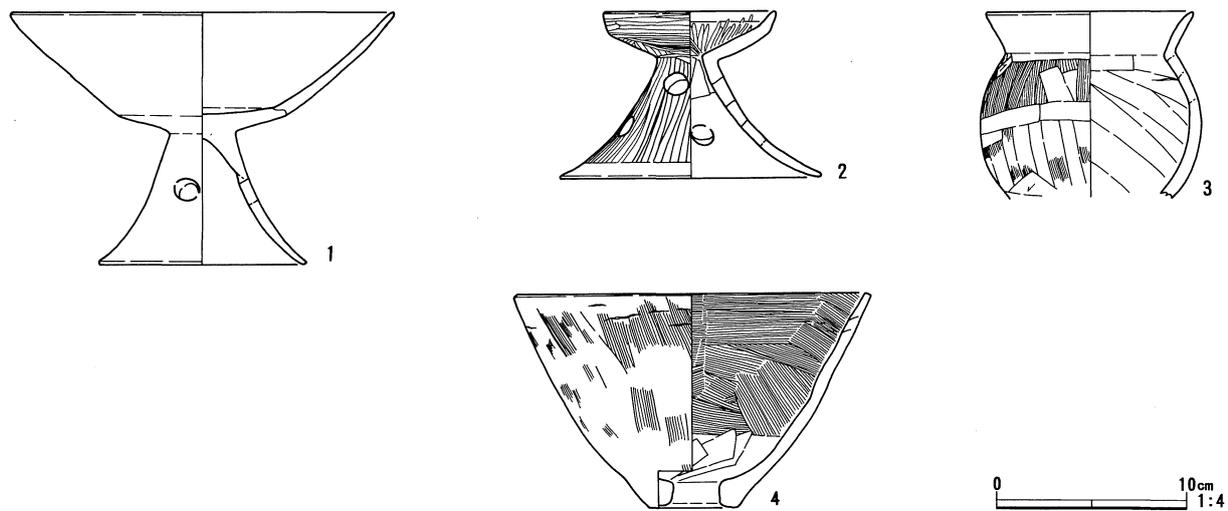


図357 SI-20 出土遺物

SI-20

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 高坏	口径 (21.0) 底径 10.8 器高 13.4	坏部は緩やかに外反。脚部は緩やかに開く。	外面—不明瞭、脚部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、体部不明瞭、脚部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外面—明黄色	2/3。
2	土師器 器台	口径 9.0 底径 (13.7) 器高 8.8	器受部中位に稜をもち、脚部は緩やかに開く。	外面—器受部～脚部ヘラケンマ、裾部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ、器受部ヘラケンマ、脚部ヘラナデ。	黒色粒 内外面—にぶい 褐色	裾部3/4欠損。
3	土師器 小形甕	口径 (10.8) 底径 — 器高 —	胴部中位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部縦位ハケメ後ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	黒色粒 内外面—にぶい 褐色	口縁部～胴部下位1/3。
4	土師器 甑	口径 (18.3) 底径 4.6 器高 11.4	胴部から口縁部にかけて緩やかに外反。	外面—口縁部～胴部縦位ハケメ後ナデ。内面—口縁部～胴部中位斜横位ハケメ、下位横位ヘラナデ。	石英・礫 内外面—にぶい 黄褐色	口縁部～胴部下位1/3欠損。

小型甕、甑各1点を、覆土から土師器片若干を検出した。

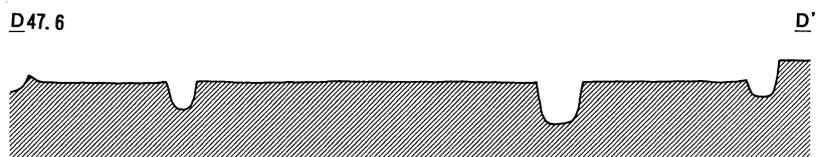
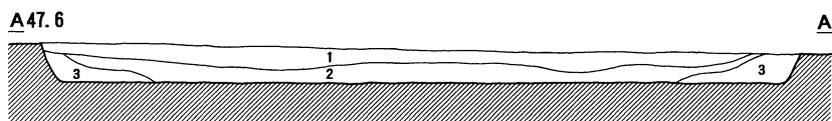
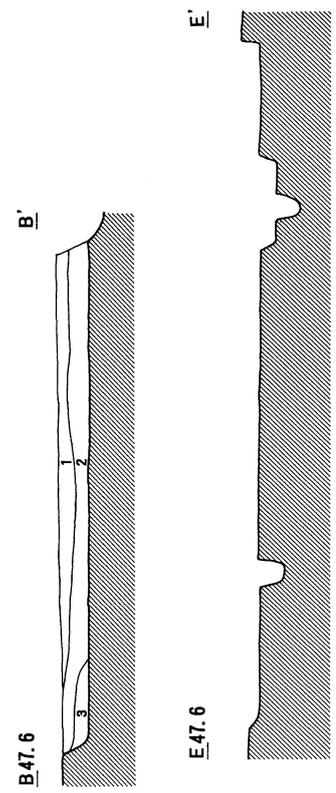
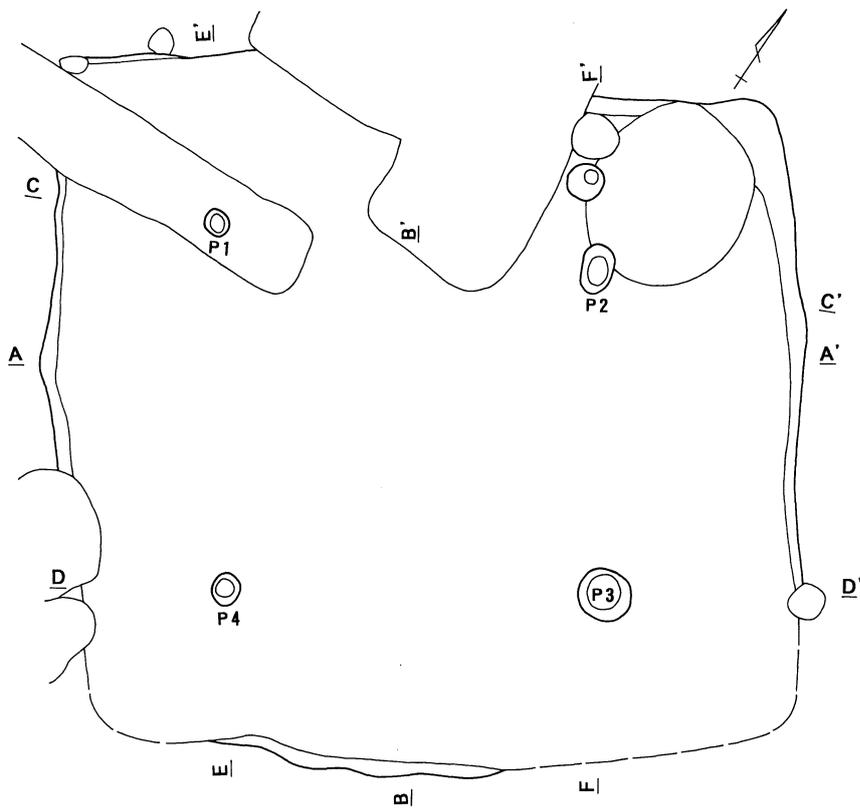
時期：所属時期は床面直上出土遺物の型式から4世紀後半代と判断される。

SI-21 (図358)

位置：I-15・16、J-15・16グリッドに位置する。

形状：北壁周辺をSK-696・697・703・705により切られているほか、確認面までが浅いため、耕作により東隅および南隅周辺の壁立ち上がりを失っている。プランは、一辺5.5～6.0m程度の不整形を呈するものと推測される。

構造：覆土は壁近くに褐色土、下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層に炭化物を含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴はP1～P4の4基を検出した。壁溝、炉、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは比較的遺存状態の良い南西壁付近で30cm前後を測る。



SI-21 土層説明

- 1 黒褐色土 炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。
- 3 褐色土

図358 SI-21

遺物：遺物は、床面直上で土師器鉢、埴、器台の破片各1点、台付甕の台部3点を検出したほか、覆土から土師器の小片若干を出土したのみであった。

時期：所属時期は、完形品を認めない点で、根拠に問題を残すが、床面直上出土遺物の型式から4世紀後半代と推定される。

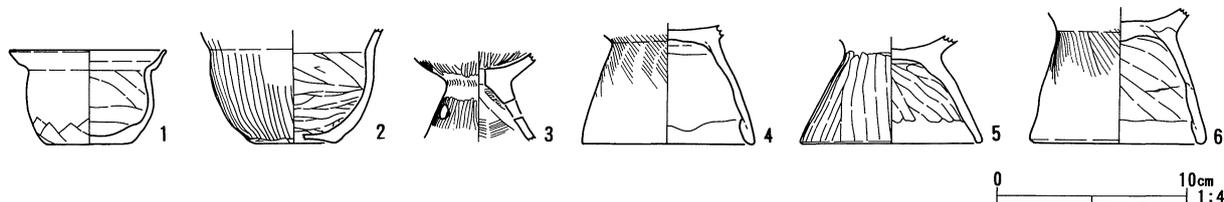


図359 SI-21 出土遺物

SI-21

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器鉢	口径 8.2 底径 4.4 器高 5.0	体部は僅かに膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に短く外反。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上・中位ナデ、下位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一にぶい黄橙～灰黄褐色	4/5。
2	土師器埴	口径 — 底径 4.2 器高 —	体部は僅かに膨らみをもち、口縁部は大きく外反。	外面一口縁部～体部縦位ヘラケンマ。内面一口縁部ヨコナデ、体部上半ヘラケズリ、下半ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外一にぶい橙～にぶい黄橙色	1/3。
3	土師器台	口径 — 底径 — 器高 —	受部は緩やかに外反。	外面一受部～脚部縦位ヘラケンマ。内面一受部ヘラケンマ、台部ハケメ後ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外一橙～にぶい褐色	受部中位～台部中位残存。
4	土師器台付甕	口径 — 底径 9.0 器高 —	端部を折り返した内彎気味の台部。	外面一台部ハケメ後ナデ。内面一台部ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外一にぶい橙色	台部5/6。
5	土師器台付甕	口径 — 底径 9.5 器高 —	直線的な台部。	外面一台部縦位ヘラナデ。内面一台部上・中位ヘラナデ、下位ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英・角閃石 内外一橙色	台部残存。
6	土師器台付甕	口径 — 底径 8.9 器高 —	端部を折り返した直線的な台部。	外面一台部ハケメ後ナデ。内面一台部ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外一にぶい黄橙色	台部2/3。

SI-22 (図360)

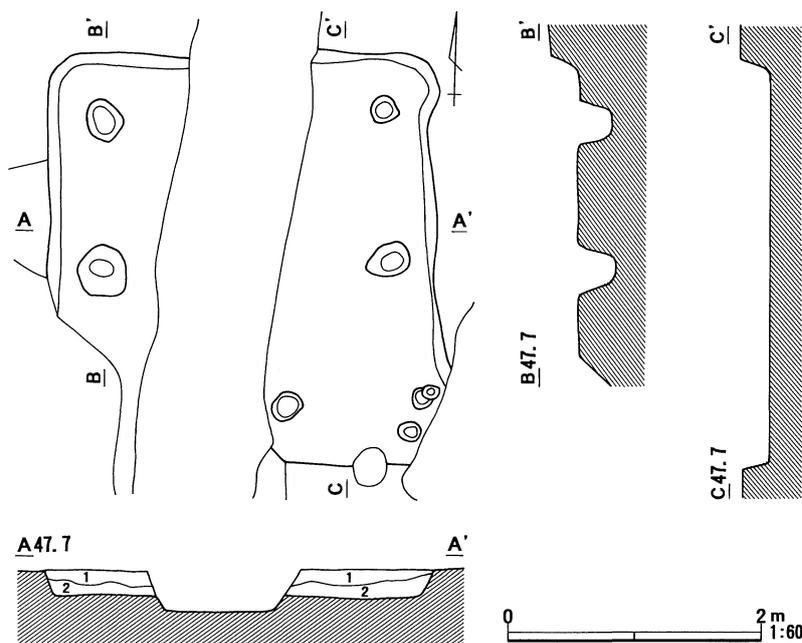
位置：K-16グリッドに位置する。

形状：中央部分をSD-15により切られているほか、南東隅周辺が調査区外にあり、土取りによって失われている。プランは、3.2×3.1mの隅丸方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層に単純な黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、炉・カマドなどの燃焼施設、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20～23cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器片が若干出土したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明であるが、SI-23を切っていることから古墳時代後期以降と推定される。



SI-22 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック
(径1~10mm)を多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック
(径1~15mm)を多量に含む。

図360 SI-22

SI-23 (図361~364)

位置：K-15・16グリッドに位置する。

形状：南壁の一部をSI-22により切られている。プランは、5.7×5.2mの隅丸長方形を呈する。

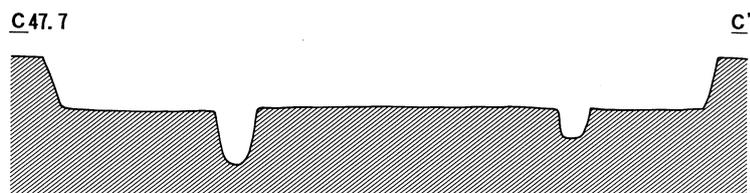
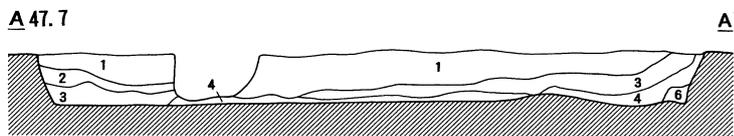
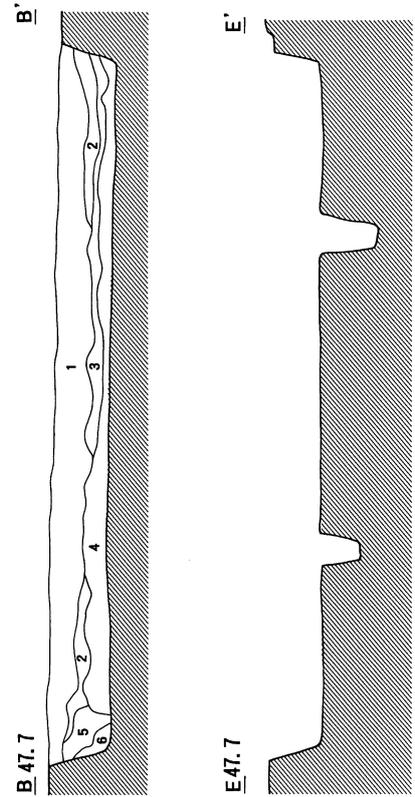
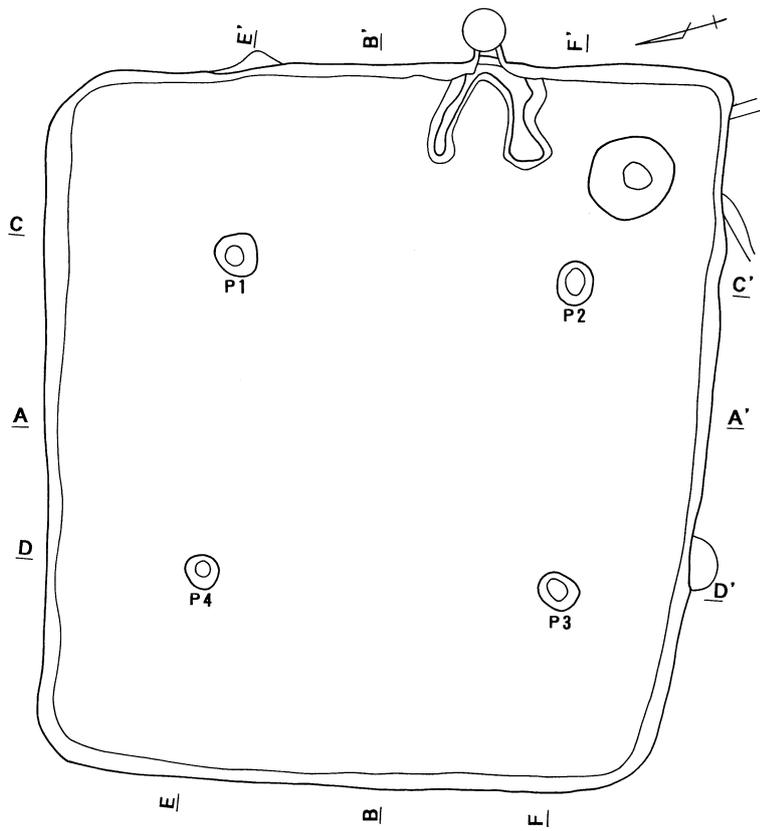
構造：覆土は、壁際に明褐色土ないし褐色土、下層に暗灰黄色土およびロームブロックを含む暗褐色土、上層に単純な黒褐色土の堆積を認める。柱穴はP1~P4の4基を検出した。壁溝は存在を確認できない。南東壁の中央南よりにカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、幅50cm、奥行き70cmを測る。燃焼部中央には、甕の支脚として、高環が逆位に設置している。袖部は、ロームブロック、灰白色粘質土ブロックを多量に含む暗褐色土で構築され、高さ13cm程度まで遺存している。南東隅のカマド脇に貯蔵穴を確認した。径70cm、深さ70cmを測り、下層にロームブロックを含む褐色土、中層にロームブロックを含む暗褐色土、上層にロームブロックを多量に含む黒色土の堆積を認める。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは32~37cmを測る。

遺物：遺物は、カマド内部で高環、甕、甕各1点、カマド周辺を中心とする床面直上で土師器片12点、高環2点、鉢1点、小型甕3点、甕1点、埴1点、ミニチュア土器1点、須恵器隼1点、貯蔵穴内部から埴4点、甕1点を検出したほか、覆土から、土師器片若干が出土した。

時期：所属時期は、出土遺物の型式から5世紀後半代と判断される。

SI-23

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 高環	口径 14.8 底径 — 器高 4.2	彎曲する体部。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部 ~底部ヘラケズリ。内面一口縁 部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	白色粒・礫・雲母 内外一明赤褐色	口縁部一部欠 損。

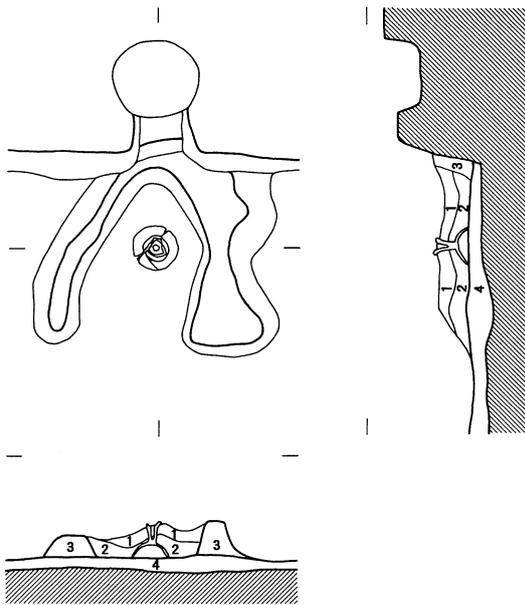


SI-23 土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 炭化物ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 3 暗灰黄色土
- 4 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。
- 5 褐色土
- 6 明褐色土

0 2m 1:60

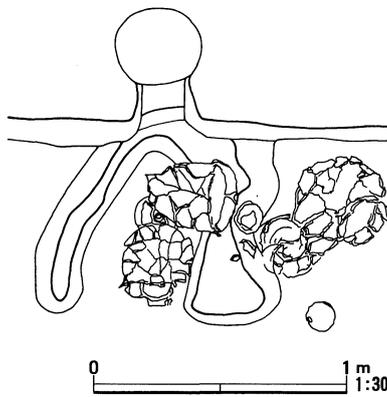
図361 SI-23



SI-23 カマド土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含み、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、灰白色粘質土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。

図362 SI-23 カマド



SI-23 貯蔵穴土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 褐色土 ロームブロック (径1~3mm) を少量含む。

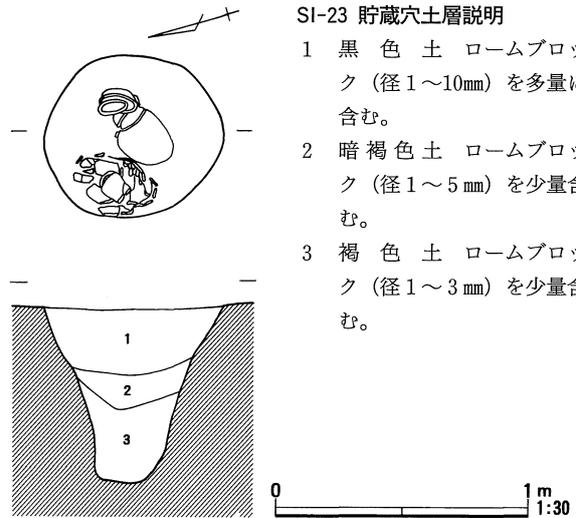


図363 SI-23 カマド遺物出土状況図

図364 SI-23 貯蔵穴

2	土師器 坏	口径 14.0 底径 — 器高 4.4	彎曲する体部、直立気味の口縁部。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部~底部縦位ヘラケンマ。	白色粒・礫 内外一橙色	1/2。
3	土師器 坏	口径 14.0 底径 — 器高 3.9	彎曲する体部。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	白色粒・褐色粒・礫・石英 内外一明赤褐~橙色	3/8。
4	土師器 坏	口径 12.2 底径 4.6 器高 5.3	彎曲する深い体部、内彎気味の口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	礫 内外一橙~にぶい橙色	2/5。

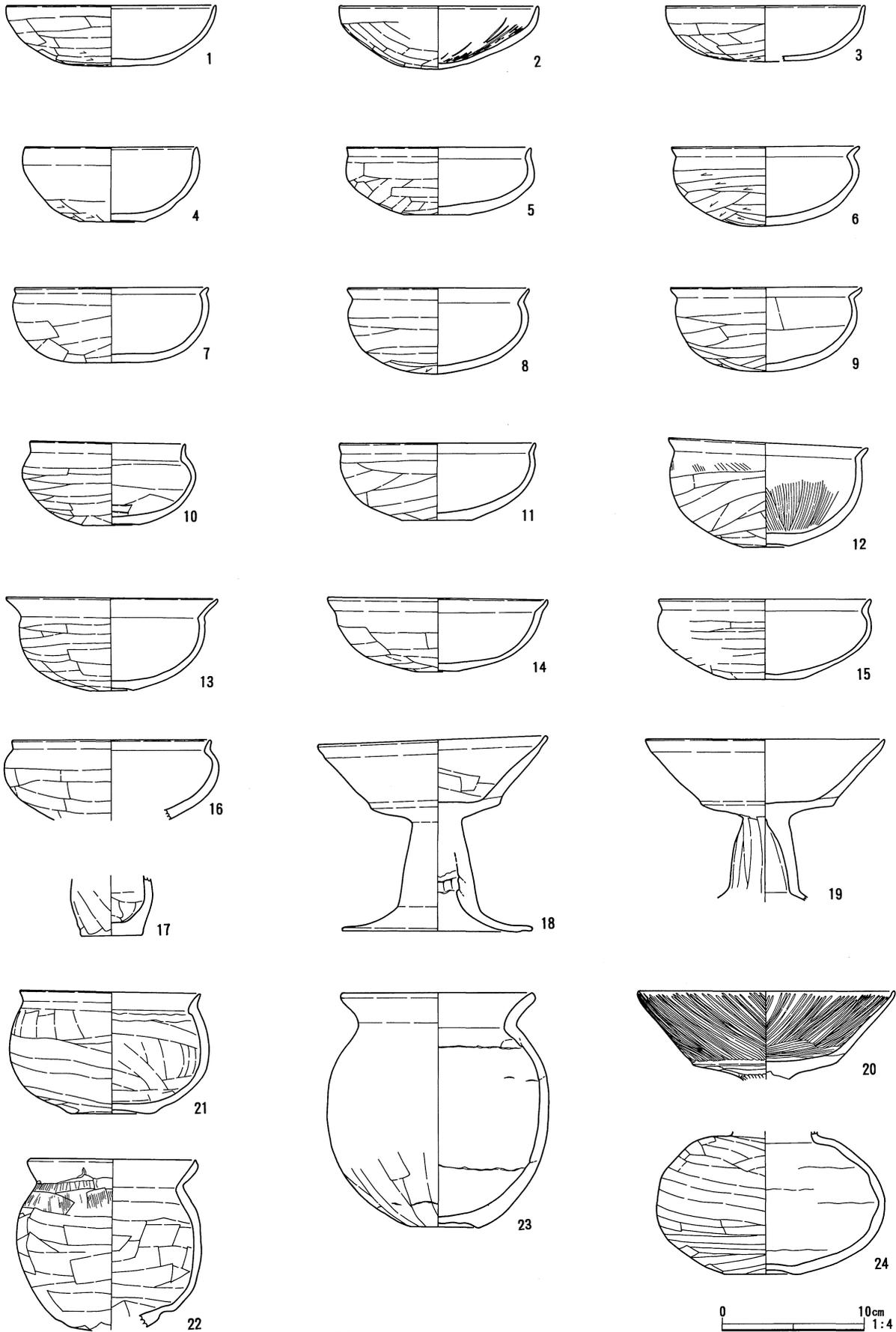


图365 SI-23 出土遺物 (1)

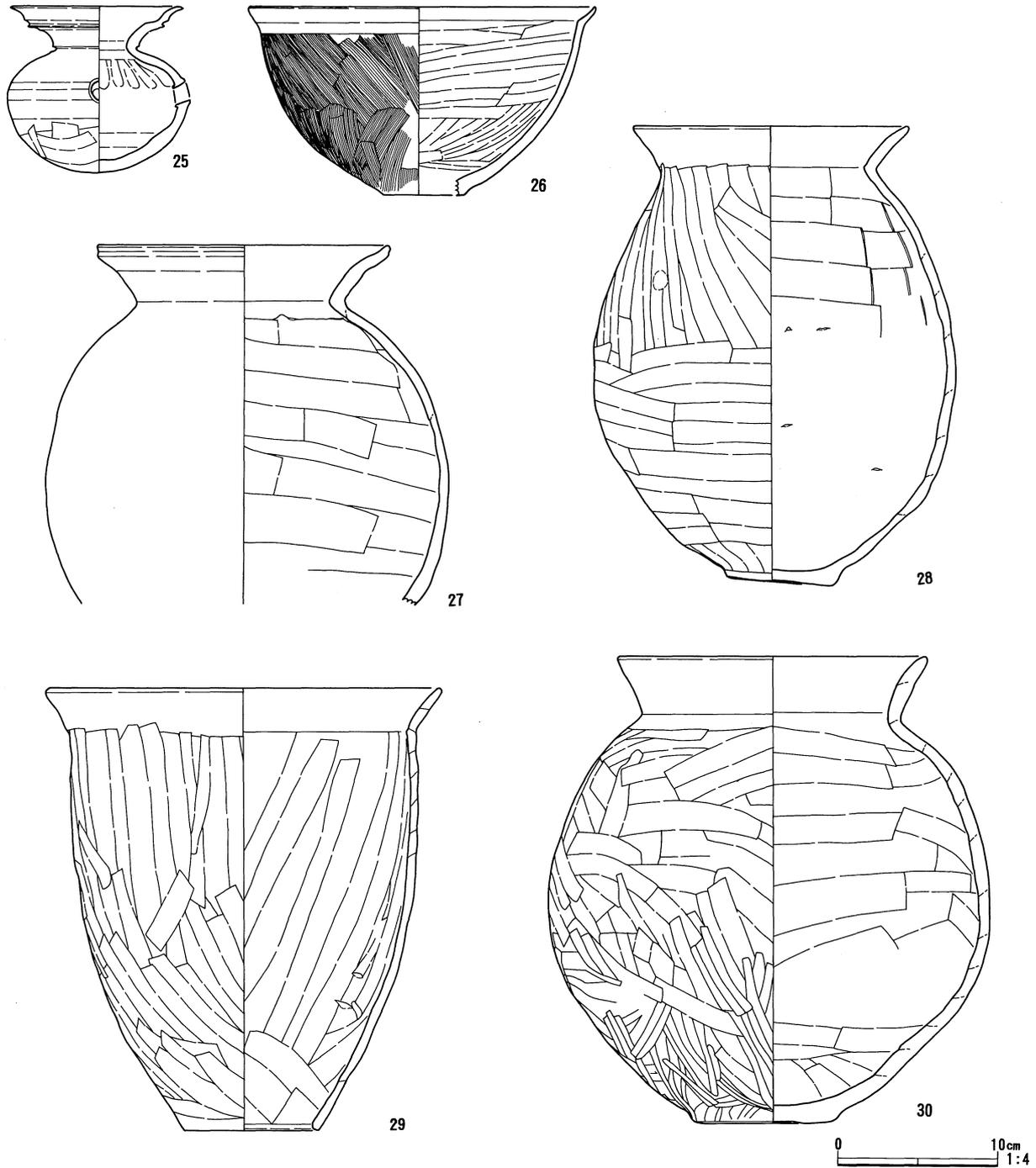


図366 SI-23 出土遺物 (2)

5	土師器 坏	口径 13.0 底径 4.8 器高 4.8	彎曲する体部、短く外反する口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ後ヘラナデ、底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	黒色粒 内外一明赤褐色	口縁部一部欠損。
6	土師器 坏	口径 13.2 底径 — 器高 5.7	彎曲する体部、短く外反する口縁部。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外一明赤褐色	口縁部一部欠損。
7	土師器 坏	口径 13.6 底径 — 器高 5.4	彎曲する体部、短く外反する口縁部。底部は丸底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	石英 内外一にぶい赤褐色	口縁部 1/3 欠損。

8	土師器 坏	口径 12.8 底径 — 器高 6.1	彎曲する体部、短く外反する口縁部。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外一明赤褐色	口縁部 1/6 欠損。
9	土師器 坏	口径 13.4 底径 — 器高 6.0	彎曲する体部、短く外反する口縁部。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。	白色粒 内外一明赤褐色	体部下位一部欠損。
10	土師器 坏	口径 10.9 底径 3.9 器高 5.9	彎曲する体部、短く直立する口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。	白色粒 内外一赤褐色	口縁部〜体部一部欠損。
11	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 5.0 器高 5.5	彎曲する体部、短く外反する口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ナデ。	白色粒 内外一にぶい黄褐色	口縁部〜体部 1/3 欠損。
12	土師器 坏	口径 (14.1) 底径 3.2 器高 7.8	彎曲する体部、短く外反する口縁部。底部は上げ底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上位ハケメ、中・下位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部斜縦位ハケメ。	白色粒・褐色粒 内外一にぶい赤褐色	口縁部 3/4 欠損。
13	土師器 坏	口径 15.0 底径 3.0 器高 6.7	彎曲する体部、短く外反する口縁部。底部は上げ底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部〜体部ヨコナデ、底部ナデ。	褐色粒・雲母 内外一橙〜にぶい黄褐色	ほぼ完形。
14	土師器 坏	口径 15.5 底径 2.8 器高 5.3	膨らみの少ない体部、短く外反する口縁部。底部は小さな平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。内面一口縁部〜底部ヨコナデ。	褐色粒・礫 内外一橙色	3/4。
15	土師器 坏	口径 (15.0) 底径 (5.0) 器高 5.7	彎曲する体部、短く外反する口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部〜底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	1/4。
16	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 —	彎曲する体部、短く外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	褐色粒・角閃石・礫 内外一にぶい赤褐〜にぶい褐色	口縁部〜体部 1/4。
17	土師器 ミニチュア 土器	口径 — 底径 (4.2) 器高 —	膨らみのない体部。底部は平底。	外面一体部斜縦位ヘラナデ。内面一体部上半ヘラナデ、下半指ナデ。	褐色粒・礫・角閃石 内外一橙〜明赤褐色	体部〜底部残存。
18	土師器 高坏	口径 16.2 底径 13.4 器高 13.9	緩やかに開いた裾部、直線的な脚部、直線的に大きく外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、体部〜脚部ナデ、裾部ヨコナデ。内面一口縁部上位ヨコナデ、中・下位ヘラナデ、脚部〜裾部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	裾部 1/3 欠損。
19	土師器 高坏	口径 16.8 底径 — 器高 —	僅かに膨らんだ脚部、直線的に大きく外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、脚部縦位ヘラナデ。外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、脚部縦位ヘラナデ。	白色粒 内一黒褐色 外一明褐色	裾部欠損。
20	土師器 高坏	口径 18.1 底径 — 器高 —	直線的に大きく外反する口縁部。	外面一口縁部斜縦位ヘラケンマ。内面一口縁部斜縦位ヘラケンマ。	褐色粒・角閃石 内外一明赤褐色	坏部残存。
21	土師器 小型甕	口径 12.7 底径 6.2 器高 8.8	膨らみをもつ胴部、短く外反する口縁部。底部は上底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位縦位ヘラナデ、中・下位ヘラケズリ後横位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラナデ、中・下位斜縦位ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外一橙色	ほぼ完形。
22	土師器 小型甕	口径 11.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。僅かな膨らみをもつ胴部から、口縁部は彎曲気味に立ち上がる。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ後ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ナデ。	白色粒・礫・雲母 内外一橙〜にぶい黄褐色	口縁部〜胴部下位残存。 底部穿孔？。

23	土師器 小型甕	口径 13.4 底径 4.8 器高 16.7	粘土紐積み上げ成形。僅かな膨らみをもつ胴部、彎曲気味に外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	褐色粒・片岩・石英 内外一明赤褐色	2/3。
24	土師器 埴	口径 — 底径 5.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。大きく膨らんだ体部。底部は上底気味。	外面一体部上半横位ヘラナデ、下半横位ヘラケズリ。内面一体部ナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	口縁部欠損。
25	須恵器 甕	口径 (10.5) 底径 — 器高 10.5	短く太い頸部、彎曲気味に外反する口縁部。	ロクロ整形、体部外面横位ヘラナデ。	白色粒 内外一灰色	5/6。 体部外面上半に自然釉。
26	土師器 鉢	口径 21.8 底径 5.0 器高 11.9	僅かに膨らんだ胴部、短く外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ハケメ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・礫 内外一明赤褐色	口縁部～底部一部欠損。
27	土師器 甕	口径 18.1 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らんだ胴部、上位が直立気味の口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒・礫・角閃石 内外一橙～にぶい橙色	口縁部～胴部中位残存。
28	土師器 甕	口径 17.0 底径 6.2 器高 29.1	粘土紐積み上げ成形。胴部下位に膨らみをもつ長胴で、口縁部は直線的に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半縦位ヘラナデ、下半横位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外一にぶい黄褐色	口縁部一部欠損。
29	土師器 甕	口径 24.4 底径 8.4 器高 27.9	膨らみの少ない胴部、直線的に外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半縦位ヘラナデ、下半斜縦位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラナデ。	白色粒 内外一橙色	完形。
30	土師器 甕	口径 18.9 底径 8.5 器高 29.5	粘土紐積み上げ成形。膨らんだ胴部、直線的に外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半斜横位ヘラナデ、下半斜縦位ヘラケズリ後斜縦位ヘラケンマ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外一橙色	7/8。

SI-24 (図368・369)

位置：K-11・12、L-11・12グリッドに位置する。

形状：東隅周辺をSK-462および攪乱により切られている。プランは、一辺7.1mの正方形を呈する。

構造：覆土は、単層で、ロームブロック、白色パミスを含む暗褐色土の堆積を認める。柱穴はP1～P4の4基を検出した。壁溝、炉、貯蔵穴は存在を確認できない。床は全面的な貼床構造をもたないが、柱穴を結ぶ線から外側にロームブロックを多量に含む黄褐色土を充填し貼床を構築している。貼床部分は硬化が著しい。確認面から床面までの深さは10cm前後を測る。掘り方は貼床部分に対応し、中央部分を残すように四周のローム層を掘り込んでいる。貼床面下に大小のピットを検出したが、住居の上屋構造と関係する遺構は認めない。

遺物：遺物は、床面直上ないし若干の間層を挟んで土師器器台片2点、貯蔵穴でS字状口縁台付甕形土器下半部1点を検出したほか、覆土から土師器片若干が出土した。

時期：所属時期は、床面直上出土遺物の型式から4世紀後半代と判断される。

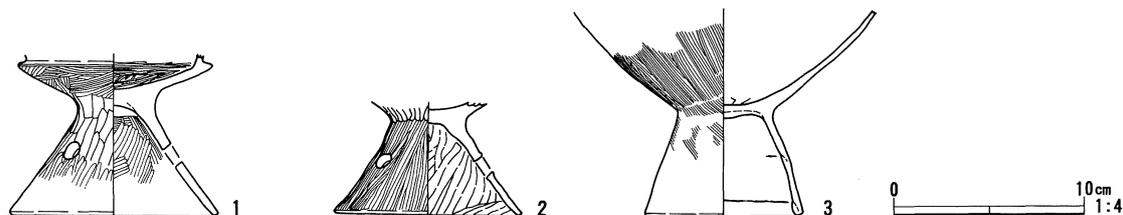
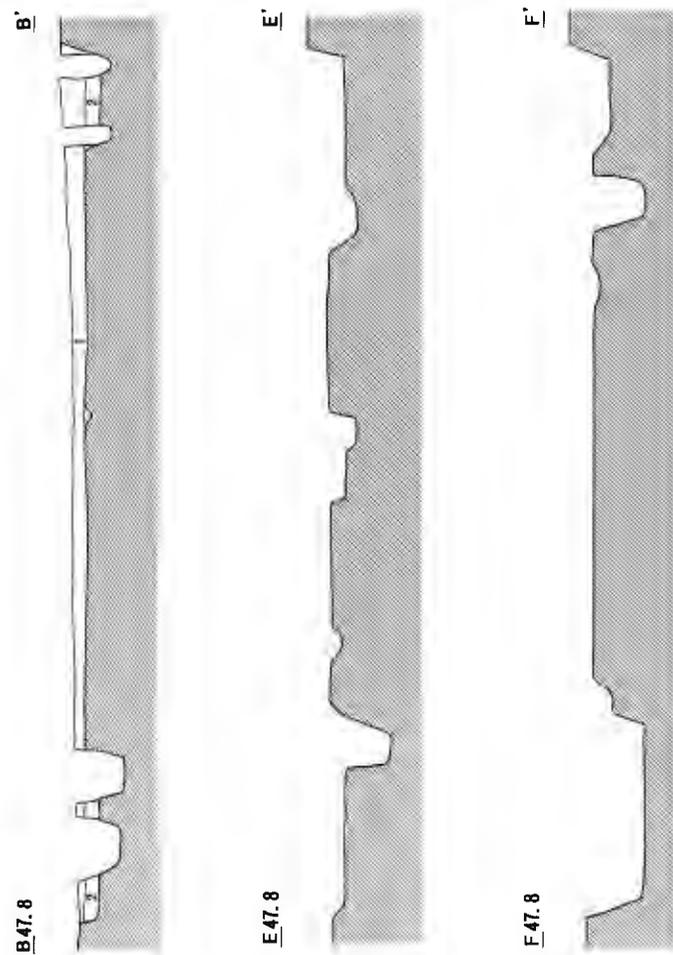
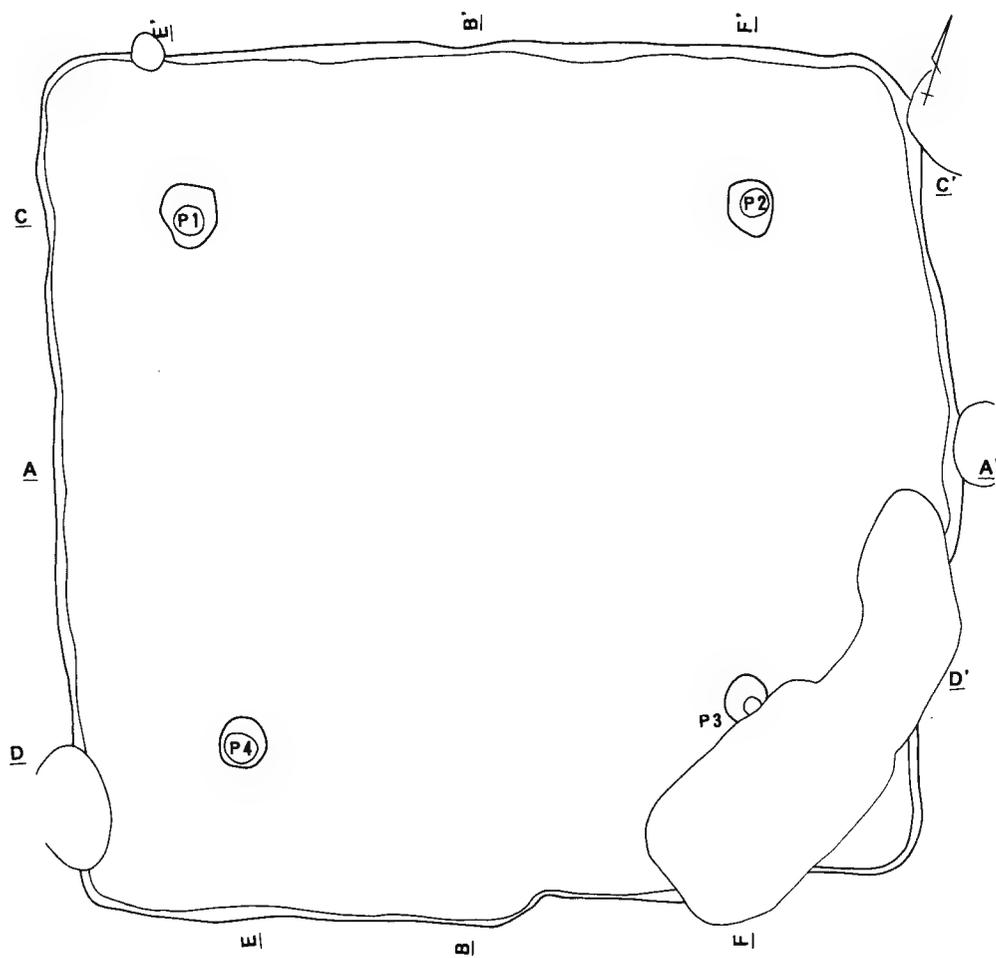


図367 SI-24 出土遺物



SI-24 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり強。貼床土。

0 2m
1:60

図368 SI-24

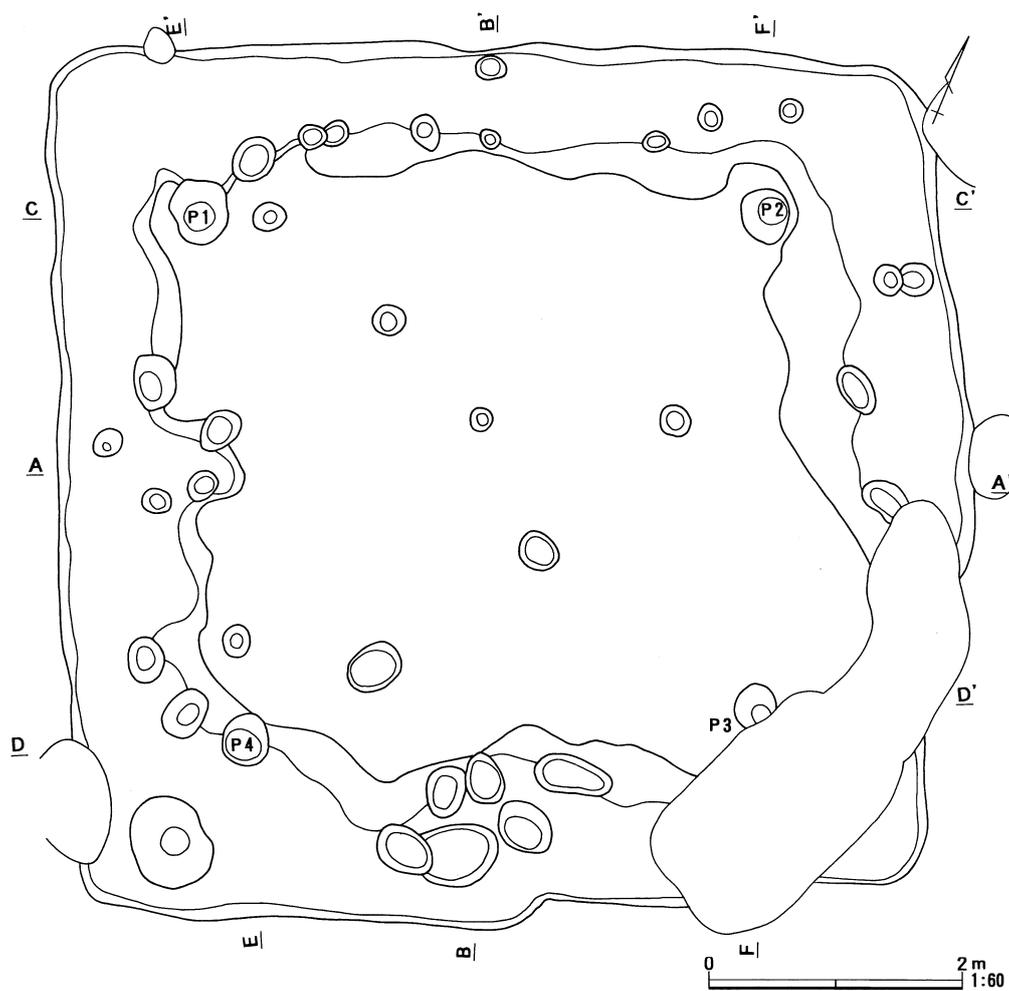


図369 SI-24 掘り方

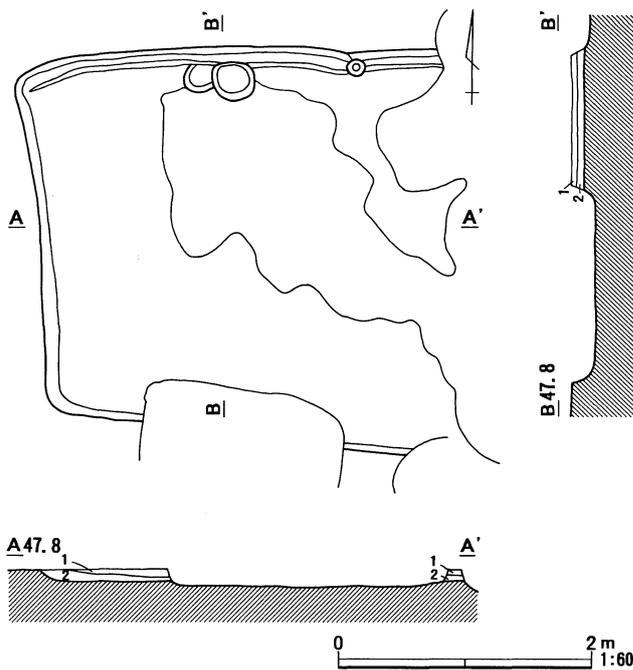
SI-24

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器台	口径 — 底径 (10.6) 器高 —	受部は体部が緩やかに外反し、口縁部は段差をもつ。脚部は緩やかに開く。	外面—受部ヘラケンマ、脚部ヘラケズリ後ヘラケンマ。内面—受部〜脚部ハケメ後ヘラケンマ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 内外—にぶい黄橙色	3/4。
2	土師器台	口径 — 底径 9.6 器高 —	脚部は緩やかに開く。	外面—脚部ハケメ後ヘラケンマ。内面—脚部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—にぶい橙色	脚部 1/2。
3	土師器台付甕	口径 — 底径 7.7 器高 —	胴部は緩やかに立ち上がり、端部を折り返した台部は直線的に開く。	外面—胴部斜縦位ハケメ、台部ハケメ後ナデ。内面—胴部ヘラナデ、台部ナデ。	黒色粒・石英 内外—にぶい黄褐色	胴部下位〜台部 2/3。

SI-25 (図370)

位置：L-14グリッドに位置する。

形状：東壁から床面中央にかけてを攪乱により大きく失っている。南壁の一部をSF-43、中央の一部をST-18の周堀により、南東隅をSK-635により、カマドの燃焼部立ち上がりの一部をピットにより切られている。プランは、4.0×3.2m程度の長方形を呈するものと推測される。



SI-25 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を多量に含む。

図370 SI-25

構造：覆土は、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。壁溝は北壁際のみが存在する。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するもの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10cm前後を測る。

遺物：遺物は、床面直上で土師器坏2点、小型台付甕、須恵器高台碗各1点を検出した。

時期：所属時期は、床面直上遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

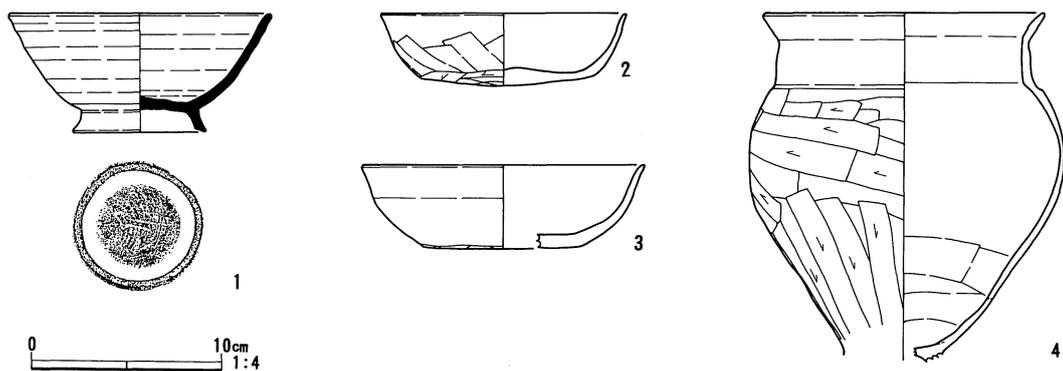


図371 SI-25 出土遺物

SI-25

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器高台碗	口径 13.6 底径 6.8 器高 6.3	体部は僅かな膨らみをもち、高台部は彎曲気味に開く。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り、高台貼付時周辺部ナデ。	白色粒・黒色粒・礫 内外—黄灰色	体部1/4欠損。
2	土師器坏	口径 12.8 底径 9.2 器高 3.8	体部下半に僅かな膨らみをもち、口縁部は緩やかに外反。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外—橙灰色	2/3。

3	土師器 坏	口径 (14.8) 底径 (8.3) 器高 4.4	体部下半に僅かな膨らみをもち 口縁部は緩やかに外反。底部は 平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナ デ、底部ヘラケズリ。内面—口 縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・黒色粒・ 雲母 内外—明 赤褐色	1/3。
4	土師器 台付甕	口径 14.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に膨らみをもち、口縁部は「コ」 字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上 半横位ヘラケズリ、下半斜縦位 ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコ ナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい赤 褐色	口縁部～胴部下 位 3/4。

SI-26 (図372)

位置：K-14・15、L-14・15グリッドに位置する。

形状：北西隅をSK-719により切られている。プランは、5.0×3.2mの不整長方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む暗褐色土、上層にロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは18cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器および須恵器片が若干出土しているが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期は不明である。

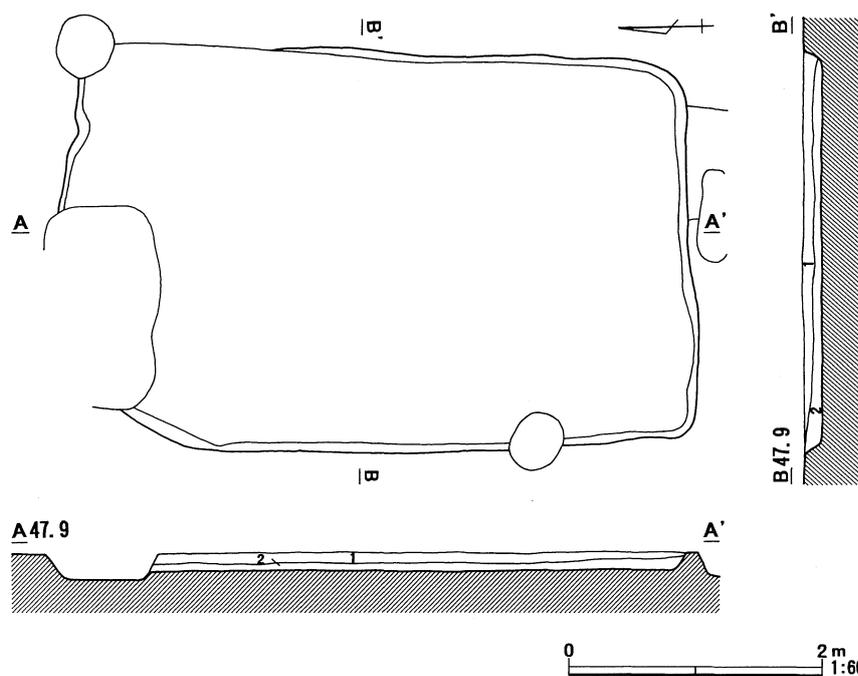
SI-27 (図373)

位置：K-15・16、L-15・16グリッドに位置する。

形状：SD-15により、中央部分を東西方向に切られている。

プランは、東壁南半が鉤の手状に内側へ屈曲し、北壁5.6m、南壁推定4.4m、南北4.6mを測る。

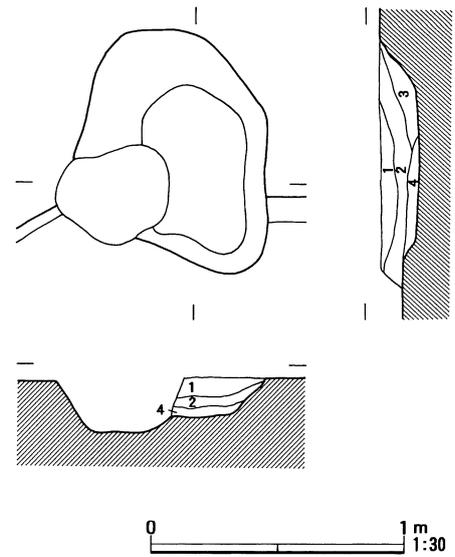
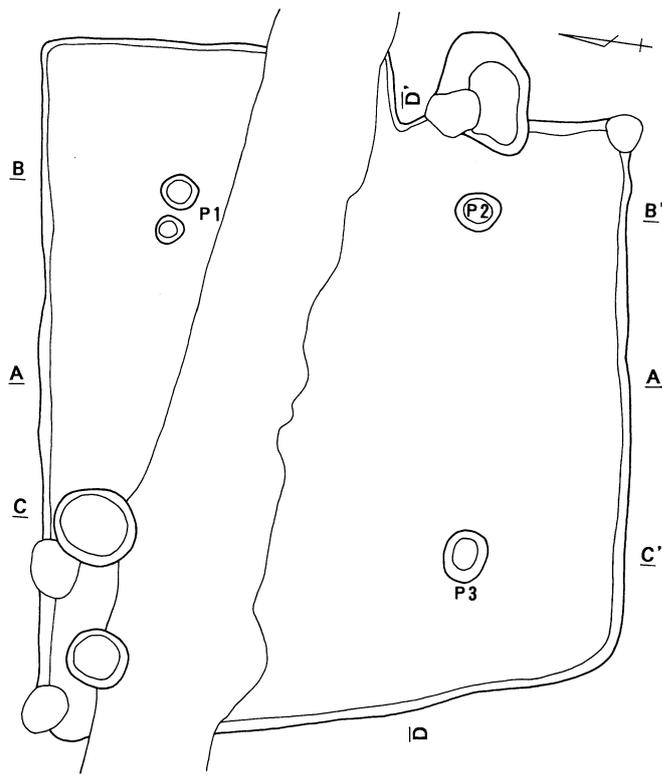
構造：覆土は、単層でロームブロック、焼土ブロック黒色土の堆積を認める。柱穴はP1～P3の3基を検



SI-26 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1～10mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1～10mm) を多量に含む。

図372 SI-26



SI-27 土層説明 (単層)

黒色土 ロームブロック (径1~3mm)、
焼土ブロック (径1~5mm) を
少量含む。

SI-27 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、
焼土ブロック (径1~5mm) を
多量に含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)
を少量含む。
- 3 黒色土 焼土ブロック (径1~10mm) を
多量に含む。
- 4 黒色土 炭化物ブロック (径1~5mm)、
焼土ブロック (径1~5mm) を
多量に含む。

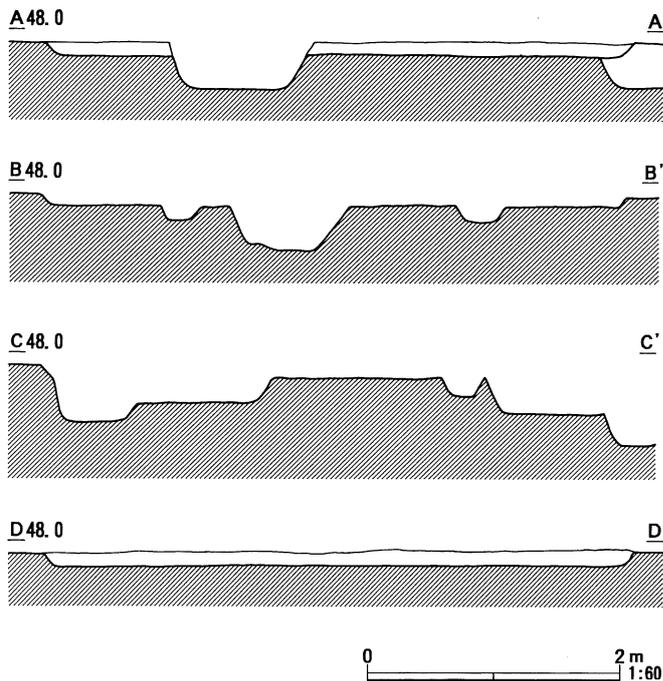


図373 SI-27

出した。壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁の南東隅寄りにカマドを付設する。遺存状態不良で袖部、焚口部、煙道部の構造を確認できない。燃焼部は、3/4程度を壁側に掘り込む構造で、幅38cm、奥行85cmを測る。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10cm前後を測る。

遺物：遺物は、いずれもプラン確認の段階で、覆土上層から、土師器坏片4点、土師器盤1点、甕片2点、台付甕台部1点を検出したほか、土師器および須恵器の小片若干が出土した。床面直上、カマド内部における遺物は認められない。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

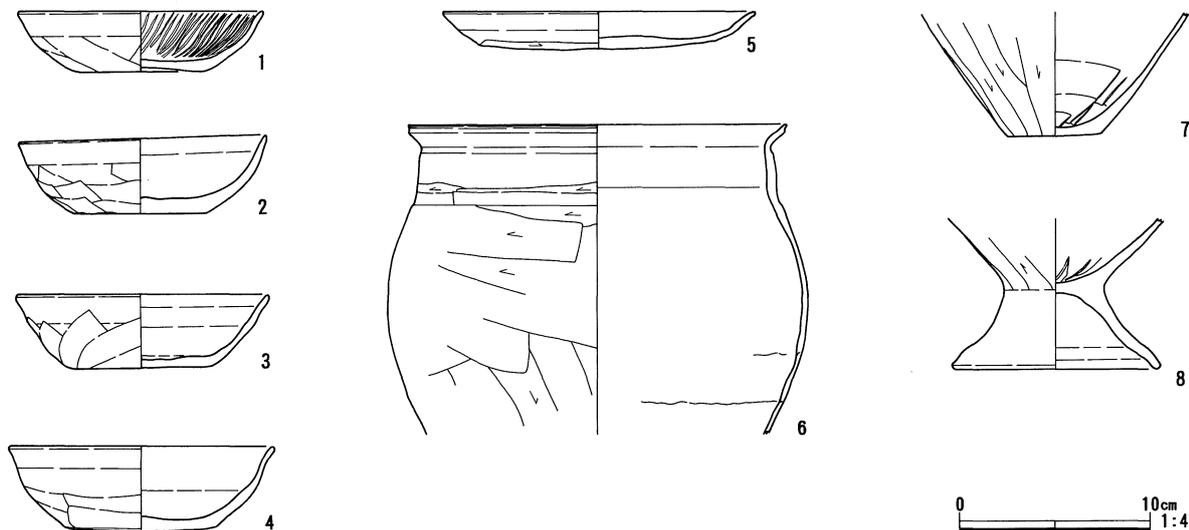


図374 SI-27 出土遺物

SI-27

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.8 底径 6.4 器高 3.2	緩やかに開く体部から、口縁部は屈曲して外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部放射状暗文。	白色粒・黒色粒・石英 内外面一橙色	3/4。
2	土師器 坏	口径 13.0 底径 7.0 器高 4.2	緩やかに開く体部から、口縁部はやや屈曲して外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外面一にぶい橙色	3/4。
3	土師器 坏	口径 13.2 底径 7.6 器高 4.0	体部から口縁部にかけて緩やかに外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外面一にぶい赤褐色	2/3。
4	土師器 坏	口径 13.8 底径 8.0 器高 4.5	体部中位に僅かな膨らみを持ち、口縁部は彎曲気味に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外面一にぶい褐色	2/3。
5	土師器 盤	口径 16.4 底径 — 器高 2.0	体部から口縁部にかけて大きく外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒 内外面一橙色	ほぼ完形。
6	土師器 甕	口径 (19.9) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみを持ち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外面一橙色	口縁部～胴部中位 1/6。
7	土師器 甕	口径 — 底径 4.8 器高 —	粘土紐積み上げ成形。緩やかに立ち上がる胴部下位。	外面一胴部縦位ヘラケズリ。内面一胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外面一にぶい橙色	胴部下位～底部 残存。
8	土師器 台付甕	口径 — 底径 10.8 器高 —	彎曲気味に開く台部、緩やかに立ち上がる胴部下位。	外面一胴部斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面一胴部横位ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外面一橙～にぶい赤褐色	胴部下位～台部 5/6。

SI-28 (図375)

位置：K-16、L-16グリッドに位置する。

形状：北隅をSI-27により切られている。プランは、5.5×5.5mの隅丸正方形を呈する。

構造：覆土は、下層に焼土ブロックを含む赤褐色ないし黄褐色土、上層にロームブロックを含む暗褐色ないし黒褐色土の堆積を認める。柱穴はP1～P4の4基を検出した。壁溝、炉ないしカマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは37～45cm前後を測る。

遺物：遺物は床面直上から小型甕4点、小型壺1点、甑1点、ミニチュア土器5点、覆土から土師器片若干を出土した。

時期：所属時期は、床面直上遺物の型式から4世紀後半から5世紀前半代と判断される。

SI-29 (図375)

位置：K-16、L-16グリッドに位置する。

形状：大部分をSI-28により切られている。東壁と南壁、北壁のそれぞれ一部のみが遺存する。プランは、1辺4.0m程度の隅丸方形を呈するものと推測される。

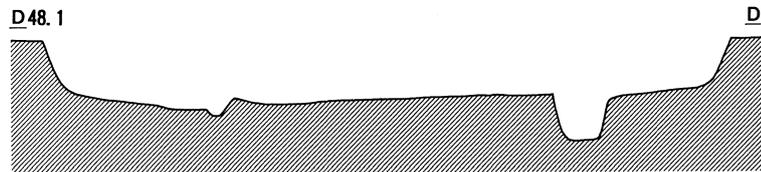
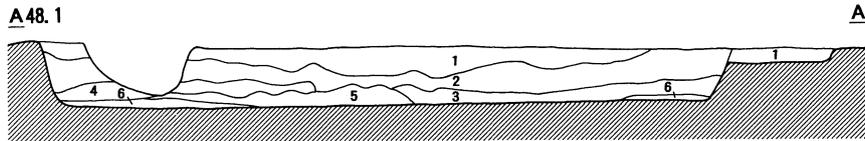
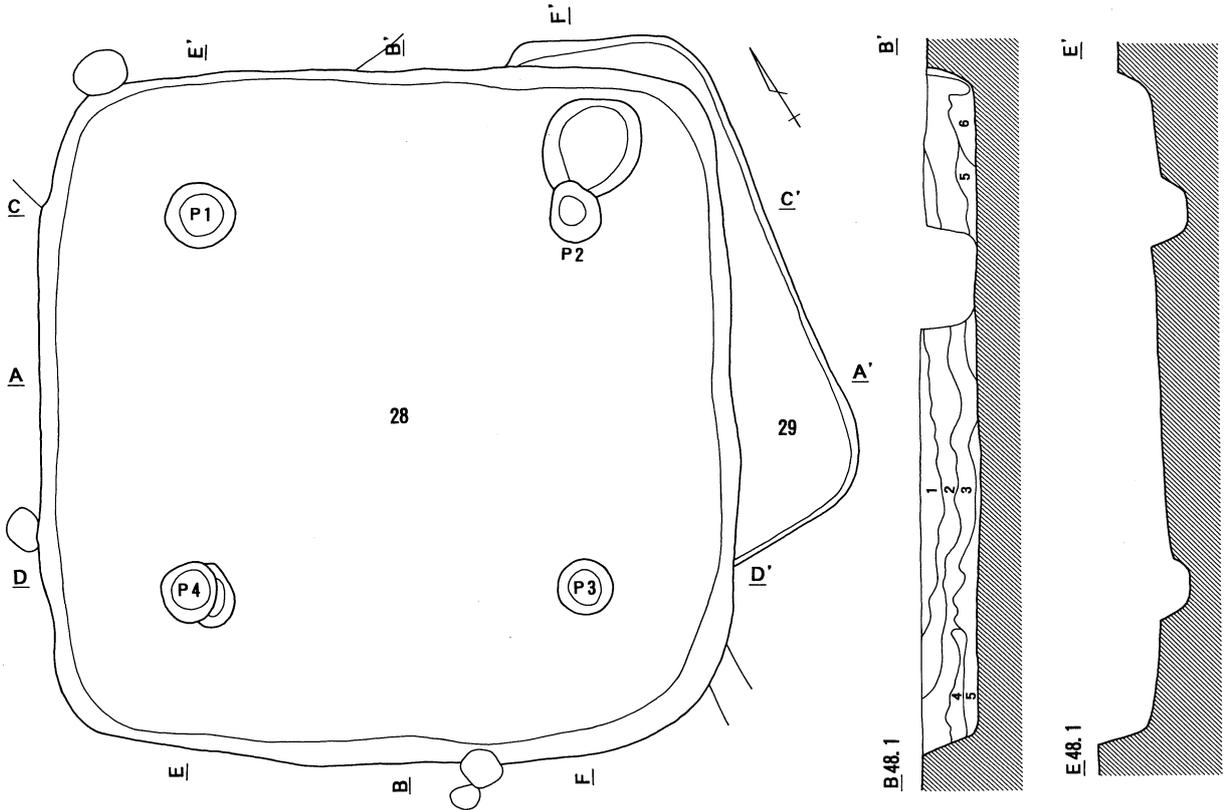
構造：覆土は、単層で、ロームブロックを含む暗褐色土の堆積を認める。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10cm前後を測る。

遺物：遺物は、皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明であるが、SI-28との切り合い関係から、和泉期以前に遡る。

SI-28

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 ミニチュア 土器	口径 (3.2) 底径 3.1 器高 2.7	体部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。底部は丸底気味。	内外面一ナデ。	白色粒 内外面一黒褐色	口縁部7/8欠損。
2	土師器 ミニチュア 土器	口径 (4.2) 底径 4.5 器高 4.3	体部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。底部は平底。	内外面一ナデ。	白色粒・角閃石 内外面一暗灰黄色	2/3。
3	土師器 ミニチュア 土器	口径 4.7 底径 3.7 器高 3.6	体部から口縁部にかけて彎曲気味に立ち上がる。底部は平底。	内外面一ナデ。	白色粒・黒色粒 内外面一にぶい黄橙色	ほぼ完形。
4	土師器 ミニチュア 土器	口径 — 底径 4.0 器高 —	体部は彎曲気味に立ち上がる。底部は平底。	内外面一ナデ。	白色粒・黒色粒 内外面一にぶい黄褐色	体部中位～底部1/4。
5	土師器 ミニチュア 土器	口径 — 底径 4.8 器高 —	体部は彎曲気味に立ち上がる。底部は平底。	外面一 体部ナデ。 内面一 体部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外面一にぶい褐色	口縁部欠損。
6	土師器 小型甕	口径 11.3 底径 5.2 器高 12.9	胴部中位に膨らみをもつ短胴で、口縁部は直線的に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部縦位ハケメ後ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	黒色粒 内外面一にぶい黄橙色	5/6。



SI-28 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を少量含む。
- 4 黄褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 5 褐色土 ロームブロック (径1mm±) を多量に含む。
- 6 赤褐色土 焼土ブロック (径1~20mm) を多量に含む。しまり強。

SI-29 土層説明 (単層)

- 暗褐色土 ロームブロック (径1~25mm) を多量に含む。

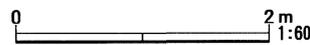


図375 SI-28・29

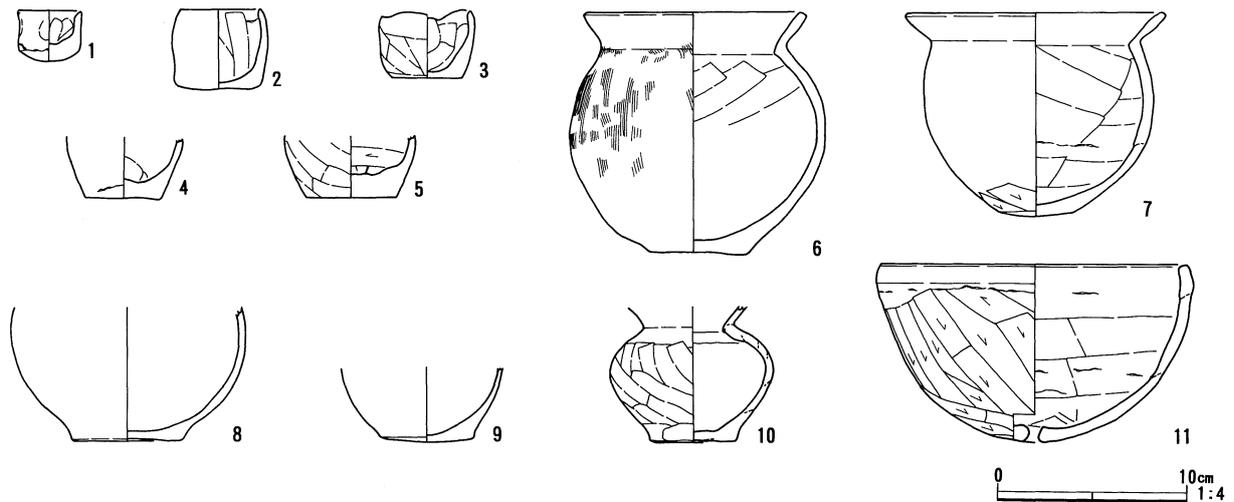


図376 SI-28 出土遺物

7	土師器 小型甕	口径 (13.5) 底径 3.8 器高 10.8	胴部中位に僅かな膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に大きく外反。底部は小さな平底。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上・中位不明瞭、下位横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・石英 内外面一橙色	口縁部 1/5、胴部～底部 2/3。
8	土師器 小型甕	口径 — 底径 5.8 器高 —	膨らみをもつ胴部中位。	内外面一不明瞭。	白色粒・黒色粒・石英 内外面一橙色	胴部中位～底部 2/3。
9	土師器 小型甕	口径 — 底径 5.0 器高 —	僅かな膨らみをもつ胴部中位。	内外面一不明瞭。	白色粒・角閃石 内外面一にぶい橙色	胴部中位～底部 2/3。
10	土師器 小型壺	口径 — 底径 4.4 器高 —	膨らみをもつ胴部中位、大きく外反する口縁部。	外面一口縁部～胴部上位ヨコナデ、胴部中・下位斜横位ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外面一明赤褐色	口縁部上位 7/8 欠損。
11	土師器 甕	口径 16.2 底径 1.2 器高 9.5	粘土紐積み上げ成形。彎曲する胴部から、口縁部は僅かに内傾。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部～胴部横位ヘラナデ。	黒色粒・褐色粒・石英 内外面一橙色	口縁部一部欠損。

SI-30 (図377・378)

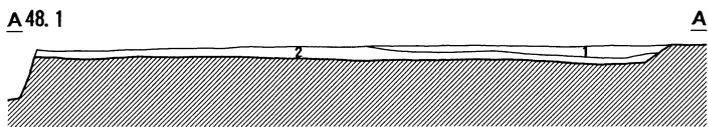
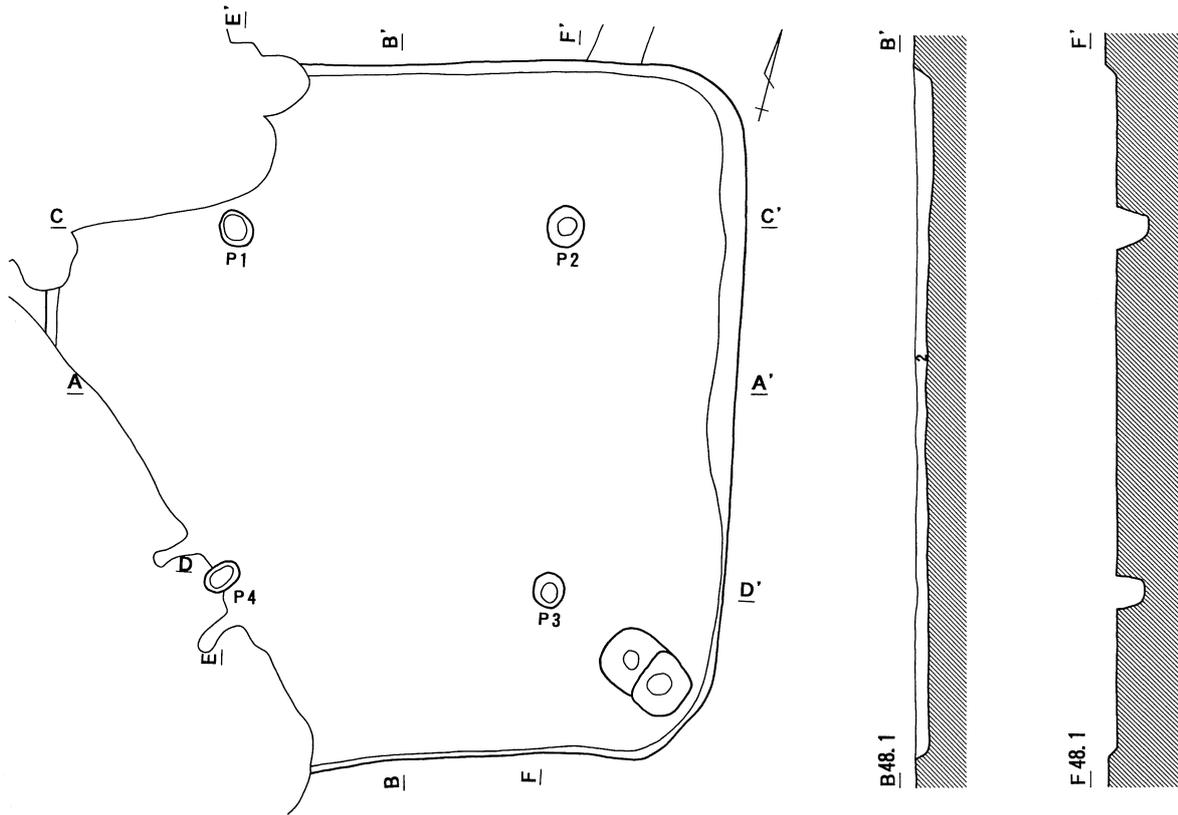
位置：K-17、L-17・18グリッドに位置する。

形状：北西隅から南西隅にかけてを SI-31 ならびに SI-32 により切られている。プランは 5.5×5.0m の隅丸正方形を呈する。

構造：覆土は、大部分がロームブロックを含む暗黒褐色土で、一部上層にロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴は P 1～P 4 の 4 基を検出した。壁溝、炉ないしカマドの存在は確認できない。南東隅に貯蔵穴を検出した。2 基の土壌が連結したような形態を呈し、径 75×50cm、深さ 50cm を測る。上層に黒色土、

SI-30

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 高坏	口径 19.5 底径 12.8 器高 16.3	脚部粘土紐巻き上げ成形。坏部は平底から稜をもって直線的に外反し、脚部は緩やかに開いて彎曲気味に裾部に続く。	外面一口縁部ハケメ後ヨコナデ、底部ハケメ、脚部縦位ヘラナデ、裾部ヨコナデ。内面一口縁部横位ハケメ、脚部上半絞り目、下半横位ハケメ、裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒 内外面一にぶい赤褐色	ほぼ完形。



SI-30 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。



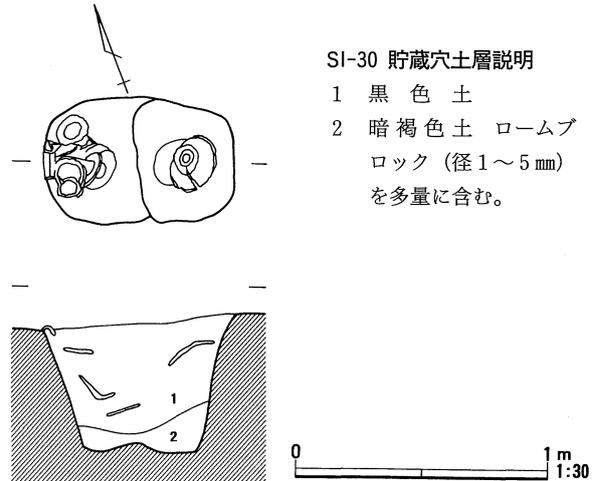
図377 SI-30

2	土師器 高坏	口径 18.7 底径 14.4 器高 15.9	脚部粘土紐巻き上げ成形。坏部は平底から稜をもって直線的に外反し、脚部は緩やかに開いて彎曲気味に裾部に続く。	外面一口縁部ハケメ後ヨコナデ、底部ハケメ、脚部縦位ヘラナデ、裾部ヨコナデ。内面一口縁部横位ハケメ、脚部上半絞り目、下半横位ハケメ、裾部ヨコナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	ほぼ完形。
---	-----------	-------------------------------	---	--	------------------	-------

下層にロームブロックを多量に含む暗褐色土の堆積を認める。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面はおおむね平坦である。確認面から床面までの深さは7~15cmを測る。

遺物：遺物は、貯蔵穴から土師器高坏4点、覆土から土師器小型壺1点、甕片、台付甕片各半個体分、土師器小片若干を検出した。床面直上における遺物は認められない。

時期：所属時期は、貯蔵穴出土遺物の型式から5世紀前半代と判断される。



SI-30 貯蔵穴土層説明

- 1 黒色土
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。

図378 SI-30 貯蔵穴

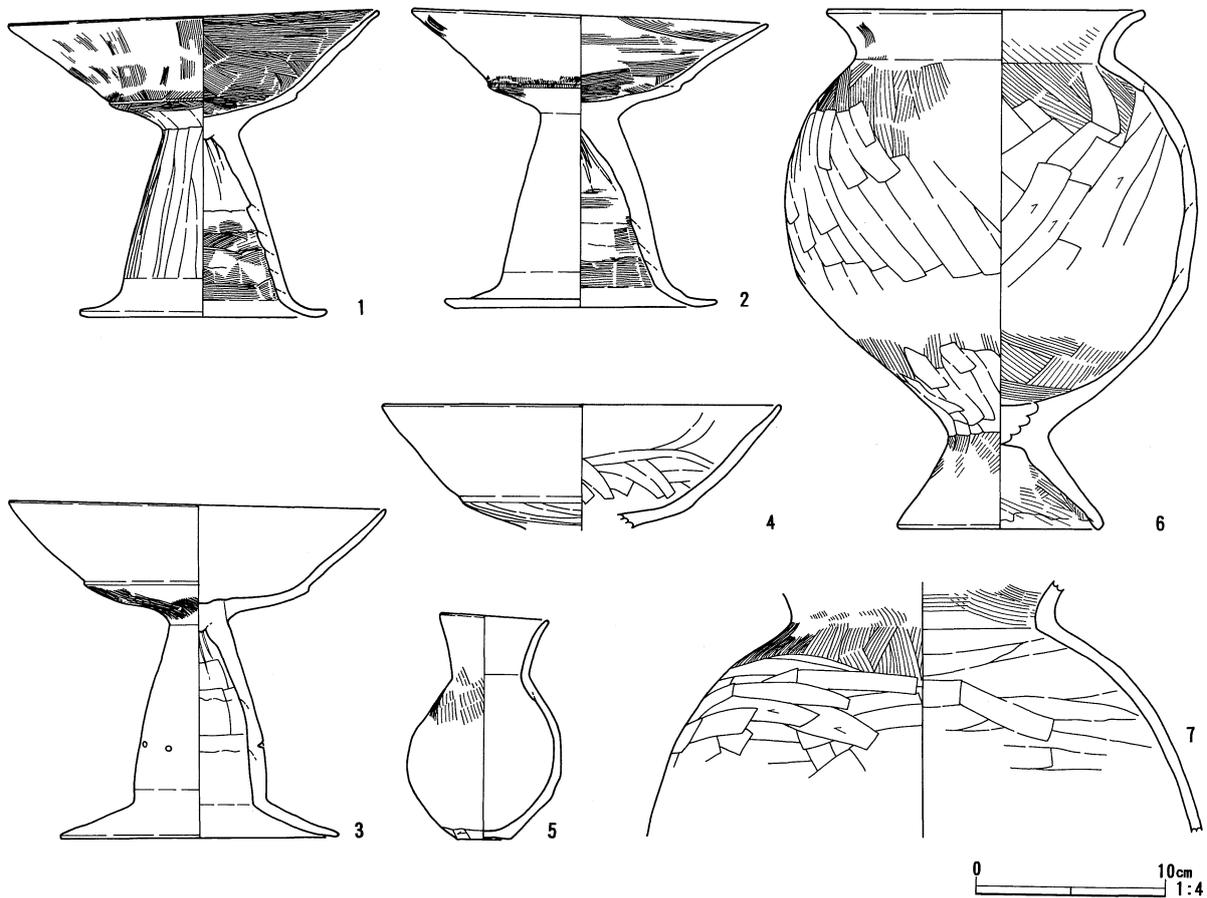


図379 SI-30 出土遺物

3	土師器高坏	口径 19.9 底径 14.6 器高 18.0	脚部粘土紐巻き上げ成形。坏部は平底から稜をもって緩やかに外反し、脚部は下位に僅かな膨らみをもち、裾部は直線的に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、底部ハケメ、脚部ナデ、裾部ヨコナデ。内面一口縁部ヨコナデ、底部ナデ、脚部上位絞り目、中・下位ヘラナデ、裾部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・角閃石 内外一明赤褐色	ほぼ完形。 脚部外面下位に2個の刺突。
---	-------	-------------------------------	--	---	----------------------------	------------------------

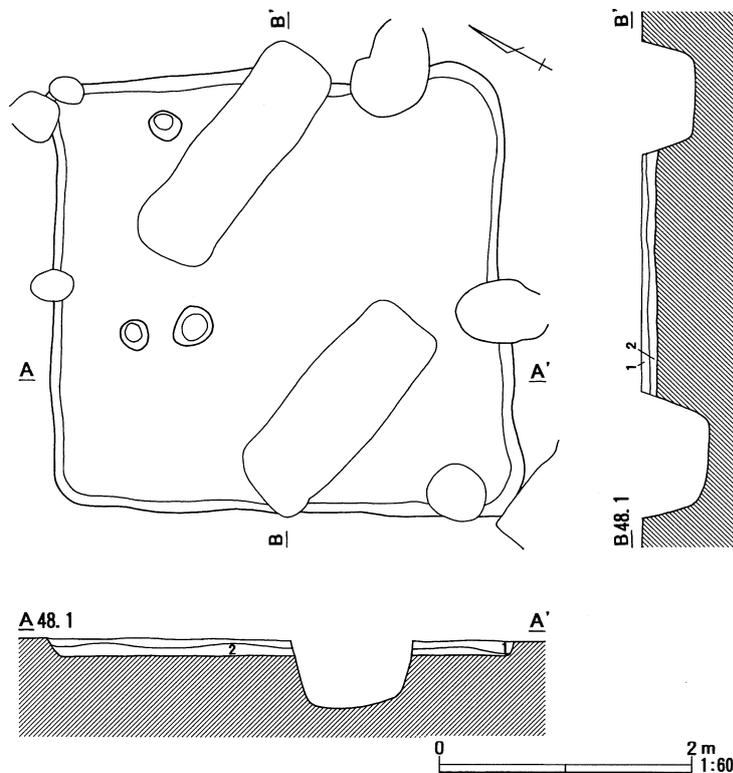
4	土師器 高坏	口径 21.0 底径 — 器高 —	坏部は平底から稜をもって緩やかに外反。	外面一口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ。内面一口縁部上半ヨコナデ、下半ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一明赤褐色	坏部残存。
5	土師器 小型壺	口径 5.5 底径 2.8 器高 12.0	膨らみをもつ胴部から、口縁部は緩やかに外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位ハケメ、中・下位ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外面一橙色	ほぼ完形。
6	土師器 台付甕	口径 16.5 底径 10.6 器高 27.6	粘土紐積み上げ成形。中位に膨らみをもつ胴部から、口縁部は彎曲気味に外反。台部は直線的に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上・下位縦位ハケメ、中位斜縦位ヘラナデ、台部上半ハケメ、下半ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ後ハケメ、胴部上・下位斜横位ハケメ、中位斜縦位ヘラケズリ、台部ハケメ後上半ナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石・礫 内外面一にぶい黄橙～灰黄褐色	1/2。
7	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	胴部中位に膨らみをもつ。	外面一胴部上位縦位ハケメ、中位斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ後斜横位ハケメ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外面一明褐色	頸部～胴部中位 2/3。

SI-31 (図380)

位置：L-17グリッドに位置する。

形状：壁および床の一部をSK-722・734により切られている。プランは、3.5×3.5mの隅丸方形を呈する。

構造：覆土は、単層で、ロームブロック、焼土ブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。南西壁近くにわずかに残るのみで、ロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、炉ないしカマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床はロームブロックを多量に含む黒褐色土を敷いて構築している。掘り方は、若干の起伏を



SI-31 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～25mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～50mm）を多量に含む。貼床土。

図380 SI-31

認めるものの、おおむね平坦である。床面下には土壌その他の遺構は認められない。

遺物：遺物は、床面直上で土師器坏片3点、鉢片1点、覆土から土師器小片若干を検出した。

時期：所属時期は、床面直上出土遺物の型式から7世紀末葉と判断される。

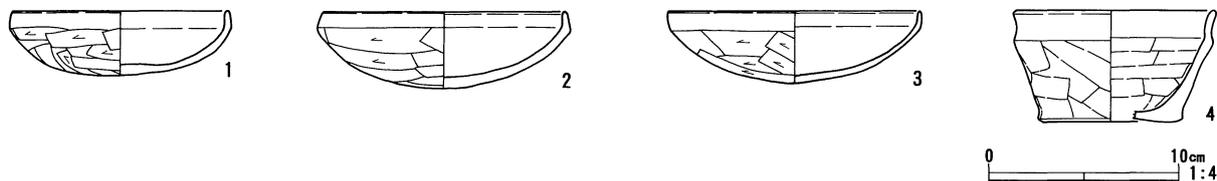


図381 SI-31 出土遺物

SI-31

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 11.3 底径 — 器高 3.4	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く内傾。底部は丸底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外一橙色	2/3。
2	土師器坏	口径 12.7 底径 — 器高 4.0	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・石英・礫 内外一にぶい橙色	4/5。
3	土師器坏	口径 (13.2) 底径 — 器高 3.8	彎曲する体部から口縁部。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部ヨコナデ。	白色粒・礫・角閃石 内外一橙色	1/4。
4	土師器鉢	口径 (10.4) 底径 6.9 器高 5.9	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は彎曲気味に短く外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部砂底。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外一橙色	2/3。

SI-32 (図382)

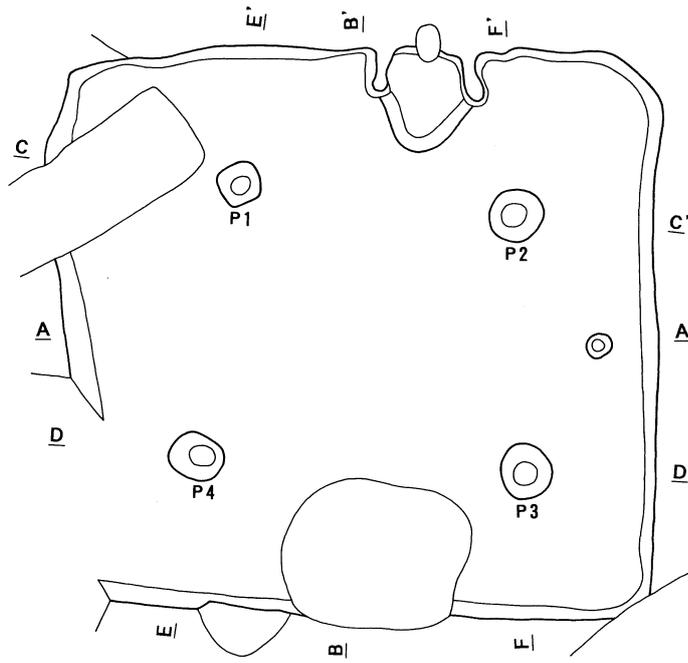
位置：L-17・18グリッドに位置する。

形状：北壁の一部をSK-723により、南壁の一部をSK-739により切られているほか、西隅がSI-33と重複している。プランは、4.7×4.5mの不整長方形を呈する。

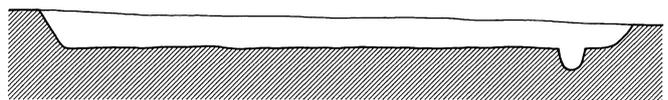
構造：覆土は、単層で、ロームブロックを含む黒灰暗褐色土の堆積を認める。柱穴はP1～P4の4基を検出した。壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。北東壁の中央やや南東寄りにカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、幅約55cm、奥行き80cmを測る。袖部は、ロームブロック、焼土ブロック、灰白色粘質土ブロックを多量に含む暗褐色土で構築され、右袖先端で土師器甕1点を倒立状態で検出した。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦であ

SI-32

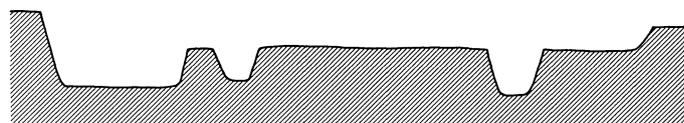
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 10.2 底径 — 器高 3.1	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	角閃石・石英 内外一橙色	3/5。
2	土師器坏	口径 (10.1) 底径 — 器高 3.4	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・石英 内外一橙色	1/3。



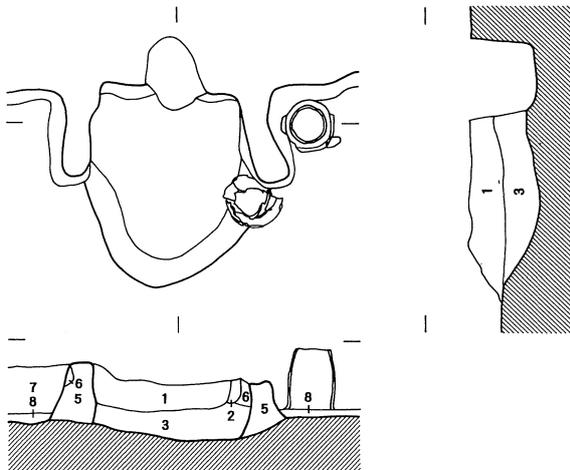
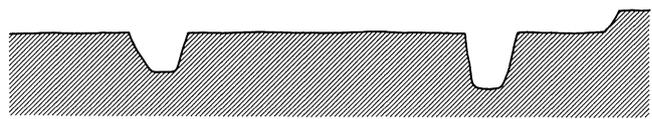
A48.1 A'



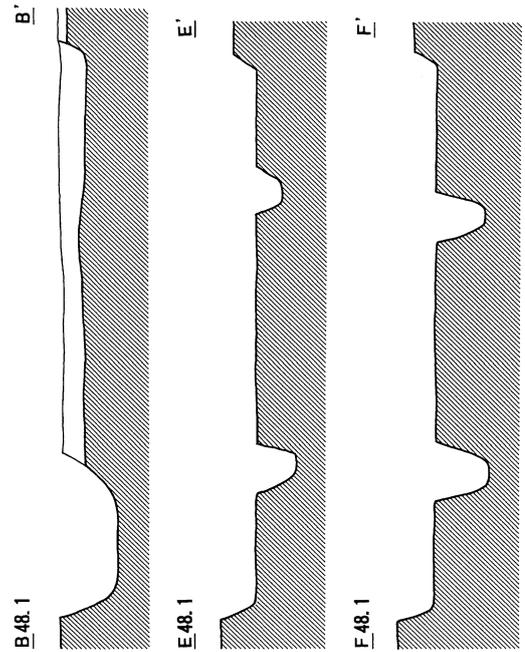
C48.1 C'



D48.1 D'



0 1 m 1:30



0 2 m 1:60

SI-32 土層説明 (単層)

黒灰褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。

SI-32 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~3mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、炭化物ブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 4 褐色土
- 5 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、灰白色粘質土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を少量に含む。
- 8 黄褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。

図382 SI-32

る。確認面から床面までの深さは20~30cmを測る。

遺物：遺物は、カマド右袖先端で土師器甕1点、カマド右袖右側で土師器甕2点、鉢1点、床面直上で土師器坏2点、台付甕1点、覆土から土師器小片若干を検出した。

時期：所属時期は、カマドならびに床面直上出土遺物の型式から7世紀後半代と判断される。

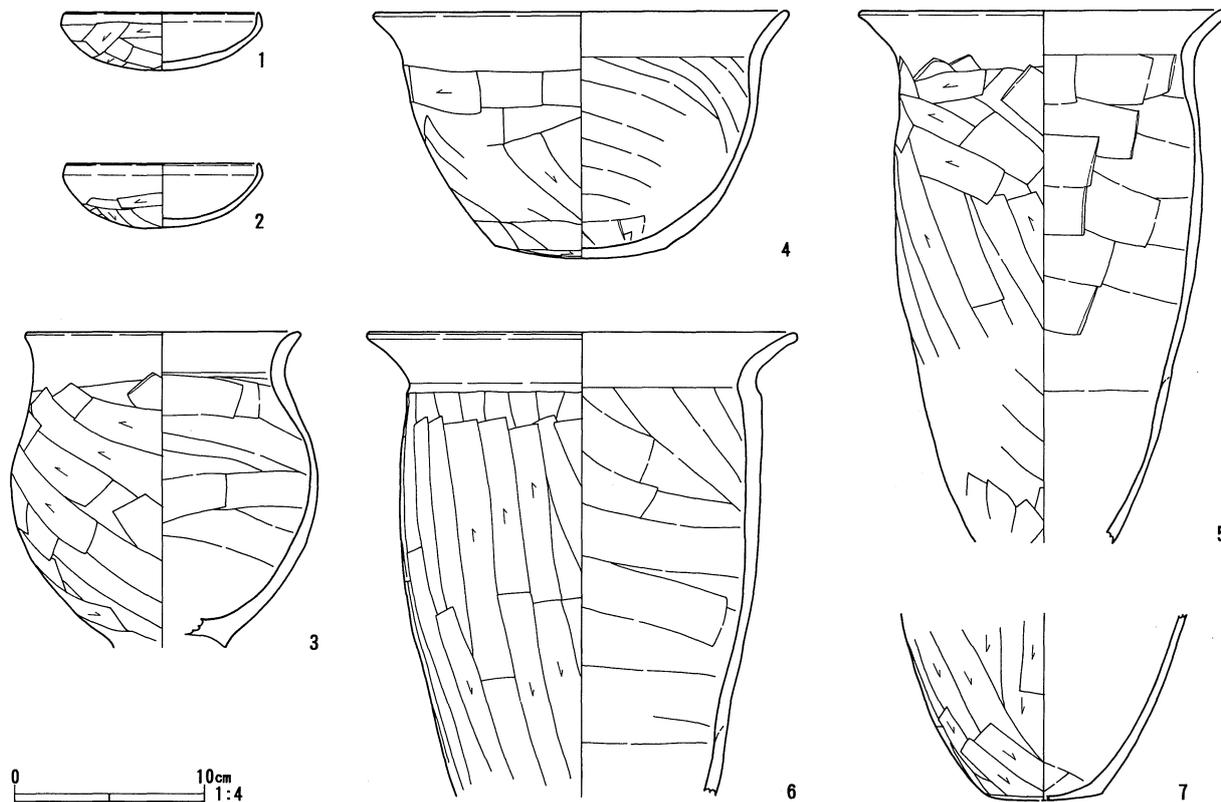


図383 SI-32 出土遺物

3	土師器 台付甕	口径 14.3 底径 — 器高 —	胴部は中位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外—にぶい赤褐色	底部欠損。
4	土師器 鉢	口径 (21.6) 底径 8.8 器高 13.1	胴部は僅かに膨らみをもち、口縁部は短く外反。底部は丸底気味。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外—橙〜にぶい橙色	1/3。
5	土師器 甕	口径 19.0 底径 — 器高 —	胴部中位に僅かな膨らみをもつ長胴で、口縁部は緩やかに外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙〜にぶい橙色	口縁部〜胴部下位 2/3。
6	土師器 甕	口径 22.4 底径 — 器高 —	膨らみのない胴部から、口縁部は直線的に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石・石英 内外—にぶい赤褐色	口縁部〜胴部下位残存。
7	土師器 甕	口径 — 底径 6.2 器高 —	胴部は僅かな膨らみをもち、底部はほぼ平底。	外面—胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部ヘラナデ。	白色粒・石英 内外—にぶい赤褐色	胴部下位〜底部残存。

SI-33 (図384)

位置：L-17・18、M-17・18グリッドに位置する。

形状：住居中央をSK-378により切られて、東隅がSI-33と重複している。プランは、4.3×3.4mの長方形を呈する。

構造：覆土は、ロームブロック、焼土ブロックを含む黒褐色土ないし黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面はおおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20～30cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器片若干が出土したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明である。

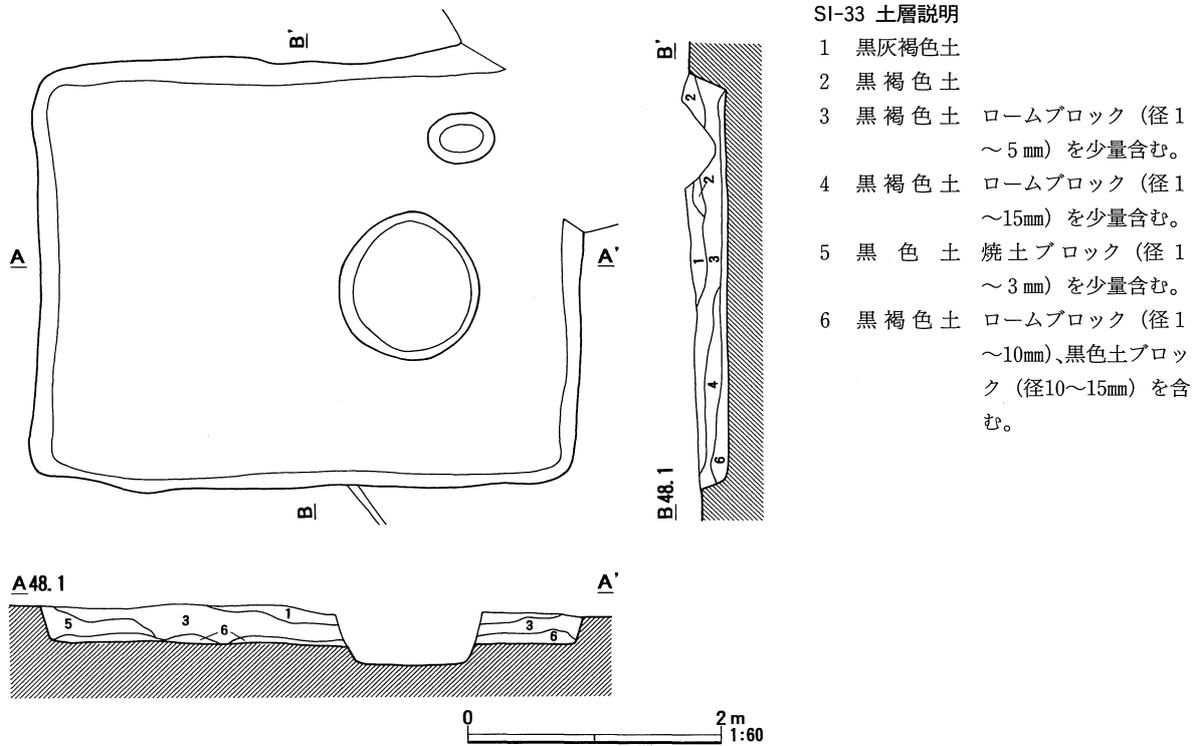


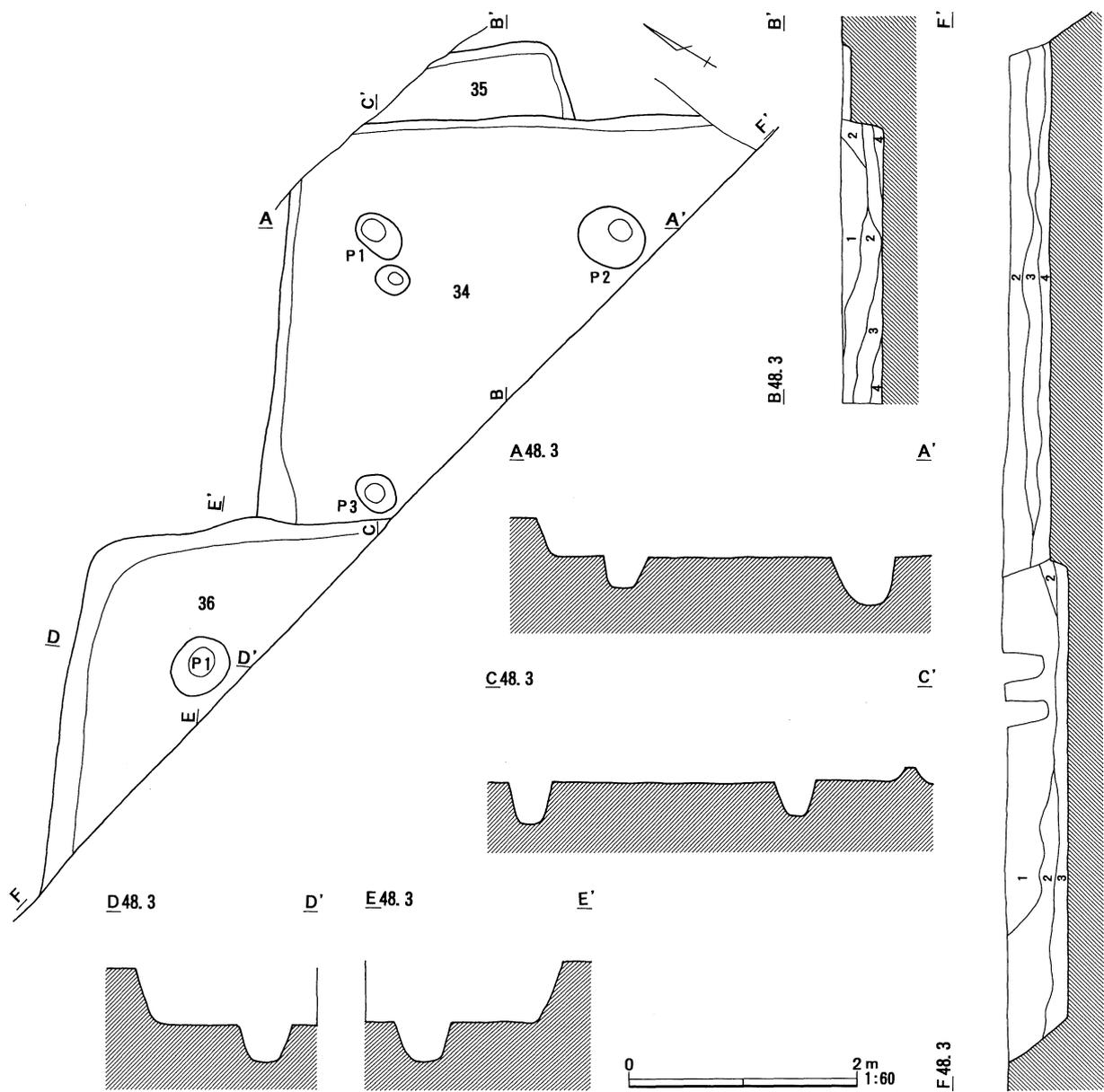
図384 SI-33

SI-34 (図385)

位置：K-18、L-18グリッドに位置する。

形状：南側1/3程度が調査区外にあり、北隅をSD-19により切られ、SI-34ならびにSI-36を切っている。プランは、一辺4.0～4.3m程度の方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、ロームブロック、白色パミス、礫を含む暗褐色土のほか、上層に単純な褐色土の堆積を認める。柱穴はP1～P3の3基を検出した。壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは35cm前後を測る。



SI-34 土層説明

- 1 褐色土
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm)、焼土ブロック (径1~5mm)、パミス (径1mm±) 少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~40mm) を多量に含む。

SI-35 土層説明 (単層)

暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。貼床層。

SI-36 土層説明

- 1 黄褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック (径1~50mm) を多量に含む。貼床層。

図385 SI-34・35・36

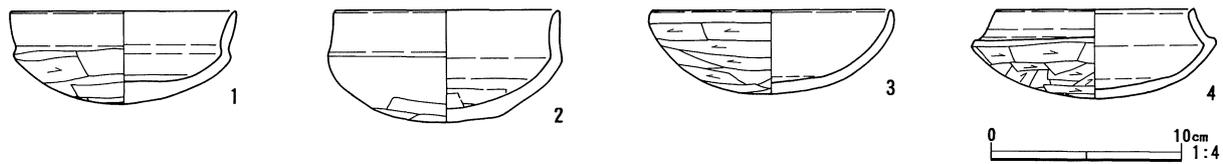


図386 SI-34 出土遺物

SI-34

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 11.8 底径 — 器高 4.9	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は外反気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・石英・雲母 内外一明褐色	ほぼ完形。
2	土師器 坏	口径 11.8 底径 — 器高 5.9	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は内傾気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・石英 内外一橙色	口縁部 1/8 欠損。
3	土師器 坏	口径 12.6 底径 — 器高 4.4	やや深い体部から、口縁部は内彎気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外一ぶい褐色	口縁部～体部 1/3 欠損。
4	土師器 坏	口径 10.4 底径 — 器高 4.7	体部と口縁部を画す稜線から、口縁部は直線的に内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	黒色粒・石英 内外一橙色	口縁部 1/4 欠損。

遺物：遺物は、床面から若干の間層を挟んで土師器坏4点を検出したほか、覆土から土師器小片若干を出土した。

時期：所属時期は、床面付近における遺物の型式から6世紀後半代と判断される。

SI-35 (図385)

位置：K-18グリッドに位置する。

形状：僅かに南東隅の掘り方の一部を確認したにとどまった。

構造：耕作による破壊が著しく、すでに覆土は存在せず、確認面から掘り方底面までの深さは7cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から土師器甕1点を検出した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から5世紀前半代と判断される。

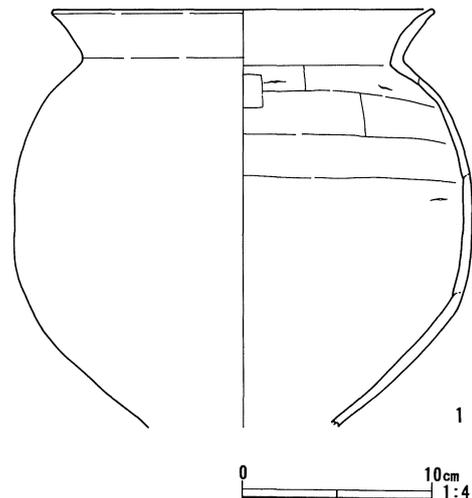


図387 SI-35 出土遺物

SI-36 (図385)

位置：L-18グリッドに位置する。

形状：南側4/5程度が調査区外にあり、東壁の立ち上がり

SI-35

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	胴部は膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部不明瞭。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・石英 内外一橙色	口縁部～胴部下位 2/3。

上層をSI-34により切られている。プランは、隅丸方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、下層にロームブロックと多量に含む暗褐色土、上層にロームブロック、白色パミスを含む黄褐色土の堆積を認める。柱穴はP 1 のみの1基を検出した。壁溝、炉ないしカマド、貯蔵穴の存在は確認できない。

床はロームブロックを多量に含む黄褐色土を充填し貼床を構築している。床面下の掘り方は緩やかに起伏しているが、明確な土壌等の遺構は認めない。

遺物：遺物は、覆土から、土師器片若干が出土したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明であるが、SI-34との切り合い関係から鬼高期以前に遡るものと推定される。

SI-37 (図388)

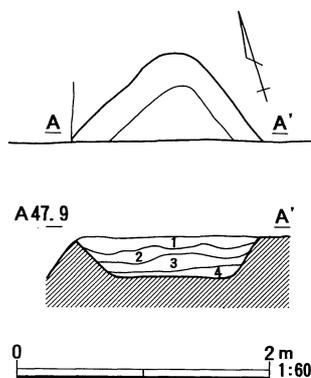
位置：L-18グリッドに位置する。

形状：大部分が調査区外にあり、北隅の一部を確認したにすぎない。

構造：覆土は、下層にロームブロックと多量に含む暗褐色土、上層にロームブロック、焼土ブロック、炭化物、白色パミスを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。確認面から床面までの深さは30cm前後を測る。

遺物：遺物は、皆無であった。

時期：所属時期は、不明である。



SI-37 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック(径1~5mm)、焼土ブロック(径1~5mm)、炭化物ブロック(径1~5mm)、白色パミス(径1mm±)を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径1~10mm)を多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック(径1~10mm)、焼土ブロック(径1~5mm)を多量に含む。
- 4 褐色土 ロームブロック(径1~5mm)を多量に含む。

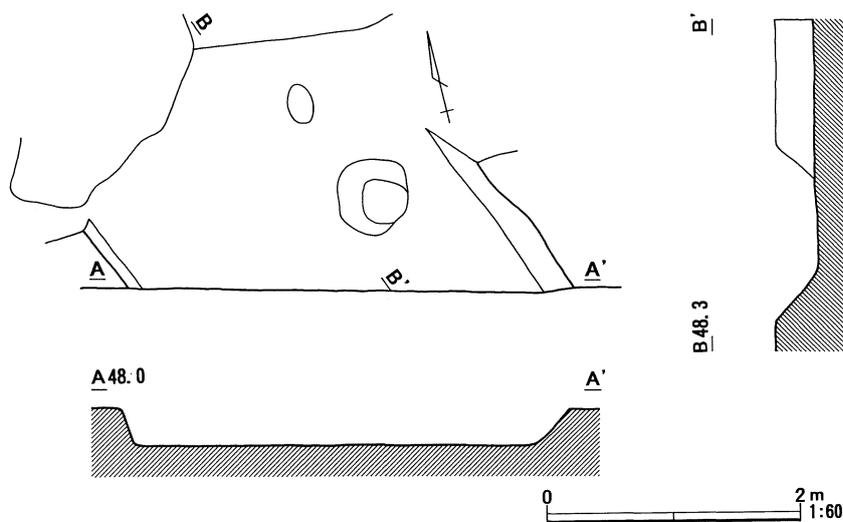
図388 SI-37

SI-38 (図389)

位置：M-18グリッドに位置する。

形状：プラン上、遺構の性格認定に問題を残すが、床面の状況、立ち上がりの形態、出土遺物の内容などから、住居として扱った。南側の相当部分が調査区外にあり、北辺をSD-17により切られている。幅2.8m前後を測る。

構造：覆土は、単層で、ロームブロック、白色粘質土ブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは30cm前後を測る。



SI-38 土層説明 (単層)

黒褐色土 白色粘焼土ブロック
(径1~10mm)、ロー
ムブロック (径1
~5mm)を少量含む。

図389 SI-38

遺物：遺物は、覆土から土師器坏1点、土師器、須恵器の小片若干が出土したが、床面直上における遺物は認められない。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から7世紀末葉から8世紀初頭と判断される。

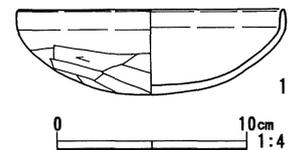


図390 SI-38 出土遺物

SI-38

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 13.9 底径 — 器高 4.5	やや深い体部から、口縁部は内彎気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	石英・角閃石 内外一橙色	3/5。

SI-39 (図391)

位置：M-17・18グリッドに位置する。

形状：東隅をSI-33、南西壁の一部を攪乱により切られ、西東隅周辺がSI-41を切っている。プランは、3.9×3.4mの隅丸長方形を呈する。

構造：覆土は、単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10~15cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から土師器甕1点、土師器小片多数を検出した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から6世紀中葉と判断される。

SI-39

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器甕	口径 18.0 底径 7.1 器高 28.4	長胴の中位に緩やかな膨らみをもち、口縁部は外彎気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙~褐灰色	胴部中位1/8欠損。

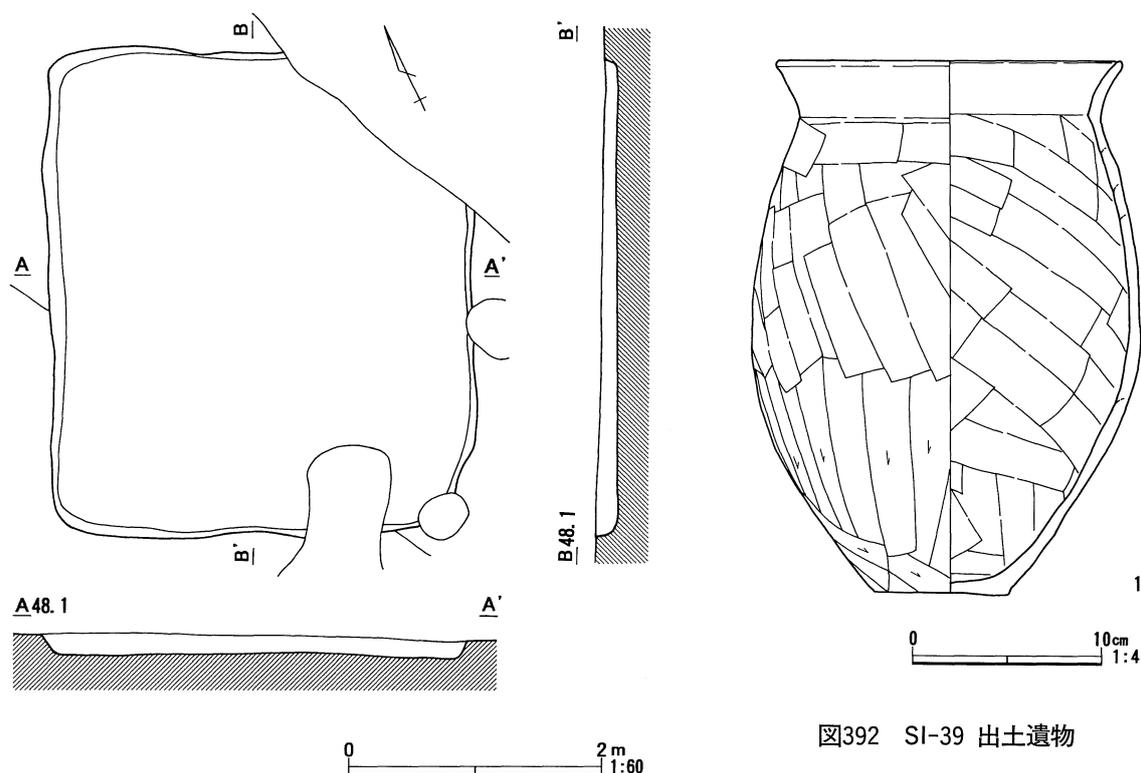


図392 SI-39 出土遺物

SI-39 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。

図391 SI-39

SI-40 (図393)

位置：M-18グリッドに位置する。

形状：北西壁の立ち上がり上位をSK-746により切られている。プランは、3.3×3.0mの方形を呈する。

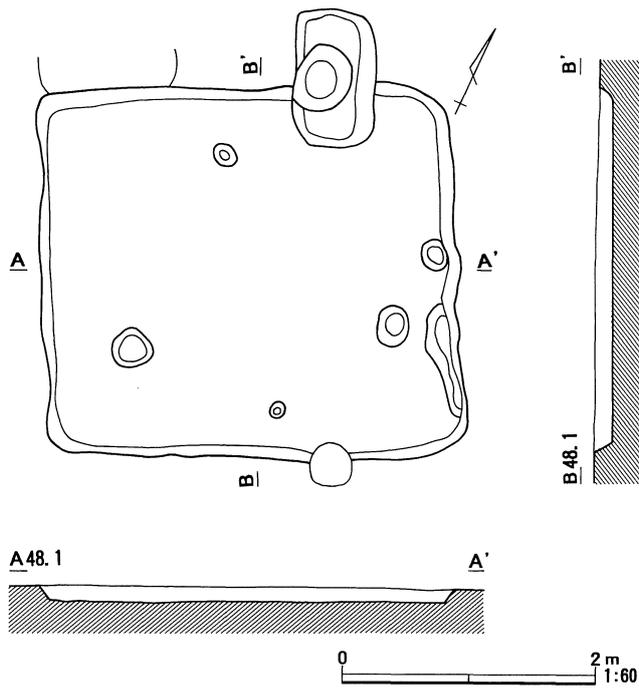
構造：覆土は、単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。北東壁の北隅寄りにカマドを付設する。壁掘込構造の燃焼部をもち、幅60cm、奥行き70cmを測る。左右燃焼部角に甕を各1点倒立状態で設置することにより袖部を構築している。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10~15cmを測る。

遺物：遺物はカマド左右袖部で土師器甕各1点、カマド焚口部で土師器甕片多数、床面から若干の間層を挟んで土師器坏3点、覆土から土師器小片若干を検出した。

時期：所属時期は、カマドならびに床面付近出土遺物の型式から9世紀末葉と判断される。

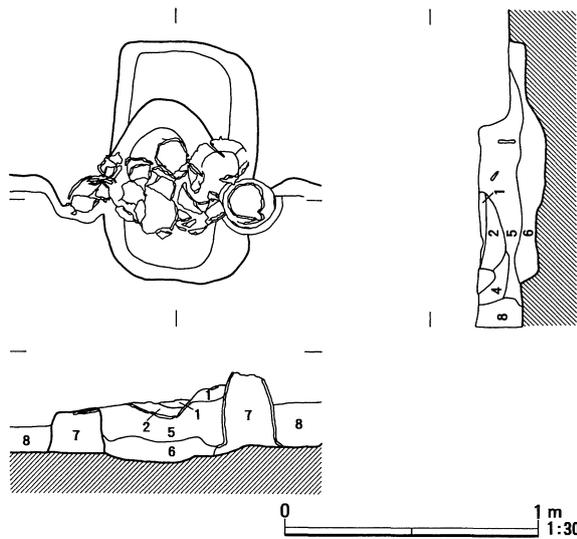
SI-40

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 16.4 底径 — 器高 3.8	浅い体部から、口縁部は直線的に外反。底部は平底気味。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい橙色	口縁部~体部 1/5欠損。
2	土師器坏	口径 17.0 底径 — 器高 3.7	浅い体部から、口縁部緩やかに外反。底部は平底気味。	外面—口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面—口縁部~底部ナデ。	黒色粒 内外—橙色	口縁部 1/5欠損。



SI-40 土層説明 (単層)

黒暗褐色土 ロームブロック (径1~50mm) を少量含む。



SI-40 カマド土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。
- 3 赤褐色土 焼土凝固層。
- 4 黒褐色土 焼土ブロック (径1~10mm) を少量含む。
- 5 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~10mm) を含む。
- 6 黒色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。
- 7 暗褐色土 白色粘質土ブロック (径1~15mm) を多量に含み、班状に堆積する。
- 8 黒暗褐色土 ロームブロック (径1~50mm) を少量含む。

図393 SI-40

3	土師器 坏	口径 13.8 底径 — 器高 4.3	やや深い体部から、口縁部は内彎気味に立ち上がる。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面—口縁部~底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—にぶい褐色	口縁部~体部 1/4 欠損。
4	土師器 甕	口径 22.6 底径 4.8 器高 35.1	胴部上位に僅かな膨らみをもつ長胴で、口縁部は直線的に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒・黒色粒・ 石英・片岩 内外—橙色	4/5。
5	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 — 器高 —	胴部上位に僅かな膨らみをもつ長胴で、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—にぶい褐色	口縁部~胴部下 位 4/5。

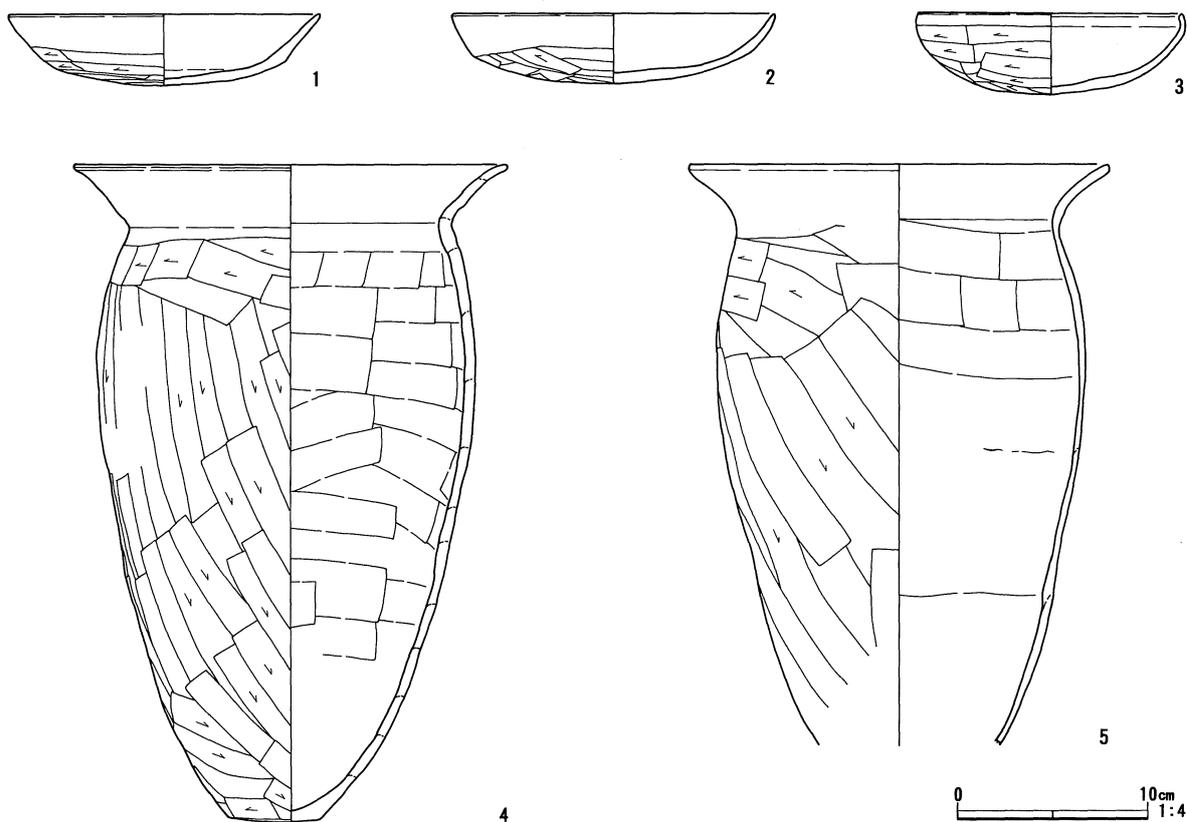


図394 SI-40 出土遺物

SI-41 (図395)

位置：M-17・18、N-18グリッドに位置する。

形状：南半から北東壁にかけてをSI-38・39、SD-17などにより切られているほか、北西周辺を攪乱により失っている。一辺7.5mを測る大型住居で、プランは正方形を呈するものと推測される。

構造：現地表から確認面までが浅く、覆土はすでに失われており、貼床部以下が遺存していた。柱穴はP 1～P 3の3基を検出した。壁溝、炉、貯蔵穴の存在は確認できない。床はロームブロックを含む暗褐色土を敷いて構築しており、硬化が著しい。掘り方は平坦で、床面下には土壌その他の遺構は認められない。

遺物：遺物は、皆無であった。

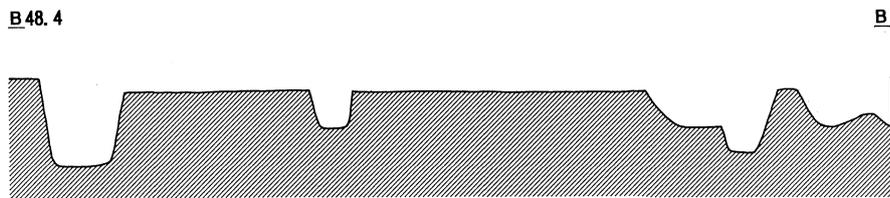
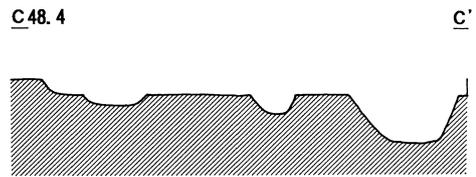
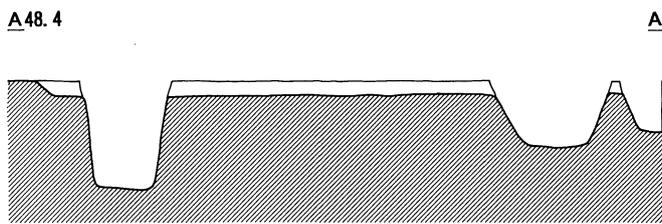
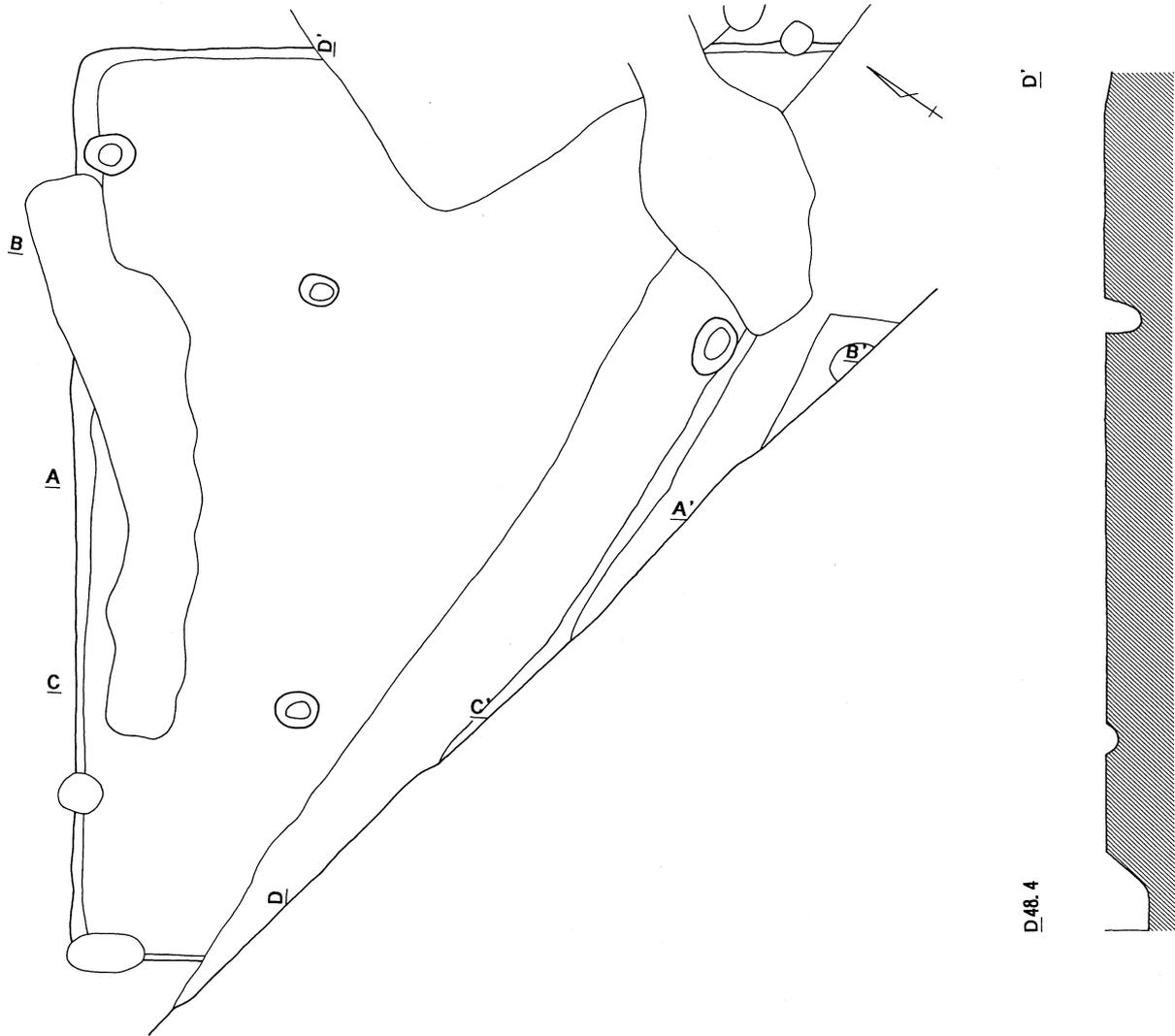
時期：所属時期は、不明である。

SI-42 (図396)

位置：M-12・13グリッドに位置する。

形状：北隅をSD-15に、南壁中央の立ち上がり上位をSD-15により切られている。プランは、6.0×4.5mの長方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロック、焼土ブロック、白色粘質土ブロック、炭化物を含む黒褐色土を、上層にロームブロックのみを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、貯蔵穴の存在は確認できない。壁溝は北西から南西壁にかけて存在するが、全周しない、北東壁の中央南西隅寄りにカマドを付設する。カマドは造付構造の燃焼部をもち、幅65cm、奥行き80cmを測る。袖部は、ロームブロック、灰白色粘質土ブロックを多量に含む



SI-41 土層説明 (単層)

暗褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。

図395 SI-41

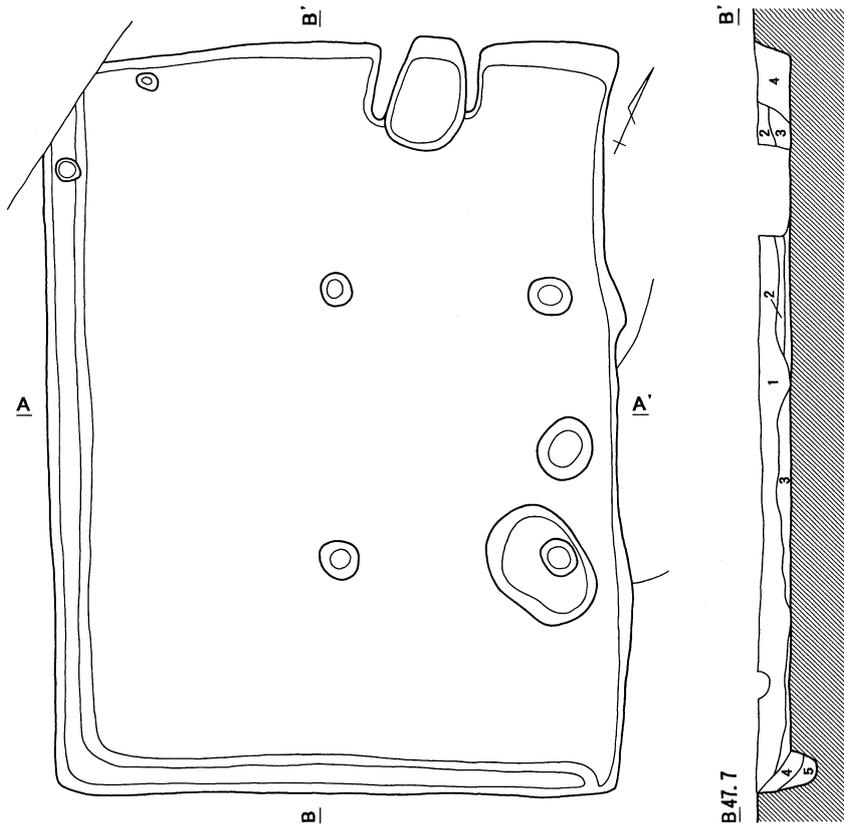
黒褐色土により構築している。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20～30cmを測る。

遺物：遺物は、カマド前面の床面直上で土師器坏3点、盤、台付甕各1点、須恵器坏1点を、カマドの左右を中心に覆土から多量の土師器甕片を検出した。とくに、覆土中の甕片は、細かく破碎されており、本住居跡は本来の機能を停止した後、土器捨て場として使用されていたものと判断される。

時期：所属時期は、床面直上出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

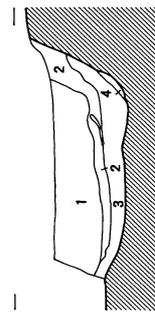
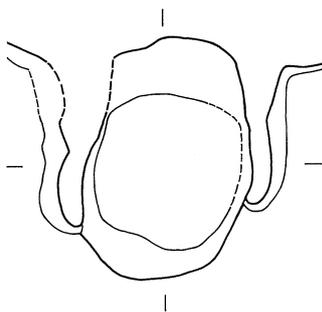
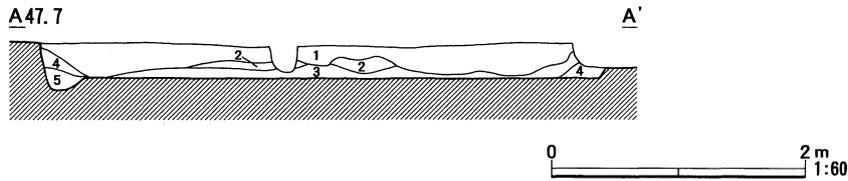
SI-42

No	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 12.6 底径 7.0 器高 4.2	僅かな膨らみをもつ体部下位。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一赤褐～暗青灰色	口縁部一部欠損。
2	土師器坏	口径 12.8 底径 7.0 器高 4.3	僅かな膨らみをもつ体部下位。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・雲母 内外一明赤褐色	口縁部一部欠損。
3	土師器坏	口径 12.4 底径 7.2 器高 3.7	体部は内彎気味に立ち上がる。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・雲母 内外一橙～にぶい橙色	口縁部一部欠損。
4	須恵器坏	口径 12.4 底径 5.8 器高 3.8	体部下位に僅かな膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒 内外一灰色	3/5。
5	土師器盤	口径 13.4 底径 8.0 器高 2.0	浅い体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は上げ底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・雲母 内外一橙色	口縁部一部欠損。
6	土師器台付甕	口径 — 底径 11.0 器高 —	「ハ」の字状に開いた台部。	外面一台部ヨコナデ。内面一台部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外一橙色	台部残存。
7	土師器甕	口径 20.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上半部が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石・石英 内外一明赤褐～灰褐色	口縁部～胴部下位4/5。
8	土師器甕	口径 19.4 底径 4.2 器高 26.6	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 内外一橙～にぶい橙色	5/6。
9	土師器甕	口径 19.0 底径 4.7 器高 29.2	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明赤褐～明黄褐色	2/5。
10	土師器甕	口径 20.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一にぶい黄褐色	口縁部～胴部下位2/3。
11	土師器甕	口径 19.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一橙色	口縁部～胴部中位残存。
12	土師器甕	口径 19.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一赤褐色	口縁部～胴部中位1/5。



SI-42 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- 2 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を少量含む。
- 4 暗黄褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む。
- 5 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。



SI-42 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック (径1~2mm) を少量含み、炭化物ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 4 黒色土 炭化物ブロック (径1~2mm) を多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色粘質土ブロック (径1~15mm) を少量含む。

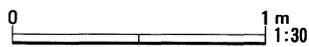
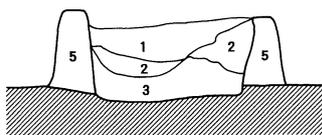


図396 SI-42

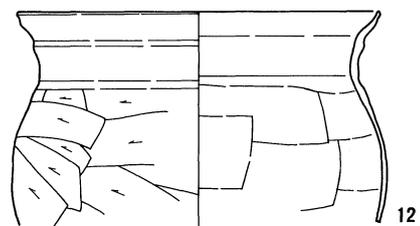
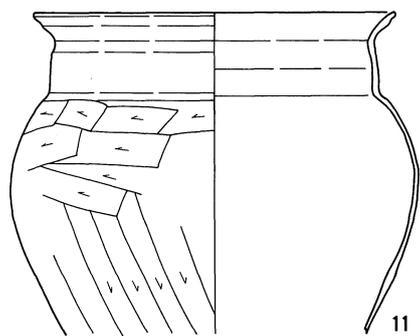
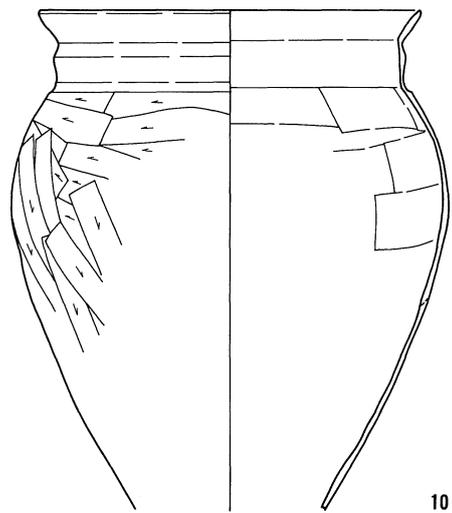
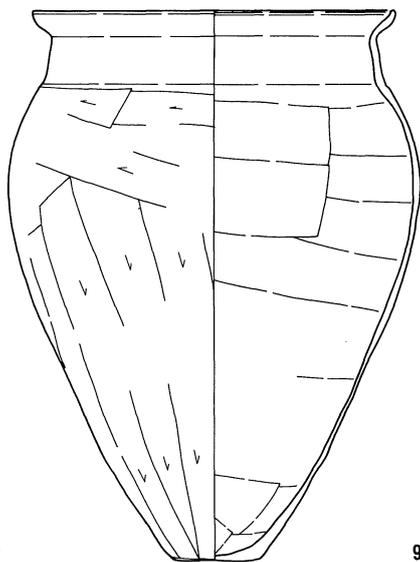
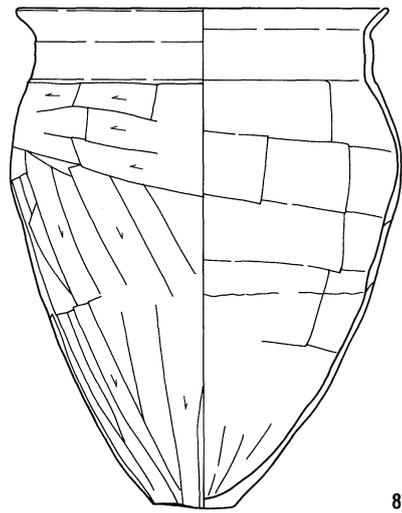
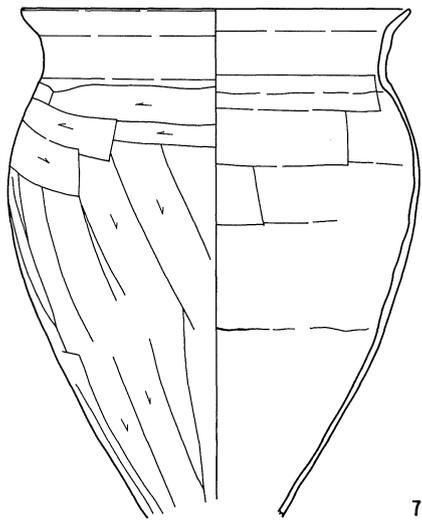
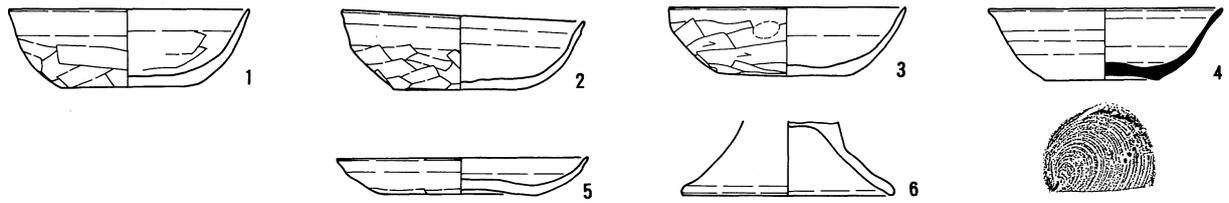


图397 SI-42 出土遺物 (1)

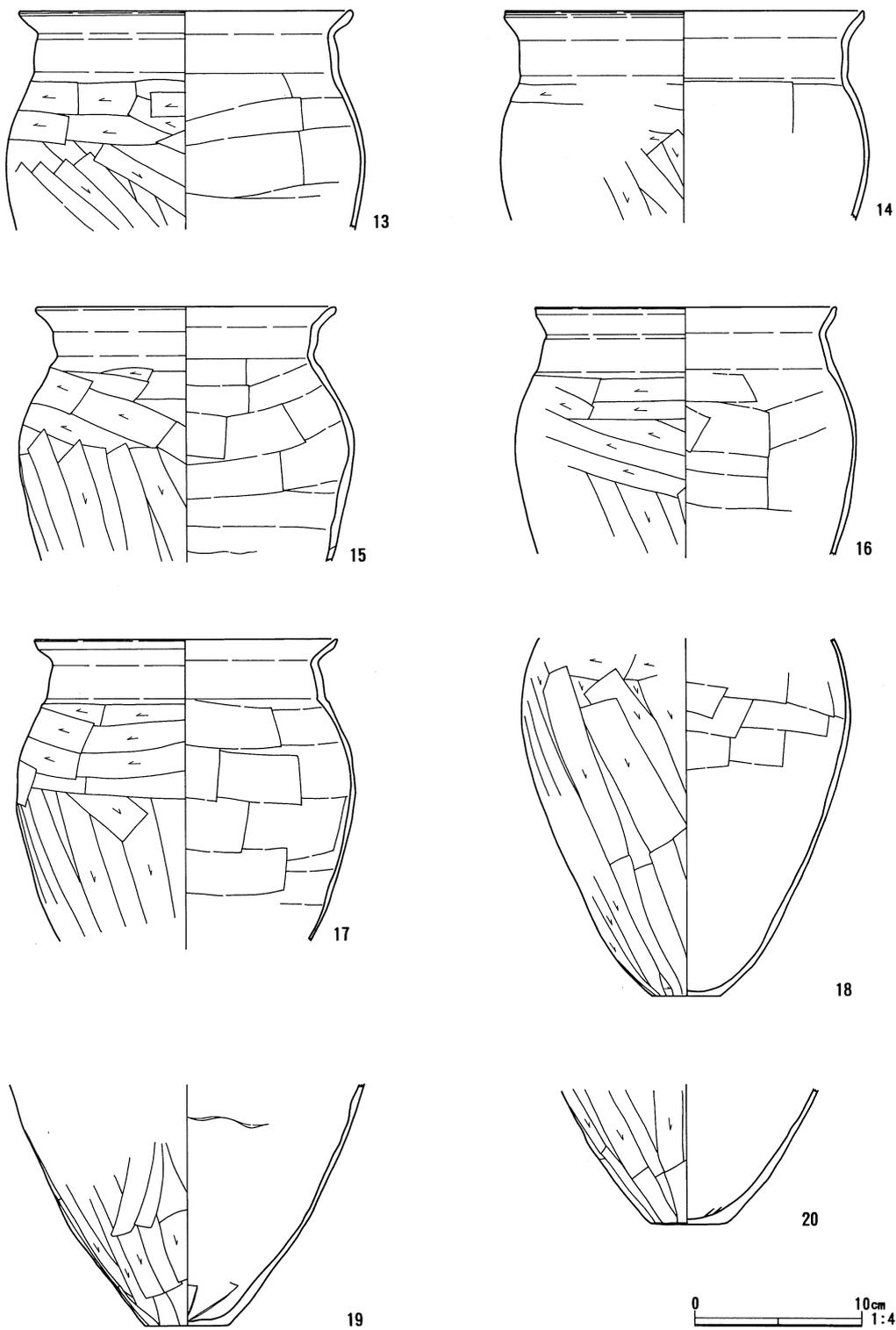


図398 SI-42 出土遺物 (2)

13	土師器	口径 20.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—橙色	口縁部～胴部中位 1/3。
----	-----	-------------------------	-------------------------------------	--	------------------	---------------

14	土師器 甕	口径 (21.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上半部が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	口縁部～胴部中位 1/3。
15	土師器 甕	口径 (18.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上半部が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外一橙色	口縁部～胴部中位 1/2。
16	土師器 甕	口径 18.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・礫 内外一橙色	口縁部～胴部中位 1/2。
17	土師器 甕	口径 18.3 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	口縁部～胴部中位 1/4。
18	土師器 甕	口径 — 底径 4.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、底部は小さい。	外面一胴部斜縦位ヘラケズリ。内面一胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一黄橙色	胴部上位～底部 残存。
19	土師器 甕	口径 — 底径 5.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面一胴部下位斜縦位ヘラケズリ。内面一胴部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外一橙～にぶい橙色	胴部中位～底部 残存。
20	土師器 甕	口径 — 底径 4.5 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面一胴部下位斜縦位ヘラケズリ。内面一胴部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	胴部中位～底部 残存。

SI-43 (図399)

位置：L-13・14、M-14グリッドに位置する。

形状：南西壁中央をSK-729に、北西壁中央をSK-742に、東隅を攪乱により切られている。プランは、4.8×3.0mの長方形を呈する。北東壁は、カマドを境界に、立ち上がりの位置を変えている。

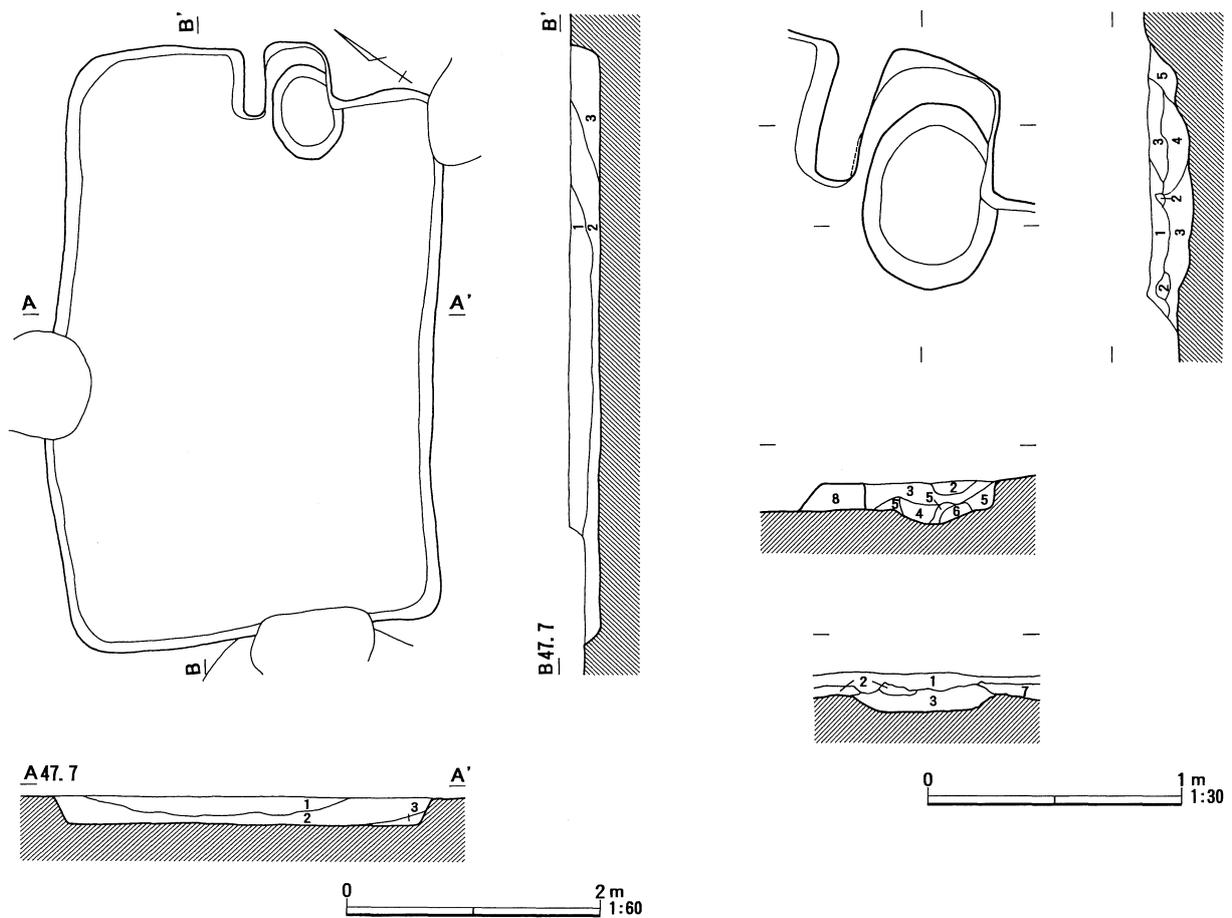
構造：覆土は、壁際に褐色土の堆積を認めるほか、下層からロームブロック、焼土ブロック、白色パミスを含む暗褐色土、ロームブロック、白色パミスを含む黒褐色土の順で弧状に堆積する。柱穴、壁溝、貯蔵穴は存在を確認できない。北東壁の中央南よりにカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、幅55cm、奥行き50cmを測る。袖部は焼土ブロック、灰白色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色土で構築している。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは32～37cmを測る。

遺物：遺物は、カマド前面の床面直上で土師器甕片を検出したほか、主に北東半の覆土から土師器坏1点、土錘1点、土師器甕片多数が出土した。覆土中の甕片の出土状態から、本住居跡は本来の機能を停止した後、土器捨て場として使用されていたものと判断される。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と推定される。

SI-43

No	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.0 底径 8.2 器高 3.6	緩やかに外反する体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一にぶい橙色	完形。



SI-43 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- 3 褐色土

SI-43 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- 2 灰黄色土
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~10mm) を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、焼土ブロック (径1~10mm)、炭化物ブロック (径1~2mm) を多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 6 暗灰褐色土 焼土ブロック (径1~5mm)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む、木灰を多量に含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- 8 黒褐色土 焼土ブロック (径1~5mm)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。

図399 SI-43

2	土師器 甕	口径 20.6 底径 3.4 器高 26.6	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一にぶい 橙色	4/5。
---	----------	------------------------------	-------------------------------------	--	-------------------------	------

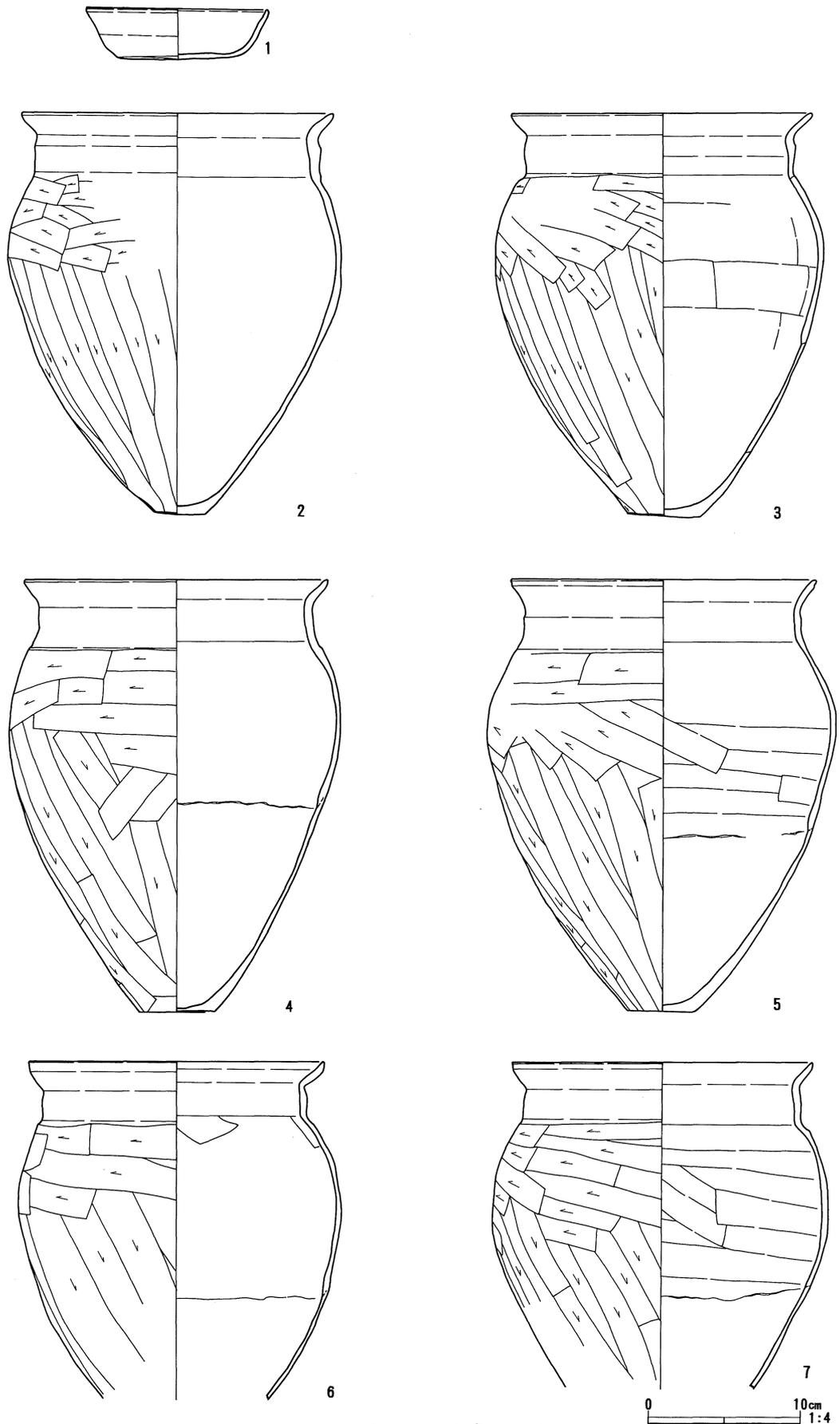


图400 SI-43 出土遺物 (1)

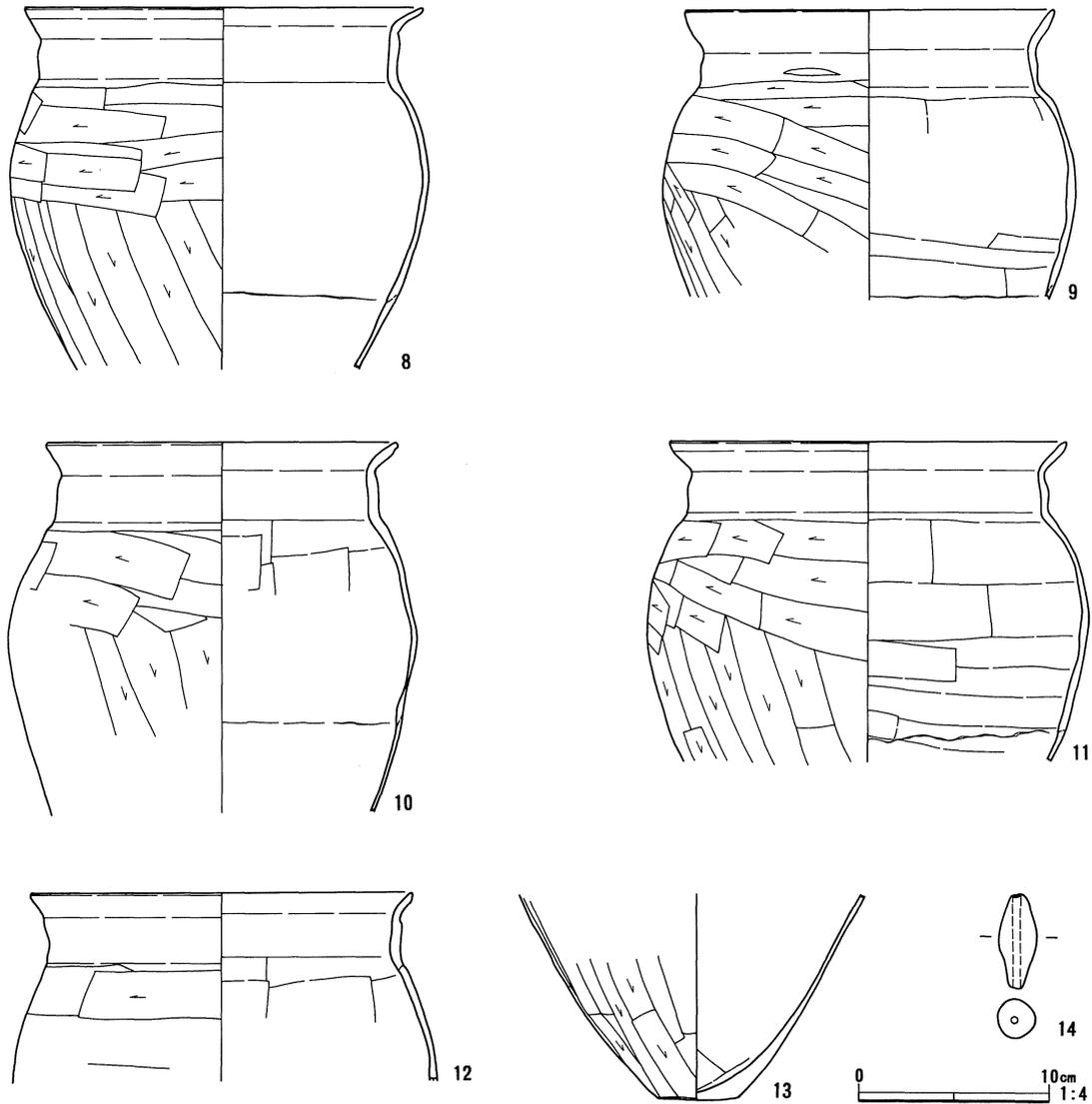


図401 SI-43 出土遺物 (2)

3	土師器 甕	口径 19.6 底径 4.7 器高 26.8	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一にぶい橙色	3/5。
4	土師器 甕	口径 20.0 底径 5.0 器高 28.7	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一赤褐色	3/4。
5	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 4.5 器高 28.8	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一赤褐色	2/3。
6	土師器 甕	口径 19.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 角閃石・石英 内外一橙～灰黄色	口縁部～胴部下 位 3/4。

7	土師器 甕	口径 19.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・礫・石英 内外一明赤褐色	口縁部～胴部下位 2/3。
8	土師器 甕	口径 21.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	褐色粒 内外一にぶい赤褐色	口縁部～胴部中位 3/4。
9	土師器 甕	口径 19.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上半部が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	口縁部～胴部中位 1/3。
10	土師器 甕	口径 18.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外一橙～にぶい赤褐色	口縁部～胴部中位 1/2。
11	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	口縁部～胴部中位 1/3。
12	土師器 甕	口径 20.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石・石英 内外一橙色	口縁部～胴部上位残存。
13	土師器 甕	口径 — 底径 4.2 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面一胴部下位斜縦位ヘラケズリ。内面一胴部ヘラナデ。	褐色粒 内外一にぶい黄褐色	胴部下位～底部残存。
14	土 錘	長さ：5.0 幅：2.0 孔径：0.4	黒色粒 にぶい黄褐色			完形。

SI-44 (図402)

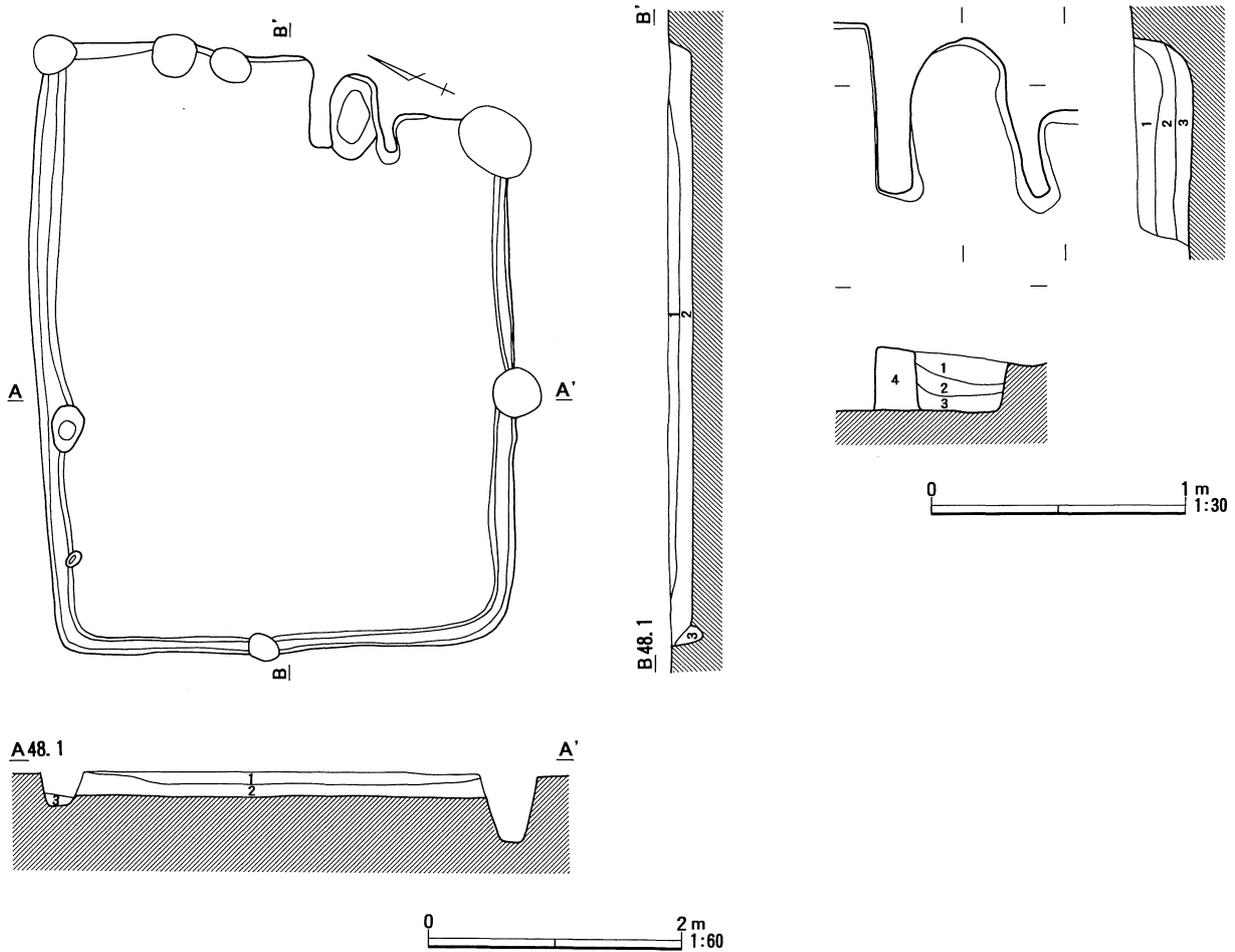
位置：L-11・12、M-11・12グリッドに位置する。

形状：プランは、3.7×4.9mの長方形を呈する。北東壁は、カマドを境界に、立ち上がりの位置を変えている。

構造：覆土は、下層にロームブロック、炭化物、白色パミスを含む暗褐色土、上層にロームブロック、白色パミスを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、貯蔵穴は存在を確認できない。壁溝は北東壁以外の各壁下に巡っている。北東壁の中央南よりにカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、幅45cm、奥行き65cmを測る。袖部は焼土ブロック、灰白色粘質土ブロックを多量に含む暗褐色土で構築している。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cmを測る。

遺物：遺物は、確認面上層および覆土から多量の土師器、須恵器が出土したが、床面直上における遺物は土師器の小片若干のみである。覆土出土遺物の中に多量の暗文環が含まれる。確認面上層および覆土から出土した遺物は細片が多く、とくに甕は細かく破碎された状態であった。住居本来の機能を停止した後、土器捨て場として使用された可能性が考えられる。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。



SI-44 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～2mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、炭化物ブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。
- 3 黒褐色土

SI-44 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、焼土ブロック（径1～10mm）を少量含む。
- 3 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、焼土ブロック（径1～5mm）、白色粘質土ブロック（径1～5mm）を少量含む。

図402 SI-44

SI-44

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.8 底径 — 器高 3.3	膨らみのない体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	3/4。
2	土師器 坏	口径 12.4 底径 8.6 器高 3.2	膨らみのない体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下半斜縦位ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	2/3。

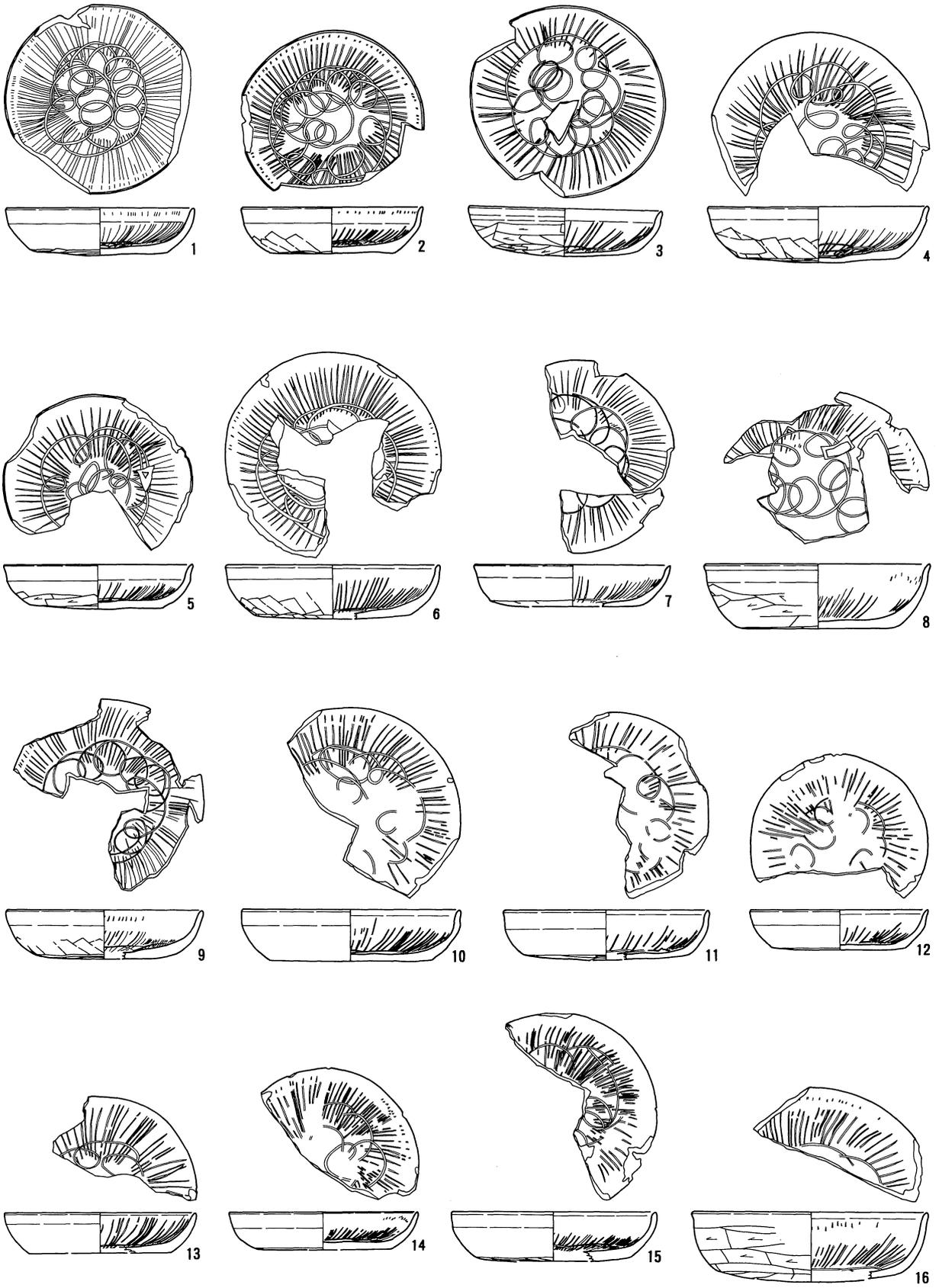


图403 SI-44 出土遺物 (1)

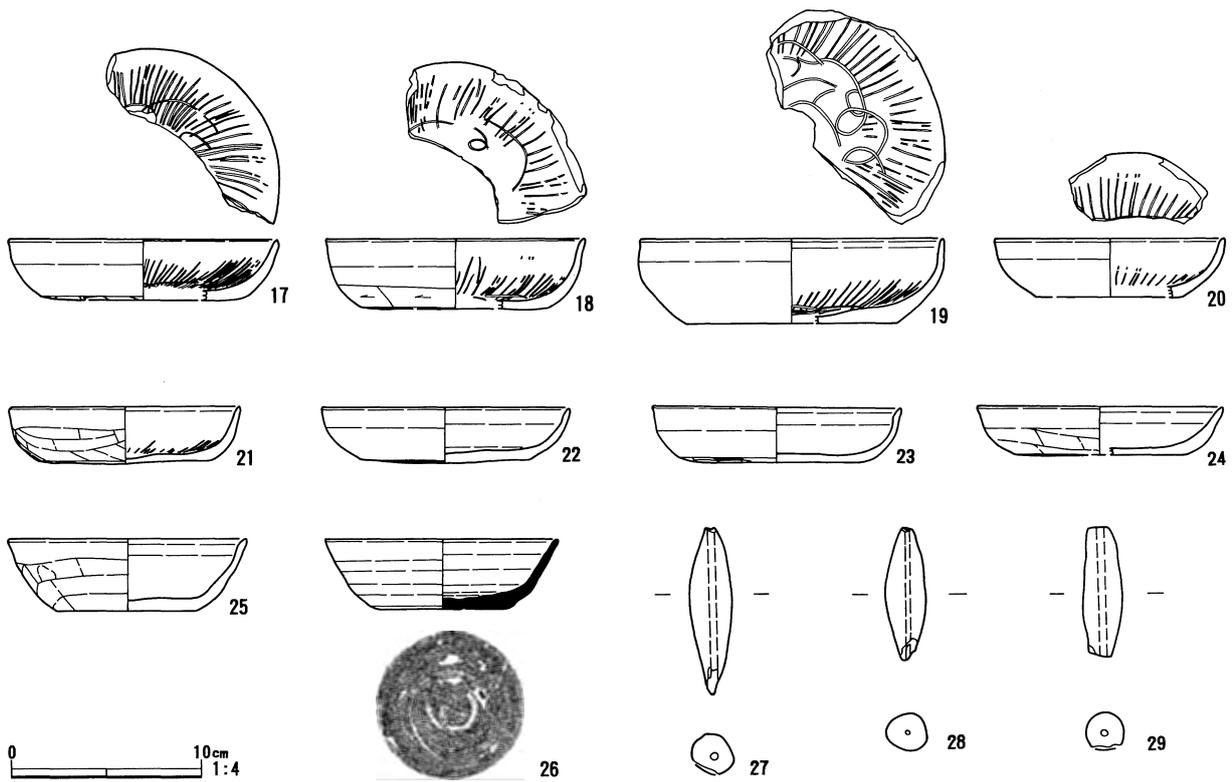


図404 SI-44 出土遺物(2)

3	土師器 坏	口径 13.2 底径 10.0 器高 3.3	膨らみの少ない体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・雲母 内外一明赤褐色	4/5。
4	土師器 坏	口径 (15.0) 底径 11.0 器高 3.9	膨らみのない浅い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下半斜縦位ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒 内外一にぶい赤褐色	1/2。
5	土師器 坏	口径 12.8 底径 9.1 器高 3.1	膨らみの少ない浅い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下半～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・黒色粒 内外一明赤褐色	3/5。
6	土師器 坏	口径 14.6 底径 11.0 器高 3.8	膨らみの少ない体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下半斜縦位ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒・雲母 内外一にぶい赤褐色	3/5。
7	土師器 坏	口径 13.4 底径 7.0 器高 3.0	膨らみの少ない浅い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一橙色	2/5。
8	土師器 坏	口径 15.4 底径 9.8 器高 4.5	膨らみのない深い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一橙色	1/3。

9	土師器 坏	口径 13.4 底径 9.6 器高 3.4	膨らみの少ない体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下半斜縦位ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・黒色粒・褐色粒 内外一橙色	1/2。
10	土師器 坏	口径 (15.0) 底径 (11.1) 器高 3.6	僅かな膨らみをもつ体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外一にぶい橙～にぶい黄橙色	1/2。
11	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 (11.4) 器高 3.5	膨らみの少ない体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外一橙色	1/2。
12	土師器 坏	口径 12.2 底径 9.2 器高 2.8	膨らみの少ない浅い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石・雲母 内外一橙～にぶい赤褐色	3/4。
13	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (9.8) 器高 2.8	彎曲する体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	褐色粒・角閃石・石英 内外一にぶい赤褐～にぶい黄橙色	1/3。
14	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (9.7) 器高 2.6	膨らみの少ない浅い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒 内外一にぶい赤褐～黒色	1/2。
15	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 (10.6) 器高 3.4	膨らみの少ない体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外一明赤褐色	2/5。
16	土師器 坏	口径 (16.0) 底径 (12.4) 器高 4.6	膨らみの少ない体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石・雲母 内外一明赤褐～橙色	1/4。
17	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 (10.7) 器高 3.2	膨らみの少ない体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外一明赤褐～橙色	1/3。
18	土師器 坏	口径 (13.5) 底径 (9.8) 器高 3.7	膨らみの少ない深い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下半～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫 内外一にぶい赤褐色	1/4。
19	土師器 坏	口径 (13.8) 底径 (11.0) 器高 4.5	上位に膨らみをもつ深い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外一明赤褐色	2/5。
20	土師器 坏	口径 (12.0) 底径 (7.5) 器高 3.1	彎曲する体部から口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文。	白色粒・角閃石 内外一にぶい赤褐～灰褐色	1/6。
21	土師器 坏	口径 (12.0) 底径 (9.0) 器高 3.0	膨らみの少ない浅い体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部放射状暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外一にぶい橙～にぶい赤褐色	2/5。

22	土師器 坏	口径 (12.8) 底径 (8.9) 器高 2.9	僅かな膨らみをもつ浅い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	石英・角閃石 内外一にぶい黄 橙色	1/2。
23	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (10.3) 器高 2.9	膨らみの少ない浅い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一明赤褐～ にぶい褐色	1/3。
24	土師器 坏	口径 (12.8) 底径 (9.0) 器高 2.6	膨らみの少ない浅い体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・ 角閃石・雲母 内外一橙色	1/4。
25	土師器 坏	口径 12.4 底径 7.2 器高 3.8	直線的な深い体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	石英・角閃石・雲 母 内外一橙～ にぶい黄橙色	2/3。
26	須恵器 坏	口径 12.0 底径 6.6 器高 3.7	直線的に立ち上がる体部～口縁部、やや括れた立上り部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転ヘラ切り。	白色粒・礫 内外一灰色	2/3。
27	土 錘	長さ：8.8 幅：2.3 孔径：0.4	白色粒・角閃石 にぶい橙色			一部欠損。
28	土 錘	長さ：7.0 幅：2.1 孔径：0.2	白色粒・角閃石 黒褐色			一部欠損。
29	土 錘	長さ：6.9 幅：2.0 孔径：0.4	白色粒・角閃石 にぶい橙色			一部欠損。

SI-45 (図405)

位置：M-14グリッドに位置する。

形状：北東隅をSK-729に、北壁中央をSK-743に、南壁の一部をSF-44により切られている。プランは、4.5×3.2mの長方形を呈する。

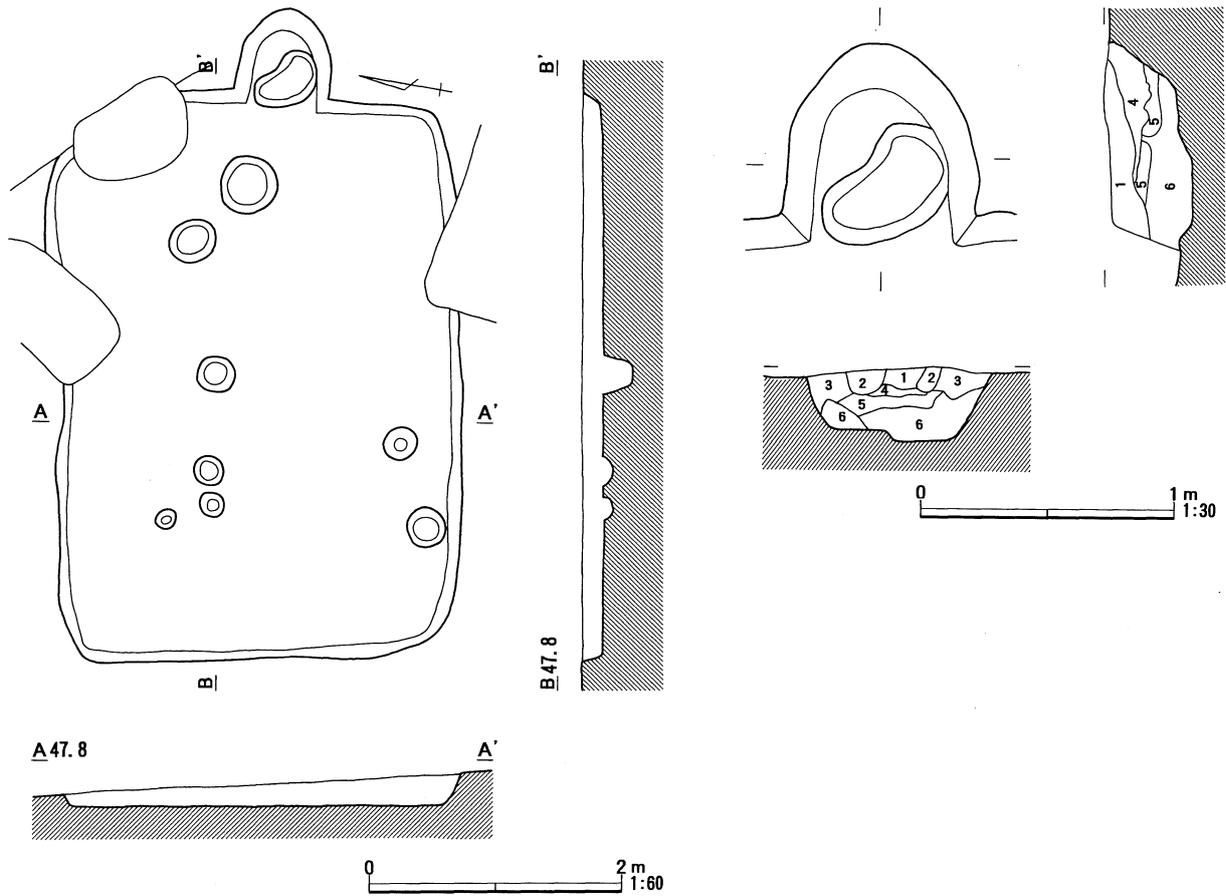
構造：覆土は、単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴は存在を確認できない。東壁の中央南よりにカマドを付設する。壁掘込構造の燃焼部をもち、幅75cm、奥行き80cmを測る。袖部、煙道部は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10～24cmを測る。

遺物：遺物は、主にカマド周辺の床面直上で土師器坏2点、台付甕片1点、甕片多数を検出したほか、覆土からも多量の土師器片を出土した。

時期：所属時期は、床面直上出土遺物の型式から9世紀中葉と推定される。

SI-45

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 13.0 底径 6.6 器高 5.6	内彎気味の体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	口縁部一部欠損。
2	土師器 坏	口径 12.4 底径 7.4 器高 4.0	内彎気味の体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・石英・雲 母 内外一橙色	1/2。
3	土師器 台付甕	口径 — 底径 8.8 器高 —	彎曲する台部。	外面一胴部斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面一胴部ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・雲母 内外一橙色	胴部下位～台部。



SI-45 土層説明 (単層)

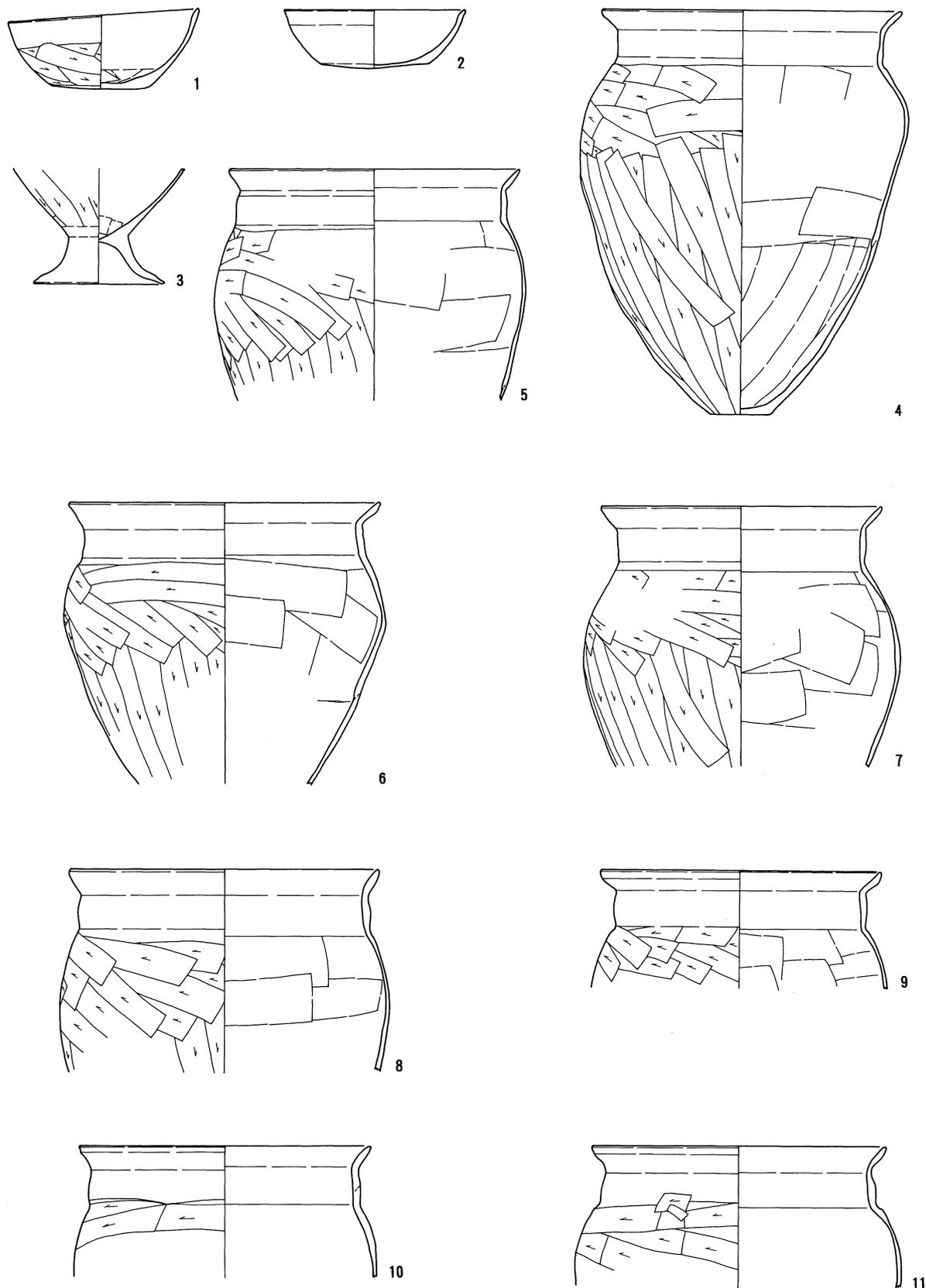
黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。

SI-45 カマド土層説明

- 1 暗褐色土
- 2 灰黄色土
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 4 赤褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~20mm) を多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 6 黒灰褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。

図405 SI-45

4	土師器 甕	口径 20.0 底径 4.0 器高 27.8	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラナデ、下半斜縦位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一橙色	3/4。
5	土師器 甕	口径 19.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・石英・角閃石 内外一黄橙色	口縁部~胴部中位 3/4。



0 10cm 1:4

图406 SI-45 出土遺物 (1)

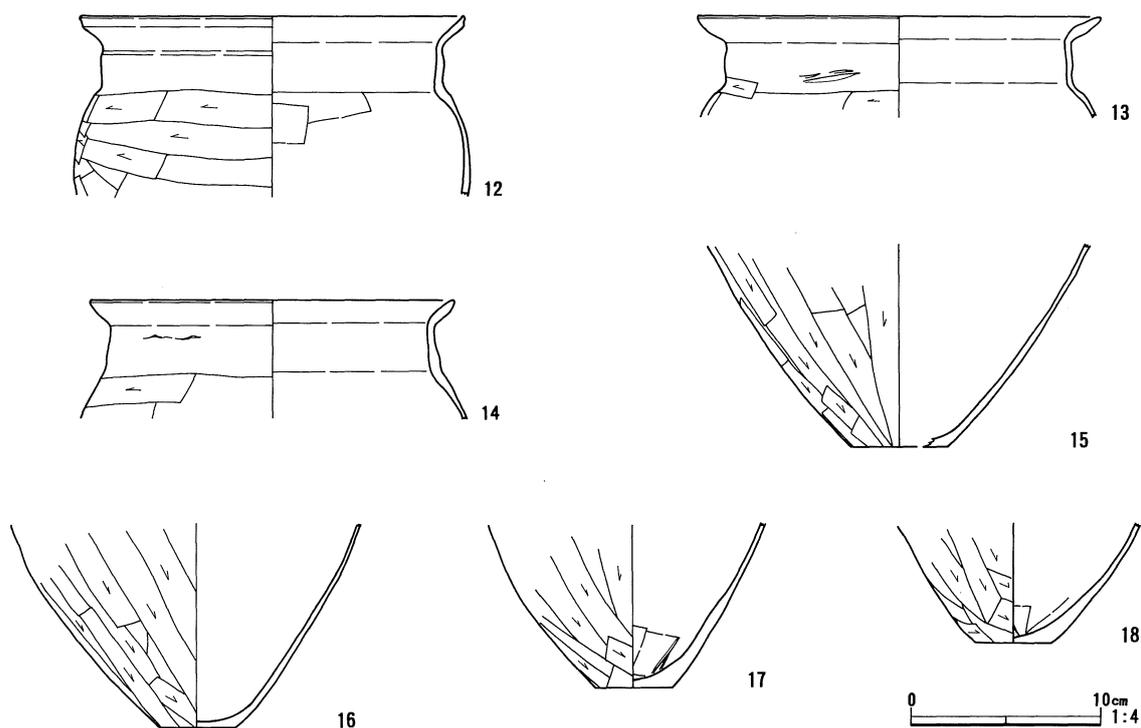


図407 SI-45 出土遺物 (2)

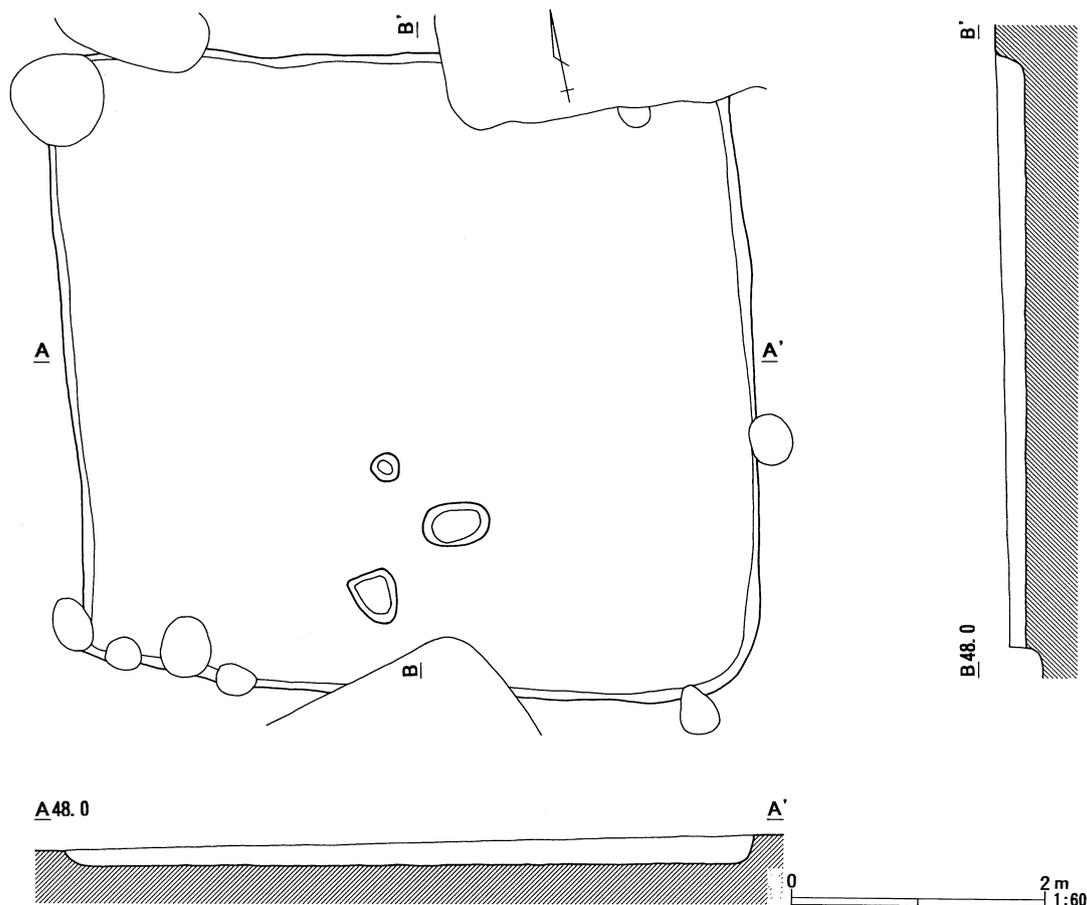
6	土師器 甕	口径 21.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—橙色	口縁部～胴部中位 2 / 3。
7	土師器 甕	口径 19.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部中位 1 / 3。
8	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部中位 1 / 3。
9	土師器 甕	口径 19.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	口縁部～胴部上位 1 / 2。
10	土師器 甕	口径 19.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	黒色粒・石英 内外—明赤褐色	口縁部～胴部上位残存。
11	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	褐色粒・雲母 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部上位 1 / 3。
12	土師器 甕	口径 (20.3) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒・雲母 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部上位 2 / 3。
13	土師器 甕	口径 (21.2) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。	褐色粒・雲母 内外—明褐色	口縁部～胴部上位 1 / 3。

14	土師器	口径 (19.2) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ。	白色粒・雲母 内外—にぶい赤褐色	口縁部～胴部上位 1/4。
15	土師器	口径 — 底径 (5.0) 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面—胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部ナデ。	白色粒・褐色粒 内外—褐色	胴部下位～底部 3/4。
16	土師器	口径 — 底径 4.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面—胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部ナデ。	白色粒・褐色粒 内外—褐色	胴部下位～底部 残存。
17	土師器	口径 — 底径 4.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面—胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部ヘラナデ。	褐色粒・石英 内外—にぶい赤褐色	胴部下位～底部 3/4。
18	土師器	口径 — 底径 4.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面—胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—にぶい橙色	胴部下位～底部 3/4。

SI-46 (図408)

位置：L-15グリッドに位置する。

形状：北東隅をSK-720に、北西隅をSK-730、731により切られている。プランは、5.1×5.4mの不整形方を呈する。



SI-46 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1～5mm)、焼土ブロック (径1～5mm) を少量含む。

図408 SI-46

構造：覆土は、単層で、ロームブロック、焼土ブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は存在を確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは15~25cmを測る。

遺物：遺物は、確認面上層および覆土から、土師器坏8点、小型甕1点、甕1点のほか土師器小片多数を検出したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期は、覆土直上出土遺物の型式から9世紀前葉と判断される。

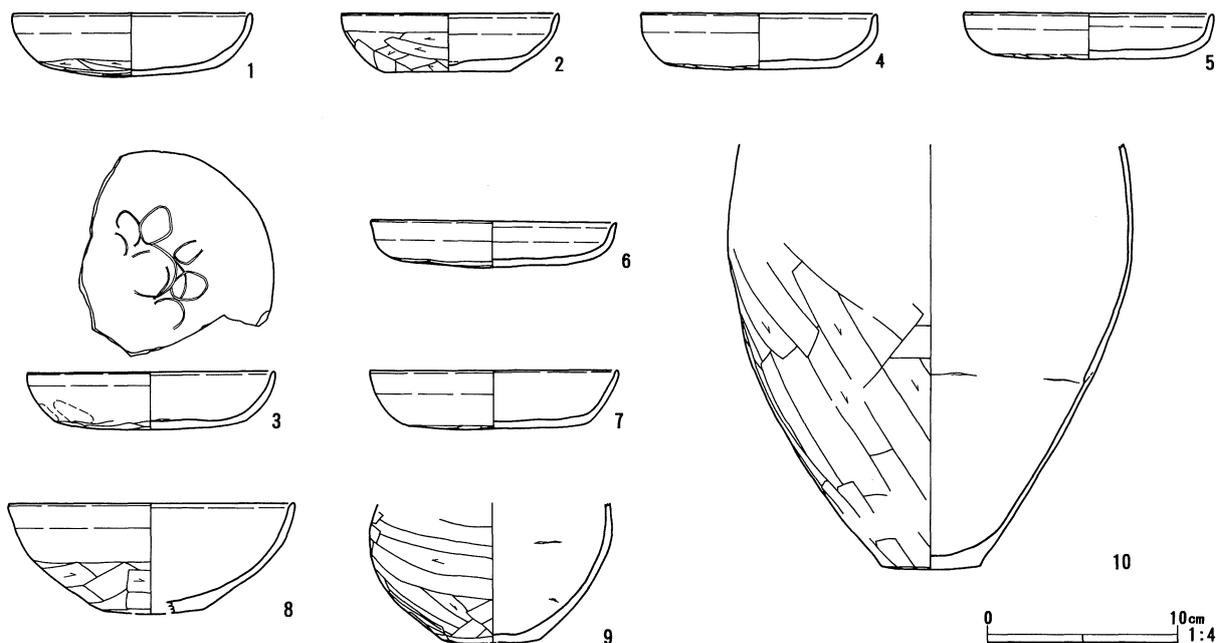


図409 SI-46 出土遺物

SI-46

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 12.5 底径 — 器高 3.3	内彎気味の体部。底部は緩やかな丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・石英 内外—黄橙色	口縁部一部欠損。
2	土師器坏	口径 11.5 底径 6.6 器高 3.1	内彎気味の体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外—にぶい赤褐色	3/4。
3	土師器坏	口径 (13.0) 底径 (10.2) 器高 3.1	内彎気味の体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ後暗文。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫 内外—橙色	5/8。
4	土師器坏	口径 12.3 底径 9.4 器高 3.0	彎曲気味の体部で、口縁部は直立。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部~底部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外—明赤褐色	4/5。
5	土師器坏	口径 (13.0) 底径 (10.2) 器高 2.4	彎曲気味の浅い体部で、口縁部は直立。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—橙~にぶい橙色	2/5。

6	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (10.8) 器高 2.4	浅い体部で、口縁部はやや外反。 底部は緩やかな平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナ デ、底部ヘラケズリ。内面一口 縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石・ 礫 内外一橙色	1/2。
7	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (8.9) 器高 3.1	緩やかに立ち上がる体部。底部 は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナ デ、底部ヘラケズリ。内面一口 縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一にぶい橙 ～にぶい黄橙色	2/5。
8	土師器 坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 (5.8)	彎曲気味の体部。底部は平底気 味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上 半ナデ、体部下～底部ヘラケ ズリ。内面一口縁部～体部ヨコ ナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・ 角閃石 内外一橙色	2/5。
9	土師器 小型甕	口径 — 底径 (5.3) 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみをも つ胴部中位。	外面一胴部中位斜横位ヘラケズ リ、下位斜縦位ヘラケズリ。 内面一胴部ヘラナデ。	褐色粒・角閃石・ 礫 内外一にぶい橙 ～にぶい褐色	胴部中位～底部 3/5。
10	土師器 甕	口径 — 底径 5.2 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみをも つ胴部中位。	外面一胴部中・下位斜縦位ヘラ ケズリ。内面一胴部中・下位ナ デ。	白色粒・褐色粒・ 石英 内外一橙 ～明赤褐色	胴部中位～底部 残存。

SI-47 (図410)

位置：L-15、M-15グリッドに位置する。

形状：西隅をSI-48に、南東壁寄りの床面をSW-49により切られている。プランは、4.9×3.1mの長方形を呈する。

構造：覆土は、単層でロームブロック黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は存在を確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には緩やかな起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは18cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から土師器片若干が出土したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期は、不明である。

SI-48 (図411)

位置：M-15グリッドに位置する。

形状：西半をSI-49により大きく切られている。プランは、4.0×2.6m程度の長方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、単層でロームブロック黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は存在を確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には緩やかな起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは8～10cmを測る。

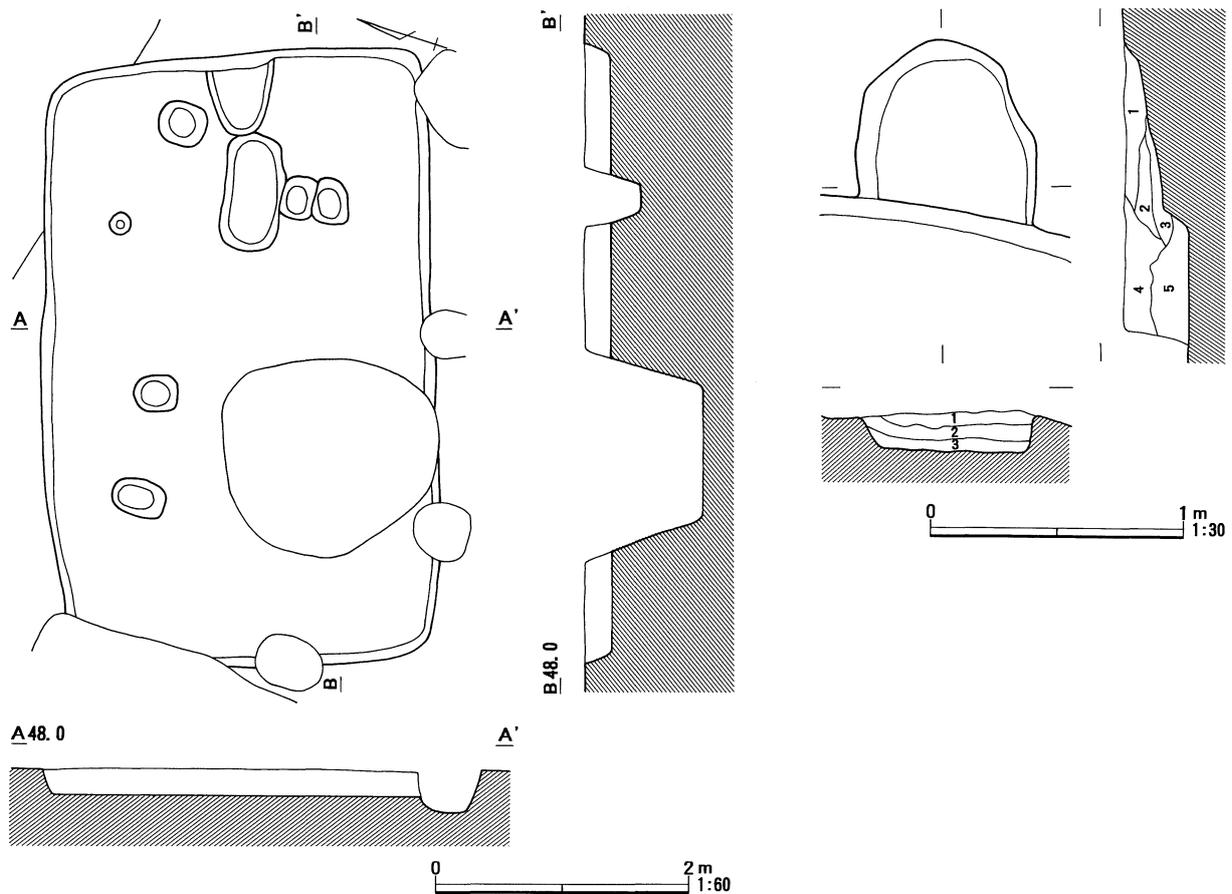
遺物：遺物は覆土から土師器坏片5点、土錘1点、混入と考えられる小型甕1点のほか、土師器片若干を検出した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から7世紀末葉と判断される。

SI-49 (図411)

位置：M-15グリッドに位置する。

形状：ほぼ完存し、東側がSI-48を、西側がSI-50を切っている。プランは、4.0×2.5mの不整長方形を呈する。



SI-47 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。

SI-47 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 3 黒灰褐色土 焼土ブロック (径1~5mm)、炭化物ブロック (径1~5mm)、木灰を少量含む。
- 4 暗褐色土 白色パミス (径1mm±)、礫 (径5~10mm) を少量含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。

図410 SI-47

構造：覆土は、壁際の下層にロームブロックを含む黒灰色土、そのほか全体にロームブロックを含む黒色土堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は存在を確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から土師器片若干を検出したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明であるが、SI-48、SI-50との切り合い関係から、9世紀後半以降と推定される。

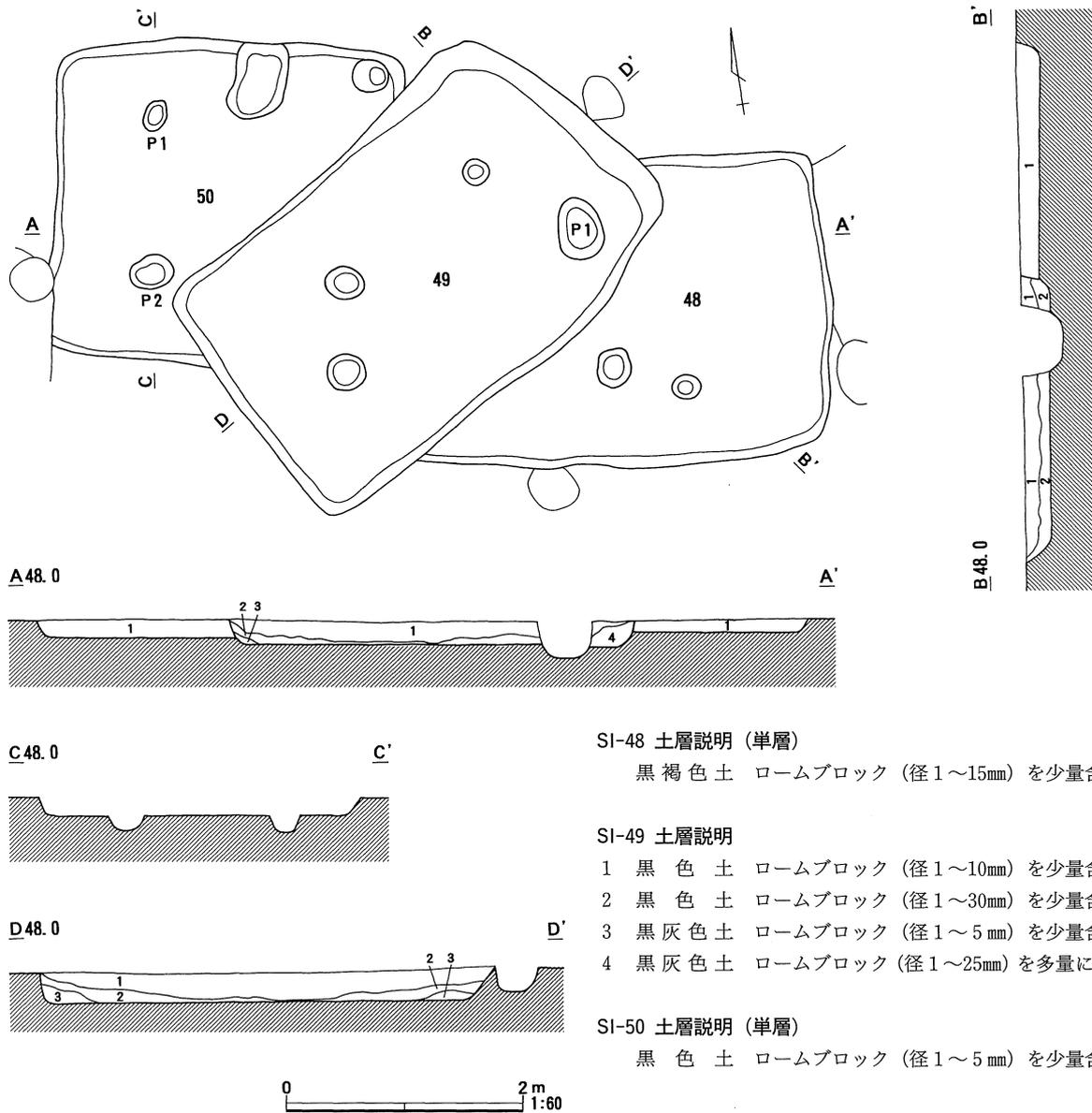


図411 SI-48・49・50

SI-50 (図411)

位置：M-15グリッドに位置する。

形状：東壁から南東隅、南壁中央にかけてをSI-49に、南西隅をSF-32により切られている。プランは2.8×3.0mの正方形を呈する。

構造：覆土は、単層でロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴はP1~P2の2基を検出した。壁溝、カマド、貯蔵穴は存在を確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは15~18cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から土師器坏2点、小型甕1点、甕1点、鉢1点、土錘1点のほか、土師器片若干を検出したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

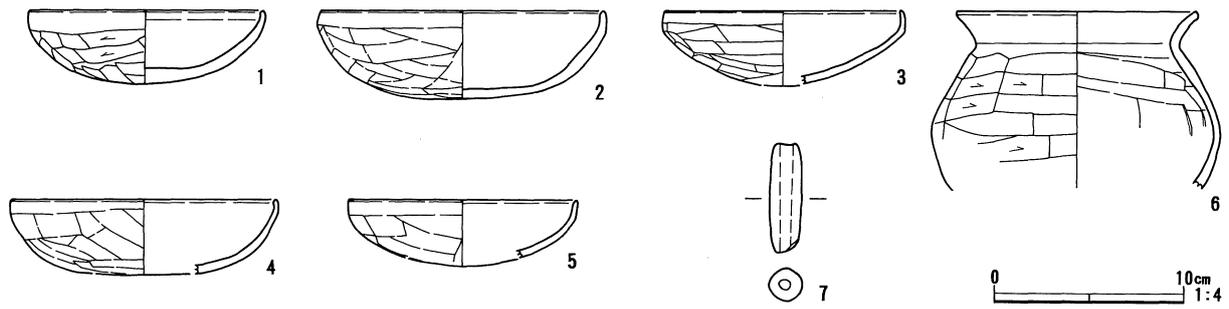


図412 SI-48 出土遺物

SI-48

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.5 底径 — 器高 3.9	彎曲する体部から、口縁部は僅かに内彎。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・石英・礫・雲母 内外—橙～にぶい橙色	ほぼ完形。
2	土師器 坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 4.6	彎曲する深い体部から、口縁部は僅かに内彎。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	褐色粒・角閃石・石英 内外—橙～にぶい橙色	3/8。
3	土師器 坏	口径 (12.5) 底径 — 器高 (3.9)	彎曲気味の体部から、口縁部は僅かに内彎。底部は尖り気味の丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—橙色	2/5。
4	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 — 器高 (3.9)	彎曲する深い体部から、口縁部は僅かに内彎。底部は緩やかな丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外—にぶい黄橙色	1/4。
5	土師器 坏	口径 (12.1) 底径 — 器高 —	彎曲する体部から、口縁部は直立。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外—橙色	口縁部～体部 1/4。
6	土師器 小型甕	口径 12.5 底径 — 器高 —	膨らみをもつ胴部中位から、口縁部は大きく外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・雲母 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部下位 5/8。
7	土 錘	長さ：5.8 幅：1.7 孔径：0.6	白色粒・褐色粒・角閃石	にぶい橙～にぶい赤褐色		ほぼ完形。

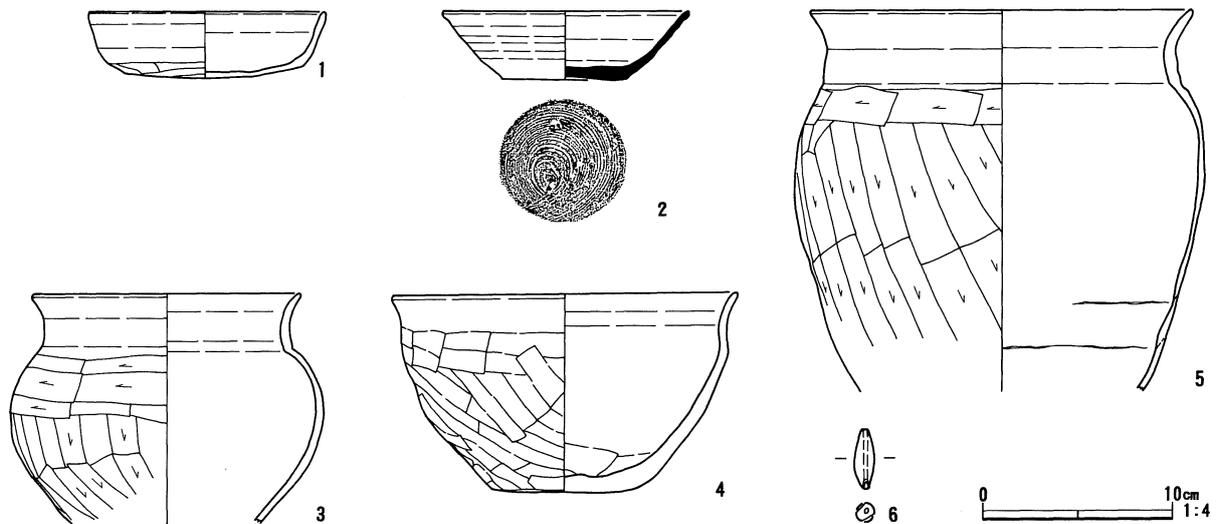


図413 SI-50 出土遺物

SI-50

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.4 底径 — 器高 3.5	緩やかに立ち上がる体部。底部は平底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外一橙色	3/4。
2	須恵器 坏	口径 13.0 底径 6.5 器高 3.6	直線的に外反する体部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・礫・石英 内外一灰黄色	3/4。
3	土師器 小型甕	口径 14.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	褐色粒・礫・角閃石 内外一橙色	口縁部～胴部下位 3/8。
4	土師器 鉢	口径 18.2 底径 7.4 器高 10.6	胴部に僅かな膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に小さく外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	褐色粒・角閃石・雲母 内外一にぶい橙色	7/8。
5	土師器 甕	口径 20.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・雲母 内外一にぶい橙色	口縁部～胴部下位残存。
6	土 錘	長さ：3.1 幅：1.0 孔径：0.2	白色粒・礫 黒褐色			ほぼ完形。

SI-51 (図414)

位置：L-16、M-16グリッドに位置する。

形状：南壁および床面の一部をSK-732により切られているほか、西壁がSI-52と重複している。プランは、3.8×3.5mの不整形を呈する。

構造：覆土は、単層で、ロームブロック、焼土ブロック、白色パミスを含む黒褐色土の堆積を認める。南西壁近くにわずかに残るのみで、ロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁の中央にカマドを付設する。燃焼部は壁を大きく掘り込んで形成している。現況で幅50cm、奥行き40cmを測る。ただし、明瞭な袖部を認めないものの、覆土断面の観察から、燃焼部は壁内側へも延長していた可能性が高い。煙道部は段差を有さずに燃焼部から移行している。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは25～30cmを測る。

遺物：遺物は、床面直上およびカマド内部で土師器暗文坏2点、碗1点、甕3点を検出したほか、覆土から土師器片若干を検出した。

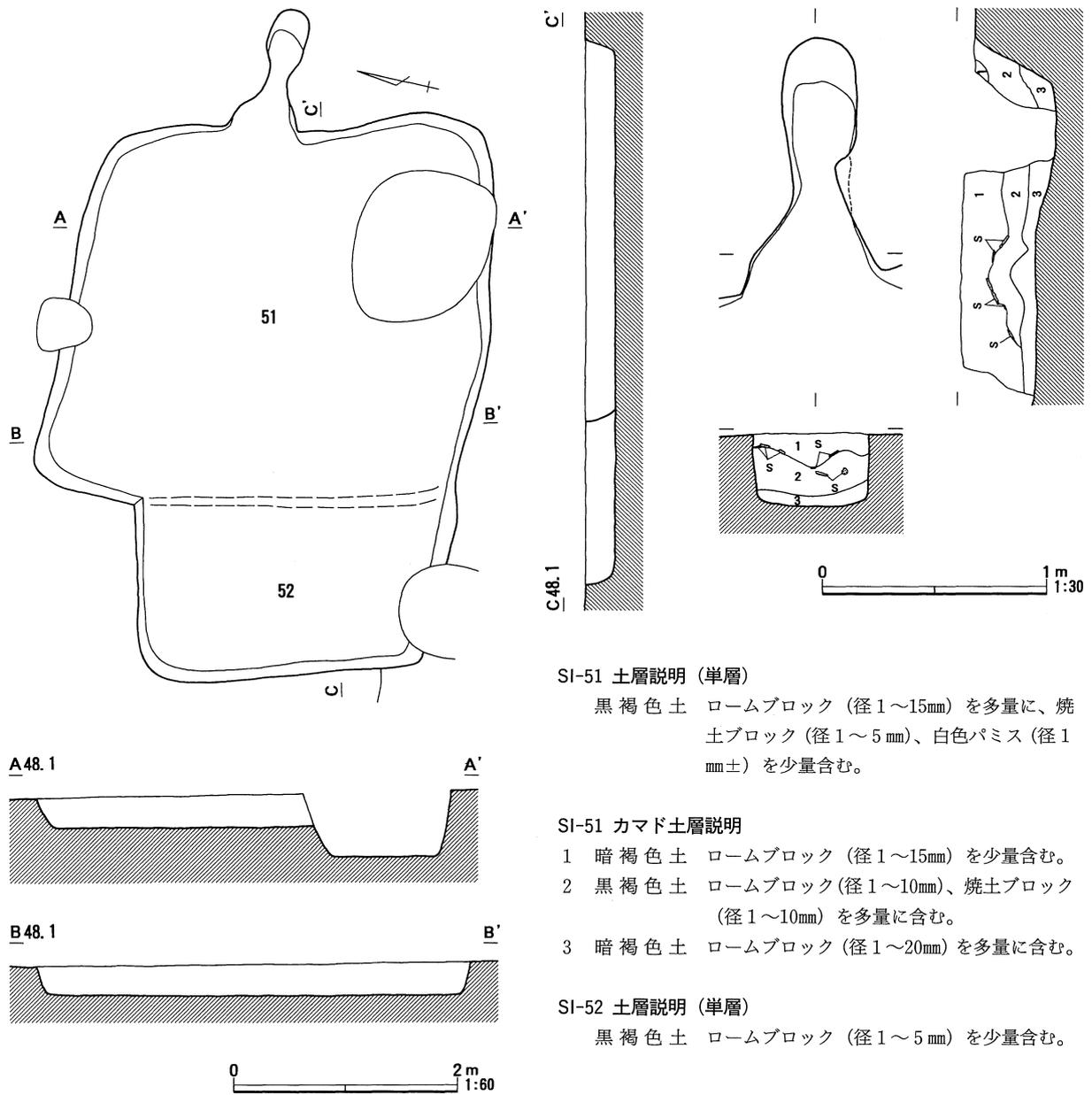
時期：所属時期は、床面直上およびカマド内部出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

SI-52 (図414)

位置：L-16、M-16グリッドに位置する。

形状：東半をSI-52に、南壁の一部をSK-733により切られている。プランは一辺2.7m程度の不整形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは25cm前後を測る。



SI-51 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に、焼土ブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。

SI-51 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含む。

SI-52 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。

図414 SI-51・52

遺物：遺物は、覆土から土師器片若干を検出したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明であるが、SI-51との切り合い関係から、9世紀前葉ないしそれ以前と推定される。

SI-51

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (8.5) 器高 3.2	僅かな膨らみをもつ体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	褐色粒・礫・石英 内外一橙色	3/8。
2	土師器 坏	口径 (12.0) 底径 (9.3) 器高 2.8	僅かな膨らみをもつ浅い体部から、口縁部は直立気味に立ち上がる。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	褐色粒・角閃石 内外一にぶい橙色	2/5。

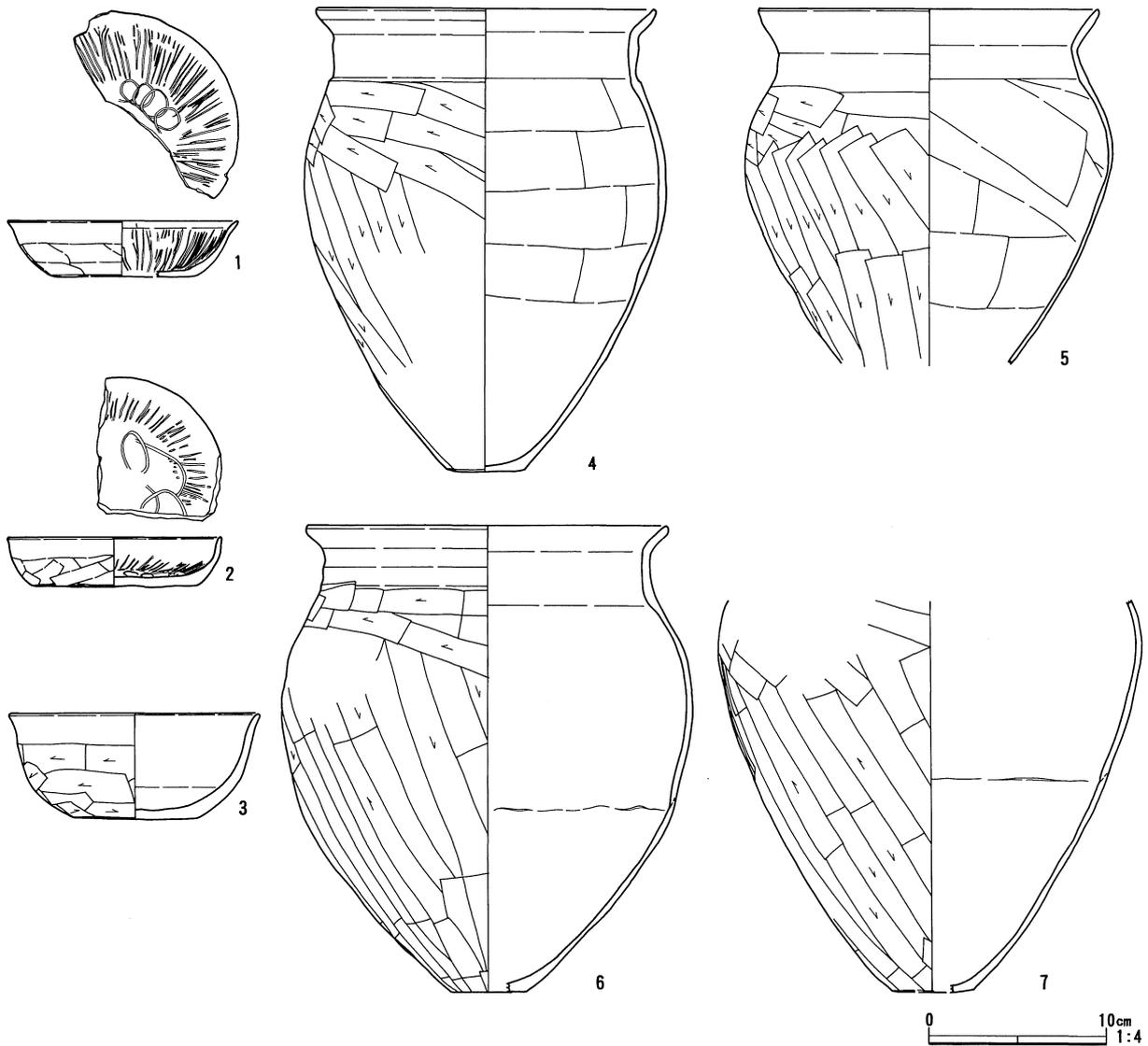


図415 SI-51 出土遺物

3	土師器 碗	口径 14.0 底径 6.8 器高 6.0	僅かな膨らみをもつ深い体部、 彎曲気味に外反する口縁部。底 部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部 ～底部ヘラケズリ。内面—口縁 部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石・ 石英 内外—明赤褐色	3/4。
4	土師器 甕	口径 19.0 底径 4.4 器高 26.5	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に膨らみをもち、口縁部は「コ」 字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上 位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜 縦位ヘラケズリ。内面—口縁部 ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	3/5。
5	土師器 甕	口径 19.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に膨らみをもち、口縁部は上半 部が大きく外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上 位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜 縦位ヘラケズリ。内面—口縁部 ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・石英 内外—黄褐色	口縁部～胴部下 位 3/4。
6	土師器 甕	口径 20.3 底径 (4.2) 器高 26.7	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に膨らみをもち、口縁部は弱い 「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上 位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜 縦位ヘラケズリ。内面—口縁部 ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・ 雲母 内外—橙～にぶ い橙色	5/6。

7	土師器 甕	口径 — 底径 (4.6) 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもつ長胴で、底部は小さい。	外面—胴部上位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部ヘラナデ。	褐色粒・角閃石・雲母 内外—におい黄褐～におい褐色	胴部上位～底部 2/5。
---	----------	--------------------------	----------------------------------	---	------------------------------	-----------------

SI-53 (図418)

位置：L-16、M-16グリッドに位置する。

形状：南半をSI-55および攪乱に、北壁の一部をSK-733により切られている。

プランは、一辺4.2m程度の隅丸方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、ロームブロック、焼土ブロック、炭化物ブロックなどを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは30cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器小型甕1点、甕1点、土製品紡錘車1点、土錘1点を検出したほか、土師器片若干が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から8世紀末葉と判断される。

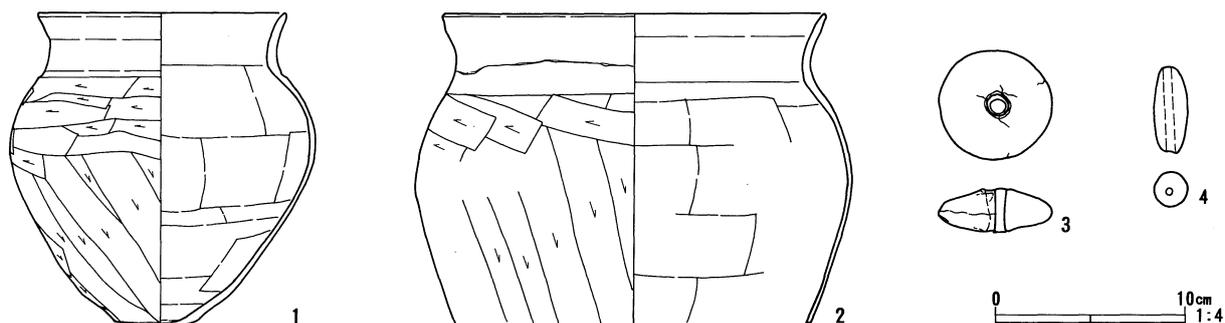


図416 SI-53 出土遺物

SI-53

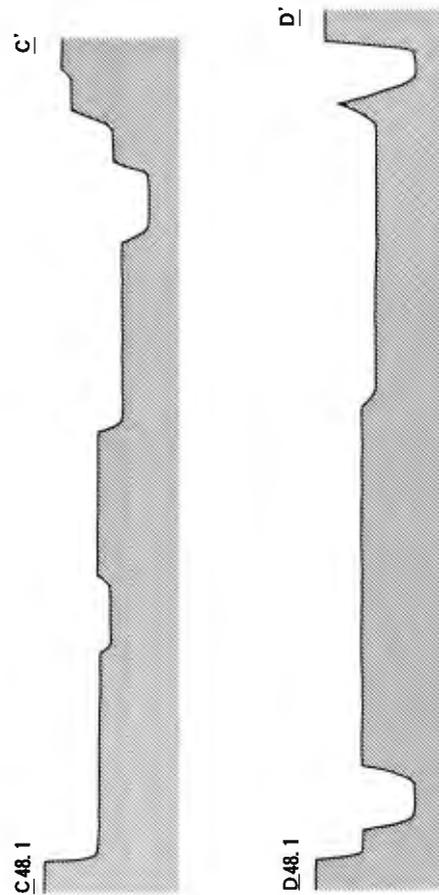
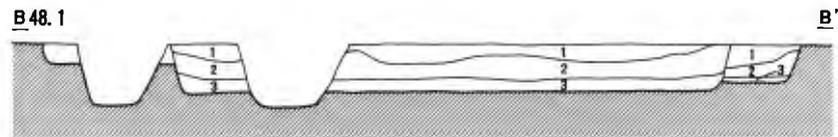
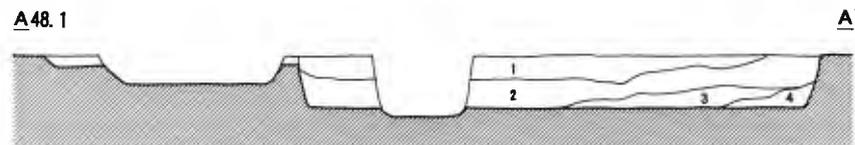
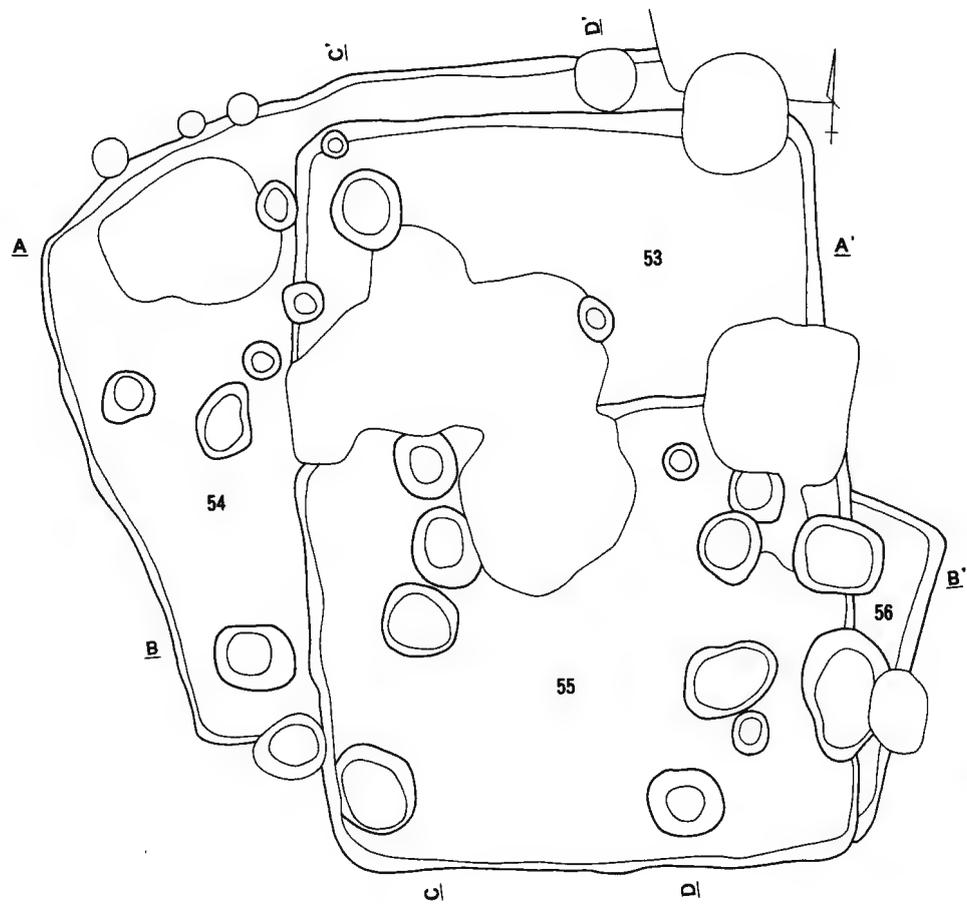
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 小型甕	口径 13.0 底径 4.4 器高 16.6	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラケズリ、下半斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—におい褐色	ほぼ完形。
2	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	口縁部～胴部中位3/5。
3	土製紡錘車	直径：6.0 厚さ：2.3	白色粒 灰褐色			完形。
4	土錘	長さ：4.6 幅：1.8 孔径：0.5	白色粒 橙色			完形。

SI-54 (図418)

位置：L-16・17、M-16・17グリッドに位置する。

形状：南壁、東壁および床面の2/3程度をSI-53およびSI-55により切られている。

プランは、一辺5m程度の不整形方形を呈するものと推測される。



SI-53 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、炭化物ブロック (径1~2mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (径1~20mm)、焼土ブロック (径1~10mm) を少量含む。

SI-54 土層説明 (単層)

- 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。

SI-55 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に、焼土ブロック (径1~5mm) 礫 (径10~15mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。

SI-56 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、砂粒 (径1mm±) を少量含む。
- 2 黒灰褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む。



図417 SI-53・54・55・56

構造：覆土は、単層でロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10～17cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏1点、皿1点、小型甕1点を検出したほか土師器、須恵器片若干が出土した。

時期：所属時期、覆土出土遺物の型式から7世紀末葉と判断される。

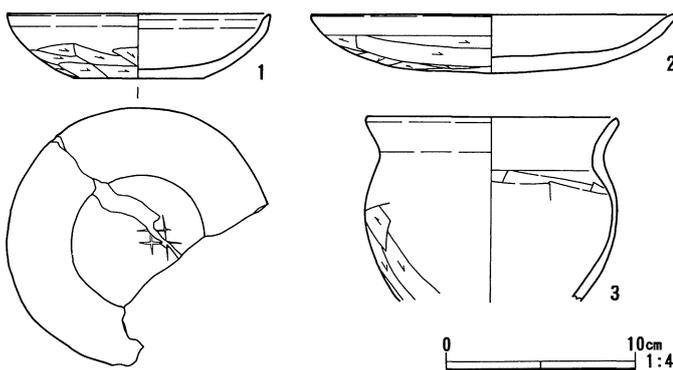


図418 SI-54 出土遺物

SI-54

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 13.8 底径 7.0 器高 3.5	内彎気味に立ち上がる体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	3/4。 底部内面に線刻「井」。
2	土師器 皿	口径 19.2 底径 — 器高 3.1	緩やかに外反する体部。底部は緩やかな丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	口縁部 3/4 欠損。
3	土師器 小型甕	口径 13.2 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一褐色	口縁部～胴部中位残存。

SI-55 (図418)

位置：L-16・17、M-16・17グリッドに位置する。

形状：南半をSI-55および攪乱に、北壁の一部をSK-733により切られている。プランは、4.3×3.7mの隅丸長方形を呈する。

構造：覆土は、ロームブロック、焼土ブロック、炭化物ブロックなどを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは30cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏9点、甕1点を検出したほか、土師器片若干が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と推定される。

SI-55

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.8 底径 9.4 器高 3.5	膨らみのない体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部上半ヨコナデ、下半～底部放射状暗文。	白色粒・雲母 内外一明赤褐色	口縁部一部欠損。

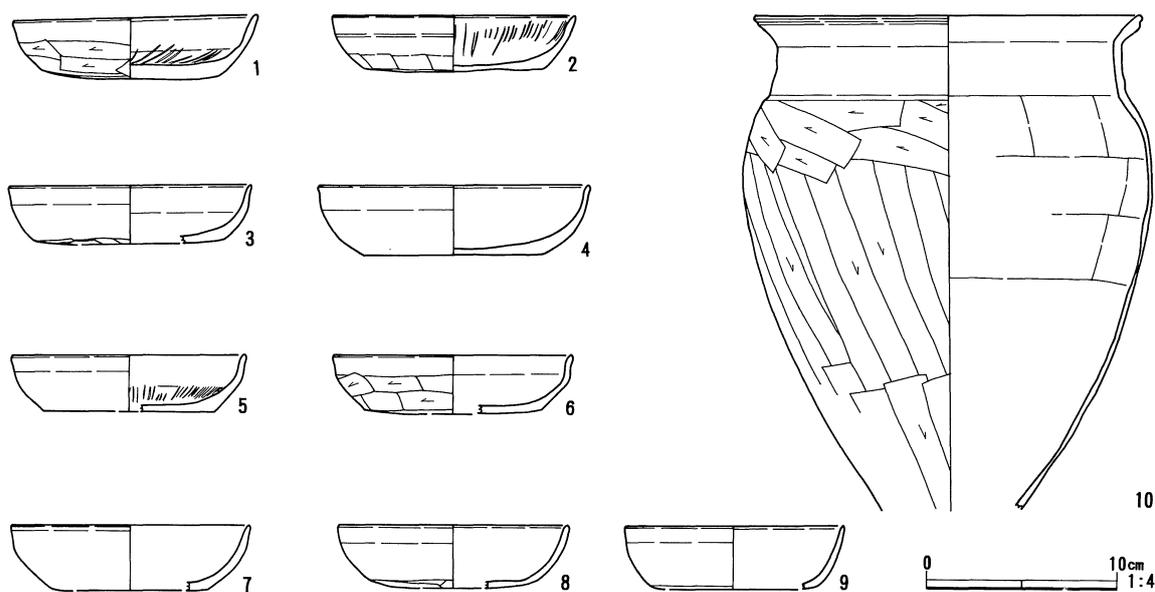
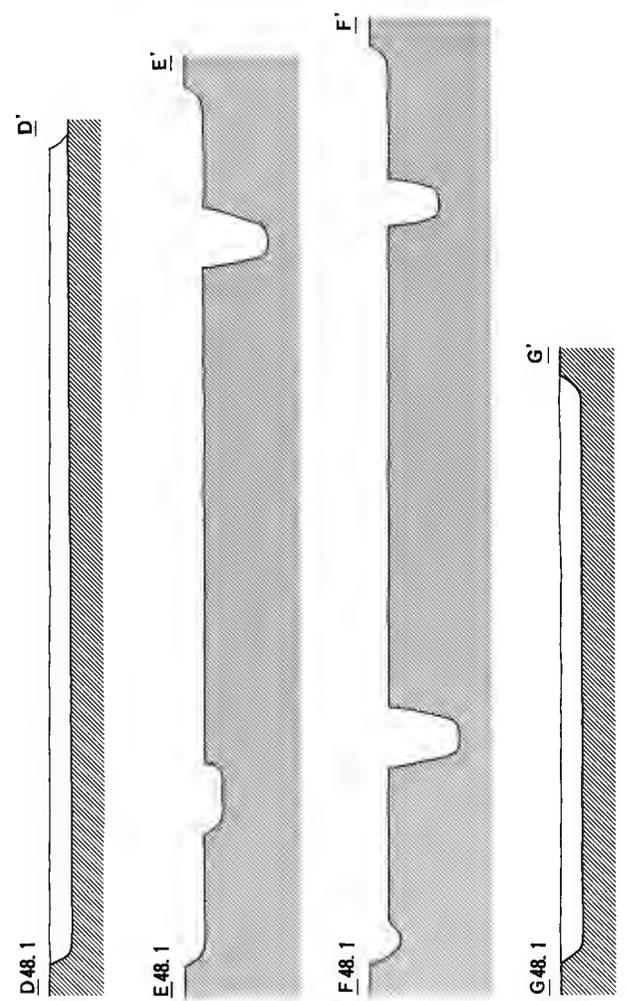
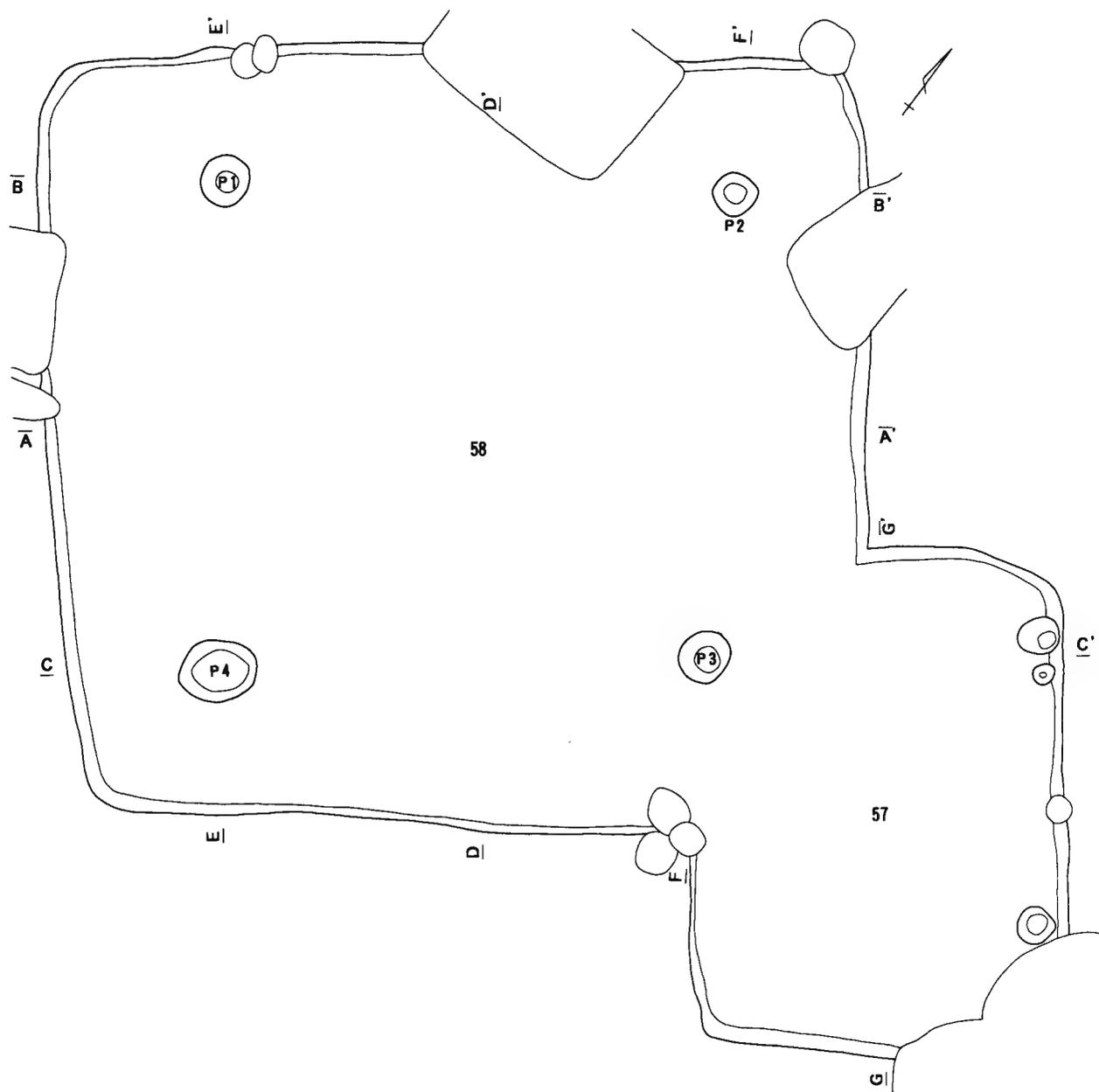


図419 SI-55 出土遺物

2	土師器 坏	口径 12.8 底径 (9.6) 器高 3.0	直線的に外反する体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部放射状暗文、底部ナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外—にぶい橙～褐色	3/5。
3	土師器 坏	口径 (12.8) 底径 (9.8) 器高 3.1	僅かに膨らみをもつ体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—明赤褐～にぶい赤褐色	3/5。
4	土師器 坏	口径 (14.2) 底径 (9.8) 器高 3.7	僅かに膨らみをもつ体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外—にぶい橙色	1/4。
5	土師器 坏	口径 (12.2) 底径 (9.0) 器高 3.0	僅かな膨らみをもつ体部中位。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部上半ヨコナデ、下半放射状暗文、底部ナデ。	白色粒・雲母 内外—明赤褐色	2/5。
6	土師器 坏	口径 (12.5) 底径 (9.3) 器高 3.1	僅かな膨らみをもつ体部中位。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外—明赤褐色	1/3。
7	土師器 坏	口径 (12.6) 底径 (8.2) 器高 3.5	僅かに膨らみをもつ体部。底部は平底。	外面—口縁部～体部不明瞭、底部ヘラケズリ。内面—不明瞭。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	2/5。
8	土師器 坏	口径 (12.0) 底径 (9.0) 器高 3.3	僅かに膨らみをもつ体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—橙色	1/4。
9	土師器 坏	口径 (11.4) 底径 (8.8) 器高 (3.3)	膨らみのない体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—橙色	口縁部～体部 1/4。
10	土師器 甕	口径 20.2 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	口縁部～胴部下 位 3/4。



SI-57 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。

SI-58 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、砂粒 (径1mm±) を少量含む。

0 2m 1:60

図420 SI-57・58

SI-56 (図418)

位置：L-16・17グリッドに位置する。

形状：大半をSI-55により切られ、わずかに東壁および北壁の一部を残す。プランは一辺2.7m程度の方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む黒灰褐色土、上層にロームブロック、砂粒を含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。

床はロームブロックを多量に含む黄褐色土を充填し貼床を構築している。床面下の掘り方面は緩やかに起伏しているが、土壌等の明確な遺構は認めない。

遺物：遺物は、覆土から、土師器片若干が出土したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明であるが、SI-55との切り合い関係から9世紀前葉以前に遡るものと推定される。

SI-57 (図421)

位置：M-16・17グリッドに位置する。

形状：東隅をSK-745・746により切られ、西隅周辺がSI-57と重複する。

プランは、4.6×3.5mの長方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。SI-58とは切り合い関係にあるが、土層の観察では明瞭な境界を認めず、両者の時間的前後関係は不明である。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。確認面から床面までの深さは15～18cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏3点、須恵器坏1点のほか土師器、須恵器の小片若干が出土したが、床面直上における遺物は認められない。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から7世紀末葉から8世紀初頭と判断される。

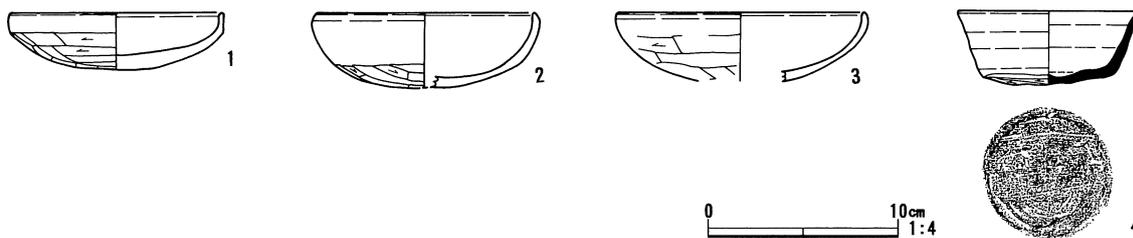


図421 SI-57 出土遺物

SI-57

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 11.1 底径 — 器高 3.0	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く直立気味。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・石英・角閃石 内外一橙色	3/4。
2	土師器坏	口径 11.6 底径 — 器高 3.9	体部は彎曲し、口縁部は短く内彎。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部ナデ。	白色粒・角閃石・石英・礫 内外一橙色	1/2。

3	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 —	体部は彎曲し、口縁部は短く内彎気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外一橙色	口縁部～体部 1/3。
4	須恵器 坏	口径 (9.6) 底径 6.8 器高 3.9	直線的な体部から、口縁部はやや外反。底部は平底気味。	体部ロクロ整形、底部一方向ヘラケズリ。	白色粒・石英 内外一灰色	3/4。

SI-58 (図421)

位置：M-16・17、N-16・17グリッドに位置する。

形状：北西壁中央を攪乱に、東壁の北隅寄りをSK-750により切られ、南西壁の中央部がSI-59の一部に重複する。7.5×7.0mを測る大型住居で、プランは隅丸方形を呈する。

構造：覆土は、単層で、ロームブロックと若干の細砂粒を含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴はP1～P4の4基を検出した。壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10～16cmを測る。

遺物：遺物は、確認面上層および覆土から多量の土師器、須恵器片が出土した。遺物は細片が多く、とくに甕は細かく破碎された状態であった。住居本来の機能を停止した後、土器捨て場として使用された可能性が考えられる。

時期：所属時期は、確認面上層および覆土出土遺物の型式に幅を認めるが、およそ9世紀代と推定される。

SI-58

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 11.6 底径 7.6 器高 3.6	緩やかに立ち上がる体部から、口縁部は僅かな稜線をもって外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・石英 内外一明赤褐～にぶい黄橙色	ほぼ完形。
2	土師器 坏	口径 (11.6) 底径 (9.2) 器高 (3.4)	緩やかに立ち上がる体部から、口縁部は彎曲気味に僅かに外反。底部は平底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	1/3。
3	土師器 坏	口径 12.0 底径 7.8 器高 3.3	緩やかに立ち上がる体部から、口縁部は僅かな稜線をもって外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・片岩・石英 内外一橙色	4/5。
4	土師器 坏	口径 (12.4) 底径 (7.4) 器高 4.4	緩やかに立ち上がる体部から、口縁部は僅かな稜線をもって外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部ナデ。	白色粒・礫・雲母 内外一明赤褐色	2/5。
5	土師器 坏	口径 12.6 底径 7.6 器高 4.3	僅かな膨らみをもつ体部から、口縁部は外彎気味に短く外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫・角閃石・雲母 内外一橙～にぶい橙色	7/8。
6	土師器 坏	口径 (12.6) 底径 (9.0) 器高 3.4	緩やかに外反する体部。体部と口縁部の境に僅かな稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部斜縦位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外一明赤褐色	1/5。
7	土師器 坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 3.1	浅い体部から口縁部は僅かな稜線をもって外反。底部は丸底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外一明赤褐色	2/5。

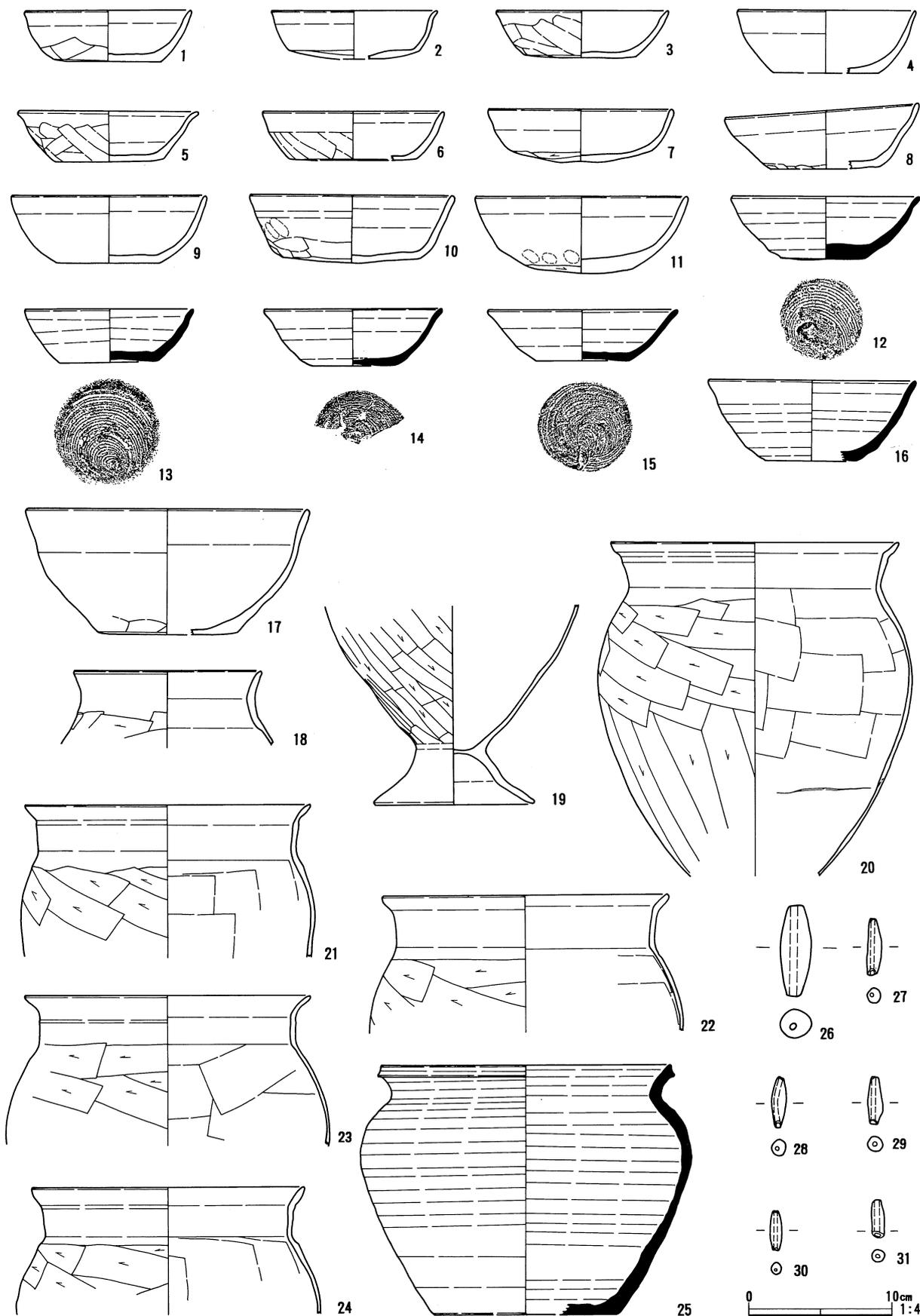


图422 SI-58 出土遺物

8	土師器 坏	口径 13.6 底径 (7.6) 器高 4.5	直線的に外反する体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・石英 内外一赤～明赤褐色	3/4。
9	土師器 坏	口径 (13.6) 底径 7.4 器高 4.8	体部から口縁部にかけて緩やかに外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・雲母 内外一に ぶい黄橙～明赤褐色	3/5。
10	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 (9.6) 器高 4.8	緩やかに立ち上がる体部から、口縁部は僅かな稜線をもって外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、体部下半～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・雲母 内外一明赤褐色	1/2。
11	土師器 坏	口径 14.6 底径 7.6 器高 5.4	体部から口縁部にかけて緩やかに外反。底部は平底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・礫・雲母 内外一明赤褐色	3/4。
12	須恵器 坏	口径 13.1 底径 5.7 器高 4.5	体部は僅かな膨らみをもつ。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・礫 内外一灰白～灰色	2/3。
13	須恵器 坏	口径 11.8 底径 7.0 器高 3.9	体部から口縁部にかけて緩やかに外反。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・海綿骨針 内外一灰黄色	ほぼ完形。
14	須恵器 坏	口径 (12.4) 底径 (6.4) 器高 4.0	膨らみのない体部、僅かに外反する口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・礫 内外一灰色	1/4。
15	須恵器 坏	口径 (13.2) 底径 6.4 器高 3.6	膨らみのない体部、僅かに外反する口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・褐色粒 内外一橙色	1/3。
16	須恵器 坏	口径 (14.4) 底径 (6.4) 器高 5.8	僅かな膨らみをもつ深い体部、僅かに外反する口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・礫 内外一灰色	1/4。
17	土師器 鉢	口径 (19.6) 底径 (9.8) 器高 8.9	膨らみをもつ胴部中位、彎曲気味に外反する口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部不明瞭。内面一口縁部～胴部ヨコナデ。	白色粒・礫 内外一橙色	1/5。
18	土師器 小型甕	口径 (13.0) 底径 — 器高 —	外彎気味に立ち上がる口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ。	白色粒・角閃石・片岩 内外一に ぶい赤褐～黒褐	口縁部～胴部上位 1/3。
19	土師器 台付甕	口径 — 底径 10.9 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は緩やかに立ち上がり、台部は「ハ」字状を呈す。	外面一胴部斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面一胴部ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫 内外一橙色	胴部中位～台部残存。
20	土師器 甕	口径 20.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上半部が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半斜横位ヘラケズリ、下半斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外一橙色	口縁部～胴部下位 2/5。
21	土師器 甕	口径 20.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・雲母 内外一橙色	口縁部～胴部中位残存。
22	土師器 甕	口径 20.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・雲母 内外一橙色	口縁部～胴部上位残存。

23	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・石英 内外—橙色	口縁部～胴部上位 1/3。
24	土師器 甕	口径 (19.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外—橙色	口縁部～胴部上位 1/3。
25	須恵器 大口甕	口径 (20.2) 底径 (12.8) 器高 17.6	胴部上位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	ロクロ整形、底部ヘラナデ。	白色粒 内外—褐灰色	1/3。
26	土 錘	長さ：6.4 幅：2.2 孔径：0.5	白色粒	にぶい黄橙色		完形。
27	土 錘	長さ：4.0 幅：1.0 孔径：0.25	白色粒・雲母	黒褐色		ほぼ完形。
28	土 錘	長さ：3.7 幅：1.0 孔径：0.25	白色粒・雲母	黒褐色		ほぼ完形。
29	土 錘	長さ：3.4 幅：1.1 孔径：0.3	白色粒・雲母	黒褐色		ほぼ完形。
30	土 錘	長さ：2.3 幅：0.8 孔径：0.25	白色粒	黒褐色		ほぼ完形。
31	土 錘	長さ：2.7 幅：0.9 孔径：0.35	白色粒	黒褐色		1/2。

SI-59 (図423)

位置：N-17グリッドに位置する。

形状：北隅から北東壁、カマドの立ち上がり上位を SI-59により切られ、西隅から床面中央にかけて SI-60が重複している。プランは、4.0×3.3mの長方形を呈する。

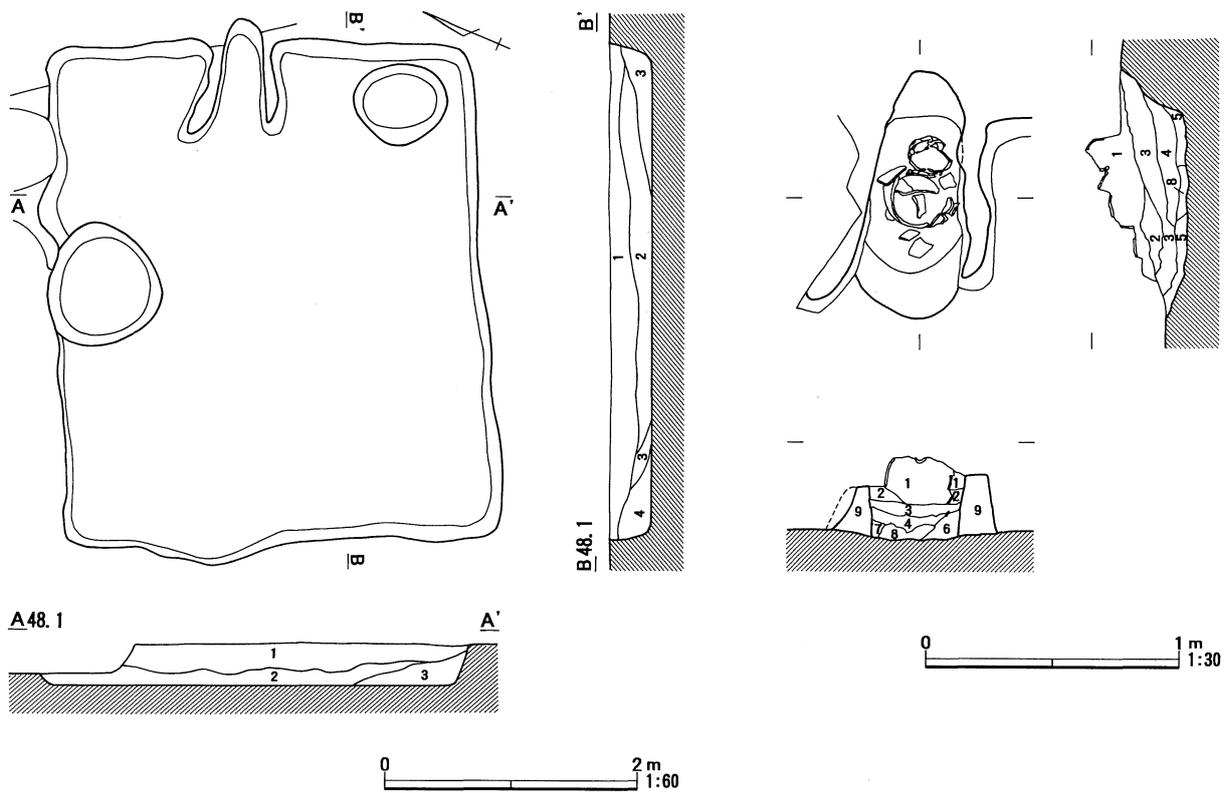
構造：覆土は、壁際下層にロームブロック、炭化物ブロックを含む黒色土、中央から上層にロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝は存在を確認できない。北東壁の中央にカマドを付設する。カマド燃焼部は、先端を壁側に掘り込むものの、ほぼ全体が造付構造となっている。幅45cm、奥行き90cmを測る。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。北西壁中央および東隅床面に床下土壌が存在する。確認面から床面までの深さは32～35cmを測る。

遺物：遺物は、カマド内部から土師器甕1点、小型甕1点、カマド右側から東隅にかけて、床面から若干の間層を挟んで土師器坏1点、鉢1点、甕1点、小型甕2点、甌2点のほか覆土から多量の土師器小片を検出した。

時期：所属時期は、カマドおよび床面付近出土遺物の型式から5世紀後半代と判断される。

SI-59

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 13.7 底径 4.2 器高 6.4	彎曲気味に立ち上がる体部から、口縁部は短く内傾。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	5/8。
2	土師器 鉢	口径 (17.4) 底径 5.2 器高 8.1	大きく膨らみをもつ体部から、口縁部は直線気味に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫・角閃石・雲母 内外—橙～にぶい橙色	1/3。
3	土師器 小形甕	口径 (13.7) 底径 6.4 器高 11.2	中位に膨らみをもつ胴部から、口縁部は短く外傾。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上・中位ハケメ後ナデ、下位斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部上・中位ヘラナデ、下位ハケメ。	白色粒・石英 内外—にぶい赤褐色	口縁部 4/5 欠損。



SI-59 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 4 黒色土 炭化物ブロック (径1~3mm) を少量含む。

SI-59 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 4 黒褐色土 炭化物ブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 6 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 7 黒色土 炭化物ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 8 黒色土 ロームブロック (径1mm±)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 9 黒色土 ロームブロック (径1mm±)、白色粘質土ブロック (径1~5mm) を少量含む。

図423 SI-59

4	土師器 小型甕	口径 (14.8) 底径 7.4 器高 14.0	中に膨らみをもつ胴部から、 口縁部は大きく外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜 横位ヘラケズリ後、上半部ヘラ ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、 胴部横位ヘラナデ。	粗砂粒 内外一明赤褐色	2/3。
---	------------	--------------------------------	-----------------------------	---	----------------	------

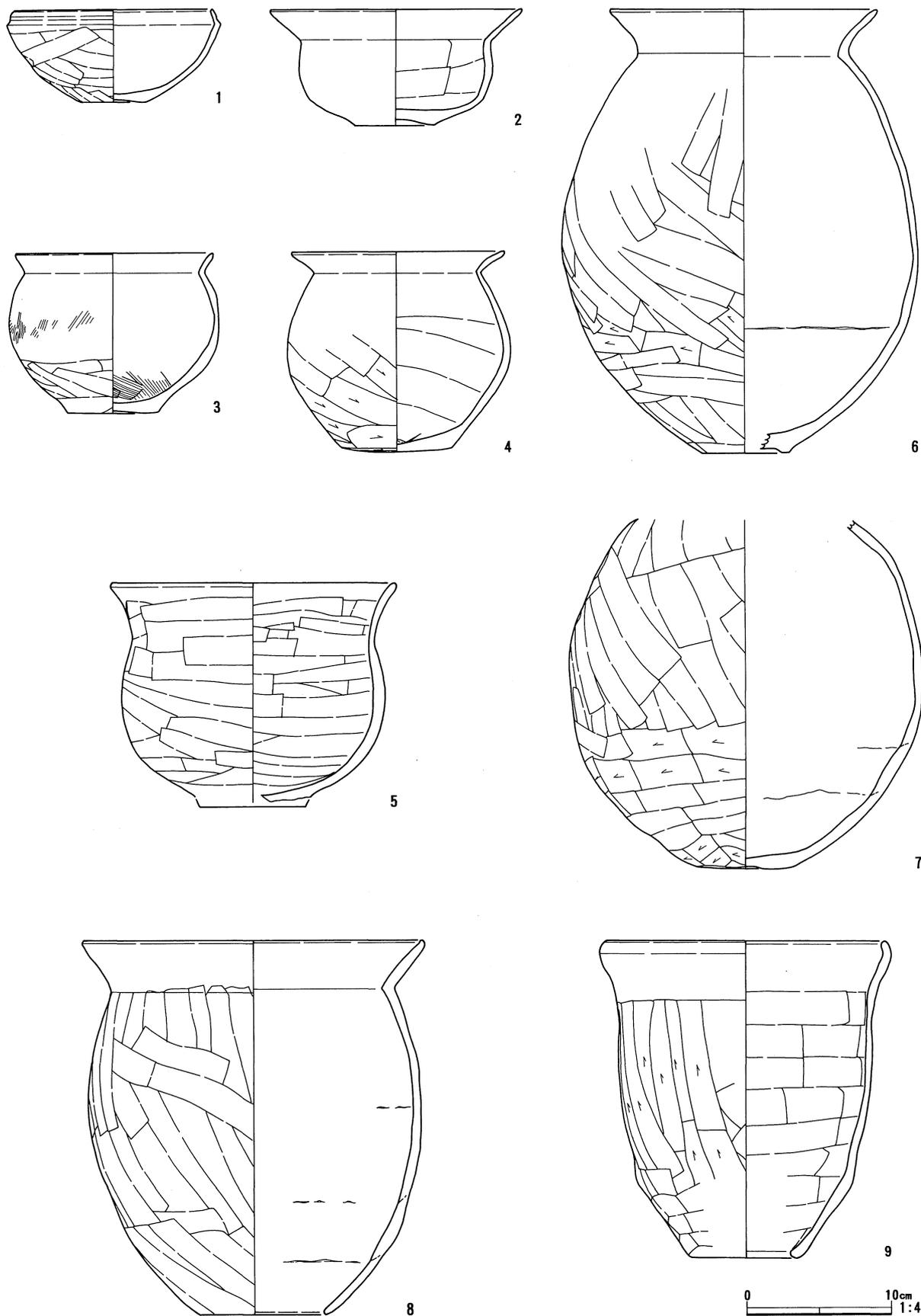


图424 SI-59 出土遺物

5	土師器 小型甕	口径 (19.7) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。僅かな膨らみをもつ胴部から、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部～胴部横位ヘラナデ。内面一口縁部～胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一にぶい赤褐色	口縁部～胴部下位1/4。底部剝離。
6	土師器 甕	口径 (18.4) 底径 (6.0) 器高 31.1	粘土紐積み上げ成形。下位に膨らみをもつ長い胴部から、口縁部は直線的に大きく外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上・中位斜縦位ヘラナデ、下位斜横位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒 内外一褐色	口縁部、底部3/4欠損。
7	土師器 甕	口径 — 底径 6.6 器高 —	粘土紐積み上げ成形。下位に膨らみをもつやや長い胴部。	外面一胴部上・中位斜縦位ヘラナデ、下位横位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・礫・角閃石 内外一橙～にぶい褐色	胴部上位～底部7/8。
8	土師器 甕	口径 23.4 底径 8.6 器高 26.2	粘土紐積み上げ成形。膨らみの少ない胴部から、口縁部は直線的に大きく外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫・石英 内外一明赤褐色	ほぼ完形。
9	土師器 甕	口径 19.1 底径 7.0 器高 22.2	粘土紐積み上げ成形。膨らみのない胴部から、口縁部は上位が内彎。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上・中位縦位ヘラケズリ、下位横位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒・角閃石・礫 内外一橙～にぶい橙色	2/5。

SI-60 (図425)

位置：N-17、O-17グリッドに位置する。

形状：東壁中央から南東隅にかけてSI-59と重複し、南西隅の立ち上がり、カマドの一部および床面の各所を攪乱により切られている。プランは、一辺4.0m前後の不整形を呈する。

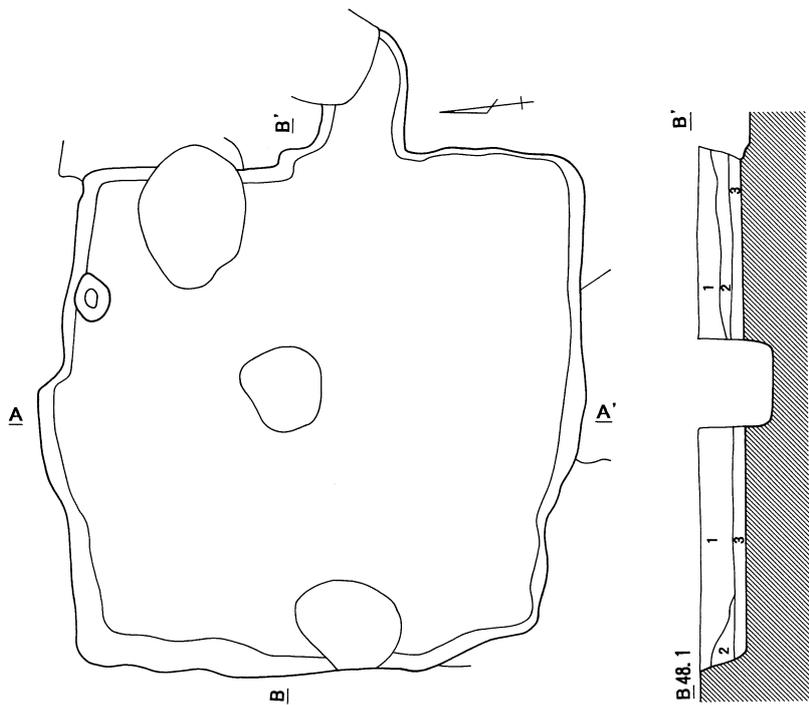
構造：覆土は、壁際下層にロームブロック、炭化物ブロック、焼土ブロックを多量に含む黒褐色土、中央から上層にロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁の中央にカマドを付設する。壁掘込構造の燃焼部をもち、幅75cm、奥行き約100cmを測る。SI-59の覆土を掘り込んで構築されているため遺存状態は良好ではない。床は多量のロームブロックと炭化物ブロックを含む黒褐色土を充填し貼床を構築している。床面下の掘り方は緩やかに起伏しているが、土壌等の明確な遺構は認めない。確認面から床面までの深さは25～30cmを測る。

遺物：遺物は、カマド上層およびカマド周辺覆土から土師器坏6点、須恵器坏2点、台付甕4点、甕9点のほか多量の土師器、須恵器の小片、貼床充填層から線刻文字を有する石製紡錘車1点を検出した。

時期：所属時期は、上層ならびに覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

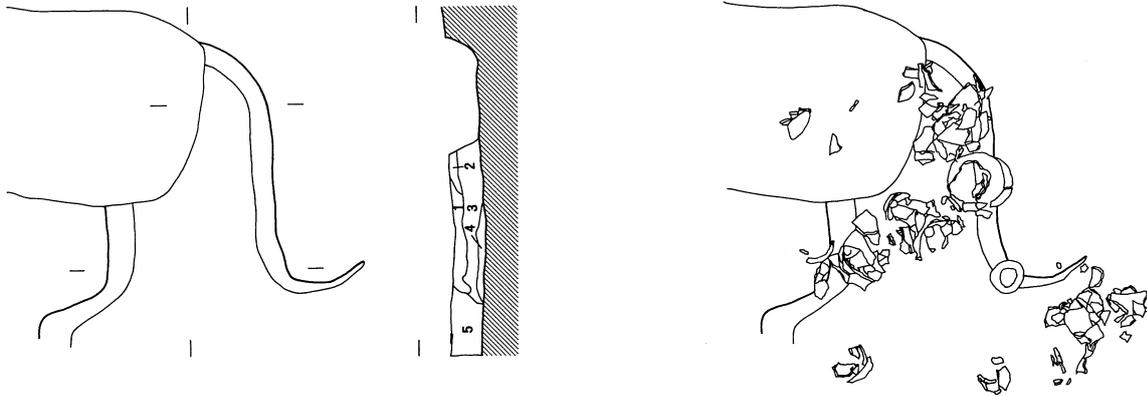
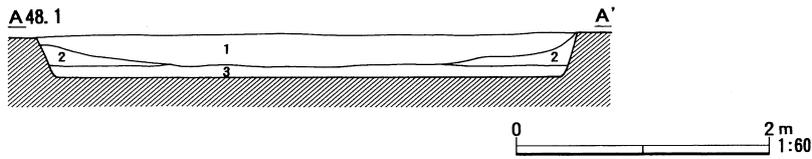
SI-60

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 11.6 底径 8.0 器高 3.0	緩やかに立ち上がる体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一明赤褐色	2/3。
2	土師器 坏	口径 12.0 底径 7.4 器高 3.6	直線的に立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一にぶい橙～褐灰色	2/5。
3	土師器 坏	口径 13.1 底径 7.4 器高 4.2	直線的に立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒 内外一にぶい黄褐色	5/6。



SI-60 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1 mm±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1 mm±)、炭化物ブロック (径1~2 mm)、焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に、炭化物ブロック (径1~2 mm) を少量含む。



SI-60 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~2 mm) を少量含む。
- 2 黒灰褐色土 焼土ブロック (径1~10mm)、炭化物ブロック (径1~15mm) を含む。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック (径1~15mm) を多量に含む。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1~2 mm)、焼土ブロック (径1~5 mm) を少量含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1 mm±) を少量含む。

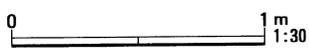
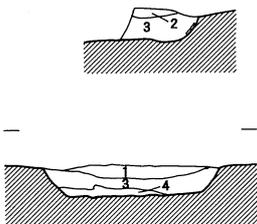


図425 SI-60

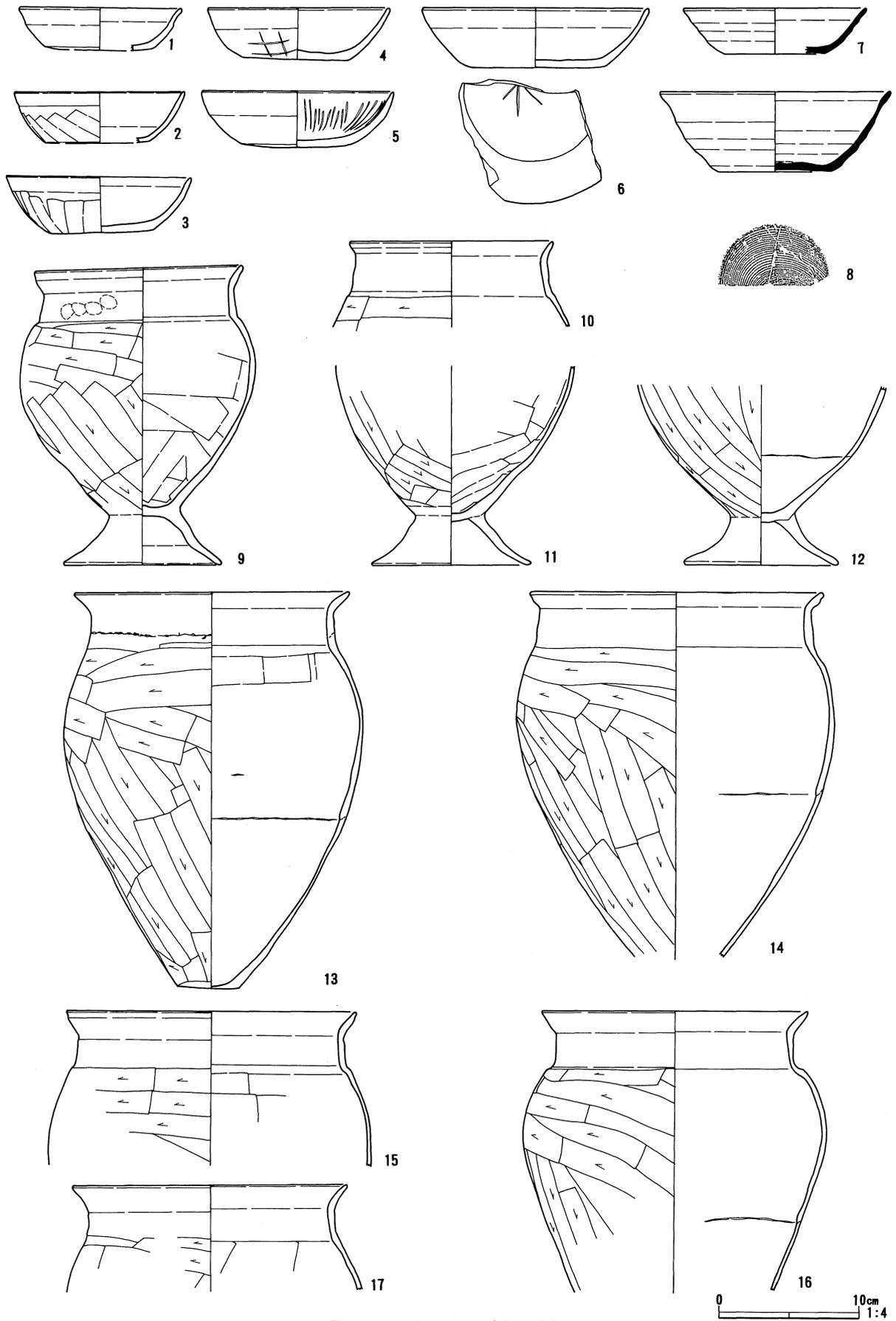


图426 SI-60 出土遺物 (1)

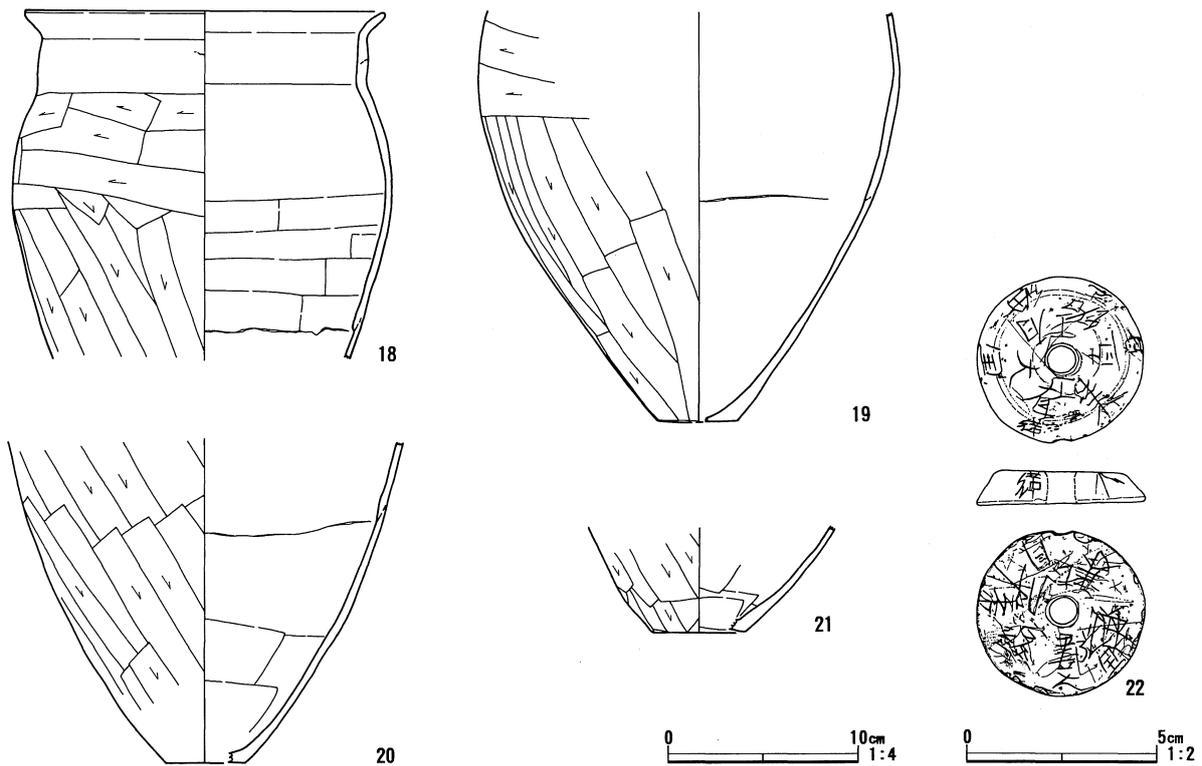


図427 SI-60 出土遺物 (2)

4	土師器 坏	口径 13.0 底径 7.8 器高 3.8	緩やかに外反する体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヘラナデ、底部ナデ。	白色粒・礫・雲母 内外一橙～褐色	ほぼ完形。 体部外面に焼成前の線刻「井」。
5	土師器 坏	口径 (13.6) 底径 (7.6) 器高 4.0	彎曲気味に立ち上がる体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部放射状暗文、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外一橙～赤褐色	2/5。
6	土師器 坏	口径 16.0 底径 10.0 器高 4.3	緩やかに外反する体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙～にぶい黄橙色	1/4。 底部内面に焼成前の線刻
7	須恵器 坏	口径 13.0 底径 7.0 器高 3.2	膨らみのない体部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部回転糸切り。	白色粒・黒色粒・礫 内外一灰黄色	1/5。
8	須恵器 坏	口径 16.4 底径 8.0 器高 5.7	僅かな膨らみをもつ体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・礫 内外一灰黄色	3/5。 底部外面焼成前線刻。
9	土師器 台付甕	口径 14.6 底径 11.0 器高 21.4	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。台部は「ハ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・石英 内外一にぶい褐色	7/8。
10	土師器 小形甕	口径 14.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・細砂粒・角閃石 内外一にぶい赤褐色	口縁部～胴部上位 3/5。

11	土師器 台付甕	口径 — 底径 11.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、台部は「ハ」字状を呈す。	外面—胴部中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面—胴部斜横位ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒・細砂粒・礫 内外—にぶい赤褐～褐灰色	胴部中位～台部 3/4。
12	土師器 台付甕	口径 — 底径 (10.8) 器高 —	粘土紐積み上げ成形。「ハ」字状の台部。	外面—胴部斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面—胴部ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒 内外—褐色	胴部中位～台部 2/3。
13	土師器 甕	口径 19.4 底径 4.4 器高 28.3	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—にぶい褐色	胴部下位 1/2 欠損。
14	土師器 甕	口径 20.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒 内外—暗褐色	口縁部～胴部下 位 3/4。
15	土師器 甕	口径 (20.6) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—明赤褐色	口縁部～胴部上 位 1/3。
16	土師器 甕	口径 19.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上半部が開いた「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—にぶい赤褐色	口縁部～胴部中 位 1/3。
17	土師器 甕	口径 19.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部上 位 3/5。
18	土師器 甕	口径 18.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部中 位 3/4。
19	土師器 甕	口径 — 底径 4.2 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもつやや長い胴部。底部は小さい。	外面—胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—褐色	胴部上位～底部 1/3。
20	土師器 甕	口径 — 底径 4.0 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面—胴部中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部中位ナデ、下位横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外—明赤褐～灰黄褐	胴部中位～底部 1/2。
21	土師器 甕	口径 — 底径 4.8 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面—胴部下位斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部下位横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	胴部下位～底部 2/3。
22	石製紡錘車	直径：4.4 厚さ：0.9 孔径：0.85 重さ：30g	濃緑色 蛇紋岩製			完形

SI-61 (図428)

位置：N-15、O-15グリッドに位置する。

形状：南東側 3/4 ほどを ST-22 により切られている。

構造：覆土は、単層でロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴は、P 1 のみ 1 基を確認した。炉ないしカマド、貯蔵穴の存在は確認できない。北西壁の中央部に、壁溝の一部と考えられる狭長な落ち込みを認める。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面はおおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10cm前後を測る。

遺物：遺物は皆無であった。

時期：所属時期は不明である。

SI-62 (図429)

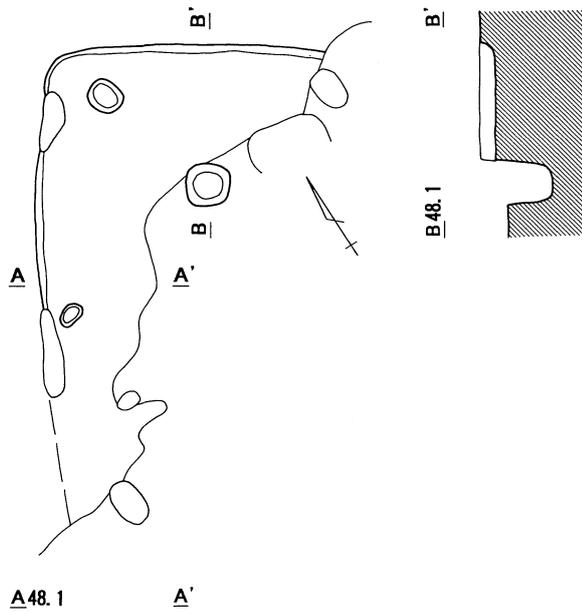
位置：N-15、O-15グリッドに位置する。

形状：北半分東隅側 3/4 ほどを ST-22 により切られ、東半部の大半が攪乱による破壊を被っている。

構造：覆土は、単層でロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、炉ないしカマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面はおおむね平坦である。確認面から床面までの深さは 7~8 cm 前後を測る。

遺物：遺物は皆無であった。

時期：所属時期は不明である。



SI-63 (図430・431)

位置：O-16・17、P-16・17グリッドに位置する。

形状：西側 1/3 が調査区外にあり、北壁中央の立ち上がり上位を SK-787 に、北西隅および北東を攪乱により切られている。プランは、3.9m 程度の方角を呈するものと推定される。

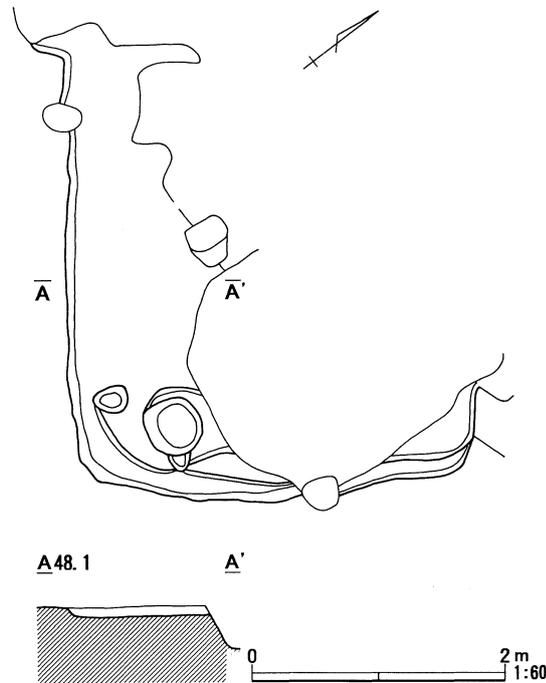
構造：覆土は、下層にロームブロック、褐色粘質土ブロック、焼土ブロックを多量に含む黄褐色土を、上層にロームブロック、焼土ブロック、白色パミスを含む暗褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁中央および北壁の北東隅寄りにカマドを付設する。東壁中央のカマド（カマド 1）は、壁掘込構造の燃烧部をもち、右側のみローム掘り残しによる短小な袖部を残す。幅約 100cm、奥行き 135cm を測る。北壁のカマド（カマド 2）は煙道部を有さず、袖部も除去されており、燃烧部下部のみが遺存していた。幅約 100cm、奥行き 125cm を測る。カマド 2 の 1・2 層は攪乱層および住居覆土で、3 層以下がカマド 2 本来の覆土である。これらの土層堆積の状況からカマド 2 はカマド 1 に先行して機能していた燃烧施設であり、カマド 1 が機能していた段階には、すでにカマド 2 は機能を停止していたと



SI-61 土層説明 (単層)

黒色土 ロームブロック (径 1~5 mm) を多量に含む。

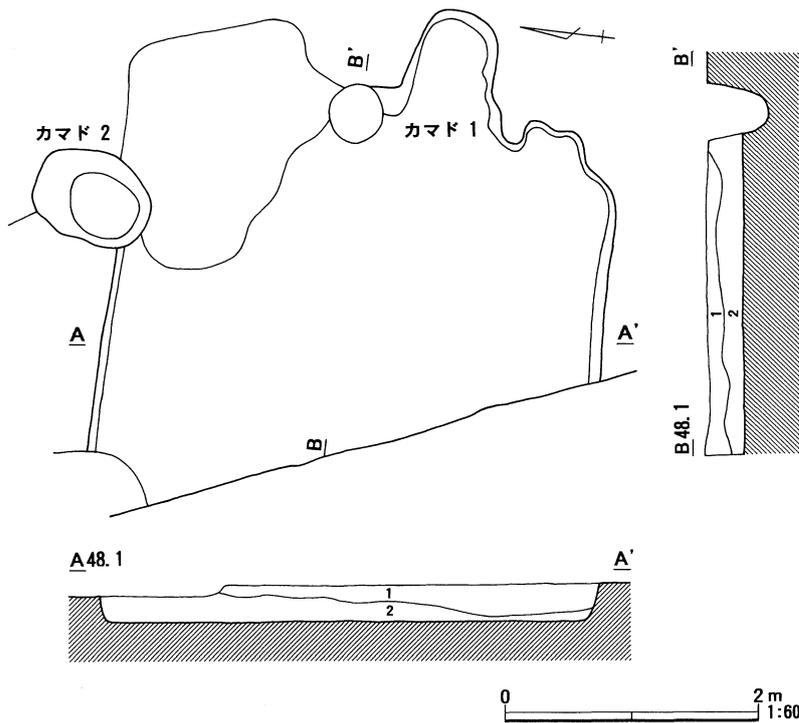
図428 SI-61



SI-62 土層説明 (単層)

黒色土 ロームブロック (径 1~5 mm) を多量に含む。

図429 SI-62



SI-63 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に、焼土ブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック（径1～50mm）、褐色粘質土ブロック（径1～40mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を多量に含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。

図430 SI-63

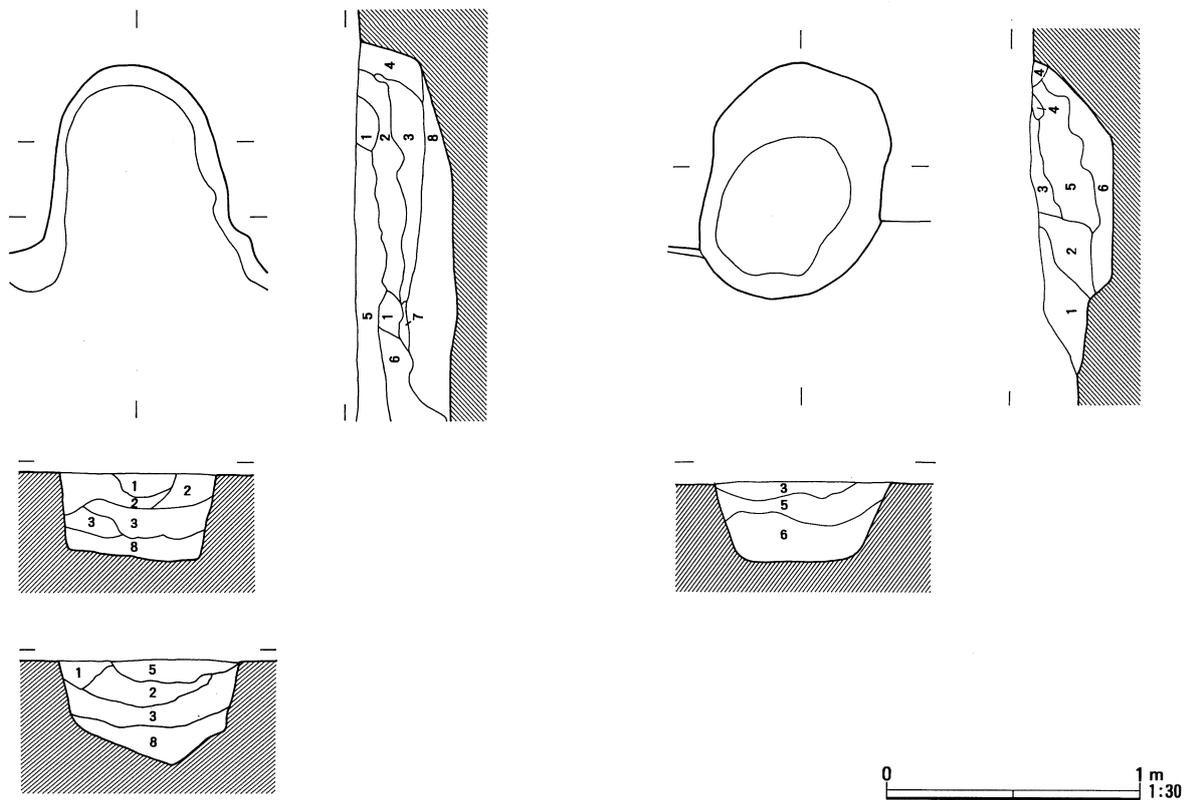
考えられる。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは26～28cmを測る。

遺物：遺物はカマド1の焚口から前面付近を中心に床面から若干の間層を挟んで土師器坏10点、鉢2点、甕12点、須恵器坏1点、土製紡錘車1点、覆土から土師器甕を中心とする多量の土師器片を検出した。とくに、覆土中の甕片は、細かく破碎されており、本住居跡は本来の機能を停止した後、土器捨て場として使用されていたものと推定される。

時期：所属時期はカマド周辺出土遺物の型式から8世紀末葉から9世紀前半と判断される。

SI-63

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 10.2 底径 5.5 器高 3.1	彎曲気味に立ち上がる体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。内面一口縁部～底部放射状暗文。	白色粒・角閃石・礫・雲母 内外一にぶい黄橙～にぶい黄褐色	2/5。
2	土師器坏	口径 11.0 底径 5.8 器高 4.8	中で緩やかに屈曲する体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・石英・礫・雲母 内外一にぶい橙色	3/4。
3	土師器坏	口径 12.0 底径 (5.0) 器高 4.2	緩やかに立ち上がる体部から、口縁部は僅かな稜線をもって外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・石英 内外一橙色	2/5。
4	土師器坏	口径 12.3 底径 7.9 器高 3.1	僅かな膨らみをもつ浅い体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	褐色粒・角閃石 内外一明赤褐色	3/4。



SI-63 カマド 1 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、灰白色粘質土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック（径1～5mm）、炭化物ブロック（径1～2mm）を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を多量に含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に、焼土ブロック（径1～5mm）、白色パミス（径1mm±）を少量含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 7 赤褐色土 焼土ブロックの凝固層。
- 8 黒褐色土 焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。

SI-63 カマド 2 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～15mm）を含む。カマド構築土。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック（径1～10mm）、ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック（径1～20mm）を含む。
- 4 暗灰褐色土
- 5 暗灰褐色土 炭化物ブロック（径1～3mm）を少量含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

図431 SI-63 カマド

5	土師器 坏	口径 (12.4) 底径 (9.4) 器高 (3.0)	緩やかに立ち上がる体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙色	1/2。
6	土師器 坏	口径 (12.6) 底径 (10.6) 器高 (3.3)	体部下位に僅かな膨らみもち、口縁部は内彎気味に立ち上がる。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一にふい橙 色	口縁部～体部 1/8。

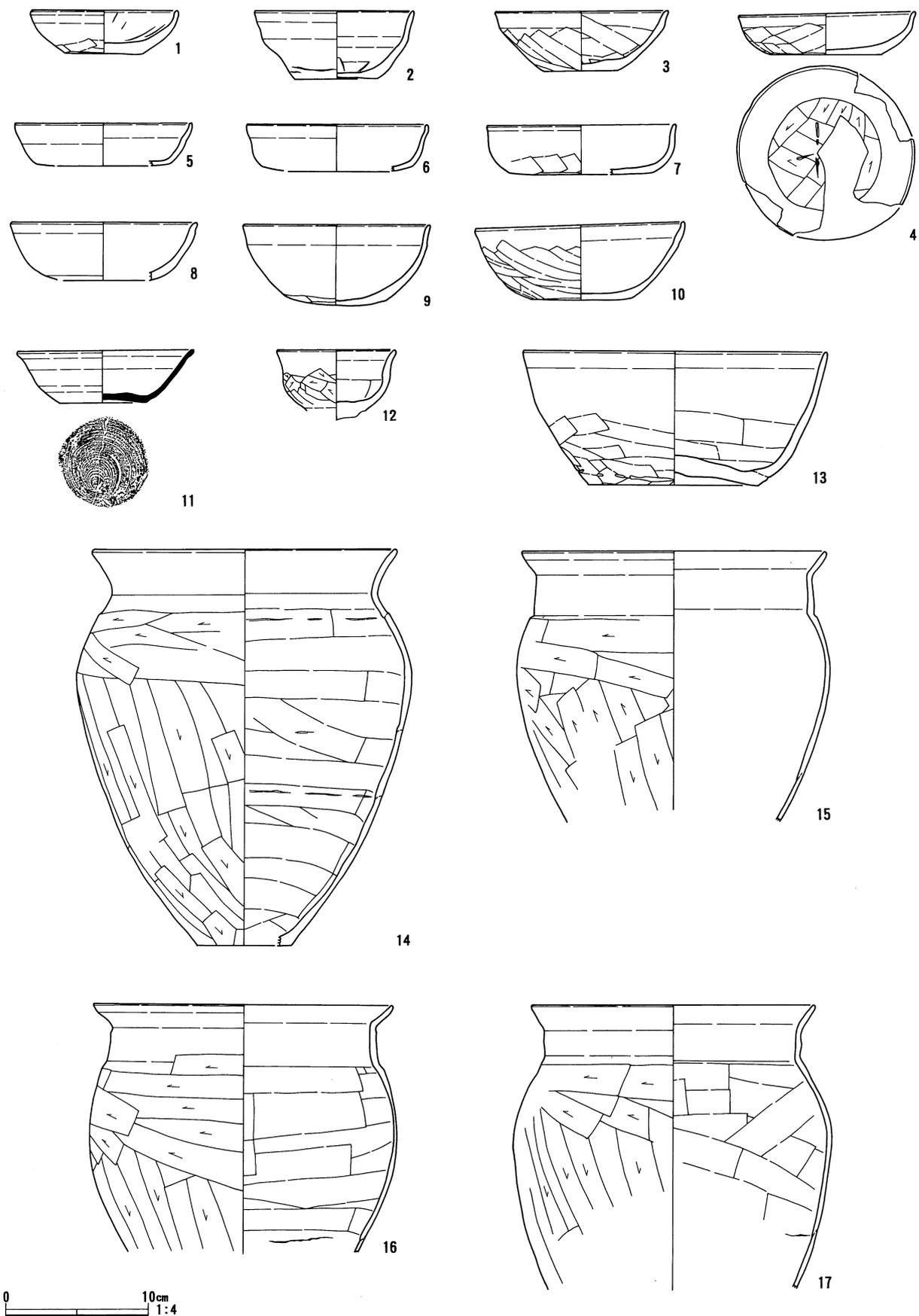
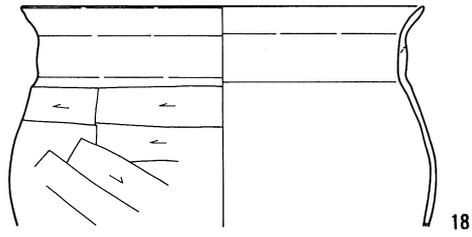
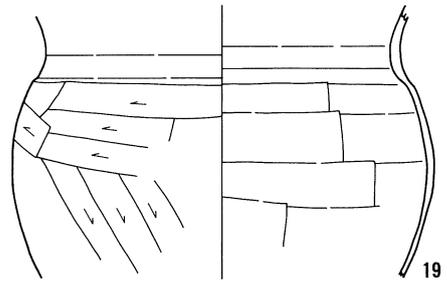


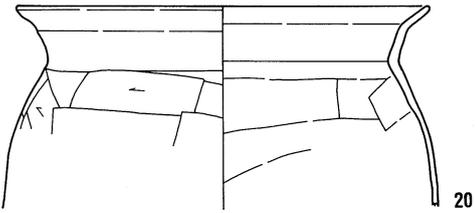
图432 SI-63 出土遺物 (1)



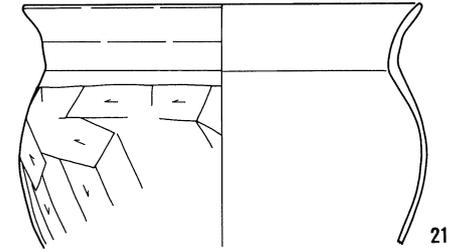
18



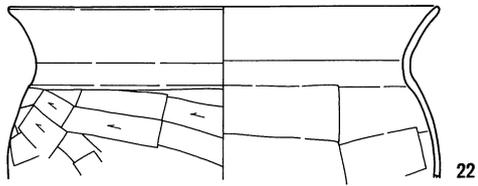
19



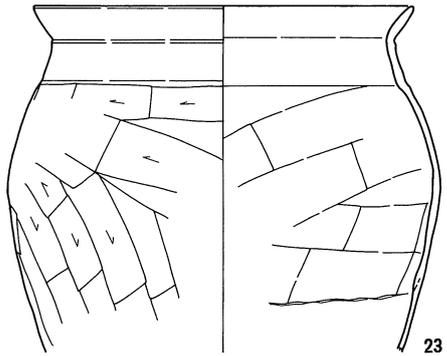
20



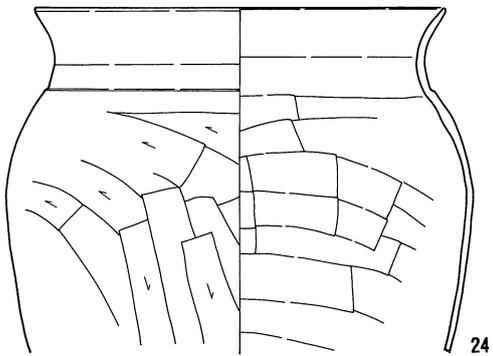
21



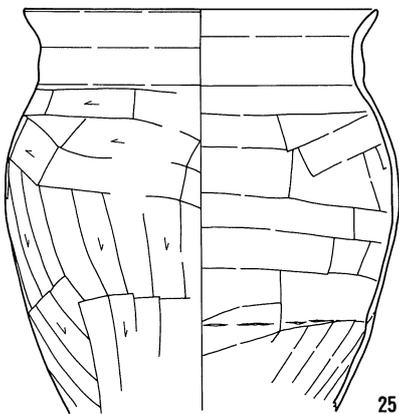
22



23



24



25



26

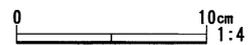


图433 SI-63 出土遺物 (2)

7	土師器 坏	口径 (13.2) 底径 (10.2) 器高 3.5	僅かな膨らみをもつ体部下位。 底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラナデ、底部ヘラケズリ。内面 一口縁部ヨコナデ、体部～底部 ナデ。	白色粒・角閃石 内外一にぶい褐色	1/8。
8	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (8.6) 器高 (4.1)	彎曲して立ち上がる体部。底部 は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラナデ、底部ヘラケズリ。内面 一口縁部ヨコナデ、体部～底部 ナデ。	白色粒・褐色粒・ 角閃石・雲母 内外一橙色	1/4。
9	土師器 坏	口径 13.0 底径 7.2 器高 5.8	彎曲気味の深い体部。底部は緩 やかな平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部 ～底部ヘラケズリ。内面一口縁 部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・石英・雲 母 内外一橙色	口縁部 1/4 欠 損。
10	土師器 坏	口径 14.6 底径 6.8 器高 5.5	彎曲気味に立ち上がる体部。底 部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘ ラナデ、底部ヘラケズリ。内面 一口縁部～体部ヨコナデ、底部 ナデ。	白色粒・褐色粒・ 雲母 内外一明赤褐～ 明黄褐色	4/5。
11	須恵器 坏	口径 12.4 底径 6.0 器高 3.7	緩やかに立ち上がる体部から、 口縁部は彎曲気味に外反。底部 は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸 切り。	白色粒・石英・礫 内外一灰～橙色	3/5。
12	土師器 小型台付鉢	口径 8.2 底径 — 器高 —	僅かな膨らみをもつ胴部から、 口縁部は外彎気味に立ち上がる。 。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜 横位ヘラケズリ。内面一口縁部 ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・石英・雲 母 内外一にぶ い黄橙色	台部欠損。
13	土師器 鉢	口径 (21.2) 底径 12.0 器高 9.4	膨らみのない胴部。底部は上げ 底。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 半ナデ、胴部下半～底部ヘラケ ズリ。内面一口縁部ヨコナデ、 胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・ 角閃石・雲母 内外一橙色	1/2。
14	土師器 甕	口径 21.2 底径 (6.6) 器高 (27.8)	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に膨らみをもち、口縁部は彎曲 気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦 位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨ コナデ、胴部横位ヘラケズリ 。	白色粒・褐色粒 物粒 内外一にぶい褐色	3/5。
15	土師器 甕	口径 (21.2) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は上位が開いた「コ」字状を呈 す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中位斜縦位 ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコ ナデ、胴部上位ナデ、中位ヘラ ナデ。	白色粒・褐色粒・ 礫 内外一橙色	口縁部～胴部中 位 1/6。
16	土師器 甕	口径 (20.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は上位が開いた「コ」字状を呈 す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中位斜縦位 ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコ ナデ、胴部横位ヘラナデ。	黒色粒 内外一明赤褐色	口縁部～胴部中 位 1/5。
17	土師器 甕	口径 19.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は上位が開いた弱い「コ」字状を 呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中位斜縦位 ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコ ナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・礫 内外一橙色	口縁部～胴部中 位 1/4。
18	土師器 甕	口径 (21.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は上位が開いた弱い「コ」字状を 呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中位斜縦位 ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコ ナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	口縁部～胴部中 位 1/4。
19	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中位斜縦位 ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコ ナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・ 礫 内外一橙色	口縁部～胴部中 位。
20	土師器 甕	口径 21.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は上位が開いた弱い「コ」字状を 呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ。内面一口縁 部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナ デ。	白色粒・角閃石 内外一にぶい黄 褐色	口縁部～胴部上 位 3/5。

21	土師器甕	口径 (20.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみをもつ胴部、彎曲気味に外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部不明瞭。	白色粒・礫 内外一明褐〜に ぶい褐色	口縁部〜胴部中位 1/4。
22	土師器甕	口径 (22.6) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみをもつ胴部、彎曲気味に外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一にぶい赤褐色	口縁部〜胴部上位 1/4。
23	土師器甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・石英・礫 内外一明褐色	口縁部〜胴部中位 1/4。
24	土師器甕	口径 (21.6) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。僅かな膨らみをもつ胴部、彎曲気味に外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒 内外一明褐〜に ぶい褐色	口縁部〜胴部中位 1/4。
25	土師器甕	口径 (18.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・礫 内外一橙色	口縁部〜胴部中位 3/8。
26	土製紡錘車	直径：上6.3 下3.8 厚さ：3.0 孔径：0.8	白色粒・褐色粒・角閃石・石英	橙〜にぶい黄橙色	ほぼ完形。	

SI-64 (図435)

位置：N-18 グリッドに位置する。

形状：大半が調査区外にあり、北東隅寄りの一部が遺存している。また、床面中央部は攪乱により大きく破壊を被っている。

構造：覆土は下層にロームブロックを含む黒褐色土、上層に暗褐色ないし暗灰褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は存在を確認できない。床はロームブロックを多量に含む黒褐色土を充填し貼床を構築している。床面下の掘り方面は中央に向かって緩やかに傾斜しているが、土壌等の明確な遺構は認めない。確認面から床面までの深さは35〜40cmを測る。

遺物：遺物は、床面直上で土師器甕1点を検出したほか土師器片若干を検出した。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から6世紀前半代と判断される。

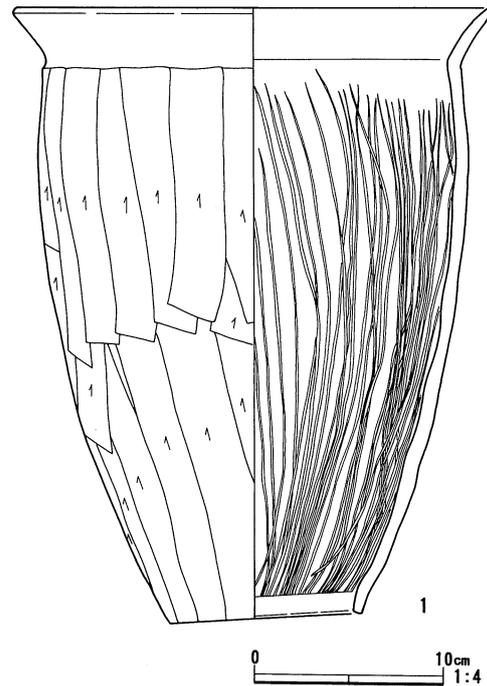
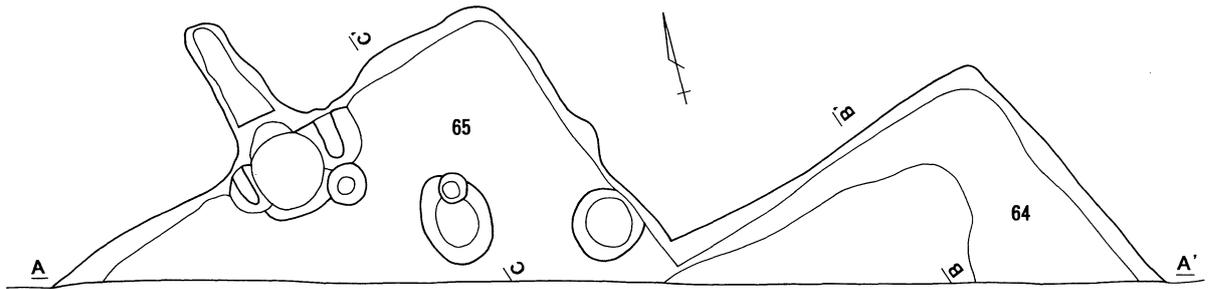


図434 SI-64 出土遺物

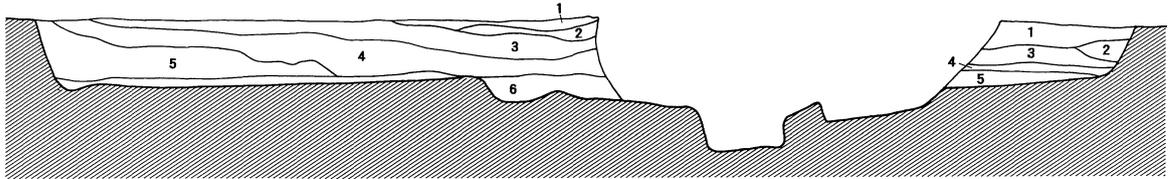
SI-64

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器甕	口径 25.0 底径 10.0 器高 32.6	粘土紐積み上げ成形。膨らみのない胴部から、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケンマ。	白色粒・礫 内外一橙色	7/8。



A48.4

A'

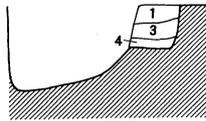
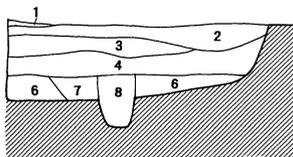


B48.4

B'

C48.4

C'



0 2m 1:60

SI-64 土層説明

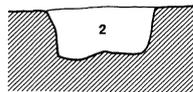
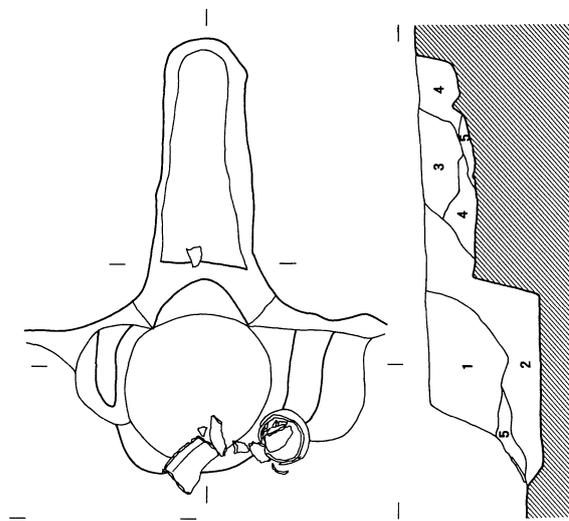
- 1 暗灰褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~25mm) を多量に含み、班状に堆積する。貼床土。

SI-65 土層説明

- 1 暗灰褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~10mm) を少量含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む。
- 5 黒色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。
- 6 黒色土 ロームブロック (径1~30mm) を多量に含み、班状に堆積する。貼床土。

SI-65 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、焼土ブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、炭化物ブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、焼土ブロック (径1~5mm)、灰白色粘質土ブロック (径1~5mm) を少量含む。



0 1m 1:30

図435 SI-64・65

SI-65 (図435)

位置：N-17・18、O-17・18グリッドに位置する。

形状：大半が調査区外にあり、北東隅寄りの一部が遺存している。SI-64とは切り合い関係にあるが、攪乱により土層観察からは新旧関係を確認できない。

構造：覆土は、西半下層にロームブロックを含む黒色土、ロームブロック多量に含む黒褐色土、上層にロームブロック、白色パミスを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴はP1の1基のみを検出した。壁溝、貯蔵穴は存在を確認できない。北壁の中央にカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、壁外に煙道部が伸びる。燃焼部の幅68cm、奥行き65cm、煙道部を含めた全長170cmを測る。袖部はロームブロック、焼土ブロック、灰白色粘質土ブロックを少量含む暗褐色土で構築している。床はロームブロックを多量に含む黒褐色土を充填し貼床を構築している。床面下の掘り方面はほぼ平坦であるが、柱穴P1周辺および東壁際に浅い床下土壌を認めるほか、東壁付近には不整形の掘り込みが存在する。確認面から床面までの深さは45～50cmを測る。

遺物：遺物は、主にカマド周辺の床面直上で土師器坏2点、皿1点、甕4点、須恵器坏蓋1点を検出したほか、覆土および貼床層から土師器片若干を出土した。

時期：所属時期はカマド周辺の床面直上出土遺物の型式から7世紀後半代と判断される。

SI-65

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 3.9	彎曲する体部から、口縁部は内彎気味にやや内傾。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外—橙～にぶい橙色	1/2。
2	土師器坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 (4.0)	彎曲する体部から、口縁部は内彎気味に短く内傾。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外—橙色	3/8。
3	土師器皿	口径 19.7 底径 — 器高 (3.3)	浅い体部から、口縁部は彎曲気味に外反。底部は緩やかな丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—橙～にぶい橙色	3/4。
4	須恵器坏蓋	口径 11.2 摘み 2.0 器高 3.7	膨らみのない天井部で、断面が正三角形の返りを付す。摘みは宝珠状。	体部ロクロ整形、天井部右回転ヘラケズリ。	白色粒 内外—灰色	ほぼ完形。
5	土師器甕	口径 23.0 底径 4.2 器高 34.9	粘土紐積み上げ成形。膨らみのない長い胴部から、口縁部は彎曲気味に大きく外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	4/5。
6	土師器甕	口径 22.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみのない長い胴部から、口縁部は大きく外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・石英・角閃石 内外—橙色	口縁部～胴部下位 5/6。
7	土師器甕	口径 20.7 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみの少ない胴部から、口縁部は彎曲気味に大きく外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外—橙～にぶい黄橙色	口縁部～胴部中位 3/4。
8	土師器甕	口径 (24.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみの少ない胴部から、口縁部は直線的に大きく外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫・雲母 内外—橙色	口縁部～胴部上位 3/8。

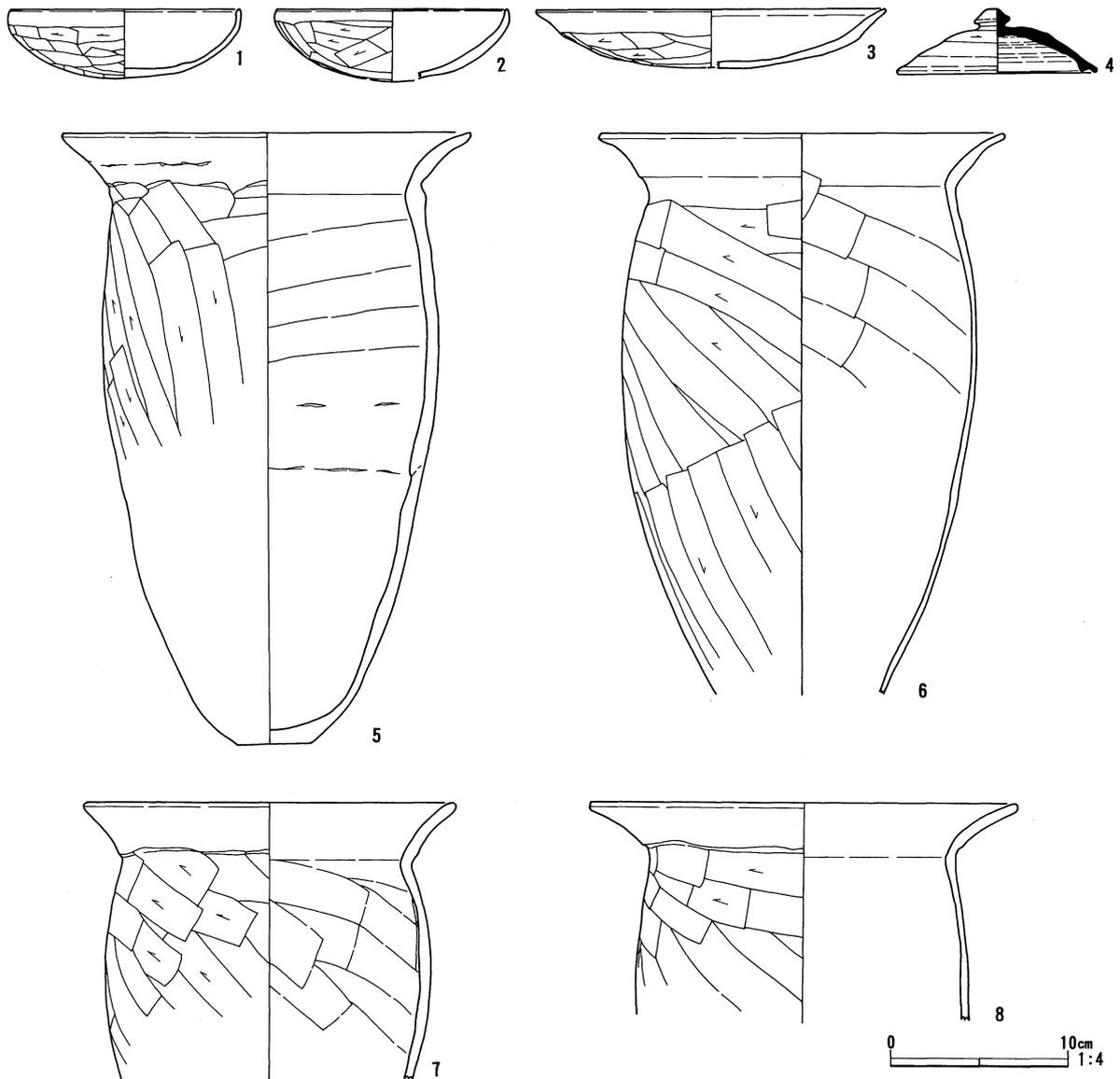


図436 SI-65 出土遺物

SI-66 (図437)

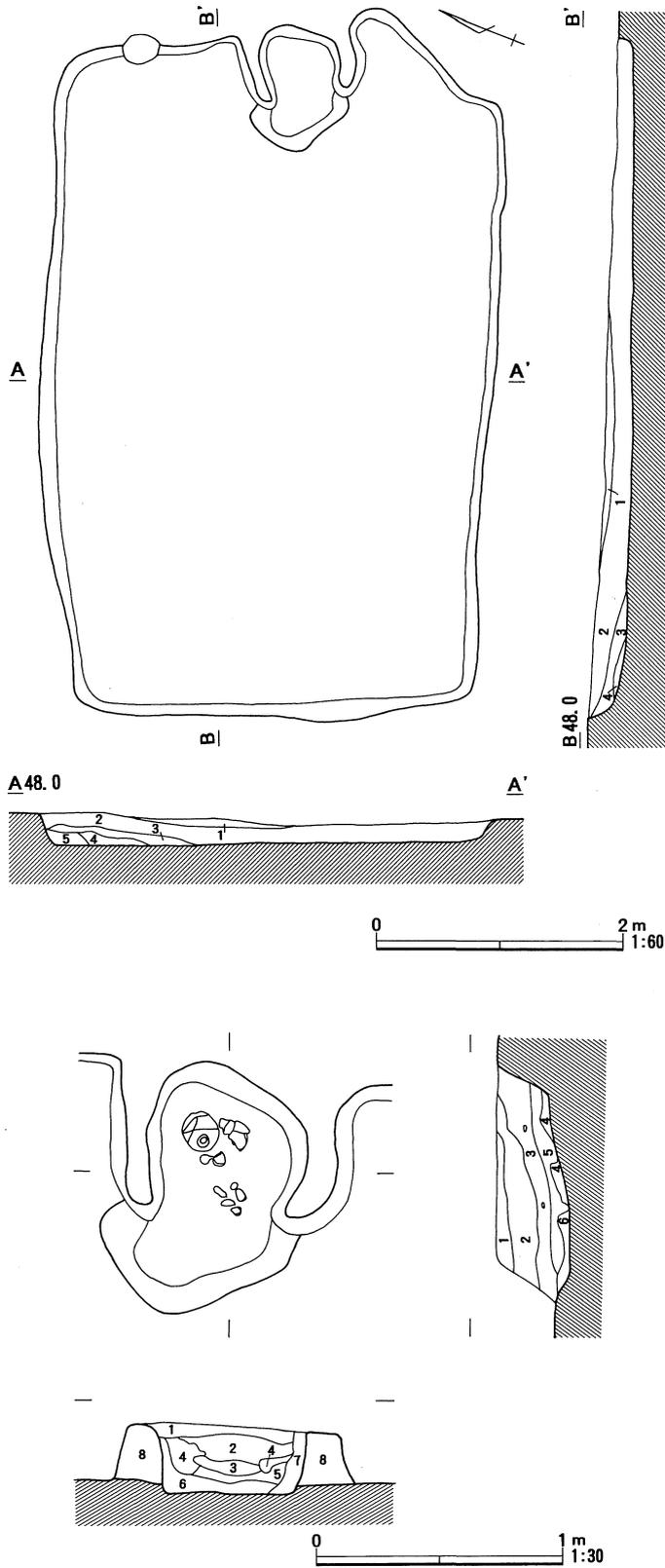
位置：N-12、0-12グリッドに位置する。

形状：完存する。プランは、5.67×3.7mの長方形を呈する。

構造：覆土は全体にロームブロック、焼土ブロックを含む暗褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴は存在を確認できない。東壁中央にカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、幅65cm、奥行105cmを測る。袖部は、ロームブロック、焼土ブロック、灰白色粘質土ブロックを少量含む暗褐色土で構築している。煙道部は確認できない。床は全面的な貼床構造をもたないが、東壁寄りに不整形の掘り込みがあり、ロームブロックを含む暗褐色土を充填している。その他の部分はローム層の掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは15～25cmを測る。

遺物：遺物は、カマド内で土師器台付甕1点、甕1点、床面直上で土師器坏6点、須恵器坏1点、高台皿1点、高台皿2点を検出したほか覆土から多量の土師器、須恵器片が出土した。

時期：所属時期はカマド内および床面直上出土遺物の型式から9世紀後半代と判断される。



SI-66 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に、焼土ブロック (径1~2mm)、白色パミス (径1~2mm) を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、焼土ブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に、焼土ブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 5 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む。

SI-66 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、炭化物ブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を少量含む、炭化物ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 6 黒色土 炭化物ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 7 黒褐色土 焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 8 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm)、焼土ブロック (径1~5mm)、灰白色粘質土ブロック (径1~5mm) を少量含む。

図437 SI-66

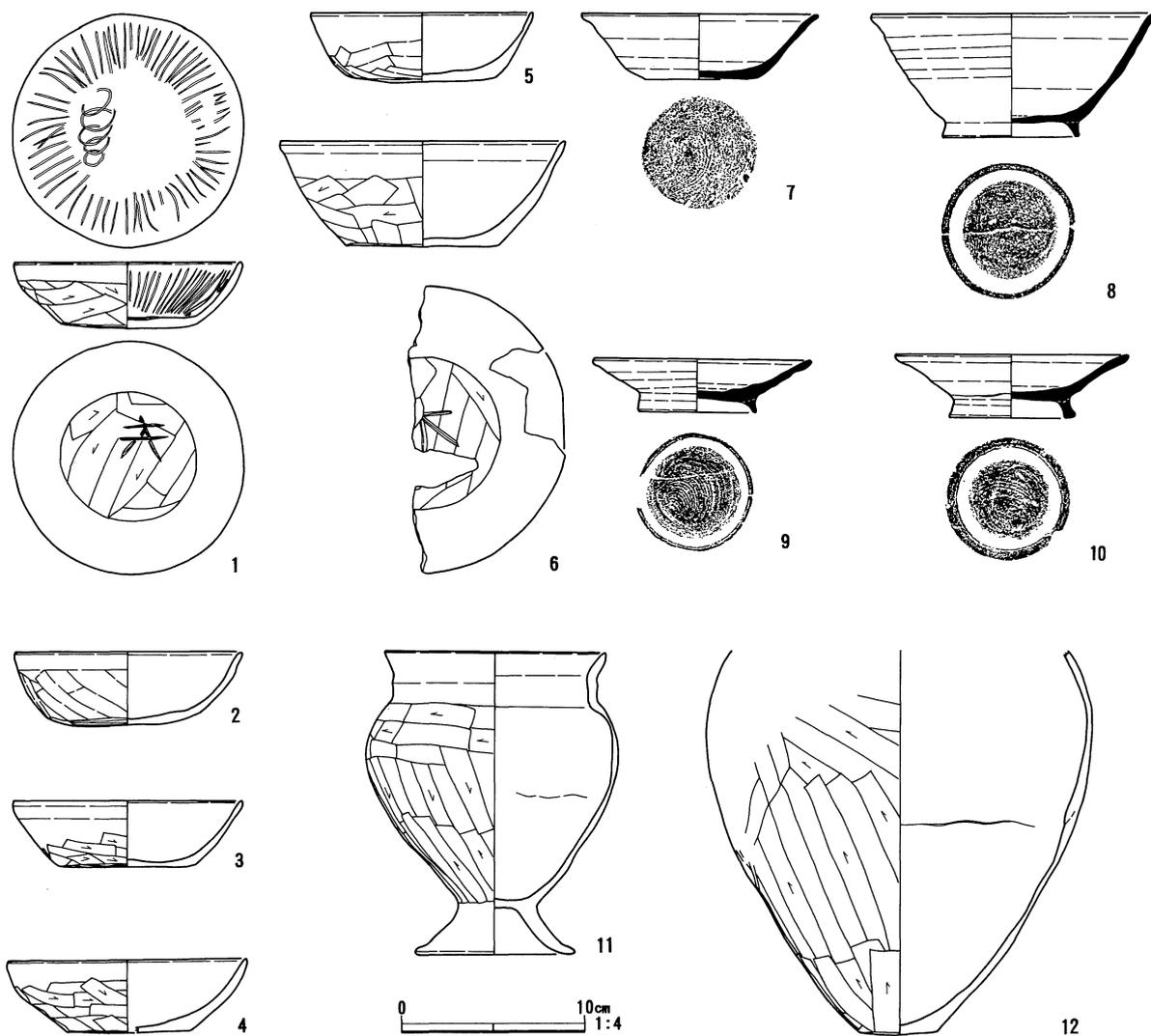


図438 SI-66 出土遺物

SI-66

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.3 底径 7.5 器高 3.6	彎曲気味に立ち上がる体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文、底部螺旋状暗文。	白色粒・角閃石・礫・石英 内外一明赤褐～橙色	完形。 底部外面に焼成前の線刻。
2	土師器 坏	口径 12.4 底径 8.4 器高 4.1	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は外反気味。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外一明赤褐色	ほぼ完形。
3	土師器 坏	口径 12.4 底径 7.4 器高 3.6	体部は直線的に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	褐色粒・角閃石・石英・礫 内外一橙色	ほぼ完形。
4	土師器 坏	口径 13.0 底径 6.5 器高 4.0	体部は彎曲気味に立ち上がる。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫 内外一明赤褐色	底部一部欠損。

5	土師器 坏	口径 12.0 底径 7.8 器高 3.8	体部は緩やかに立ち上がる。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	褐色粒・角閃石・礫 内外一橙色	口縁部～底部 7/8。
6	土師器 坏	口径 (15.5) 底径 8.4 器高 5.9	体部は直線的に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・石英・礫 内外一明赤褐色	1/2。底部外面に焼成前の線刻。
7	須恵器 坏	口径 (12.9) 底径 6.0 器高 3.6	体部は緩やかに立ち上がり、口唇部は彎曲気味に外反。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・褐色粒・礫 内外一灰黄～にぶい黄橙色	1/2。
8	須恵器 碗	口径 15.4 底径 7.4 器高 6.8	体部は緩やかに立ち上がり、口唇部は彎曲気味に外反。高台はやや開く。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り、高台貼付時周辺部ナデ。	白色粒・礫 内外一にぶい黄～にぶい黄橙色	体部一部欠損。
9	須恵器 高台皿	口径 11.6 底径 6.3 器高 2.9	体部は直線的に立ち上がり、高台はやや開く。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・礫 内外一明黄褐～黄灰色	7/8。
10	須恵器 高台皿	口径 12.7 底径 6.4 器高 3.5	体部は直線的に立ち上がり、端部が広い高台がやや開いて付く。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・礫 内外一灰色	3/5。
11	土師器 台付甕	口径 12.0 底径 8.3 器高 16.6	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。台部は「ハ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外一橙色	台部 3/4 欠損。
12	土師器 甕	口径 — 底径 4.2 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、底部は小さい。	外面一胴部上位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外一橙～にぶい黄橙色	胴部上位～底部 残存。

SI-67 (図439)

位置：N-12グリッドに位置する。

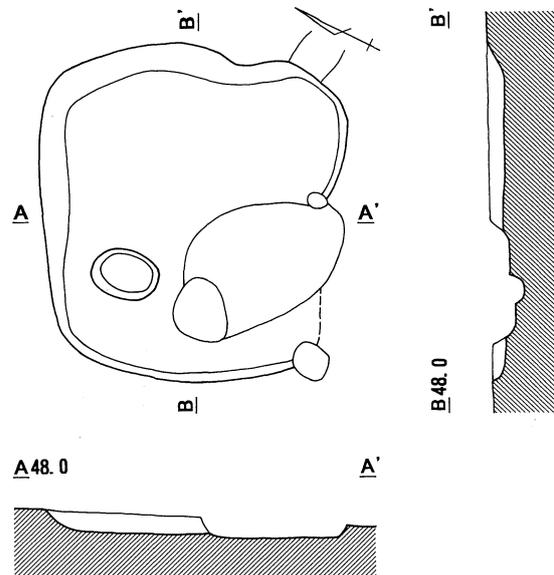
形状：南半分の中央をSK-523により切られている。

また、地山確認面が南方に向かって傾斜しているため南壁立ち上がりのほとんどを失っている。プランは一辺2.5m前後の不整形を呈する。

構造：覆土は単層で、ロームブロック、焼土ブロック、白色パミスを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は存在を確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは最深部で15cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から土師器坏3点、盤2点、甕4点、須恵器坏1点、碗1点を検出したほか土師器小片多数を検出した。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。



SI-67 土層説明 (単層)

黒色土 ロームブロック (径2～10mm) を多量に、焼土ブロック (径1～2mm)、白色パミス (径1～2mm) を少量含む。

図439 SI-67

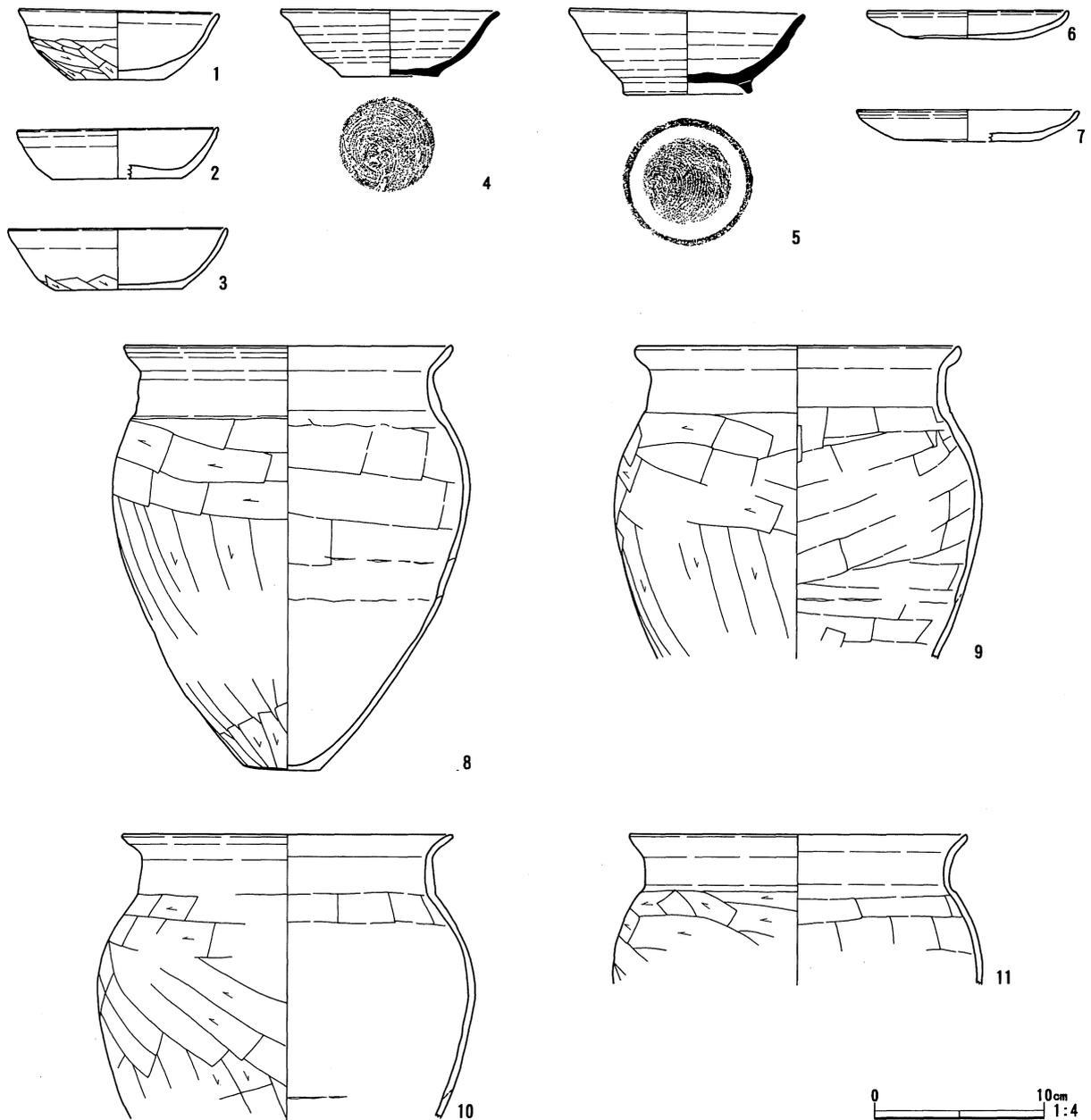


図440 SI-67 出土遺物

SI-67

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 11.7 底径 5.4 器高 4.1	上位に膨らみをもつ体部から、口縁部は僅かに外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一明赤褐色	3/4。
2	土師器 坏	口径 12.8 底径 7.4 器高 3.7	体部から口縁部にかけて緩やかに外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙～にぶい褐色	1/2。
3	土師器 坏	口径 (11.8) 底径 (7.6) 器高 3.0	浅い体部から口縁部にかけて緩やかに外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部不明瞭、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・石英 内外一橙色	2/5。

4	須恵器 坏	口径 12.8 底径 5.6 器高 3.9	僅かな膨らみをもつ体部から、口縁部は水平気味に外反。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・礫 内外—黄灰色	ほぼ完形。
5	須恵器 碗	口径 13.8 底径 7.0 器高 5.0	膨らみのない体部から、口縁部は緩やかに外反。高台は角状でやや開く。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り、高台貼付時周辺部ナデ。	白色粒・礫・片岩 内外—灰黄色	4/5。
6	土師器 盤	口径 11.8 底径 — 器高 1.7	外彎気味の体部から、口縁部は僅かに内彎。底部は平底。	外面—口縁部～体部不明瞭、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ヨコナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外—橙色	7/8。
7	土師器 盤	口径 (13.0) 底径 (8.5) 器高 1.9	緩やかに立ち上がる浅い体部、口縁部はやや立ち気味。底部は平底。	外面—口縁部～体部不明瞭、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ヨコナデ。	白色粒・角閃石 内外—橙色	2/5。
8	土師器 甕	口径 19.4 底径 4.6 器高 25.3	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外—明赤褐～灰褐色	3/4。
9	土師器 甕	口径 (19.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外—明赤褐～にぶい赤褐色	口縁部～胴部中位 2/5。
10	土師器 甕	口径 (19.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部～胴部中位 1/4。
11	土師器 甕	口径 (18.2) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—橙色	口縁部～胴部上位 1/2。

SI-68 (図441)

位置：Q-11グリッドに位置する。

形状：大半が SI-69 と重複し、北および西壁周辺のみを残す。プランは、一辺3.2m前後の方形を呈するものと推定される。

構造：覆土は、単層でロームブロック黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は存在を確認できない。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には緩やかな起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは18cm前後を測る。

遺物：遺物は、SI-69 とともに、確認面上層および覆土から坏および甕を中心とする多量の土師器破片を検出した。土層断面の観察による SI-69 との新旧関係は明らかに本住居が古い、両住居の確認面上層出土遺物の帰属については厳密な識別は困難である。

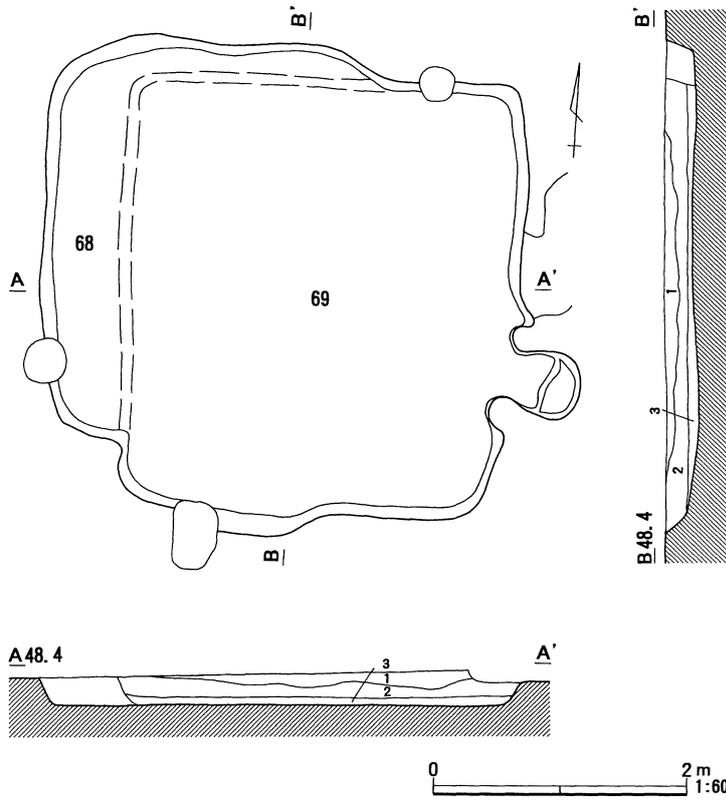
時期：所属時期は確認面上層および覆土出土遺物の型式から 9 世紀中葉と判断される。

SI-69 (図441)

位置：Q-11・12グリッドに位置する。

形状：北および西壁の大半が SI-68 と重複し、明瞭な立ち上がりを確認できない。また東壁立ち上がり上位の一部が攪乱により切られている。プランは、3.5×3.2mの隅丸方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は全体にロームブロックを多量に含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴は存在を確認できない。東壁中央の南東隅寄りにカマドを付設する。カマドは壁掘込構造の燃焼部をもち、中間部に段を

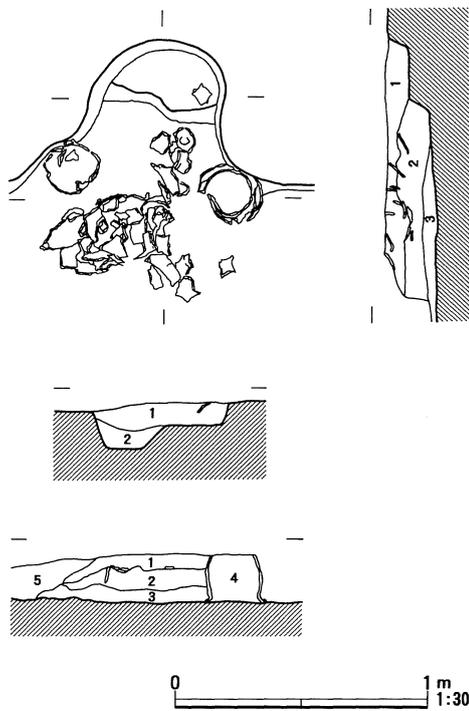


SI-68 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1~10 mm)、白色パミス (径 1 mm ±) を多量に含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1~15 mm) を多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径 1~2 mm) を多量に含む。

SI-69 土層説明 (単層)

- 黒褐色土 ロームブロック (径 1~2 mm) を少量含む。



SI-69 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径 1 mm ±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 炭化物ブロック (径 1~5 mm)、焼土ブロック (径 1~10 mm) を多量に含む。
- 3 黒褐色土 炭化物ブロック (径 1~5 mm) を多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径 1~2 mm)、焼土ブロック (径 1~5 mm)、灰褐色粘質土ブロック (径 1~5 mm) を少量含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径 1~2 mm) を少量含む。

図441 SI-68・69

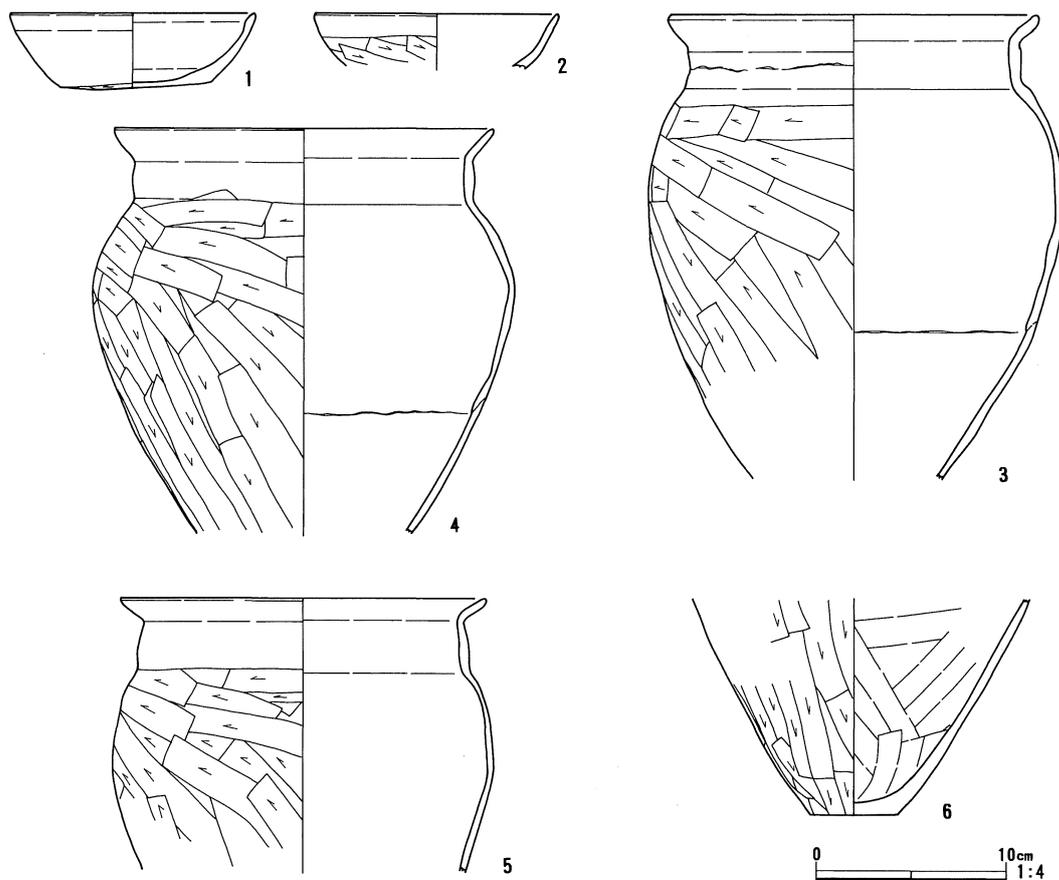


図442 SI-68 出土遺物

SI-68

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.8 底径 8.0 器高 4.2	体部は内彎気味に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・雲母 内外一赤褐色	口縁部一部欠損。
2	土師器 坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 —	体部は内彎気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ナデ。	白色粒 内外一にぶい黄褐色	口縁部～体部 1/2。
3	土師器 甕	口径 19.2 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明褐色	口縁部～胴部下位 2/3。
4	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	黒色粒・褐色粒・雲母 内外一暗褐色	口縁部～胴部下位 1/5。
5	土師器 甕	口径 (19.2) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	黒色粒・褐色粒・雲母 内外一にぶい褐色	口縁部～胴部中位 1/3。
6	土師器 甕	口径 — 底径 4.7 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面一胴部下位斜縦位ヘラケズリ。内面一胴部斜縦位ヘラナデ。	褐色粒・黒色粒 内外一にぶい赤褐色	胴部下位～底部 残存。

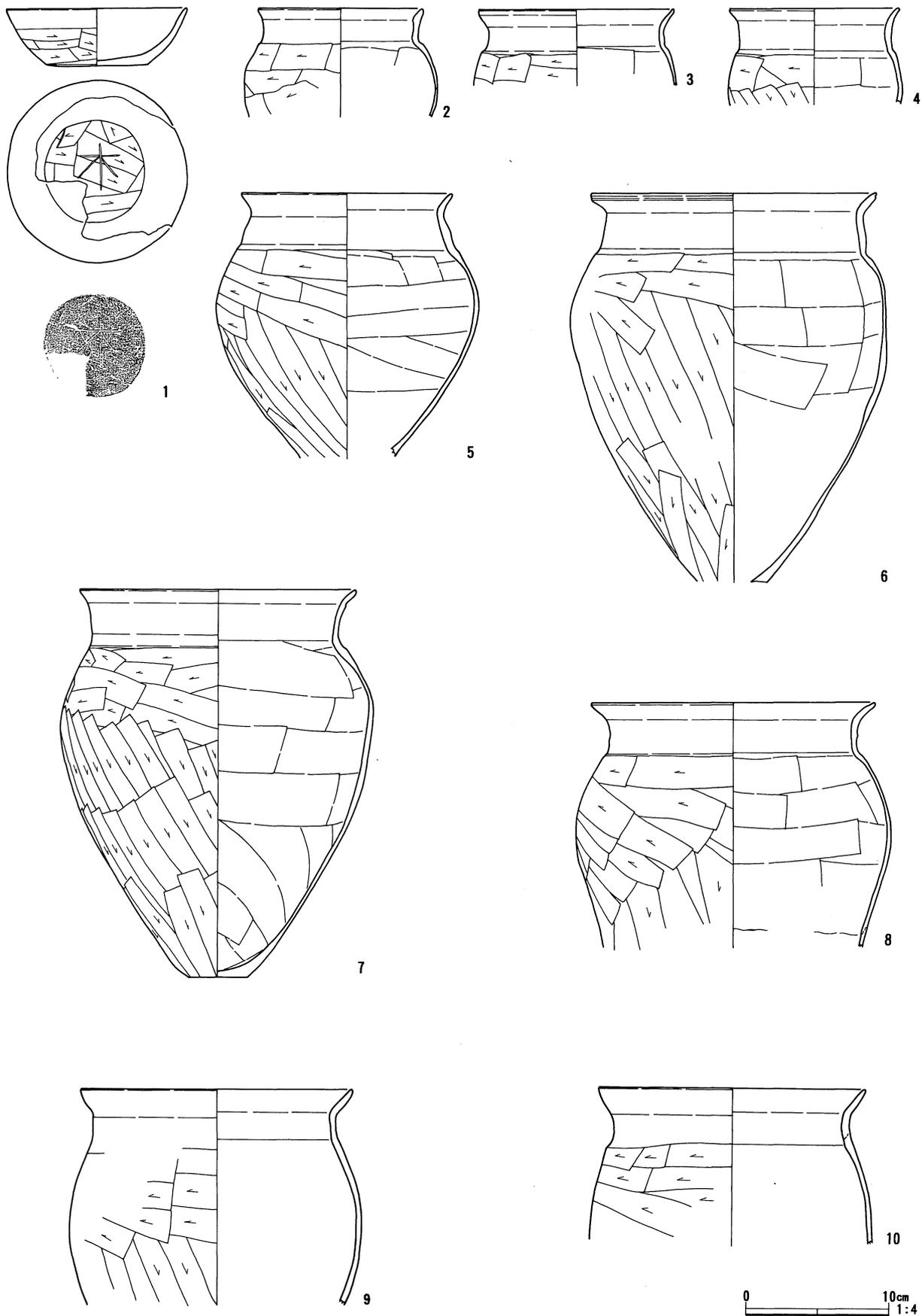


图443 SI-69 出土遺物 (1)

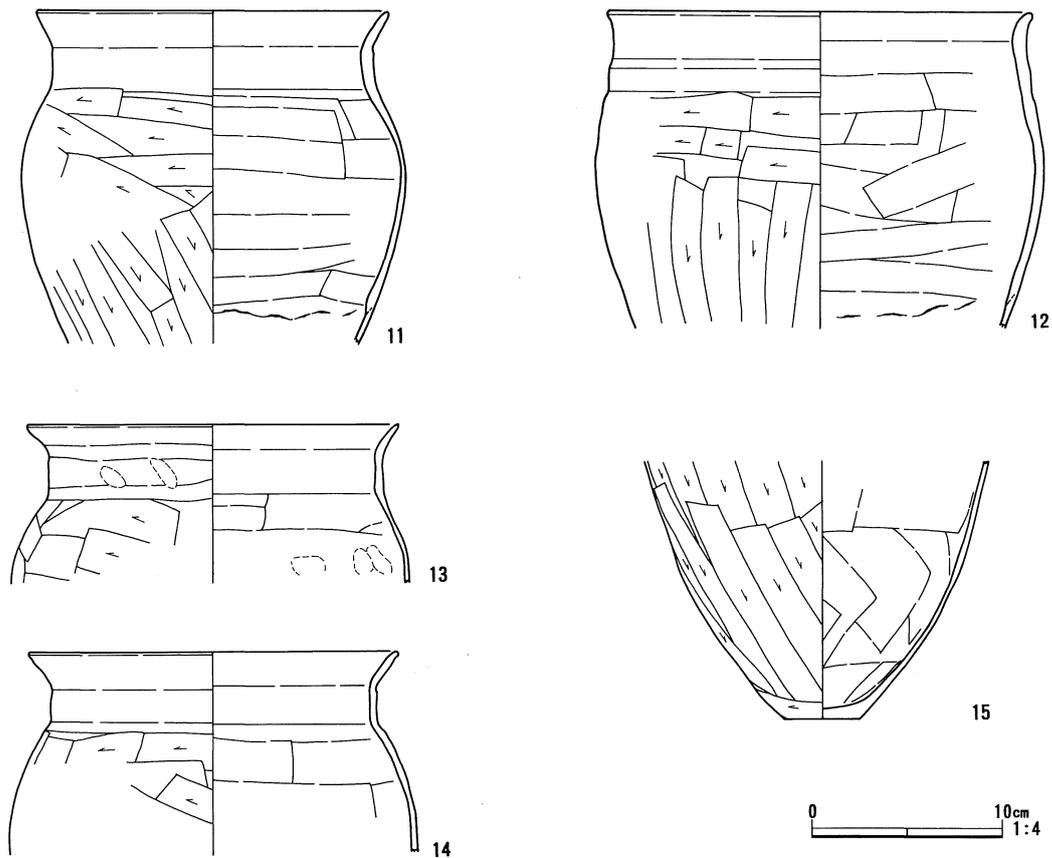


図444 SI-69 出土遺物 (2)

SI-69

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (12.5) 底径 7.0 器高 4.0	彎曲する体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・角閃石 内外一灰黄褐色	1/3。底部外面に焼成前の線刻「木」。
2	土師器 小型甕	口径 11.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・石英 内外一にぶい赤褐色	口縁部～胴部中位 2/3。
3	土師器 小型甕	口径 13.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石・石英 内外一明赤褐色	口縁部～胴部上位 1/2。
4	土師器 小型甕	口径 (11.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 内外一橙色	口縁部～胴部中位 1/3。
5	土師器 台付甕	口径 14.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	黒色粒 内外一明赤褐色	口縁部～胴部下位 1/2。
6	土師器 甕	口径 19.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一明赤褐色	口縁部～胴部下位 3/4。

7	土師器 甕	口径 19.2 底径 4.0 器高 27.3	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外一にぶい黄褐色	3/5。
8	土師器 甕	口径 (19.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・角閃石 内外一にぶい橙色	口縁部～胴部中位1/3。
9	土師器 甕	口径 18.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・石英 内外一明赤褐色	口縁部～胴部中位1/8。
10	土師器 甕	口径 18.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	褐色粒 内外一赤褐色	口縁部～胴部中位1/2。
11	土師器 甕	口径 (18.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外一赤褐色	口縁部～胴部中位1/5。
12	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は崩れた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	角閃石 内外一にぶい褐色	口縁部～胴部中位1/6。
13	土師器 甕	口径 19.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・石英 内外一橙色	口縁部～胴部上位3/4。
14	土師器 甕	口径 (19.2) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・角閃石 内外一にぶい赤褐色	口縁部～胴部上位1/3。
15	土師器 甕	口径 — 底径 3.8 器高 —	粘土紐積み上げ成形。小さな底部。	外面一胴部下位斜縦位ヘラケズリ。内面一部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一褐色	胴部中位～底部残存。

有する。幅55cm、奥行約70cmを測る。袖部はロームブロック、焼土ブロック、灰白色粘質土ブロックを少量含む暗褐色土で構築している。右袖部の先端に土師器甕を倒立状態で埋め込んでいる。煙道部は確認できない。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には緩やかな起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは22～28cmを測る。

遺物：遺物は、SI-69とともに、確認面上層および覆土から坏および甕を中心とする多量の土師器破片を検出した。とくに、覆土中の甕片は、細かく破碎されているものがあり、本住居跡はSI-68とともに本来の機能を停止した後、土器捨て場として使用されていたものと判断される。

時期：所属時期は覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

SI-70 (図445)

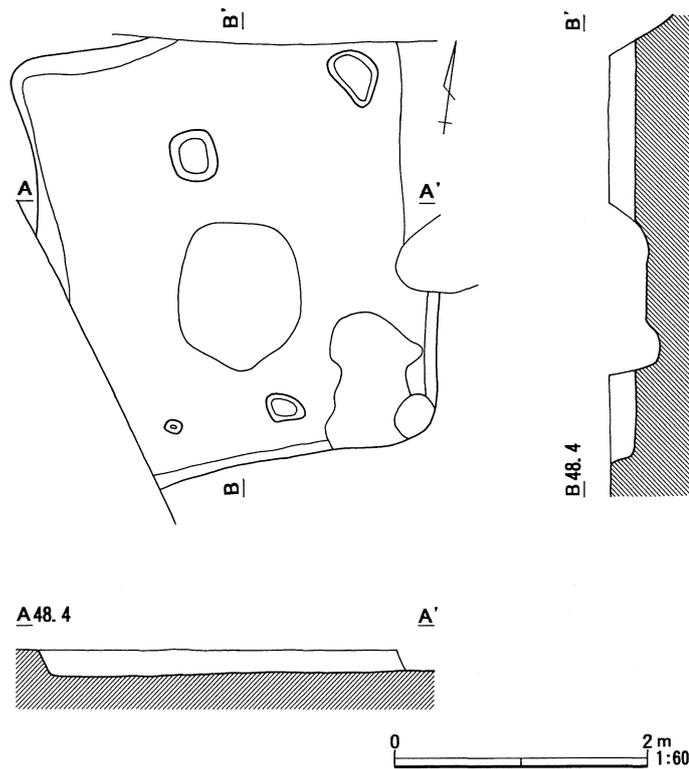
位置：R-11グリッドに位置する。

形状：北壁中央から北東隅、東壁中央にかけてをSD-20、SK-585、攪乱等により切られている。プランは、3.5×3.2m程度の不整形長方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は単層で、ロームブロック、白色パミスを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴は存在を確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは15~20cmを測る。

遺物：遺物は、南壁および東壁の直下から中央部にかけての床面直上で、土師器坏1点、小型台付甕1点、甕2点、須恵器高台碗2点のほか覆土から土師器片若干を検出した。

時期：所属時期は床面直上出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。



SI-70 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック(径1~15mm)、白色パミス(径1mm±)を多量に含む。

図445 SI-70

SI-70

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 11.4 底径 7.0 器高 3.2	彎曲気味に立ち上がる体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面—口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	4/5。
2	須恵器碗	口径 (12.0) 底径 7.2 器高 5.7	膨らみのない体部。高台は「ハ」字状を呈す。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・黒色粒・礫・石英 内外—黄灰色	3/5。
3	須恵器碗	口径 14.4 底径 — 器高 —	僅かな膨らみをもつ体部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒 内外—黄灰色	口縁部~底部 2/3。
4	土師器小型台付甕	口径 12.2 底径 8.5 器高 17.2	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。台部は「ハ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒 内外—にぶい赤褐色	3/4。
5	土師器甕	口径 20.0 底径 4.6 器高 29.2	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	1/2。
6	土師器甕	口径 20.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	口縁部~胴部中位 1/2。

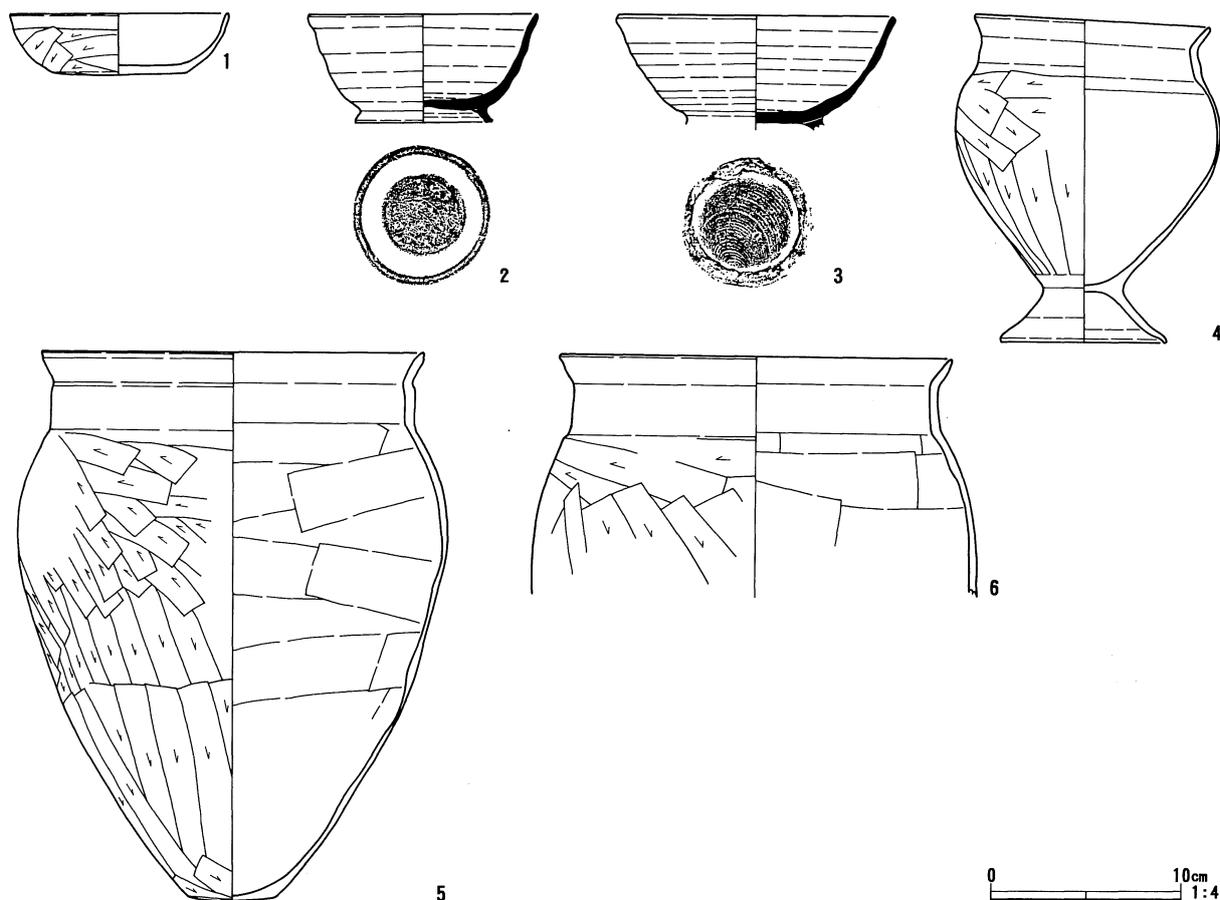


図446 SI-70 出土遺物

SI-71 (図447)

位置：R-10・11、S-10グリッドに位置する。

形状：中央部をSD-27に、南西隅をSW-59に、北東隅際の床を攪乱により切られている。プランは、一辺4.4m前後の不整形を呈する。

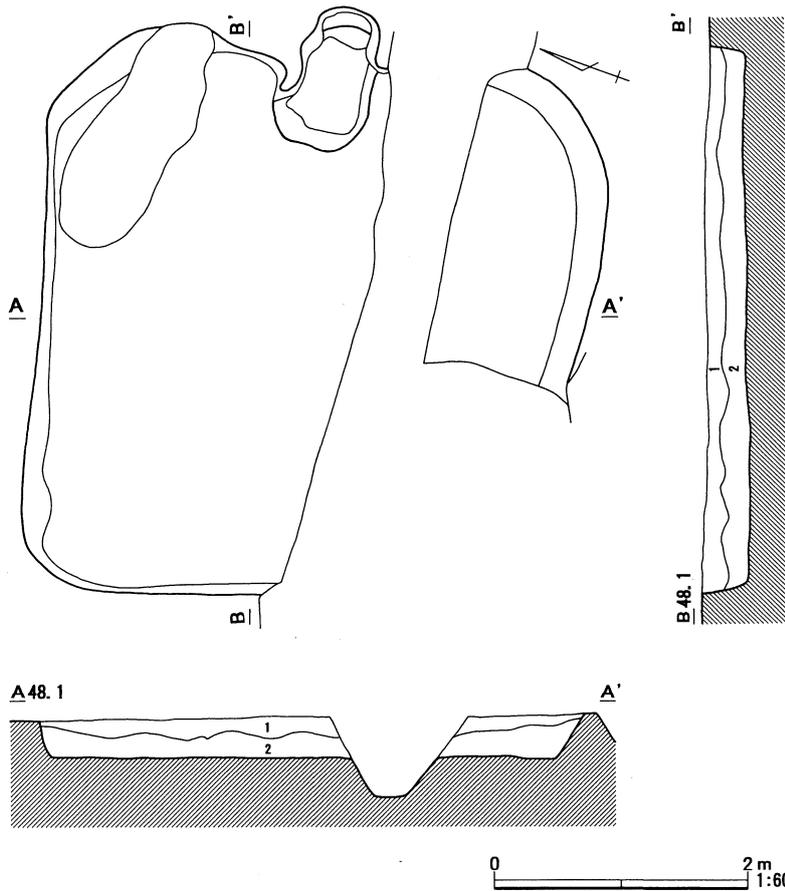
構造：覆土は下層にロームブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴は存在を確認できない。東壁中央にカマドを付設する。ローム掘り残しによる幅広の袖部を基盤にもつ造付構造で、煙道部は確認できない。燃焼部は幅60cm、奥行115cmを測る。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは30～38cmを測る。

遺物：遺物は床面直上で土師器坏9点、鉢1点、小型台付甕6点、甕1点を検出したほか覆土から土師器甕5点および多量の土師器片が出土した。

時期：所属時期は床面直上出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

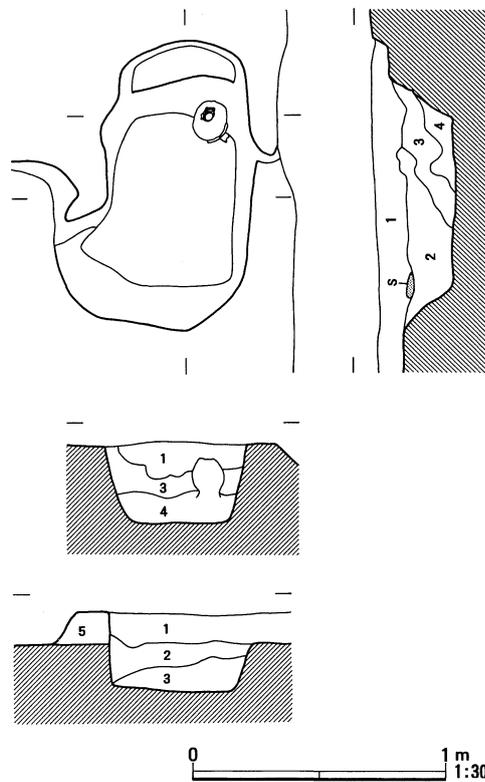
SI-71

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 12.5 底径 7.6 器高 3.9	彎曲気味に立ち上がる体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・石英・礫 内外一橙色	口縁部 1/4 欠損。



SI-71 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5 mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径 1~15mm) を多量に含む。



SI-71 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径 1~5 mm)、焼土ブロック (径 1~3 mm) を多量に、白色パミス (径 1 mm ±) を少量含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック (径 1~5 mm)、焼土ブロック (径 1~3 mm)、白色パミス (径 1 mm ±) を多量に含む。
- 3 黄褐色土 ロームブロック (径 1~5 mm) を多量に、炭化物ブロック (径 1 mm ±)、焼土ブロック (径 1~5 mm) を少量含む。
- 4 黒褐色土 焼土ブロック (径 1~3 mm)、白色パミス (径 1 mm ±) を多量に含む。
- 5 黒色土 ロームブロック (径 1~3 mm)、白色パミス (径 1 mm ±) を多量に含む。

図447 SI-71

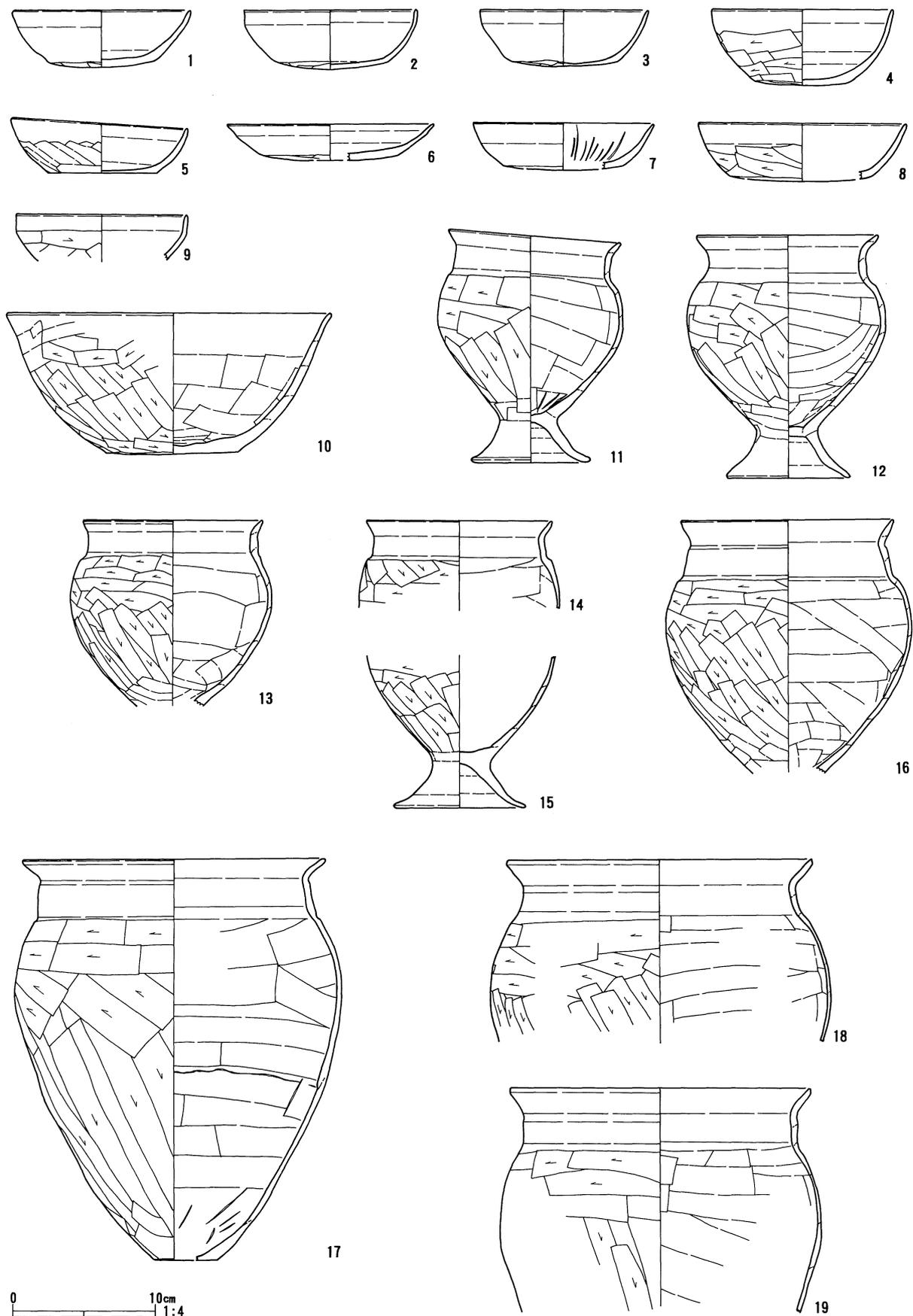


图448 SI-71 出土遺物 (1)

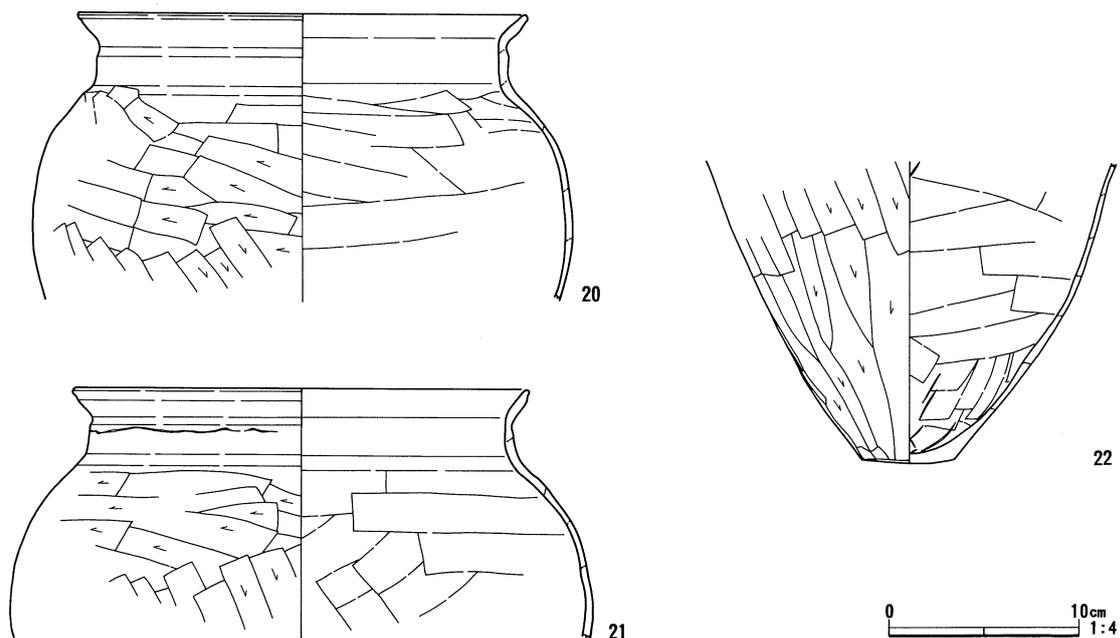


図449 SI-71 出土遺物 (2)

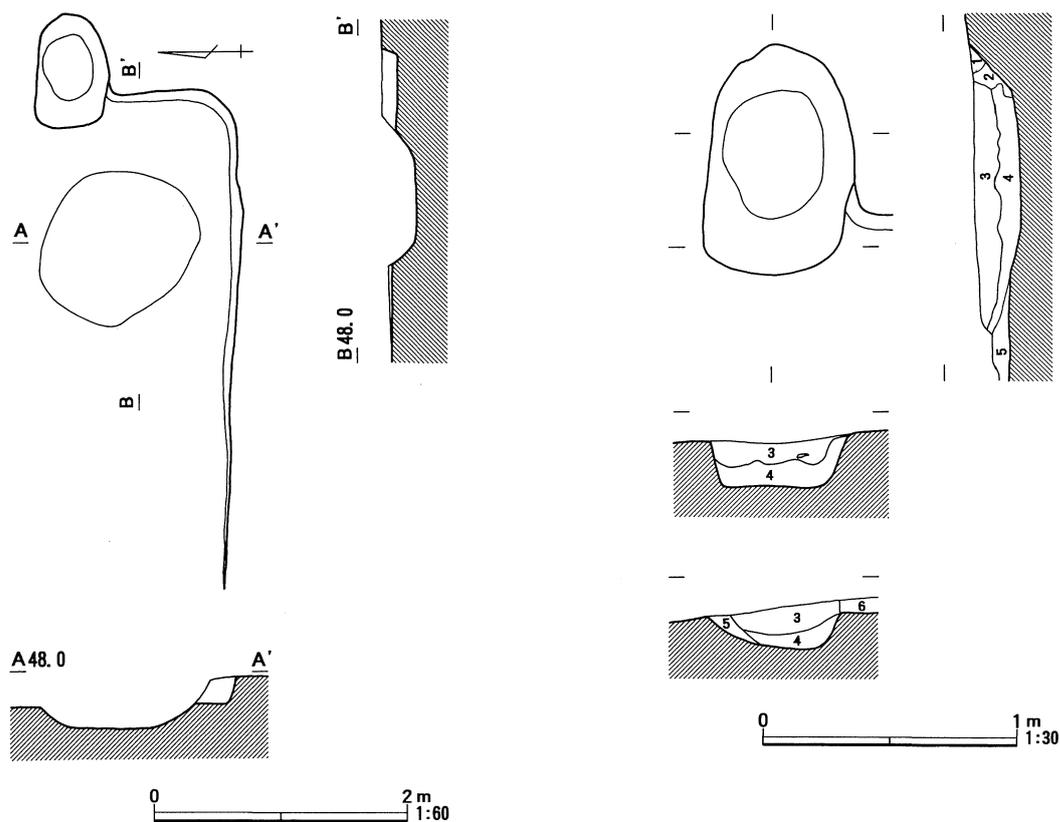
2	土師器 坏	口径 12.1 底径 8.0 器高 4.1	彎曲気味に立ち上がる体部、僅かに内彎する口縁部。底部は丸底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・礫 内外一にぶい赤褐色	体部一部欠損。
3	土師器 坏	口径 11.7 底径 7.3 器高 3.9	彎曲気味に立ち上がる体部。底部は丸底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一不明瞭。	白色粒・褐色粒・礫・雲母 内外一橙色	3/5。
4	土師器 坏	口径 12.6 底径 6.4 器高 5.3	内彎する体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外一にぶい橙色	2/3。
5	土師器 坏	口径 12.2 底径 7.6 器高 3.9	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・礫・雲母 内外一橙色	1/2。
6	土師器 坏	口径 (14.4) 底径 — 器高 (2.5)	緩やかに立ち上がる浅い体部、僅かに外反する口縁部。底部は緩やかな丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外一にぶい橙色	1/8。
7	土師器 坏	口径 12.7 底径 — 器高 3.2	直線的に立ち上がる体部、緩やかに外反する口縁部。底部は平底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部放射状暗文。	白色粒・褐色粒・礫 内外一橙色	1/8。
8	土師器 坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 (3.9)	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・礫 内外一橙色	1/6。
9	土師器 坏	口径 (11.8) 底径 — 器高 —	直立気味の口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外一にぶい橙色	口縁部～体部 1/4。
10	土師器 鉢	口径 (22.6) 底径 9.4 器高 10.0	僅かな膨らみをもつ胴部、彎曲気味に外反する口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラナデ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外一にぶい赤褐色	2/3。

11	土師器 小型台付甕	口径 11.9 底径 7.6 器高 16.5	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。台部は「ハ」字状に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。 内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・ 礫・雲母 内外一橙色	3/4。
12	土師器 小型台付甕	口径 12.6 底径 (8.4) 器高 17.2	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。台部は「ハ」字状に開く。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。 内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・ 雲母 内外一明赤褐色	3/4。
13	土師器 小型台付甕	口径 12.5 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 雲母 内外一にぶい赤褐色	胴部1/3。 台部欠損。
14	土師器 小型台付甕	口径 (12.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 雲母 内外一に ぶい赤褐色	口縁部～胴部上位1/3。
15	土師器 小型台付甕	口径 — 底径 8.9 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、台部「ハ」字状を呈す。	外面一胴部中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面一胴部ヘラナデ、台部ヨコナデ。	黒色粒・雲母 内外一にぶい褐色	胴部中位～台部4/5。
16	土師器 台付甕	口径 14.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	黒色粒・褐色粒・ 雲母 内外一にぶい褐色	口縁部～胴部下位4/5。
17	土師器 甕	口径 21.0 底径 4.4 器高 28.1	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・ 黒色粒・雲母 内外一橙～にぶい褐色	3/4。
18	土師器 甕	口径 (21.1) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 雲母 内外一橙色	口縁部～胴部中位1/4。
19	土師器 甕	口径 (20.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 雲母 内外一橙色	口縁部～胴部中位1/2。
20	土師器 甕	口径 (23.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外一橙色	口縁部～胴部中位1/4。
21	土師器 甕	口径 (23.7) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に大きな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・ 雲母 内外一橙色	口縁部～胴部中位1/4。
22	土師器 甕	口径 — 底径 4.8 器高 —	粘土紐積み上げ成形。緩やかな膨らみをもつ胴部、小さな底部。	外面一胴部中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・ 雲母 内外一橙色	胴部中位～底部3/4。

SI-72 (図450)

位置：Q-10、R-10グリッドに位置する。

形状：地山確認面が北西に向かって傾斜しているため、南壁および東壁の一部以外の大部分を失っている。また、床面中央部がSK-513により切られている。



SI-72 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~15mm)、白色パミス (径1mm±) を多量に含む。

SI-72 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径1~2mm) を多量に含む。
- 2 黄褐色土 ロームブロック層。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、炭化ブロック (径1~10mm)、焼土ブロック (径1~2mm) を多量に含む。
- 5 褐色土 ロームブロック (径1~15mm) を多量に含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、焼土ブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を多量に含む。

図450 SI-72

構造：覆土は単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁にカマドを付設する。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは25cm前後を測る。

遺物：遺物は、南東隅の覆土から土師器坏1点、小型台付甕1点のほか土師器片若干を検出したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期の詳細は不明であるが、覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

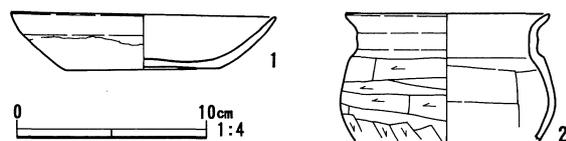


図451 SI-72 出土遺物

SI-72

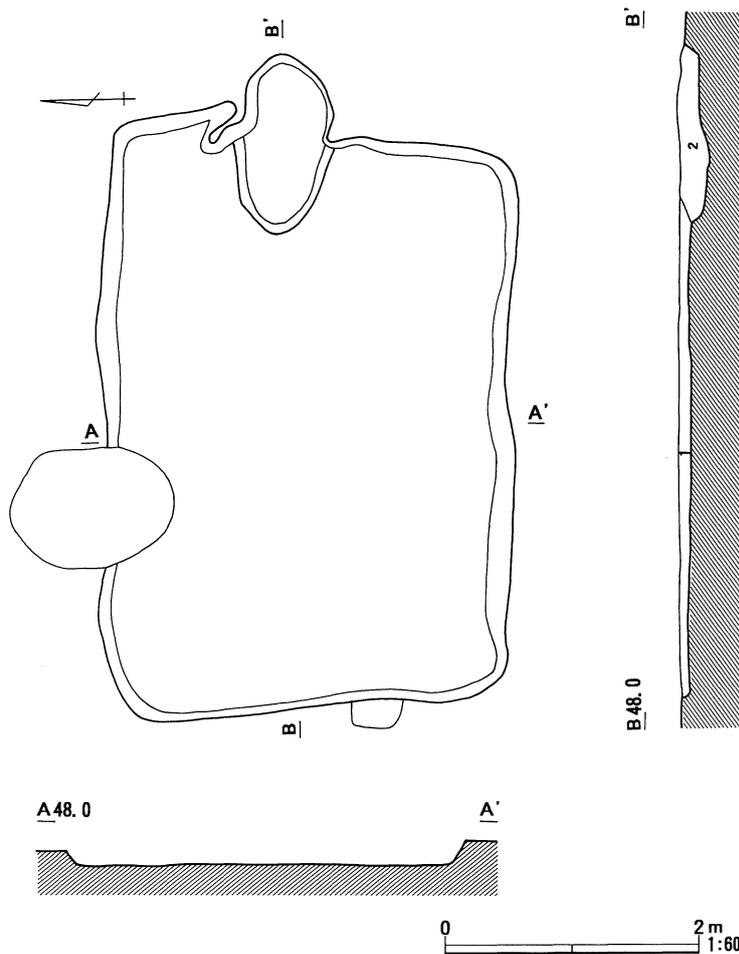
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 13.9 底径 8.0 器高 3.1	直線的な浅い体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部ナデ。	雲母・石英 内外一橙色	3/4。
2	土師器 小型甕	口径 10.7 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	黒色粒 内外一にぶい赤褐色	口縁部～胴部中位 1/4。

SI-73 (図452・453)

位置：R-10、S-10グリッドに位置する。

形状：北壁の一部をSK-599により切られている。プランは、4.8×3.2mの長方形を呈するが、東壁カマドを境界に立上がりの位置を変えている。

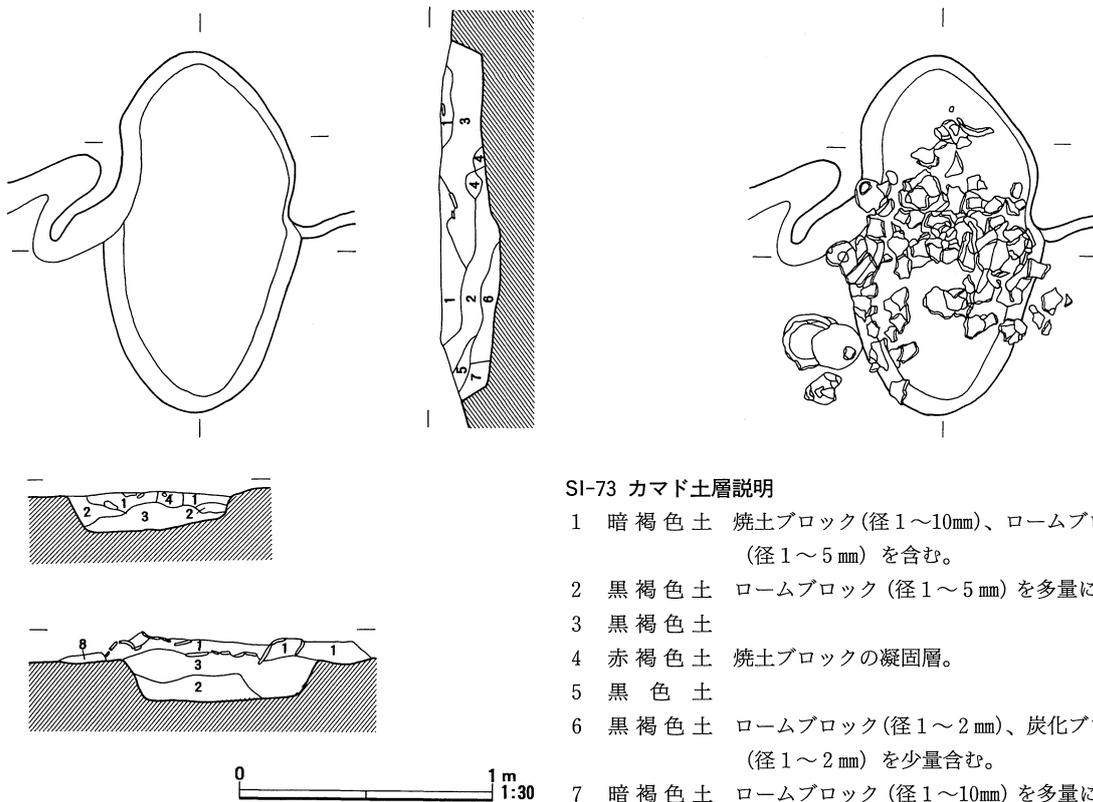
構造：覆土は、単層でロームブロックを含む暗褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁中央にカマドを付設する。カマドを境界として東壁の立ち上がりの位置が異なり、左側のみ明瞭な袖部が遺存する。袖部燃焼部の幅約70cm、奥行約80cmを測る。また、焚口の手前側にも床面を掘り込んだ落ち込みがのびている。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは30cm前後を測る。



SI-73 土層説明

- 1 暗褐色土 ロームブロック (径1～5mm)を多量に含む。
- 2 カマド覆土

図452 SI-73



SI-73 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 焼土ブロック(径1~10mm)、ロームブロック(径1~5mm)を含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック(径1~5mm)を多量に含む。
- 3 黒褐色土
- 4 赤褐色土 焼土ブロックの凝固層。
- 5 黒色土
- 6 黒褐色土 ロームブロック(径1~2mm)、炭化ブロック(径1~2mm)を少量含む。
- 7 暗褐色土 ロームブロック(径1~10mm)を多量に含む。
- 8 褐色土 ロームブロック(径5~15mm)、白色パミス(径1mm土)を多量に含む。

図453 SI-73 カマド

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏9点、土師器皿1点、小型甕2点、甕8点、須恵器坏3点、須恵器高台皿1点、須恵器甕1点、灰釉長頸壺1点を検出したほか、土師器片若干が出土したが、明らかに本住居跡に伴うと判断されるものは皆無であった。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

SI-73

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 12.0 底径 7.1 器高 3.6	緩やかに立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外一にぶい橙色	口縁部一部欠損。底部外面に線刻。
2	土師器坏	口径 11.8 底径 7.5 器高 3.8	緩やかに立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	角閃石・石英 内外一にぶい黄橙～黒褐色	口縁部一部欠損。
3	土師器坏	口径 12.5 底径 7.2 器高 3.5	緩やかに立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫・角閃石 内外一にぶい橙色	口縁部一部欠損。
4	土師器坏	口径 (11.7) 底径 7.3 器高 3.2	直線的な体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫 内外一にぶい橙色	口縁部～体部上位3/4欠損。

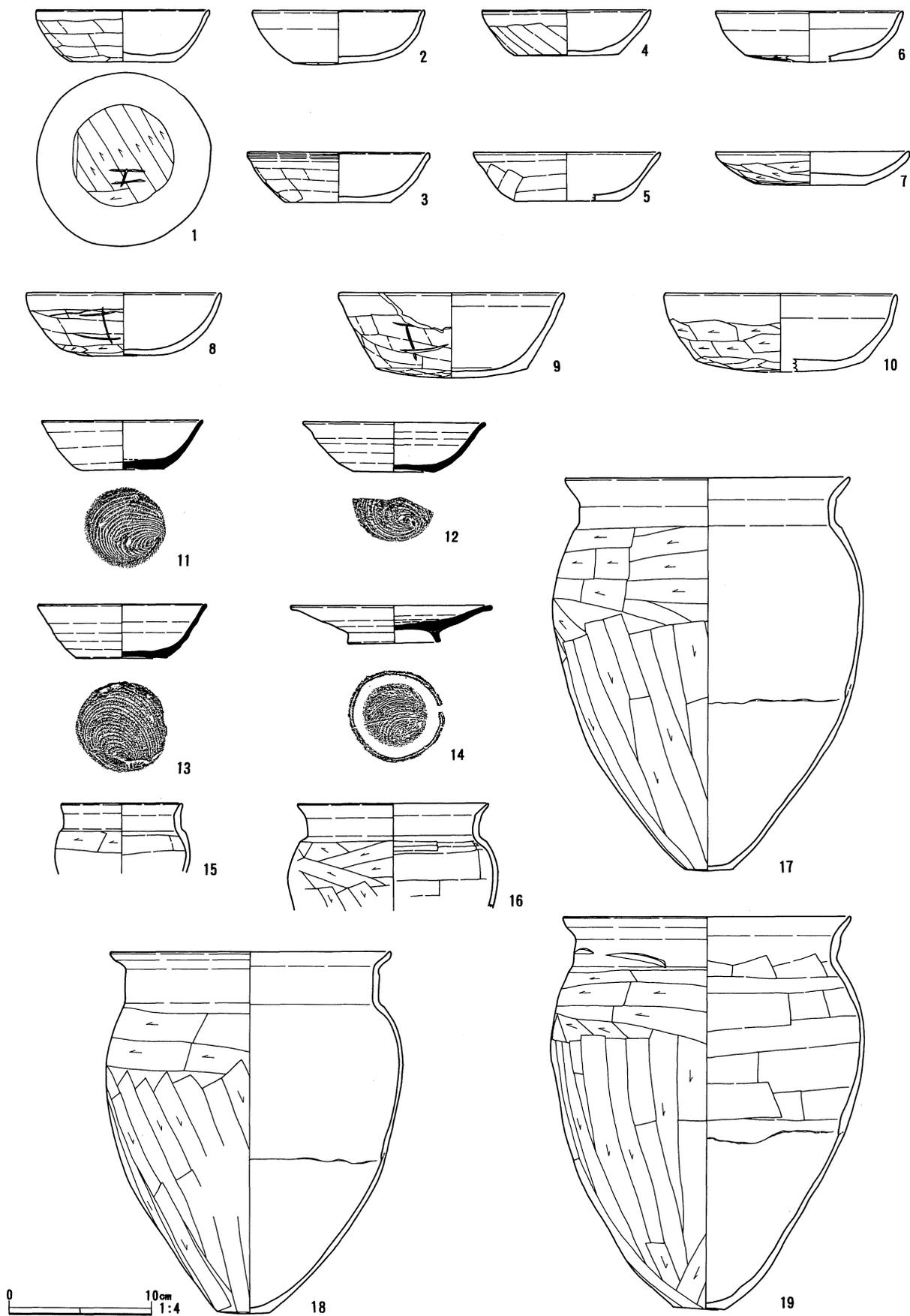


图454 SI-73 出土遺物 (1)

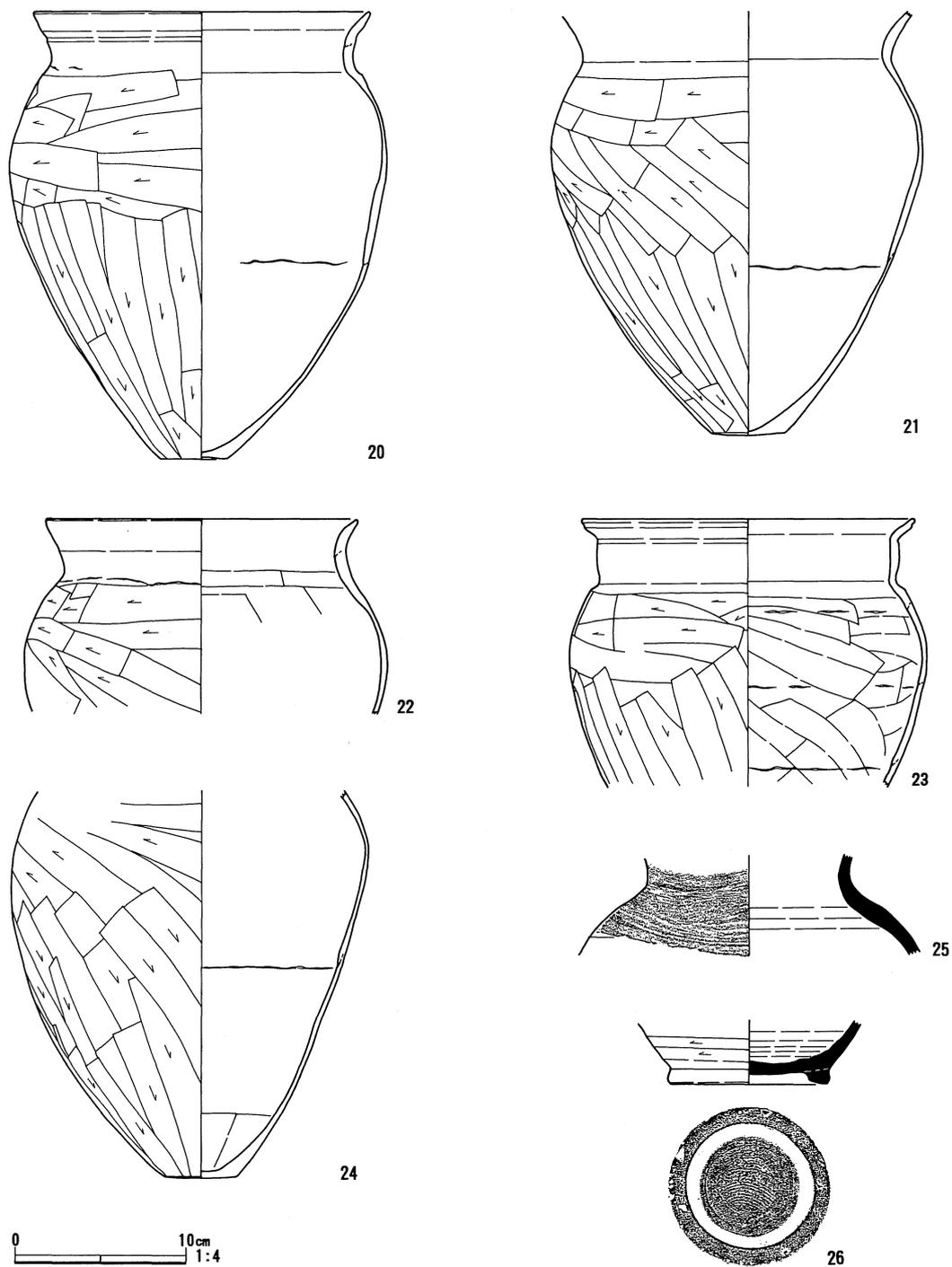


図455 SI-73 出土遺物 (2)

5	土師器 坏	口径 13.0 底径 7.1 器高 3.4	直線的な体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外一橙～にぶい赤褐色	3/8。
6	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (8.8) 器高 (3.5)	緩やかに立ち上がる体部から口縁部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	角閃石・礫・雲母 内外一橙色	1/4。

7	土師器 皿	口径 13.4 底径 7.7 器高 2.4	緩やかに立ち上がる浅い体部。 底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～ 底部ヘラケズリ。内面一口縁部 ヨコナデ、体部～底部ナデ。	褐色粒・礫・角閃 石・石英 内外一橙色	5/6。
8	土師器 坏	口径 13.5 底径 8.3 器高 4.4	彎曲気味に立ち上がる体部から 口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～ 底部ヘラケズリ。内面一口縁部 ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙～にぶ い橙色	口縁部一部欠 損。体部外面に 焼成前の線刻。
9	土師器 坏	口径 (15.6) 底径 (10.6) 器高 6.0	直線的な体部から口縁部。底部 は平底気味。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～ 底部ヘラケズリ。内面一口縁部 ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	白色粒・礫・角 閃石・雲母 内外一にぶい橙 ～にぶい黄橙色	2/3。
10	土師器 坏	口径 (16.0) 底径 (11.8) 器高 (5.5)	直線的な体部、直立気味の口縁 部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～ 底部ヘラケズリ。内面一口縁部 ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	褐色粒・角閃石 内外一にぶい橙 ～にぶい赤褐色	3/8。
11	須恵器 坏	口径 11.2 底径 5.5 器高 3.5	緩やかに立ち上がる体部から口 縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸 切り。	白色粒・褐色粒・ 角閃石 内外一橙色	口縁部一部欠 損。
12	須恵器 坏	口径 (12.6) 底径 (5.6) 器高 3.5	膨らみのない体部、僅かに外反 する口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸 切り。	黒色粒・礫 内外一黄灰色	1/4。
13	須恵器 坏	口径 (11.8) 底径 (6.2) 器高 3.8	直線的な体部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸 切り。	白色粒 内外一暗灰黄色	2/5。
14	須恵器 高台皿	口径 14.0 底径 6.4 器高 2.8	直線的な浅い体部、僅かに外反 する口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸 切り。	白色粒・礫 内外一灰色	3/4。
15	土師器 小型甕	口径 (8.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に膨らみをもち、口縁部は「コ」 字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 半横位ヘラケズリ。内面一口縁 部ヨコナデ、胴部横位ヘラナ デ。	白色粒・角閃石 内外一明赤褐色	口縁部～胴部上 位 2/5。
16	土師器 小型甕	口径 (13.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に膨らみをもち、口縁部は上位 が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位斜横位ヘラケズリ、中位斜縦 位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨ コナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一明赤褐～ にぶい褐色	口縁部～胴部中 位 1/4。
17	土師器 甕	口径 19.8 底径 3.3 器高 27.6	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は上位が開いた「コ」字状を呈 す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦 位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨ コナデ、胴部ヘラナデ。	褐色粒 内外一にぶい黄 褐色	7/8。
18	土師器 甕	口径 18.6 底径 3.6 器高 25.3	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は上位が開いた「コ」字状を呈 す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦 位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨ コナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外一明赤褐色	口縁部～胴部中 位 1/2 欠損。
19	土師器 甕	口径 20.0 底径 3.4 器高 27.6	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は上位が開いた「コ」字状を呈 す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦 位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨ コナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外一赤褐色	3/4。
20	土師器 甕	口径 19.6 底径 3.7 器高 26.3	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦 位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨ コナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	口縁部～胴部上 位 1/4 欠損。
21	土師器 甕	口径 — 底径 4.3 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦 位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨ コナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外一にぶい褐 色	口縁部～胴部 2/3 欠損。

22	土師器甕	口径 18.2 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみをもつ胴部、彎曲気味に外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外一褐色	口縁部～胴部中位残存。
23	土師器甕	口径 (19.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙～にぶい赤褐色	口縁部～胴部中位 1/4。
24	土師器甕	口径 — 底径 4.2 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもつ。	外面一胴部上位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外一明褐色	胴部上位～底部 3/4。
25	須恵器甕	口径 — 底径 — 器高 —	膨らみをもつ胴部。	ロクロ整形、外面一平行タタキ。	白色粒・礫 内外一黄灰色	頸部～胴部上位 1/4。
26	灰釉陶器長頸瓶	口径 — 底径 9.2 器高 —	断面形が台形状の低い高台。	ロクロ整形、底部回転糸切り後周辺部ナデ。	白色粒 内外一黄灰色	胴部中位～底部残存。

SI-74 (図456)

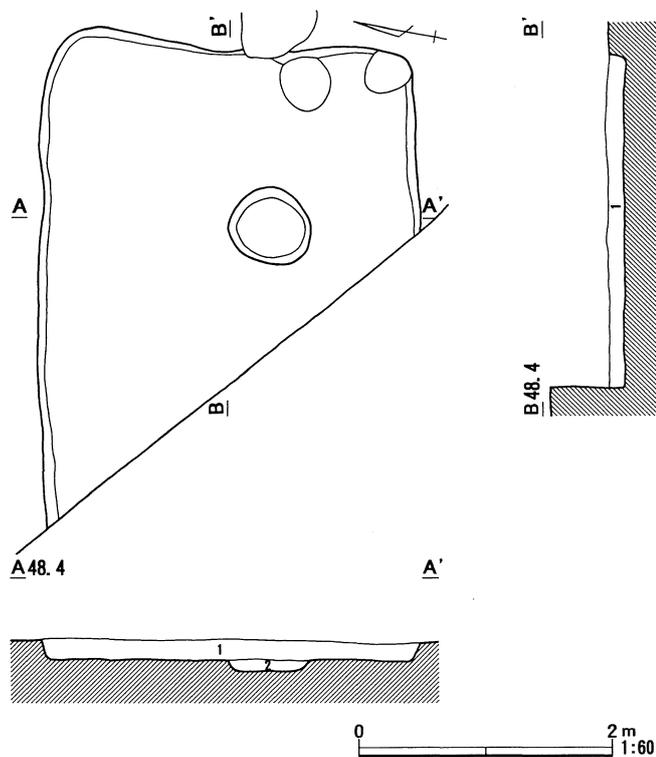
位置：S-10グリッドに位置する。

形状：南西側 2/3 程度が調査区外にある。プランは、3.0×4.0m程度の隅丸長方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は単層で、ロームブロック、白色パミスを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。床面中央に円形の掘り込みがあり、ロームブロックを多量に含む暗褐色土を充填している。確認面から床面までの深さは15cm前後を測る。

遺物：遺物は、床面直上で土師器坏4点、甕片若干を検出したほか、覆土から土師器小片若干を出土した。

時期：所属時期は、床面直上出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。



SI-74 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック(径1～5mm)、白色パミス(径1mm±)を多量に含む。
- 2 暗褐色土 ロームブロック(径1～10mm)を多量に含む。

図456 SI-74

SI-74

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 12.8 底径 6.9 器高 3.6	緩やかに立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。	角閃石・雲母 内外一褐色	口縁部一部欠損。

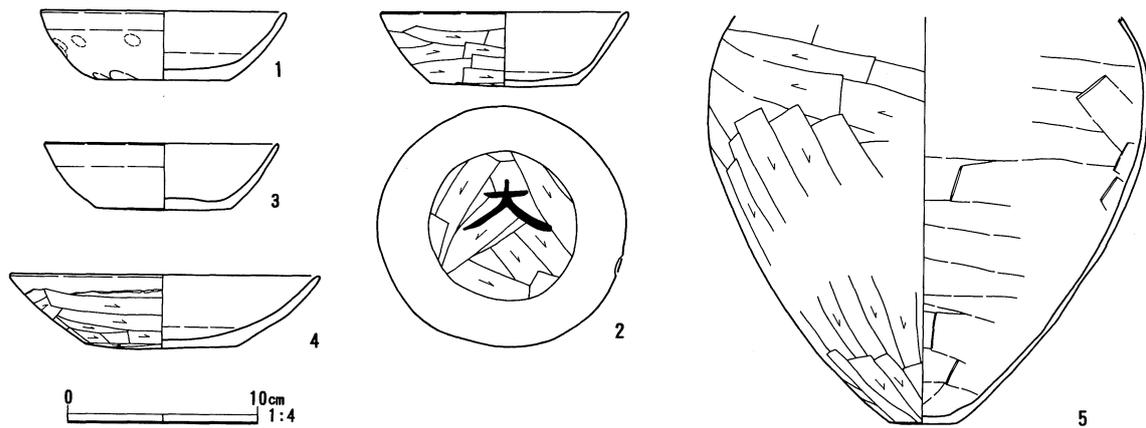


図457 SI-74 出土遺物

2	土師器 坏	口径 13.0 底径 7.8 器高 4.0	緩やかに立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・角閃石 内外—明褐色	口縁部一部欠損。底部外面に墨書「大」。
3	土師器 坏	口径 12.3 底径 7.1 器高 3.6	彎曲気味に外反する体部から口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外—橙色	口縁部 2/3 欠損。
4	土師器 坏	口径 16.2 底径 8.0 器高 4.0	直線的に立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	角閃石・雲母 内外—いぼい褐色	口縁部～体部一部欠損。
5	土師器 甕	口径 — 底径 3.4 器高 —	粘土紐積み上げ成形。上位に膨らみをもつ胴部。	外面—胴部上位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部横位ヘラナデ。	白色粒・礫 内外—橙色	胴部上位～底部 1/4。

SI-75 (図458)

位置：S-10・T-10グリッドに位置する。

形状：南西側 1/2 程度が調査区外にあり、北東隅を攪乱により切られている。プランは、3.2×4.0m程度の隅丸長方形を呈するものと推測される。

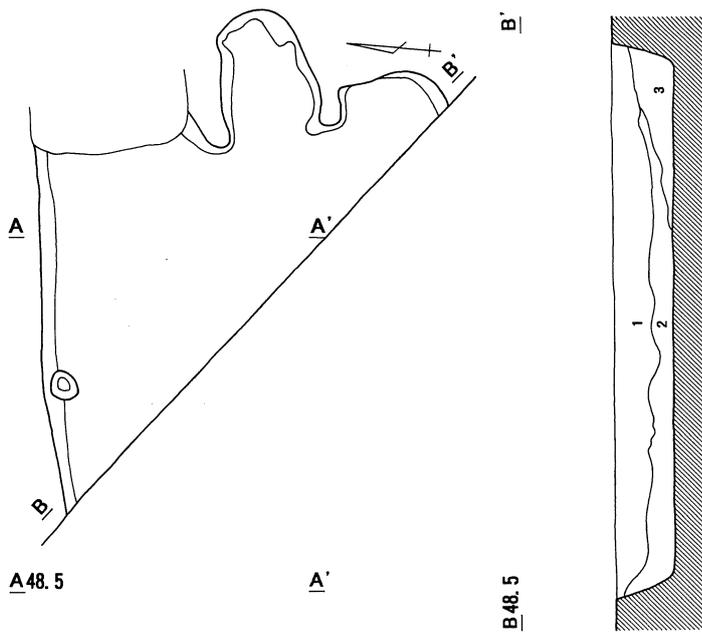
構造：覆土は、下層北壁際にロームブロックを多量に含む黒褐色土、下層全体にロームブロック、砂粒を含む黒褐色土、ロームブロック、白色パミスを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁中央にカマドを付設する。燃焼部は 3/4 程度を壁側に掘り込む構造をとっている。幅約80cm、奥行約105cmを測る。煙道部は確認できない。袖部はロームブロック、焼土ブロック、灰白色粘質土ブロックを少量含む暗褐色土で構築している。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは45～48cm前後を測る。

遺物：遺物はカマド内で土師器小型台付甕1点、甕1点、カマド左右の床面直上で土師器坏3点を検出したほか覆土から土師器片多数が出土した。

時期：所属時期はカマド内および床面直上出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

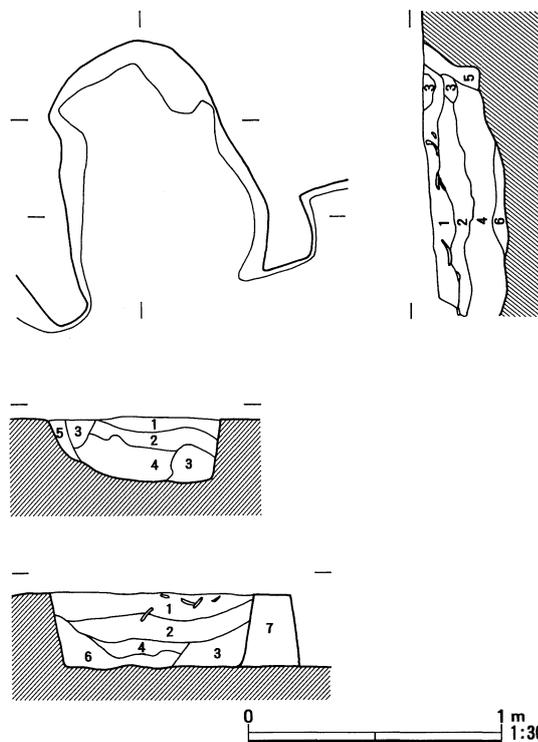
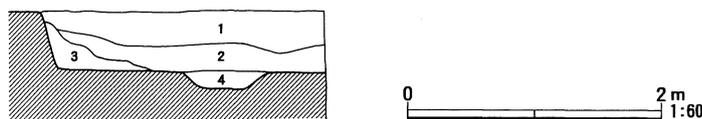
SI-75

No	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 14.4 底径 6.3 器高 5.6	緩やかに立ち上がる深い体部、彎曲気味に外反する口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	角閃石 内外—明赤褐色	3/4。底部外面に墨書。



SI-75 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を多量に含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、砂粒 (径1mm±) を多量に含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 4 黒灰褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。



SI-75 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1~10mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 赤褐色土 焼土ブロックの凝固層。
- 4 黒褐色土 木灰を多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。5層に比較して黒味を帯びる。
- 7 黒褐色土 灰白色粘質土 (径1~5mm) ブロック、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。

図458 SI-75

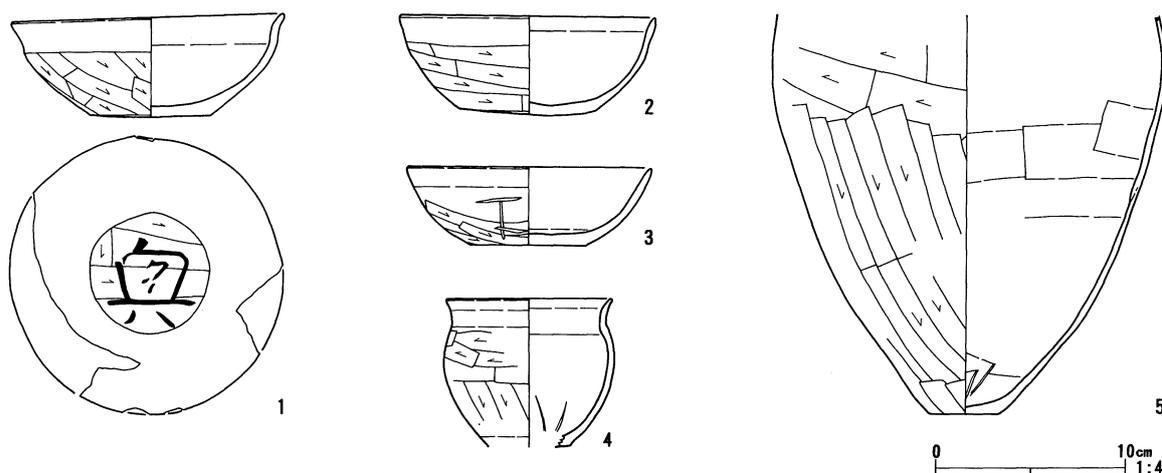


図459 SI-75 出土遺物

2	土師器 杯	口径 13.4 底径 7.0 器高 5.2	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ナデ。	角閃石・石英 内外—赤褐色	口縁部 1/8 欠損。
3	土師器 杯	口径 (12.8) 底径 6.0 器高 4.2	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・角閃石 内外—明赤褐色	口縁部～体部 2/3 欠損。体部外面に焼成前の線刻。
4	土師器 小型台付甕	口径 (8.6) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—にぶい黄褐色	口縁部～胴部下位 1/3。
5	土師器 甕	口径 — 底径 3.5 器高 —	粘土紐積み上げ成形。僅かな膨らみをもつ胴部、小さな底部。	外面—胴部上位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外—橙色	胴部上位～底部 1/4。

SI-76 (図460)

位置：S-9、T-9グリッドに位置する。

形状：北東隅を攪乱により切られている。プランは、6.0×3.1mの長方形を呈する。

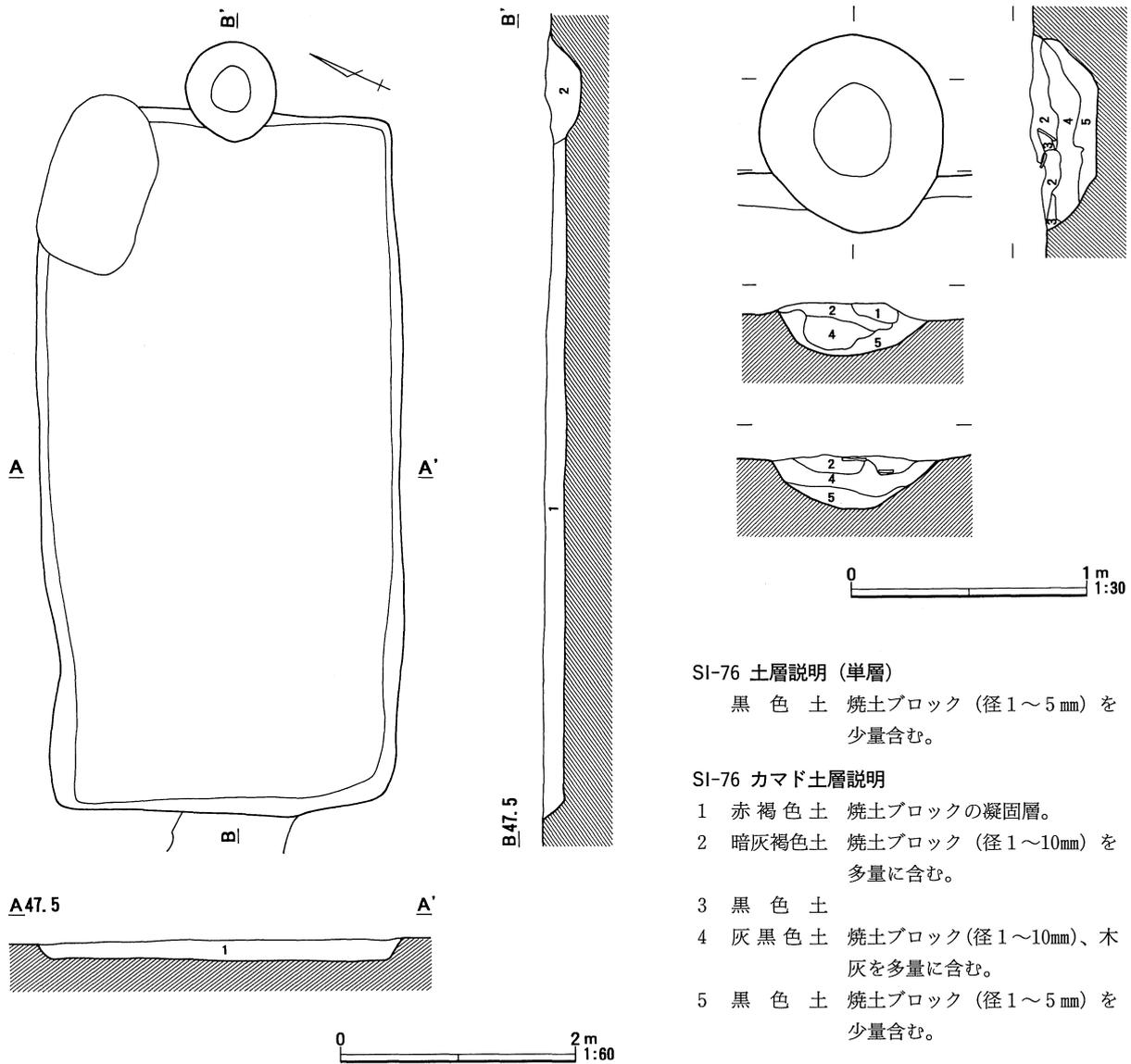
構造：覆土は単層で、焼土ブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁中央にカマドを付設する。遺存状態は不良で、袖部、焚口部、煙道部の構造を確認できない。燃焼部は壁掘込構造で、幅75cm、長さ85cmの楕円形の掘り込みとして遺存している。埋没谷に堆積する黒色土層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面はおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10～17cmを測る。

遺物：遺物は、覆土および確認面上層から土師器杯5点、小型甕1点、小型台付甕2点、甕12点、須恵器高台碗1点、皿1点のほか甕類を中心とする多量の土師器片が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

SI-76

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 杯	口径 12.1 底径 7.5 器高 3.0	緩やかに立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	角閃石・雲母 内外—橙色	口縁部一部欠損。



SI-76 土層説明 (単層)

黒色土 焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。

SI-76 カマド土層説明

- 1 赤褐色土 焼土ブロックの凝固層。
- 2 暗灰褐色土 焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 3 黒色土
- 4 灰黒色土 焼土ブロック (径1~10mm)、木灰を多量に含む。
- 5 黒色土 焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。

図460 SI-76

2	土師器 坏	口径 — 底径 7.3 器高 —	僅かな膨らみをもつ体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部~体部ヨコナデ、底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外—にぶい橙色	口唇部欠損。
3	土師器 坏	口径 (15.6) 底径 — 器高 5.7	僅かな膨らみをもつ体部、底部は緩やかな丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—にぶい黄橙~橙色	2 / 5。
4	土師器 坏	口径 (12.4) 底径 (7.3) 器高 4.5	直線的に立ち上がる体部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外—橙色	1 / 4。
5	土師器 坏	口径 (14.0) 底径 (7.4) 器高 4.8	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下半~底部ヘラケズリ。内面—口縁部~底部ヨコナデ。	白色粒・雲母 内外—明赤褐色	1 / 5。

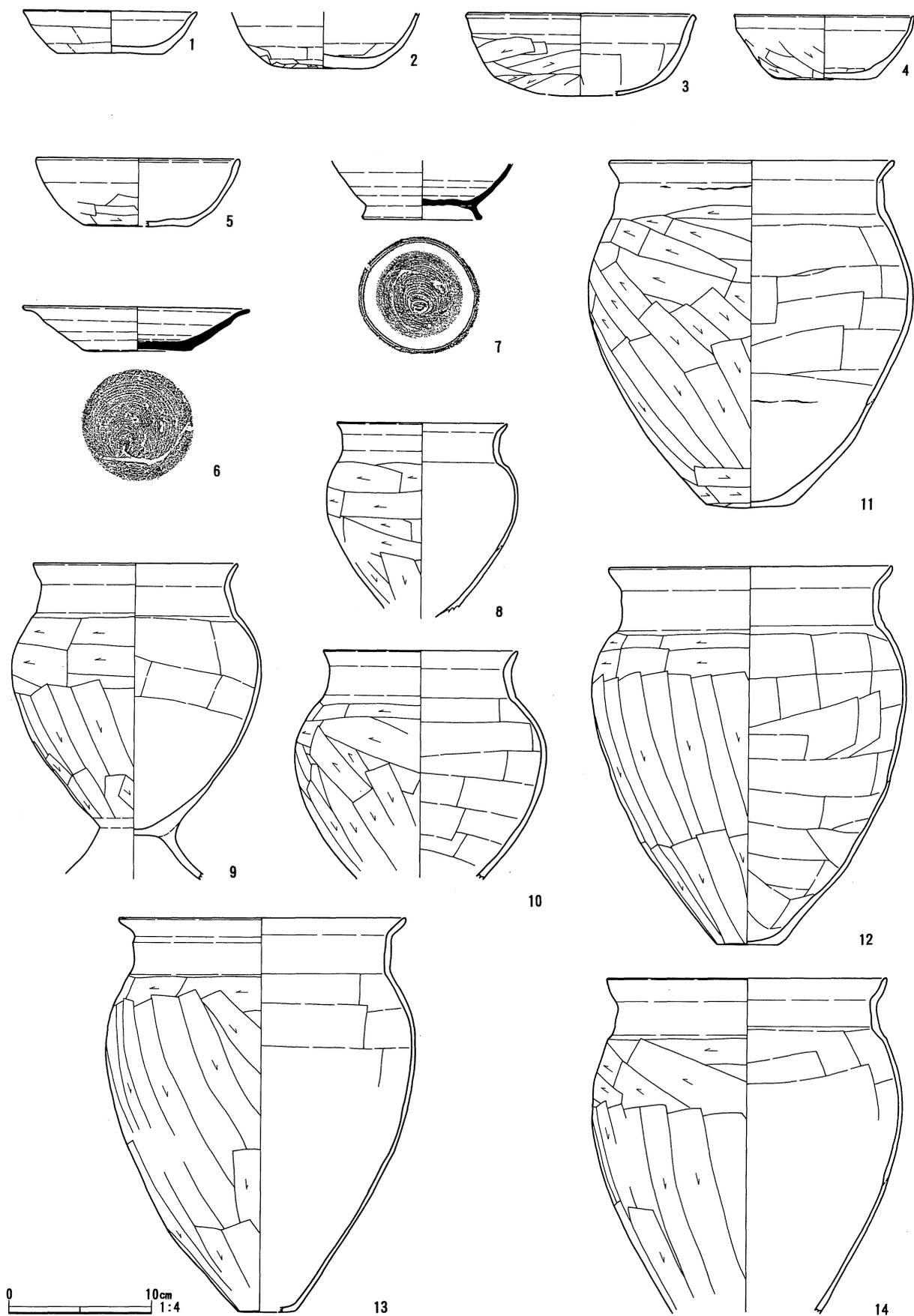


图461 SI-76 出土遺物 (1)

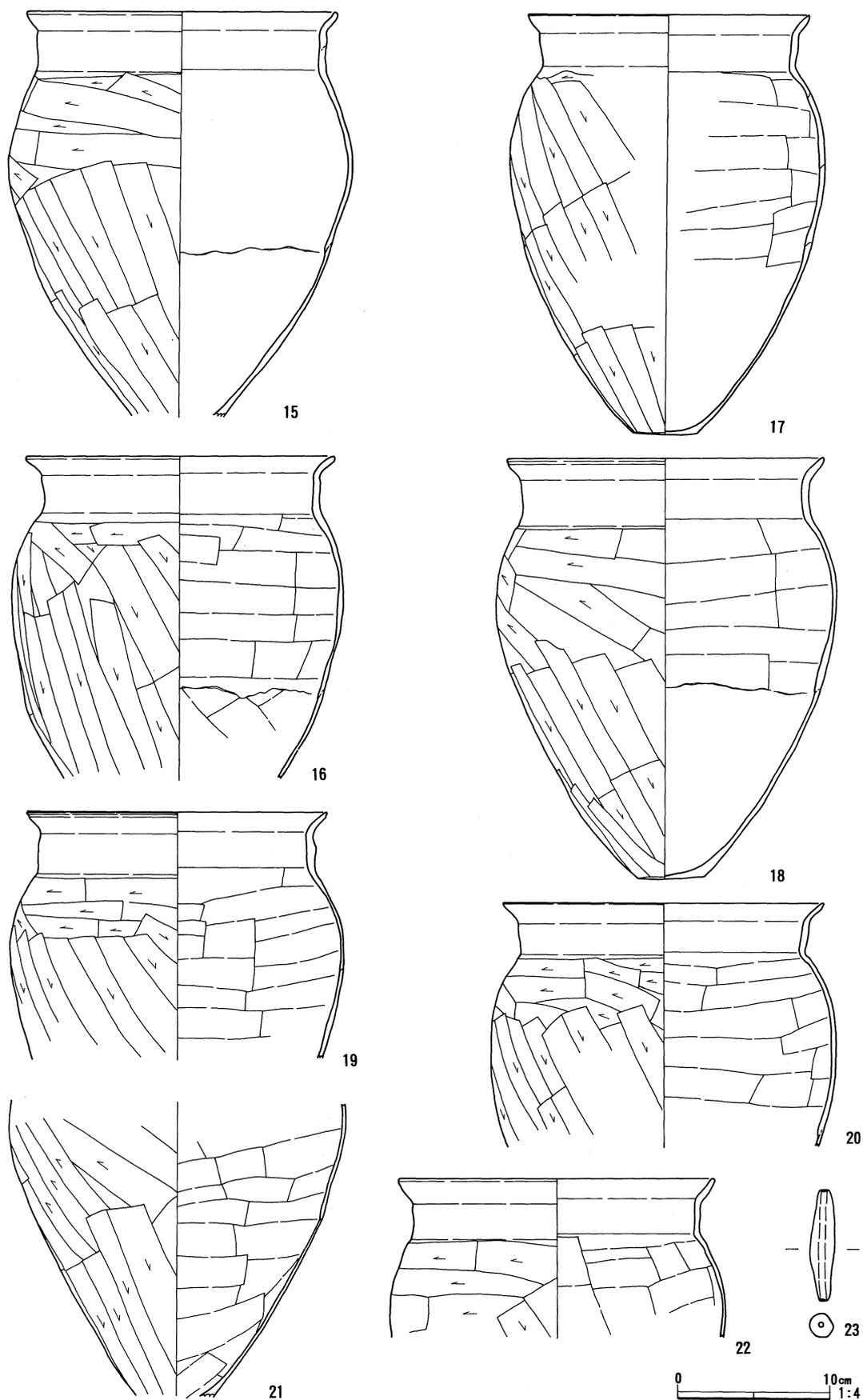


图462 SI-76 出土遺物 (2)

6	須恵器 皿	口径 15.3 底径 7.8 器高 3.3	直線的な体部、彎曲気味に外反する口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	黒色粒・礫 内外一灰白色	5/7。
7	須恵器 碗	口径 — 底径 8.4 器高 —	僅かな膨らみをもつ体部、「ハ」字状の高台部。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・褐色粒 内外一灰色	体部～高台部残存。
8	土師器 小型台付甕	口径 11.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	白色粒 内外一明赤褐色	口縁部～胴部下位1/2。
9	土師器 小型台付甕	口径 14.2 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・石英 内外一橙色	台部下位欠損。
10	土師器 小型甕	口径 13.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一にぶい褐～黒褐色	口縁部～胴部下位1/3。
11	土師器 甕	口径 19.8 底径 6.2 器高 24.5	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部はやや崩れた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一にぶい橙色	6/7。
12	土師器 甕	口径 19.6 底径 4.2 器高 26.5	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一橙色	ほぼ完形。
13	土師器 甕	口径 20.0 底径 4.0 器高 27.7	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一にぶい赤褐色	7/8。
14	土師器 甕	口径 19.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位斜横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一橙～にぶい橙色	口縁部～胴部下位2/5。
15	土師器 甕	口径 20.2 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外一にぶい褐色	口縁部～胴部下位1/2。
16	土師器 甕	口径 20.2 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外一にぶい褐色	胴部下位欠損。
17	土師器 甕	口径 (18.4) 底径 4.1 器高 27.7	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一暗赤褐色	1/2。
18	土師器 甕	口径 20.6 底径 4.4 器高 27.8	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外一にぶい褐色	7/8。

19	土師器 甕	口径 19.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部中位 1/2。
20	土師器 甕	口径 (20.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—ふい赤褐色	口縁部～胴部中位 1/4。
21	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもつ。	外面—胴部中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—ふい橙褐色	胴部上位～下位残存。
22	土師器 甕	口径 20.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒 内外—ふい橙～ふい褐色	口縁部～胴部中位 1/2。
23	土 錘	長さ：7.4 幅：1.6 孔径：0.4	白色粒 橙～灰黄褐色			完形。

SI-77 (図463)

位置：R-7・8、S-7・8グリッドに位置する。

形状：北東隅をSK-604に、南壁から中央部にかけてを攪乱に、南西隅の壁をSW-60により切られている。プランは、4.9×3.1mの長方形を呈する。

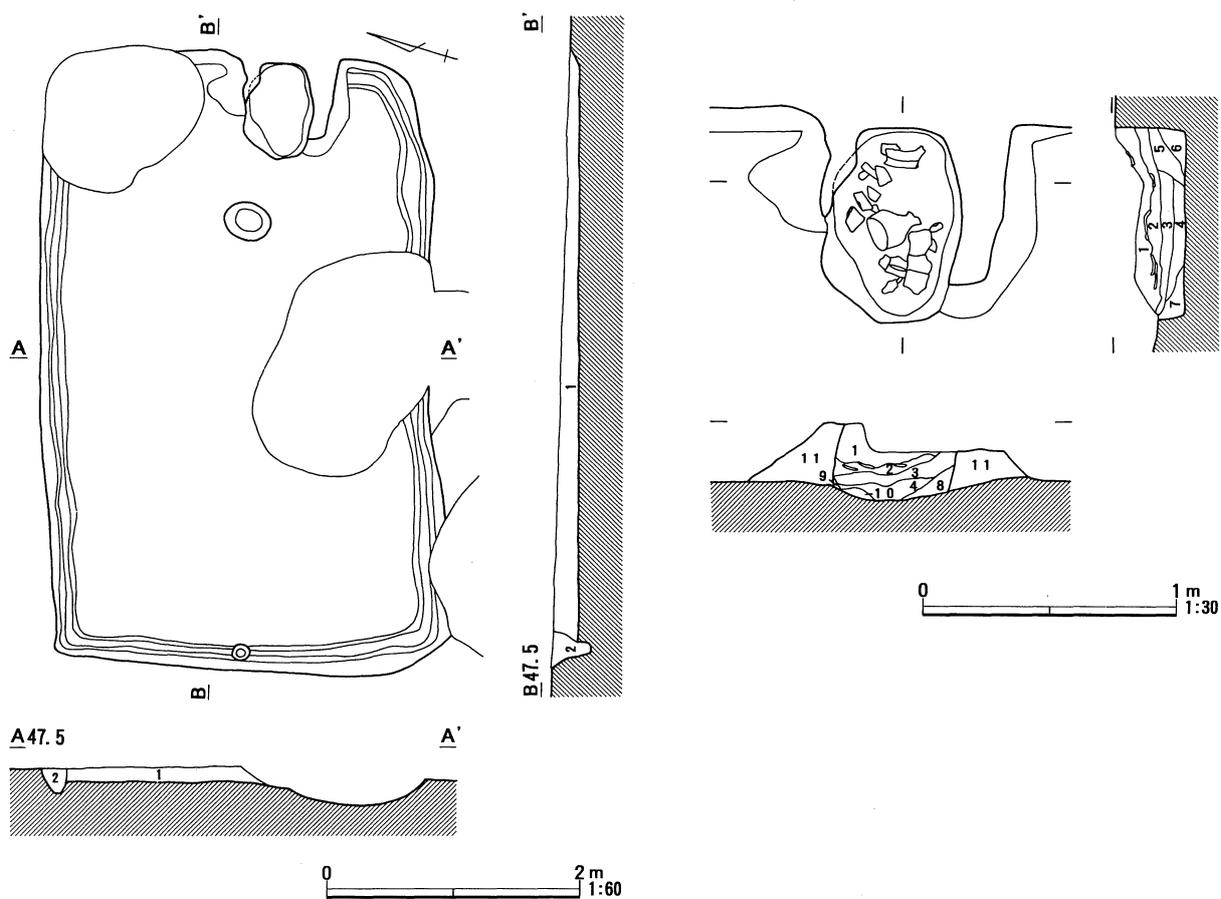
構造：覆土は単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、貯蔵穴の存在は確認できない。壁溝が全周する。東壁中央にカマドを付設する。燃焼部は造付構造で、幅55cm、奥行75cmを測る。袖部は焼土ブロックを少量含む黒色土で構築している。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。確認面は西から東へ緩やかに傾斜しており、確認面から床面までの深さは7～20cmを測る。

遺物：遺物は、カマド内で土師器小型台付甕1点、甕破片多数、カマド前面の床面直上で土師器坏2点、鉢2点、小型台付甕2点、須恵器坏2点、甕類を中心とする多量の土師器片を検出したほか、覆土から土師器小片多数を出土した。

時期：所属時期は、カマド内および床面直上出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

SI-77

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 13.5 底径 (8.0) 器高 3.5	膨らみの少ない体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部放射状暗文。	白色粒・褐色粒・雲母 内外—赤色	3/4。
2	土師器 坏	口径 (13.4) 底径 (8.1) 器高 3.9	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—橙色	1/4。
3	須恵器 坏	口径 — 底径 6.0 器高 —	直線的な体部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り後、周辺部右回転ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒・礫 内外—灰白色	体部～底部 1/2。
4	須恵器 坏	口径 (8.0) 底径 (4.4) 器高 3.9	直線的な体部から口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・雲母 内外—ふい黄褐色	3/5。
5	土師器 鉢	口径 16.7 底径 9.4 器高 11.1	僅かな膨らみをもつ胴部、彎曲する口縁部。底部は平底気味。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	3/4。



SI-77 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径1～3mm）、白色パミス（径1mm±）を多量に含む。
- 2 黒色土

SI-77 カマド土層説明

- 1 黒色土 焼土ブロック（径1～10mm）を多量に含む。
- 2 赤褐色土 焼土層
- 3 黒褐色土 焼土ブロック（径1～10mm）を少量含む。
- 4 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）と焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 5 褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含み、焼土ブロック（径1～3mm）を少量含む。
- 6 褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含み、焼土ブロック（径1～3mm）を少量含む。
- 7 褐色土 ロームブロックの凝固層。
- 8 暗褐色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。
- 9 暗灰褐色土
- 10 黒褐色土 ロームブロック（径1～3mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を多量に含む。
- 11 黒褐色土 焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。

図463 SI-77

6	土師器	口径 18.8	僅かな膨らみをもつ胴部から口縁部。底部は突出した平底。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ、底部砂底。内面一口縁部～底部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外一橙色	3/4。
	鉢	底径 8.9				
		器高 10.0				

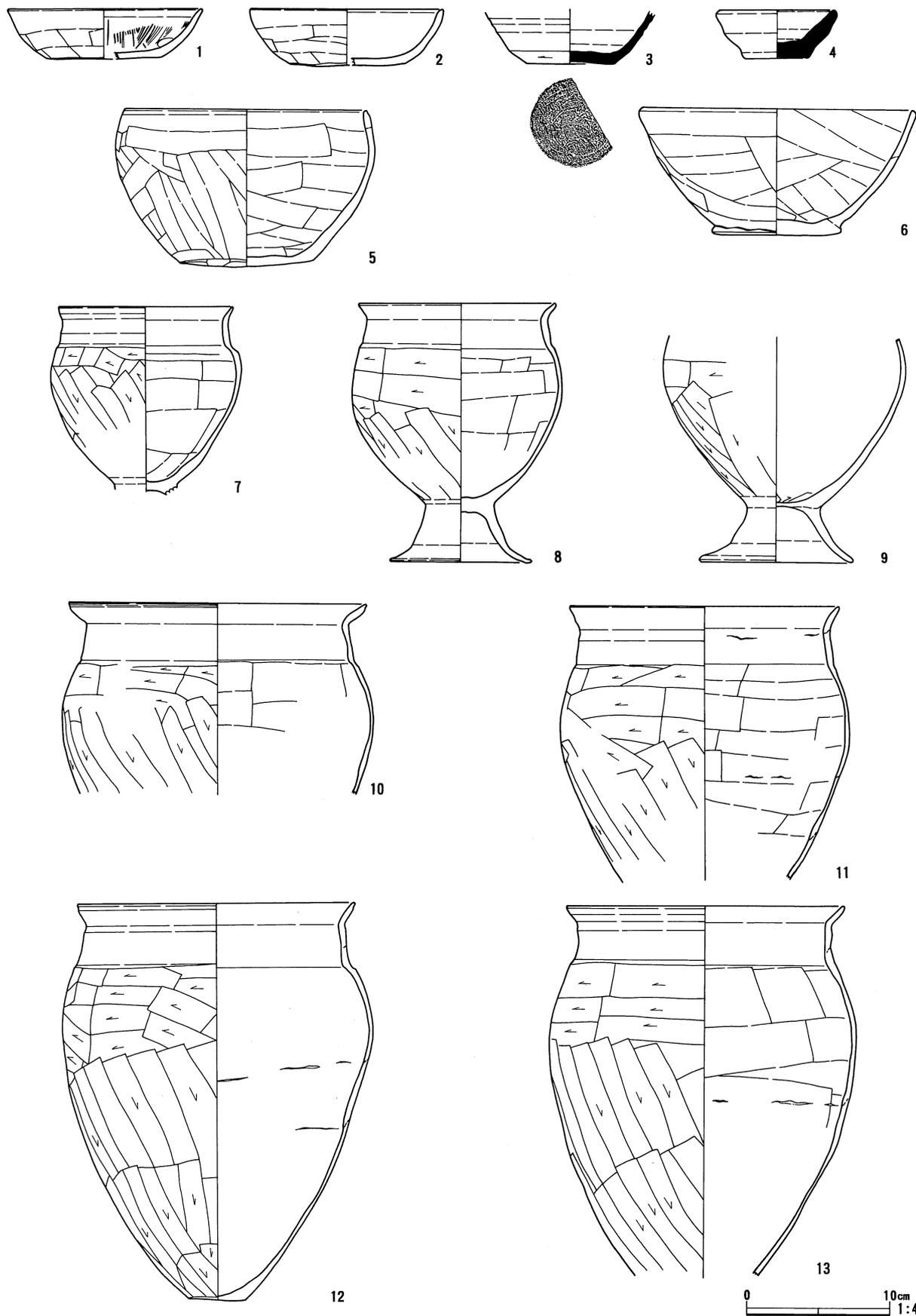
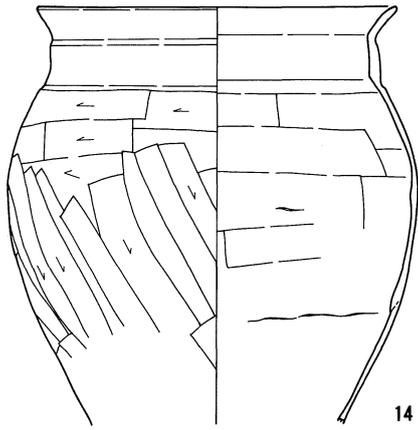
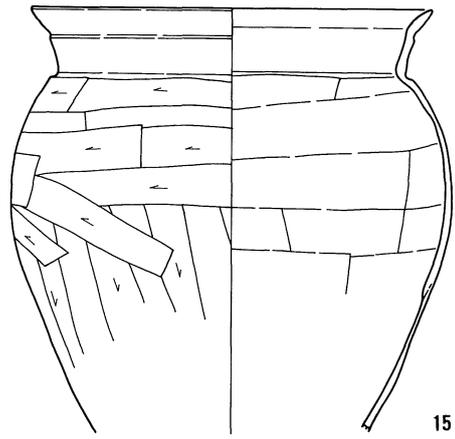


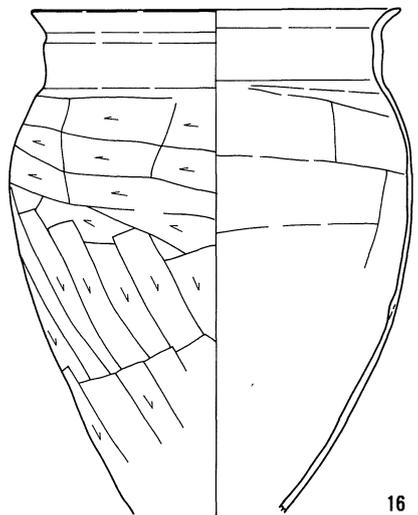
图464 SI-77 出土遺物 (1)



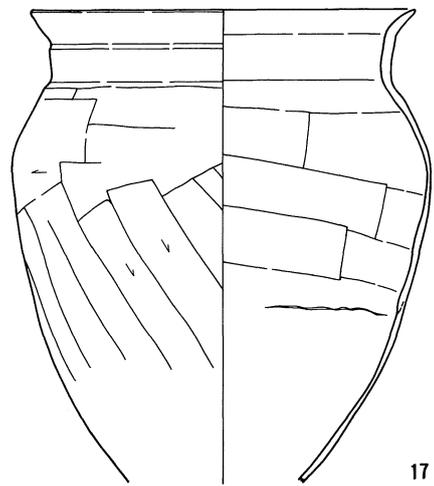
14



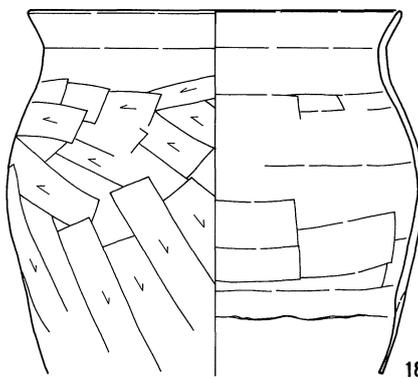
15



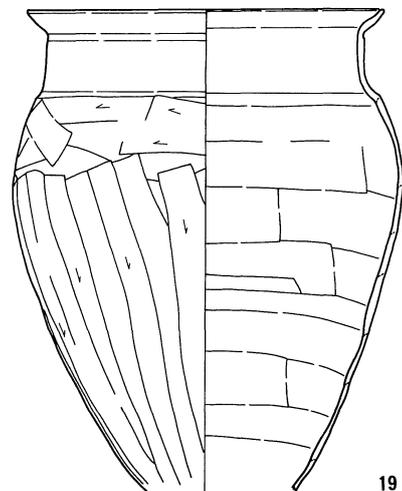
16



17



18



19

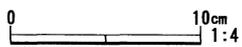
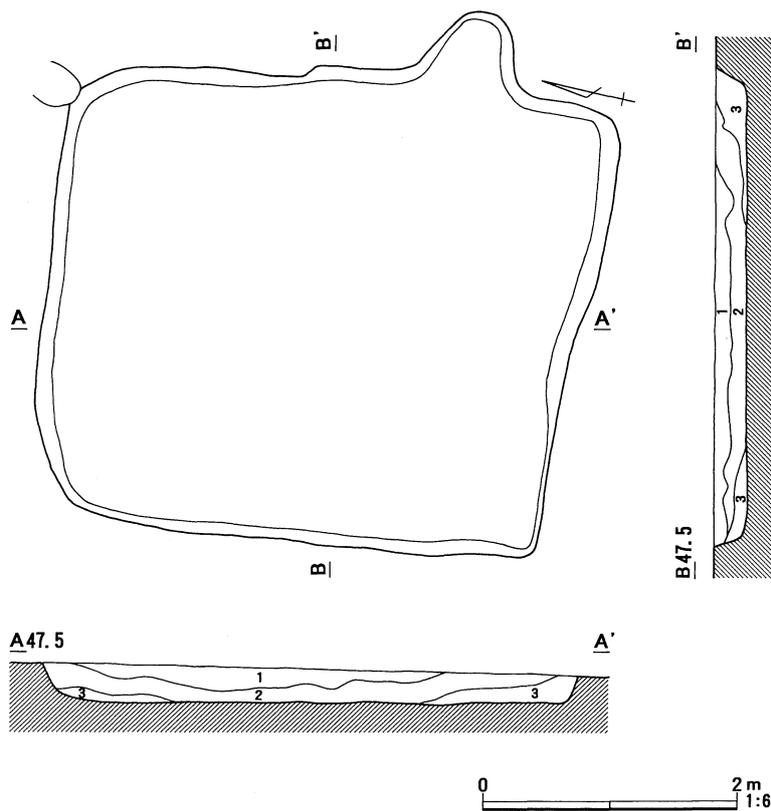


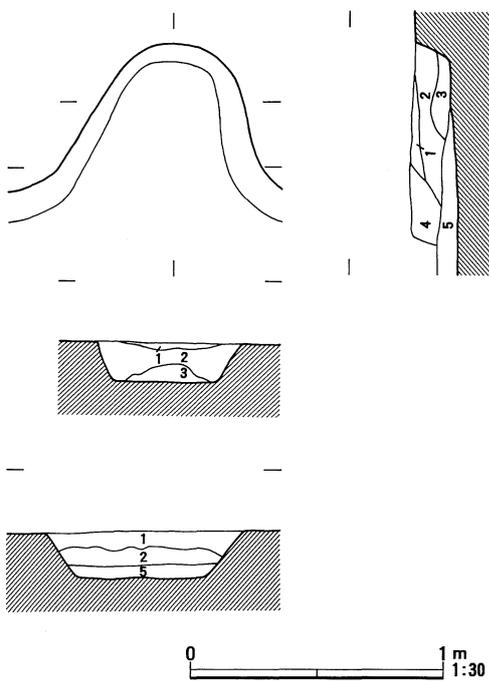
图465 SI-77 出土遺物 (2)

7	土師器 小型台付甕	口径 (12.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部上半ナデ、下半横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外—橙〜にぶい黄橙色	口縁部〜底部 3/4。
8	土師器 小型台付甕	口径 13.6 底径 9.4 器高 18.1	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。台部は「ハ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒 内外—黒褐色	2/3。
9	土師器 小型台付甕	口径 — 底径 (10.4) 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、台部は「ハ」字状に開く。	外面—胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面—胴部横位ナデ、台部ヨコナデ。	白色粒 内外—にぶい赤褐〜黒褐色	胴部上位〜台部 3/4。
10	土師器 甕	口径 (20.6) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部〜胴部中 位2/5。
11	土師器 甕	口径 18.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—にぶい赤褐〜暗褐色	口縁部〜胴部中 位1/3。
12	土師器 甕	口径 19.2 底径 4.0 器高 27.8	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外—橙色	3/4。
13	土師器 甕	口径 19.2 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外—明赤褐色	胴部下位欠損。
14	土師器 甕	口径 18.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—赤褐色	口縁部〜胴部中 位3/4。
15	土師器 甕	口径 (20.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は崩れた「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・礫 内外—赤褐〜暗赤褐色	口縁部〜胴部中 位2/5。
16	土師器 甕	口径 19.3 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	口縁部〜胴部下 位3/4。
17	土師器 甕	口径 20.0 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・礫 内外—にぶい橙色	口縁部〜胴部下 位3/4。
18	土師器 甕	口径 (19.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は崩れた「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	口縁部〜胴部中 位1/3。
19	土師器 甕	口径 18.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・礫 内外—にぶい赤褐〜にぶい黄橙色	口縁部〜胴部下 位3/4。



SI-78 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 3 mm)、白色パミス (径 1 mm 土) を多量に含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含む。
- 3 黒色土 ロームブロック (径 1 mm 土)、灰白色粘質土ブロック (径 1 ~ 10 mm) を少量含む。



SI-78 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 焼土ブロック (径 1 ~ 5 mm) を多量に含む。
- 2 黄灰色土
- 3 暗灰褐色土 焼土ブロック (径 1 ~ 5 mm) を少量含み、木灰を多量に含む。
- 4 黒色土 ロームブロック (径 1 ~ 3 mm)、白色パミス (径 1 mm 土) を多量に含む。
- 5 黒色土 ロームブロック (径 1 mm 土)、灰白色粘質土ブロック (径 1 ~ 10 mm) を少量含む。

図466 SI-78

SI-78 (図466)

位置：S-8グリッドに位置する。

形状：完存する。プランは4.35×3.6mの不整形方を呈する。

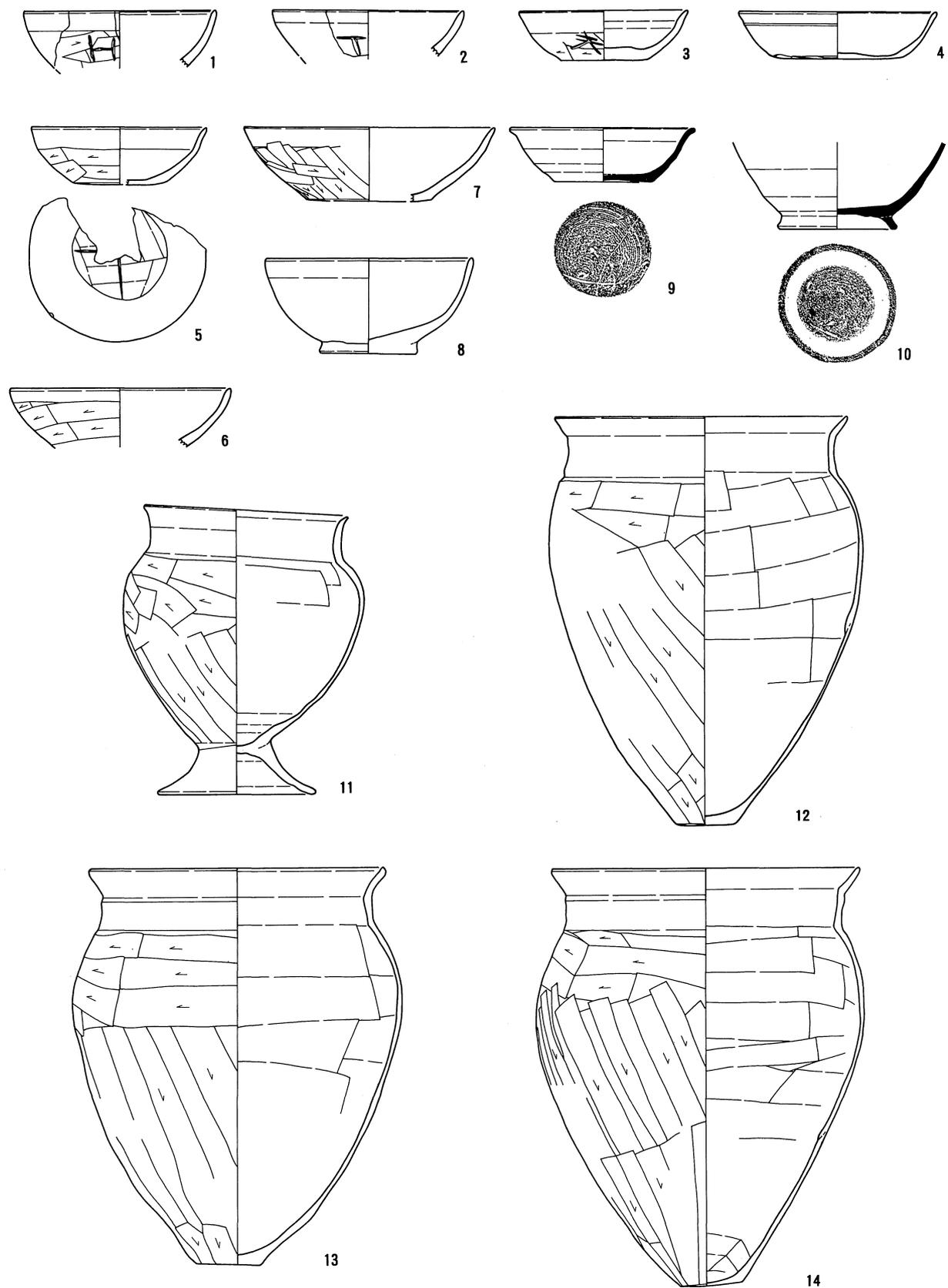


图467 SI-78 出土遺物 (1)

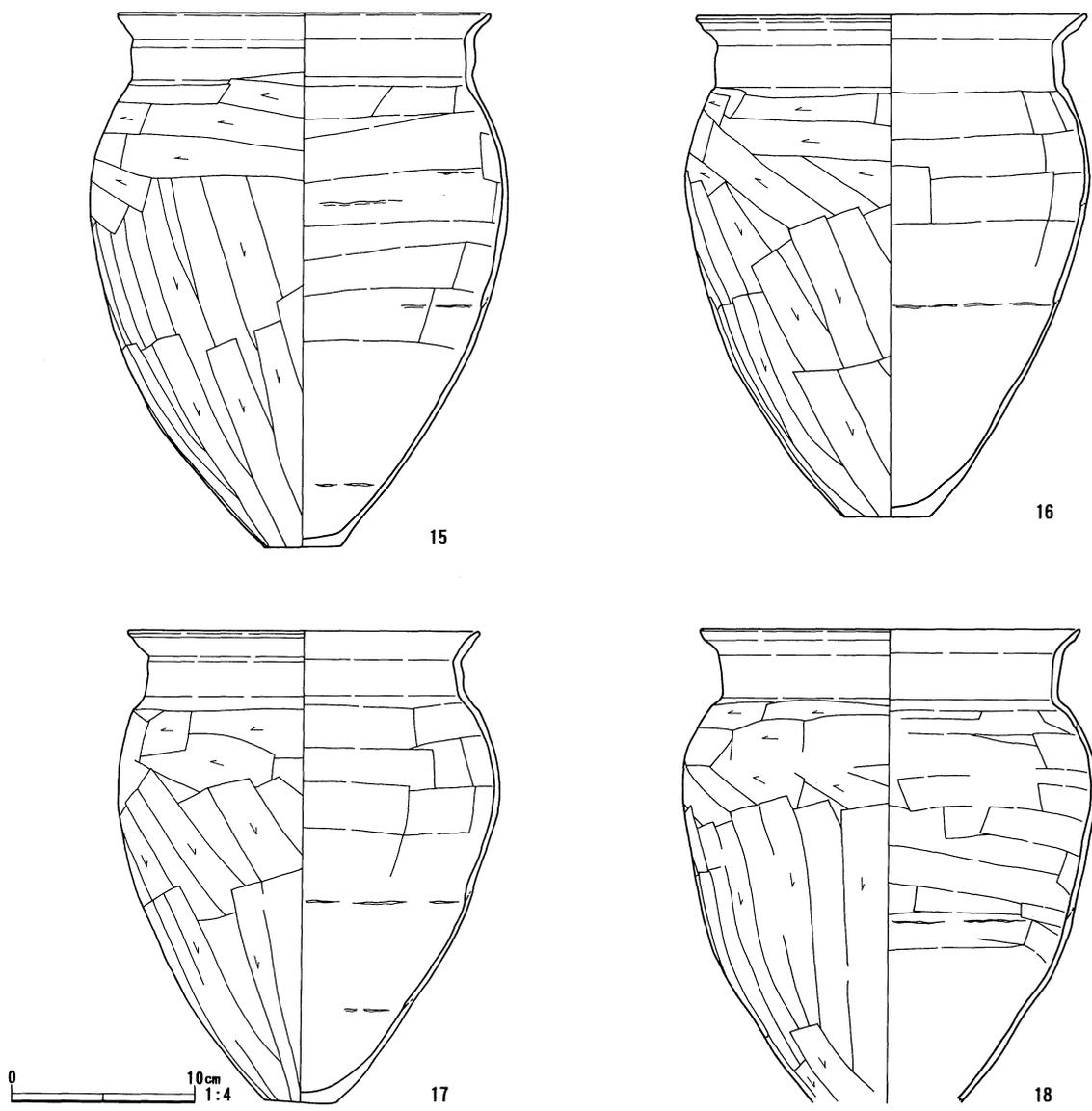


図468 SI-78 出土遺物 (2)

SI-78

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 —	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・角閃石・雲母 内外—にぶい黄褐色	口縁部～体部1/8。体部外面に焼成前の線刻。
2	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 — 器高 —	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	褐色粒・石英 内外—橙～にぶい黄橙色	口縁部～体部1/8。体部外面に焼成前の線刻。
3	土師器 坏	口径 11.4 底径 5.8 器高 3.4	膨らみの少ない体部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・黒色粒・雲母 内外—明赤褐色	1/2。体部外面に焼成前の線刻。
4	土師器 坏	口径 (13.4) 底径 9.0 器高 3.2	緩やかに立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫・石英 内外—橙～にぶい橙色	3/5。

5	土師器 坏	口径 11.9 底径 6.4 器高 4.0	緩やかに立ち上がる体部から口縁部、体部と口縁部の境に弱い稜線。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ。	褐色粒・角閃石・石英 内外一灰黄褐～にぶい橙色	2/3。 底部外面に焼成前の線刻。
6	土師器 坏	口径 (15.0) 底径 — 器高 —	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一明赤褐～にぶい赤褐色	口縁部～体部 1/4。
7	土師器 坏	口径 (17.0) 底径 (8.4) 器高 5.0	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・角閃石 内外一橙～明赤褐色	1/3。
8	土師器 碗	口径 14.0 底径 6.4 器高 6.6	彎曲気味に立ち上がる体部から口縁部。底部は板状の平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部砂底。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	褐色粒・石英 内外一にぶい橙～にぶい褐色	3/4。
9	須恵器 坏	口径 12.3 底径 6.5 器高 3.8	僅かな膨らみをもつ体部、小さく外反する口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒・褐色粒 内外一にぶい黄橙～灰黄褐色	口縁部一部欠損。
10	須恵器 碗	口径 — 底径 7.7 器高 —	膨らみのない体部、「ハ」字状の高台部。	体部ロクロ整形、底部回転糸切り。	白色粒・褐色粒・石英 内外一灰白～灰色	口縁部欠損。
11	土師器 台付甕	口径 13.7 底径 10.4 器高 20.0	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。台部は「ハ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・角閃石・石英・礫 内外一にぶい褐色	4/5。
12	土師器 甕	口径 19.6 底径 4.1 器高 28.2	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・礫・雲母 内外一橙色	2/3。
13	土師器 甕	口径 19.9 底径 4.3 器高 27.2	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた弱い「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・礫 内外一橙色	7/8。
14	土師器 甕	口径 20.8 底径 4.3 器高 28.7	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外一橙～黒褐色	3/5。
15	土師器 甕	口径 20.2 底径 4.2 器高 29.3	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外一明赤褐～灰褐色	4/5。
16	土師器 甕	口径 21.0 底径 4.7 器高 27.5	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラナデ、下半ナデ。	白色粒・礫 内外一明赤褐～にぶい橙色	3/4。
17	土師器 甕	口径 19.0 底径 4.0 器高 25.7	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部上半横位ヘラナデ、下半ナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外一橙色	4/5。
18	土師器 甕	口径 20.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が開いた「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・礫 内外一にぶい赤褐色	口縁部～胴部下位 3/5。

構造：覆土は、ロームブロック、灰白色粘質土ブロック、白色パミスを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁の南東隅寄りにカマドを付設する。燃焼部は壁掘込構造で、幅約80cm、奥行約70cmを測る。袖部、煙道部は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面は南から北へ緩やかに傾斜しており、確認面から床面までの深さは10～16cmを測る。

遺物：遺物は、確認面上層および覆土から多量の土師器、須恵器片が出土したが、床面直上における遺物は土師器の小片若干のみであった。

時期：所属時期は確認面上層および覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

(2) グリッド (図469～471)

表土下層、遺構の範囲確認面上層、後代の遺構、攪乱層などで検出し、本来の帰属遺構が不明な資料をグリッド出土として一括した。検出地点は、調査区の各所に及んでいるが、とくに井戸、方形竪穴、土壇といった中世及び近世の遺構の掘削によって2次的に移動している遺物が多い。

1～16は古墳時代に属する土師器である。1は坏で、深めの大きく外反する口縁部をもつ。2～5は小型甕で、いずれも内外面ナデ調整による。4は直立する口縁部をもつ。6は大型の甕で、球状の胴部と大きく外反する口縁部をもち、体部上半の一部にハケを残す。7・10は甕である。7は口縁部が「く」字状に外反し、調整は口縁部がヨコナデ、肩部にハケが残る。10は中位に段をもつ口縁部から緩やかに張る胴部へ移行する。胴部外面はヘラケズリによる。8は壺と考えられ、球状を呈する胴部下半から底部が残る。9は甕で、胴部中位に膨らみをもち、内外面とも細かいハケ調整が施される。

11～16はミニチュア土器である。比較的分散して出土しており、とくに有意な分布状態を示さないが、いずれもI-13グリッドにおいて出土していることから、地山への掘削を伴わない土器集中遺構が存在した可能性が考えられる。年代は4世紀から5世紀前半代に該当しよう。

17は穿孔を有するつまみの付く土師器坏蓋で、つまみはケズリにより成形し、ナデを加えている。年代の詳細は不明である。18は小型の土師器内屈口縁坏で7世紀後半の年代が考えられる。19は深い体部と薄く直立する口縁部をもつ。

20～42は多くが9世紀代ないしそれ以降に属するものと考えられる。19～24は土師器坏及び盤、25～28は須恵器坏、29～31は須恵器碗である。32は大型の土師器平底鉢で、器壁が厚く、体部は緩やかに内彎しつつ立ち上がる。33は灰釉陶器長頸壺の胴下半部で、34は須恵器短頸壺、35は須恵器甕である。36は9世紀代に属する「コ」字状口縁小型台付甕である。37～39も9世紀代に典型的な「コ」字状口縁甕である。41・42は厚手の個体で、41は短く外反する口縁部をもつ。「コ」字状口縁甕に後出する段階の形式と考えられる。

43は土製紡錘車で土玉を扁平化し、ナデを加えた簡易な造りである。44～48は土錘である。いずれも細身であり、44は10cmに近い狭長な形態を示す。

49は石製紡錘車で、狭面に「大」の文字が連続して線刻されている。

グリッド

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 13.9 底径 — 器高 5.5	深い体部、彎曲気味に外反する短い口縁部。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫 内外—橙色	E-5 G 1/4。

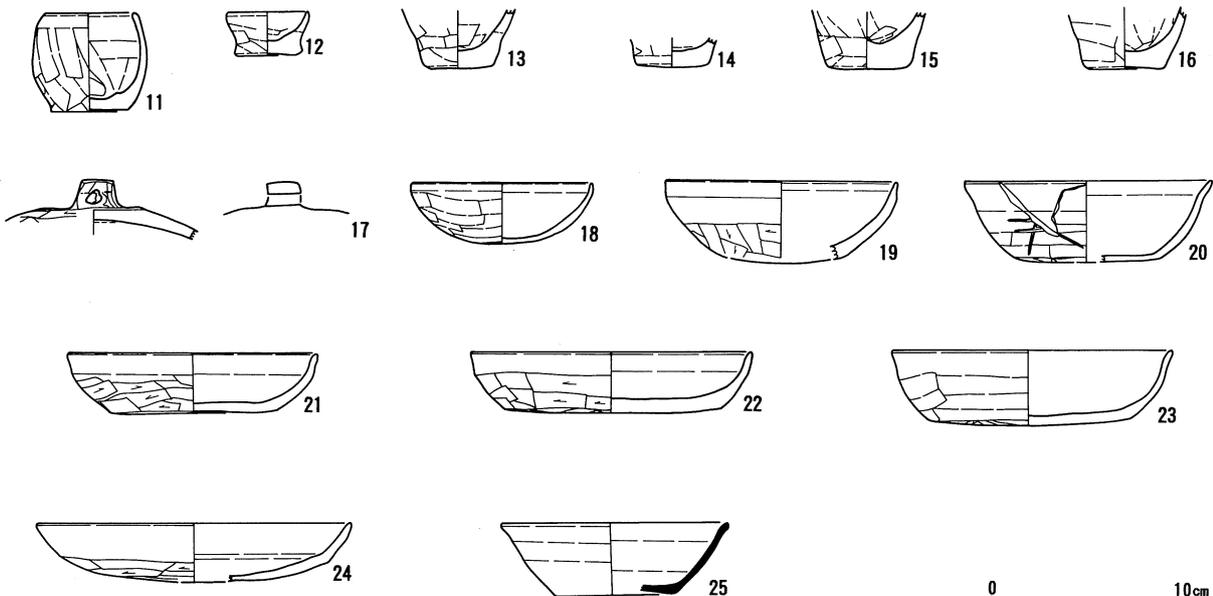
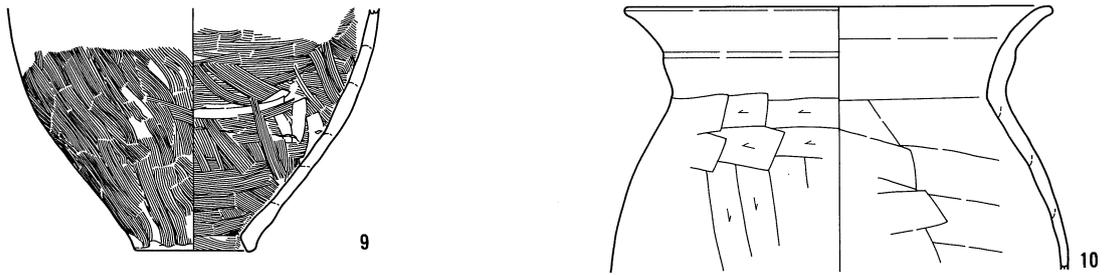
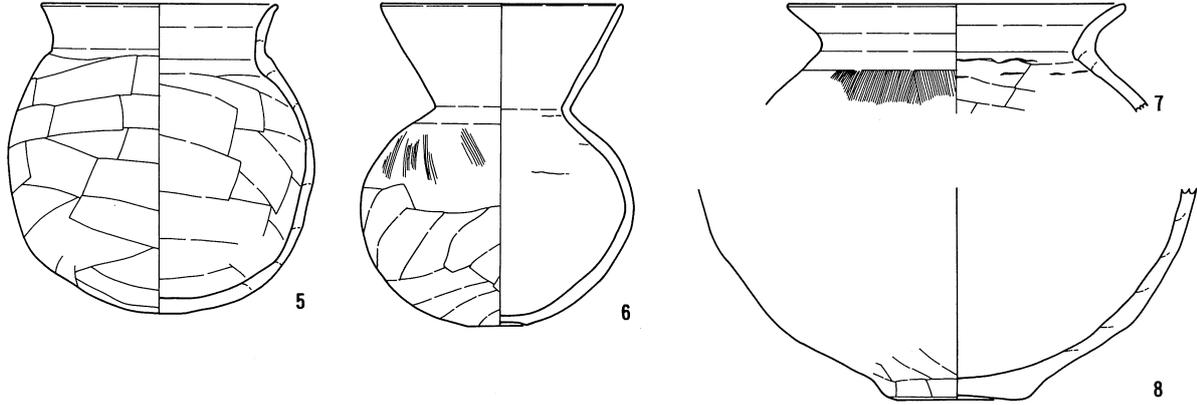
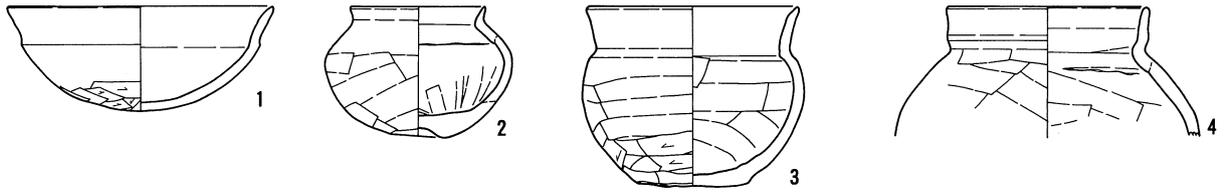


図469 グリッド出土遺物 (1)

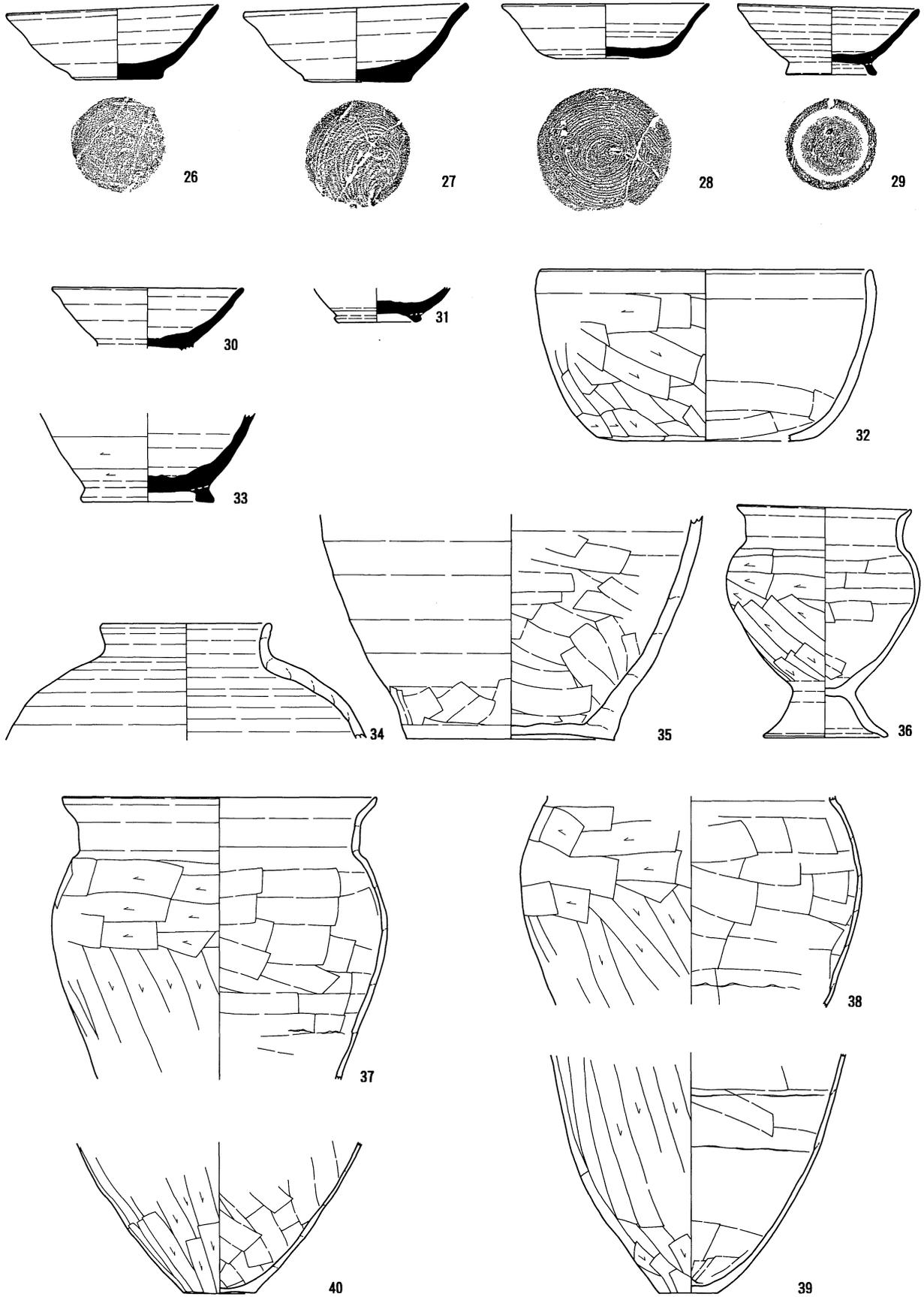


図470 グリッド出土遺物 (2)

0 10cm 1:4

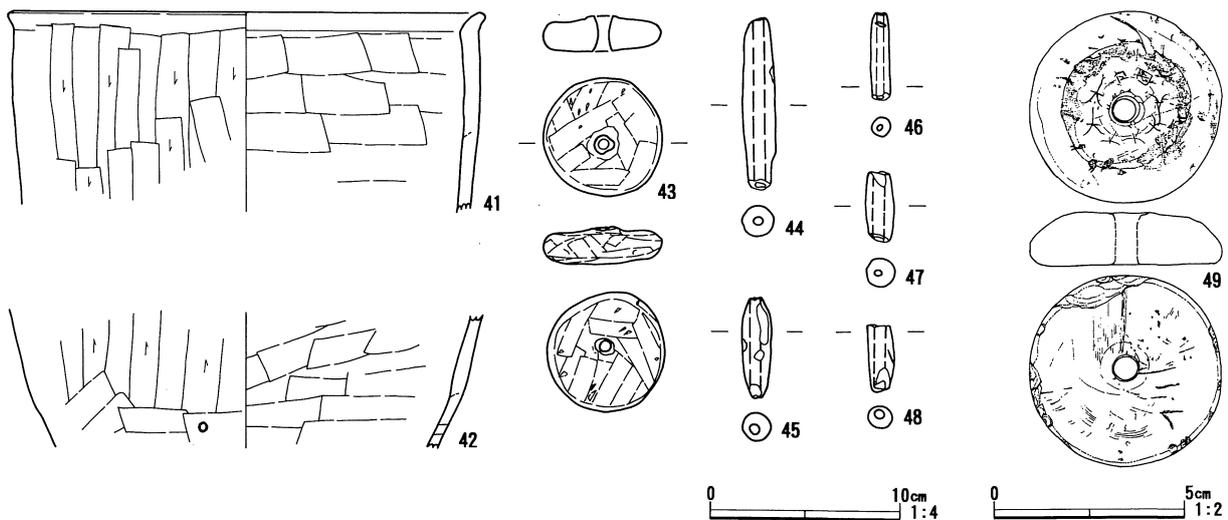


図471 グリッド出土遺物 (3)

2	土師器 小型甕	口径 7.0 底径 2.1 器高 6.9	膨らみをもつ体部、短く外反する口縁部。底部は上底。	外面一口縁部～体部上位ヨコナデ、体部中・下位斜横位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・雲母 内外一橙色	F-13G 3/4。
3	土師器 小型甕	口径 (10.8) 底径 6.0 器高 9.5	粘土紐積み上げ成形。膨らみをもつ胴部、彎曲気味に外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上・中位横位ヘラナデ、下位～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外一にぶい橙色	S-2G 1/4。
4	土師器 小型甕	口径 (10.3) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らんだ胴部、下位に僅かな膨らみをもって直立する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石・礫・雲母 内外一黄灰～橙色	I-13G 口縁部～胴部上位1/4。
5	土師器 小型甕	口径 12.2 底径 — 器高 16.4	粘土紐積み上げ成形。やや膨らんだ胴部、彎曲気味に外反する口縁部。底部は緩やかな丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外一橙色	M-11G 7/8。
6	土師器 罎	口径 12.7 底径 3.1 器高 17.1	球状の体部、大きく外反する口縁部。底部は僅かな上げ底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部上半ハケメ後ナデ、下半ヘラケズリ後ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部不明瞭。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外一橙色	C-2G 口縁部・体部一部欠損。
7	土師器 甕	口径 17.5 底径 — 器高 —	彎曲気味に外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ハケメ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外一橙色	L-11G 口縁部～胴部上位2/3。
8	土師器 壺	口径 — 底径 7.4 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らんだ胴部。底部は僅かに上げ底気味。	内外面一器面が荒れて調整不明。	褐色粒・礫 内外一橙色	F-11G 胴部中位～底部1/3。
9	土師器 甕	口径 — 底径 6.2 器高 —	粘土紐積み上げ成形。中位に膨らみをもつ胴部。	外面一胴部斜縦位ハケナデ。内面一胴部横位・斜縦位ハケ。	褐色粒・雲母 内外一橙色	F-13G 胴部中位～底部3/4。
10	土師器 甕	口径 (22.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。やや膨らんだ胴部上位、中位に段差をもって大きく外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫 内外一橙色	I-13G 口縁部～胴部上位1/7。
11	土師器 ミニチュア土器	口径 4.6 底径 4.0 器高 5.2	僅かな膨らみをもつ体部、内彎気味の口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・角閃石・礫 内外一明赤褐～にぶい褐色	ほぼ完形。
12	土師器 ミニチュア土器	口径 (4.2) 底径 3.0 器高 2.3	彎曲気味の体部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。内面一口縁部～体部ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一にぶい黄褐色	I-13G 口縁部1/10～底部。

13	土師器 ミニチュア 土器	口径 — 底径 3.6 器高 —	直線的な体部。底部は平底。	外面—体部ヘラナデ。 内面—体部ヘラナデ。	白色粒・石英 内外—橙色	I-13G 体部～底部残存。
14	土師器 ミニチュア 土器	口径 — 底径 3.8 器高 —	直立気味の体部。底部は平底。	外面—体部ヘラナデ。 内面—体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 角閃石 内外—橙色	I-13G 底部残存。
15	土師器 ミニチュア 土器	口径 — 底径 4.2 器高 —	直立気味の体部。底部は平底。	外面—体部ヘラナデ。 内面—体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 角閃石 内外—橙色	I-13G 体部～底部残存。
16	土師器 ミニチュア 土器	口径 — 底径 3.7 器高 —	直立気味の体部。底部は平底。	外面—体部ヘラナデ。 内面—体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 角閃石・雲母 内外—にぶい黄 橙色	I-13G 体部～底部残存。
17	土師器 蓋	口径 — 摘み 1.7 器高 —	平坦な天井部に中位に穿孔された摘みを付す。	外面—天井部～体部ヘラケズリ。 内面—天井部～体部ナデ。	白色粒・雲母 内外—明赤褐色	L-11G 天井部～体部 1/2。
18	土師器 坏	口径 (9.4) 底径 — 器高 3.2	彎曲する体部、内彎気味の口縁部。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、 底部ヘラケズリ。内面—口縁部 ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・黒色粒・ 雲母 内外—橙色	F-14G 1/4。
19	土師器 坏	口径 (12.0) 底径 — 器高 —	彎曲する体部、直立気味の口縁部。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、 底部ヘラケズリ。内面—口縁部 ～体部ヨコナデ。	白色粒・角閃石・ 石英 内外—橙 ～褐灰色	F-13G 口縁部～体部 1/5。
20	土師器 坏	口径 (13.0) 底径 (7.6) 器高 4.8	緩やかに立ち上がる体部、彎曲気味に外反する口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、 底部ヘラケズリ。内面—口縁部 ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	M-16G 3/5。 体部外面に線 刻。
21	土師器 坏	口径 13.0 底径 8.6 器高 3.3	緩やかに立ち上がる浅い体部、直立気味の口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～ 底部ヘラケズリ。内面—口縁部 ～底部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	M-17G 口縁部一部欠 損。
22	土師器 坏	口径 (14.6) 底径 (11.3) 器高 3.2	直線的な浅い体部、彎曲気味に外反する口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～ 底部ヘラケズリ。内面—口縁部 ～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・雲母 内外—橙色	I-16G 1/2。
23	土師器 坏	口径 14.6 底径 10.6 器高 4.0	僅かな膨らみをもつ体部、彎曲気味に外反する口縁部。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～ 底部ヘラケズリ。内面—口縁部 ～底部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒・ 雲母 内外—橙 ～にぶい褐色	M-17G 口縁部一部欠 損。
24	土師器 盤	口径 16.4 底径 — 器高 (3.1)	緩やかに外反する浅い体部、大きく外反する口縁部。底部は緩やかな丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。 内面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・黒色粒・ 角閃石 内外—橙色	M-17G 底部一部欠 損。
25	須恵器 坏	口径 12.0 底径 6.2 器高 4.0	膨らみのない体部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸 切り。	白色粒・黒色粒 内外—黄灰色	L-11G 1/2。
26	須恵器 坏	口径 14.7 底径 6.2 器高 5.3	膨らみのない体部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部左回転糸 切り。	白色粒・角閃石・ 雲母 内外—橙 ～にぶい黄褐色	C-7G 1/2。
27	須恵器 坏	口径 15.5 底径 7.3 器高 5.6	彎曲気味に大きく外反する口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部左回転糸 切り。	白色粒・雲母・角 閃石 内外—灰 黄～暗灰黄色	O-2G 完形。
28	須恵器 坏	口径 (14.4) 底径 (7.5) 器高 3.8	緩やかに立ち上がる体部、彎曲気味に外反する口縁部。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸 切り。	白色粒・雲母 内外—灰黄褐～ 橙色	M-15G 1/4。
29	須恵器 碗	口径 12.4 底径 6.3 器高 5.0	直線的な体部、「ハ」字状の高台部。	体部ロクロ整形、底部右回転糸 切り。	白色粒・黒色粒 内外—灰色	L-16G 完形。
30	須恵器 碗	口径 (13.2) 底径 — 器高 —	直線的に大きく外反する体部。底部は平底。	体部ロクロ整形。	白色粒・褐色粒・ 角閃石 内外—浅黄褐色	B-2G 口縁部～底部 2/5。

31	須恵器 碗	口径 — 底径 5.4 器高 —	彎曲気味に立ち上がる体部。 底部は平底。	体部ロクロ整形、底部切り離し 不明。	白色粒・黒色粒・ 石英・角閃石 内外一灰白～暗 灰黄色	I-14G 体部～高台部残 存。
32	土師器 鉢	口径 23.0 底径 15.2 器高 12.2	膨らみのない胴部、やや内反す る口縁部。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 半斜横位ヘラケズリ、下半斜縦 位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨ コナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 雲母 内外一にぶい橙 色	L-11G 1/4。
33	灰釉陶器 長頸瓶	口径 — 底径 9.0 器高 —	彎曲気味に立ち上がる体部。底 部は平底。	体部ロクロ整形後、下位回転ヘ ラケズリ、底部回転糸切り。外 面全面施釉。	白色粒 胎土： 灰白色 釉：オ リーブ灰色	L-11G 体部～高台部残 存。
34	須恵器 短頸壺	口径 (11.6) 底径 — 器高 —	膨らんだ胴部、彎曲気味に短く 立ち上がる口縁部。	ロクロ整形。	白色粒・黒色粒 内外一灰白～に ぶい黄橙色	E-5G 口縁部～胴部上 位1/4。
35	須恵器 甕	口径 — 底径 14.6 器高 —	彎曲気味に立ち上がる胴部。底 部はやや上げ底気味。	外面一口縁部整形後下位ヘラナ デ。内面一口縁部整形後斜横位 ヘラナデ。	白色粒・礫 内外一灰黄褐～ 黄灰色	E-2G 胴部中位～底部 残存。
36	土師器 小型台付甕	口径 12.0 底径 8.3 器高 16.4	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に僅かな膨らみをもち、口縁部 は上位が開いた弱い「コ」字状を 呈す。台部は「ハ」字状。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位半横位ヘラケズリ、下半斜縦 位ヘラケズリ、台部ヨコナデ。 内面一口縁部ヨコナデ、胴部横 位ヘラナデ、台部ヨコナデ。	白色粒・黒色粒・ 雲母 内外一橙～にぶ い黄褐色	T-7G 台部一部欠 損。
37	土師器 甕	口径 (21.8) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に膨らみをもち、口縁部は「コ」 字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上 位横位ヘラケズリ、中位斜縦位 ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコ ナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・ 角閃石・雲母 内外一橙色	L-11G 口縁部～胴部中 位1/4。
38	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位 に膨らみをもつ。	外面一胴部上位横位ヘラケズ リ、中位斜縦位ヘラケズリ。 内面一胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・ 黒色粒・雲母 内外一橙色	L-11G 胴部上位～中位 残存。
39	土師器 甕	口径 — 底径 4.2 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部の膨 らみは少なく、長胴を呈す。	外面一胴部縦位ヘラケズリ。 内面一胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・ 礫 内外一にぶ い橙色	L-11G 胴部中位～底部 1/2。
40	土師器 甕	口径 — 底径 4.9 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみを もつ胴部中位。	外面一胴部斜縦位ヘラケズリ。 内面一胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・ 黒色粒 内外一橙色	L-11G 胴部中位～底部 1/3。
41	土師器 甕	口径 (24.4) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみの ない胴部、短く外反する口縁部。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部縦 位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨ コナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石・ 礫 内外一橙色	C-2G 口縁部～胴部上 位1/6。
42	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。膨らみの 少ない胴部。	外面一胴部縦位ヘラケズリ。 内面一胴部斜横位ヘラナデ。 胴部に焼成後の穿孔。	白色粒・雲母・石 英 内外一にぶ い黄橙色	G-12G 胴部破片。
43	土製紡錘車	直径：6.3 厚さ：2.0 孔径：0.9	白色粒・雲母 橙色			L-11G 完形。
44	土 錘	長さ：9.0 幅：1.7 孔径：0.5	白色粒 橙色			I-16G 完形。
45	土 錘	長さ：5.2 幅：1.5 孔径：0.5	白色粒 にぶい橙色			I-16G 完形。
46	土 錘	長さ：4.6 幅：1.0 孔径：0.3	白色粒 橙～明黄褐色			I-17G 2/3。
47	土 錘	長さ：3.8 幅：1.5 孔径：0.4	白色粒 橙色			I-17G 完形。
48	土 錘	長さ：3.5 幅：1.3 孔径：0.5	白色粒 橙色			M-15G 1/2。
49	石製紡錘車	直径：5.0 厚さ：1.5 孔径：0.75 重さ：61g	濃緑灰色 蛇紋岩製			N-14G 完形。

5 川原町遺跡の集落

(1) 竪穴住居

検出した竪穴住居の総数は19軒を数える。遺跡の東西は氾濫原となっており、竪穴住居は南北に伸びる微高地上に集中している。所属年代は5世紀前半から10世紀の間にまたがる。現在、西方に存在する同時期の東五十子遺跡との間は氾濫原となっているが、東五十子遺跡の乗る台地は、端部が土取りにより大きく削平を受けており、川原町遺跡と東五十子遺跡は本来連続する一遺跡であった可能性を否定できない。並行期の集落が存在する小山川対岸の岡部町六反田遺跡との有機的関連が想定されよう。

遺構の遺存状態は、表土層が薄く、各所に攪乱が入り、竪穴住居相互の切り合いも複雑な箇所もあることから、全体として良好ではない。調査区南側は小山川の堤防であるが、調査区外にも延長する遺構があることから、本来の遺跡の範囲は、さらに南方に拡大するものと考えられる。

SI-01 (図473)

位置：B-3、C-3グリッドに位置する。

形状：南東側1/3程とカマド部分の上層が攪乱により破壊を受けてる。一辺3.8m程度の不整形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、下層にロームブロック、白色粘質土ブロック、砂礫を多量に含む黒褐色土、上層にロームブロック、礫を多量に含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。北東壁の東隅寄りにカマドを付設する。カマドの上層には方形の攪乱が入り、壁の立ち上がりに比べ遺存状態は不良である。カマドは壁掘込構造の燃焼部をもち、幅45cm、奥行き65cmを測る。煙道部を有し、袖部を認めない。床は貼床構造をもち、ロームを完全に掘り抜き、ローム下の礫層上面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは60cm前後を測る。

遺物：遺物は、いずれも覆土から、土師器坏8点、小型甕1点、甕1点、羽釜1点を検出したほか、土師器片若干が出土した。うち羽釜は、通有の甕の肩部から頸部にかけての部位に、扁平な鏝状の羽部を取り付けたもので、羽釜出現期の特殊な一様相を示す。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀後半代と判断される。

SI-01 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 11.1 底径 8.2 器高 3.6	体部下半に僅かな膨らみをもち口縁部は彎曲気味に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部ナデ。	角閃石・褐色粒・雲母 内外一にぶい橙色	口縁部一部欠損。
2	土師器坏	口径 11.2 底径 7.9 器高 3.6	体部中位に僅かな膨らみをもち口縁部は僅かに内彎。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外一明赤褐色	4/5。
3	須恵器坏	口径 12.4 底径 5.9 器高 3.5	体部下半に僅かな膨らみをもち口縁部は緩やかに外反。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	石英・白色粒・チャート 内外一灰黄色	口縁部1/4欠損。
4	土師器坏	口径 (11.4) 底径 7.0 器高 4.1	体部は内彎気味に外反。底部は平底気味。	外面一不明瞭。内面一不明瞭。	白色粒・石英 内外一橙色	3/5。

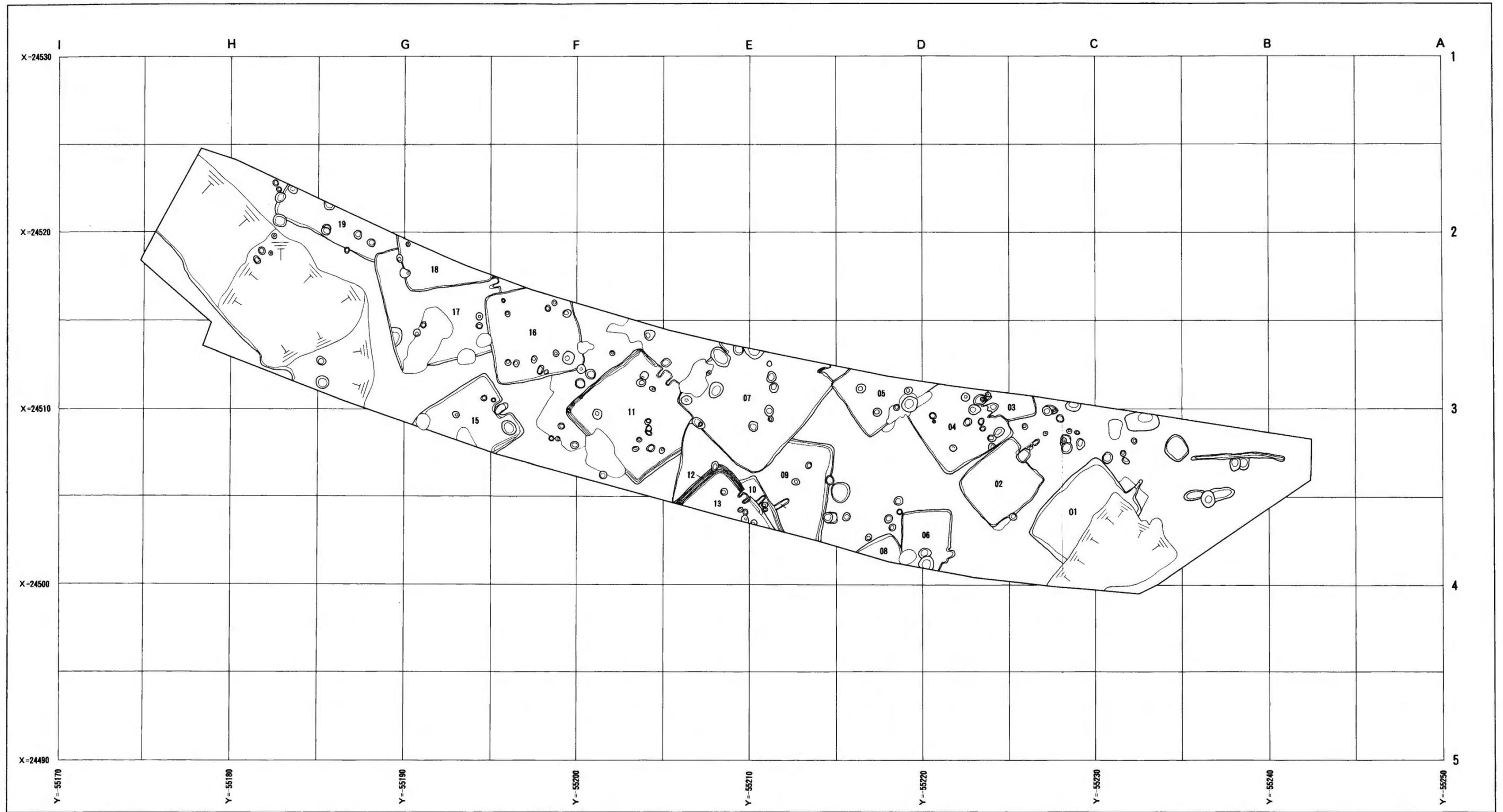
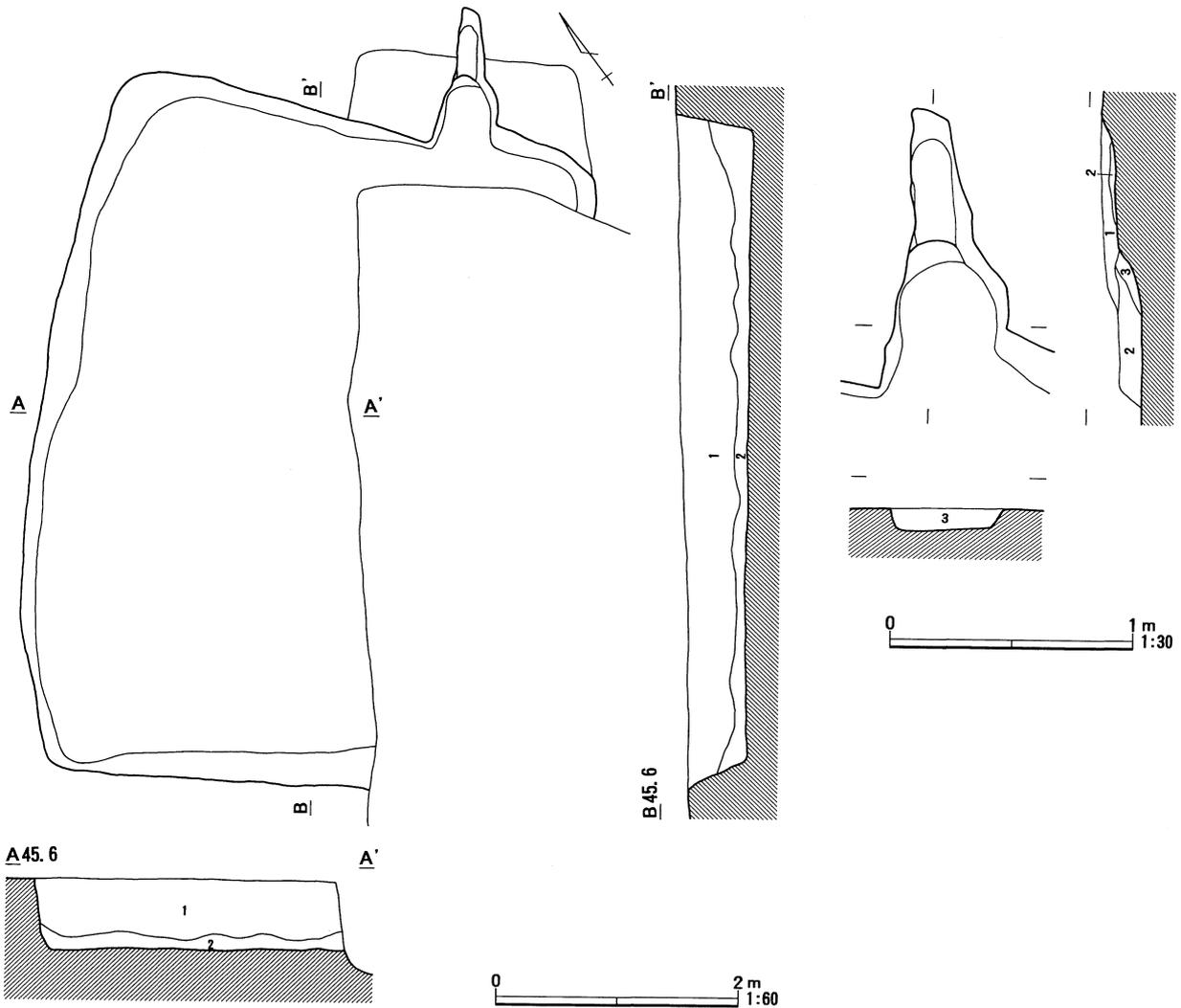


図472 川原町遺跡全測図





SI-01 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）、礫（径10～20mm）を多量に含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）、白色粘質土ブロック、（径1～10mm）、礫（径10～20mm）、砂粒（径1～2mm）を多量に含む。

SI-01 カマド土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～10mm）、白色粘質土ブロック、（径1～10mm）、礫（径10～20mm）、砂粒（径1～2mm）を多量に含む。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。

図473 SI-01

5	土師器 坏	口径 11.6 底径 6.5 器高 3.3	体部下半に僅かな膨らみをもち 口縁部は緩やかに外反。底部は 平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナ デ、底部ヘラケズリ。内面一口 縁部～底部ナデ。	角閃石・石英・雲 母 内外一明褐色	口縁部一部欠 損。
6	土師器 坏	口径 12.8 底径 6.5 器高 4.1	体部下半に僅かな膨らみをもち 口縁部は緩やかに外反。底部は 平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部 ～底部ナデ。内面一口縁部ヨコ ナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・角閃石・ 石英 内外一明赤褐色	完形

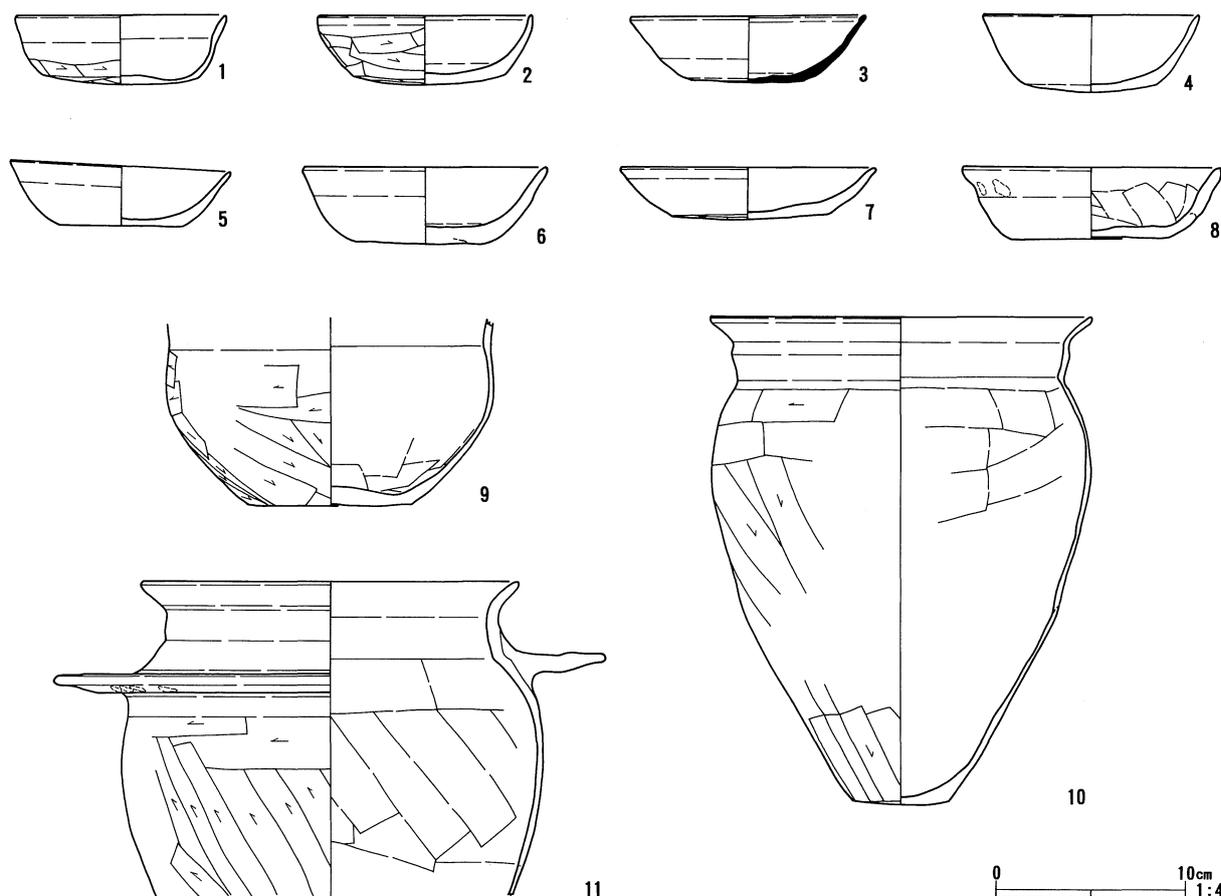
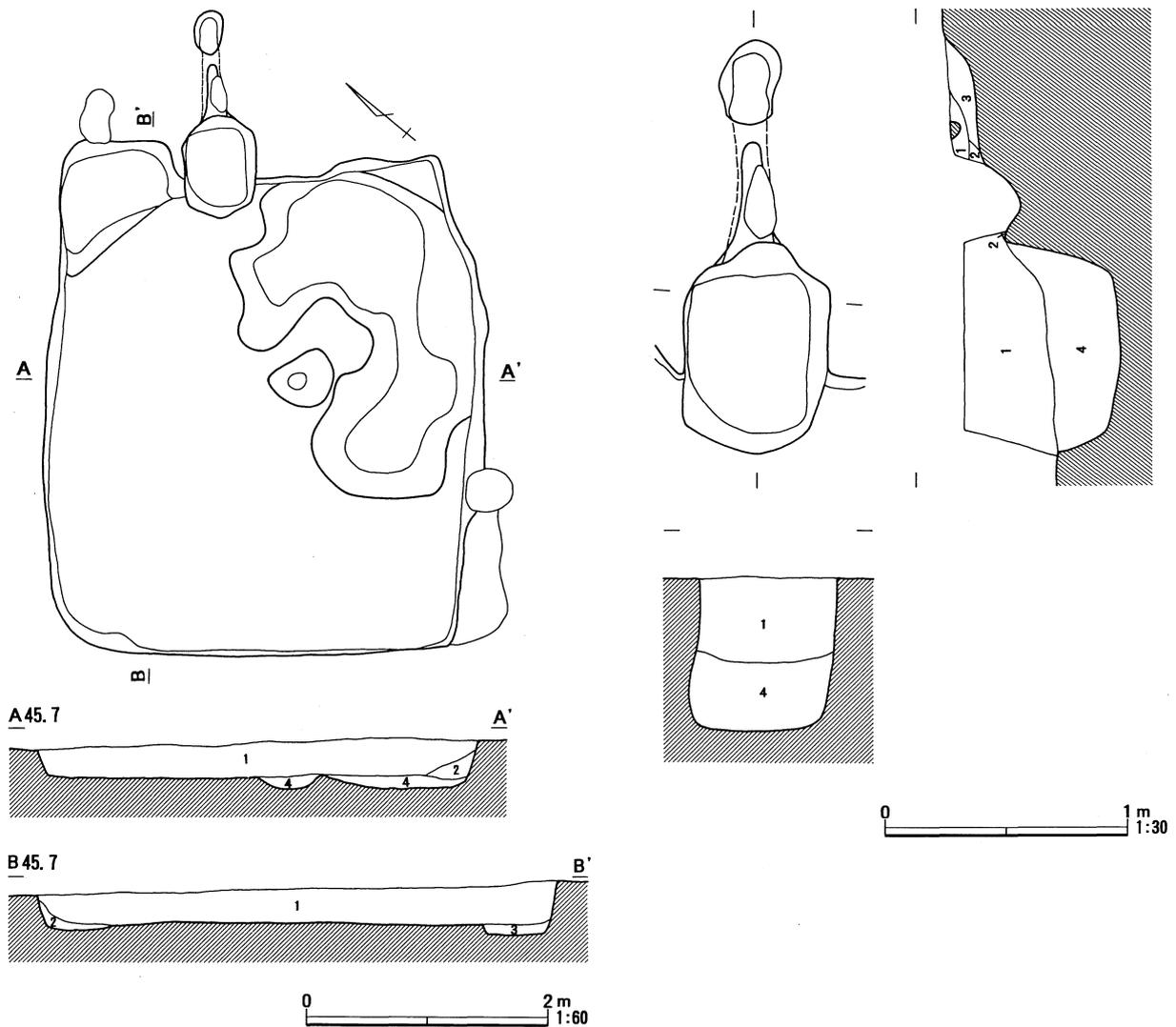


図474 SI-01 出土遺物

7	土師器 坏	口径 13.3 底径 8.2 器高 2.7	体部から口縁部にかけて緩やかに立ち上がる。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、底部ヘラケズリ。 内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	褐色粒・角閃石・石英 内外—橙～にぶい橙色	4/5。
8	土師器 坏	口径 13.6 底径 8.4 器高 3.9	体部下半に僅かな膨らみをもち口縁部は緩やかに外反。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面—口縁部～底部ナデ。	石英・角閃石 内外—にぶい褐色	ほぼ完形
9	土師器 小型甕	口径 — 底径 8.6 器高 —	胴部中位に膨らみをもち、底部は大きな平底。	外面—胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。 内面—胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—橙色	口縁部欠損。
10	土師器 甕	口径 (20.3) 底径 5.0 器高 26.0	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は上位が大きく外反した「コ」字状を呈す。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外—にぶい橙色	1/3。
11	土師器 釜 羽	口径 19.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。鐙は長く、水平。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中位斜縦位ヘラケズリ、鐙部指頭圧痕。鐙の剝離面にもヘラケズリ、ヨコナデがあり、甕として焼成後鐙を貼付。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部中位 2/3。



SI-02 土層説明

- 1 暗褐色土 礫(径10~20mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土
- 3 におい黄褐色土
- 4 暗褐色土 礫(径10~20mm)、砂粒(径1~2mm)を少量含む。

SI-02 カマド土層説明

- 1 暗褐色土 礫(径10~20mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック(径1~5mm)、砂粒(径1~2mm)を多量に含む。
- 3 黒褐色土 焼土ブロック(径1~5mm)を少量含む。
- 4 暗褐色土 礫(径10~20mm)、砂粒(径1~2mm)を多量に含む。

図475 SI-02

SI-02 (図475)

位置：C-3グリッドに位置する。

形状：南東壁の上位が一部、攪乱により切られている。プランは、北東壁がカマドを境界として鉤の手状に内側へ屈曲する。北西壁4.3m、南東壁4.1m、南西壁3.0mを測り、隅丸方形を呈する。

構造：覆土は、立ち上がり付近の一部下層に黒褐色土、その他全体に礫を含む暗褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。北東壁のやや西隅寄りにカマドを付設する。カマドは隅丸方形を呈する壁掘込構造の燃焼部をもち、幅60cm、奥行き60cmを測る。なお、床面からカマド燃焼部底までの深さ25cmを測り、通常のカマドに比べ燃焼部の掘り込みが深い。煙道部を有し、一部に天井が遺存する。床は北隅およ

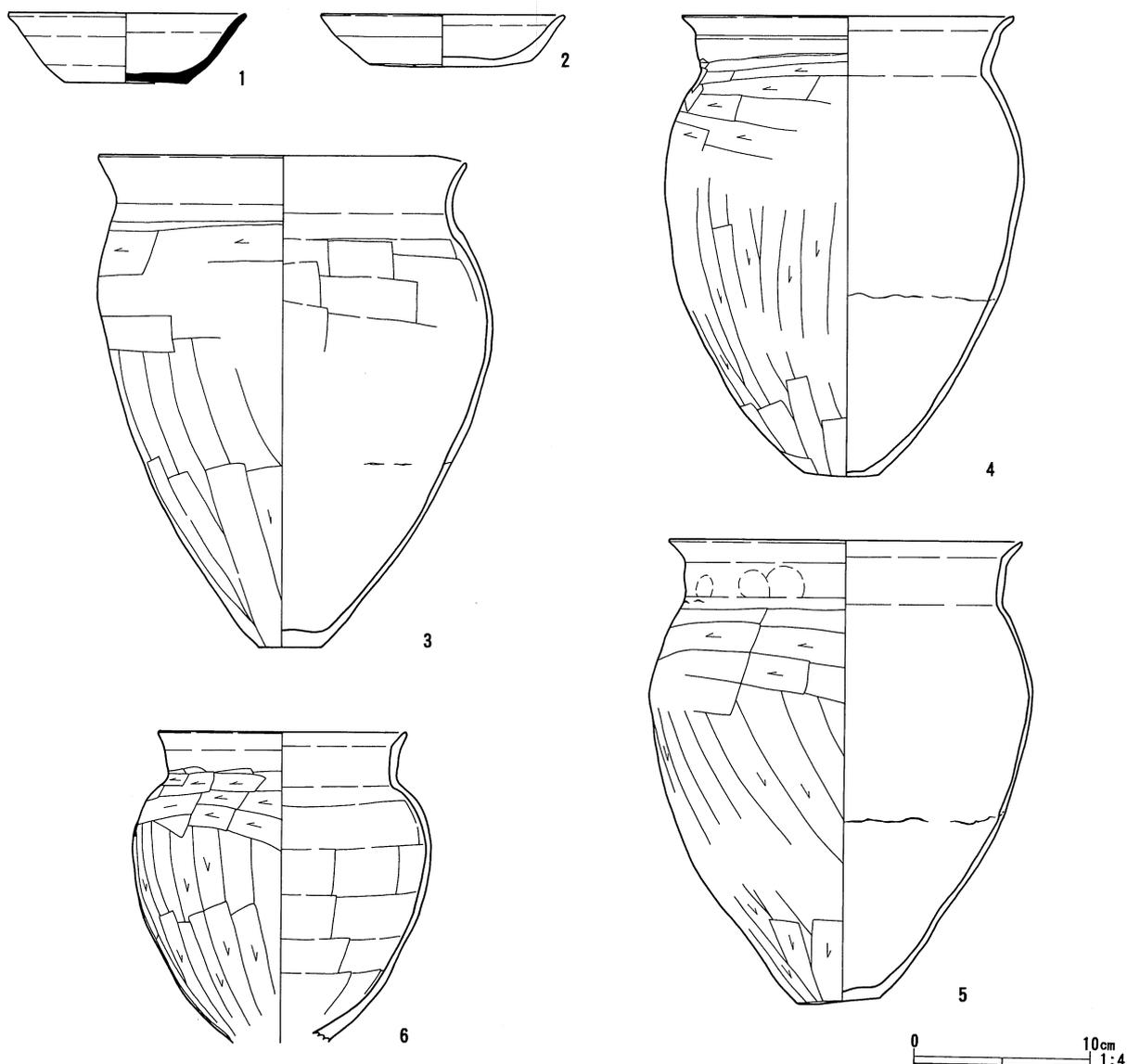


図476 SI-02 出土遺物

SI-02 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 坏	口径 13.4 底径 6.9 器高 4.0	体部下半に僅かな膨らみをもち口縁部は緩やかに外反。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	石英・黒色粒 内外一灰色	口縁部一部欠損。
2	土師器 坏	口径 13.8 底径 9.1 器高 2.9	中位に僅かな膨らみをもつ浅い体部から、口縁部は緩やかに外反。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～底部ヨコナデ。	石英・白色粒・雲母 内外一褐色	口縁部一部欠損。
3	土師器 甕	口径 20.8 底径 3.5 器高 28.1	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラケズリ。	褐色粒・石英 内外一明褐色	口縁部～胴部中位 1/4 欠損。
4	土師器 甕	口径 (18.8) 底径 4.4 器高 26.4	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	褐色粒・白色粒・石英 内外一赤褐色	1/3。

び東1/3の範囲ににぶい黄褐色土ないし砂礫を含む暗褐色土を充填して貼床を構築しており、貼床部は硬化が著しい。掘り方は、不整形の落ち込みとなっているが、床面下には土壌その他の遺構は認められない。確認面から床面までの深さは25~30cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏1点、甕4点、須恵器坏1点を検出したほか、土師器片若干が出土した。また、カマド内からも甕を中心とする土師器片を多量に検出した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀後半代と判断される。

5	土師器 甕	口径 20.0 底径 4.8 器高 26.5	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・角閃石 内外一明赤褐色	胴部2/3欠損。
6	土師器 甕	口径 (14.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	石英・片岩 内外にぶい褐色	口縁部~胴部下位1/4。

SI-03 (図477)

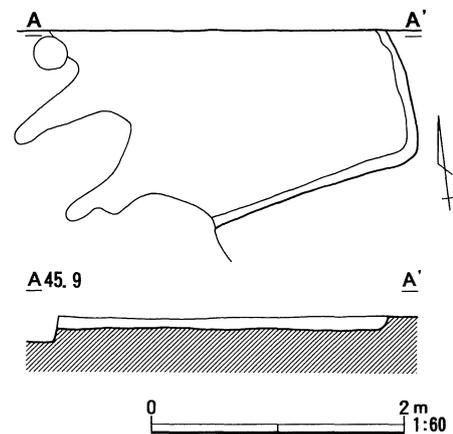
位置：C-2・3グリッドに位置する。

形状：調査区の北縁にあって、北側1/2程が調査区外にあり、さらに西半をSI-04により切られている。プランの詳細については不明であるが、残存する南東隅は明瞭な角をもって屈曲しており、隅の明瞭な正方形ないし長方形を方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は単層で、ロームブロック、炭化物ブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは10~15cmを測る。

遺物：遺物は、床面直上で、土師器坏1点、高坏1点、甕1点、甌1点、壺1点を検出したほか、覆土から土師器片若干が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から5世紀後半代と判断される。



SI-03 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。

図477 SI-03

SI-03 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.0 底径 — 器高 6.6	体部下半に僅かな膨らみをもち口縁部は短く外傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面一口縁部~体部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒 内外一明赤褐色	2/3。
2	土師器 高坏	口径 18.6 底径 (12.4) 器高 12.6	脚部はやや開いた短脚で、裾部は大きく開き、坏部は平底から緩やかに外反。	外面一口縁部ヨコナデ、底部~裾部ヘラナデ。内面一口縁部~底部ヨコナデ、脚部横位ヘラナデ。	白色粒・石英 内外一明赤褐色	坏部1/4、裾部3/4欠損。
3	土師器 甌	口径 (24.0) 底径 (10.0) 器高 29.3	胴部中位に緩やかな膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半不明瞭、下半ヘラケズリ。内面一不明瞭。	白色粒 内外一明赤褐色	1/3。

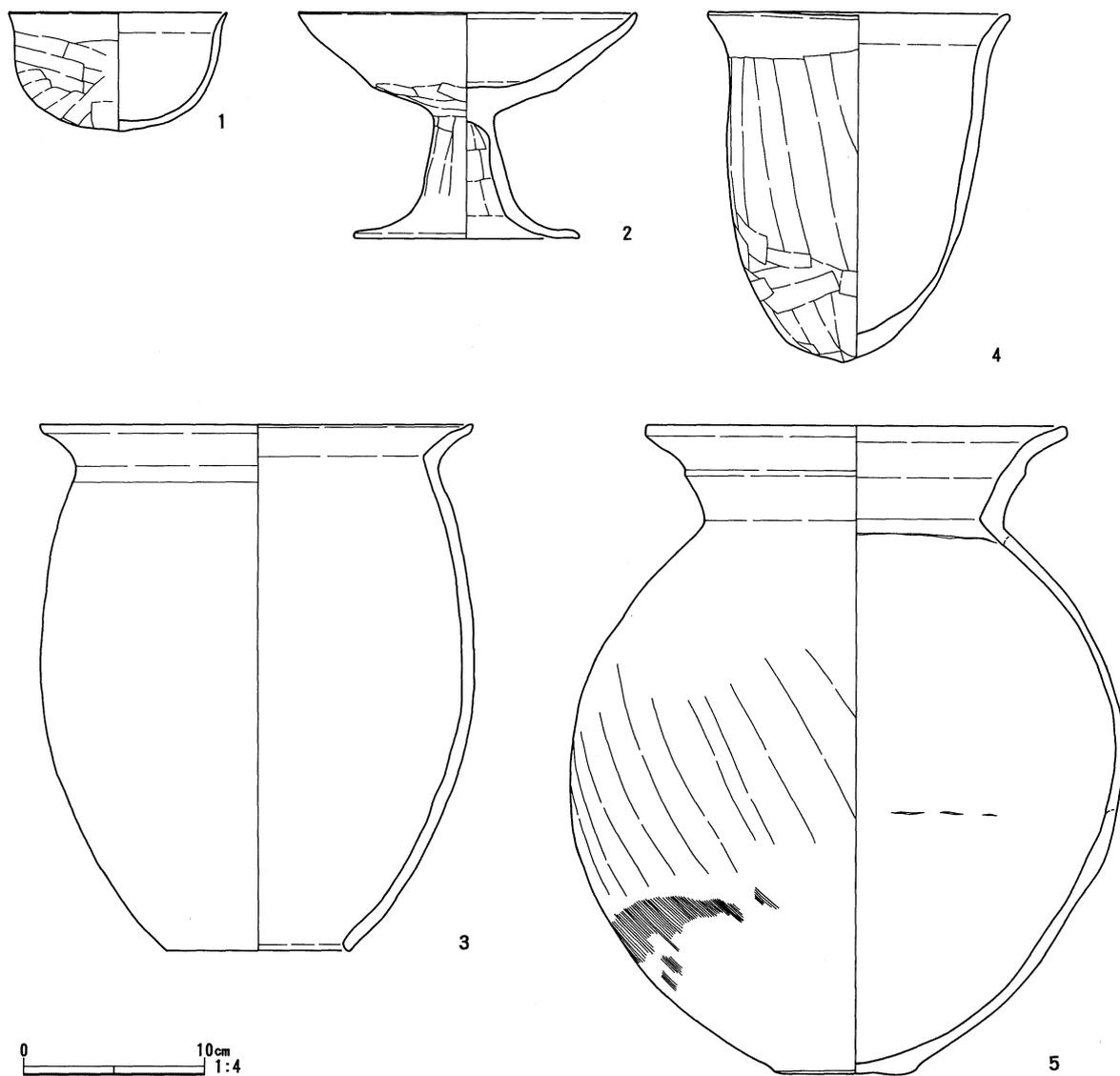


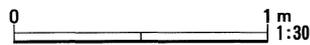
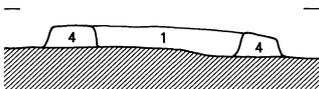
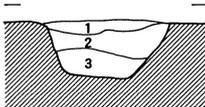
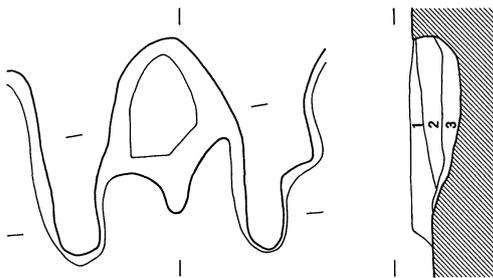
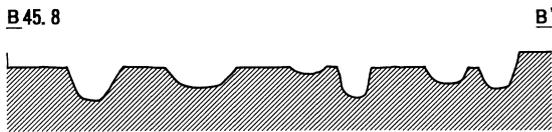
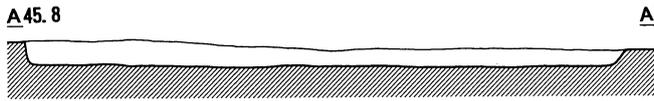
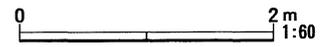
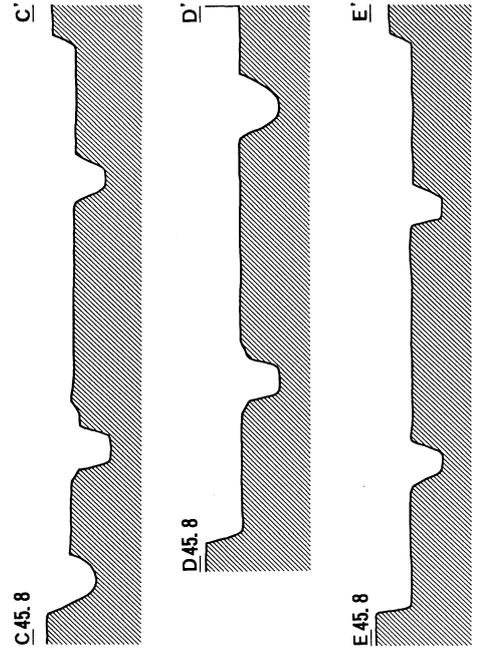
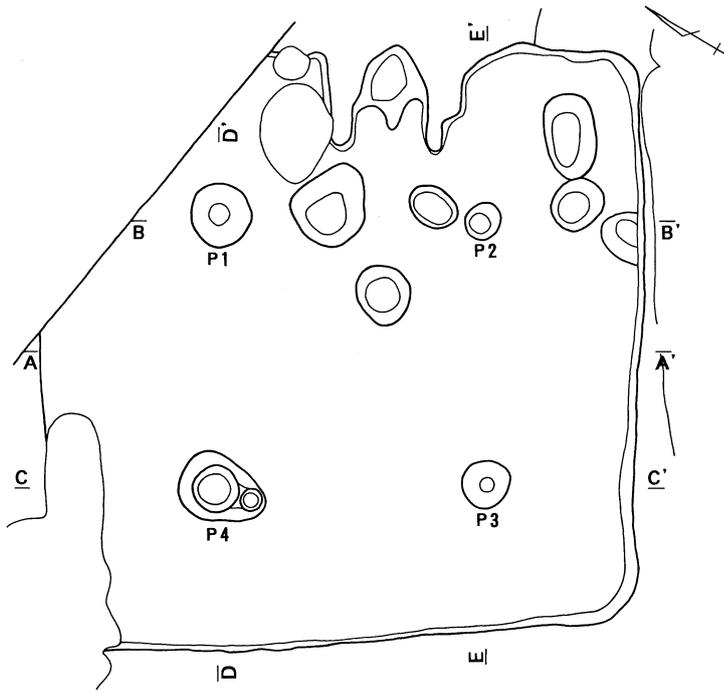
図478 SI-03 出土遺物

4	土師器 甕	口径 16.5 底径 — 器高 19.5	胴部は膨らみがなく、口縁部は緩やかに外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上・中位斜縦位ヘラケズリ、下位斜横位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒 内外—橙色	4/5。
5	土師器 壺	口径 23.0 底径 7.3 器高 36.3	胴部は球状に膨らみ、口縁部は外反して中位に段をもつ。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上・中位斜縦位ヘラケズリ、下位斜位ハケ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	白色粒 内外—明褐色	胴部1/4欠損。

SI-04 (図479)

位置：C-2・3、D-2・3グリッドに位置する。

形状：調査区の北縁にあって、北隅が調査区外にあり、さらに西隅周辺を攪乱により切られている。プランは、3.8×4.8m程度の長方形を呈するものと推測される。



SI-04 土層説明 (単層)

黒色土 ロームブロック(径1~5mm)、焼土ブロック(径1~5mm)、炭化物ブロック(径1~5mm)を少量含む。

SI-04 カマド土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック(径1~5mm)、焼土ブロック(径1~5mm)、炭化物ブロック(径1~5mm)を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック(径1~5mm)、焼土ブロック(径1~5mm)を多量に含む。
- 3 黒色土 ロームブロック(径1~10mm)、炭化物ブロック(径1~5mm)を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック(径1~5mm)、焼土ブロック(径1~5mm)を少量含む。

図479 SI-04

構造：覆土は単層で、ロームブロック、焼土ブロック、炭化物ブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴はP1～P4の4基を検出した。壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。北東壁の中央にカマドを付設する。カマドは造付構造の燃焼部をもち、幅60cm、奥行き85cmを測る。煙道認めない。袖部はロームブロック、焼土ブロックを含む暗褐色土を用いて構築している。カマドに伴う遺物は認められない。床は貼床構造をもち、ローム掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは15～20cmを測る。

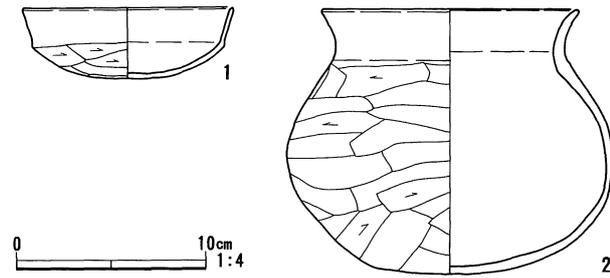


図480 SI-04 出土遺物

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏1点、小型甕1点を検出したほか、土師器の細片若干が出土した。また、カマド内からも土師器の細片若干を検出した。

時期：所属時期は、出土遺物の型式から7世紀前半と判断される。

SI-04 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 (11.0) 底径 — 器高 3.7	口縁部は直線的に外反し、体部はやや浅い。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	褐色粒・雲母 内外一にぶい黄 橙色	2/5。
2	土師器小型甕	口径 13.4 底径 — 器高 14.1	粘土紐積み上げ成形。胴部は下位に膨らみをもつ短胴で、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。	白色粒・礫 内外一橙色	2/5。

SI-05 (図481)

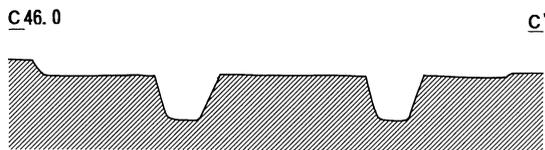
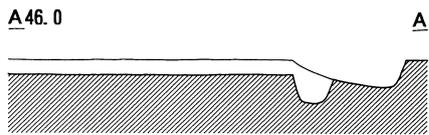
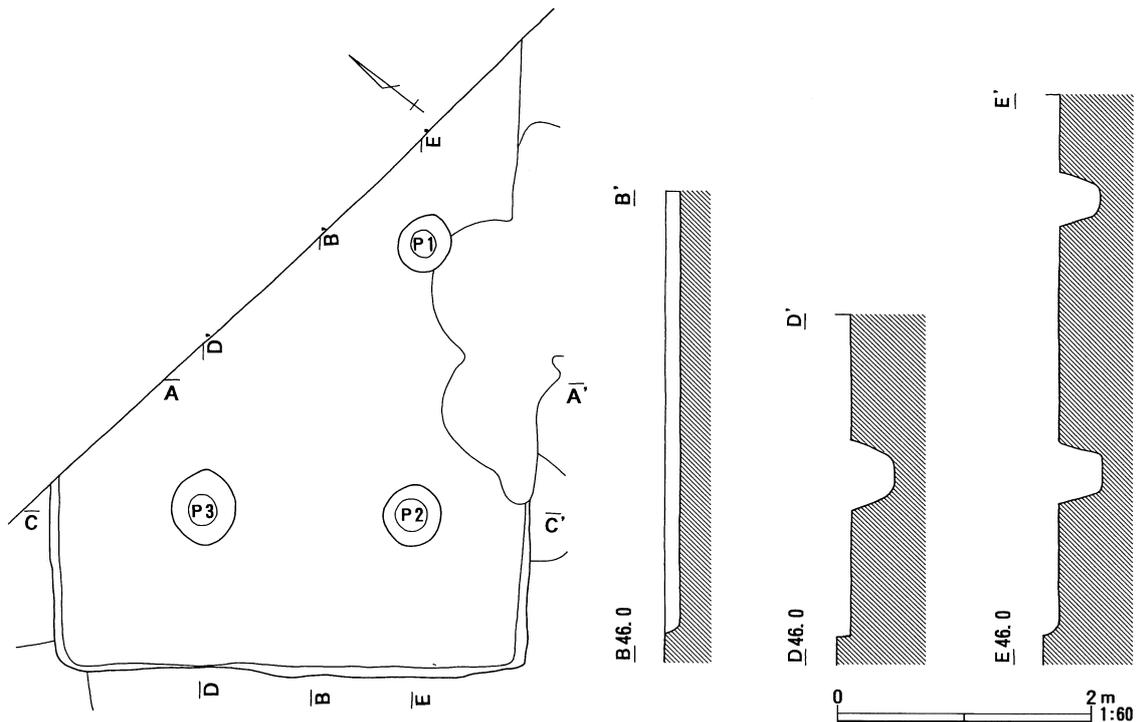
位置：C-2・3、D-2・3グリッドに位置する。

形状：調査区の北縁にあつて、北側1/3程度が調査区外にあり、さらに南東壁を攪乱により切られている。プランは、3.8×4.8m程度の長方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は単層で、ロームブロック、焼土ブロック、炭化物ブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴はP1～P3の3基を検出した。カマド、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもち、ローム掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは15cm前後を測る。

SI-05 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 5.9	体部は中位に膨らみをもち、口縁部は短く外傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒 内外一橙色	口縁部3/5欠損。
2	土師器坏	口径 13.8 底径 — 器高 6.1	体部は中位に膨らみをもち、口縁部は短く外傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	石英・雲母 内外一橙色	口縁部一部欠損。
3	土師器坏	口径 14.0 底径 — 器高 5.0	体部は中位に膨らみをもって浅く、口縁部は短く外傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	石英・白色粒 内外一明赤褐色	口縁部一部欠損。



SI-05 土層説明 (単層)

暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。

図481 SI-05

4	土師器 坏	口径 15.4 底径 — 器高 —	体部は中位に膨らみをもち、口縁部は短く外傾。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	口縁部～体部下位 3/4。
5	土師器 高坏	口径 16.8 底径 — 器高 —	脚部はやや開いた短脚で、坏部は平底から直線的に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、底部～脚部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、底部ナデ、脚部ヘラナデ。	白色粒・片岩・雲母 内外—明褐色	裾部欠損。
6	土師器 高坏	口径 16.6 底径 — 器高 —	平底から直線的に外反する口縁部。	口縁部内外面ヨコナデ、底部内外面ナデ。	白色粒・石英・片岩 内外—橙色	坏部 3/4。
7	土師器 罎	口径 9.6 底径 2.2 器高 5.4	体部は膨らみをもち、口縁部は直線的に短く外反。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上半ナデ、下半ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	褐色粒・白色粒 内外—橙色	3/4。
8	土師器 罎	口径 10.5 底径 2.1 器高 9.7	体部は丸みをもち、口縁部は直線的に外反。底部は僅かな上げ底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、中・下位～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	白色粒・石英 内外—明赤褐～にぶい橙色	口縁部 1/3 欠損。

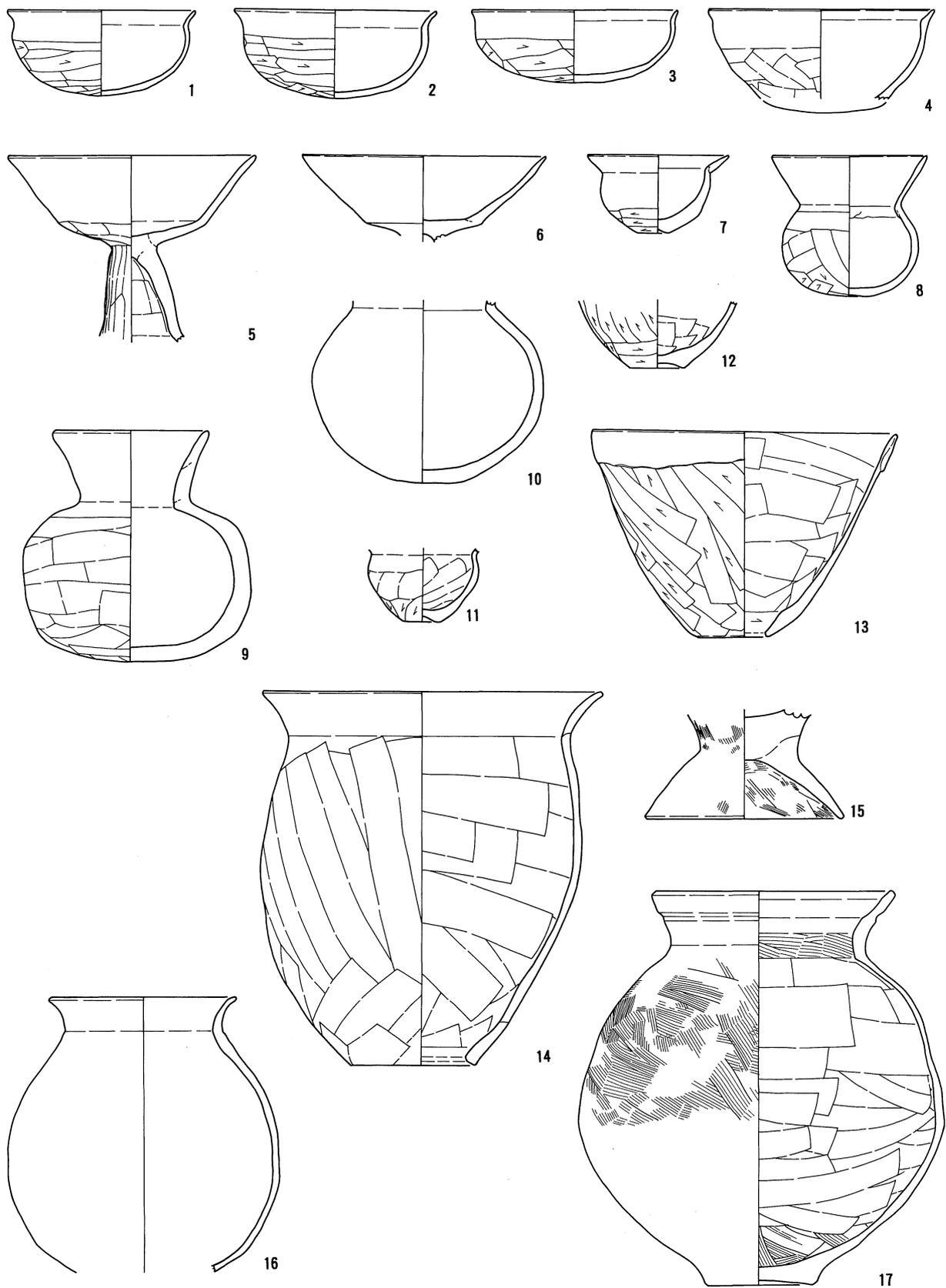
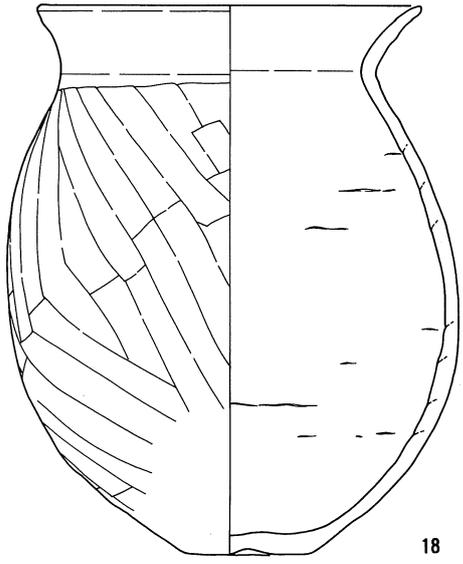
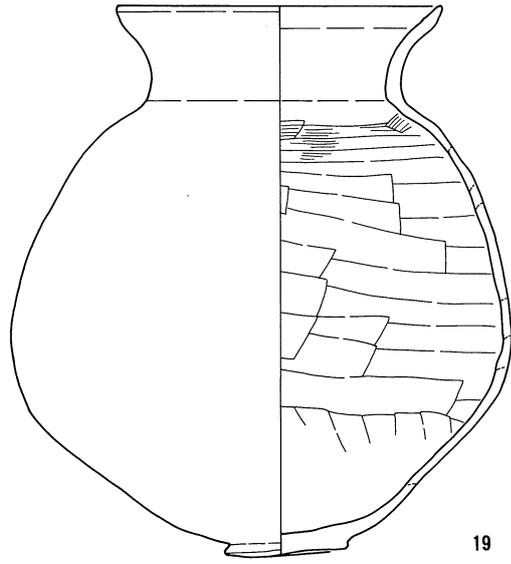


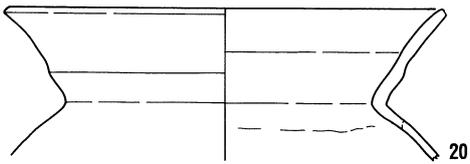
图482 SI-05 出土遺物 (1)



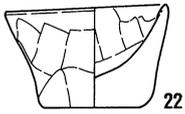
18



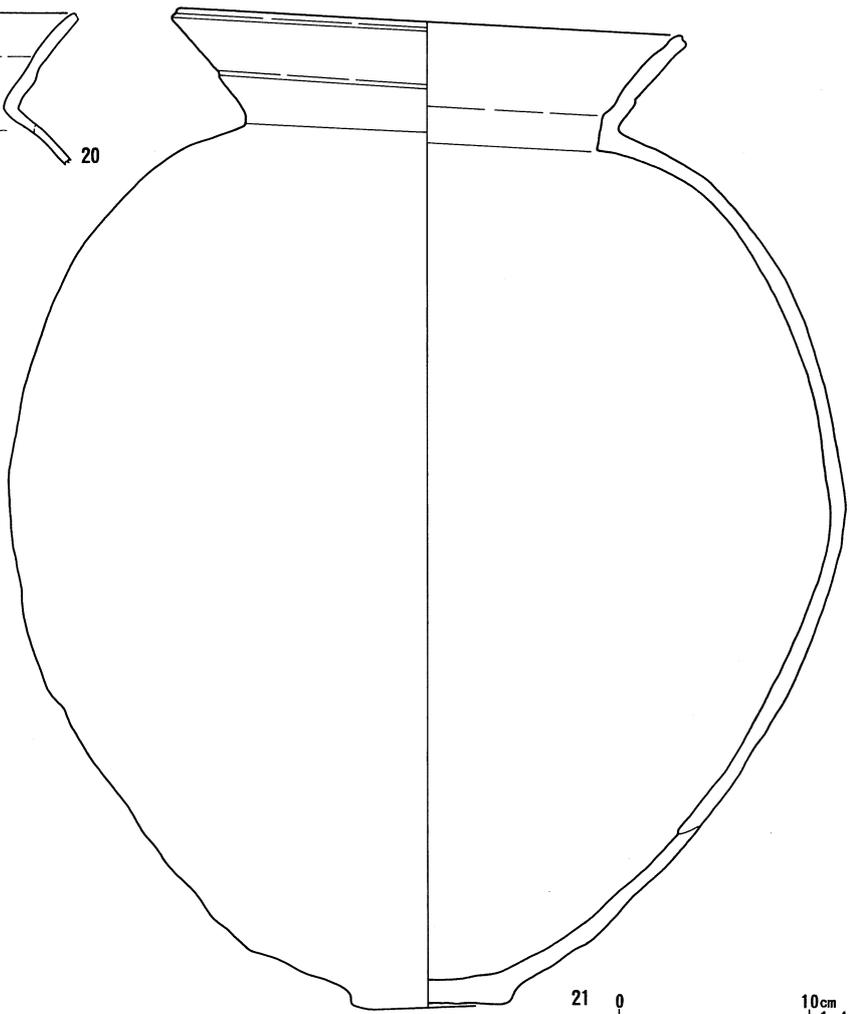
19



20



22



21

0 10cm 1:4

图483 SI-05 出土遺物 (2)

遺物：遺物は、床面直上で、土師器坏4点、高坏2点、小型埴1点、埴1点、小型甕2点、甕2点、台付甕1点、甕2点、小型壺2点、大型壺3点、鉢1点、石製模造品2点を検出したほか、覆土から土師器小片若干が出土した。石製模造品はともに剣形品で、23は軟質で絹雲母片岩が滑石化したものを原材とし、青味がかかった灰色を帯びる。全体に細身で、右面中央部には素材時の剝離面が残存し、両面とも整形時の削り痕が顕著である。縁辺部は若干欠損しているものの、両面とも鑄、茎を明瞭に表現している。穿孔は右面側より行なわれている。24は硬質の滑石を原材とし、暗緑色を帯びる。全体に褐鉄分が

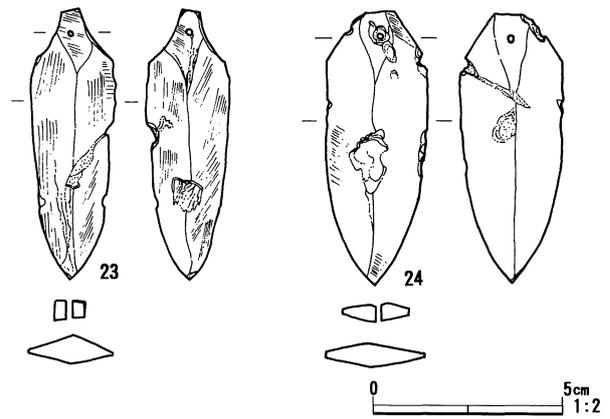


図484 SI-05 出土遺物 (3)

付着し、茶色味がかかる。幅広で木の葉状に仕上げられている。両面の中央部に素材時の剝離面が残存する。縁辺部は若干欠損している。整形時の削り痕は若干観察されるが、全面に光沢を帯びており、両面とも鑄、茎を意識して削りだしている。穿孔は左面から行なわれており、その際に孔周辺が剝離している。

時期：所属時期は、床面直上および覆土出土遺物の型式から5世紀後半代と判断される。

9	土師器 小型壺	口径 10.4 底径 — 器高 16.0	胴部は大きく膨らみ、口縁部は彎曲気味に外反。底部は丸底気味。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ、底部ヘラケズリ。 内面—口縁部ヨコナデ、胴部不明瞭。	白色粒・黒色粒・雲母 内外—橙色	ほぼ完形。
10	土師器 小型壺	口径 — 底径 — 器高 —	胴部は丸みをもち、底部は丸底気味。	胴部内外面ヘラナデ。	白色粒・石英・礫 内外—明赤褐色	口縁部欠損。
11	土師器 小型甕	口径 — 底径 2.2 器高 —	胴部上位に膨らみをもつ。底部は平底。	外面—胴部上位ヨコナデ、中位ヘラナデ、下位ヘラケズリ。 内面—胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外—明赤褐色	頸部～底部 1/2。
12	土師器 小型甕	口径 — 底径 3.6 器高 —	上げ底の底部。	外面—胴部中位斜縦位ヘラケズリ、下位横位ヘラケズリ。内面—横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外—にぶい黄橙色	胴部下位～底部 1/2。
13	土師器 甕	口径 20.8 底径 4.6 器高 14.7	胴部は僅かに膨らみをもつ。口縁部は折り返し。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部～胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・石英・礫 内外—橙色	口縁部～胴部上位 1/4欠損。
14	土師器 甕	口径 23.0 底径 8.5 器高 25.8	粘土紐積み上げ成形。僅かな膨らみをもつ胴部中位から、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙色	3/5。
15	土師器 台付甕	口径 — 底径 (13.4) 器高 —	開いた短い台部。	外面—台部ハケメ後ナデ。 内面—ハケメ。	黒色粒・褐色粒・石英 内外—にぶい橙～にぶい黄橙色	台部 3/5。
16	土師器 甕	口径 12.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部下位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・礫 内外—にぶい橙色	口縁部～胴部下位 1/2。
17	土師器 甕	口径 15.8 底径 7.0 器高 27.2	粘土紐積み上げ成形。中位に膨らみをもつ長胴で、口縁部は中位に段差をもって直線的に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ハケメ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ後横位ヘラナデ。	白色粒 内外—明赤褐色	4/5。

18	土師器	甕	口径 19.8 底径 6.6 器高 29.2	粘土紐積み上げ成形。中位に膨らみをもつ長胴で、口縁部は彎曲気味に大きく外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半斜縦位ヘラナデ、下半斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒・礫 内外一にぶい橙～明赤褐色	7/8。	
19	土師器	壺	口径 17.0 底径 6.6 器高 29.4	粘土紐積み上げ成形。胴部は下位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒 内外一にぶい橙褐色	3/5。	
20	土師器	壺	口径 22.8 底径 — 器高 —	口縁部下位に弱い段差をもつ。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部ナデ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	白色粒 内外一橙～明褐色	口縁部～胴部上位残存。	
21	土師器	壺	口径 27.0 底径 8.4 器高 52.4	胴部は縦長の球状を呈し、口縁部は外反して中位に段をもつ。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部不明瞭なナデ。内面一口縁部ヨコナデ、部ヘラナデ。	白色粒 内外一橙褐色	ほぼ完存。	
22	土師器	鉢	口径 (8.4) 底径 5.1 器高 5.5	手捏ね。直線的に外反する体部。底部は平底。	外面一口縁部～底部ヘラナデ。内面一口縁部～底部ナデ。	石英・礫・角閃石 内面一橙～にぶい黄褐色	3/4。	
No.	種類	器種	法 量 (cm・g)				備考	
23	石製品	剣形模造品	長さ7.2	幅2.2	厚さ0.8	穿孔径0.2	重さ15.0	絹雲母片岩。
24	石製品	剣形模造品	長さ7.2	幅2.7	厚さ0.6	穿孔径0.15	重さ16.0	絹雲母片岩。

SI-06 (図486)

位置：C-3、D-3グリッドに位置する。

形状：調査区の南縁にあつて、南壁より一部が調査区外にあり、さらに、西壁、床面の一部を攪乱により切られている。プランは、2.9×3.5m程度の不整形方を呈するものと推測される。

構造：覆土は、下層にロームブロック、炭化物ブロックを含む暗褐色土、上層に黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁の南東隅近くにカマドを付設する。壁掘込構造の燃焼部をもち、幅35cm、奥行き50cmを測る。左側にのみ短小な袖部がつく。ロームブロック、焼土ブロックを含む暗褐色土を用いて構築している。煙道部を認めない。床は貼床構造をもち、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には中央に不整形の落ち込みが存在する。そのほかはおおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

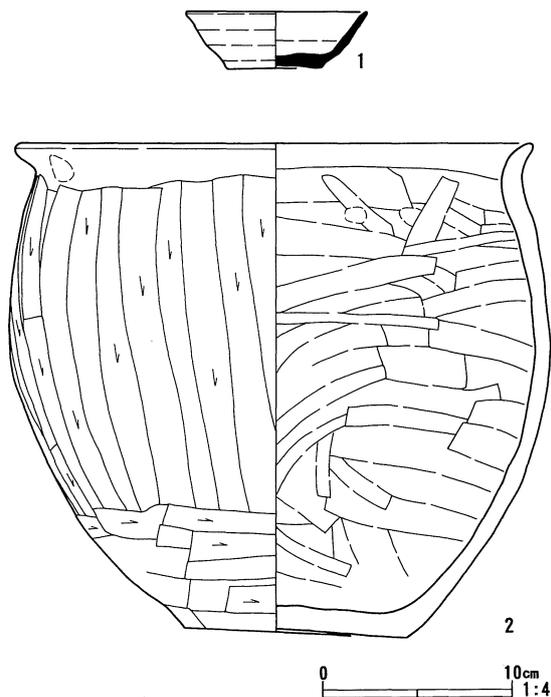
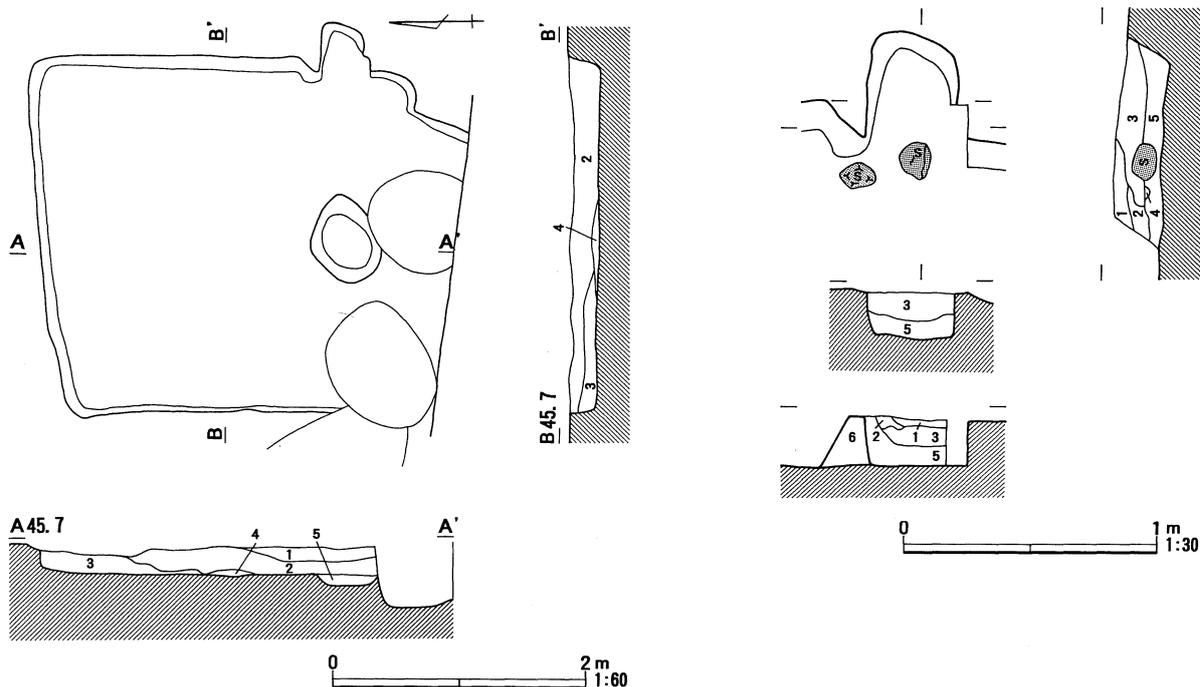


図485 SI-06 出土遺物

SI-06 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 環	口径 9.4 底径 5.0 器高 3.0	体部は浅く、口縁部は直線的に外反。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	褐色粒・石英 内外一橙～灰褐色	ほぼ完形。
2	土師器 甕	口径 27.0 底径 11.8 器高 26.2	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位が僅かに膨らみをもち、口縁部は短く外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上半斜縦位ヘラケズリ、下位横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	石英・礫 内外一にぶい褐色	口縁部・胴部下位一部欠損。



SI-06 土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土 ロームブロック（径1mm~15mm）、炭化物ブロック（径1~20mm）を少量含む。
- 3 暗褐色土
- 4 赤褐色土 焼土ブロック凝固層。しまり強。
- 5 黒褐色土

SI-06 カマド土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 黄色褐色土
- 3 暗褐色土 焼土ブロック（径1~5mm）を多量に含む。
- 4 赤褐色土 焼土ブロック凝固層。しまり強。
- 5 黒色土 ロームブロック（径1~5mm）、炭化物ブロック（径1~10mm）を少量含む。
- 6 暗褐色土 ロームブロック（径1~5mm）、焼土ブロック（径1~5mm）を少量含む。

図486 SI-06

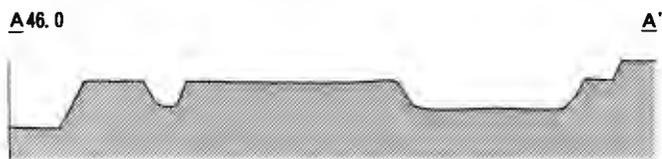
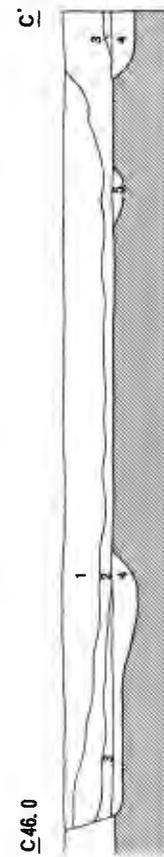
遺物：遺物は、床面直上で、須恵器坏1点、土師質の甕1点を検出したほか、覆土から土師器、須恵器片若干が出土した。土師質の甕は砂底で厚手のつくりを呈する。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から10世紀代と判断される。

SI-07 (図487~489)

位置：D-2・3、E-2・3グリッドに位置する。

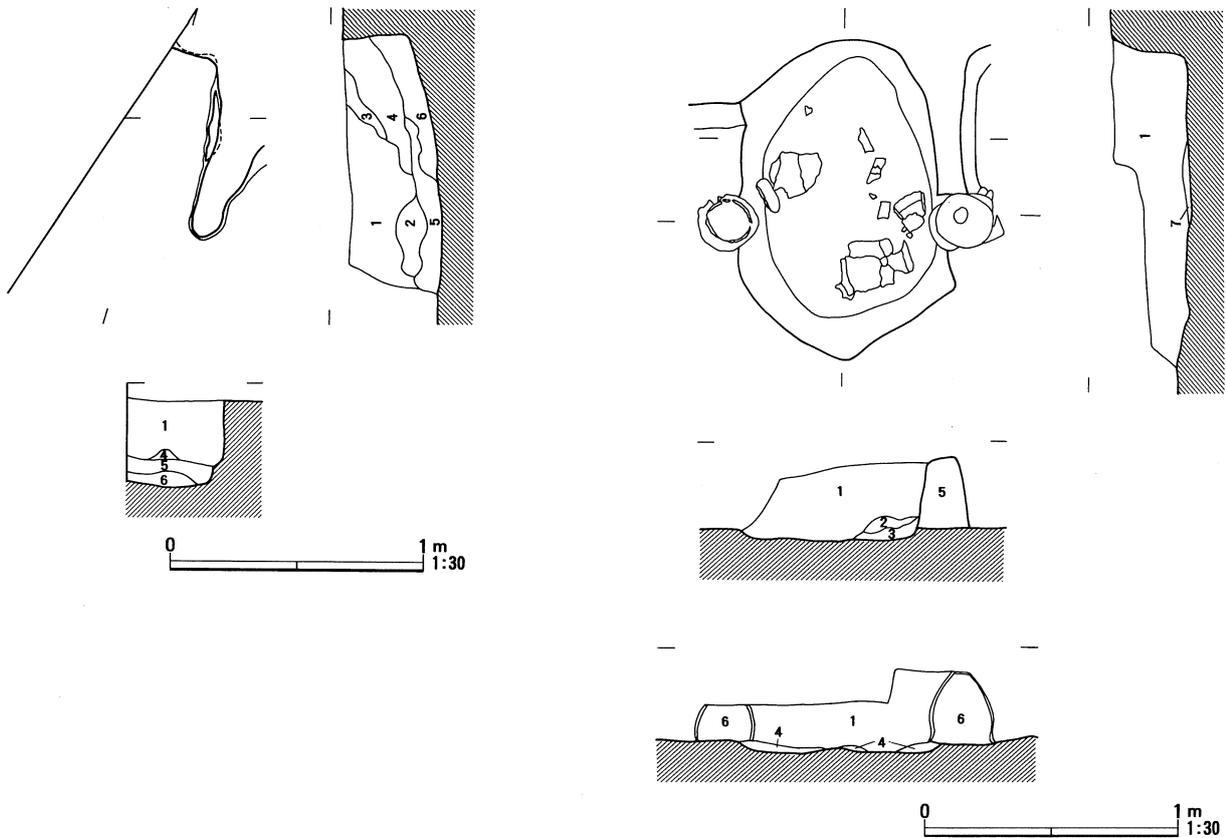
形状：調査区の北縁にあって、北隅側1/5程度が調査区外にあり、さらに北西壁の一部を攪乱により切られている。プランは、6.5×7.2mの長方形を呈する。



SI-07 土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、礫 (径1~15mm) を多量に含む。

図487 SI-07



SI-07 カマドNo.1 土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色粘質土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 5 黒褐色土 砂粒（径1～2mm）を少量含む。
- 6 黒褐色土 砂粒（径1～2mm）、炭化物ブロック（径1～5mm）を少量含む。

SI-07 カマドNo.2 土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 3 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、炭化物ブロック（径1～10mm）を少量含む。
- 4 黒褐色土 白色粘質土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）、白色粘質土ブロック（径1～5mm）、焼土ブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 7 褐色土

図488 SI-07 カマド

構造：覆土は、下層にロームブロック含む黒暗褐色土、上層に黒暗褐色土の堆積を認める。柱穴はP1・P2の2基を検出した。壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。北東壁と北西壁にカマドを付設する。北東壁のカマド1は壁から斜方向に掘り込まれる燃焼部をもつ。カマドの主軸が壁と直交しないことから、SI-07と切り合

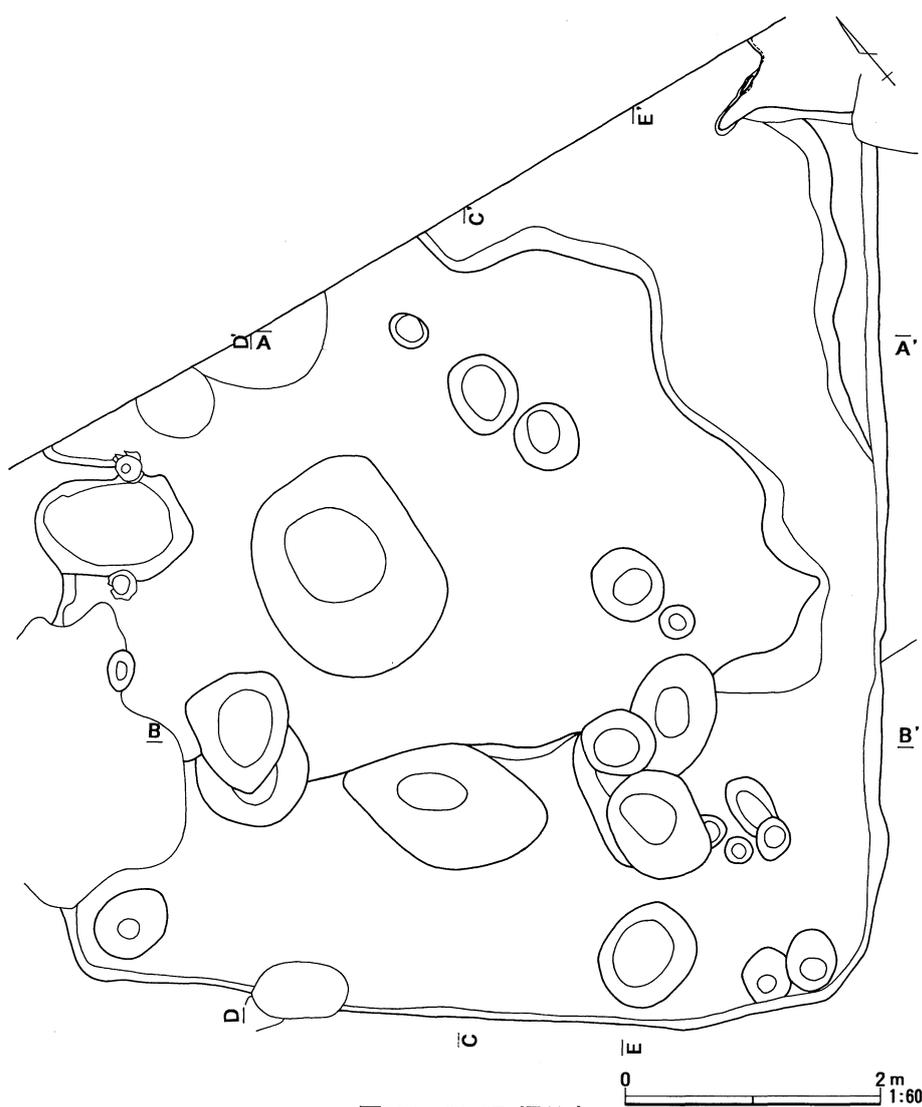


図489 SI-07 堀り方

う別住居のカマドの可能性も考えられたが、土層断面の観察からは切り合いは認められず、また残存する右袖の基部はローム掘り残しの構造となっていることからSI-07に伴うカマドと判断した。半分程が調査区外にあるため規模の詳細は不明であるが、燃焼部の奥行70cm程度を測るものと推測される。北西壁のカマド2は、燃焼部先端を壁側に掘り込むものの、ほぼ全体が造付構造となっている。燃焼部の幅38cm、奥行85cmを測る。袖部は、左側をすでに失っているが、残存する右袖部はロームブロック、焼土ブロックを含む黒褐色土を用いて構築して

いる。両袖先端部には、土師器甕1点ずつを倒立状態で設置している。燃焼部の幅75cm、奥行80cmを測る。煙道部の存在は確認できない。床は、中央部の地山を残し、周囲を一旦掘り下げ、そこにロームブロック、礫を多量に含む暗褐色土を充填し貼床を形成している。確認面から床面までの深さは40cm前後を測る。

遺物：遺物は、カマド2の袖先端の土師器甕2点のほか、カマド内から土師器甕破片を、覆土から土師器坏1点、甕1点、脚付鍋の脚片1点のほか土師器、須恵器の細片を多量に出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀中葉と判断される。

SI-07 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 12.0 底径 — 器高 3.4	体部下位に僅かな膨らみをもち口縁部は緩やかに外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部下位横位ヘラケズリ。内面不明瞭。	白色粒・角閃石 内外一橙色	3/5。
2	土師器甕	口径 19.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	角閃石・石英 内外一明赤褐色	口縁部～胴部下位残存。

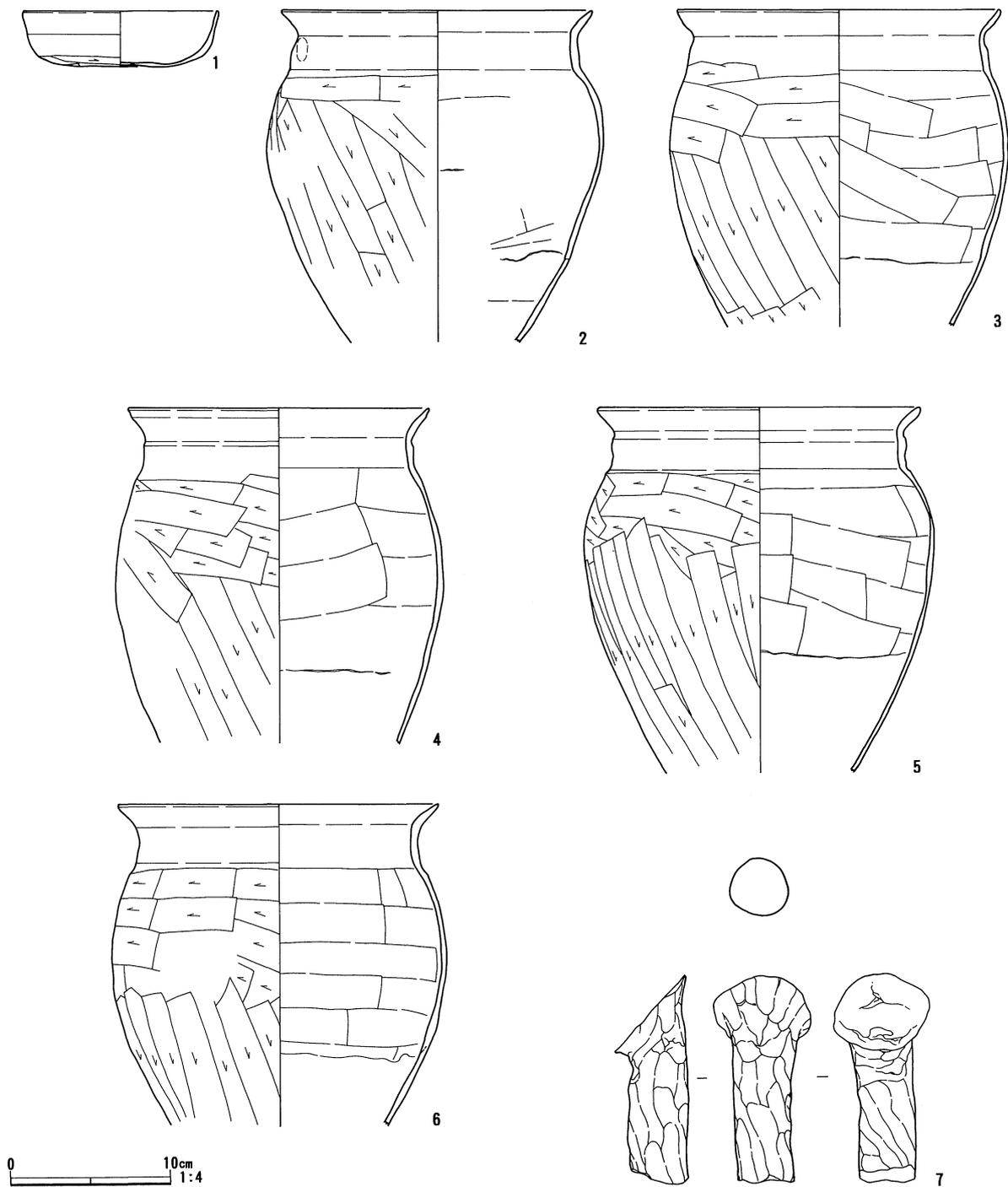
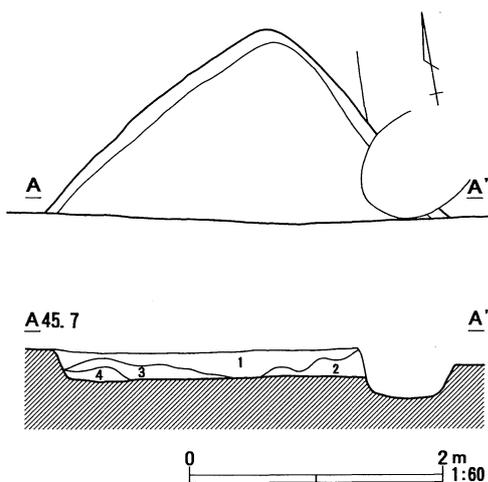


図490 SI-07 出土遺物

3	土師器	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面—胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。 内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—橙色	口縁部～胴部下位 1/3。
4	土師器	口径 18.8 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は弱い「コ」字状を呈す。	外面—胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。 内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・黒色粒 内外—明赤褐色	口縁部～胴部下位 1/3。

5	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—ぶい赤褐色	口縁部～胴部下位 1/3。
6	土師器 甕	口径 (20.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は「コ」字状を呈す。	外面—胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外—明赤褐色	口縁部～胴部下位 2/5。
7	土師器 三足鍋 (脚部)	口径 — 底径 — 器高 —	棒状の脚部。	外面—ヘラナデ。	白色粒・石英・角閃石 内外—橙色	脚部。



SI-08 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1mm±)、白色粘質土ブロック (径1～5mm) を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1～5mm) を含む。
- 3 黒色土 ロームブロック (径1～5mm)、焼土ブロック (径1～5mm) を少量含む。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1～5mm)、炭化物ブロック (径1～5mm) を少量含む。

図491 SI-08

SI-08 (図491)

位置：D-3グリッドに位置する。

形状：調査区の南縁にあって、北隅周辺の一部を確認できるにすぎない。プランの詳細は不明であるが、一辺2.5mの以上の方角を呈するものと推測される。

構造：覆土は、ロームブロック、白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。床面には微妙な起伏が存在するものの、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20～25cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏1点を検出したほか、土師器および須恵器の小片が若干出土したのみで、床面直上における遺物は認められない。

時期：出土遺物が少なく、所属時期の詳細は明らかではないが、覆土出土遺物の型式から9世紀代と判断される。

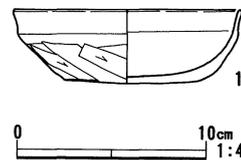


図492 SI-08 出土遺物

SI-08 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.0 底径 7.3 器高 3.9	体部は直線的で、口縁部は短く外反。底部は平底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	石英・角閃石 内外—ぶい黄褐色	3/5。

SI-09 (図494)

位置：D-3、E-3グリッドに位置する。

形状：調査区の南縁にあって、南側1/2近くが調査区外にあり、さらに床面中央部を後代の住居群により切られている。プランは、東西8.7mを測る大型住居である。

構造：覆土は、ロームブロックを含む黒色土ないし黒褐色土の堆積を認める。柱穴はP1・P2の2基を検出した。壁溝は東および北壁沿いにめぐる。カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は、ロームブロック、礫を多量に含む暗褐色土を全面的に充填し貼床を形成している。床面下の掘り方には、土壌などの掘り込みはなく、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは25~30cmを測る。

遺物：遺物は、床面直上で、土師器つまみ付蓋1点、須恵器坏蓋1点を検出したほか、覆土から土師器甕2点および土師器の小片が若干した。

時期：所属時期は、床面直上および覆土出土遺物の型式から5世紀後半代と判断される。

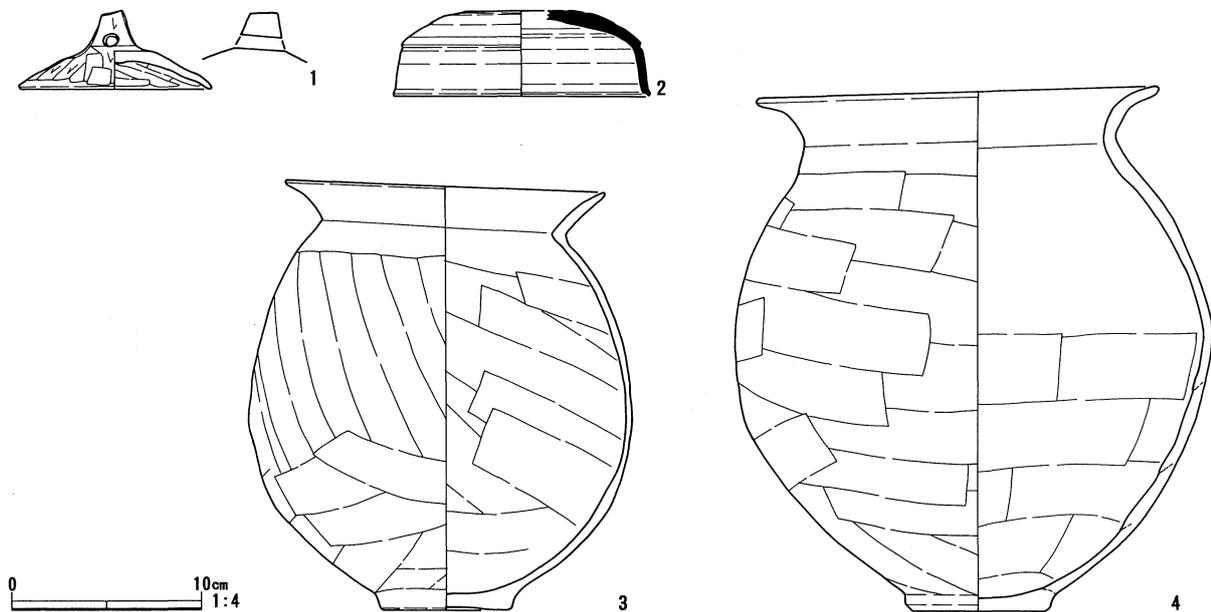


図493 SI-09 出土遺物

SI-09 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器蓋	口径 10.0 底径 — 器高 4.2	天井部は浅く、緩やかに開く。摘みに円孔。	外面—摘み部~口縁部ヘラケズリ。内面—ヘラナデ。	黒色粒・雲母 内外—明赤褐色	口縁部1/4欠損。
2	須恵器蓋	口径 (13.5) 底径 — 器高 4.5	天井部は浅く、口縁部は直線的にやや開き、口唇部に弱い沈線。	体部ロクロ整形、天井部右回転ヘラケズリ。	白色粒・黒色粒 内外—灰色	1/3。
3	土師器甕	口径 16.8 底径 6.6 器高 22.5	粘土紐積み上げ成形。胴部下位に膨らみをもつ短胴で、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部上・中位斜縦位ヘラナデ、下位斜横位ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外—橙色	3/4。
4	土師器甕	口径 20.8 底径 7.0 器高 27.7	粘土紐積み上げ成形。胴部中位に膨らみをもつ短胴で、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外—橙色	3/4。



図494 SI-09・10・12・13・14

SI-10 (図494)

位置：D-3、E-3グリッドに位置する。

形状：SI-09の内部にあって、大半をSI-12・13により切られている。北隅と北東壁の一部を残すのみで、プランの詳細は不明である。

構造：覆土は、下層にロームブロック、白色粘質土ブロック、礫を含む暗褐色土、上層にロームブロック、白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。確認面から床面までの深さは45cm前後を測る。

遺物：遺物は、床面直上で、いずれもほぼ完形の土師器杯2点、短頸壺1点を検出したほか、覆土から土師器片若干が出土した。

時期：所属時期は、床面直上出土遺物の型式から7世紀後半代と判断される。

SI-09 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 3 黄灰色土
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。しまり強。貼床層。
- 5 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、礫 (径1~10mm) を多量に含む。しまり強。貼床層。

SI-10 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色粘質土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~2mm) を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色粘質土ブロック (径1~5mm)、礫 (径1~10mm) を多量に含む。

SI-12 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。

SI-13 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1mm±)、炭化物ブロック (径1~5mm) を少量含む。

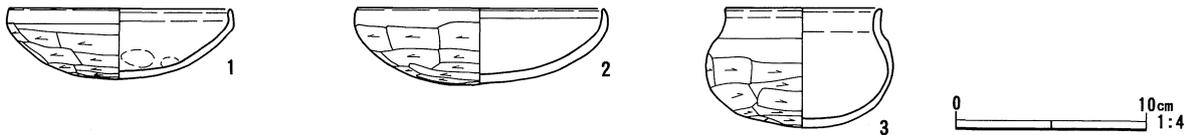


図495 SI-10 出土遺物

SI-10 出土遺物観察表

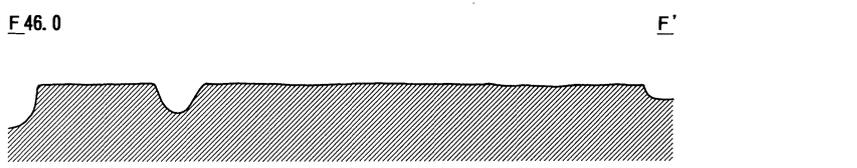
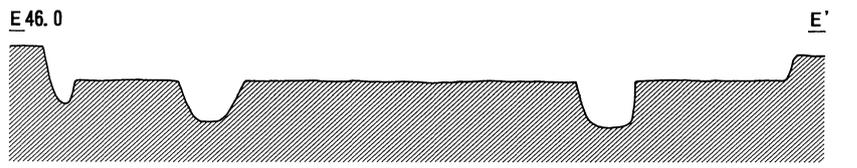
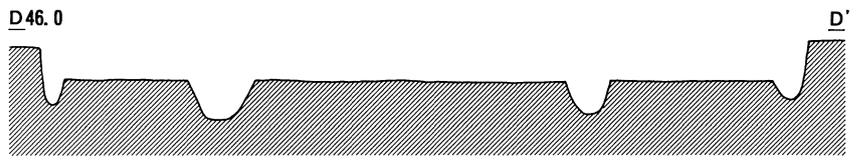
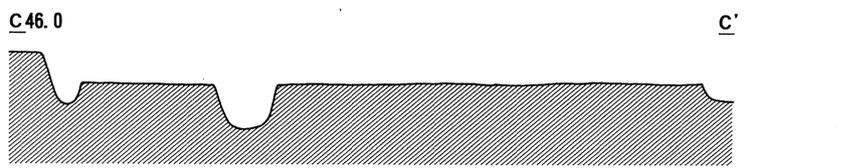
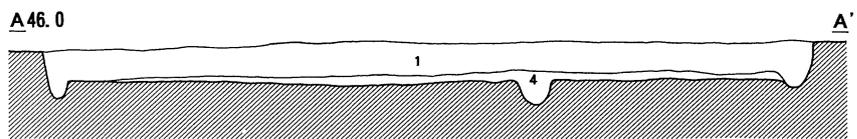
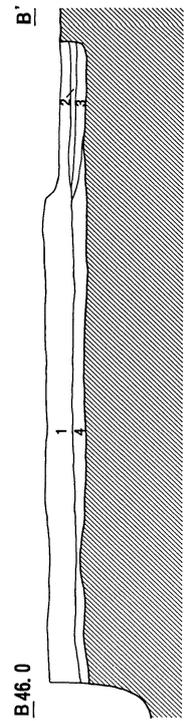
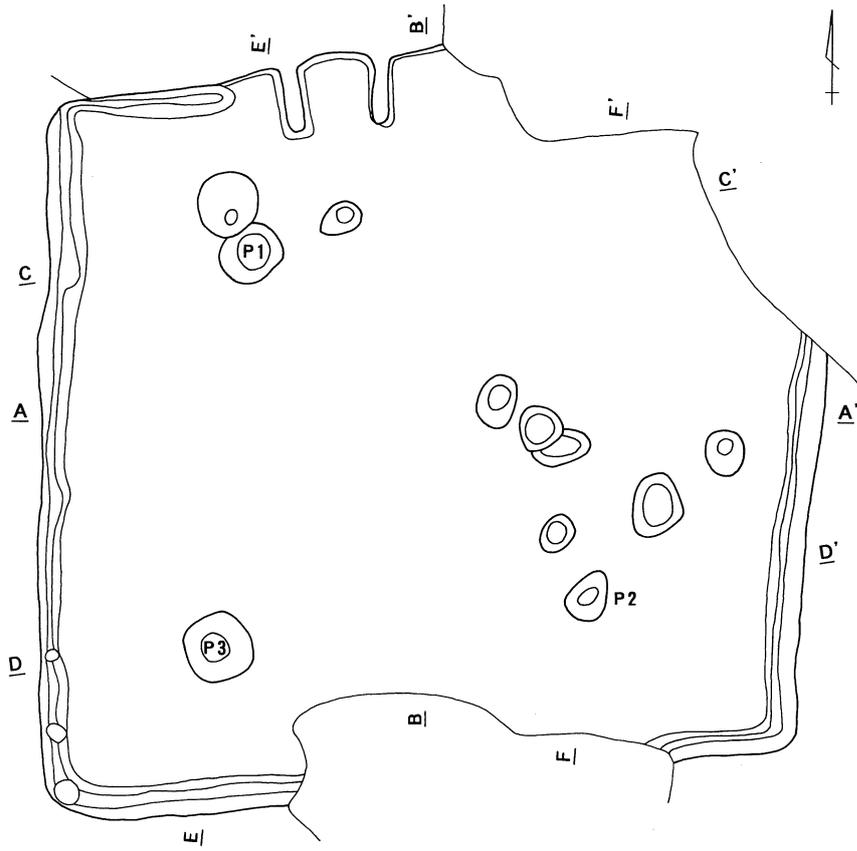
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 11.6 底径 — 器高 3.7	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く彎曲気味に内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面一口縁部~底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外一橙色 ~にぶい黄橙色	ほぼ完形。
2	土師器 坏	口径 12.9 底径 — 器高 4.0	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く彎曲気味に内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面一口縁部~底部ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外一橙色	ほぼ完形。
3	土師器 短頸壺	口径 8.1 底径 — 器高 6.3	胴部は僅かな膨らみをもち、口縁部は短く外反。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位ナデ、中位~底部ヘラケズリ。内面一口縁部~体部下位ナデ、底部ナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外一橙色	ほぼ完形。

SI-11 (図496・497)

位置：E-2・3、F-2・3グリッドに位置する。

形状：北東隅および南壁中央を攪乱により切られている。隅の角度が直角をなさず、プランは一辺5.5mの平行四辺形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロック、礫を含む黒褐色土、上層にロームブロック、白色粘質土ブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴はP 1~P 3の3基を検出した。壁溝はカマド周辺を除きほぼ全周する。貯蔵穴の存在は確認できない。北壁のほぼ中央にカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、幅55cm、奥行き65cmを測る。ロームブロック、焼土ブロックを含む黒褐色土を用いて構築している。床面はローム掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは30cm前後を測る。



SI-11 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~2mm)、白色粘質土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、を少量含む。
- 3 黒色土 炭化物ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、礫(径5~10mm) を少量含む。

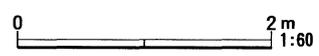
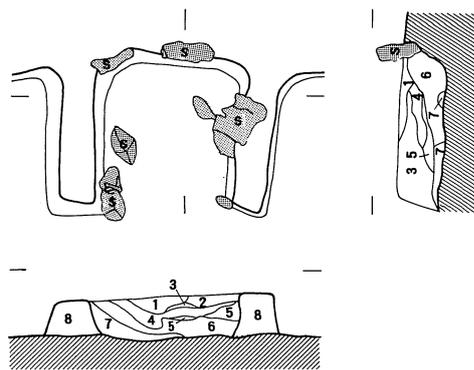


図496 SI-11



SI-11 カマド土層説明

- 1 黒色土 焼土ブロック(径1~10mm)を多量に含む。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック(径1~5mm)を少量含む。
- 3 黒色土 ロームブロック(径1~2mm)、白色粘質土ブロック(径1~5mm)を少量含む。
- 4 黒色土 ロームブロック(径1~10mm)を少量に含む。
- 5 赤褐色土 焼土ブロック凝固層。
- 6 黒色土 炭化物ブロック(径1mm±)を多量に含む。
- 7 黒色土 炭化物(径1~5mm)を少量含み、焼土ブロック(径1~5mm)を多量に含む。
- 8 黒褐色土 ロームブロック(径1~5mm)、焼土ブロック(径1~5mm)を少量含む。

図497 SI-11 カマド

遺物：遺物は、床面直上で、土師器坏4点を検出したほか、覆土から甕類を中心とする多量の土師器細片のほか覆土上層で、石製模造品1点が出土した。石製模造品は勾玉形で、石材は不明であるが、硬質で石英質に富み、青味がかった黒色を呈する。研磨痕はほとんどみられず、研磨による稜線が各部に観察される。全面が光沢を帯び、半環状に仕上げられている。穿孔は両面からなされており、外径0.7cmの段がつく。

時期：所属時期は、床面直上出土遺物の型式から7世紀後半代と判断される。

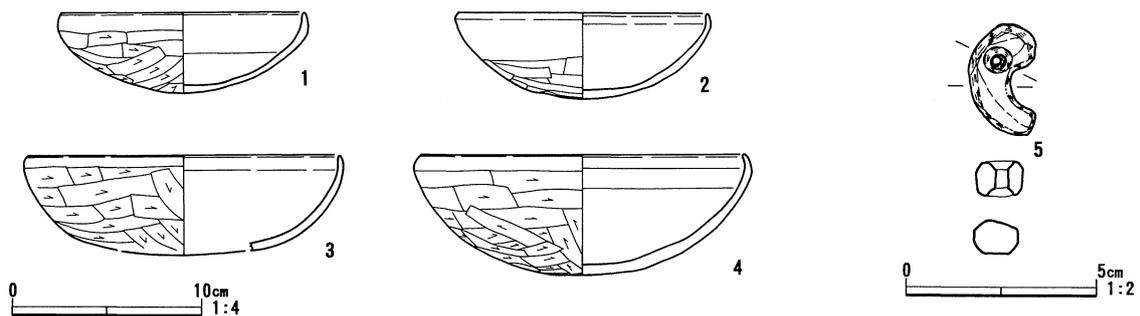
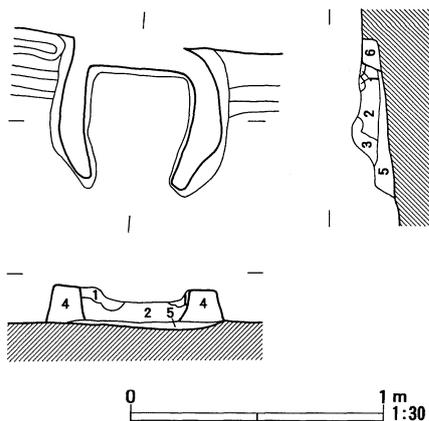


図498 SI-11 出土遺物

SI-11 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考	
1	土師器坏	口径 (12.8) 底径 — 器高 4.2	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く彎曲気味に内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部~底部へラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	白色粒・石英 内外一橙~にぶい橙色	2/5。	
2	土師器坏	口径 (13.1) 底径 — 器高 4.6	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く彎曲気味に内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部不明瞭、底部へラケズリ。内面一口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・礫 内外一橙~にぶい黄橙色	3/4。	
3	土師器坏	口径 (16.4) 底径 — 器高 —	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く彎曲気味に内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部~底部へラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	白色粒・褐色粒 内外一橙色	口縁部~体部 2/5。	
4	土師器坏	口径 17.0 底径 — 器高 6.4	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く彎曲気味に内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部~底部へラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	白色粒・褐色粒・石英 内外一橙~にぶい橙色	1/2。	
No.	種類	器種	法量 (cm・g)			備考	
5	石製品	勾玉形模造品	長さ2.9	幅1.7	穿孔径0.2	重さ9.0	



SI-12 カマド土層説明

- 1 黒褐色土 焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 黒色土 炭化物ブロック (径1~5mm) を多量に含む。
- 3 黒色土 焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 4 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 5 黒色土 ロームブロック (径1mm±) を少量含む。

図499 SI-12 カマド

SI-12 (図494・499)

位置：D-3、E-3グリッドに位置する。

形状：SI-09の内部に重複し、南側2/3程度が調査区外にある。後述のSI-13の直上にあつて、北西壁から北東壁のカマドまでは、先行するSI-13の外側にあるためプランを確認できるが、北東壁のカマドから南側は、SI-13の覆土内にあることから、壁の位置の特定は困難である。一辺4.5~5.0m程度の方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、下層にロームブロック、焼土ブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。壁溝は北西壁から北東壁のカマドまでの間に認める。柱穴、貯蔵穴の存在は確認できない。北東壁にカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、幅40cm、奥行き50cmを測る。ロームブロック、焼土ブロックを含む黒褐色土を用いて構築している。床面はローム層の掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは45~50cmを測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏2点を検出したほか、甕類を中心とする多量の土師器および須恵器の細片が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から9世紀後半代と判断される。

SI-12 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.2 底径 10.6 器高 3.4	体部は僅かに丸みをもち、口縁部は直立気味に立ち上がる。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	褐色粒・角閃石・石英 内外一にぶい橙色	3/5。
2	土師器 坏	口径 12.5 底径 9.6 器高 3.2	体部は僅かに丸みをもち、口縁部は直立気味に立ち上がる。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・褐色粒・石英 にぶい褐色~にぶい橙色	口縁部~底部一部欠損。
3	土師器 坏	口径 12.8 底径 8.8 器高 3.5	体部は直線的に開き、口縁部も直線的に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部~体部ヨコナデ、底部ナデ。	白色粒・石英・雲母 内外一にぶい橙~橙色	完形。
4	土師器 坏	口径 (12.7) 底径 (8.3) 器高 5.1	体部は僅かに丸みをもち、口縁部は彎曲気味に短く外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部~底部ナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外一橙~にぶい黄橙色	1/2。

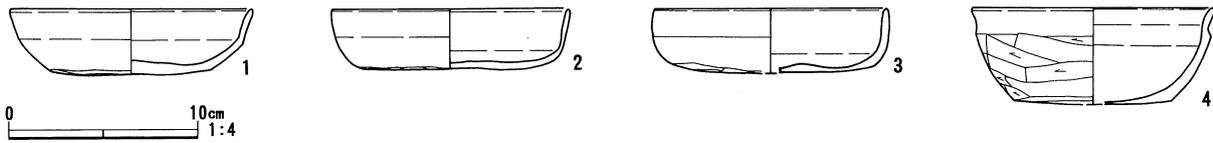


図500 SI-12 出土遺物

SI-13 (図494・501)

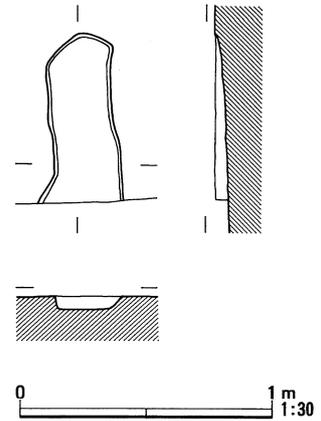
位置：D-3、E-3グリッドに位置する。

形状：SI-09の内部に重複し、南側2/3程度が調査区外にある。プランの詳細は不明であるが、一辺4.5m程度の方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、単層で、ロームブロック、炭化物ブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴はP1・P2の2基を検出した。壁溝は北東壁の一部を除いて確認できる。貯蔵穴の存在は認めない。カマドの存在は明瞭ではないが、SI-10の床面に認められるカマド煙道の基底部分をSI-13にともなうカマドの煙道部と判断した。燃焼部はSI-12の構築により失われているものと推測される。煙道幅32cm、残存長68cmを測る。床面はローム層の掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。SI-12の床面からSI-13床面までの深さは10cm前後を測る。

遺物：遺物は、床面直上で、土師器甕2点を検出したほか、覆土から土師器の細片若干が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から6世紀中葉と判断される。



SI-13 カマド土層説明 (単層)
黒色土 焼土ブロック
(径1~10mm)
を多量に含む。

図501 SI-13 カマド

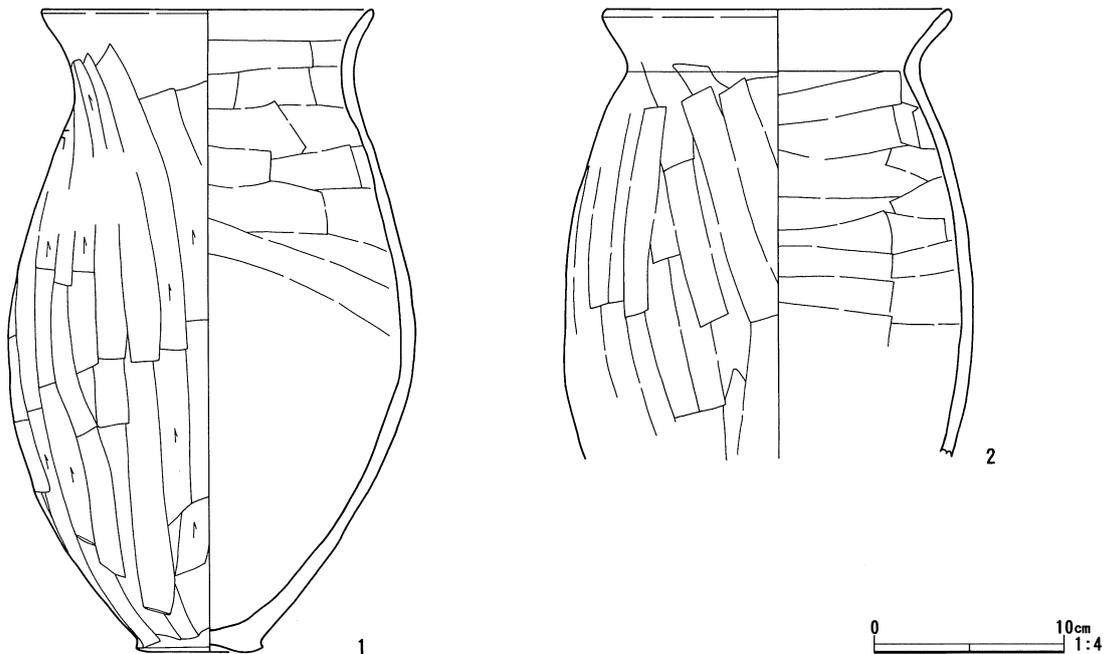


図502 SI-13 出土遺物

SI-13 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 甕	口径 17.4 底径 6.7 器高 34.2	粘土紐積み上げ成形。胴部下位に膨らみをもち、口縁部は緩やかに外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部縦位ヘラケズリ。内面一口縁部～胴部横位ヘラナデ。	角閃石・石英 内外一明褐色	4/5。
2	土師器 甕	口径 (18.0) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部中位に僅かな膨らみをもち、口縁部は直線的に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	石英 内外一明褐色	口縁部 3/4。 胴部下位欠損。

SI-14 (図494・503)

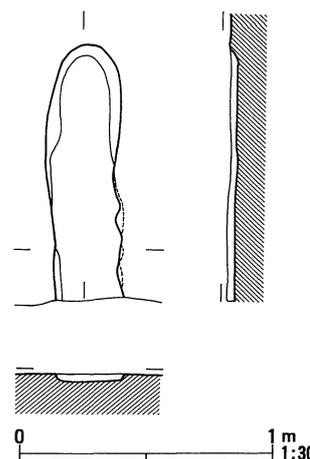
位置：D-3グリッドに位置する。

形状：SI-10の構築によりほとんどが失われ、わずかにカマド煙道の基底部のみがSI-09の床面を掘り込んで残存している。幅30cm、残存長102cmを測る。

構造：覆土は単層で、焼土ブロックを多量に含む黒色土の堆積を認める。

遺物：遺物は、焼土ブロックが付着した土師器の細片が若干出土したのみであった。

時期：所属時期の詳細については不明であるが、7世紀後半代に属するSI-10によって切られていることから、7世紀前半代以前に遡るものと推測される。



SI-14 カマド土層説明 (単層)
黒色土 焼土ブロック
(径1~10mm)
を多量に含む。

SI-15 (図504)

位置：F-2・3グリッドに位置する。

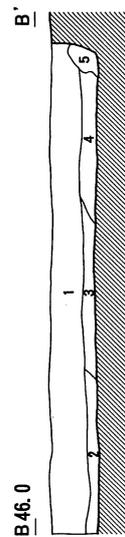
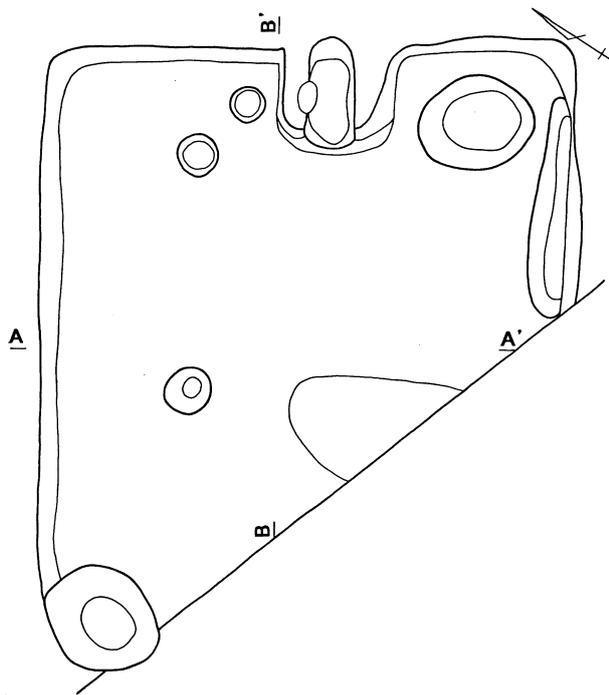
形状：調査区の南縁にあって、南隅側1/3近くが調査区外にある。プランは、4.3×5.0mの長方形を呈する。

構造：覆土は単層で、ロームブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴の存在は確認できない。壁溝は北東壁際にわずかに認める。東隅に貯蔵穴状の落ち込みが存在するが、掘り込みは浅い。北東壁の中央にカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、幅40cm、奥行き85cmを測る。ロームブロック、白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む黒褐色土を用いて構築している。床は、ロームブロック、礫、砂粒を多量に含む黒褐色土、暗褐色土を全面的に充填し貼床を形成している。床面下の掘り方には、土壌などの掘り込みはなく、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは30cm前後を測る。

図503 SI-14 カマド

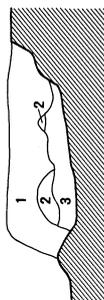
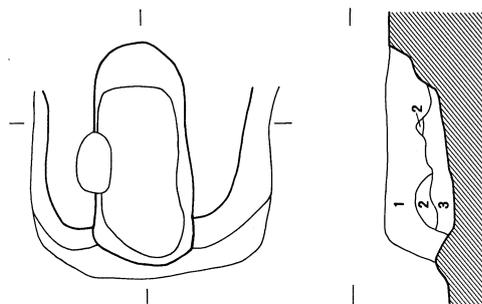
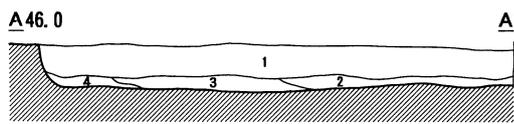
SI-15 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.5	体部は直線的に立ち上がり、口縁部は僅かな段差から直線的に内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・礫 内外一橙～明褐色	4/5。
2	土師器 坏	口径 12.5 底径 — 器高 4.4	体部は僅かな丸みをもち、口縁部は僅かな段差から直線的に内傾。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・褐色粒・ 角閃石 内外一明赤褐色	3/5。
3	土師器 坏	口径 14.6 底径 — 器高 —	体部は僅かな丸みをもち、口縁部は僅かな段差から彎曲気味に短く外反。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ。	白色粒・褐色粒・ 礫 内外一明赤褐色	口縁部～体部 3/5。



SI-15 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~20mm) を多量に含み、礫 (径1~10mm) を少量含む。しまり強。貼床層。
- 3 黒褐色土 ロームブロック (径1~30mm)、礫 (径1~15mm) を多量に含む。しまり強。貼床層。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm)、礫 (径1~15mm)、砂粒 (径1~2mm) を多量に含む。しまり強。貼床層。



SI-15 カマド土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。
- 2 黒色土 焼土ブロック (径1~10mm) を多量に含む。
- 3 黒色土 炭化物 (径1~5mm) を多量に含む。
- 4 暗褐色土 ロームブロック (径1~30mm)、礫 (径1~15mm)、砂粒 (径1~2mm) を多量に含む。
- 5 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色粘質土ブロック (径1~5mm)、焼土ブロック (径1~5mm) を少量含む。

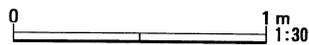
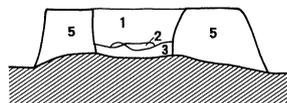


図504 SI-15

遺物：遺物は、床面直上で、土師器坏4点、小型甕1点、甕1点を検出したほか、覆土から土師器の細片若干が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から6世紀後半代と判断される。

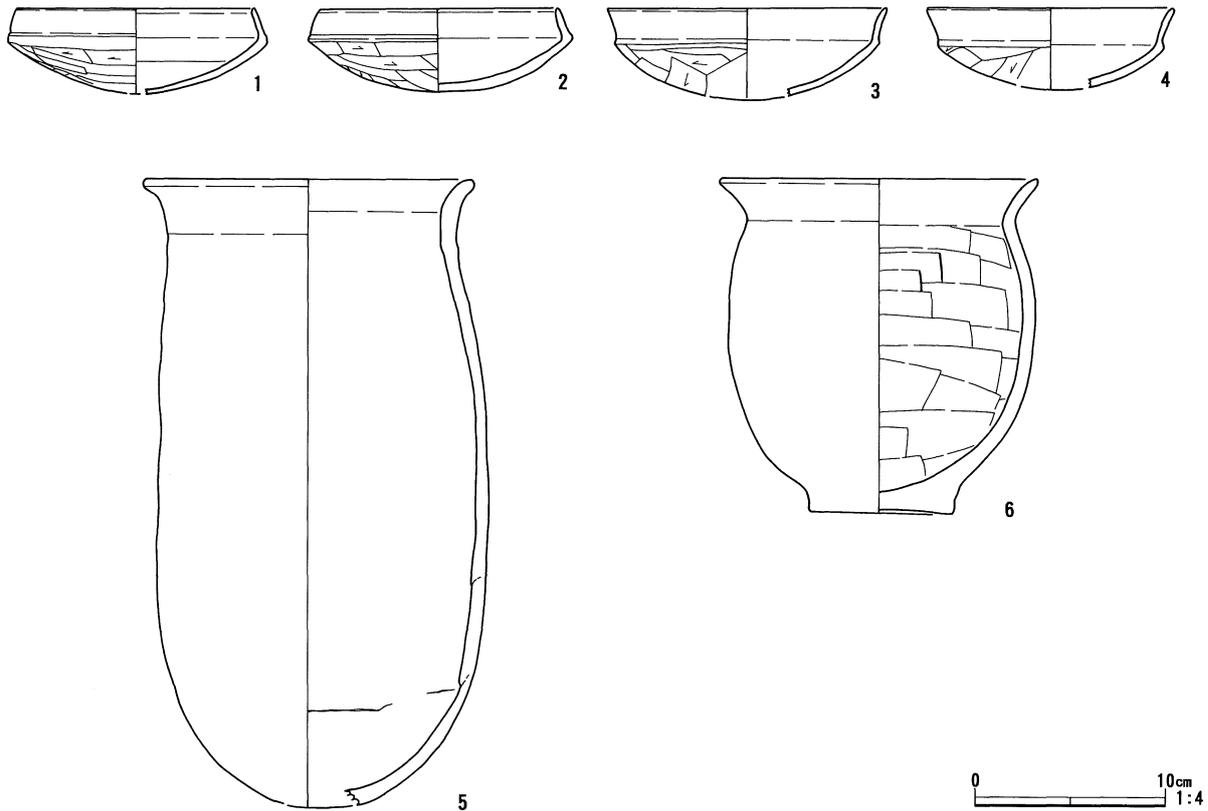


図505 SI-15 出土遺物

4	土師器 坏	口径 12.9 底径 — 器高 —	体部は僅かな丸みをもち、口縁部は僅かな段差から彎曲気味に短く外反。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ。	白色粒・褐色粒・礫 内外—明赤褐～橙色	口縁部～体部 1/2。
5	土師器 甕	口径 (17.2) 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部下位に僅かな膨らみをもち、口縁部は緩やかに外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部不明瞭。内面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	石英・礫 内外—にぶい黄褐色	3/4。
6	土師器 小型甕	口径 16.6 底径 7.4 器高 17.8	粘土紐積み上げ成形。胴部中位に僅かな膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面—口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。内面—口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石・石英 内外—灰黄褐色	胴部中位 1/4 欠損。

SI-16 (図507)

位置：E-2、F-2グリッドに位置する。

形状：北東隅の一部が調査区外にあるほか壁、床面の一部を攪乱により失っている。プランは、一辺5.2mの正方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロックと砂粒を含む黒色土の堆積を認める。柱穴はP1～P4の

4基を検出した。壁溝、貯蔵穴、カマドの存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面としている。おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、ほぼ完形の土師器坏1点のほか、微細な土師器片が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から7世紀後半代と判断される。

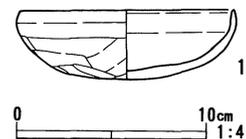
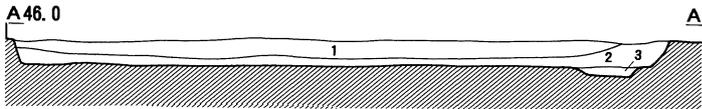
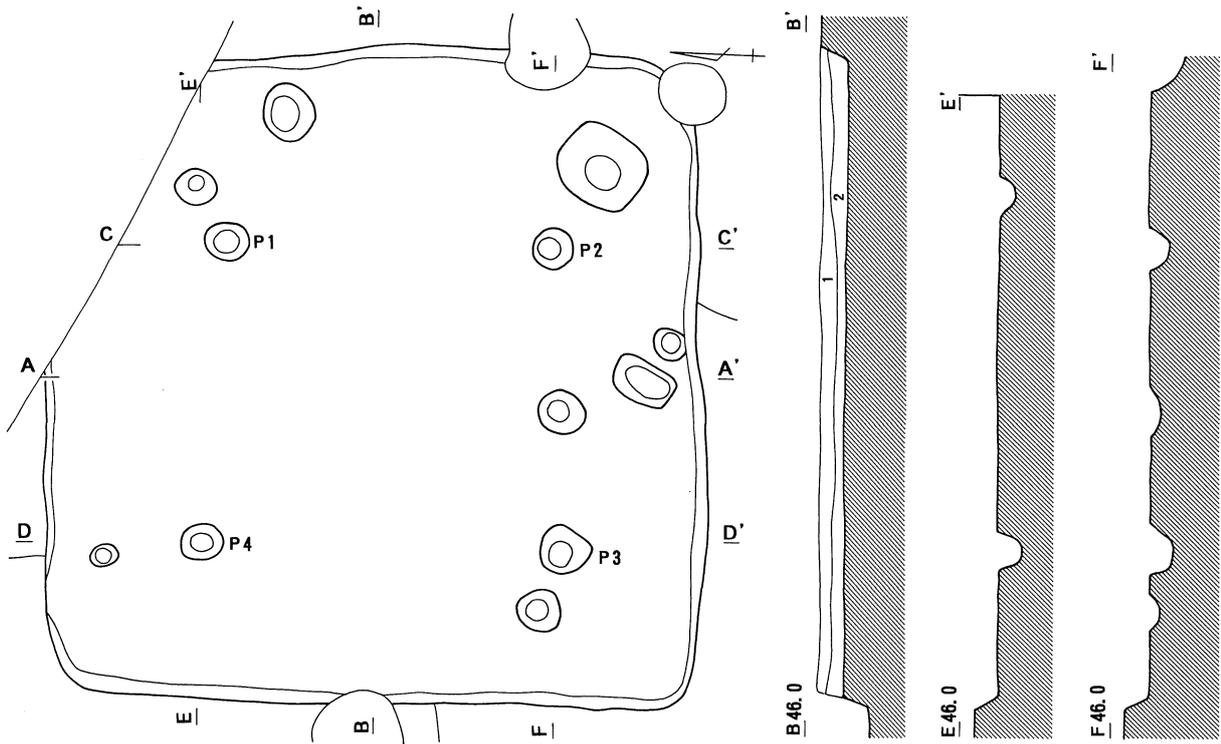


図506 SI-16 出土遺物



SI-16 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～30mm）、砂粒（径1～2mm）を少量含む。
- 3 黒褐色土 砂粒（径1～2mm）を少量含む。



図507 SI-16

SI-16 出土遺物観察表

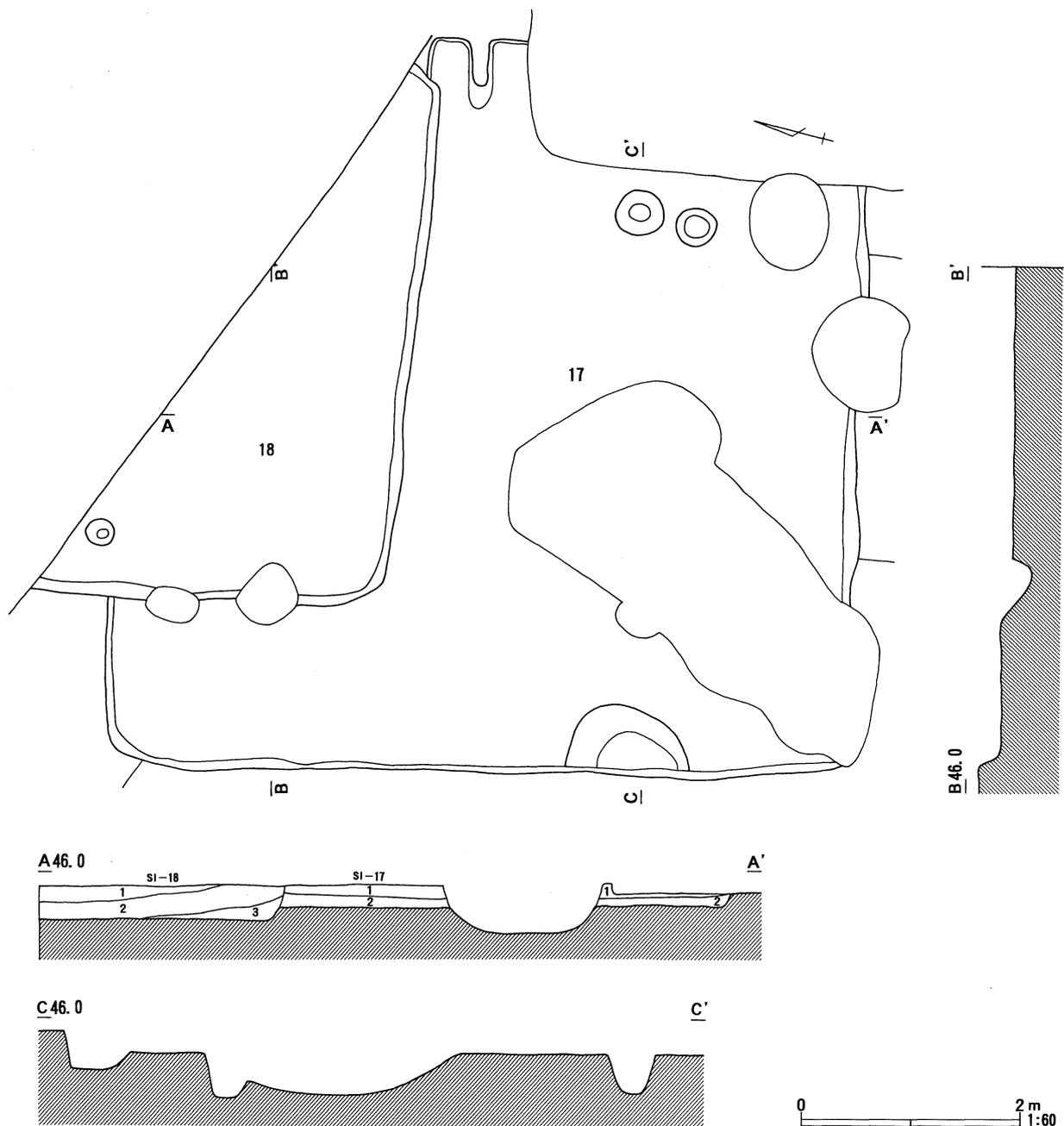
No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 11.2 底径 — 器高 3.6	体部は緩やかに立ち上がり、口縁部は短く彎曲気味に内傾。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	角閃石・礫 内外一橙～にぶ い黄橙色	ほぼ完形。

SI-17 (図508・509)

位置：F-2、G-2グリッドに位置する。

形状：北東側でSI-18が重複するほか、攪乱により各所で破壊を被っている。プランは、1辺6.8mの正方形を呈する。

構造：覆土は、下層にロームブロックを含む黒褐色土、上層にロームブロック、焼土ブロック、白色粘質土



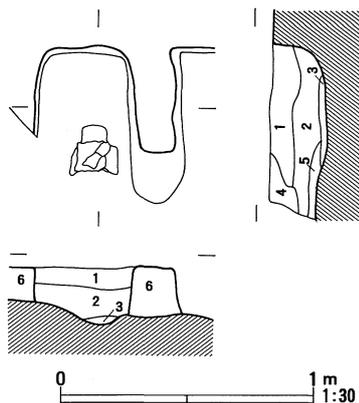
SI-17 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量に、焼土ブロック（径1～5mm）、白色粘質土ブロック（径1mm±）を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック（径1～5mm）を少量含む。

SI-18 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック（径1～5mm）、砂粒（径1mm±）を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック（径1～10mm）を少量含む。
- 3 黒色土 ロームブロック（径1～10mm）を多量に含む。

図508 SI-17～18



SI-17 カマド土層説明

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 焼土ブロック (径1～5mm) を少量含む。
- 3 黒色土 炭化物 (径1～5mm) を多量に含む。
- 4 黒色土 ロームブロック (径1～5mm) を多量に、焼土ブロック (径1～5mm)、白色粘質土ブロック (径1mm±) を少量含む。
- 5 黒色土 焼土ブロック (径1～5mm) を多量に含む。
- 6 黒褐色土 ロームブロック (径1～5mm)、白色粘質土ブロック (径1～5mm)、焼土ブロック (径1～5mm) を少量含む。

図509 SI-17 カマド

ブロックを含む黒色土の堆積を認める。柱穴はP1の1基を検出した。壁溝、貯蔵穴の存在は確認できない。東壁にカマドを付設する。造付構造の燃焼部をもち、左袖の一部を失っているものの、幅40cm、奥行き65cmを測る。ロームブロック、白色粘質土ブロック、焼土ブロックを含む黒褐色土を用いて構築している。床は貼床構造をもたず、ローム層の掘り込み面をそのまま床面とし、おおむね平坦である。確認面から床面までの深さは20cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏3点を検出したほか土師器、須恵器の破片若干が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から6世紀中葉と判断される。

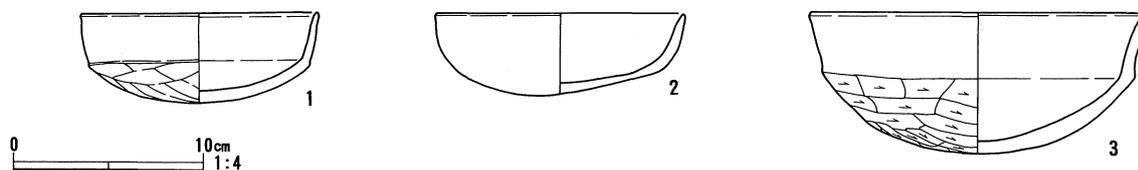


図510 SI-17 出土遺物

SI-17 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 12.4 底径 — 器高 4.8	体部は僅かな丸みをもち、口縁部は僅かな段差から直線的に外反。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・褐色粒 内外—橙～にぶい橙色	3/4。
2	土師器坏	口径 13.0 底径 — 器高 4.3	体部は僅かな膨らみをもち、口縁部は直立気味に立ち上がる。底部は丸底。	内外面不明瞭。	白色粒・石英・雲母 内外—明赤褐色	口縁部～底部一部残存。
3	土師器坏	口径 17.6 底径 — 器高 7.5	体部は僅かな丸みをもち、口縁部は僅かな段差から彎曲気味に外反。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	褐色粒・角閃石 内外—にぶい橙～橙色	ほぼ完形。

SI-18 (図508)

位置：F-2、G-2グリッドに位置する。

形状：調査区の北縁にあって、北側1/3ほどが調査区外にある。プランの詳細については不明であるが、一

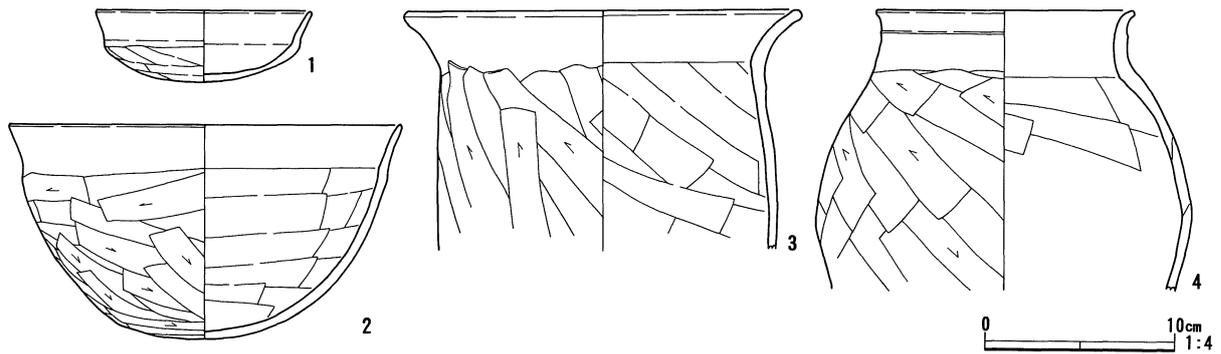


図511 SI-18 出土遺物

SI-18 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 坏	口径 11.2 底径 — 器高 3.8	体部は僅かな丸みをもち、口縁部は僅かな段差から彎曲気味に外反。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	褐色粒 内外一橙～にぶい黄橙色	2/3。
2	土師器 鉢	口径 20.6 底径 — 器高 11.4	体部は僅かな膨らみをもち、口縁部は直線的に外反。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・角閃石 内外一にぶい赤褐色	ほぼ完形。
3	土師器 甕	口径 20.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は僅かな膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・黒色粒 内外一黄橙色	口縁部～胴部中位残存。
4	土師器 甕	口径 13.4 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部は中位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石・石英 内外一にぶい黄橙色	口縁部～胴部中位残存。

辺5.0m程度の方形を呈するものと推測される。

構造：覆土は、ロームブロック、砂粒などを含む黒色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層を掘り込み面をそのまま床面としている。確認面から床面までの深さは30cm前後を測る。

遺物：遺物は、覆土から、土師器坏1点、鉢1点、甕2点を検出したほか土師器、須恵器の小片若干が出土した。

時期：所属時期は、覆土出土遺物の型式から7世紀前半代と判断される。

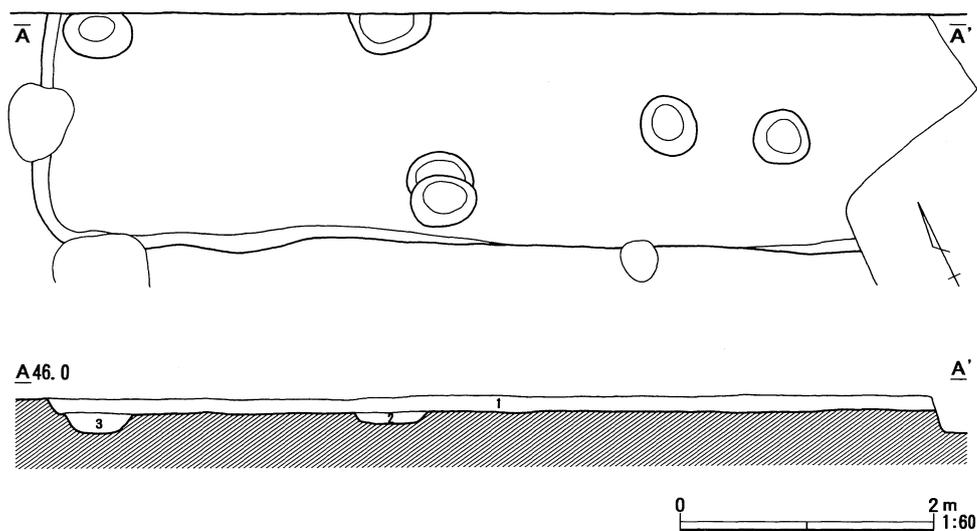
SI-19 (図512)

位置：G-1・2グリッドに位置する。

形状：調査区の北縁にあって、大半が調査区外にある。プランの詳細については不明であるが、一辺7.0m以上の方角を呈する大型住居になるものと推測される。

SI-19 出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器 台付甕	口径 21.2 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部中位に膨らみをもち、口縁部は彎曲気味に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上中位ヘラケズリ、下位ハケメ後ヘラナデ。内面一口縁部横位ハケメ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・黒色粒・褐色粒・礫 内外一橙色	口縁部1/2～胴部中位残存。



SI-19 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を多量に含む。

図512 SI-19

構造：覆土は単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。柱穴、壁溝、カマド、貯蔵穴の存在は確認できない。床は貼床構造をもたず、ローム層のを掘り込み面をそのまま床面としている。確認面から床面までが浅く、深さ10cm前後を測る。

遺物：遺物は、床面直上で、台付甕1点を検出したほか、覆土から土師器の小片若干を検出した。

時期：所属時期は、床面直上出土遺物の型式から5世紀前半代と判断される。

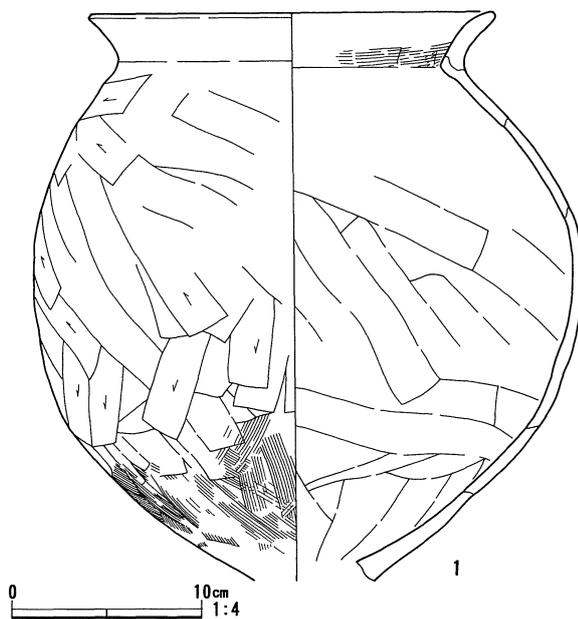
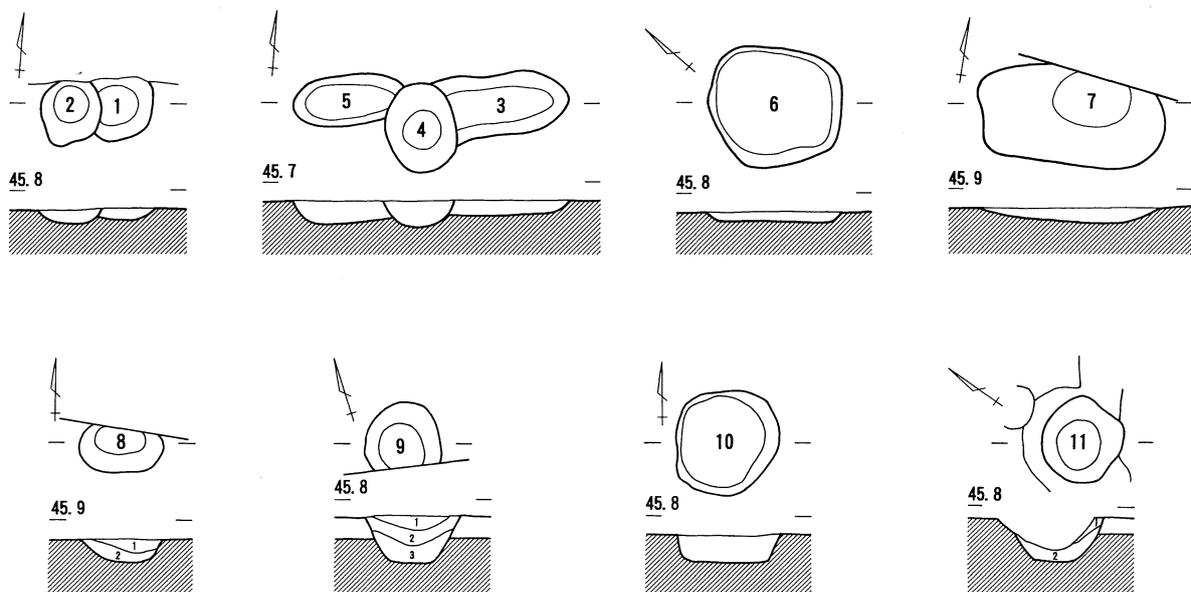


図513 SI-19 出土遺物

(2) 土壌 (図514)

土壌は、11基を検出した。調査区の東半に集中する傾向にあるが、有意な配置関係にあるものはない。遺物は、一部で、縄文土器片、土師器片若干量を検出したが、いずれも混入と考える。所属年代は、調査区内に古代末期以後の遺構を認めないことから、周囲の竪穴住居跡と同様の年代が考えられ、ともに集落遺跡を形成するものと推定される。



SK-01 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。

SK-02 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。

SK-03 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、砂粒 (径1~2mm) を少量含む。

SK-04 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。

SK-05 土層説明 (単層)

黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、砂粒 (径1~2mm) を少量含む。

SK-06 土層説明 (単層)

暗褐色土 ロームブロック (径1~5mm) を少量含む。

SK-07 土層説明 (単層)

黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。

SK-08 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、砂粒 (径1~2mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~10mm) を少量含む。

SK-09 土層説明

- 1 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、砂粒 (径1~2mm) を少量含む。
- 2 黒褐色土 ロームブロック (径1~5mm)、砂礫 (径1~10mm) を少量含む。
- 3 暗褐色土 ロームブロック (径1~10mm)、砂礫 (径1~10mm) を少量含む。

SK-10 土層説明 (単層)

黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。

SK-11 土層説明

- 1 黒色土 ロームブロック (径1~5mm)、白色パミス (径1mm±) を少量含む。
- 2 黒色土 ロームブロック (径1~10mm)、砂粒 (径1~2mm) を少量含む。



図514 SK-1~11

SK-01 (図514)

B-3 グリッドに位置する。SK-02により切られている。直径70cm前後の不整形円形を呈する。確認面からの深さ12cmを測る。覆土は、単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は、縄文土器片、土師器片若干量を検出した。

SK-02 (図514)

B-3グリッドに位置する。SK-01と重複する。確認面からの深さ15cmを測る。覆土は、単層で、ロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は、縄文土器片、土師器片若干量を検出した。

SK-03 (図514)

B-3グリッドに位置する。SK-04により切られている。長径150cm以上、短径70cmの楕円形を呈する。確認面からの深さ17cmを測る。覆土は、単層で、ロームブロック、砂粒を含む黒褐色土の堆積を認める。

SK-04 (図514)

B-3グリッドに位置する。SK-03・05と重複する。長径90cm、短径70cmの楕円形を呈する。確認面からの深さ28cmを測る。覆土は、単層で、ロームブロック、白色パミスを含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は、土師器片若干量を検出した。

SK-05 (図514)

B-3グリッドに位置する。SK-04により切られている。長径120cm、短径50cmの楕円形を呈する。確認面からの深さ20cmを測る。覆土は、単層で、ロームブロック、砂粒を含む黒褐色土の堆積を認める。

SK-06 (図514)

B-3グリッドに位置する。150×125cmの不整形円形を呈する。確認面からの深さ12cmを測る。覆土は、単層で、ロームブロックを含む暗褐色土の堆積を認める。遺物は皆無であった。

SK-07 (図514)

B-3グリッドに位置する。調査区の北端にあって一部が調査区外にある。長径190cm、短径110cmの楕円形を呈する。立ち上がりはなだらかで、確認面からの深さ17cmを測る。覆土は、単層で、ロームブロック、白色パミスを含む黒色土の堆積を認める。遺物は皆無であった。

SK-08 (図514)

C-2グリッドに位置する。調査区の北端にあって一部が調査区外にある。長径90cm、短径50cmの楕円形を呈する。確認面からの深さ27cmを測る。覆土は、2層に分割され、上層にロームブロック、砂粒を含む黒褐色土、下層にロームブロックを含む黒褐色土の堆積を認める。遺物は皆無であった。

SK-09 (図514)

C-3、D-3グリッドに位置する。調査区の南端にあって一部が調査区外にある。直径80cm前後の円形を呈する。確認面からの深さ50cmを測る。覆土は、2層に大別され、上層にロームブロック、砂粒を含む黒褐色土、下層にロームブロック、砂粒を含む暗褐色土の堆積を認める。遺物は、SI-06からの混入と判断される土師器片若干量を検出した。

SK-10 (図514)

D-3グリッドに位置する。直径110cm前後の不整形円形を呈する。掘り込みは明瞭で、断面形は箱形を呈し、底面は平らである。確認面からの深さ27cmを測る。覆土は、単層で、ロームブロック、白色パミスを含む黒色土の堆積を認める。遺物は、縄文土器、土師器片若干量を検出した。

SK-11 (図514)

D-2・3グリッドに位置する。SI-04とSI-05の境界部にあって、上層1/3程度を攪乱により失っている。推定直径90cm前後の不整形円形を呈する。確認面からの深さ90cmを測る。覆土は、2層に分割され、上層にロームブロック、白色パミスを含む黒色土、下層にロームブロック、砂粒を含む黒色土の堆積を認める。遺物は、SI-04とSI-05からの混入と判断される土師器片若干量を検出した。

(3) グリッド (図515)

遺構の範囲確認面上層や攪乱内などで検出し、帰属遺構不明の資料をグリッド出土として一括した。検出地点は、調査区中央のD-3、E-2・3、F-2グリッドである。1～3は8世紀代に編年される土師器坏で、うち2は8世紀前半、1・3は8世紀後半に属する。4・5は9世紀代に編年される土師器坏で、うち4は9世紀前半、5は9世紀末葉に属すると考えられる。6は須恵器坏で土師器坏1・3に並行する段階と推測される。7は土師器小型甕で、台付甕になる可能性を残す。9世紀代に典型的な「コ」字状口縁小型台付甕出現前段階の形式と考えれば、8世紀後半まで遡ると考えられる。8・9は土師器甕で、うち8は頸部が「く」字状に強く外反する特徴から、1・3・6の坏類や8の土師器小型甕に並行する時期が考えられる。9は9世紀代に盛行する「コ」字状口縁甕の変形と考えられ、年代は10世紀まで降下する可能性がある。

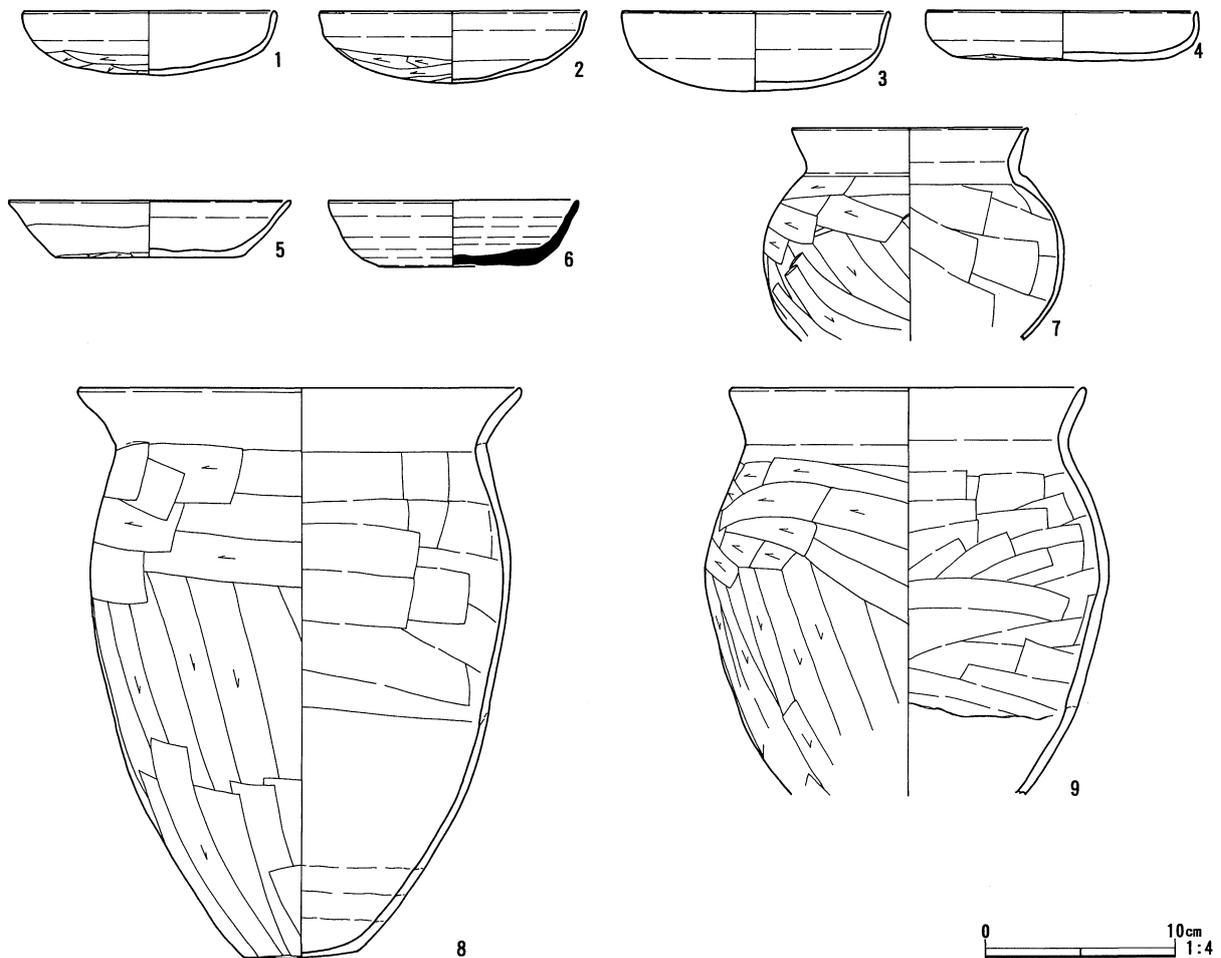


図515 グリッド出土遺物

グリッド出土遺物観察表

No.	器種	法量(cm)	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	土師器坏	口径 13.2 底径 — 器高 3.4	体部は浅く、口縁部は彎曲気味に外反。底部は丸底。	外面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面—口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—ぶい橙色	E-2 G 3/4。

2	土師器 坏	口径 14.0 底径 — 器高 3.8	体部は浅く、口縁部は短く直線的に外反。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	褐色粒・白色粒・角閃石 内外一橙色	E-2 G 3/4。
3	土師器 坏	口径 14.0 底径 — 器高 4.2	体部は浅く、口縁部は彎曲気味に外反。底部は丸底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	白色粒・雲母 内外一橙色	E-2 G 口縁部 1/2 欠損。
4	土師器 坏	口径 14.2 底径 11.4 器高 2.6	体部は浅く、口縁部は彎曲気味。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	褐色粒・白色粒・礫 内外一橙色	D-3 G ほぼ完形。
5	土師器 坏	口径 14.8 底径 10.0 器高 3.1	体部から口縁部にかけて直線的に外反。底部は平底。	外面一口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。内面一口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	褐色粒・角閃石 内外一にぶい赤褐～にぶい黄橙色	D-3 G 2/3。
6	須恵器 坏	口径 13.2 底径 6.8 器高 3.5	体部は浅く、口縁部は緩やかに外反。底部は平底。	体部ロクロ整形、底部右回転糸切り。	白色粒 内外一灰色	E-2 G 1/2。
7	土師器 小形甕	口径 12.4 底径 — 器高 —	胴部は中位に膨らみをもち、口縁部は直線的に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部斜横位ヘラナデ。	白色粒・褐色粒・角閃石 内外一にぶい赤褐色	E-3 G 口縁部～胴部下位残存。
8	土師器 甕	口径 23.2 底径 5.8 器高 30.2	粘土紐積み上げ成形。胴部は上位に僅かな膨らみをもち、口縁部は直線的に外反。	外面一口縁部ヨコナデ、胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	褐色粒・石英・片岩 内外一橙色	E-2 G 口縁部～胴部上位 1/4 欠損。
9	土師器 甕	口径 18.6 底径 — 器高 —	粘土紐積み上げ成形。胴部上位に膨らみをもち、口縁部は直線的に外反。	外面一胴部上位横位ヘラケズリ、中・下位斜縦位ヘラケズリ。内面一口縁部ヨコナデ、胴部横位ヘラナデ。	白色粒・角閃石 内外一褐色	F-2 G 口縁部～胴部下位 1/3。

6 縄文土器

(1) 東五十子遺跡 (図516・517)

出土した縄文土器は、明確な遺構に伴うものではなく、いずれも時期の新しい遺構覆土出土である。他に破片資料がかなりの量あるが、時期の判別が可能な資料の内、時期的な遺漏ができるだけないように選別したものに限り、以下に記載する。

図516には、早期後半～前期末葉の土器をまとめた。

1は早期後半の撚糸文土器である。条の太いRの撚糸文が比較的密に施されているが、部分的に原体を引きずるようにして施されている箇所もある。破片左下には、撚糸文が見られない。器厚の厚い橙色のやや軟質の土器である。細かな白い岩片を含む。稻荷原式であろうか。

2～5は早期末葉～前期初頭の土器であろう。摩耗が著しいが、いずれも器面に何かの繊維や毛髪を引きずったような擦痕が見られ、大粒の片岩片を含むことなど共通する。とくに3～5は胎土、焼成、器面調整の手法ともによく似ている。2は端部が微妙に内削ぎ状になる口縁部片である。端部外縁には刻みが施され、外面には太い沈線ないしは凹線で不規則な波状文が施されている。径1～7mm大の片岩片などを含み、断面には繊維の脱落痕が著しい。明褐色の比較的薄手の硬質の土器である。3にも斜めの太い沈線が加えられている。4・5にも沈線様の横線が走るが、文様か調整痕か判然としない。いずれも橙色で、3・4は胎土に繊維を含む。

6～9は前期前半の土器で、いずれも縄文が施されている。6には、太い原体の折り曲げたU字状の先を3段以上回転施文しており、条の部分の圧痕と重複している。8は付加条であろう。7・8の下端には、ループ文が加えられている。いずれも胎土に繊維を含む。9は底面に縄文の施された上底の底部片である。底面の縄文は、複節かと思われ、細かく向きを変えて凹んだ底面全面に施文されている。縄文施文後、正位に置かれたらしく、つぶれた縁辺の粘土が縄文にかぶさっている。断面中央が黒変しているが、繊維の混入は顕著ではない。7・8は関山式である。

10～30・32には、前期後半の土器をまとめた。

10には、単節縄文を地文とし、円形刺突列が縦に施されている。焼成のよい橙色の土器である。諸磯a式であろう。

11は、平行沈線と爪形文の施された口縁部片である。端部に平行する沈線と破片左下の弧状の沈線には、爪形文が加えられ、全体に入組文をなすようである。摩耗が進んでおり、細部は判然としないが、入組文の他の部分には爪形文は見られない。橙色のやや軟質の土器である。諸磯b式である。

12～19には、縄文を地文とし浮線文の施された土器をまとめた。12・13は口縁部片であり、12には浮線によるやや角張った渦巻文が配され、13には台形に縁取られた区画内に緩い弧を描く浮線文が加えられている。15～19は同種の胴部・底部片である。14・19のみ連結した区画が配され、14の浮線文には細かな円形の連続刺突が加えられている。いずれも橙色、明褐色系の胎土で焼成良好である。諸磯b式である。

20～31には、平行沈線の施された土器をまとめた。20・21は口縁部片で、横位の平行沈線に加え、21・22には弧状、23・27には斜めの平行沈線が施されている。25の沈線は深く、胎土も他の土器に比べ軟質である。時期が異なる可能性もある。28～30には横位矢羽状、あるいは斜め、縦の平行沈線が施されている。32は縄文のみの粗製的な土器であるが、胎土は精良で、焼成も極めてよい。灰白色の大粒の岩片を含む。口縁部には内外面より穿たれた補修孔が認められる。20～27・32は諸磯b式、28～30は同c式と考えた。

31は、前期末葉の土器であろう。口縁部下端に段を有し、三角形に近い深い印刻が施されている。破片下端



図516 東五十子遺跡の縄文土器 (1)

の一部にも、刺突様の痕跡が認められる。橙色を呈し、片岩片を微量含む。

図517には、中期初頭以降の土器をまとめた。

33~44は、中期初頭・前半の土器である。

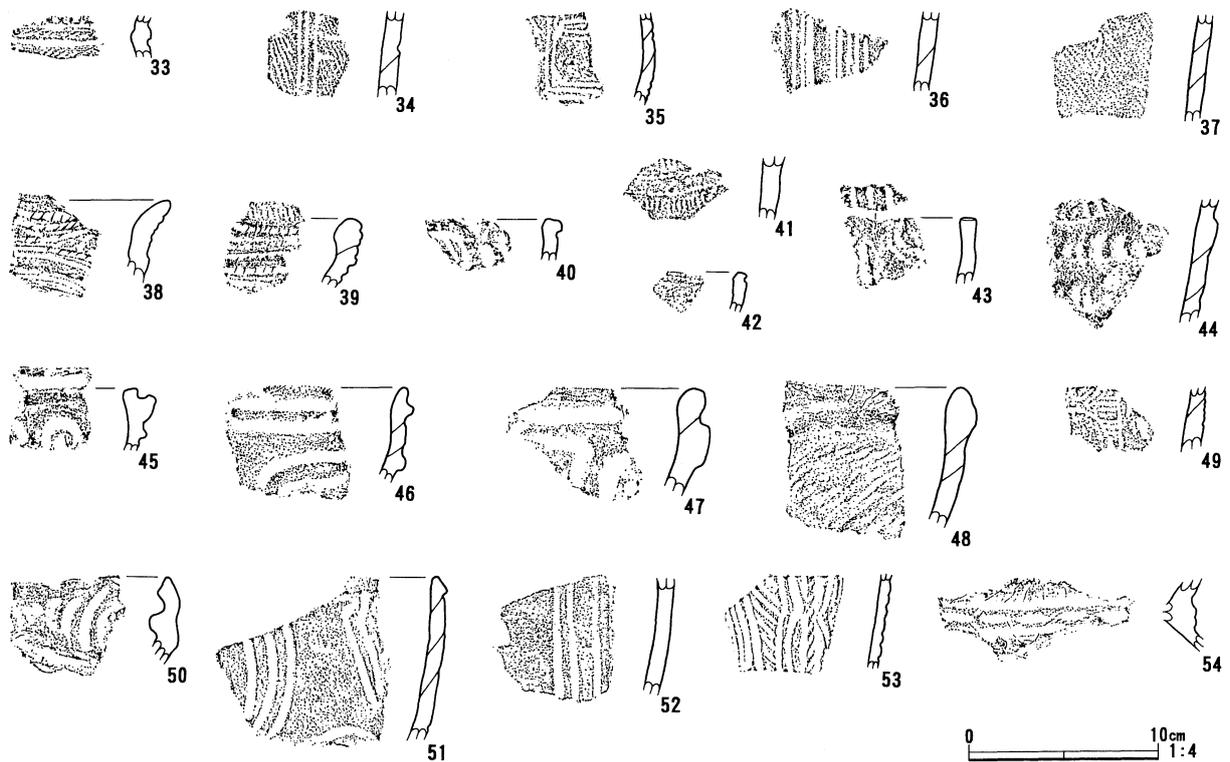


図517 東五十子遺跡の縄文土器 (2)

33の上端の沈線には交互刺突が施され、34・35は縦の区画線を横につなぐ沈線が特徴となる。36には隆帯が付され、37では縦の結節文が施されている。いずれも明赤褐色に近く、34・36・37は石英・雲母などの光沢のある微細片をかなり含む。五領ヶ台式の新しい段階に含まれよう。

38・39は、沈線および結節沈線の施された口縁部片、40にはいわゆる角押文が施されている。38では口縁部の区画文になるのか、弧状の結節沈線文が施され、破片下半には低い隆帯に沿って結節沈線と沈線が施されている。40は隆帯による方形区画が配され、区画内には角押文が加えられている。38・39は五領ヶ台式の新しい段階からその直後、40は猪沢式であろう。38・39は大小の岩片を多量に含む。

41は結節沈線および爪形文の施された胴部片、42・43は結節沈線の施された口縁部片・突起片である。結節文は、42では端部に沿って単列、43では2列となり、突起頂部には刻みが加えられている。44は粘土の接合部をひだ状に残した胴部片である。42・43は金色の雲母片を多量に、44は少量含む。41は勝坂式、42～43は阿玉台式であり、42は阿玉台式でも古い段階であろう。

45～48は、中期後半、加曾利E式深鉢の口縁部片である。いずれも隆帯や沈線による区画が設けられている。45～47は、同式の前半、48はやや新しくなる。にぶい黄橙色系の胎土はよく似ている。

49～53は、後期初頭・前葉の土器である。49には、どのような意匠になるのか判然としないが、沈線と縄文による区画文が配されている。50・51は口縁部片で、50には未貫通孔が、51～53には、垂下された数条の沈線を軸とする文様が施されているようである。49は称名寺式、50は堀之内1式と考えたが、49は断定できない。54は台付鉢の接合部片であろう。摩耗しており、本来の形状を復元することができない。外面には突帯が付され、縄文と横長の刺突が施されている。にぶい橙色を呈し、砂粒を含む。晩期中葉の安行式に含まれようか。

(2) 川原町遺跡 (図518)

以下に示す縄文土器も時期の新しい遺構覆土出土である。総じて摩耗が著しく進んでおり、遺構内などの当初包含された場所から二次的、三次的に移動している資料と見てよいであろう。やはり時期のある程度分かるものに限って記載する。

1・2は前期前半の土器で、太く粗い原体による羽状縄文が施文されている。胎土には繊維を含む。

3は中期前半の深鉢口縁部片である。粘土帯が貼り合わされ肥厚する端部には、2列の結節沈線が施されており、口縁部外面には、結節沈線による区画がなされ、複列の結節沈線が加えられている。胎土には金色の雲母片や石英粒など光沢のある鉱物片、岩片を多量に含み、焼成は良好である阿玉台I b式であろう。

4～7は、後期前葉の土器である。4は直線的に立ち上がる形態の深鉢である。2条の沈線を下端区画とし口縁部に幅広の無文帯を設け、以下沈線による縦長の文様を配するのであろう。破片中央には、口縁部下端の沈線に接続する、斜めの細い帯状の区画が見られる。区画内には列点を加えられている。5も同様に沈線による帯状区画内に列点が施されている。砂粒や小礫を多量に含む。6・7は縦に条線が施された胴部片である。胎土は4・6に似ており、砂粒、小礫が顕著である。7の破片上端には、補修孔が認められる。4・5は堀之内1式、類似した胎土から見て、6・7も同式であろう。

8～11は後期前葉～中葉の土器であろう。8は直線的に開く形態の深鉢で、口縁部は短く内折する。口縁部外面には、粘土紐による渦巻文が付され、太い沈線が加えられている。外面には2条の沈線が帯状にめぐらされ、破片下端には弧状の沈線が痕跡的に認められる。あるいは平行する沈線による渦巻文の一部とも思われるが、摩耗が著しく判然としない。橙色を呈し、砂粒をかなり含む。9・10は、沈線による斜格子文の施された口縁部片である。口縁部内面には沈線が巡らされている。やはり橙色みを帯び、砂粒を多く含む。9は胎土の点で、8に似ている。11の底面には網代痕が認められる。不鮮明ではあるが、網代痕は「2本越え、1本潜り、1本送り」に見える。8は堀之内2式の可能性があるが、断定はむづかしい。9～11も同様の時期ないしはやや下るものであろう。

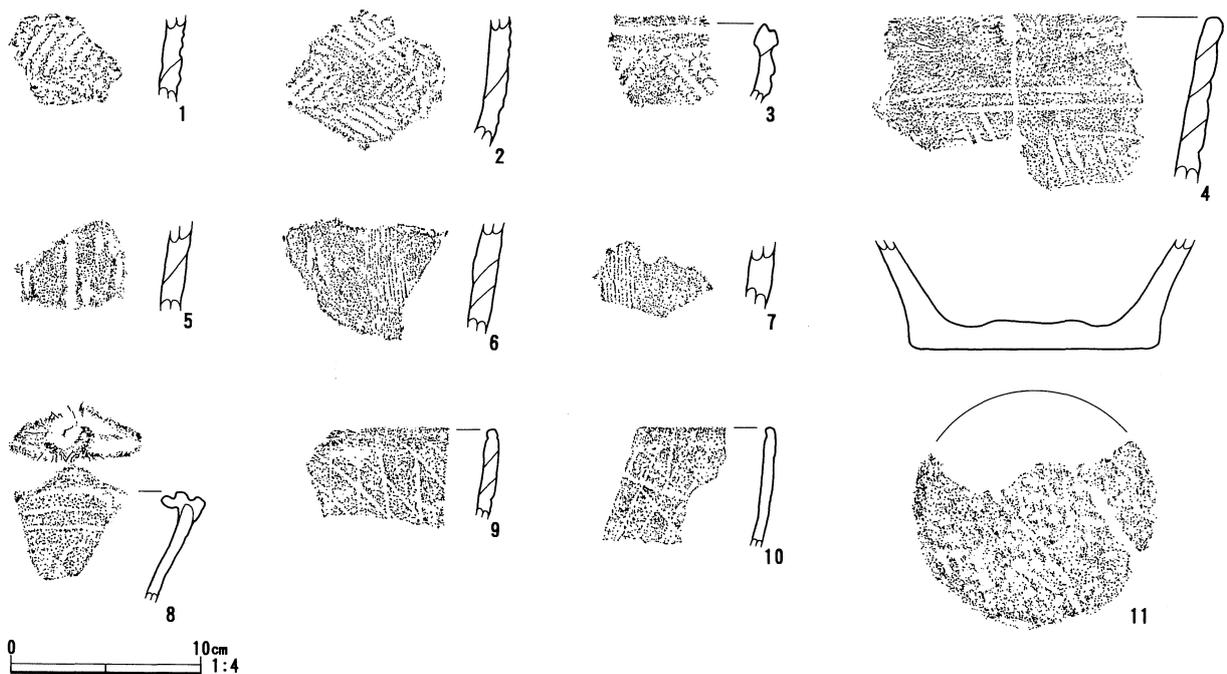


図518 川原町遺跡の縄文土器

V 分析と考察

1 東五十子遺跡古墳周堀内のテフラ

古橋美智子・藤根 久 (パレオ・ラボ)

(1) はじめに

東五十子遺跡は、埼玉県本庄市大字東五十子地内に所在する。調査では、古墳周堀が検出され、その周堀内堆積物中には灰白色を呈するテフラ（火山噴出物）がレンズ状あるいは斑状に検出された。ここでは、周堀内堆積物中に見られるテフラ9試料について、重鉱物および軽鉱物組成、火山ガラスの形態的特徴について検討した。さらに、試料中の火山ガラスおよび角閃石について屈折率測定を行い、テフラの同定を行った。

(2) 試料と方法

周堀内から採取された試料は、以下の方法で処理した。なお、いずれの試料も、密集部から採取した。

試料は、適量を1φ（篩い目0.5mm）、2φ（篩い目0.25mm）、3φ（篩い目0.125mm）、4φ（篩い目約0.063mm）の篩いを用いて篩い分けをした。3φ篩いの残渣について、重液（テトラブプロモエタン；比重2.96）を用いて、重鉱物と軽鉱物に分離した。重鉱物は、封入剤カナダバルサムを用いてプレパラートを作成し、偏光顕微鏡により鉱物類の同定を行った。重鉱物は、普通角閃石（Ho）、斜方輝石（Opx）、単斜輝石（Cpx）、磁鉄鉱（Mg）、その他不透明鉱物（Opq）に分類した。軽鉱物は、適時スライドグラスに散布し、偏光顕微鏡により鉱物の同定と火山ガラスの形態を行った。軽鉱物は、火山ガラス（Vg）、斜長石（Pl）、その他不透明鉱物（Opq）に分類し、火山ガラスの形態は町田・新井（1992）に従って分類した。なお、軽鉱物中の火山ガラスの形態は、町田・新井（1992）の分類基準に従い、軽石型繊維状（p1）、軽石型スポンジ状（p2）、急冷破砕型（co：塊状・フレーク状）の3種類に分類した。

さらに、火山ガラスは、温度変化型屈折率測定装置（RIMS-86）を用いて、横山ほか（1986）の方法にしたがって屈折率（n）を測定した。同様に、角閃石は、横山・山下（1986）の方法に従って屈折率（n₂）を測定した。

(3) 結果

第1表には、重鉱物組成、軽鉱物組成および火山ガラスの形態分類、火山ガラスおよび角閃石の屈折率をそれぞれ示す。なお、第519図に重鉱物と軽鉱物組成図を示す。

重鉱物は、全体的に斜方輝石（Opx）あるいは角閃石（Ho）が多く含まれていた。軽鉱物は、斜長石（Pl）が比較的多く、火山ガラスは軽石型繊維状（p1）が多く含まれていた。

火山ガラスの屈折率（n）は、1.5000-1.5047を示す。また、角閃石の屈折率（n₂）は、1.6715-1.6813を示す。

(4) テフラの同定・対比

各試料に含まれるテフラの重鉱物には、いずれも角閃石および斜方輝石が特徴的に多く含まれている。また、火山ガラスは、軽石型繊維状ガラスが特徴的に含まれている。関東地方における完新世（約1万年以降）のテフラにおいて、普通角閃石あるいは斜方輝石を特徴的に含むテフラとして榛名火山の二ツ岳を起源とする榛名

二ツ岳渋川テフラ (Hr-FA) が知られている (新井、1979)。

火山ガラスの屈折率 (n) は1.5006-1.5047を示し、Hr-FA の従来値 (n : 1.500-1.502) とほぼ一致する。さらに、角閃石の屈折率 (n_2) は、1.6715-1.6813を示し、Hr-FA の従来値 (n_2 : 1.671-1.695) とほぼ一致する。こうしたことから、これらテフラは、6世紀初頭の古墳時代に噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ (Hr-FA) に同定される。榛名二ツ岳は、遺跡から北西約40km地点に位置する。

【引用文献】

新井房夫 1979 「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』、157、pp.41-52.

町田 洋・新井房夫 1992 『火山灰アトラスー日本列島とその周辺』、東京大学出版会、p.276.

横山卓雄・壇原 徹・山下 透 1986 「温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定」『第四紀研究』、25、pp.21-31.

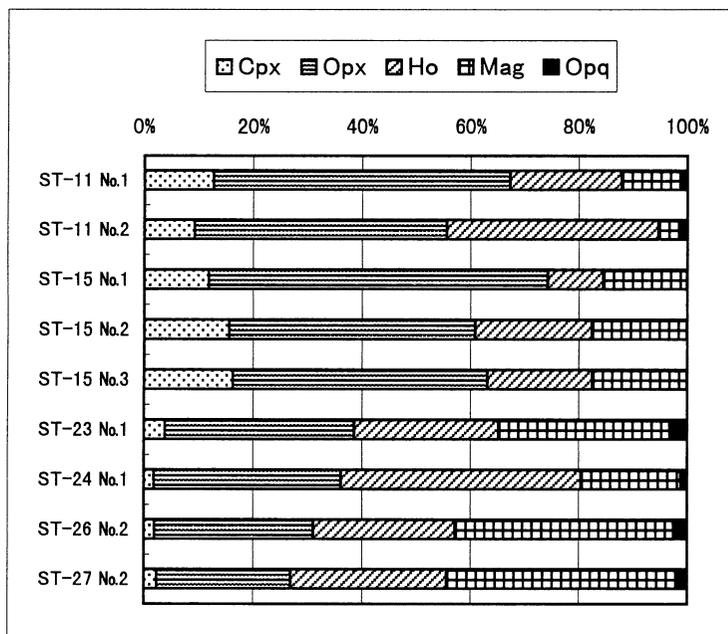
横山卓雄・山下 透 1986 「温度変化型屈折率測定装置 (RIMS86) による斜方輝石、角閃石の屈折率測定の試み」『京都大学教養部地学報告』、21、pp.30-36.

第1表 周堀内テフラの粒子組成および屈折率測定値

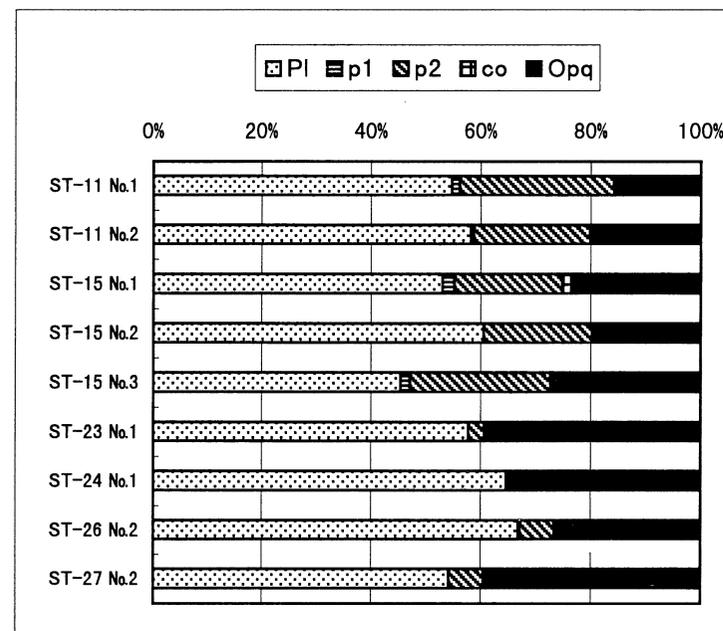
Opx:斜方輝石 Cpx:単斜輝石 Ho:角閃石 Mg:磁性鉱物 Opq:不透明鉱物
 Pl:斜長石 Opq:不透明鉱物 Glass:ガラス p1:軽石型繊維状 p2:軽石型スポンジ状 co:急冷破碎型

試料	断面	層位	重鉱物組成						軽鉱物組成						屈折率測定値				
			Cpx	Opx	Ho	Mag	Opq	total	Pl	glass				Opq	total	鉱物	min.	max.	mean
										p1	p2	co	total						
ST-11 No.1	D-D'	2-3層	19	82	31	17	1	150	111	3	57	1	61	32	172	glass	1.5000	1.5020	1.5011
																ho	1.6734	1.6800	1.6767
ST-11 No.2	C-C'	2-3層	14	71	60	6	2	153	107	1	39		40	37	147	glass	1.5006	1.5028	1.5012
																ho	1.6722	1.6804	1.6763
ST-15 No.1	B-B'	2層	16	85	14	21		136	97	4	36	3	43	88	140	glass	1.5014	1.5047	1.5027
																ho	1.6739	1.6771	1.6757
ST-15 No.2	D-D'	2層	23	67	32	26		148	104		34		34	88	138	glass	1.5020	1.5033	1.5024
																ho	1.6715	1.6813	1.6763
ST-15 No.3	E-E'	2層	26	75	31	28		160	80	3	45		48	88	128	glass	1.5011	1.5040	1.5027
																ho	1.6732	1.6803	1.6765
ST-23 No.1	S.P. No.3-No.4	5層	6	55	42	50	5	158	154		8		8	105	162	glass	1.5004	1.5041	1.5020
																ho	1.6726	1.6796	1.6769
ST-24 No.1		1層	3	60	77	32	2	174	176		1		1	95	177	glass	1.4996	1.5027	1.5012
																ho	1.6732	1.6803	1.6765
ST-26 No.2	S.P. No.9-No.10	3層	3	47	42	65	4	161	146	1	15		16	64	162	glass	1.5002	1.5015	1.5009
																ho	1.6735	1.6783	1.6761
ST-27 No.2		3層	4	44	51	76	3	178	145		21		21	130	166	glass	1.5000	1.5034	1.5019
																ho	1.6731	1.6794	1.6762

[重鉱物]



[軽鉱物]



第1図 周堀内テフラの粒子組成図

Opx：斜方輝石 Cpx：単斜輝石 Ho：角閃石 Mg：磁性鉱物 Opq：不透明鉱物

Pl：斜長石 Opq：不透明鉱物 p1：軽石型繊維状 p2：軽石型スポンジ状 co：急冷破碎型

2 東五十子遺跡出土埴輪の蛍光X線分析

大谷女子大学 三辻利一

(1) はじめに

須恵器の生産地である窯跡は数多い。全国各地に数千基はあるといわれている。これほど生産地の数が多いと、とても、肉眼観察による土器形式の情報だけでは生産地を分類することは困難である。この困難を克服しない限り、須恵器の産地推定への道は開かれない。このように考えた筆者は元素分析により須恵器窯を分類する研究をいまから20年以上も前に開始した。丁度このころに、全国各地で須恵器窯跡の発掘調査が著しく進んでおり、窯跡出土須恵器試料も大量に得ることができた。さらに、これらの須恵器試料を大量に分析できる完全自動式の蛍光X線分析装置も市販された。このような偶然の幸運から筆者は全国各地の窯跡出土須恵器片を大量に分析できることになった。

花崗岩類と同様、須恵器（粘土）中には多くの元素が含有されている。通常、岩石学では岩石の主成分元素をすべて分析する。その結果はノルム計算に使用される。しかし、この考え方では須恵器の産地を推定することは困難である。むしろ、地域差を表す少数の元素を見つけだし、その少数の元素について全国各地の窯跡出土須恵器を大量に分析し、窯群に整理することができれば、須恵器産地推定への道が開かれてくるはずである。

全国各地の窯跡出土須恵器の分析データから、K、Ca、Rb、Srの4元素が地域差を有効に表す元素であることがわかった。さらに、同じ地域内に多数の窯がある場合、これらの窯跡から出土する須恵器はこれら4元素でも類似した個性をもつことが見つけられた。この結果、多数の窯は窯群としてまとめられることがわかった。このような作業は陶邑に始まり全国各地に及んだ。数十基以上の窯からなる大規模窯群は全国各地に20～30ヶ所ある。これらは外部地域に須恵器を搬出するための須恵器生産工場であると理解される。こうして、上記4元素が須恵器産地推定のための指紋元素として活用されることになった。

日本列島の地質の基盤は花崗岩類で構成されている。全国各地の花崗岩類の分析結果も、これら4元素で地域差を示した。4元素の内、KとCaは主成分元素である。つまり、花崗岩類を構成する主成分鉱物中の主成分元素ということになる。当然、この鉱物はカリ長石と斜長石である。長石類が花崗岩類や火成岩が風化して生成した粘土の地域差を支配していたのである。

上記4元素が地質に関連して地域差を示すとすれば、これら4元素は須恵器以外の古代、中世土器の胎土研究に役立つはずである。こうした考えで埴輪の胎土研究にこれら4元素が使用されることになった。大阪府高槻市の新池窯群の製品は太田茶臼山古墳や今城塚古墳に供給されていたことが筆者の開発した方法で証明されている。また、山口県柳井市の柳井茶臼山古墳では埴輪配置が再現されており、配置と胎土の間に関連があることも報告されている。このような研究成果を背景として、今回、東五十子古墳群出土埴輪を多数分析した結果について報告する。

(2) 試料処理法と分析法

通常、土器試料は表面を研磨してから粉碎するが、軟質土器の場合、研磨の段階で胎土中に包含されている粗粒を可能な限り摘出している。その後、粉碎し、粉末試料を塩化ビニル製リングを枠にして高圧をかけ、一定形状の測定用試料を作成した。蛍光X線分析は相対分析である。標準試料と実試料の蛍光X線強度の比から含有量が得られる。そのため、標準試料も含めて、すべての試料の形状は一定にすることが必要である。固めずに、粉末のままX線を照射しても、定性分析はできて定量分析はできない。これが粉碎してから高圧を

かけて固め、一定形状の試料を作成する理由である。

土器の産地問題の研究には大量の試料の分析が必要なので、分析装置は完全自動式であることが望ましい。そうでないと、常に、試料交換のために運転要員が必要となる。筆者の場合は50個の試料が同時に搭載できる自動試料交換機を蛍光X線分析装置に連結して分析しているので、50試料を装填してしまえば、5時間ほどの間は自動的に分析作業が継続するので、講義その他の作業も可能である。このような装置でない限り、10年以上の長い年月をかけて土器を分析することは不可能である。土器の産地問題の研究に活用できる分析装置は完全自動式の蛍光X線分析装置しかないと思われ、筆者が考える理由はここにある。標準試料としては岩石標準試料、JG-1が最適である。分析値は通常、JG-1の蛍光X線強度を使って標準化した値で表示している。いちいち、%濃度やppm濃度に変換しなくても十分、地域差を比較することができる。むしろ、標準化値のほうが大量の試料を処理する上にはるかに便利である。分析データはまず、K-Ca、Rb-Srの両分布図上にプロットし、視覚的に見やすいように表示すると、理解し易くなる。

(3) 分析結果

今回は600点を越える大量の試料を分析したので、分析データ表は省略した。今回の分析の目的はこれらの試料をK、Ca、Rb、Srの4元素を使って分類することであるが、いきなりクラスター分析をしても、試料数が多すぎて分類は困難であろう。むしろ、各古墳ごとに、両分布図上で分類していくほうが視覚的にも分かりやすい。まず、図1にはST-07墳の埴輪の両分布図を示す。大部分の試料を包含するようにして(I)領域を描いた。この領域は統計学の意味をもって描かれたものではないが、それでも他の胎土の埴輪と比較する上には有益な比較対照のための領域となる。埴輪型式からはA、B、C、D、E、Fの6群に分類されていたが、胎土はすべて同じである。同じ地域内で製作された埴輪と推定される。K量が比較的高い埴輪は埼玉県内の製品ではなく、群馬県、栃木県や茨城県側の製品とみられる。ST-07号墳の埴輪は外部地域からの搬入品である。

図2にはST-00墳の埴輪の両分布図を示す。図1で描かれた(I)領域を比較対照の領域として描いてある。大部分の試料は(I)領域に分布しており、しかも、(I)領域内での分布位置も類似している。このことから、ST-07墳とST-00墳の埴輪は同じところで製作された搬入品の埴輪と推定された。ただ、3点の試料は他の試料から離れて分布しており、別の地域で製作された埴輪である。したがって、ST-00墳には2種類の胎土の埴輪があったことになる。つまり、2ヶ所から供給された埴輪があったと考えられた。なお、型式からはA、B、Cの3群に分類されていたが、胎土は同じであった。

図3にはST-26号墳の埴輪の両分布図を示す。型式的にはA、B群の2種類に分類されているが、胎土は1種類である。同じところで製作された埴輪と考えられた。これらの試料を包含するようにして(II)領域を描いてある。(I)領域に分布したI群埴輪とは違い、(II)領域に分布するII群埴輪にはK、Rb量が明らかに少ないことがわかる。この特徴は埼玉県内の埴輪胎土のもつ特徴であり、埼玉県内で製作された埴輪と推定された。

図4にはST-11号墳出土埴輪の両分布図を示す。(II)領域に分布するが、(II)領域内での分布位置はST-26号墳の埴輪とは少しずれることがわかる。いずれも埼玉県内で製作された埴輪であろう。ST-26号墳の埴輪とST-11号墳の埴輪は同じ窯群内の別の窯の製品と考えるのが妥当であろう。Ca量が多いものが3点あるが、同じ窯の製品の中にもごく少数このような例がこれまでも検出されている。型式からはA、B群の2群に分類されているが、胎土は一色であった。同じところで製作された埴輪である。

図5にはST-23号墳の埴輪の両分布図を示す。型式からはA、B、C、D群の4群に分類されているが、胎

図1 ST-07 出土埴輪の両分布図

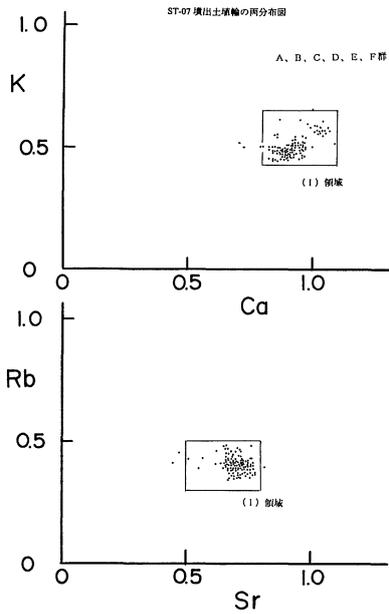


図2 ST-00 出土埴輪の両分布図

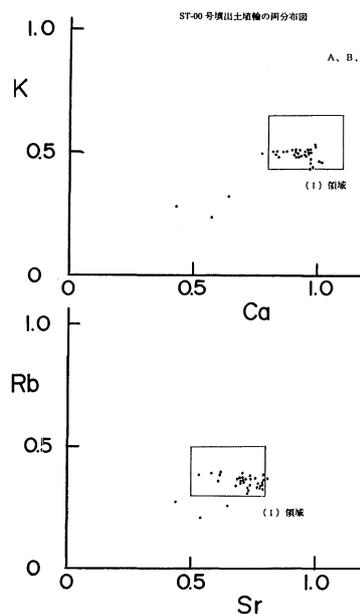


図3 ST-26 出土埴輪の両分布図

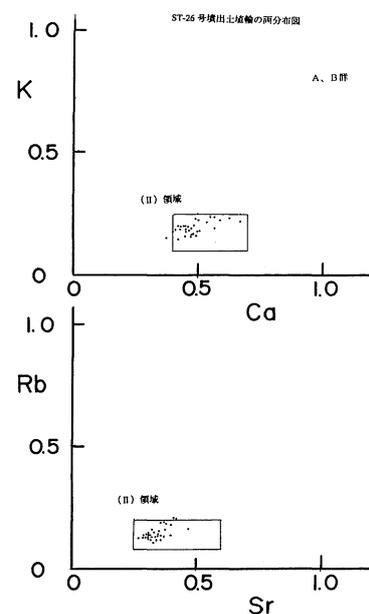


図4 ST-11 出土埴輪の両分布図

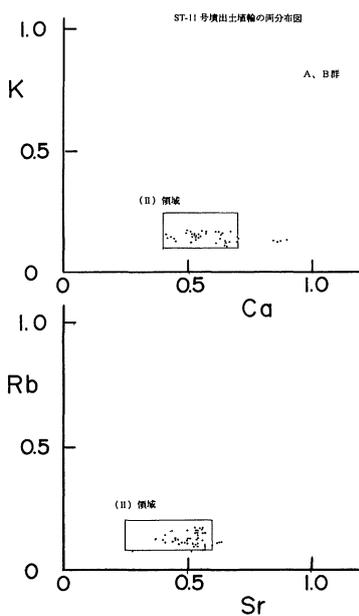


図5 ST-23 出土埴輪の両分布図

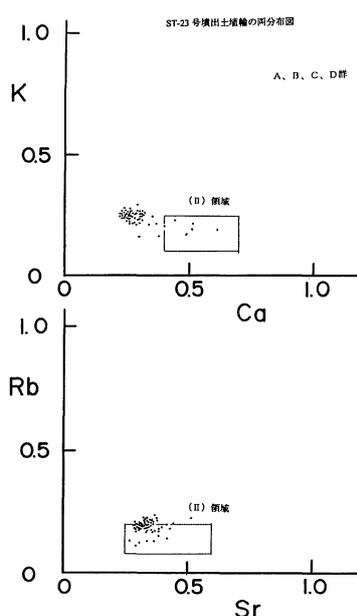
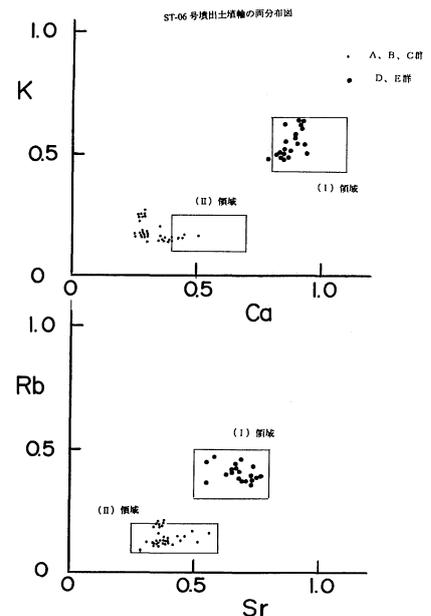


図6 ST-06 出土埴輪の両分布図



土は一色であった。K-Ca 分布図では大部分の試料は (II) 領域をずれる。また、Rb-Sr 分布図でも (II) 領域の端に分布しており、ST-26号墳と ST-11号墳の埴輪胎土とは異なる。しかし、K、Rb 量が少ないところから、ST-23号墳の埴輪も埼玉県内で製作された埴輪と推定された。

図6には ST-06号墳の埴輪の両分布図を示す。これまでの古墳出土埴輪とは違い、明らかに、胎土が異なる2種類の埴輪があることがわかる。A、B、C群の埴輪はI群型の胎土をもっており、群馬県側で製作された埴輪と推定される。他方、D、E群の埴輪はII群型に近い胎土をもっており、埼玉県内で製作された埴輪と推定される。

図7 ST-29 出土埴輪の両分布図

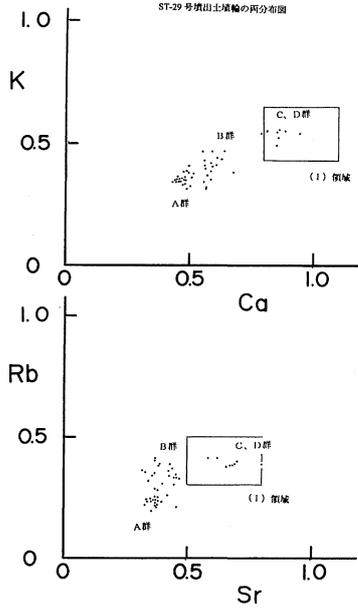


図8 ST-12 出土埴輪の両分布図

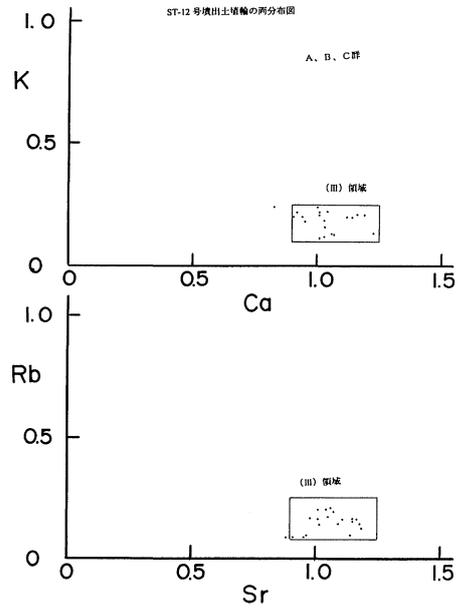


図9 ST-17 出土埴輪の両分布図

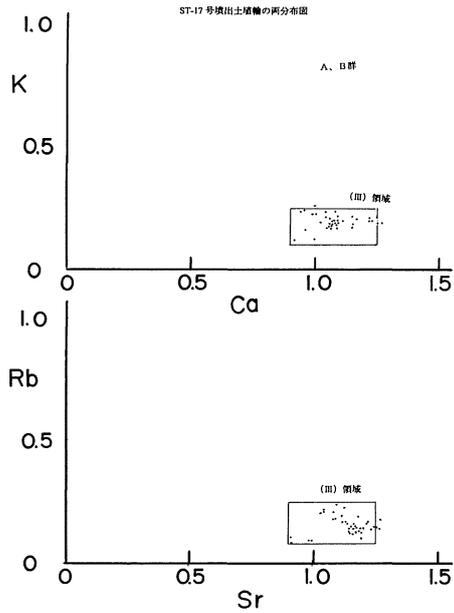


図10 ST-02 出土埴輪の両分布図

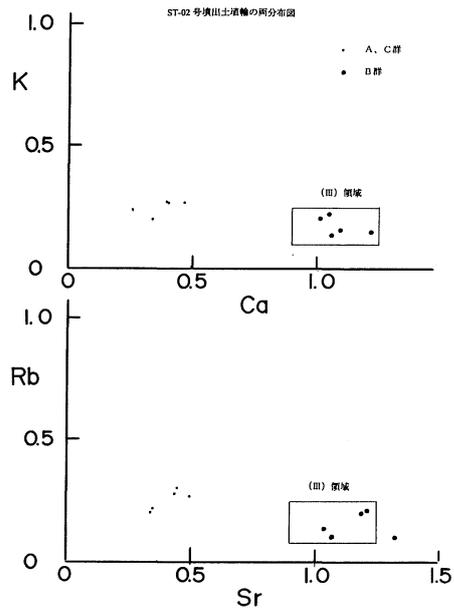


図7にはST-29号墳の埴輪の両分布図を示す。この図から、C、D群に分類されている埴輪はI群型の胎土をもち、外部地域の製品と推定された。他方、形式的にA、B群に分類された埴輪もK、Rb量は多く、埼玉県内で製作された埴輪ではない。群馬県か栃木県側から供給された埴輪と推定される。しかも、B群埴輪はA群埴輪集団から少しずれて分布しており、B群の胎土もまた、A群の胎土とは異なることを示している。したがって、図7を見る限り、3種類の胎土の埴輪が混ざっていることがわかる。つまり、3ヶ所からの供給があったことを示している。

図8にはST-12号墳の埴輪の両分布図を示す。これまでには見られなかった位置に分布することがわかる。

図11 ST-18 出土埴輪の両分布図

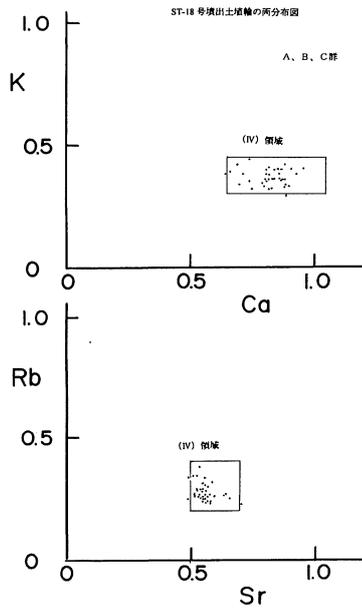


図12 ST-22 出土埴輪の両分布図

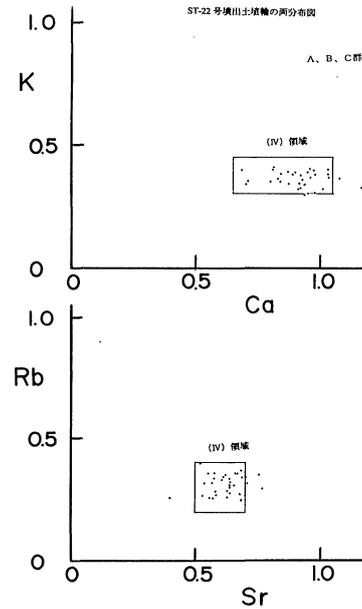


図13 ST-28 出土埴輪の両分布図

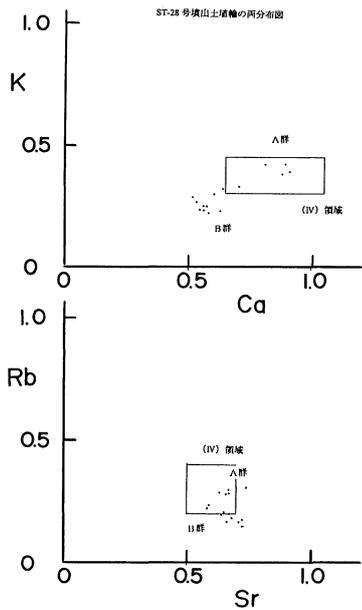
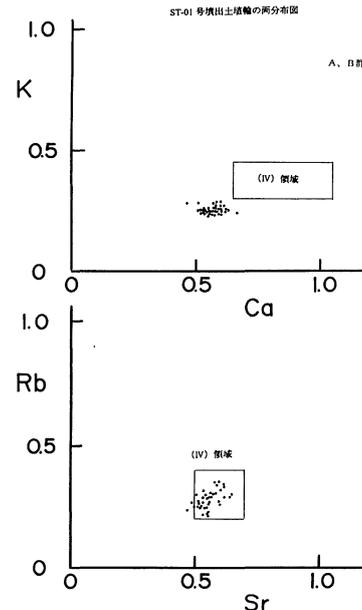


図14 ST-01 出土埴輪の両分布図



しかし、まとまって分布しているので、同じところで製作された埴輪と推定される。これらを包含するようにして、(III)領域を描いた。なお、型式的にはA、B、C群の3群に分類されているが、胎土は一色であり、同じ場所で製作された埴輪である。このタイプの埴輪胎土も埼玉県内では見つけれられておらず、搬入品の埴輪と推定された。

図9にはST-17号墳出土埴輪の両分布図を示す。型式的にはA、B群の2群に分類されているが、胎土は一色であり、(III)領域内に分布するところから、ST-12号墳と同じところで製作された埴輪と推定される。この位置に分布する胎土は埼玉県はもちろん、群馬県や栃木県内でも見つかっていない。はたして何処で製作された埴輪なのであろうか？

図10には ST-02号墳出土埴輪の両分布図を示す。形式的にはA、B、C群の3群に分類されているが、胎土からは2種類である。B群埴輪は明らかに(III)領域内に分布し、ST-12号墳、ST-17号墳の埴輪と同じところで製作された埴輪と考えられる。A、C群は同じ胎土の埴輪とみられ、同じところで製作された埴輪であろう。

図11には ST-18号墳出土埴輪の両分布図を示す。まとめて分布するところから、形式的にはA、B、C群の3群に分類されているものの、胎土は一色であり、同じところで製作された埴輪と考えられる。新たに出現したこの胎土をIV群胎土とした。図11にはこれらの試料を包含するようにして(IV)領域を描いてある。

図12には ST-22号墳出土埴輪の両分布図を示してある。型式分類には無関係に(IV)領域にまとめて分布しており、A、B、C群の埴輪はIV群胎土をもつことは明白である。ST-18号墳とST-22号墳の埴輪は同じ所で製作された埴輪である。埼玉県内にはこの領域に分布する埴輪は製作されておらず、いずれも、外部地域からの搬入品と推定される。

図13には ST-28号墳の埴輪の両分布図を示す。型式分類通り、A群とB群の埴輪の胎土は異なる。このうち、A群の胎土はIV群型であり、ST-18号墳、ST-22号墳の埴輪と同じところで製作された埴輪と推定される。しかし、B群の埴輪の胎土は異なることは明白である。

図14には ST-01号墳の埴輪の両分布図を示す。形式的にはA、B 2群に分類されているものの、すべての試料はまとめて分布しており、同じところで製作された埴輪と考えられる。Rb-Sr 分布図では(IV)領域に分布するものの、K-Ca 分布図では(IV)領域をずれており、IV群型の胎土でもないことがわかる。この胎土も新たに出現した胎土である。

以上にみてきたように、東五十子古墳群出土埴輪の胎土は大きくはI、II、III、IV群の四つのタイプに分類できた。そのうちのII群は埼玉県内で製作された埴輪と推定されたが、他の3群は県外型の胎土であり、外部地域からの供給品と推定された。東五十子古墳群には外部地域の複数の生産地から埴輪が供給されたことはほぼ間違いない。被葬者の血縁関係から供給された場合もあっただろうし、政治的な背景から供給された場合もあったであろう。政治的な背景で血縁関係が結ばれておれば、両方の背景をもって埴輪が供給された可能性もある。恐らく、東五十子古墳群の埴輪胎土にみられるこの状況は関東地域における古墳群の典型的な例なのであろう。今後、関東地域内の多くの古墳群出土埴輪の分析データを集積していけば、関東地域内の豪族間の関係についての情報を引き出せるかもしれない。

また、四つのタイプにびたりと対応しないが、多少ずれた胎土の埴輪もあり、生産地自身、それほど単純でもないことも今回の分析データからわかった。埴輪の生産地側の整理作業も今後とも、根気強く推進していくことが必要であろう。

3 文字線刻紡錘車の分析

(1) SI-60出土文字線刻石製紡錘車(図1・2)

広面の縁が若干欠損しているものの、全体に遺存度は良好である。各面に製作時の削り痕が観察される。また、全体に摩滅している。特に、欠損部と各部縁辺はかなり摩滅しており、稜線は不明瞭である。

文字は全面を対象に、刀子状の鋭利な器物で刻まれている。その一部は広面部の欠損面が摩滅した後に、刻まれた痕跡が観察され、ある程度使用した後に線刻されたことを暗示している。

狭面の文字は、穿孔部をはさみ、「工(たくみ)」の2文字が上下に刻まれている。他は狭面部から斜面部にかけて2文字1組、すなわち二言六句で放射状に刻まれている。これを個々に上下一句とすると、1文字目は広面に刻まれ、2文字目は稜線から斜面上にかけて刻まれている。

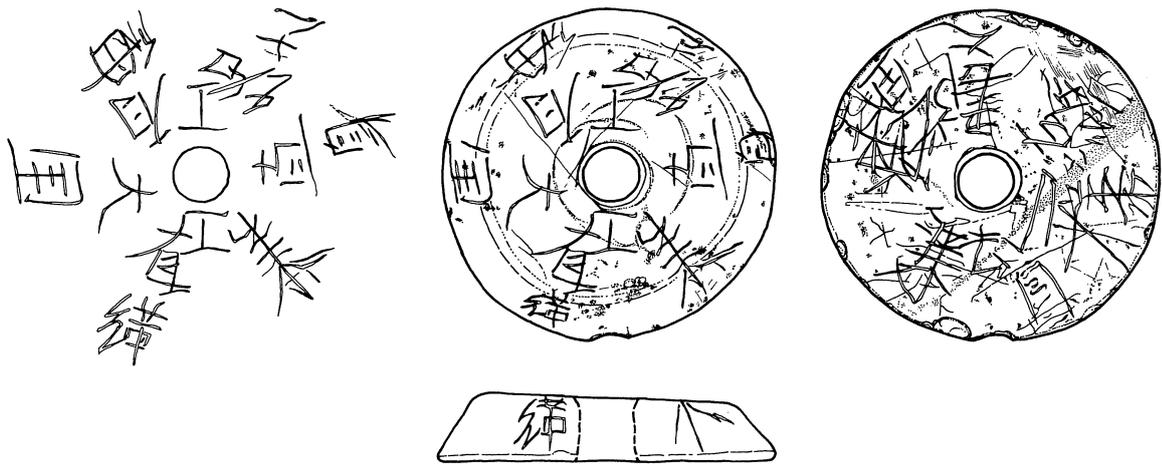
まず、いずれを文頭とするかについては、不明であるが、ここでは以下の1から6を仮設した。1の狭面は「大」である。斜面は国とするよりも「里」が字画上整合している。2は狭面に「有」と刻まれている。斜面の文字は田とする説もあるが、にんべんが観察されるので「佃」と組むべきであろう。3の狭面は艸と口からなる。これは「君」の古字である𠂔が変形した艸ととらえられる。斜面の文字は「志」と推定される。4の狭面には「直」と刻まれ、斜面上に「身」とある。5は狭面と斜面上にかけて1本の直線が走るものの、2文字と理解すると、狭面は「生」、斜面上が「木」と考えられる。6は狭面に「有」。斜面の文字「繭」は糸へん、草かんむり、一、中の組み合わせからなるが、「繭」の略字と推定される。

以上、狭面と斜面上には合計14文字が配されていることになる。これらの文字の内、二言六句は中央穿孔部から放射状に均等間隔で配置され、その間に工・工が重複することなく刻まれているから、工・工は最後に刻まれた可能性を指示している。したがって、14文字が意味のある文章として記録されたのであれば、やはり文頭をもとめなければならない。六句の中でレ点がつく「有□」は2ヶ所認められ、前後の句と対をなすものと考えられる。また、工の字を最後に記入したものとすると、2と3の間にあることから、3を文頭とみなすことが可能である。

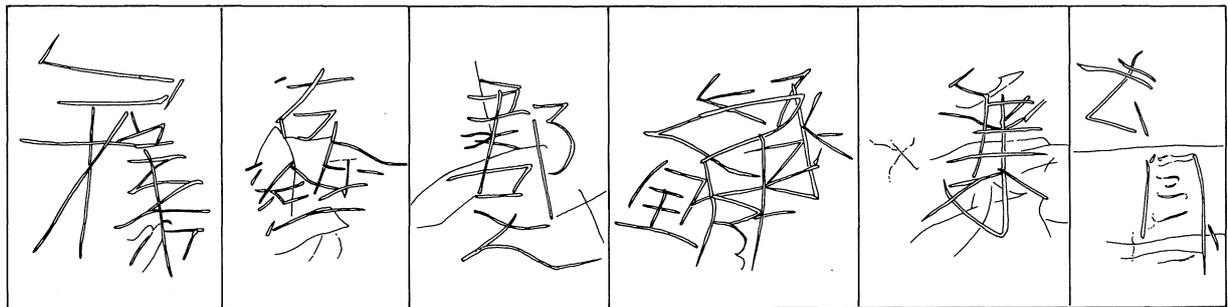
その結果として、以下の可能性が考慮される。『3君志 4直身 5生木 6有繭 1大里 2有佃 7工工』すなわち、「君志は直身す、生木に繭あり、大里に佃あり、工は工」。この内、直身は「ただみ」と読むと、本人自身という意味になるが、これを直躬(ちよつきゅう)と解すると、自身の行いを正しくする人となる。大里はムラの代名詞であるのか、当該遺跡が属する里名をさすものかは判明しない。佃は作田(つくりだ)の変化したもので、耕作されている田地をさす。また、平安時代初期から戦国時代にいたる荘園領主直営の農地をさす場合もある。以上の観点から、本文字列は何らかの意味をもつ文章である蓋然性が強い。しかし、これが練習として刻まれたものかは判別できない。

次に広面の文字については、きわめて難解である。その理由としては、線刻の重複が顕著なことに起因する。広面の文字は、穿孔部から縁辺部方向へ放射状に刻まれており、この点では狭面と同様である。しかし、文字は大小2種類からなり、大きく書かれた文字は6文字観察されるものの、唯一明瞭に判読できる「大里」が逆時計回りに配されている点で、これらが上下一対で判読されるものではないことを暗示している。ここでは、最も大きい文字が刻まれた1を起点に、6まで仮設すると、以下の文字が判明する。

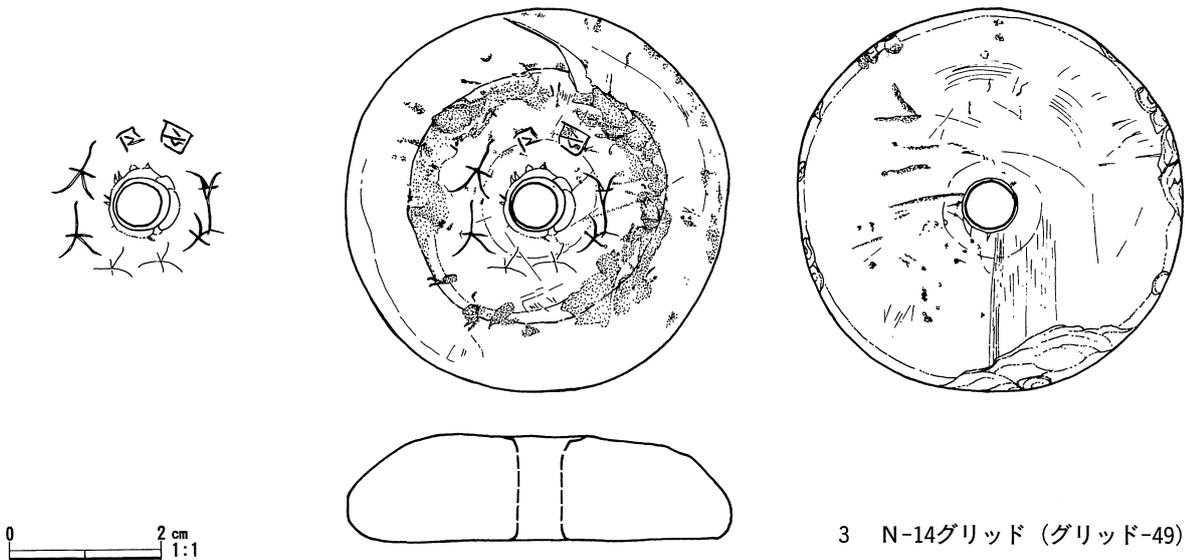
1は、上のコ字状文字と下の文字は別個と思われる。上の文字は「ア」すなわち「部」の略字であろうか。下の文字は「榛」か「様」に近いが、手へんとなっていることや右側の字体から、様の本字である「様」のくずし字と考えられる。



1 SI-60-22



2 SI-60-22 広面文字拡大図



3 N-14グリッド (グリッド-49)

図1 文字線刻紡錘車実測図

2は上に「古」の字が読み取れ、これを石もしくは右と解くことは困難である。下の大きい文字は、金か全をもとにした合字、もしくは「銓」と考えられるが、現状では不明といわざるを得ない。ちなみに、左側にはさんずいとおぼしき点がある。なお、これらの線刻以前に極細線が刻まれている。

3はあきらかに「郡」であるが、君へんの中央部に横線や極細線が多く、他の文字が重複している可能性がある。その下には「大」が明確に読み取れる。

4はコの字状の下に筆跡が続き「𠂔」となっているが、意味は不明である。おそらく、戸主の合字「厖」とも思われる。なお、文字の末端は、縁辺部が剝離した後に線刻されている。この不明文字の左下には「里」が見える。また、「里」と前述「大」の間には、非常に細い線刻で「十」と小さく読み取れるが、線の太さからして、大・里とは関係なく刻まれたものであろう。

一方、右上側には一文字重複している可能性があり、「承」の古字「丞」（たす・ける）と推定される。さらに、対する左上側には「之」と推定される文字が重複している。

5は「集」であろうか。この文字以前に細線がかなり刻まれている。なお、左側の空間に「十」もしくは「大」ともみられる極細線が観察されるが、文字を意識したものかは不明である。

6は「直」か「身」もしくは「目」と思われるが、左上に点があり、下部の細線から「身」と判断した。右上には「去」と考えられる小さな文字が観察される。

ところで、2・3・5の下に極細線で刻まれたものが、はたして文字を意識したものかは判然としないが、文字と仮定した場合、最終的に刻まれた線で消滅している部分も存在するものと考えられる。その一つとして、3の「郡」の下に観察される線は、「亥」のくずし字である「𠂔」の可能性を秘めている。これが紀年を表すのであれば、出土した土器から9世紀後半にかかる亥の年は、855、867、879、891の各年が該当する。ただし、その読みが正確であるのかといった点も含め、今後の検討課題としておく。

以上、広面には不明線刻も含めると、少なくとも18文字の存在を抽出できる。その読み方については、やはり文頭をいずれにおくか検討しなければならない。また、4の部分において上（穿孔部より）の文字は、下の文字に先行していることが線の重複をもとに判明しているから、上が一周し、つづいて下の文字が一周するものと考えられる。

まず、上の文字間は比較的つまって刻まれているが、4の「丞」と5・6間の「去」は1文字分の空間がある。これに基づき「去」より開始すると、「去」「ア」「古」「郡」「之」「丞」となる。下の文字は4・5間があいており、上の最終文字「丞」よりつづくものとする、「集」「身」「様」「銓?」「大」「里」「厖」となる。

本紡錘車にはすべての面を対象に、少なくとも32文字が刻まれており、文字の数としては、管見では最多と考えられる。ところで、狭面・側面にみる文字は重複もなく、筆順は正確であるから、ある程度熟練した識字者が目的意識をもって刻んだものと推定される。

しかし、広面に観察される文字は、大小2種類と極細線で刻まれた計3種類が観察され、しかも不明な文字が多い。さらに、狭面・斜面の文字列は上下2文字に組み、時計回りに判読されるが、広面では逆時計回りに判読され、しかも上下一組とはなっていないなど、相違点が多い。

ちなみに、両面に共通する文字を抽出すると、大・里・身がある。これらを比較すると、特に大の筆跡は相異なることから、同時期に同一の人物によって刻まれたものか疑問を残している。すなわち、広面の文字は大きさがふぞろいで、かつ崩れた文字が多く、別人が後に練習等（習字）をかねて刻字した可能性が暗示される。このことは、明瞭な文字の下に、極細線で下書きのようなことをしている点からも示唆的である。

本紡錘車の文字が意味するところは、狭面・斜面にみるかぎり、工すなわち「たくみ」の2文字を中央に配

置していることから、所有者が技術職に関連した人物である可能性を暗示している。しかし、これ以外の文字を見ると、佃、木、繭など農耕生産に関連したものであることも示唆的である。

さらに、佃を重視するならば、紡錘車の所有者が荘園領主直営の耕作人たる佃人の可能性も考慮しておく必要がある。ちなみに、近隣には児玉荘が所在する。

(2) N-14グリット出土文字線刻石製紡錘車 (図3)

広面の縁が若干欠損している。また、狭面と斜面の稜線付近は敲打痕が顕著である。全体に遺存度は良好である。広面には製作時の擦痕が観察されるものの、欠損部も含めて全体に摩滅している。各部縁辺にシャープさはなく、全体に丸みを帯びる。

文字は、狭面のみに観察される。やはり、鋭利な工具で刻まれており、合計8文字が判明する。もっとも大きい文字である「大」を起点とするならば、最初の2文字は縦書きを意図した模様であるが、次第に逆時計回りに回転し一周している。「大」の字は5文字連続しており、その後に「大」に類似した文字が観察され、つづいて国構えの文字が観察される。これは淵の古字である「𠄎」のくずし字と考えられる。最後の文字は国構えとはならない。残念ながら、今回解読することはできなかった。

本紡錘車の線刻文字は、同一文字を羅列した後に別の文字を記入しており、文字線刻紡錘車に比較的多いパターンである。文字線刻紡錘車は、管見では関東で約110例以上を確認しているが、本紡錘車も含め、その諸考察については、別紙でふれることにする。

【引用参考文献】

- 古文書解読指導研究会編 1980 『異体字の基礎知識』 柏書房
鎌田 正・米山寅太郎 1987 『新版漢語林』 5版 大修館書店
山田勝美 1977 『難字解読辞典』 柏書房
児玉幸多編 1978 『くずし字解読辞典机上版』 近藤出版社
若尾俊平 1979 『図録古文書の基礎知識』 柏書房
大原 望 2001 『和製漢字の辞典』 <http://member.nifty.ne.jp/TABO1645/ohara/>
くずし字よみかき実用辞典編集委員会 1993 『くずし字よみかき実用辞典』 第13刷 柏書房
杉本つとむ 1981 『異体字とは何か』 桜楓社
丘 壤二 1978 『篆楷字典』 第3刷 国書刊行会

写真図版



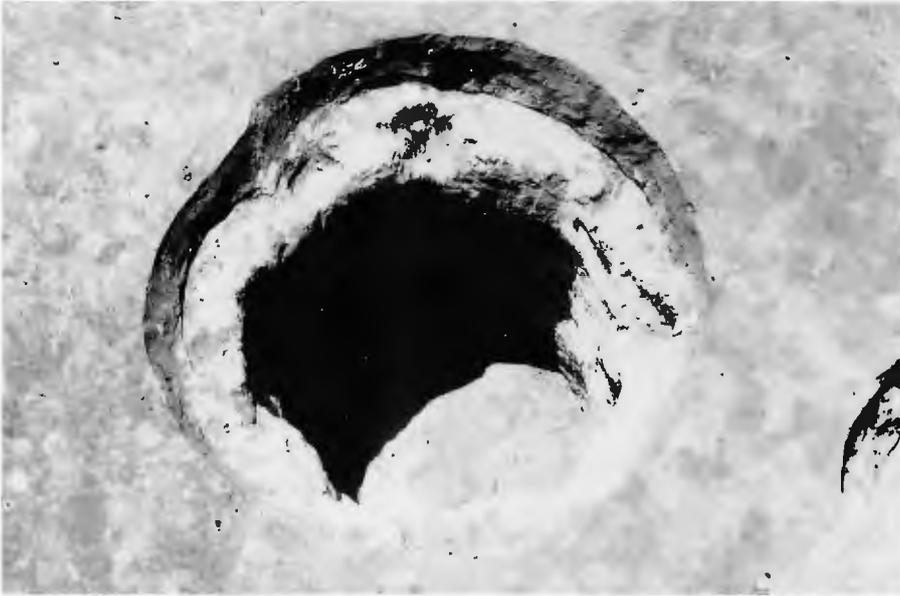
SD-44 遺物検出状況



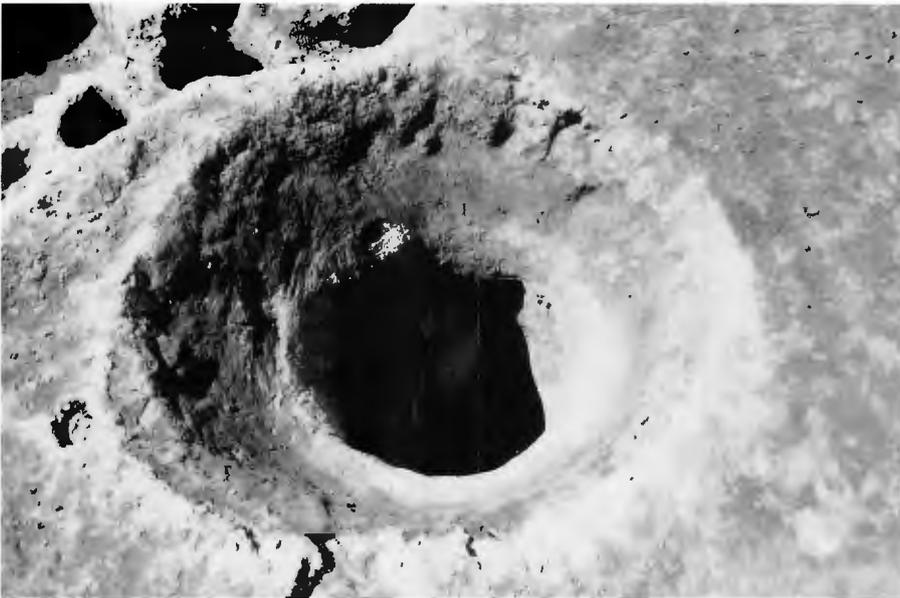
SD-44 遺物検出状況



SD-44 遺物検出状況



SW-26



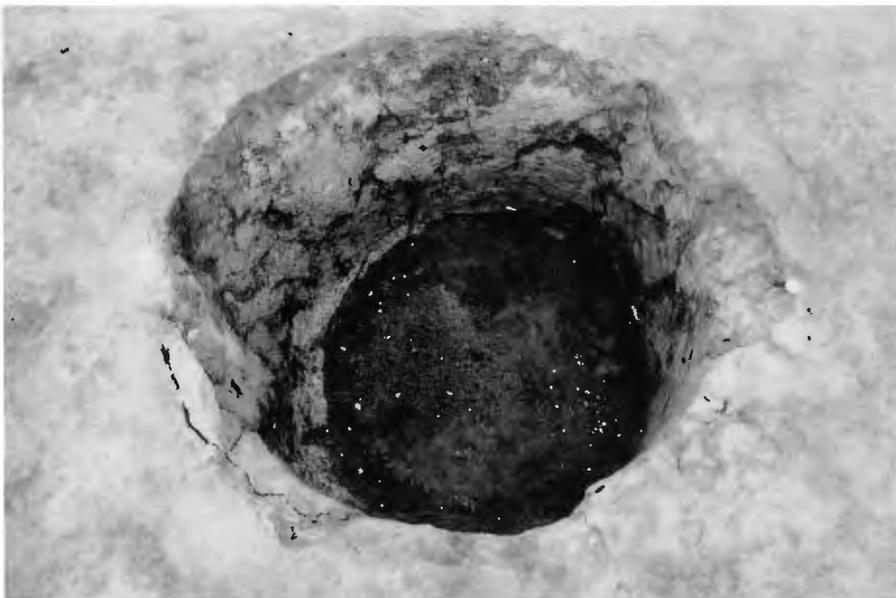
SW-28



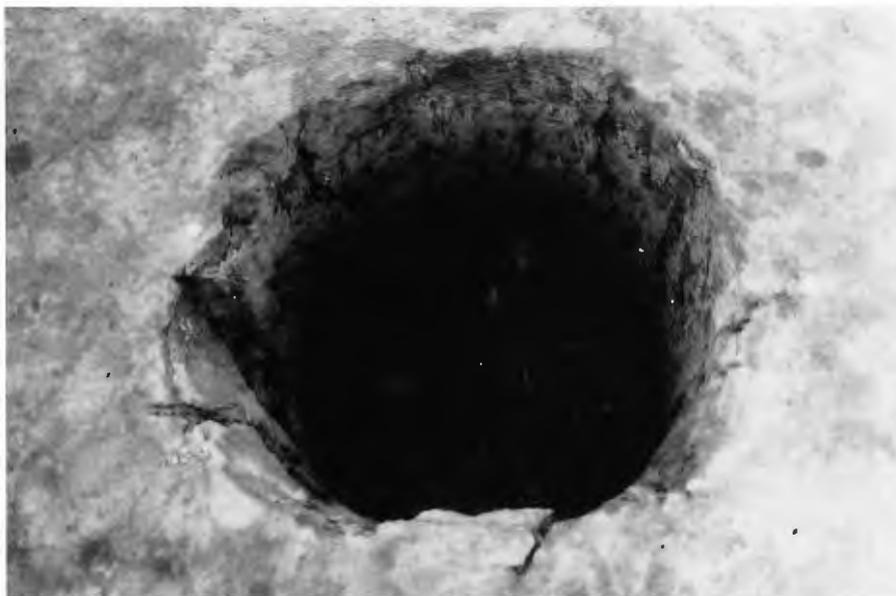
SW-29



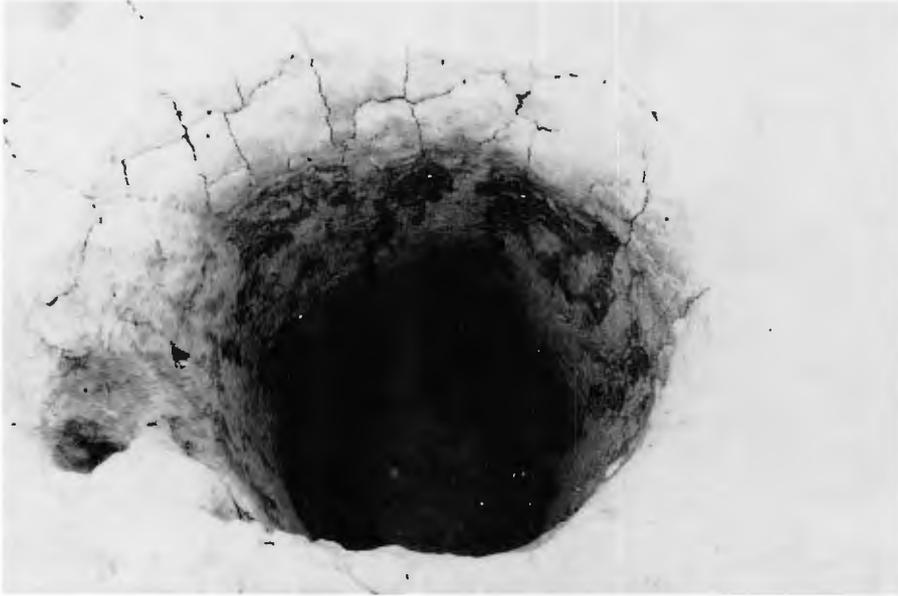
SW-30



SW-38



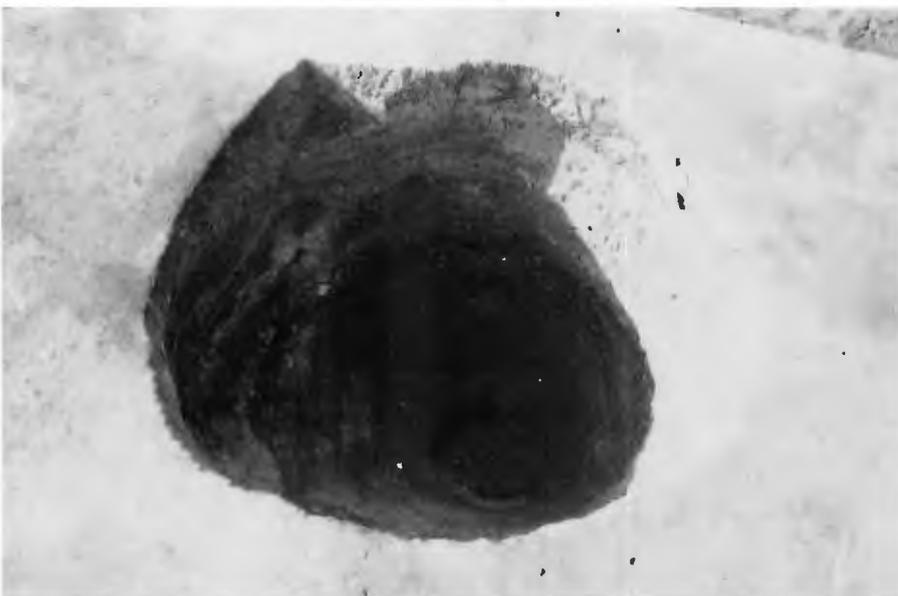
SW-39



SW-40



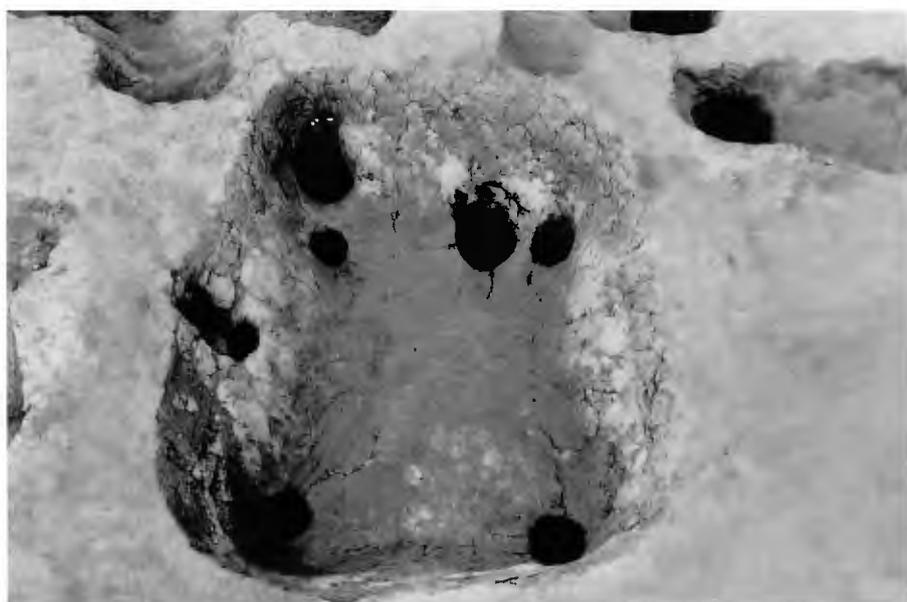
SW-50



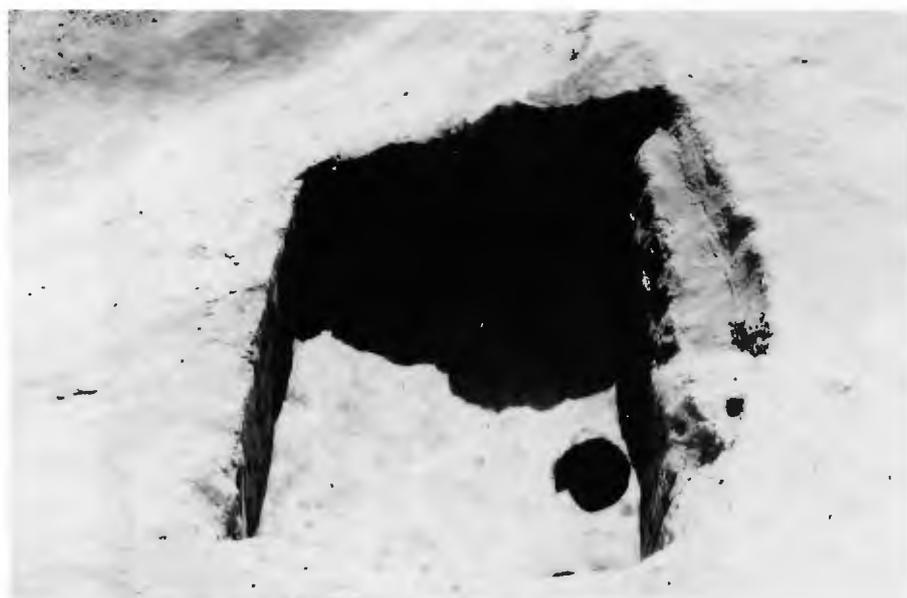
SW-61



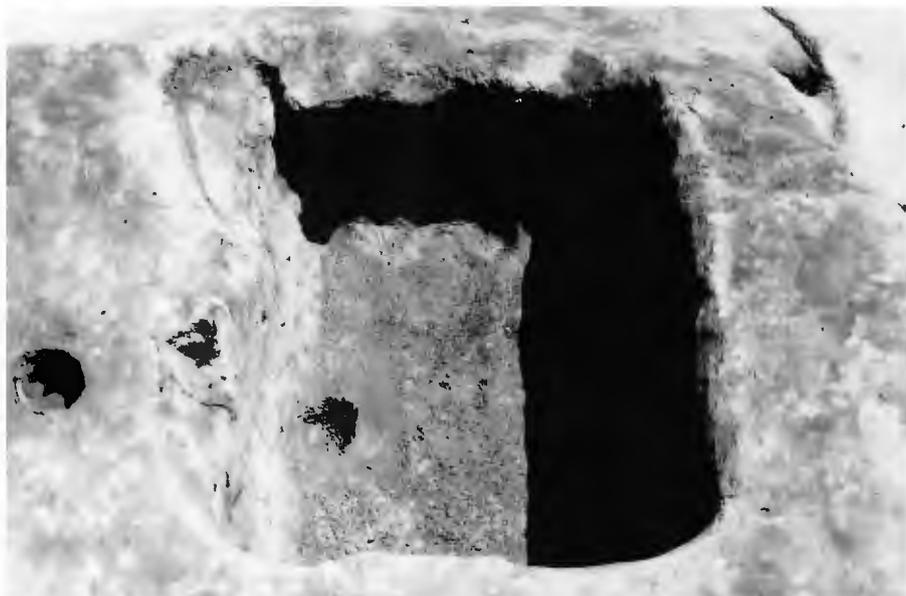
SF-06



SF-08



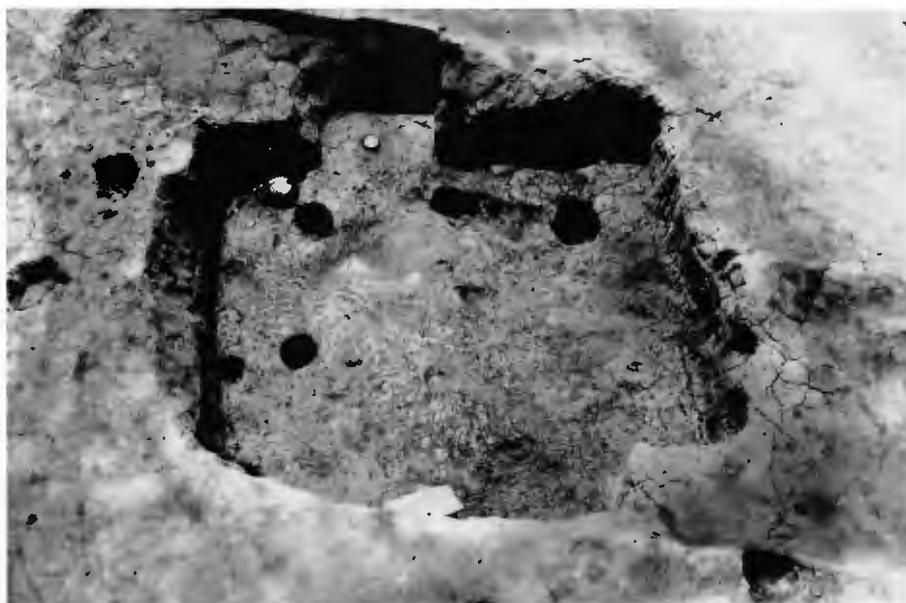
SF-09



SF-10



SF-13



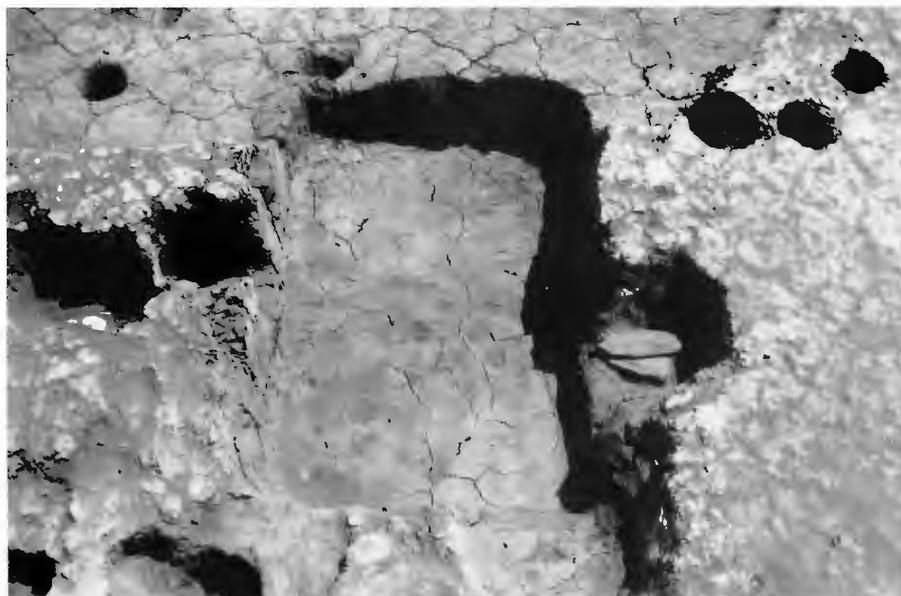
SF-15 · 16



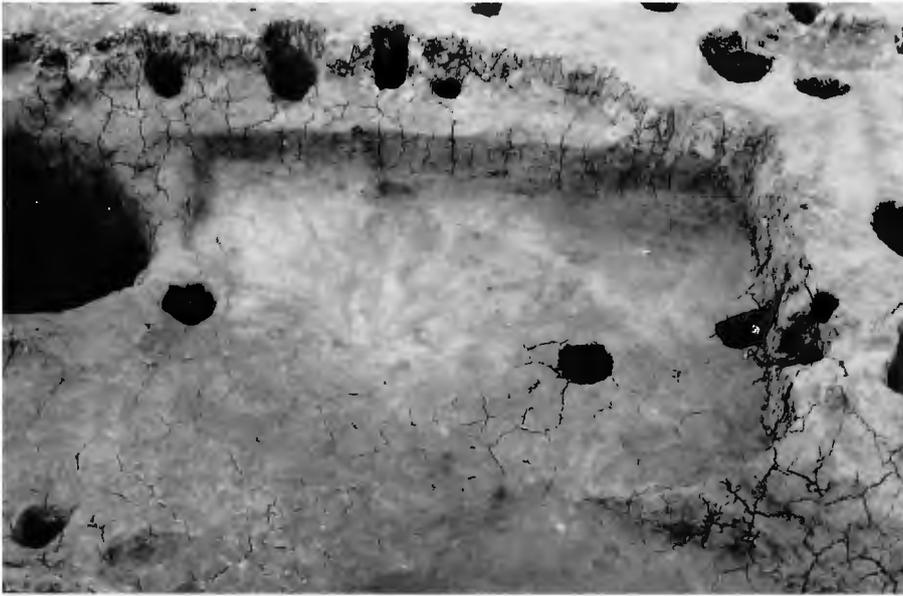
SF-16 遺物検出状況



SF-16 遺物検出状況



SF-18



SF-19



SF-19



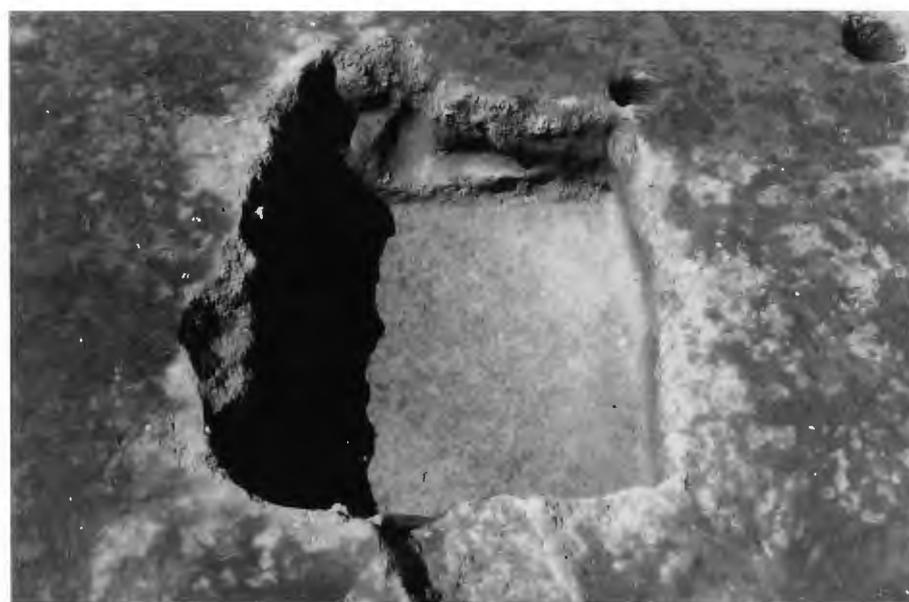
SF-22



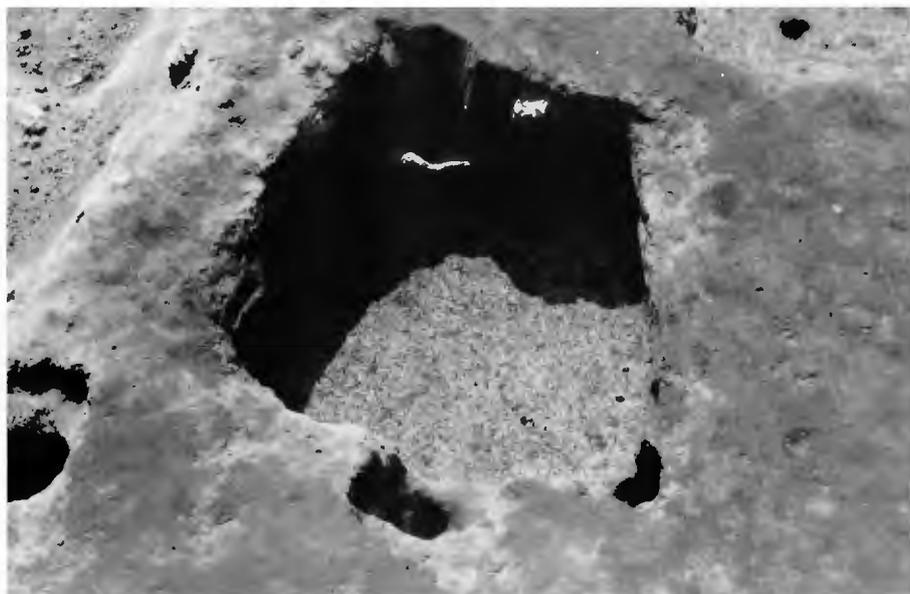
SF-25



SF-25



SF-26



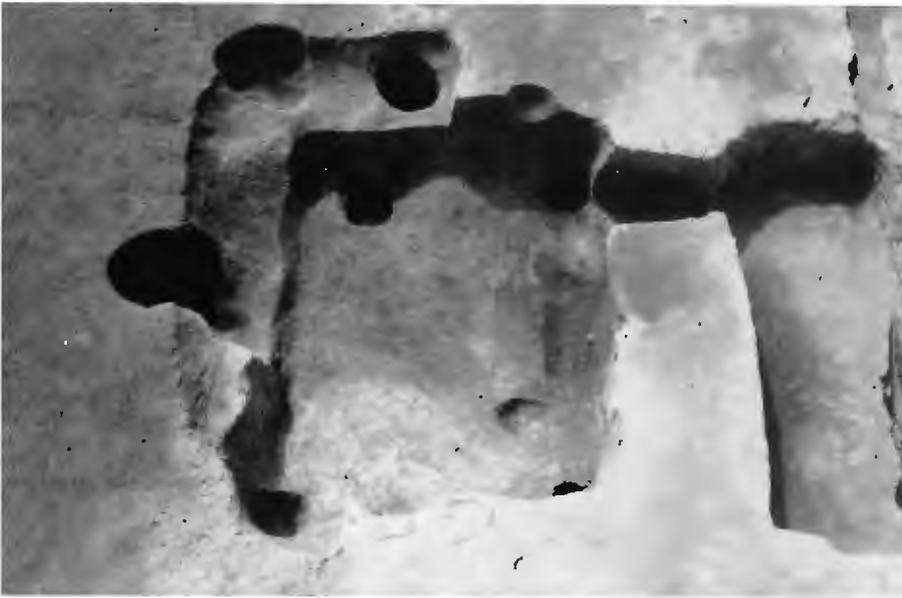
SF-27



SF-28



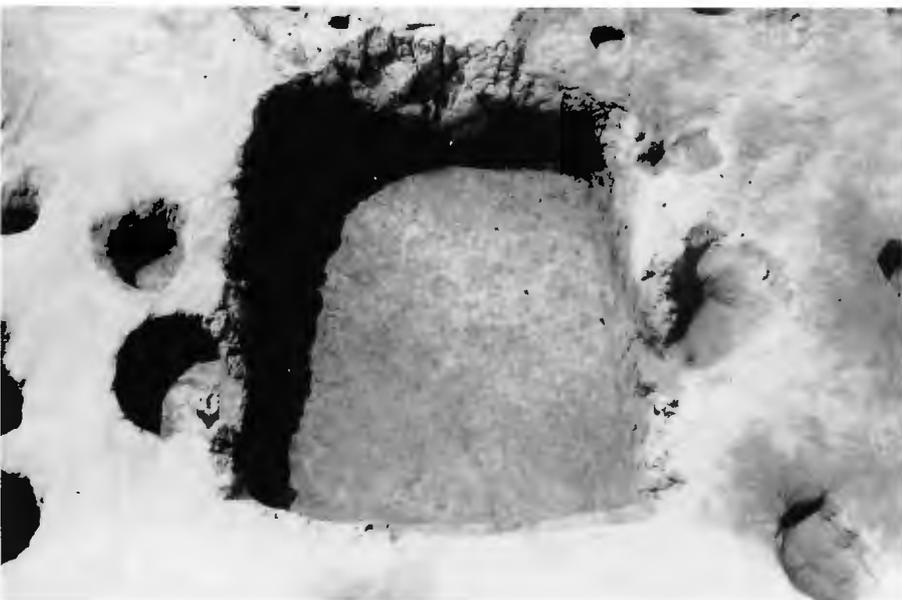
SF-28



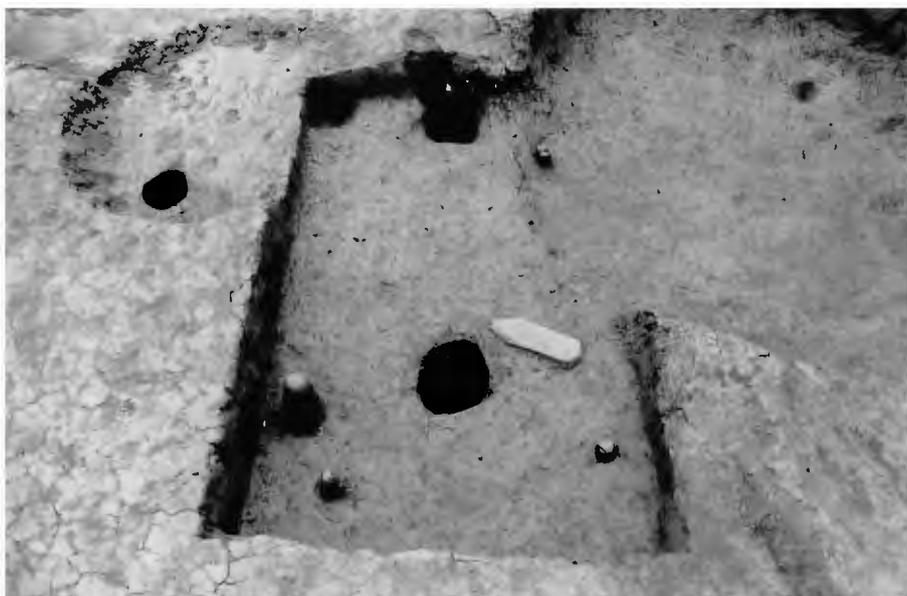
SF-30 · 31



SF-36



SF-36



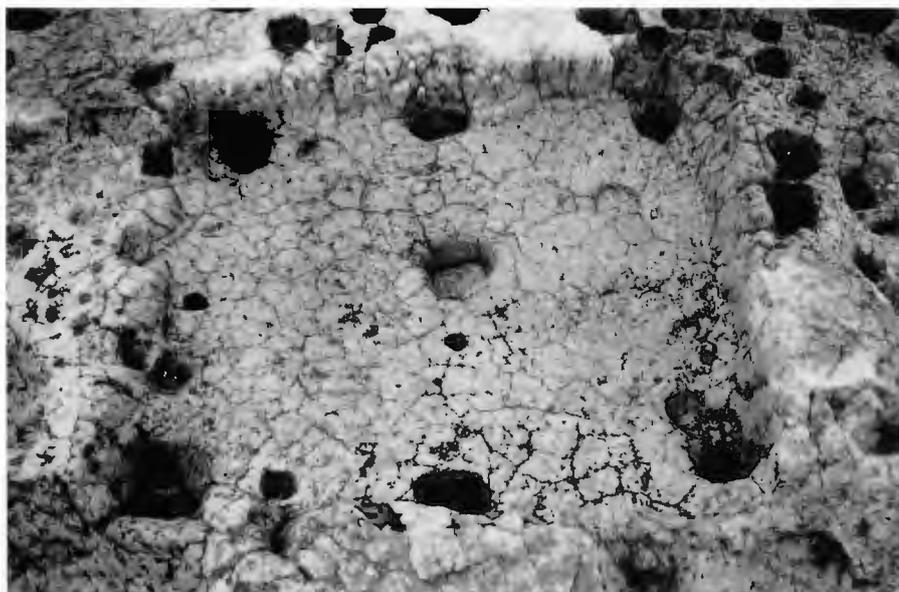
SF-37



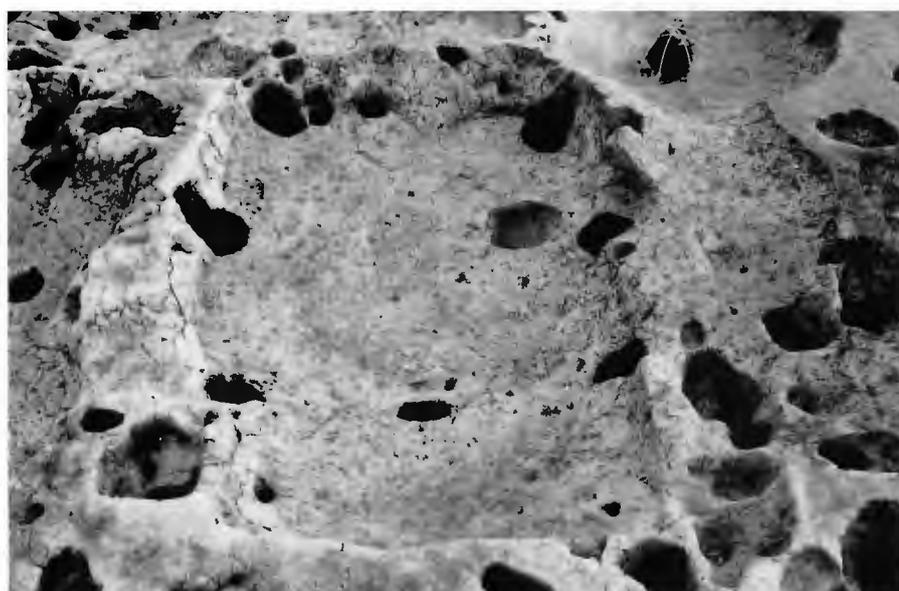
SF-37



SF-42



SF-47



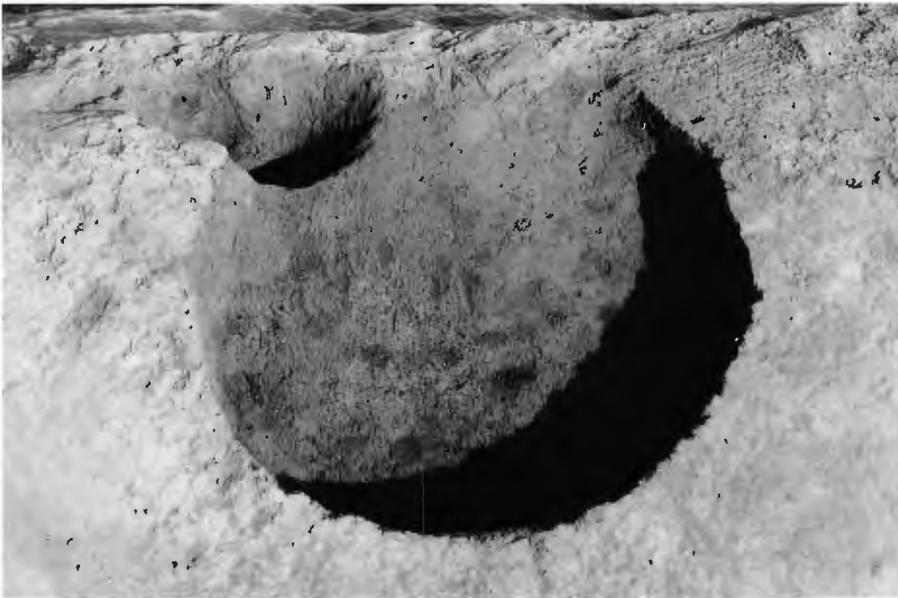
SF-49



SF-54



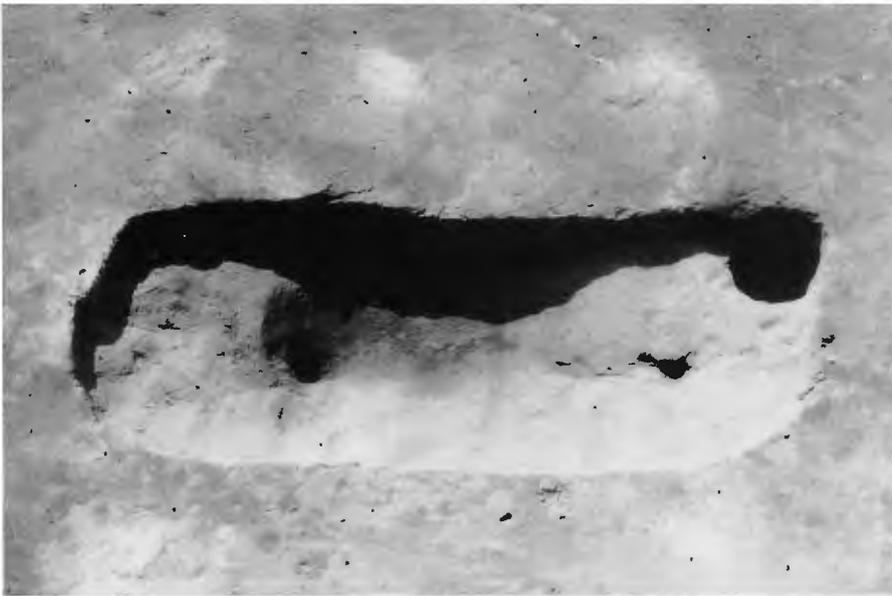
SK-100



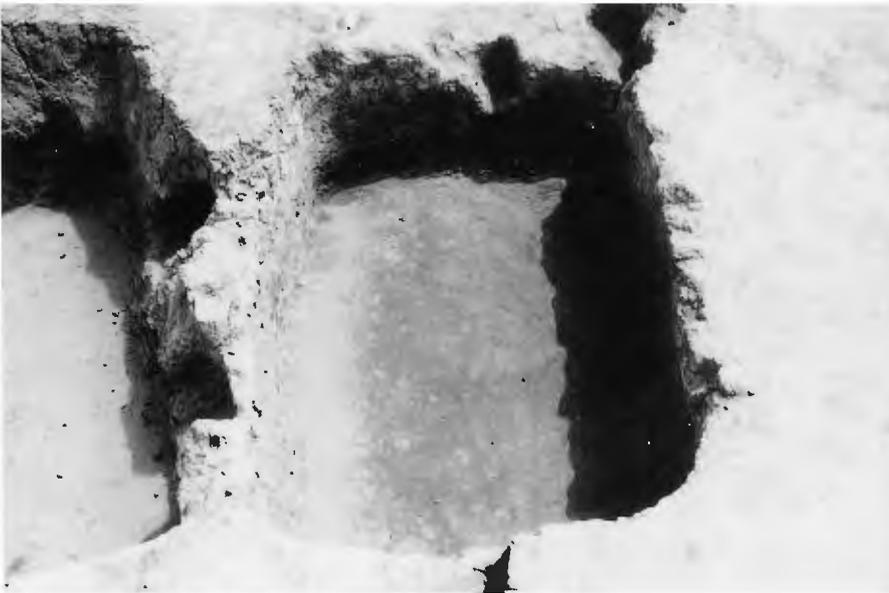
SK-101



SK-123



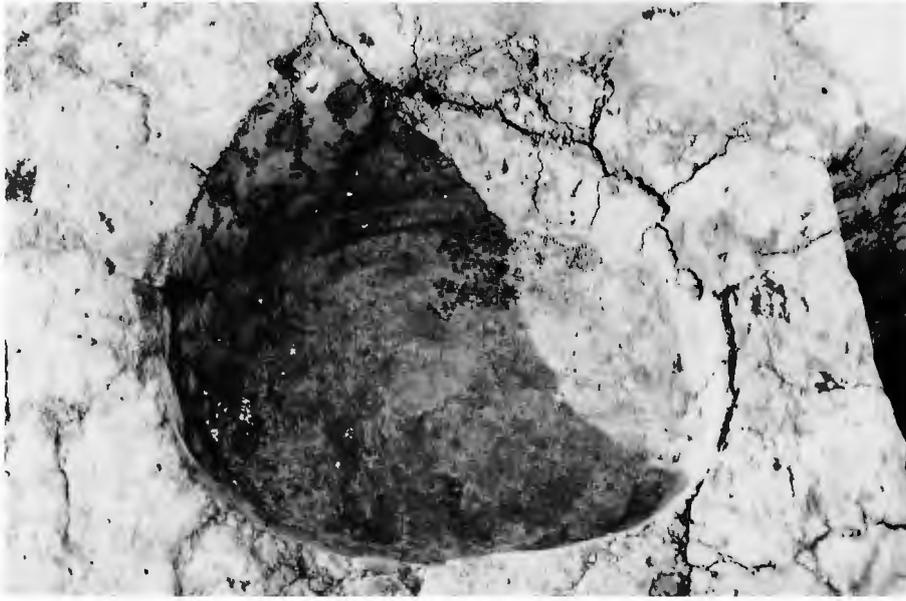
SK-141



SK-143



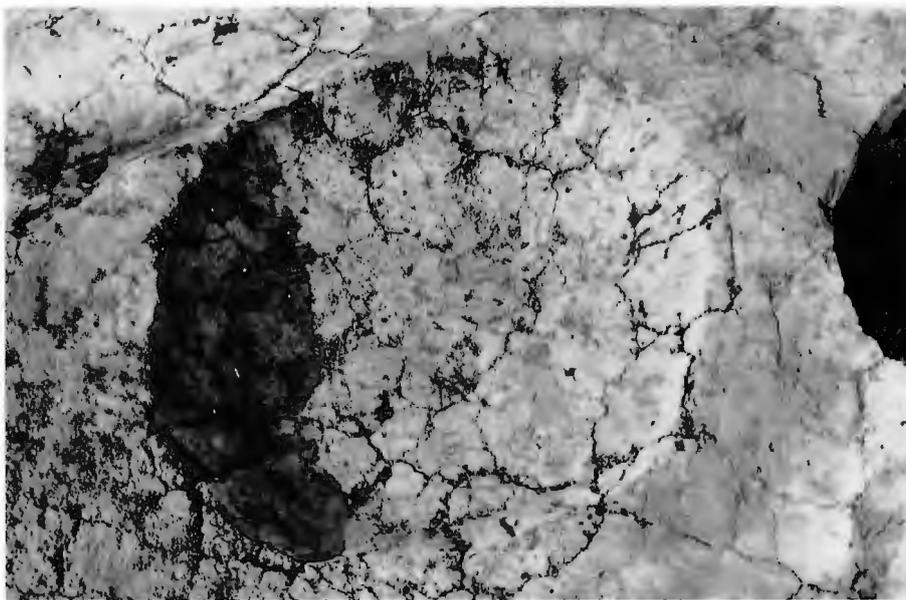
SK-156~159



SK-165



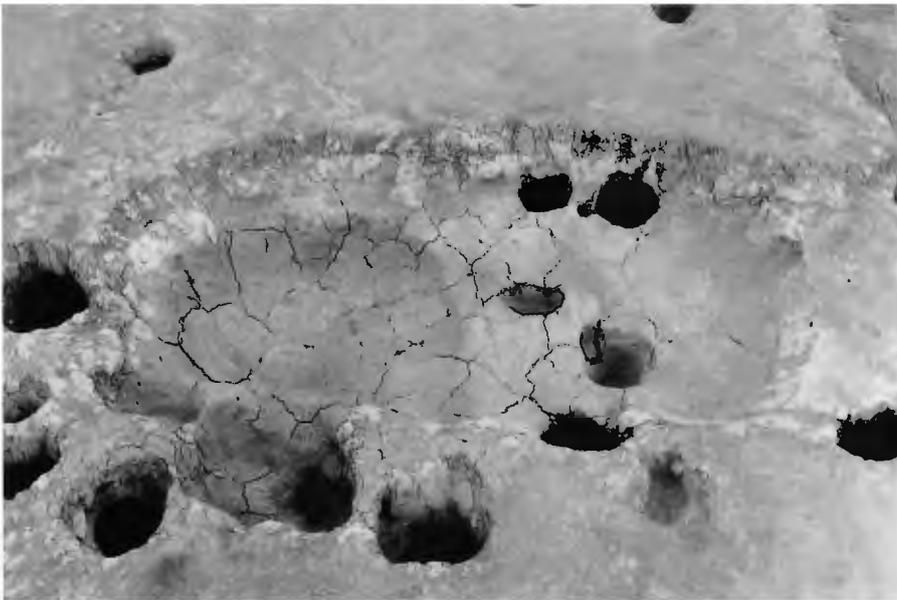
SK-167



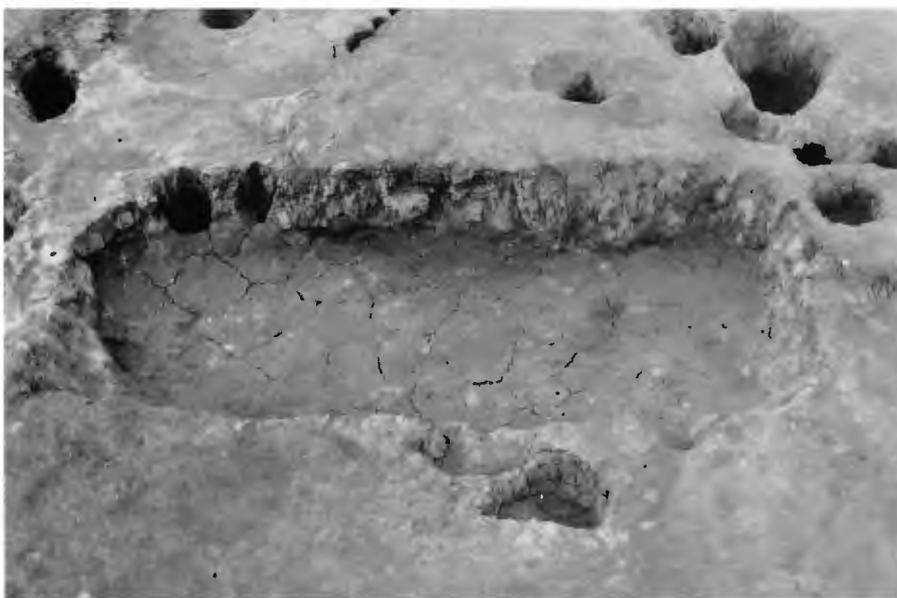
SK-168



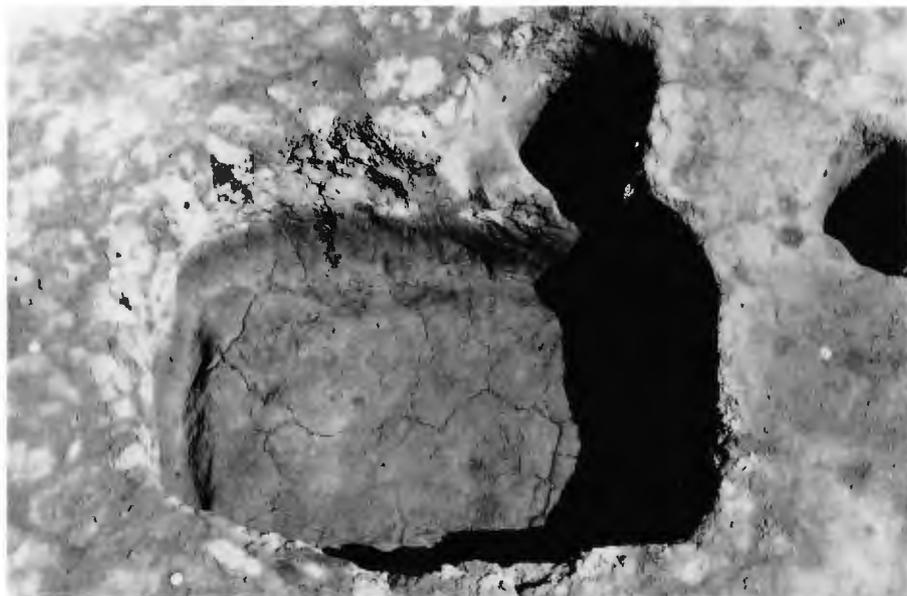
SK-169



SK-173・177



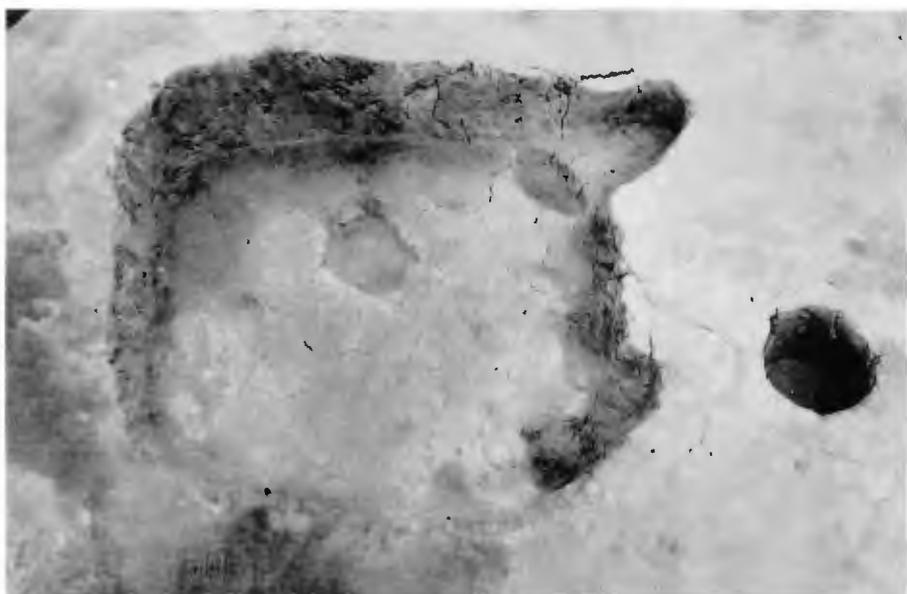
SK-176



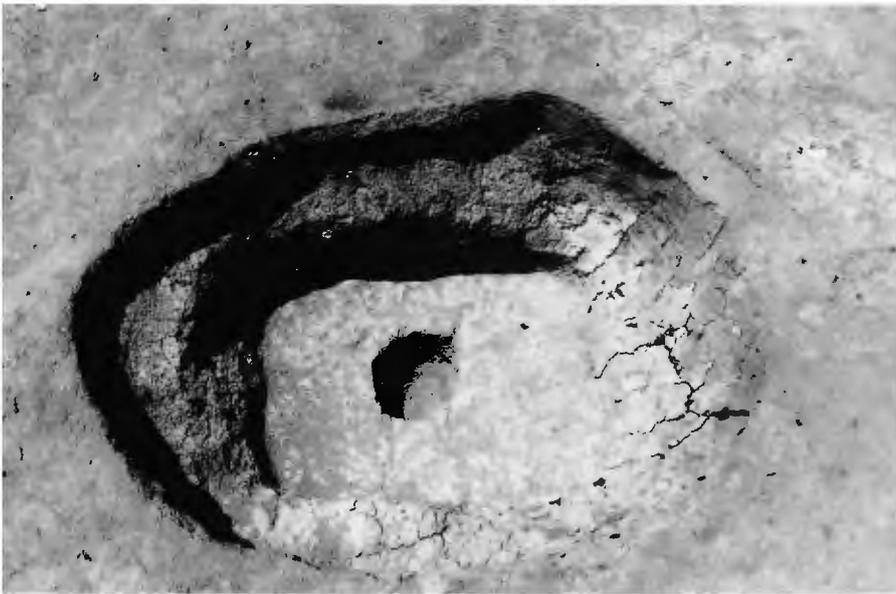
SK-185



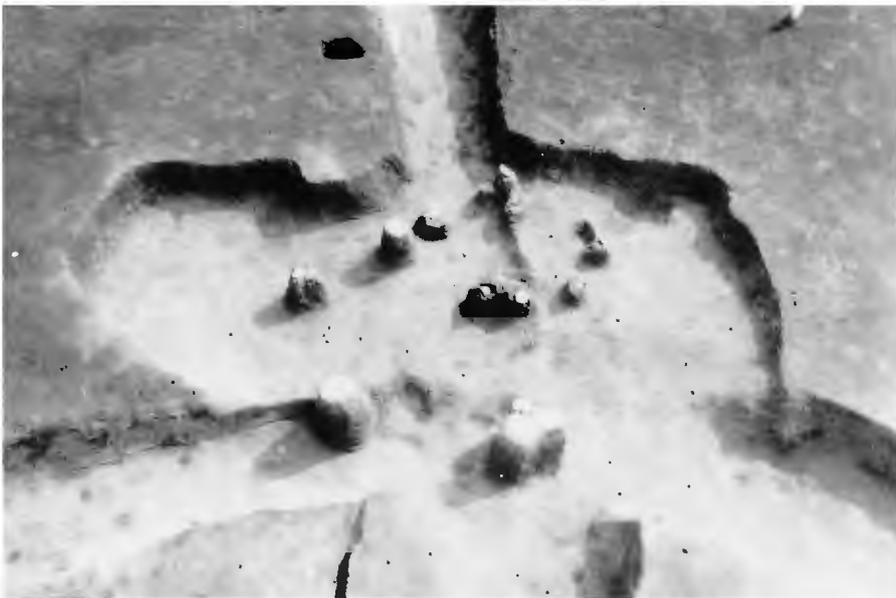
SK-189 · 190



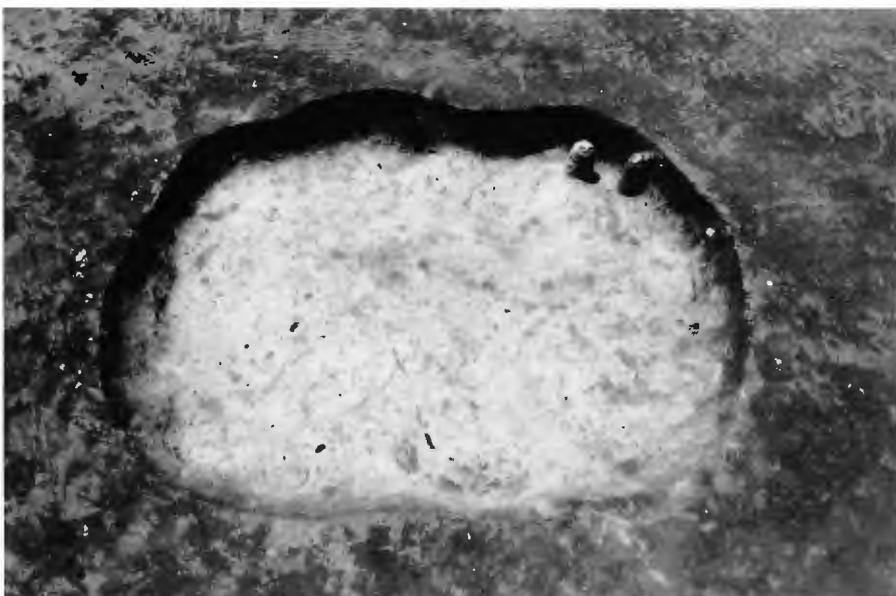
SK-222



SK-228



SK-238



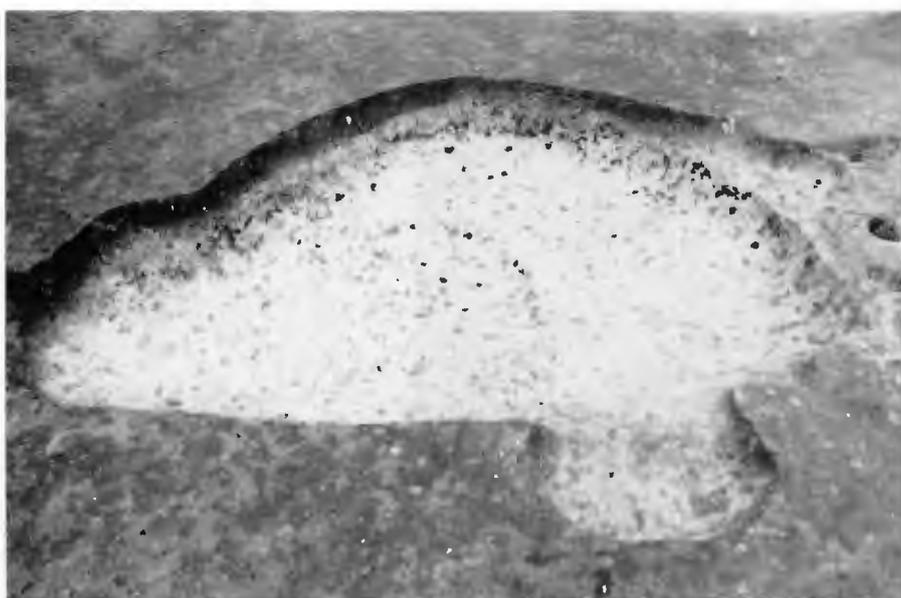
SK-291



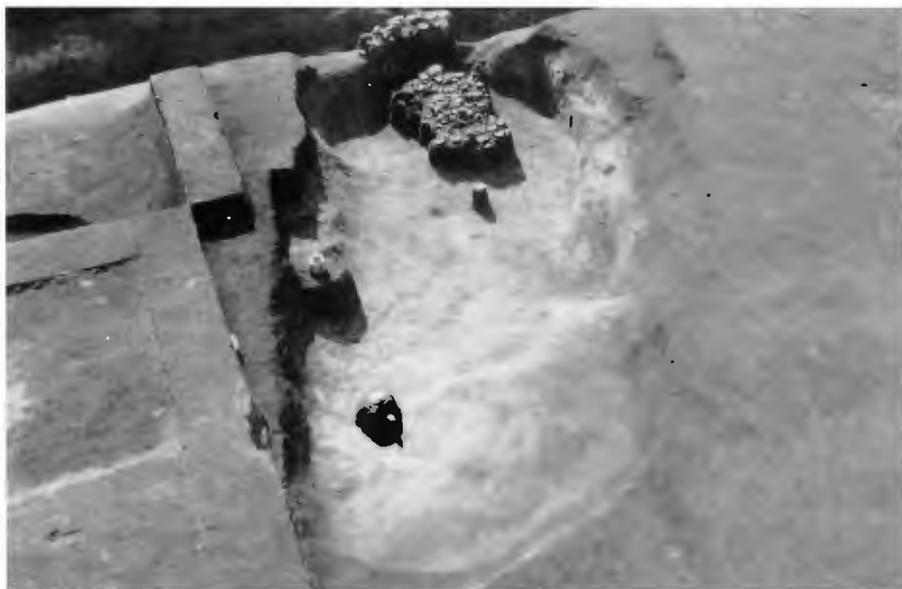
SK-273 遺物検出状況



SK-273 遺物検出状況



SK-273 検出状況



SK-340 検出状況



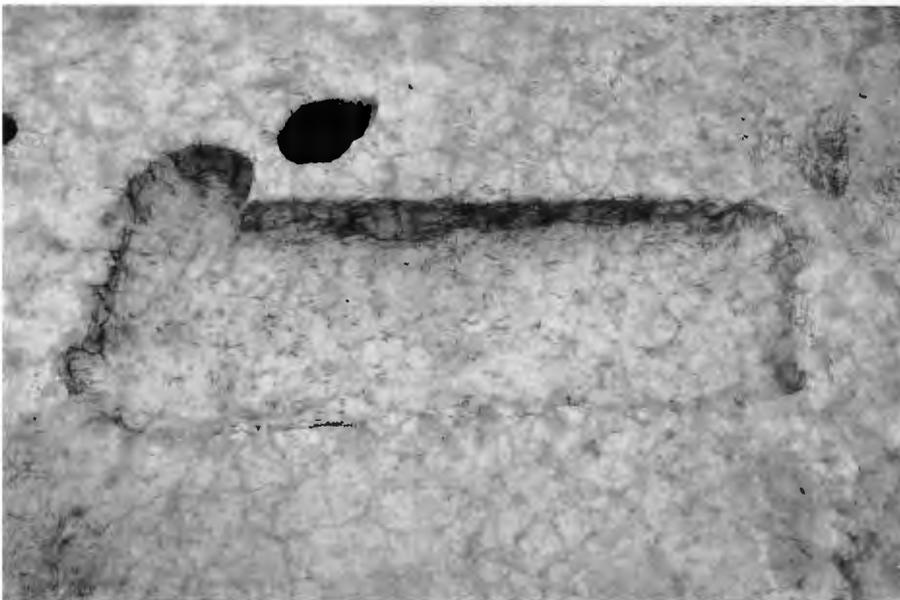
SK-340 遺物検出状況



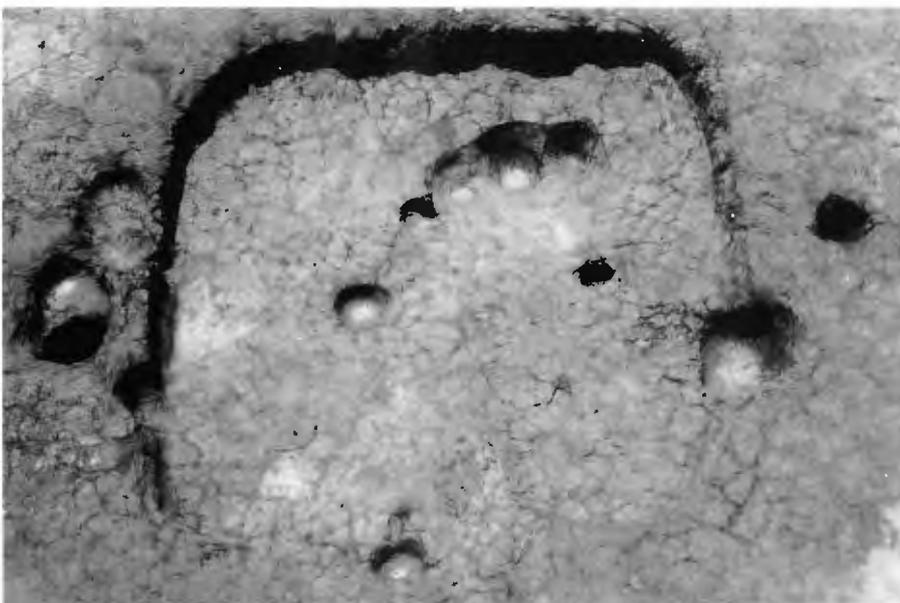
SK-340 遺物検出状況



SK-344



SK-371



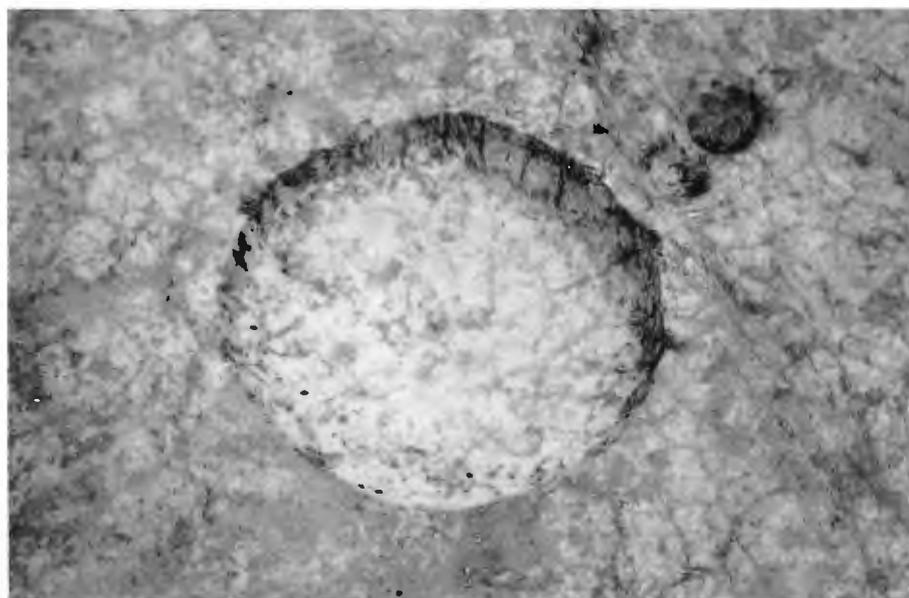
SK-372



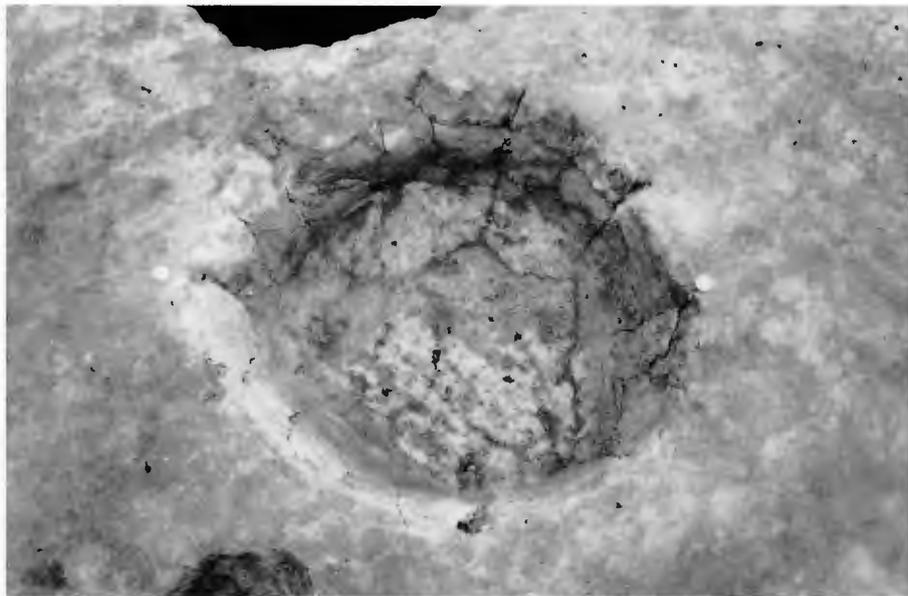
SK-374



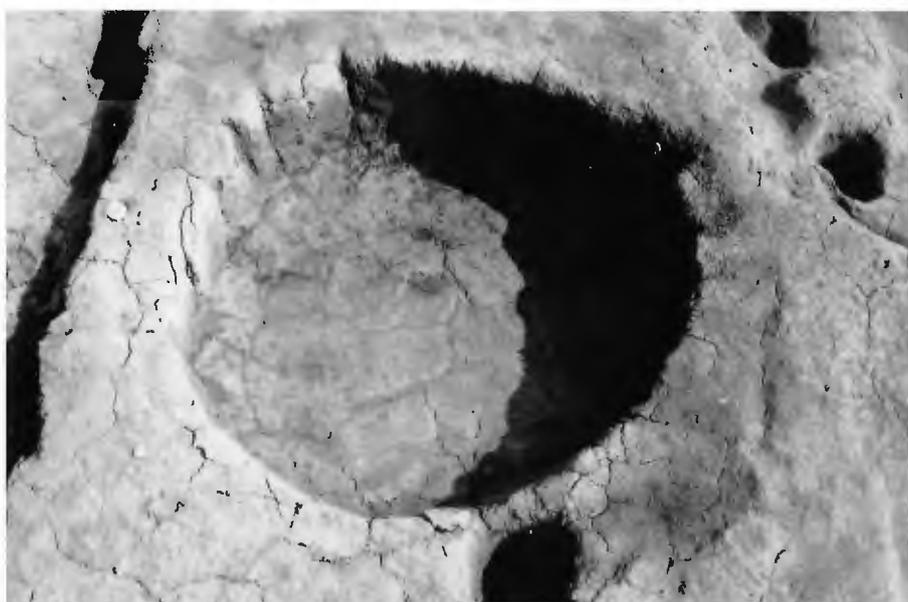
SK-375



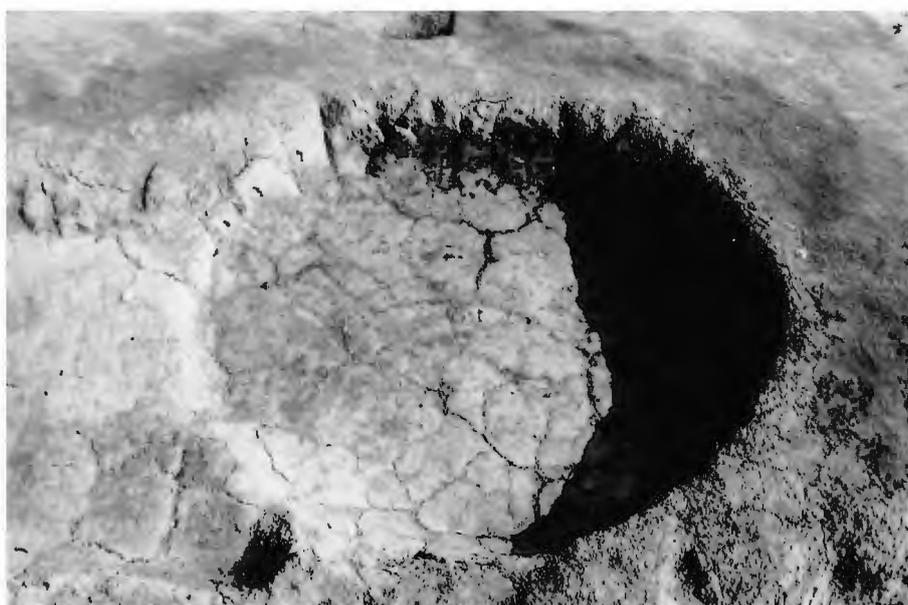
SK-377



SK-422



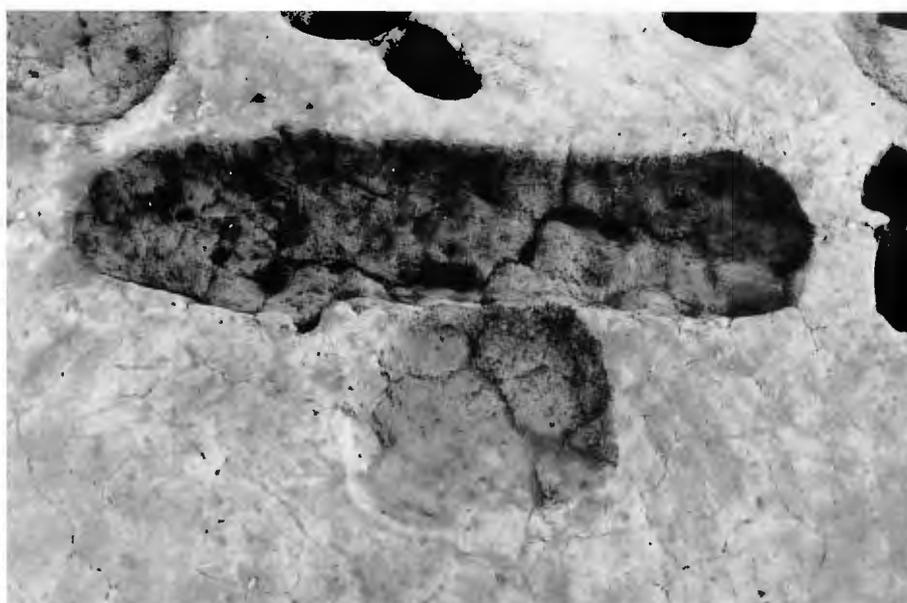
SK-442



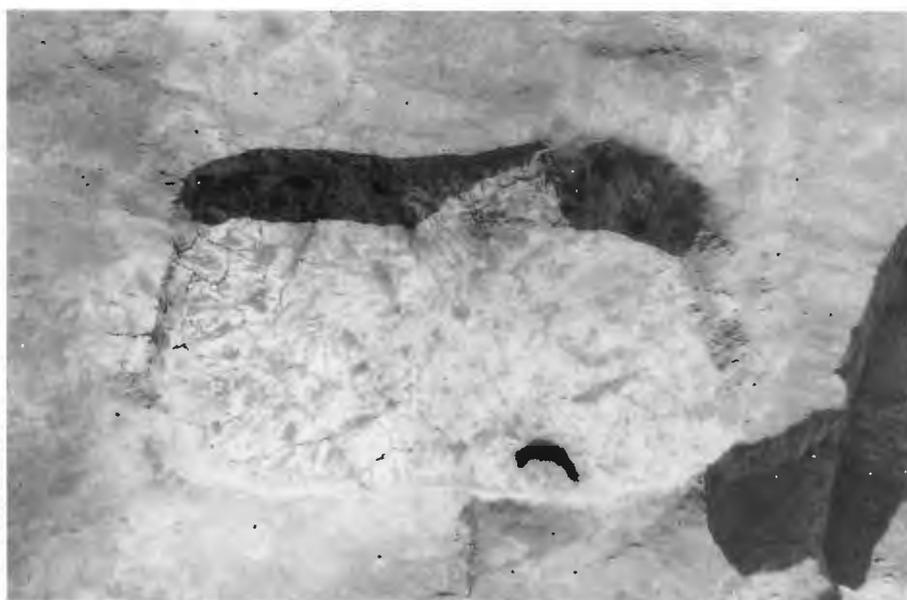
SK-444



SK-463



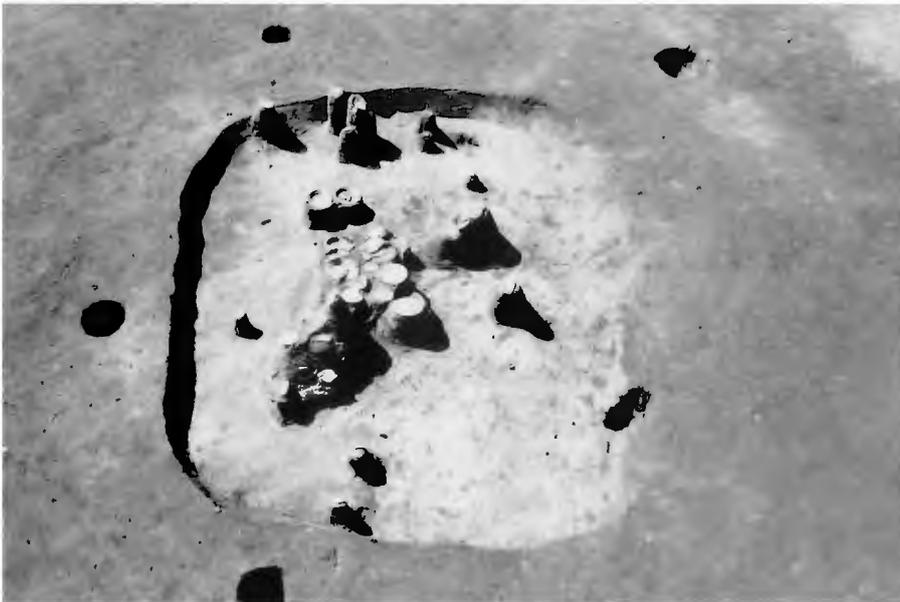
SK-478 · 479



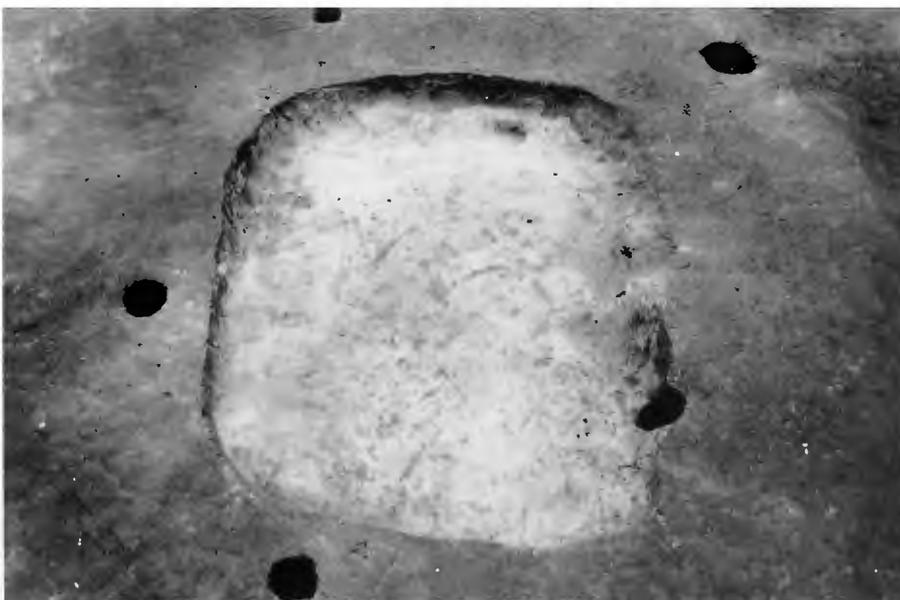
SK-617



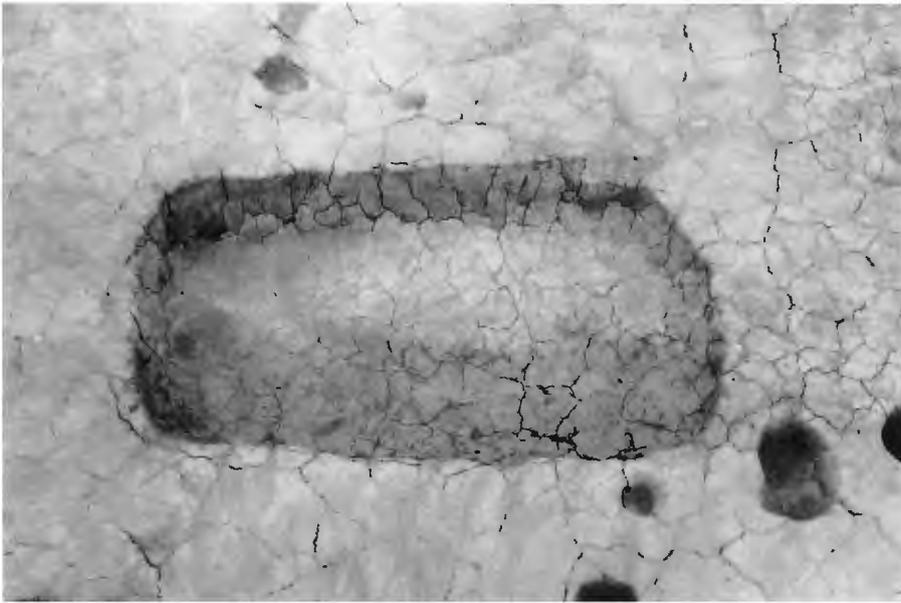
SK-600 確認面上層遺物検出状況



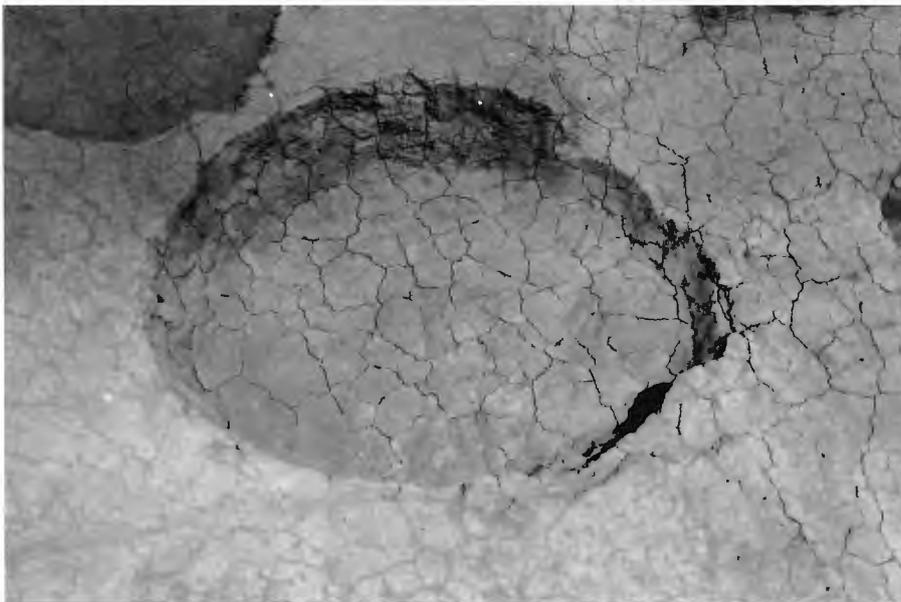
SK-600 遺構内遺物検出状況



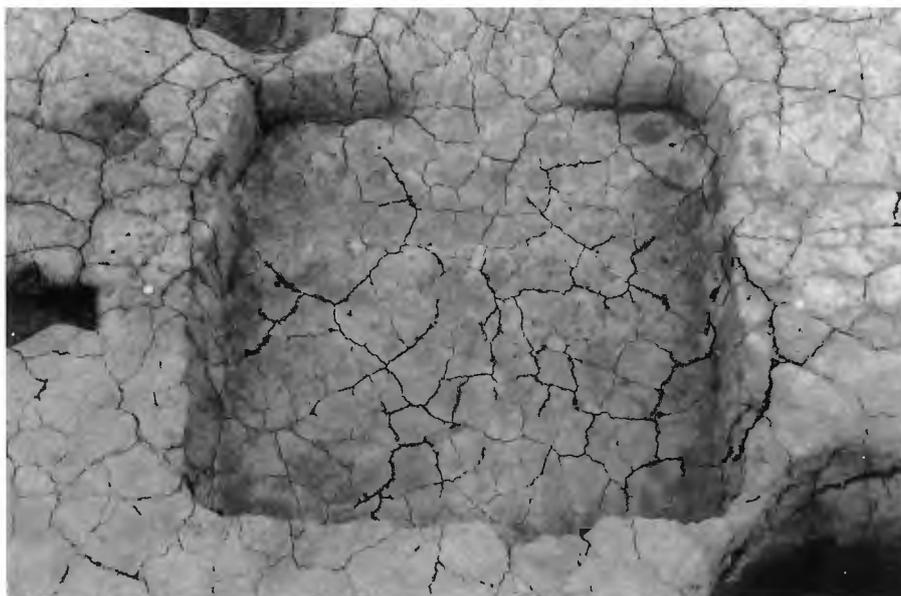
SK-600



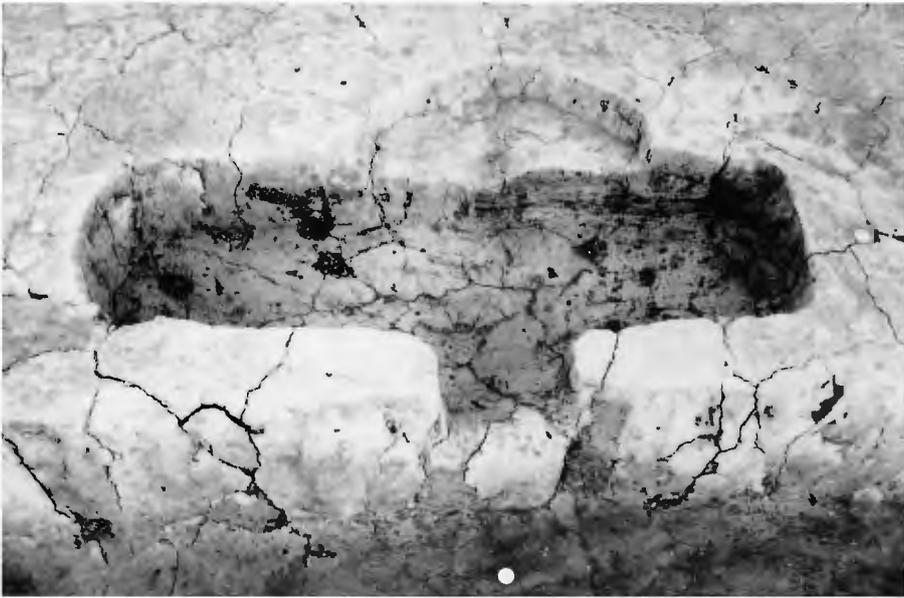
SK-679



SK-680



SK-690



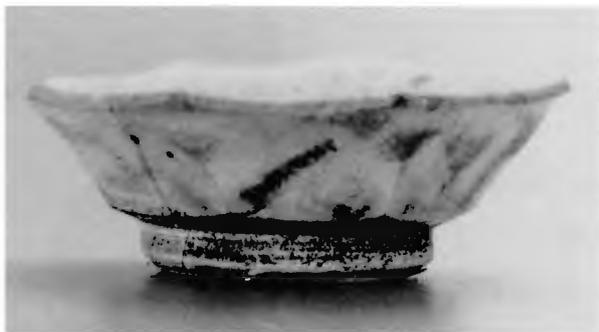
SR-01



SB-01 礎石検出状況



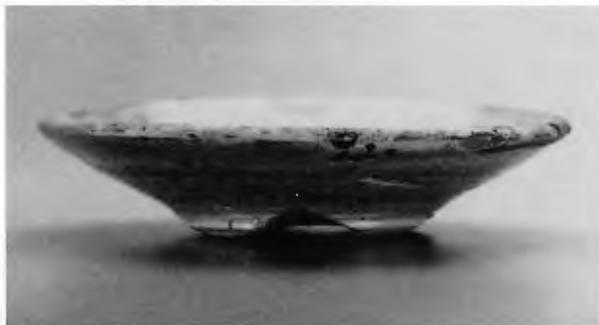
SB-05



SF-9-5



SK-159-1



SK-216-3



SK-216-4



SF-9-1



SK-159-3



SK-191-2



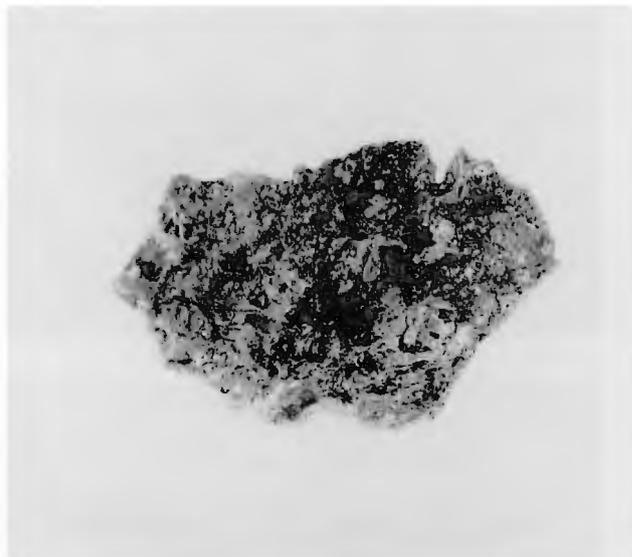
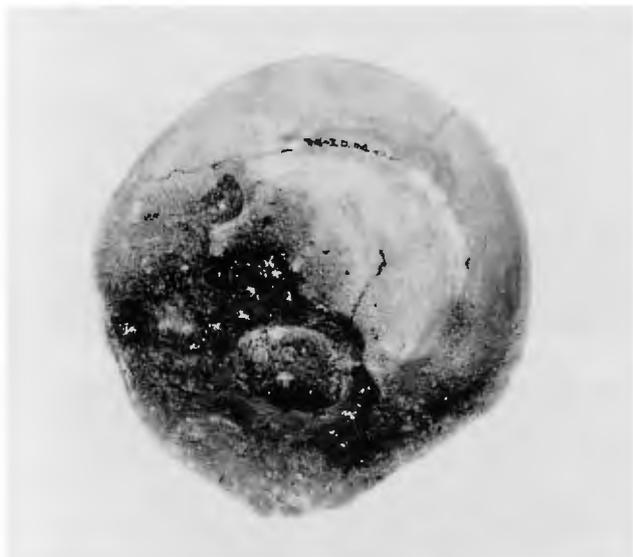
SF-16-1



SD-44-8

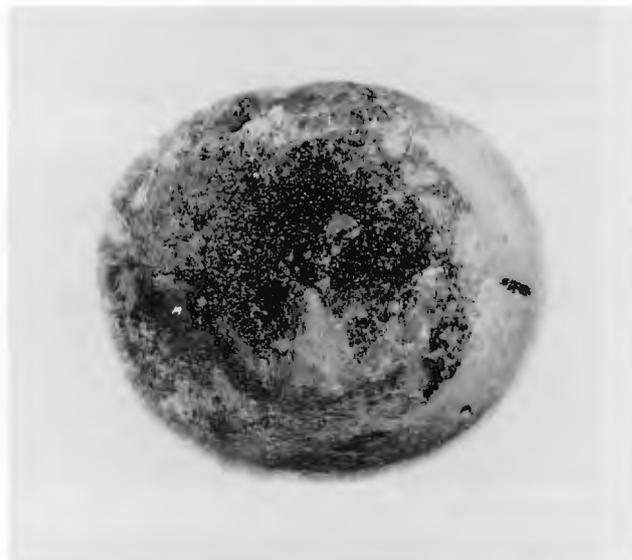


SD-44-9



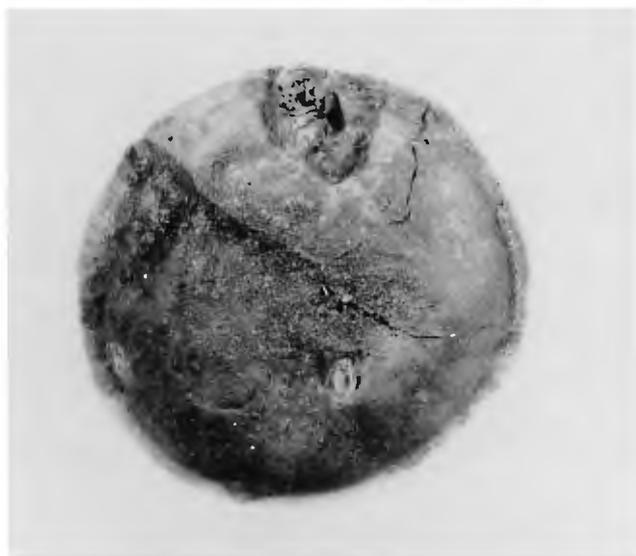
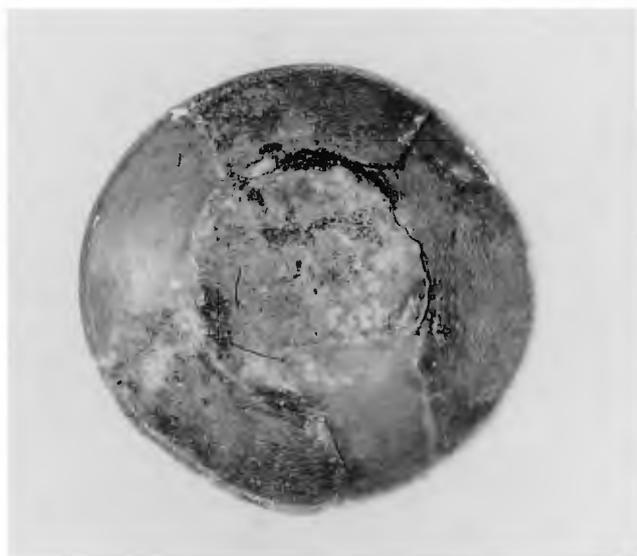
SK-169-1

SK-177-1



SK-177-2

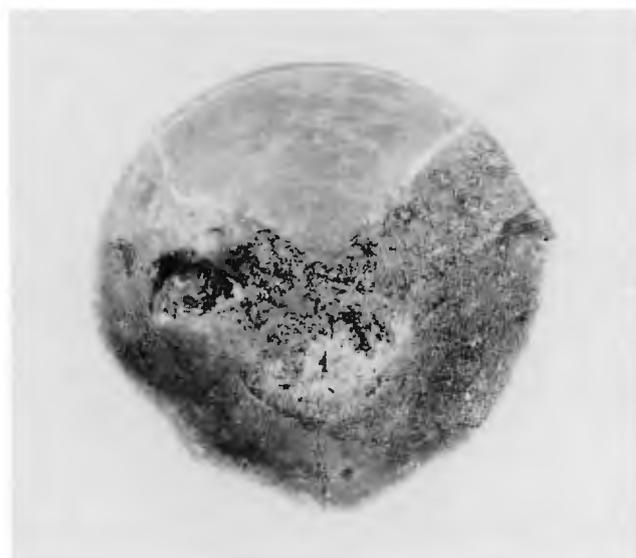
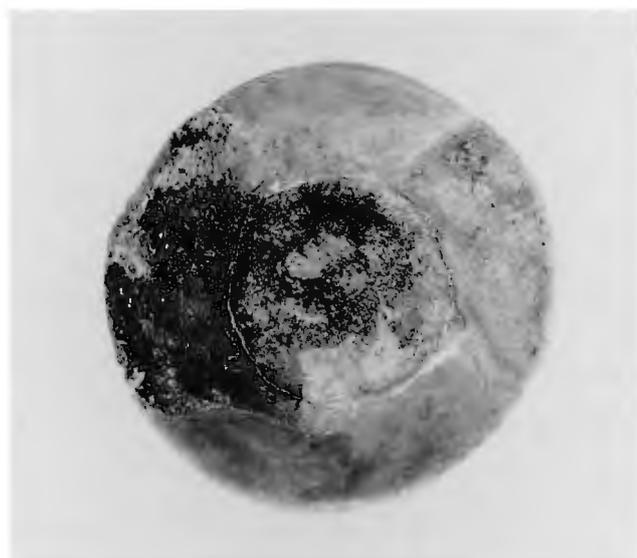
SK-177-3



SK-177-4



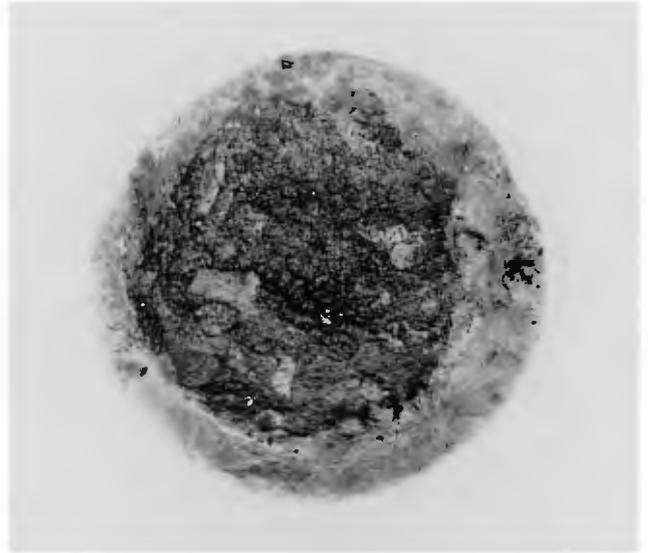
SK-177-5



SK-177-6



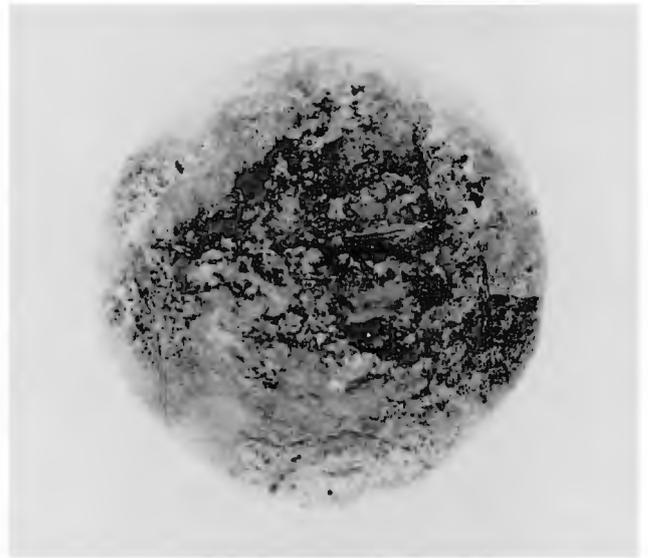
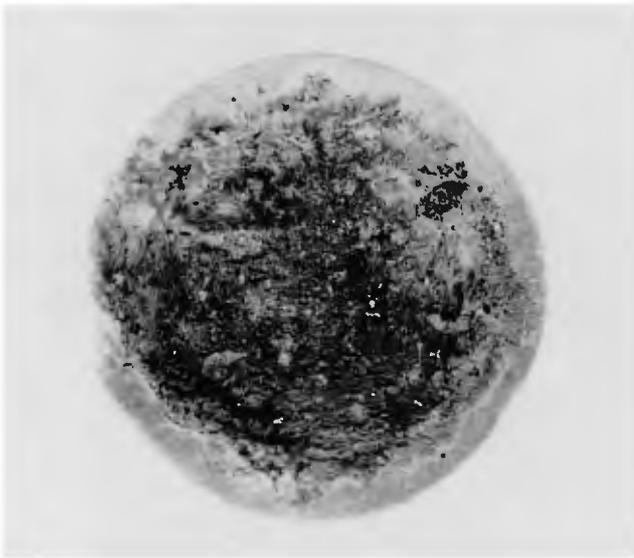
SK-177-7



SK-177-8



SK-177-9



SK-177-10



SK-177-11



SW-10-87



SW-10-140



SW-10-91



SW-10-148



SW-10-94



SW-10-177



SW-10-121



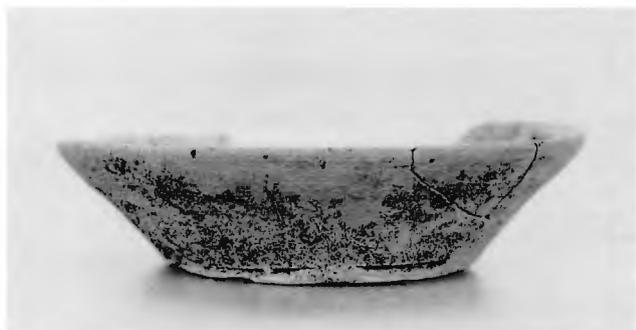
SW-10-183



SW-10-122



SW-10-191



SW-10-197



SW-10-207



SW-10-201



SW-10-221



SW-10-204



SW-10-223



SW-10-205



SW-10-252



SW-10-206



SW-10-263



SK-340-18



SK-340-42



SK-340-20



SK-340-63



SK-340-21



SK-340-65



SK-340-39



SK-340-82



SK-340-41



SK-340-93



SK-340-115



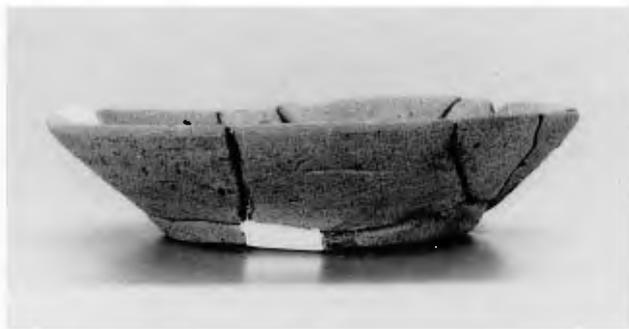
SK-340-156



SK-340-120



SK-340-161



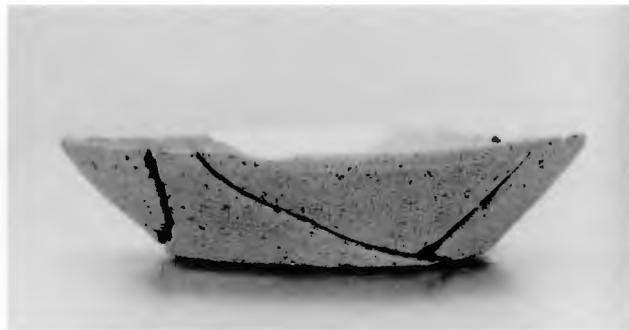
SK-340-137



SK-340-163



SK-340-138



SK-340-165



SK-340-143



SK-340-180



SK-600-18



SK-600-37



SK-600-21



SK-600-42



SK-600-23



SK-600-43



SK-600-35



SK-600-44



SK-600-36



SK-600-47



SK-600-50



SK-600-74



SK-600-56



SK-600-76



SK-600-57



SK-600-79



SK-600-65



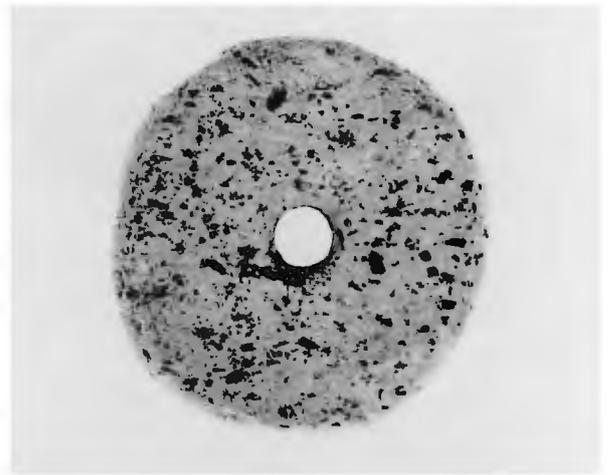
SK-600-81



SK-600-68



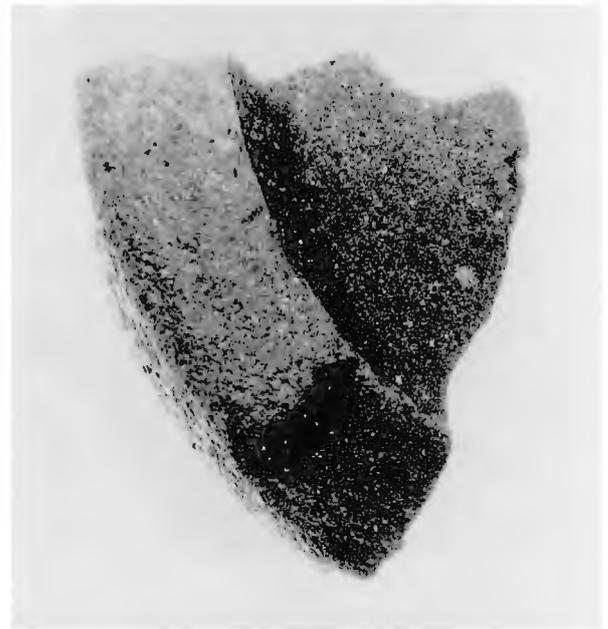
SK-600-82



SW-10-274



SF-40-2



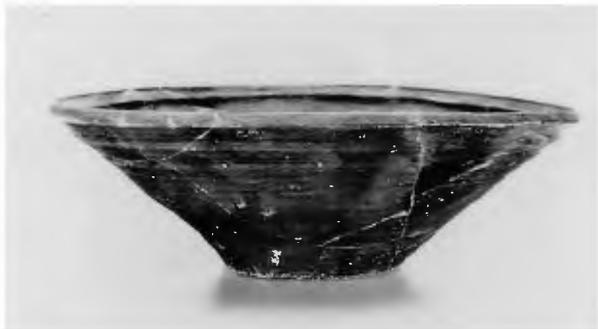
SW-16-1



SF-10-1 SD-44-207 E-3G-9 I-18G-7 SK-258



SF-15-4



SD-44-2



SD-44-3



SD-44-4



SW-04-1



SD-15-1



SD-25-2



SD-25-4



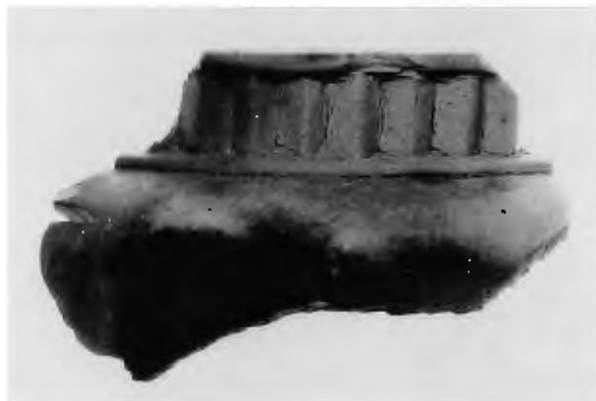
SK-273-1



H-14G-1



SK-273-2



SW-22-1



SK-36-1



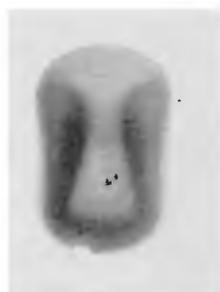
SD-25-6



SD-07-1



SD-40Y-5G-7



SW-10-4



SW-10-6



SK-266-1



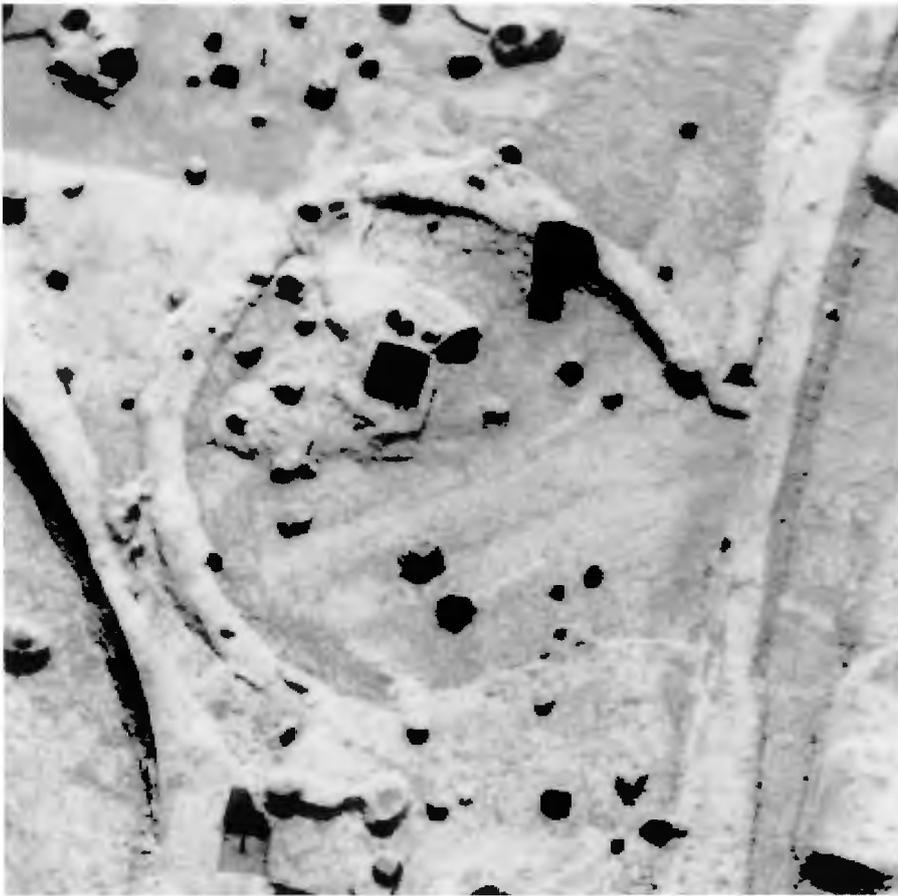
SK-226-3



ST-02



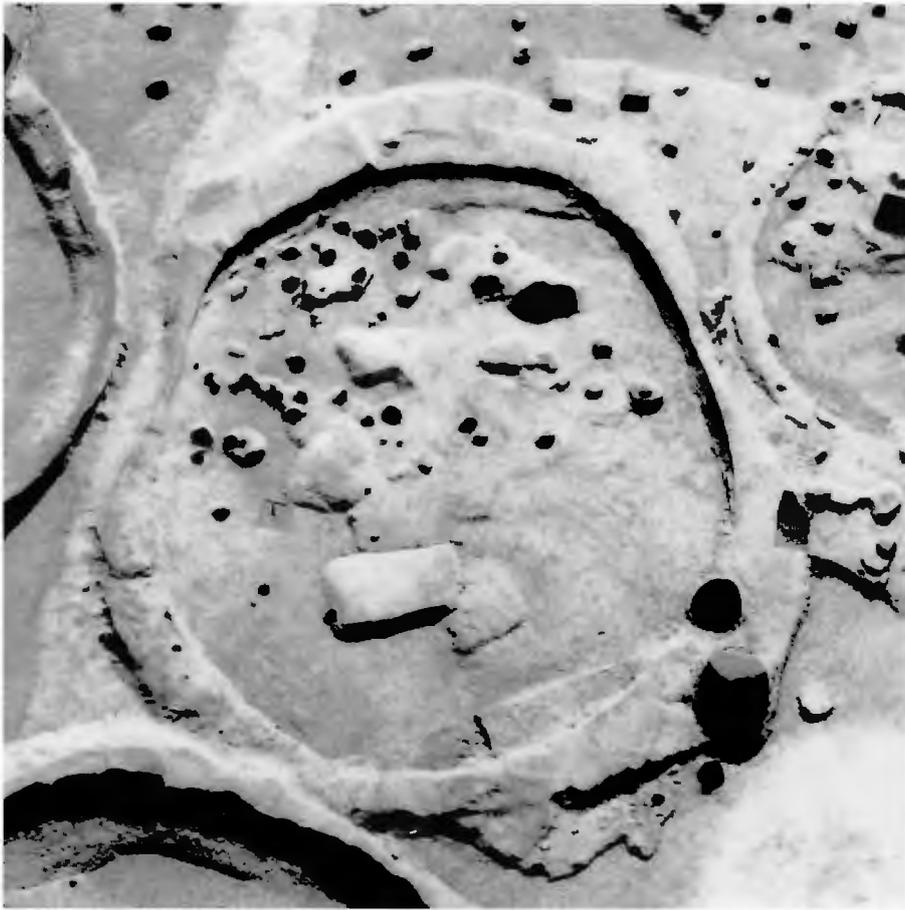
ST-03



ST-04



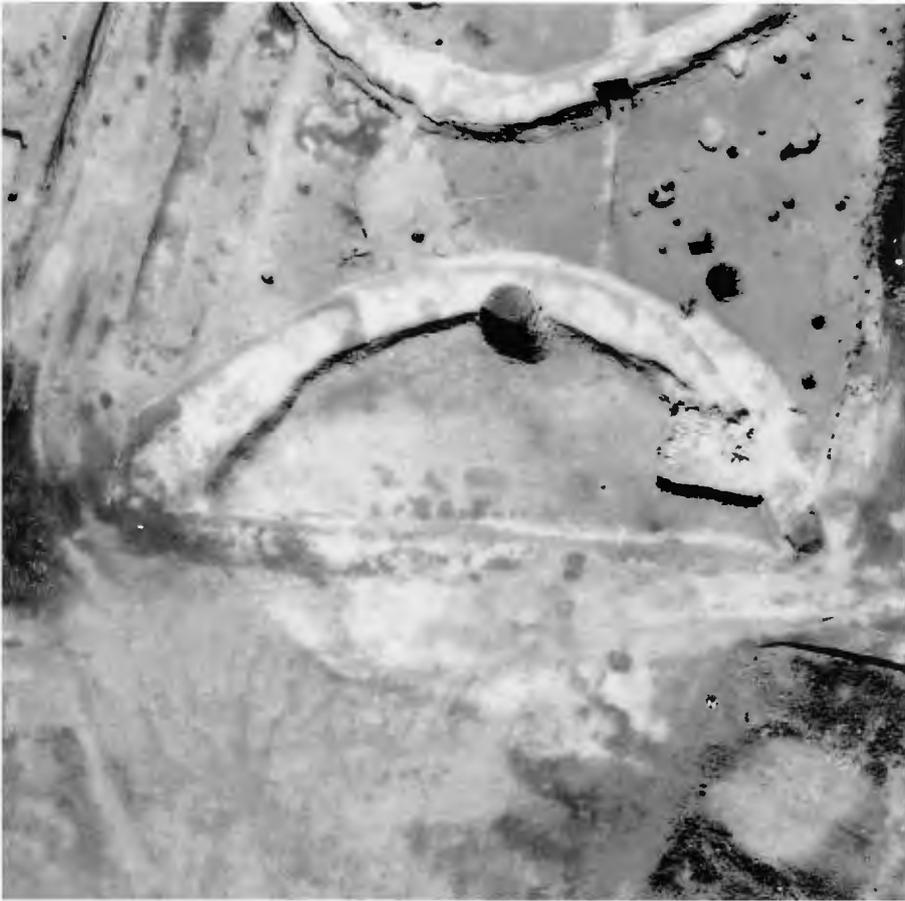
ST-05



ST-06



ST-07



ST-08



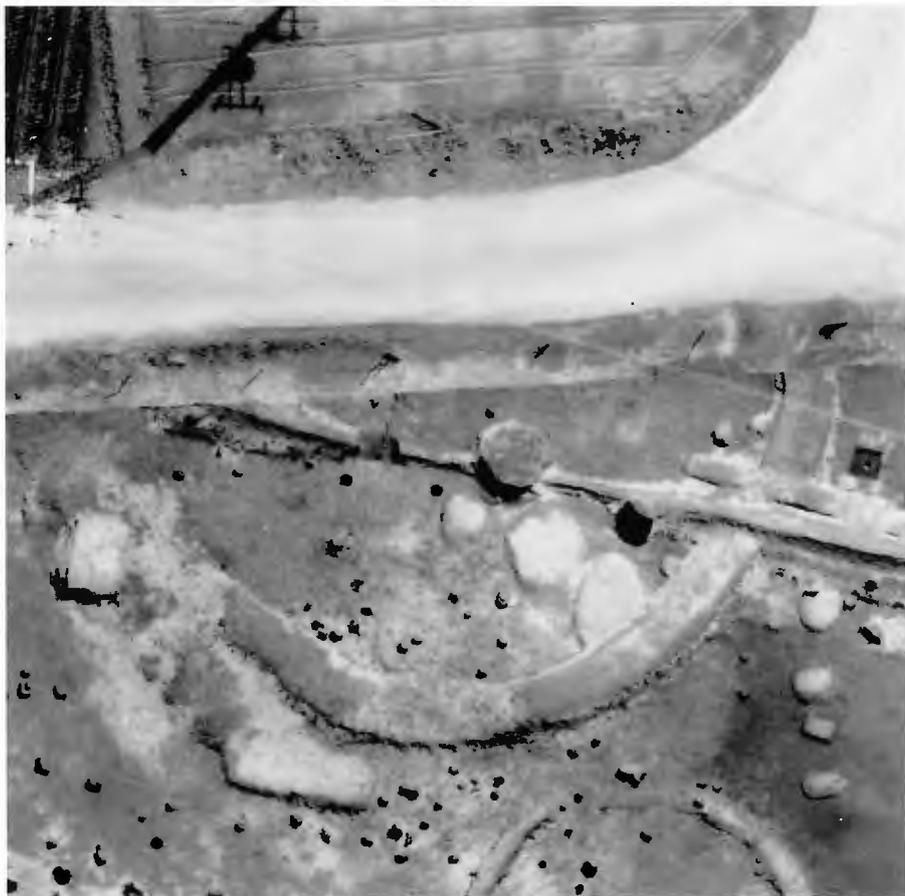
ST-09



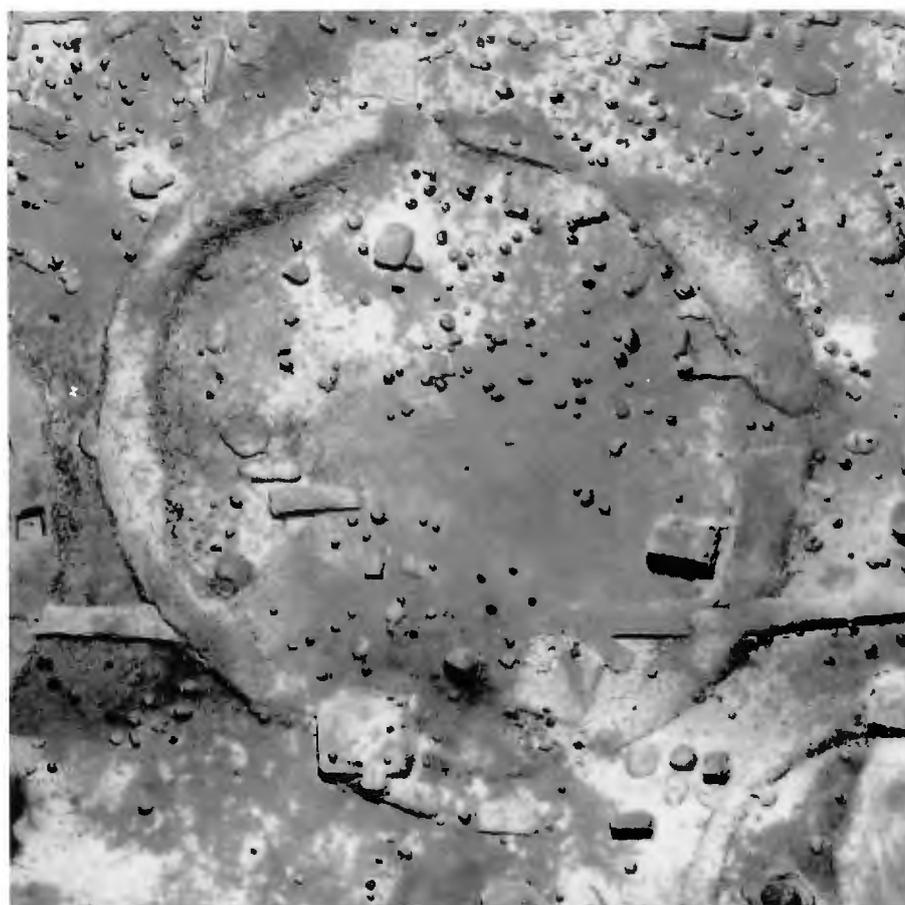
ST-10



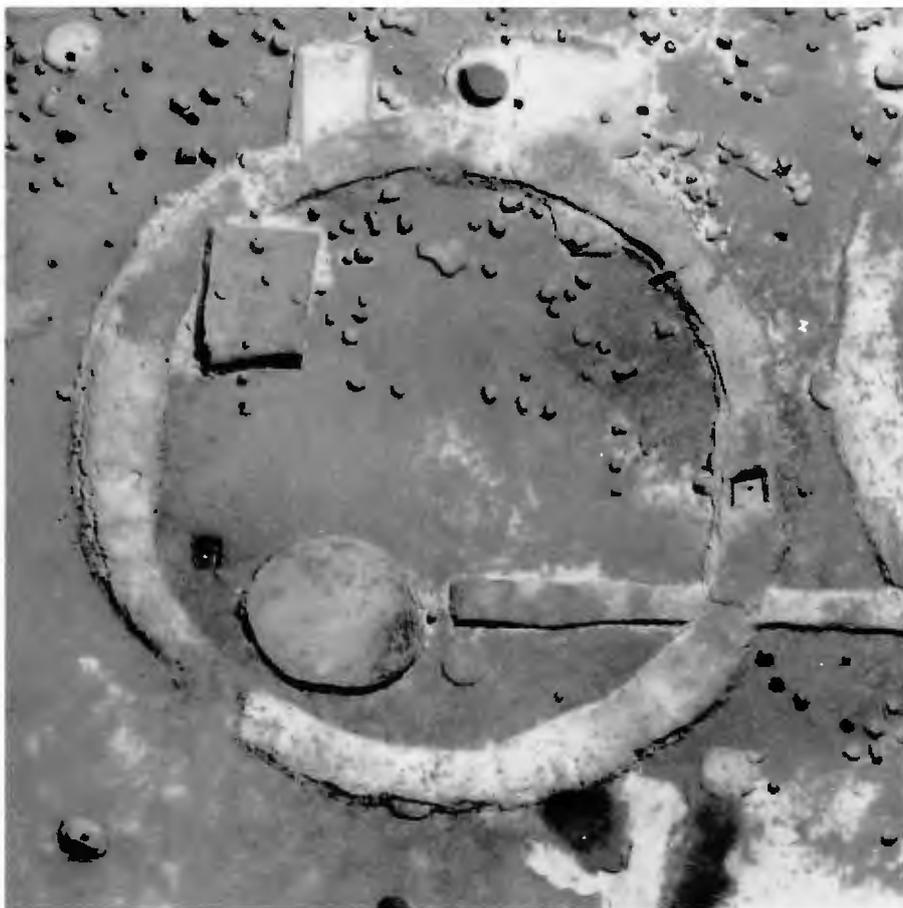
ST-11



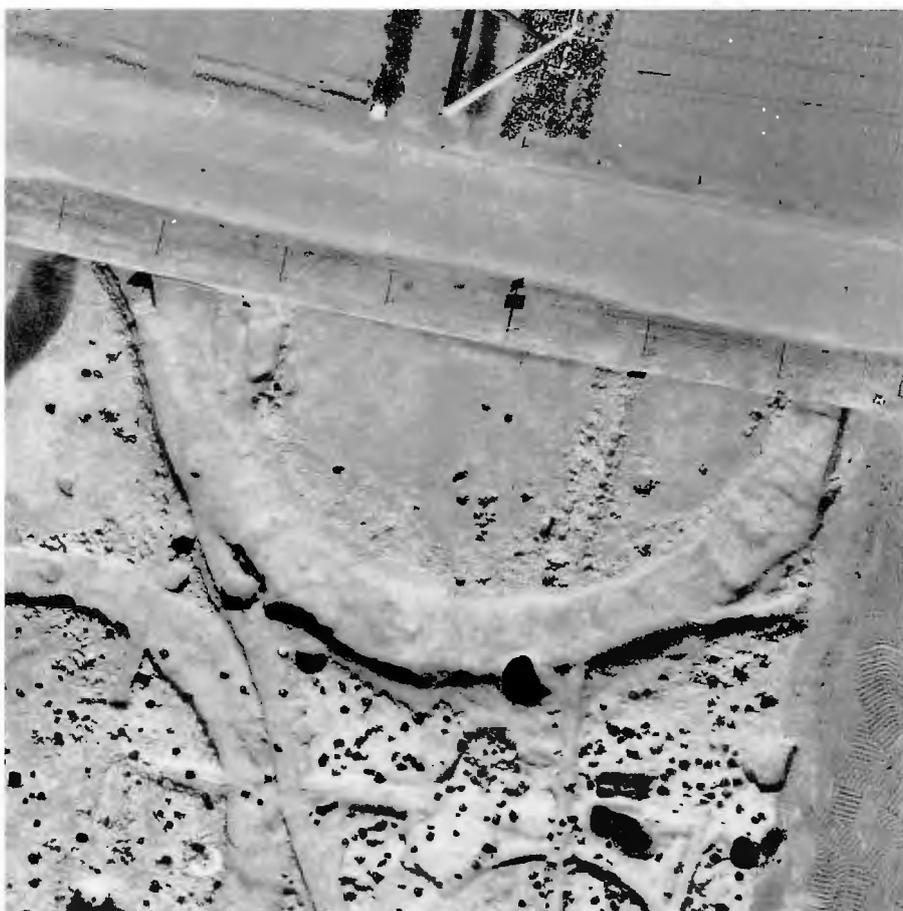
ST-12



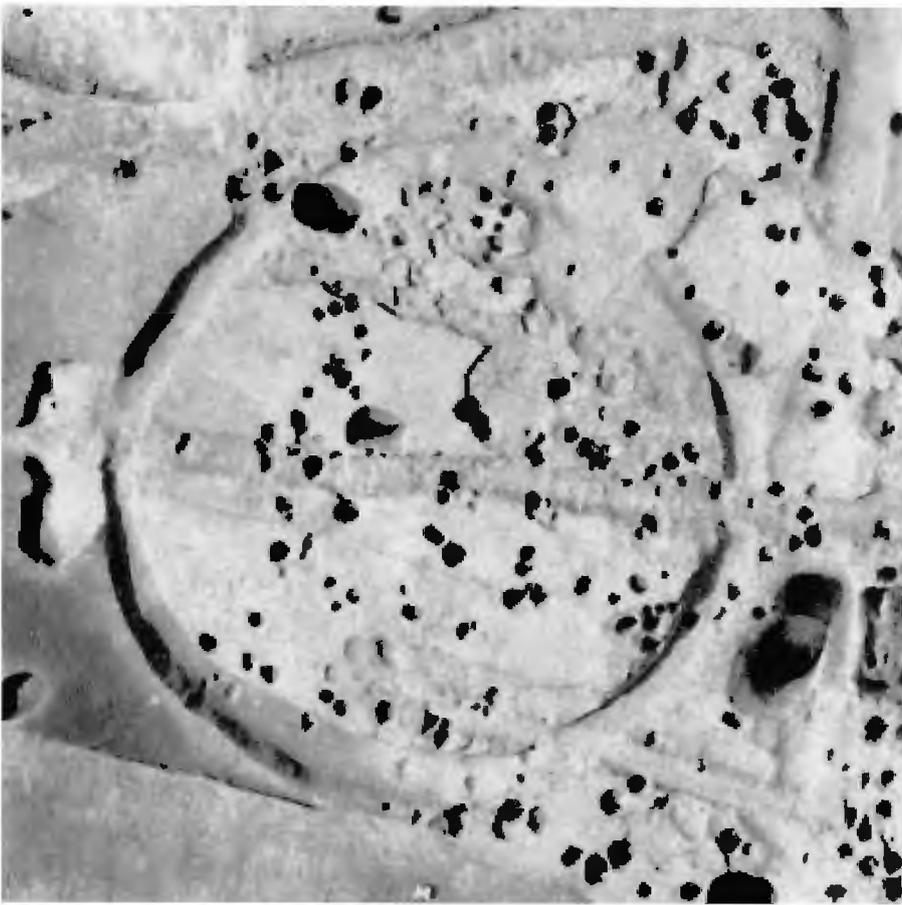
ST-15



ST-17



ST-23



ST-24



ST-26



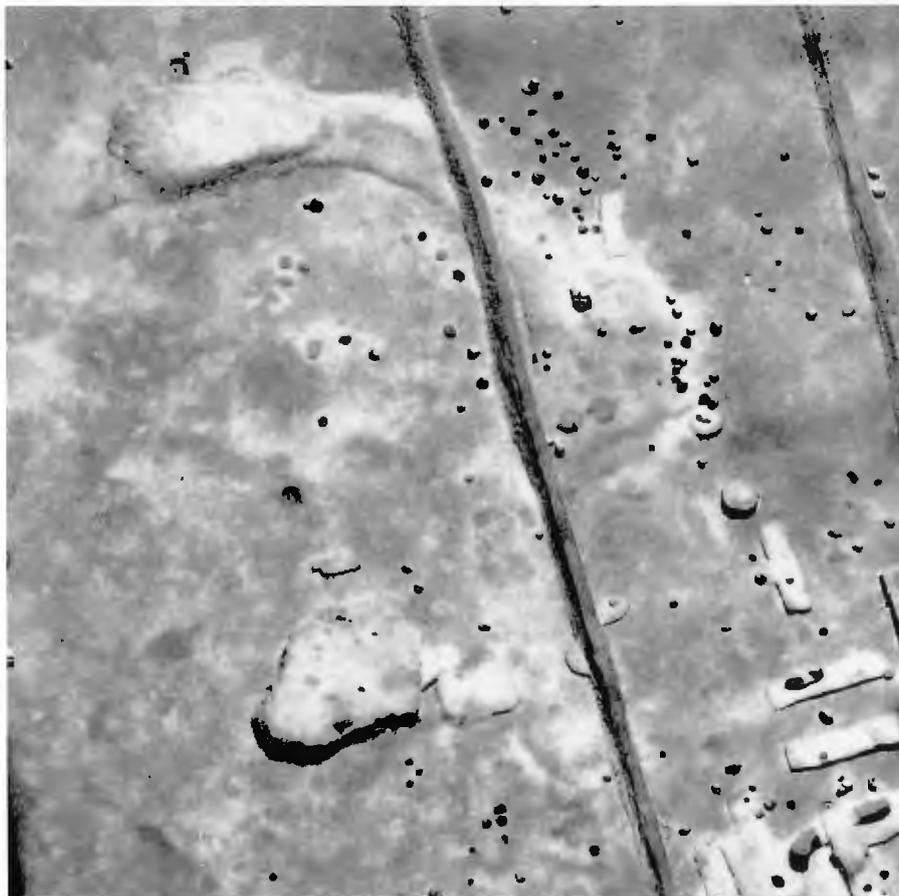
ST-27



ST-28



ST-29



ST-30



ST-00-1



ST-03-1



ST-11-1



ST-11-3



ST-18-3



ST-18-5



ST-21-1



ST-26-1



ST-05-1



ST-06-3



ST-11-6



ST-07 円-1



ST-07 円-2



ST-12 円-2



ST-12 円-1



ST-17 円-1



ST-17 円-2



ST-17 円-4



ST-17 円-6



ST-18 円-1



ST-26 円-1



H-9G 円-1



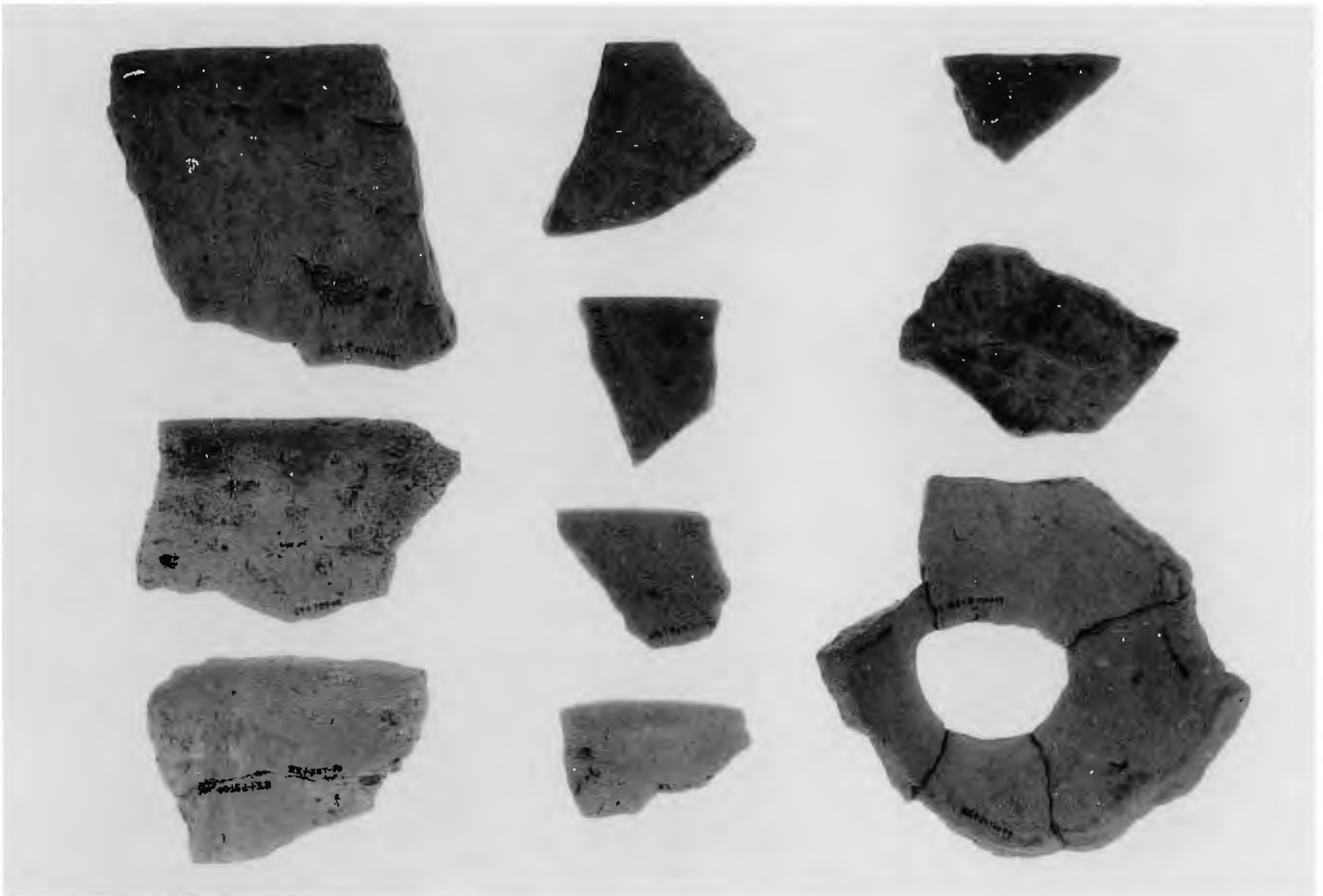
H-9G 円-2



ST-00 円筒埴輪拓影資料 1~10



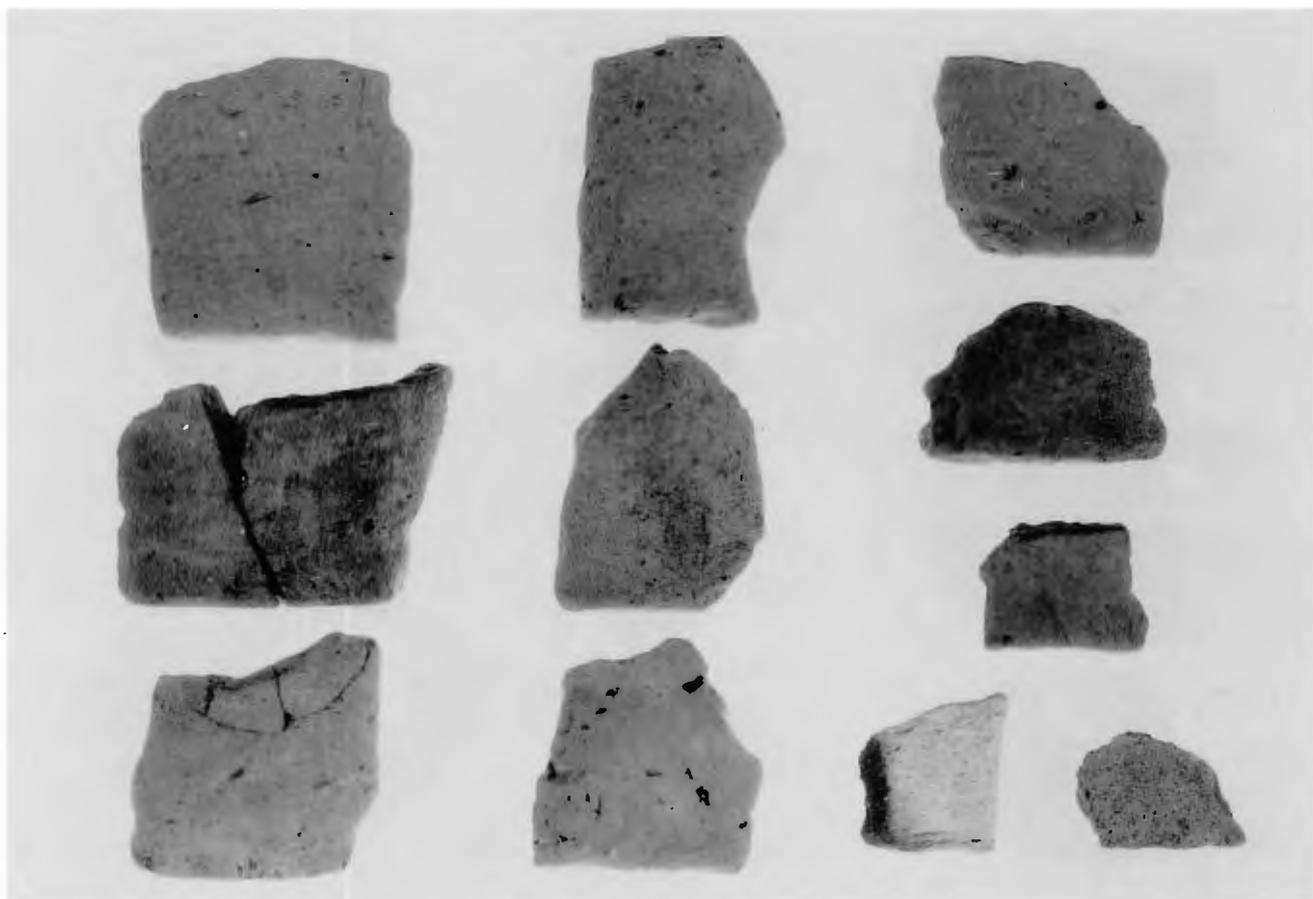
ST-00 円筒埴輪拓影資料 11~21



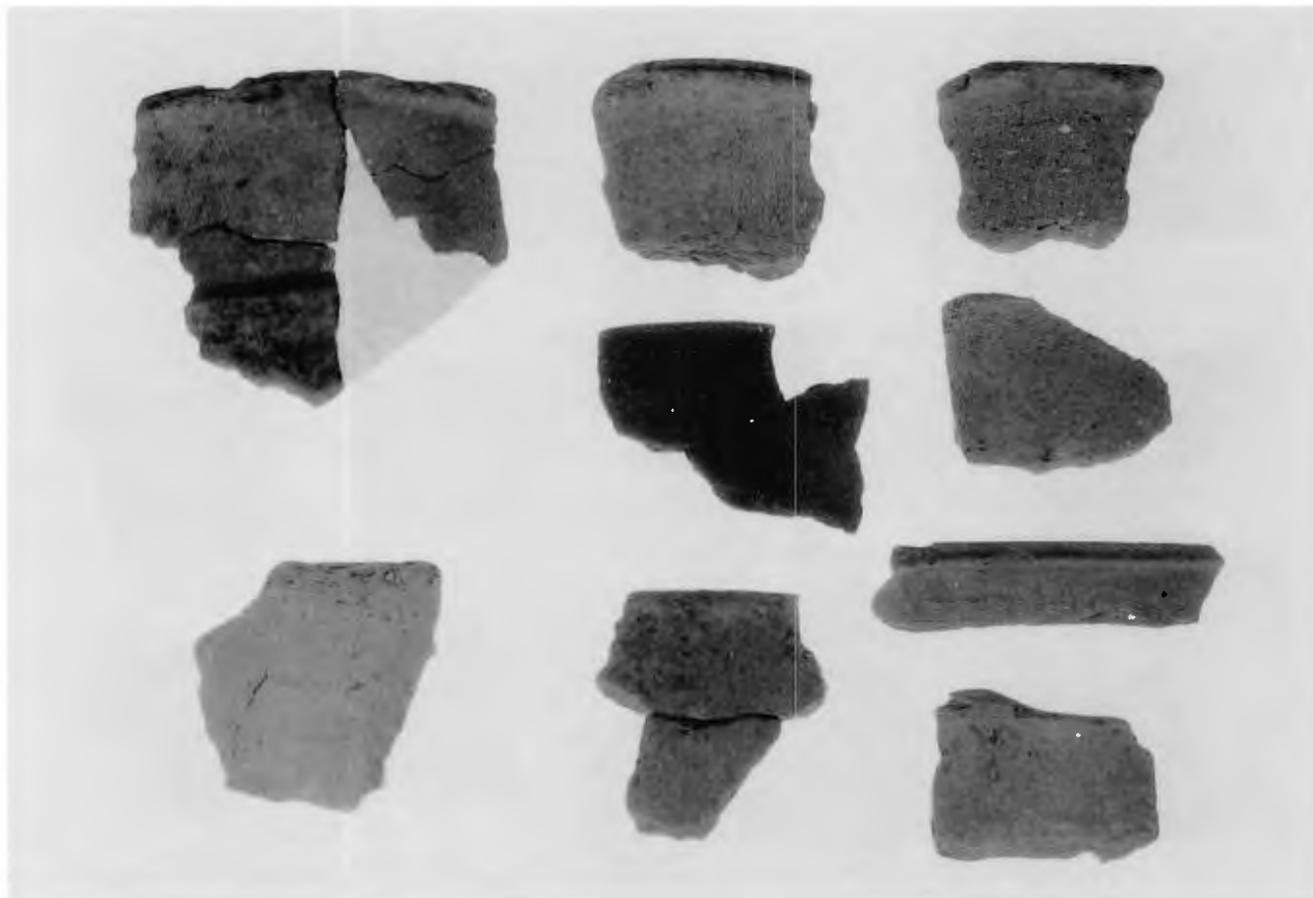
ST-00 円筒埴輪拓影資料 1~10



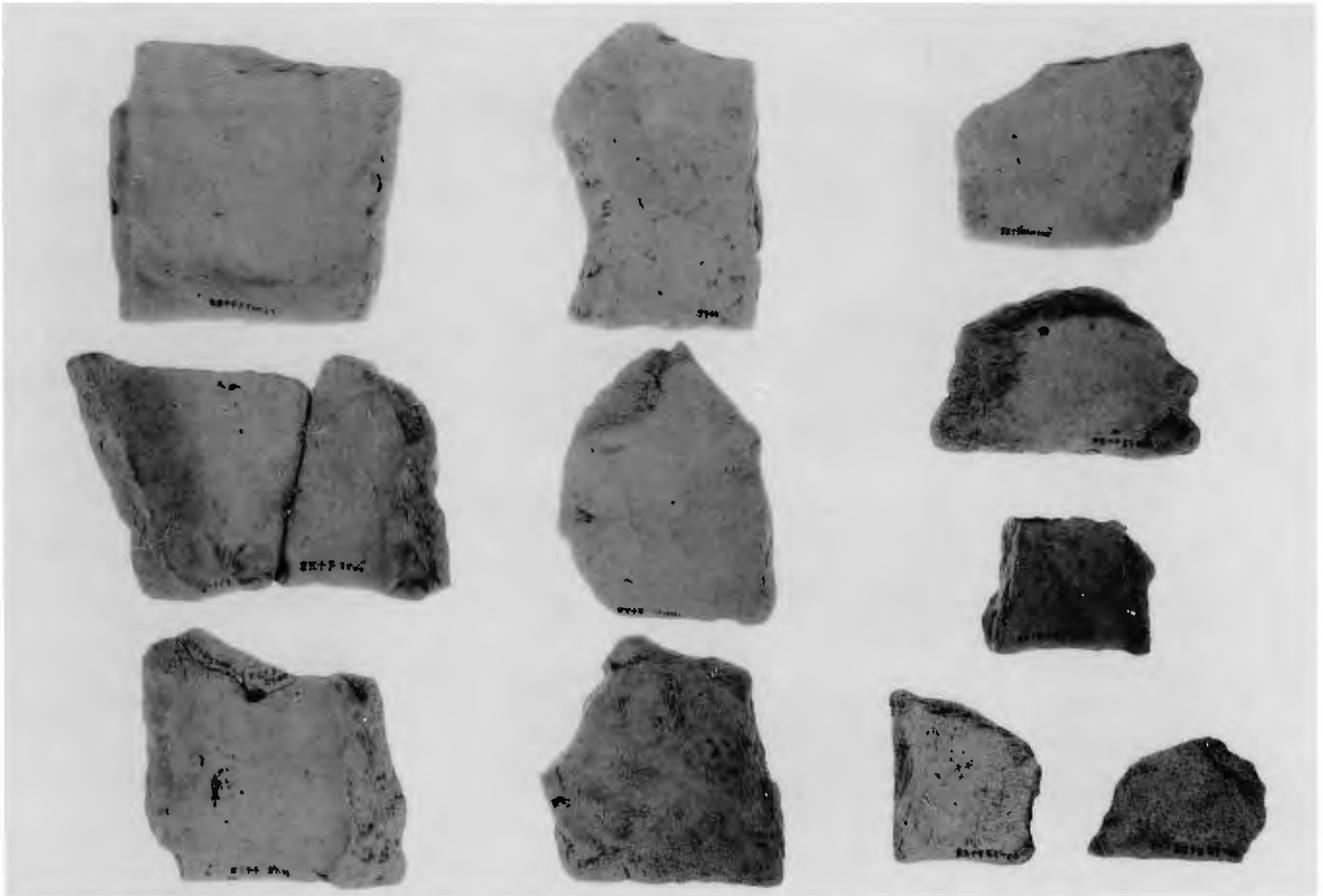
ST-00 円筒埴輪拓影資料 11~21



ST-00 円筒埴輪拓影資料 23~34



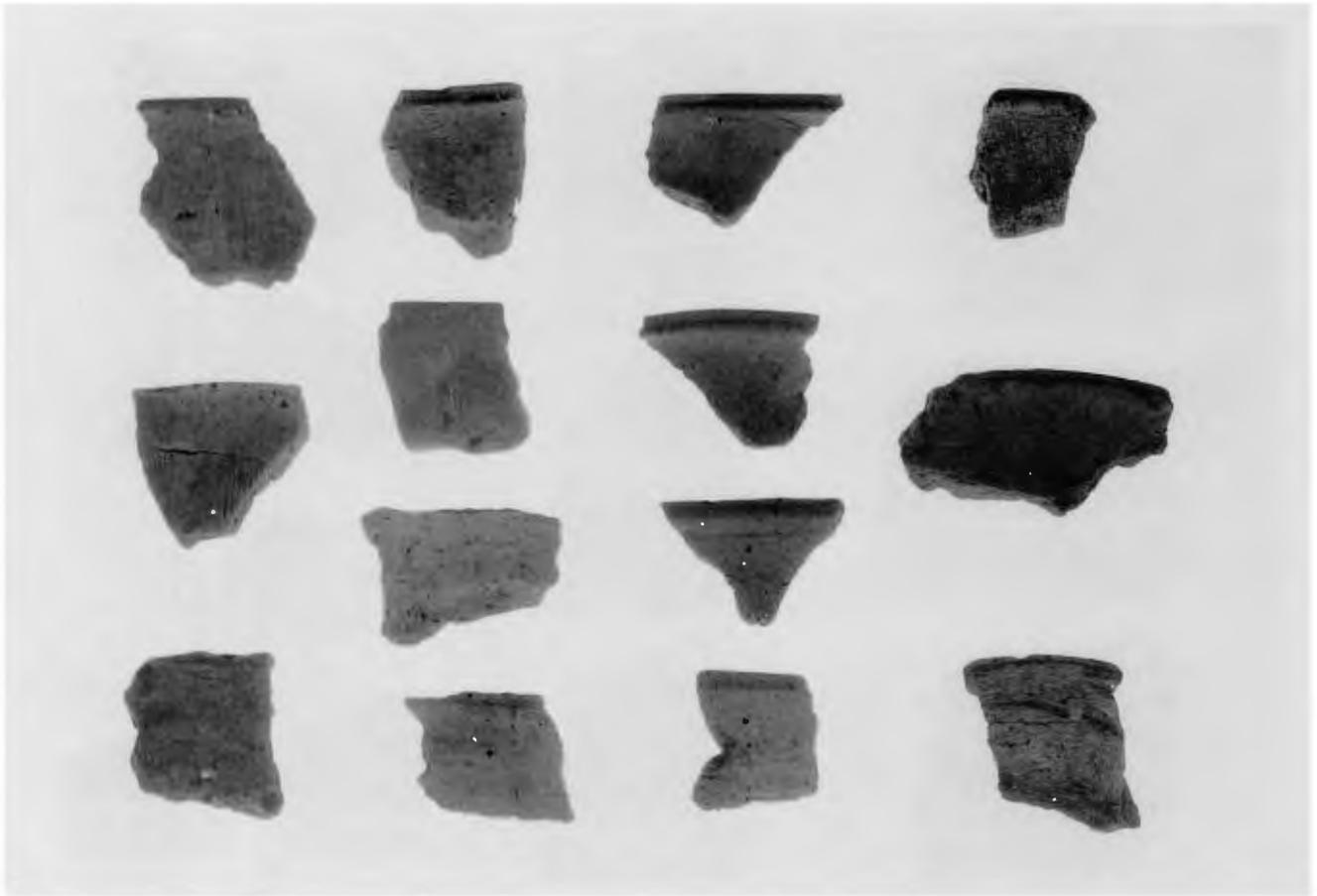
ST-01 円筒埴輪拓影資料 1~9



ST-00 円筒埴輪拓影資料 23~34



ST-01 円筒埴輪拓影資料 1~9



ST-01 円筒埴輪拓影資料 10~23



ST-01 円筒埴輪拓影資料 24~30



ST-01 円筒埴輪拓影資料 10~23



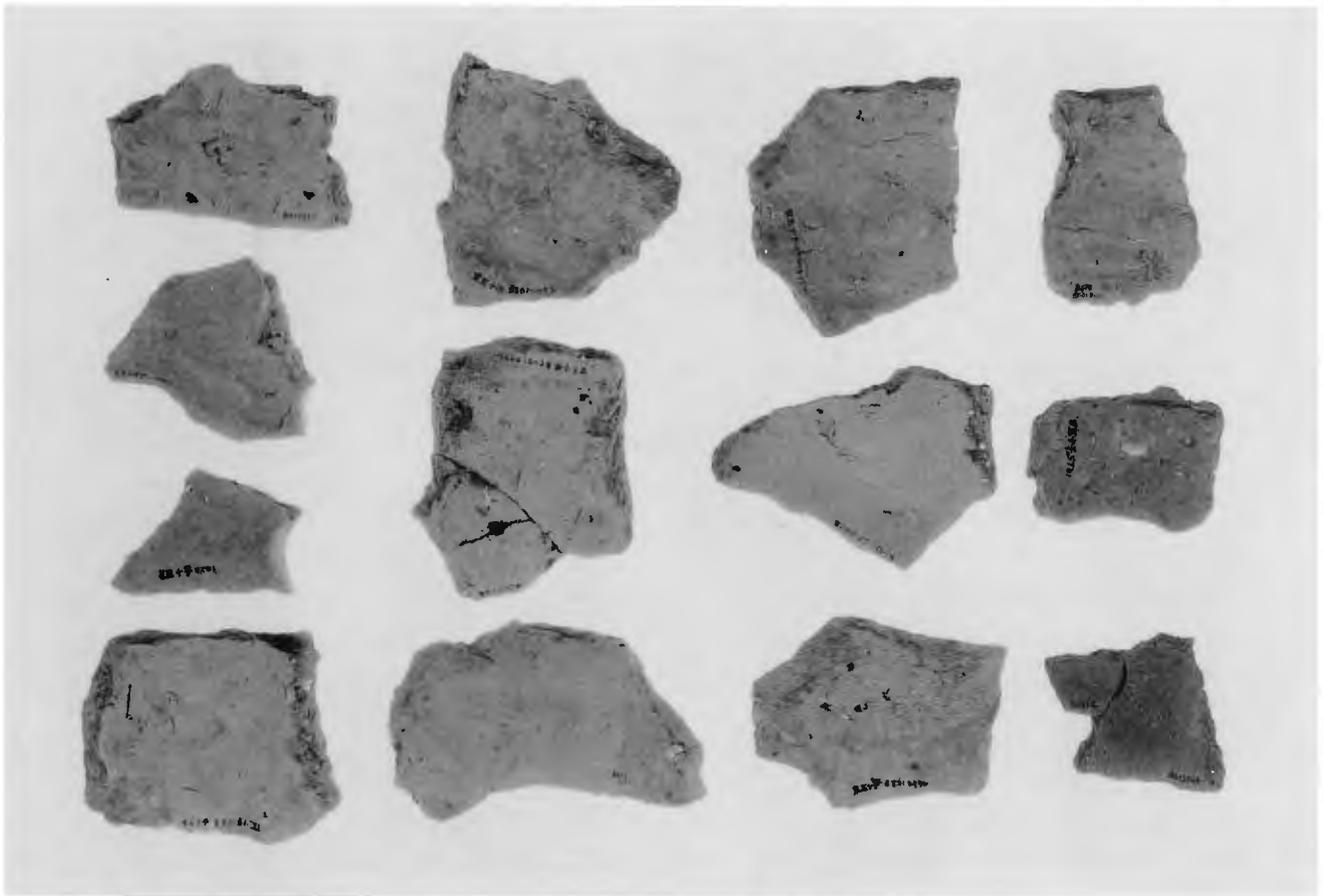
ST-01 円筒埴輪拓影資料 24~30



ST-01 円筒埴輪拓影資料 31~42



ST-01 円筒埴輪拓影資料 45~52



ST-01 円筒埴輪拓影資料 31~43



ST-01 円筒埴輪拓影資料 45~52



ST-01 円筒埴輪拓影資料 53~65



ST-02 円筒埴輪実測資料 1・2 拓影資料 1・2



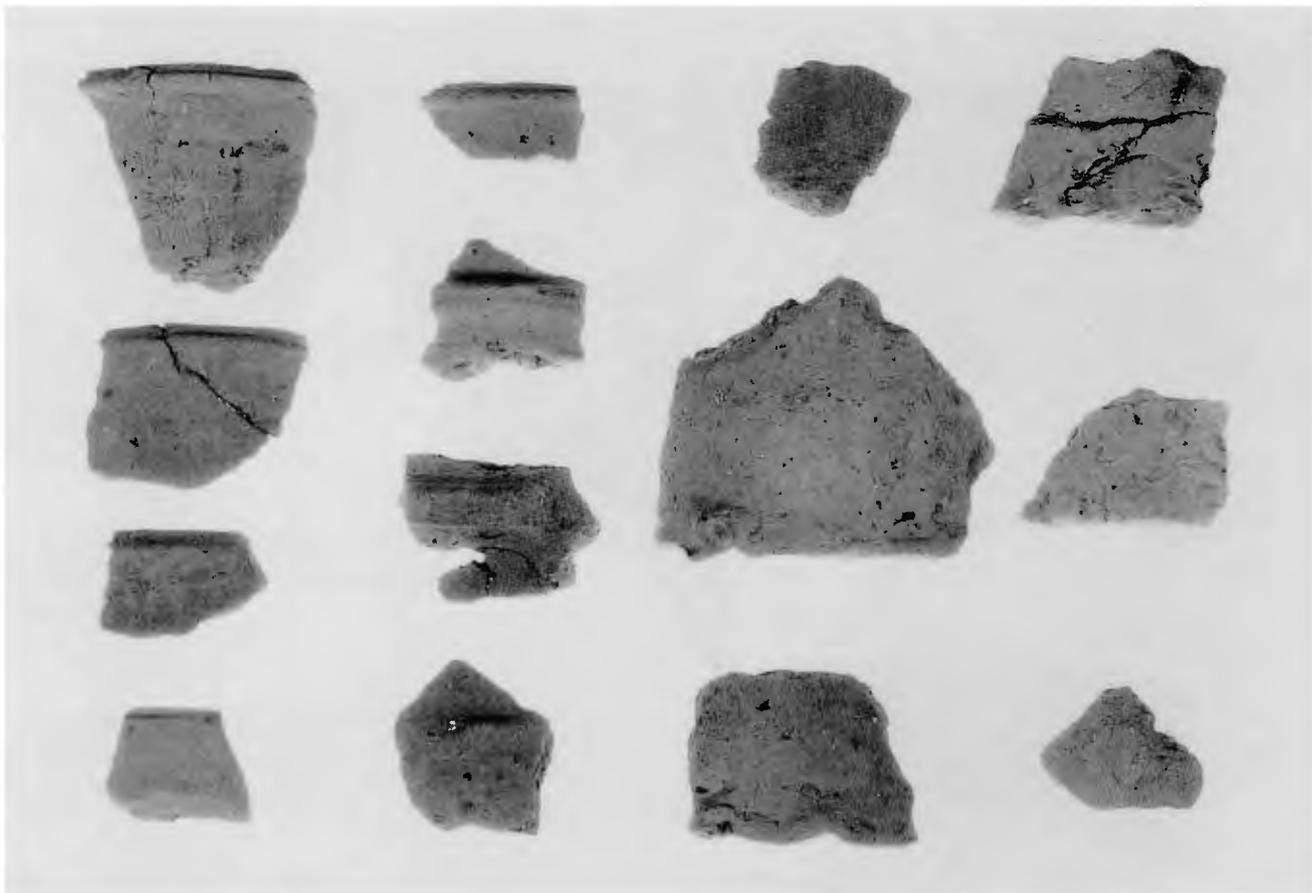
ST-01 円筒埴輪拓影資料 53~65



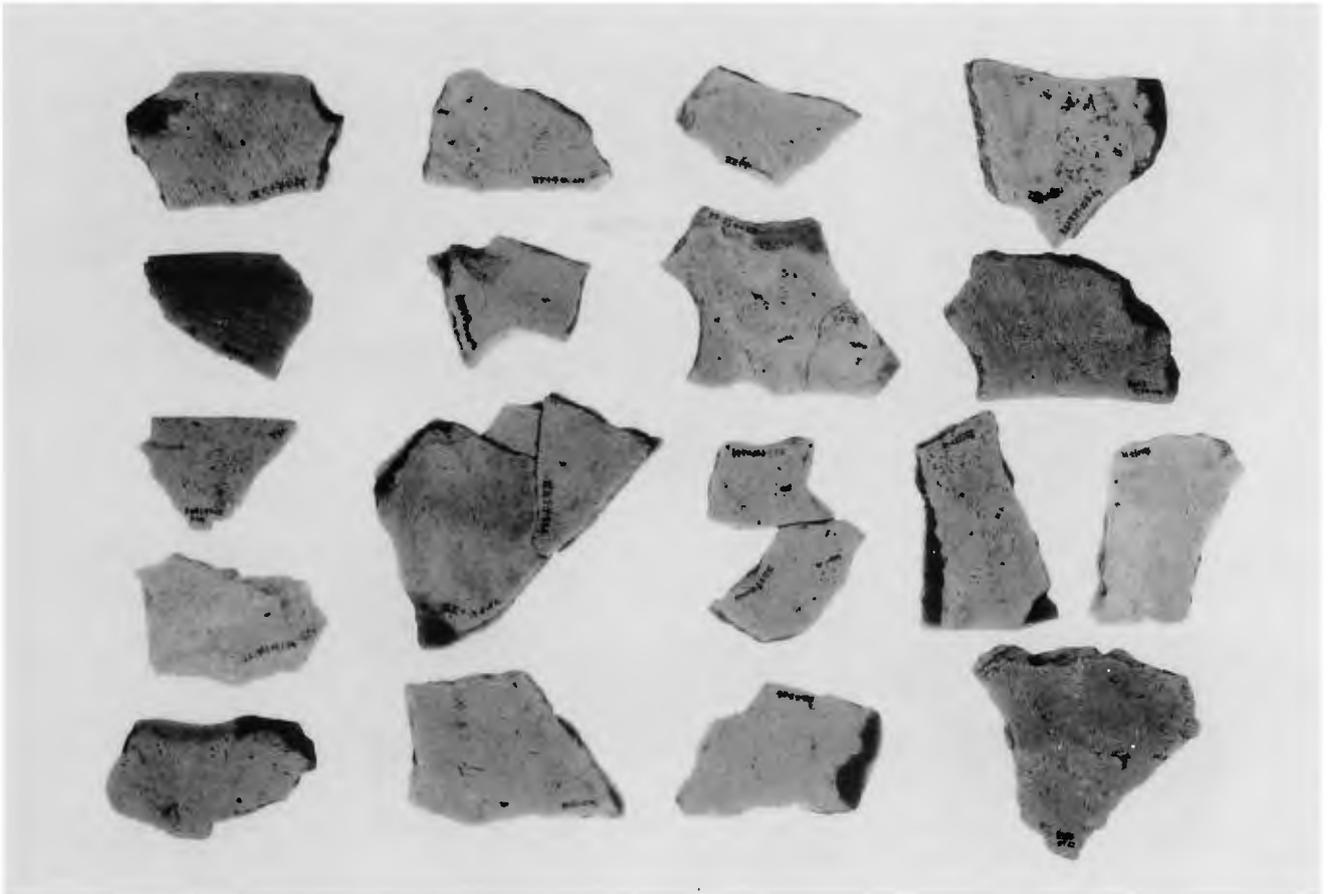
ST-02 円筒埴輪実測資料 1・2 拓影資料 1・2



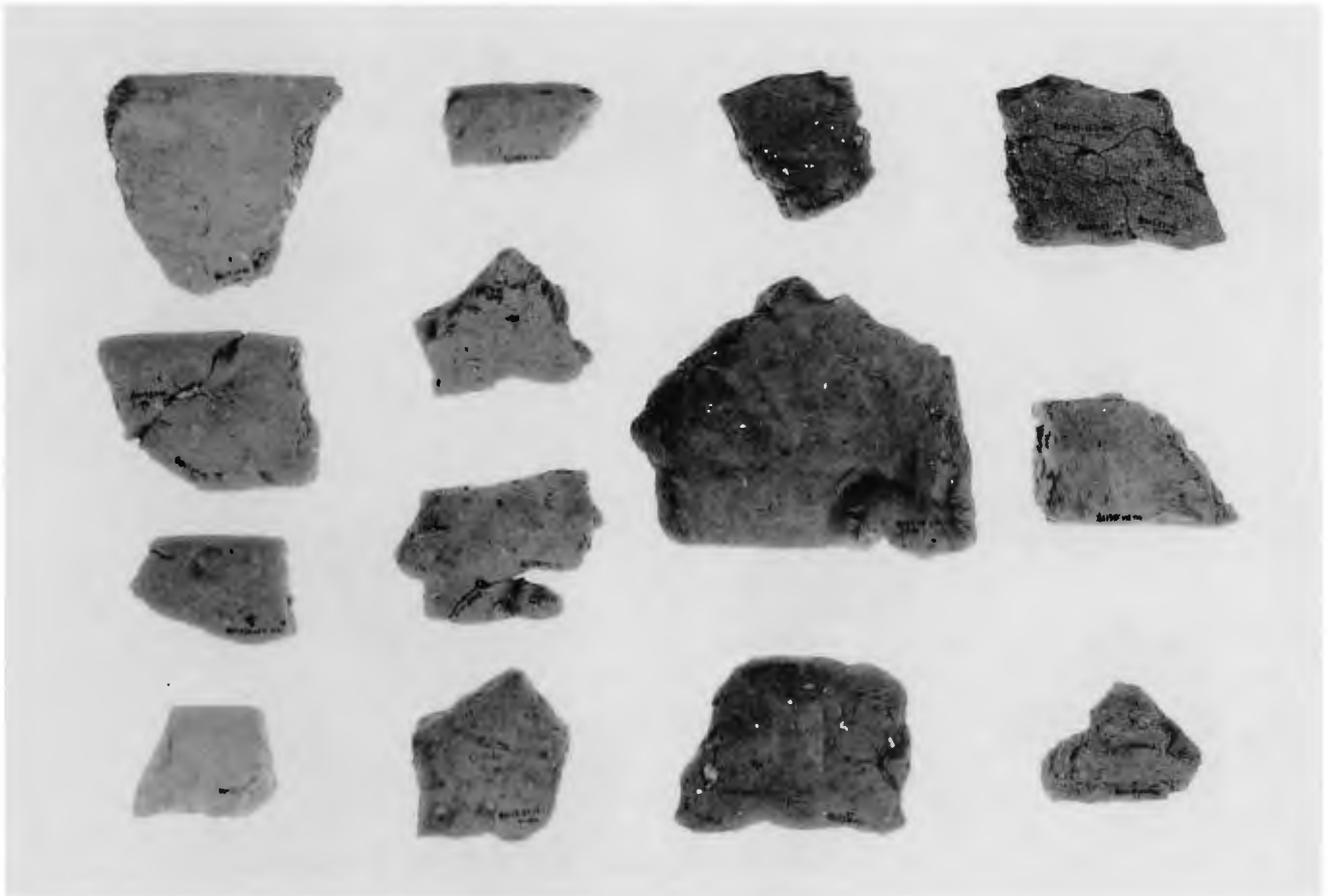
ST-02 円筒埴輪拓影資料 6~24



ST-03 円筒埴輪拓影資料 1~14



ST-02 円筒埴輪拓影資料 6~24



ST-03 円筒埴輪拓影資料 1~14



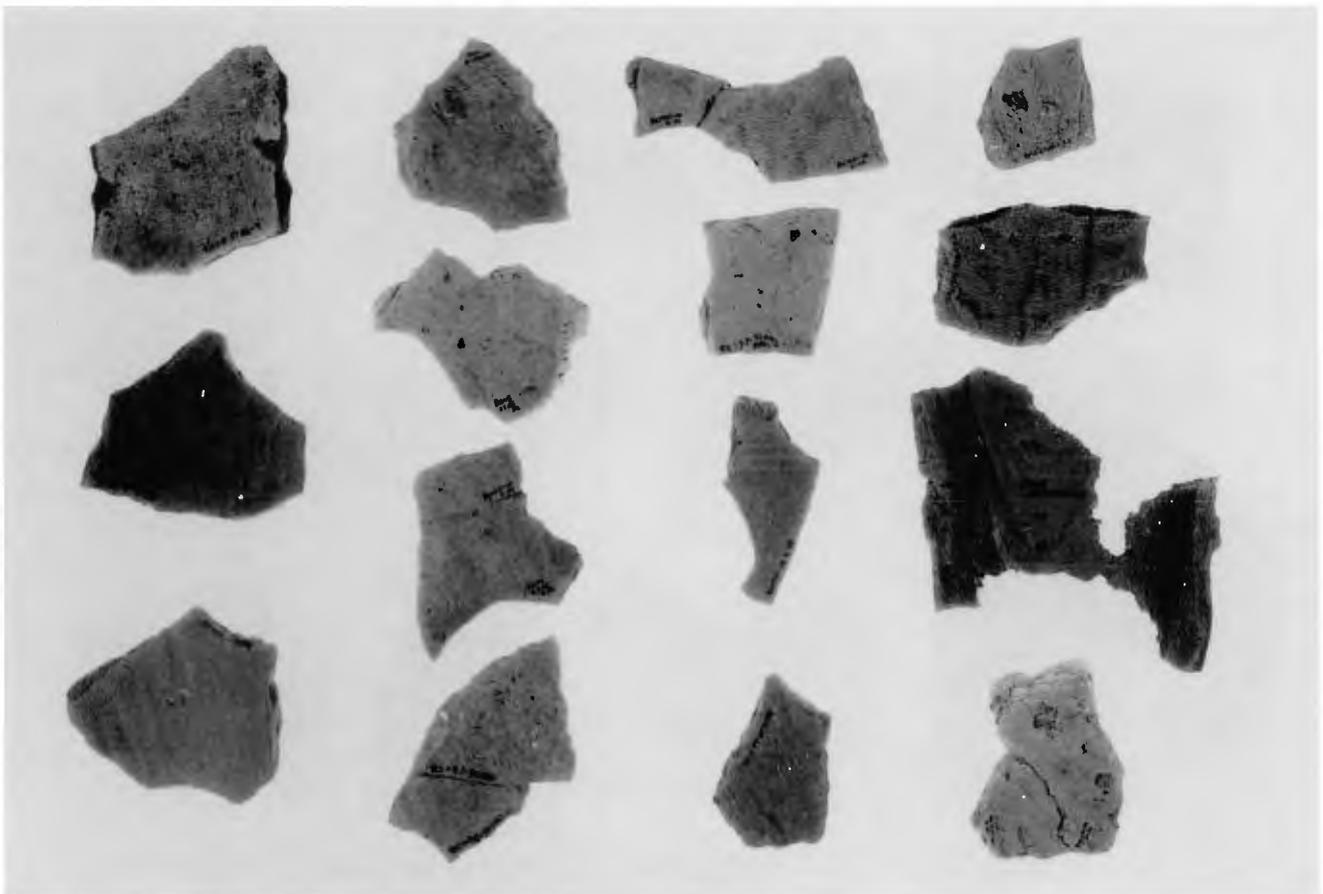
ST-06 円筒埴輪拓影資料 1~11



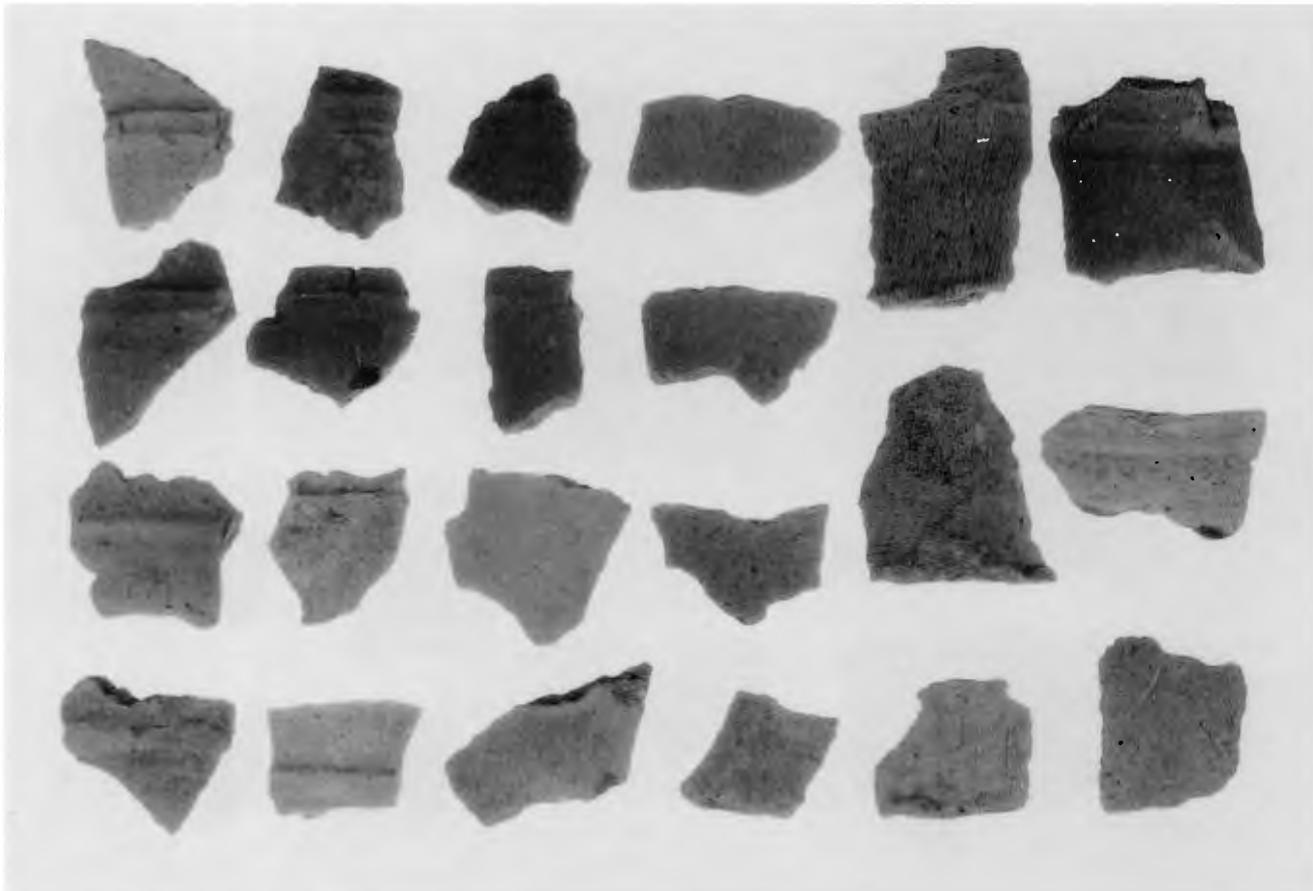
ST-06 円筒埴輪拓影資料 12~27



ST-06 円筒埴輪拓影資料 1~11



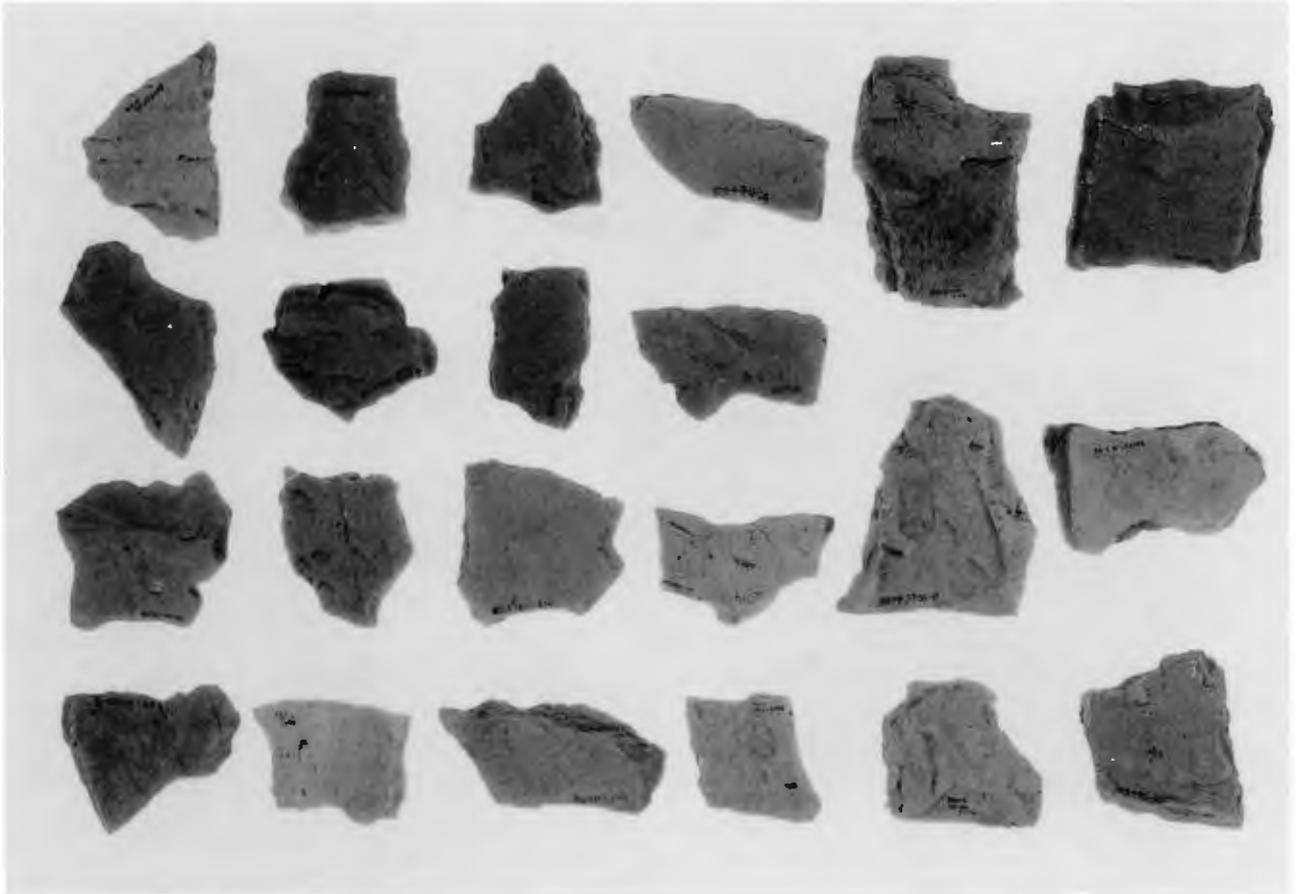
ST-06 円筒埴輪拓影資料 12~27



ST-06 円筒埴輪拓影資料 28~50



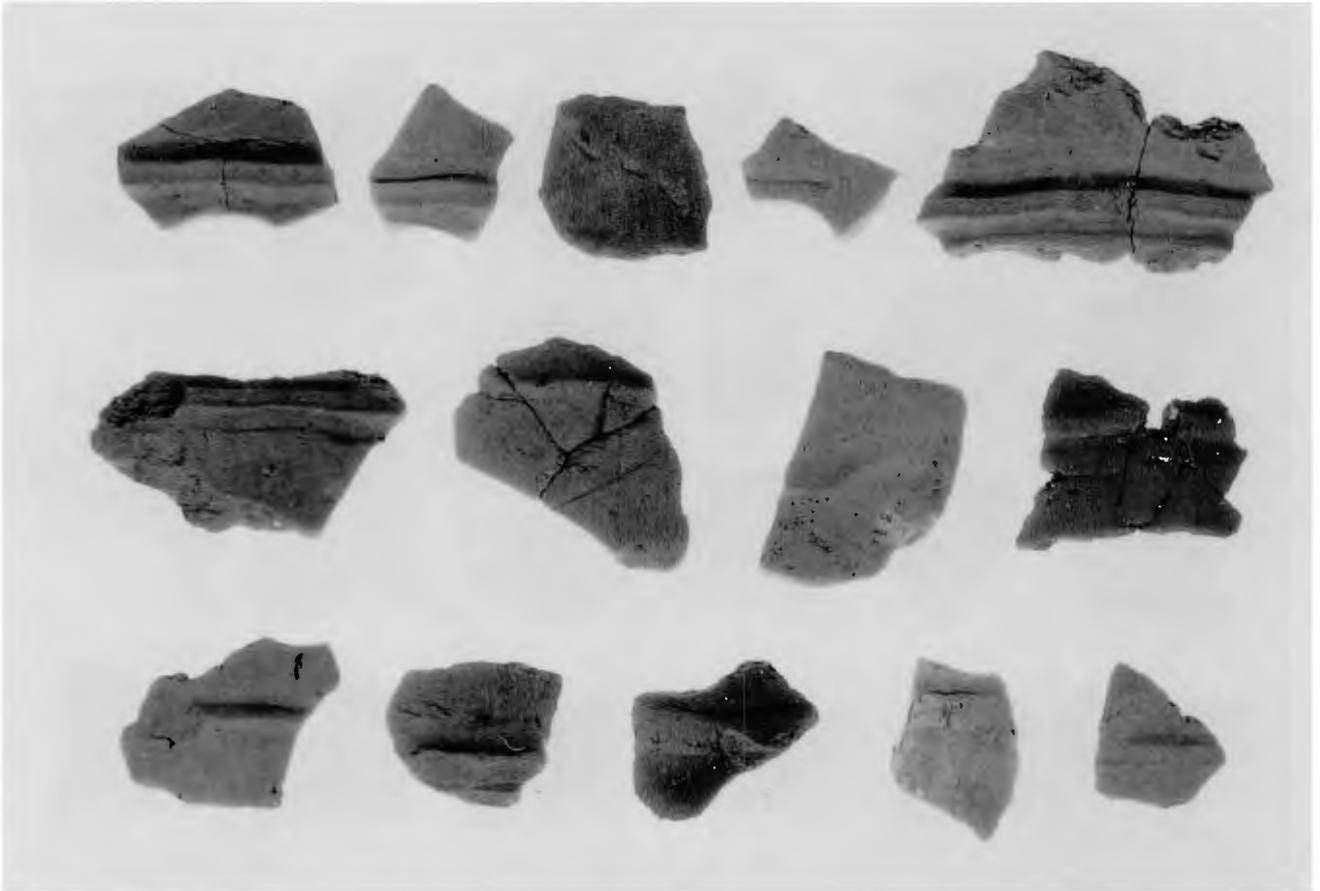
ST-07 円筒埴輪拓影資料 1~19



ST-06 円筒埴輪拓影資料 28~50



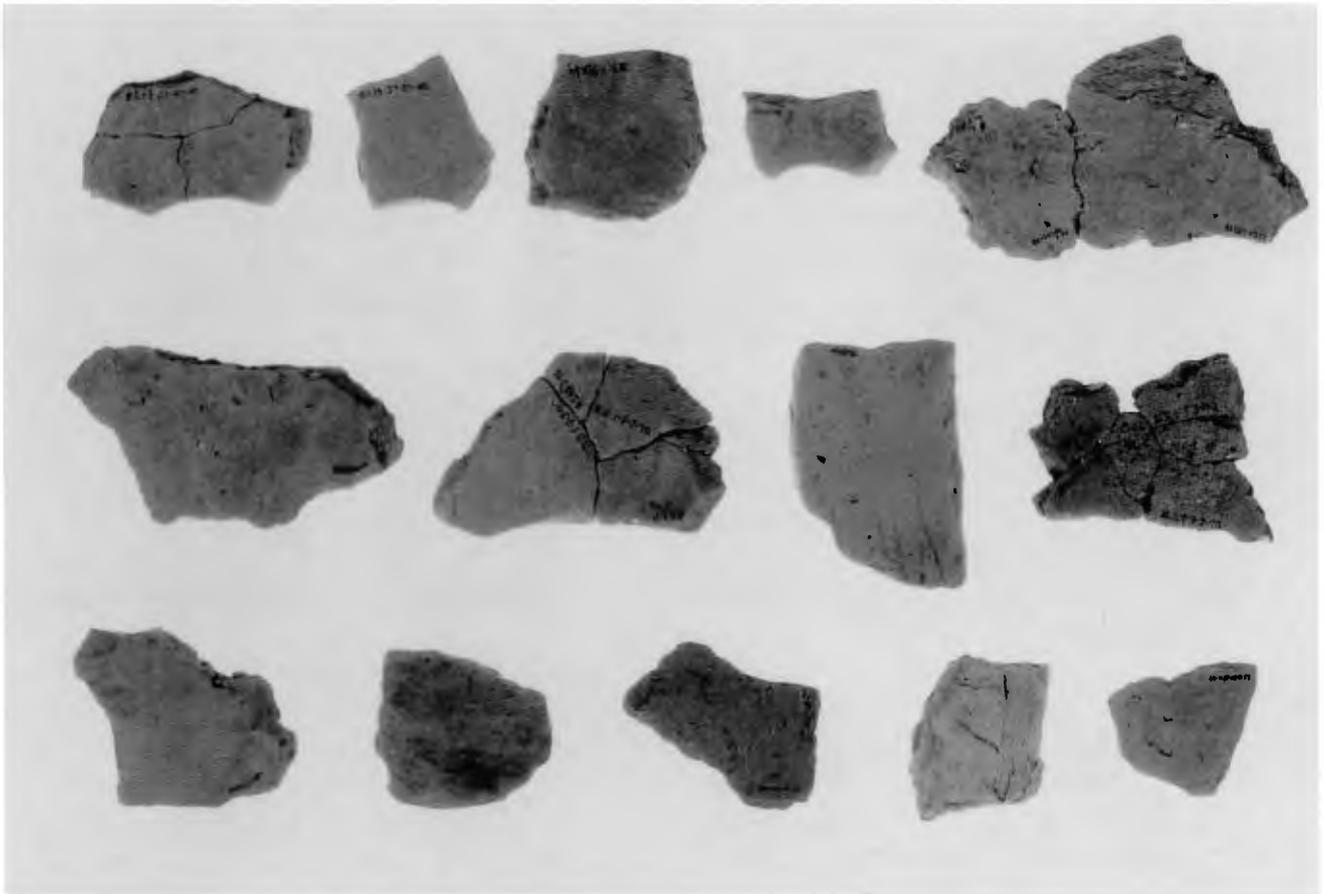
ST-07 円筒埴輪拓影資料 1~19



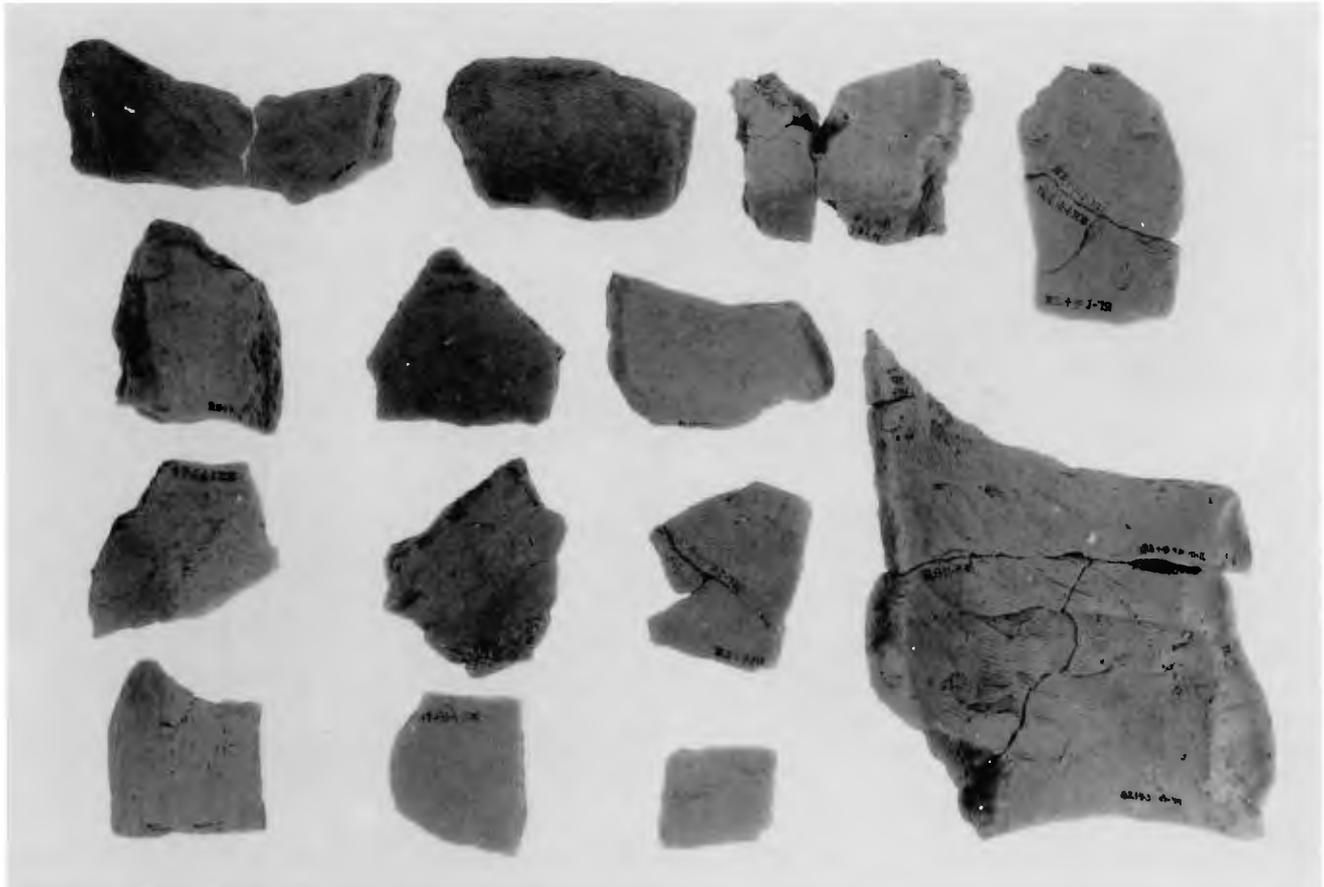
ST-07 円筒埴輪拓影資料 20~36



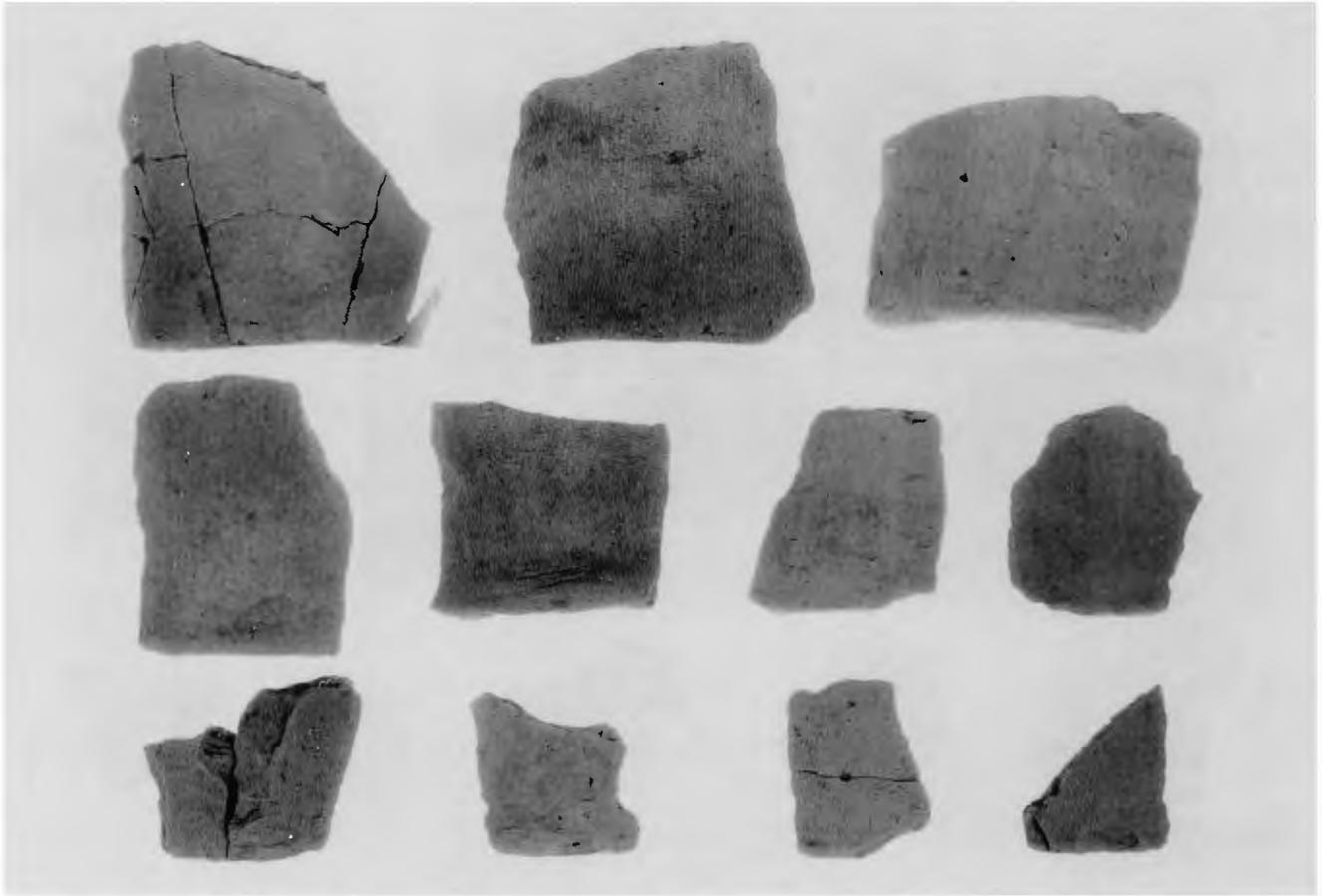
ST-07 円筒埴輪拓影資料 37~50



ST-07 円筒埴輪拓影資料 20~36



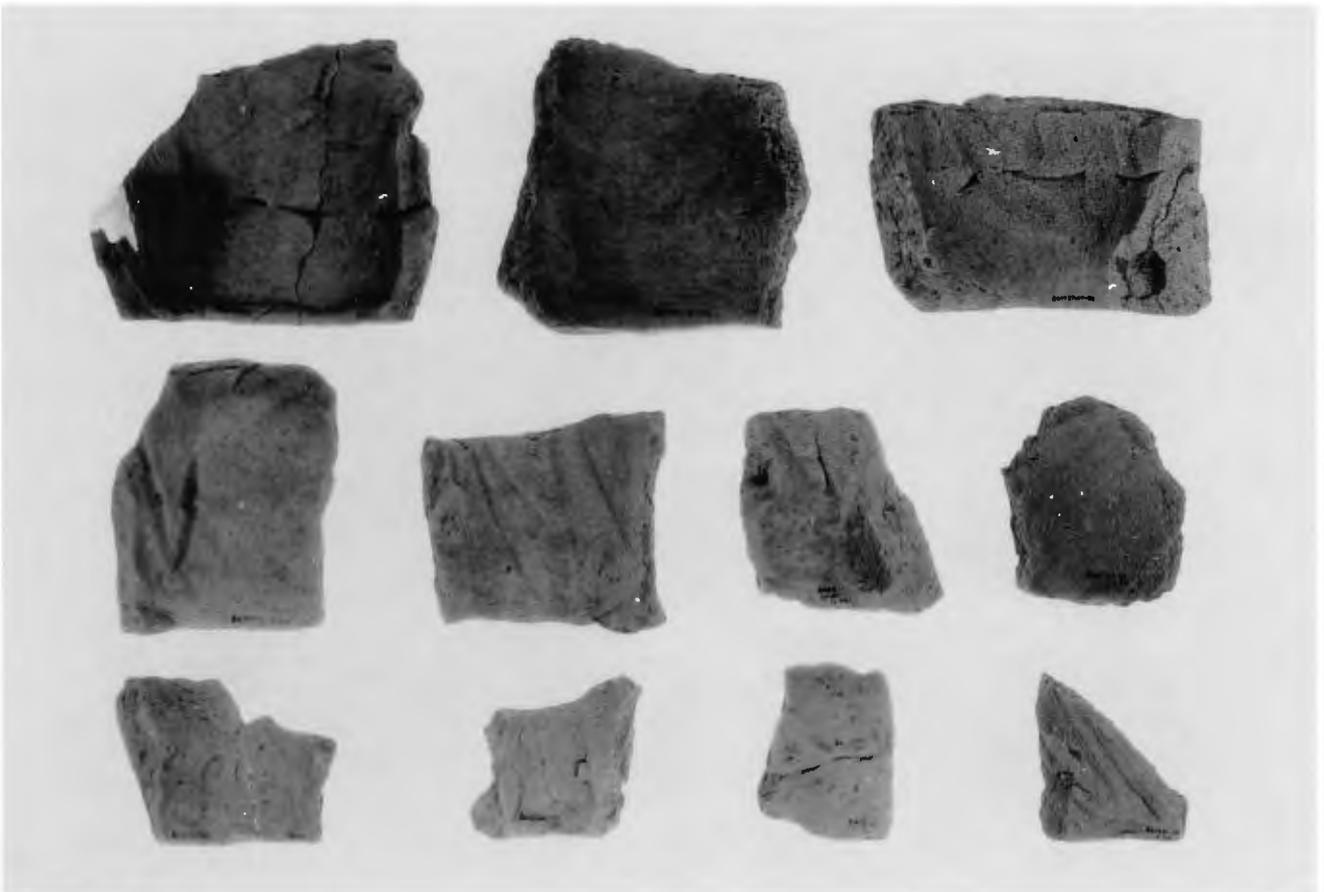
ST-07 円筒埴輪拓影資料 37~50



ST-07 円筒埴輪拓影資料 51~61



ST-08 円筒埴輪拓影資料 1~6



ST-07 円筒埴輪拓影資料 51~61



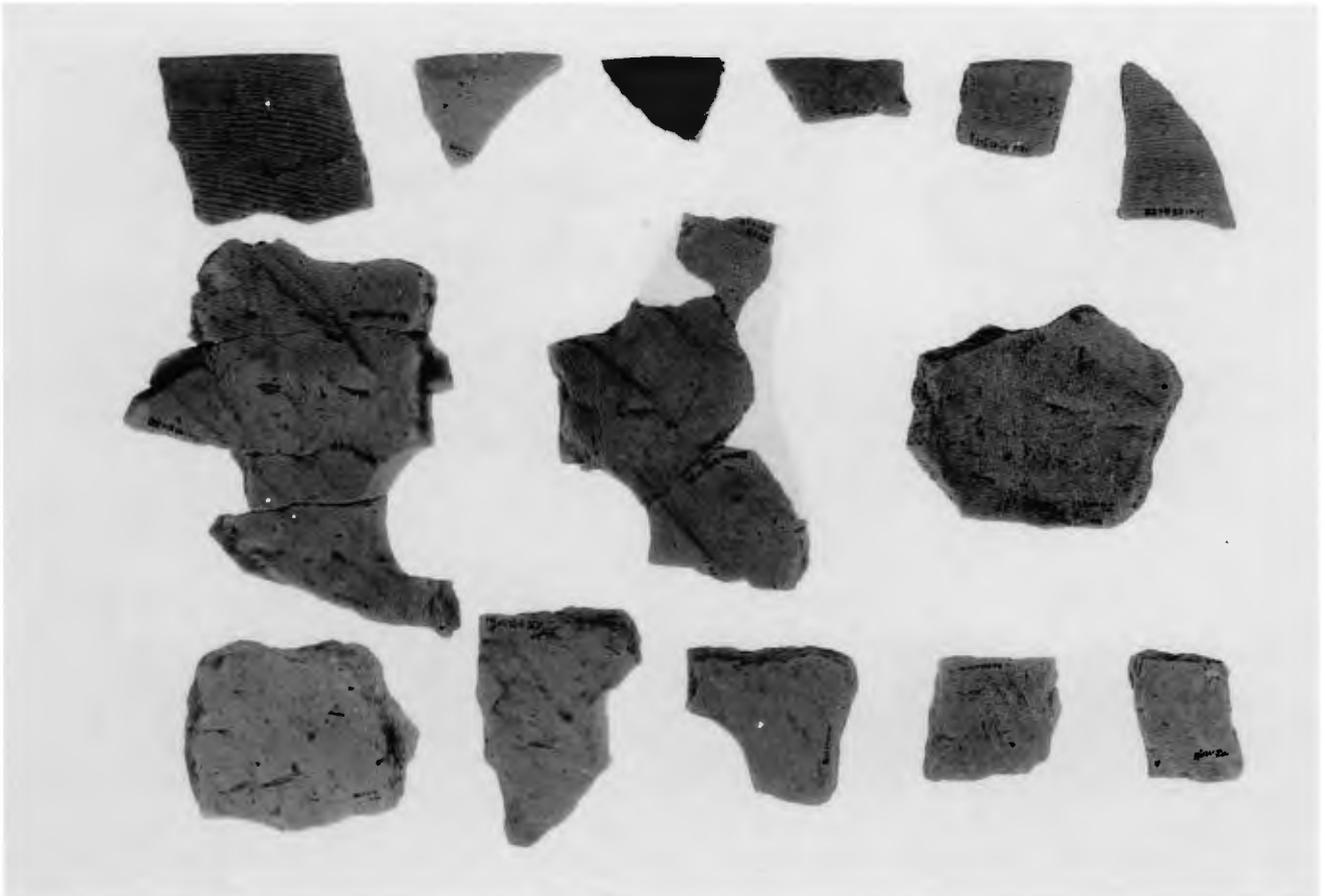
ST-08 円筒埴輪拓影資料 1~6



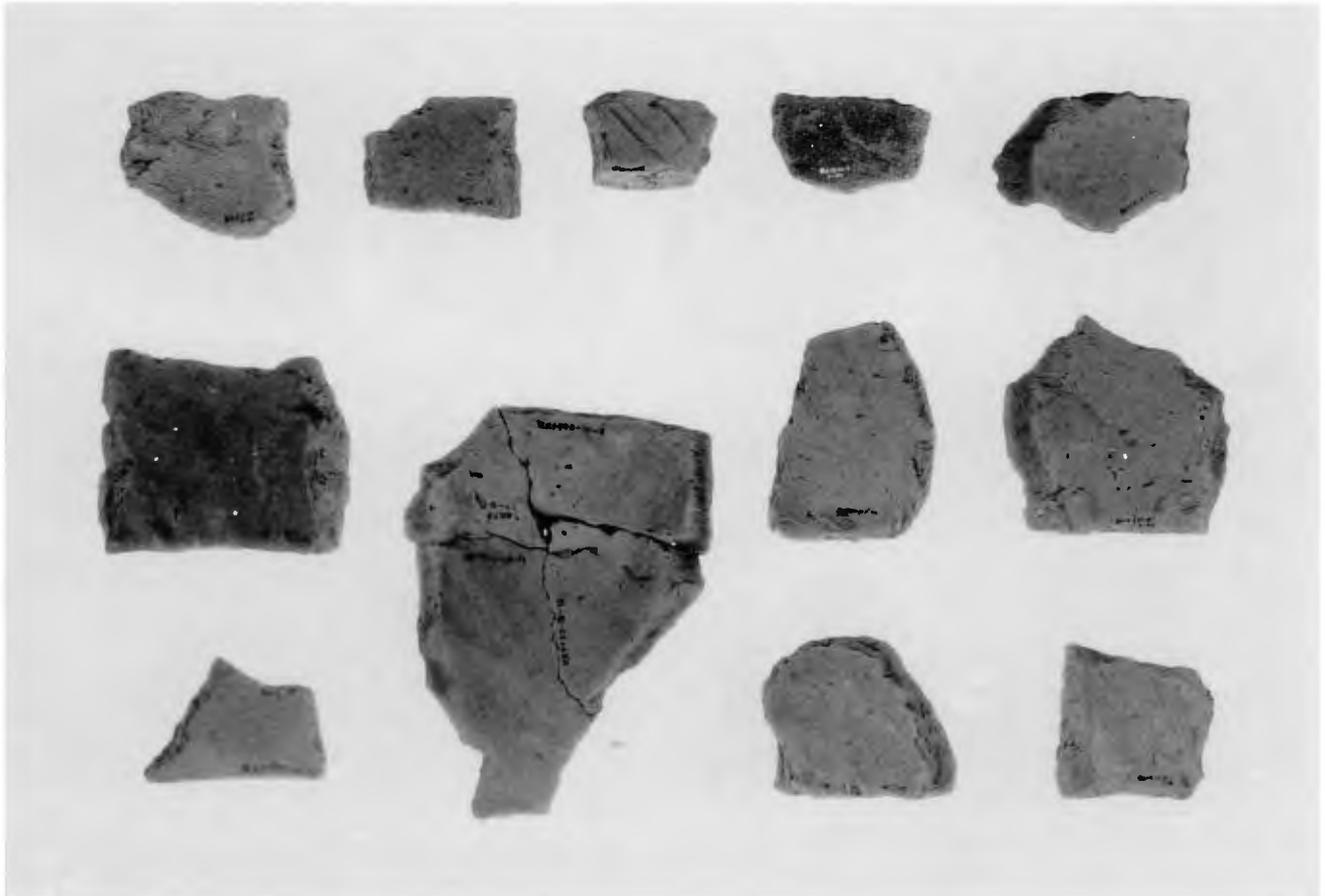
ST-10 円筒埴輪拓影資料 1~14



ST-10 円筒埴輪拓影資料 15~26



ST-10 円筒埴輪拓影資料 1~14



ST-10 円筒埴輪拓影資料 15~26



ST-11 円筒埴輪拓影資料 1~9



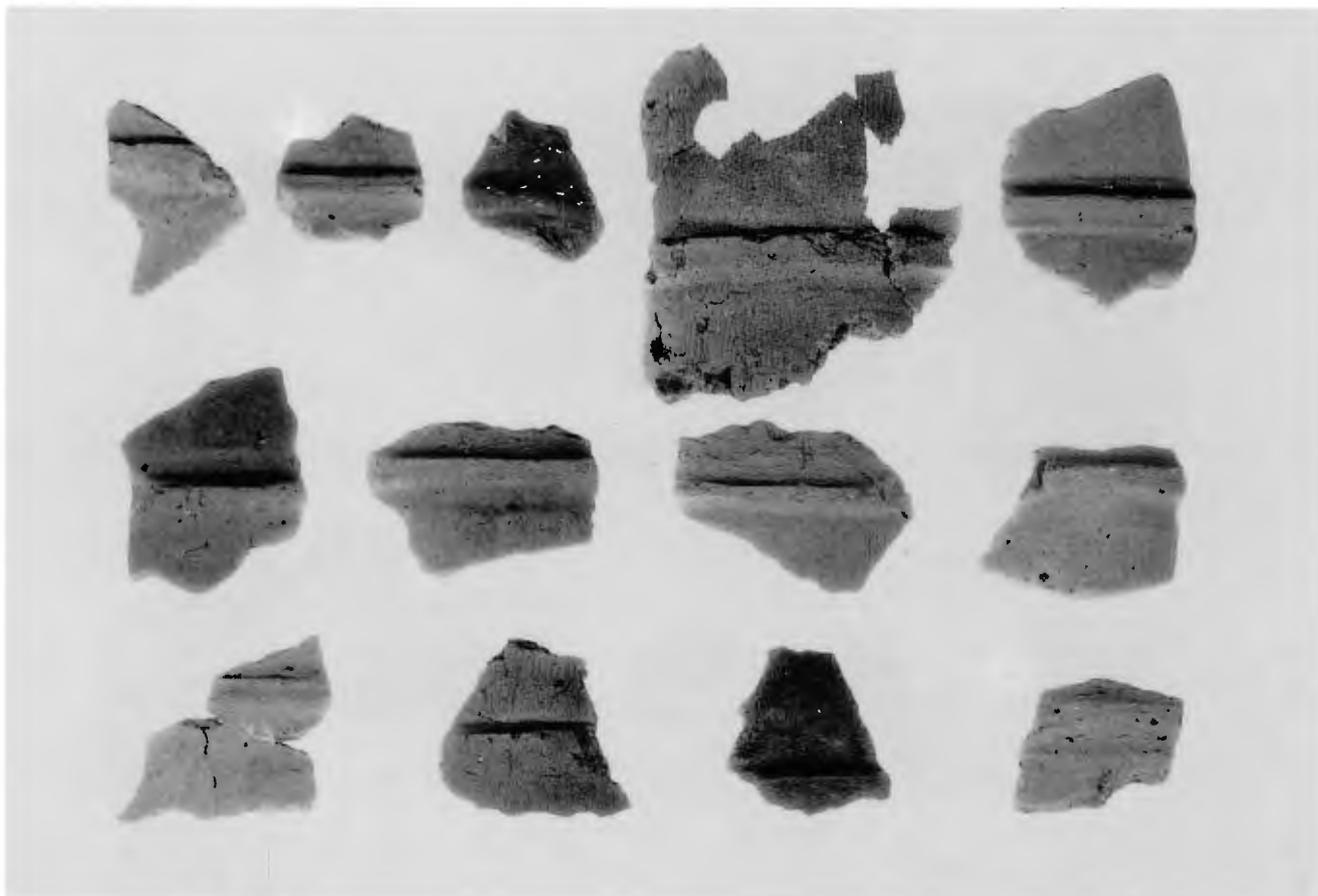
ST-11 円筒埴輪拓影資料 10~18



ST-11 円筒埴輪拓影資料 1~9



ST-11 円筒埴輪拓影資料 10~18



ST-11 円筒埴輪拓影資料 19~33



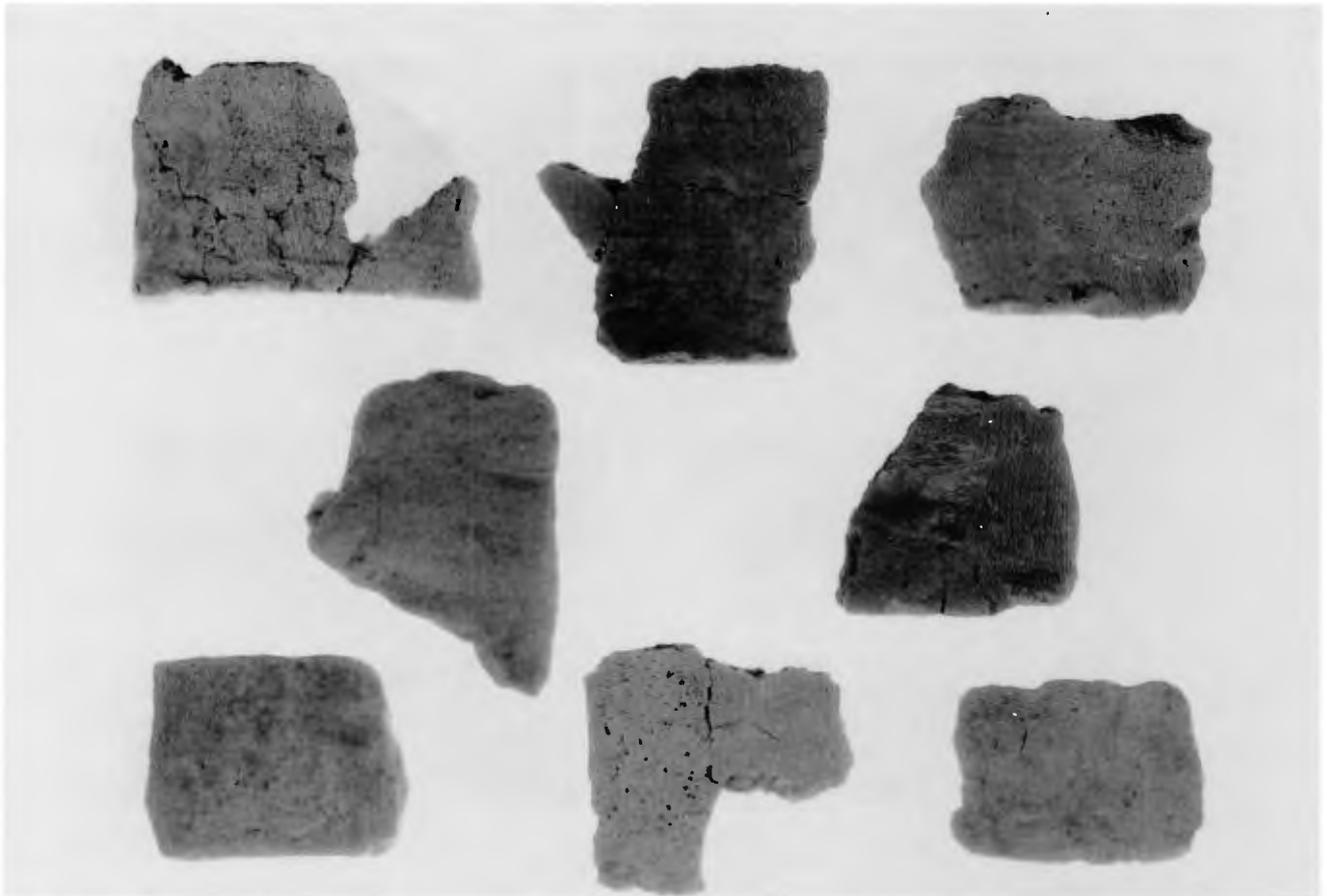
ST-11 円筒埴輪拓影資料 34~48



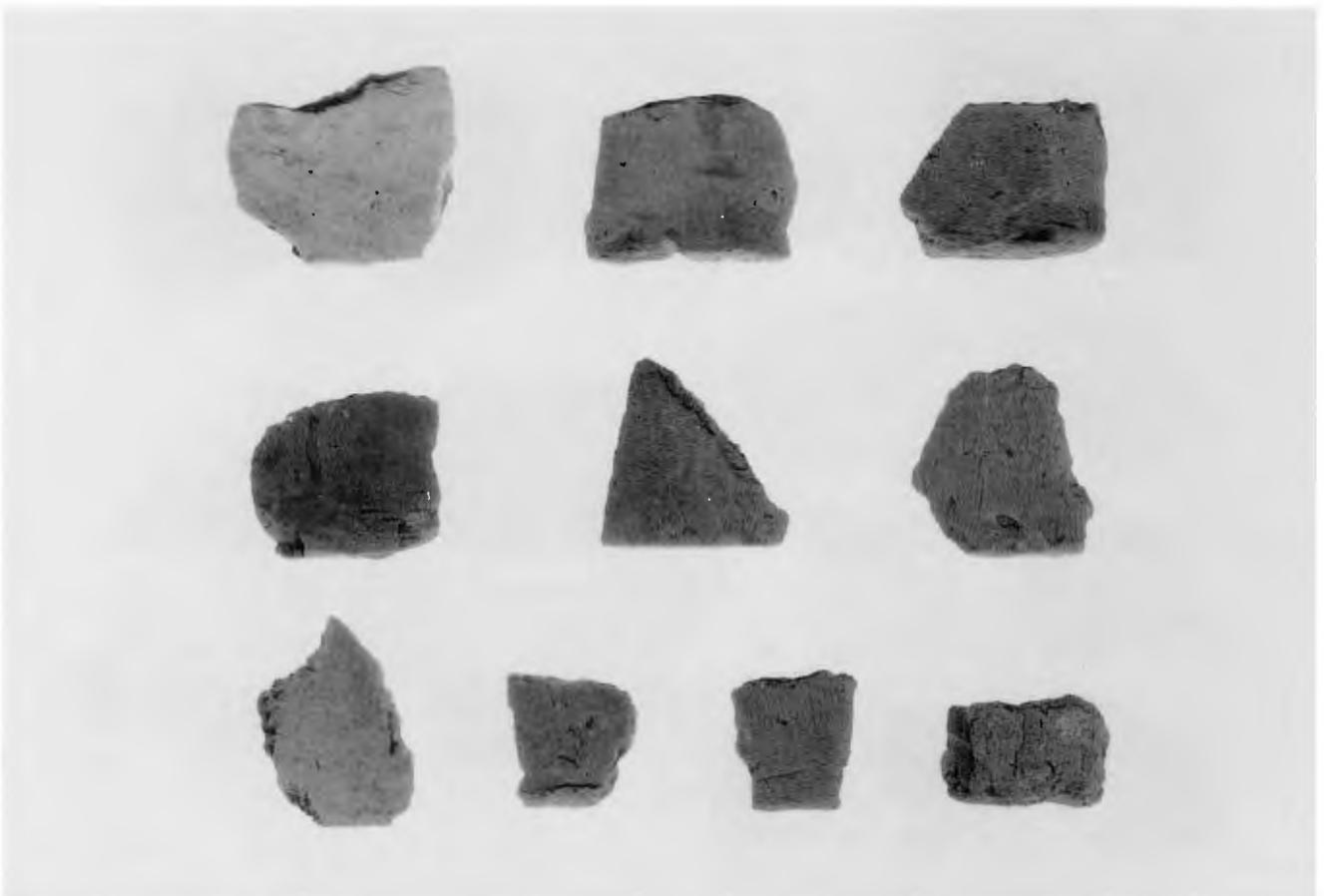
ST-11 円筒埴輪拓影資料 19~33



ST-11 円筒埴輪拓影資料 34~48



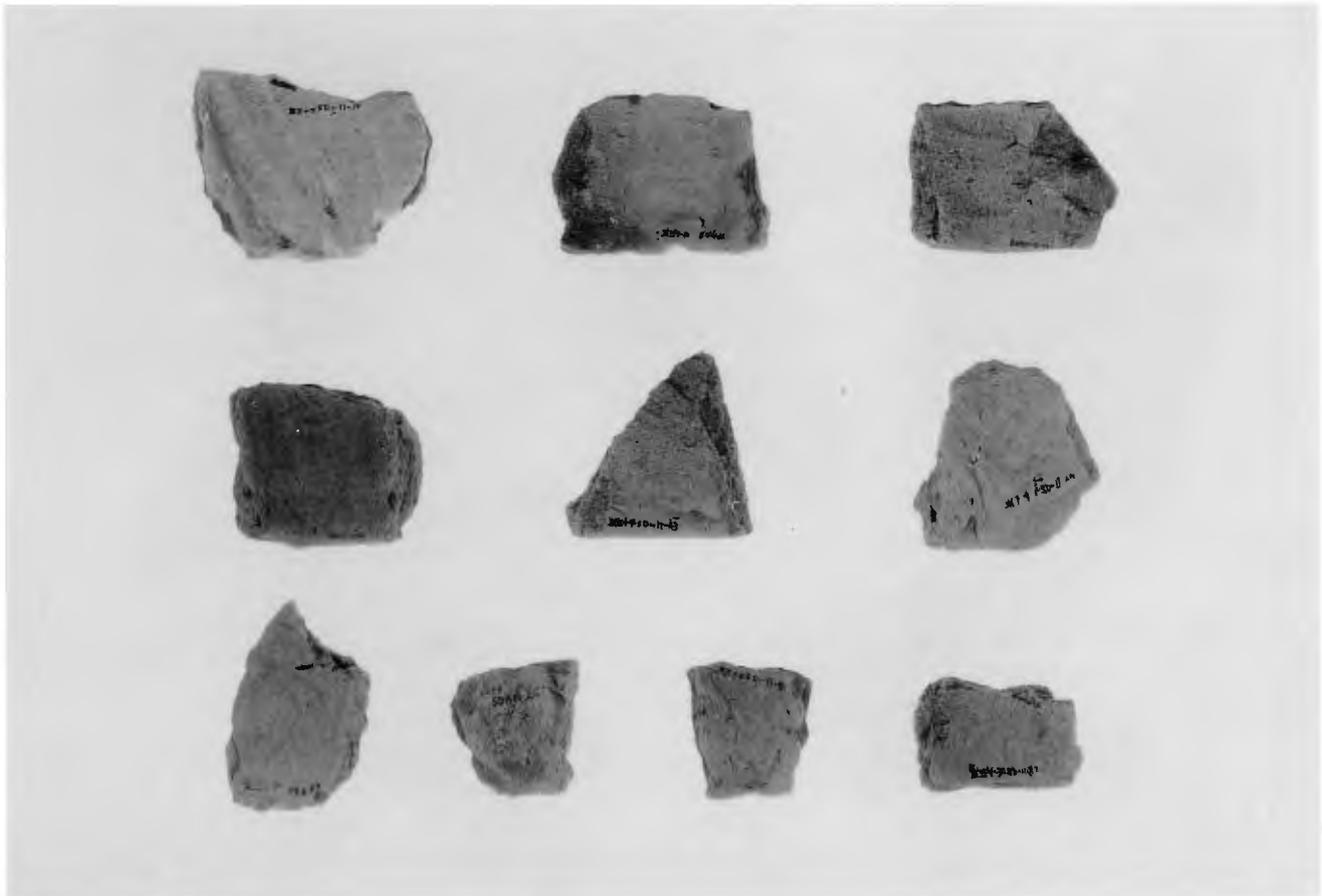
ST-11 円筒埴輪拓影資料 49~56



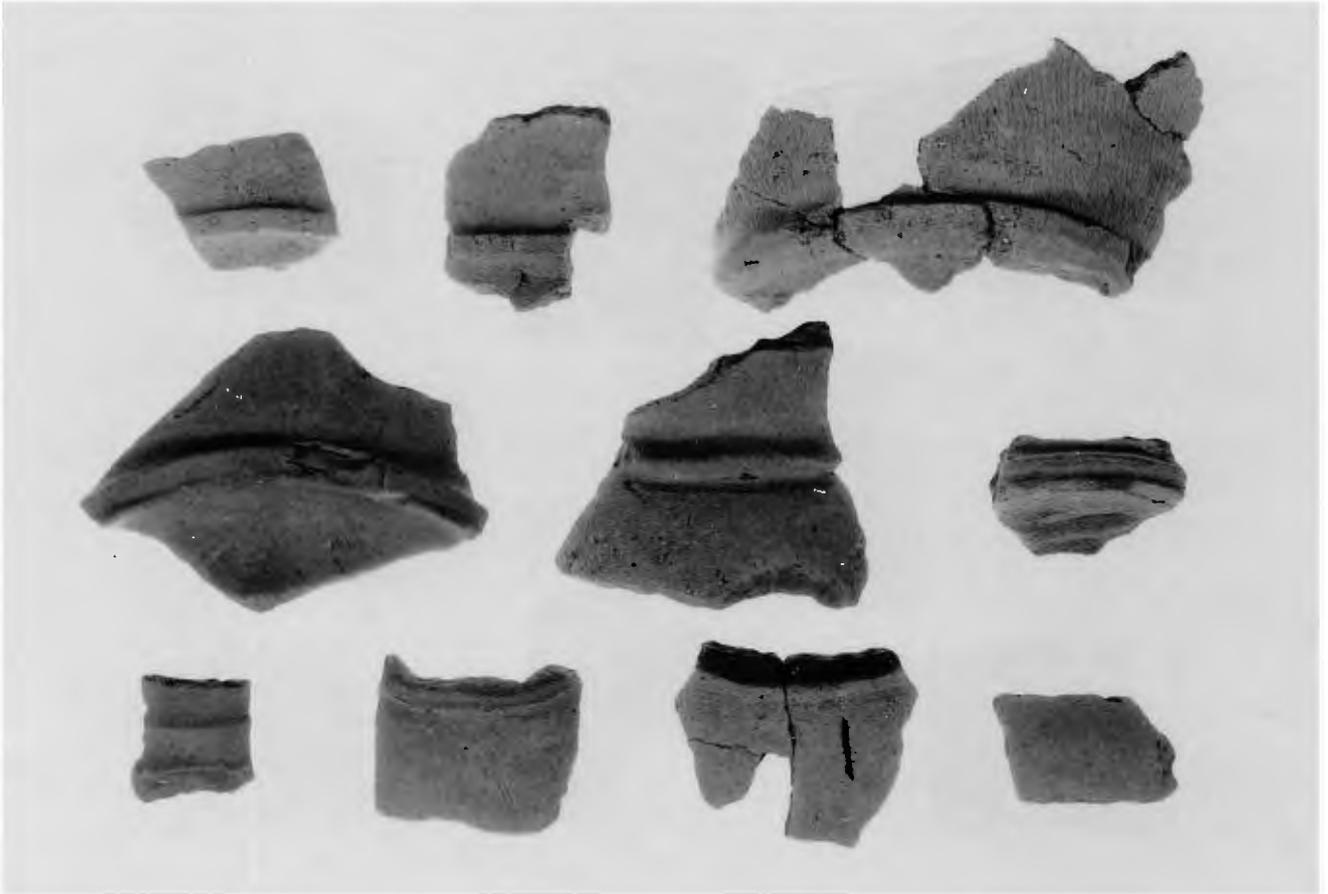
ST-11 円筒埴輪拓影資料 57~66



ST-11 円筒埴輪拓影資料 49~56



ST-11 円筒埴輪拓影資料 57~66



ST-11 円筒埴輪拓影資料 67~76



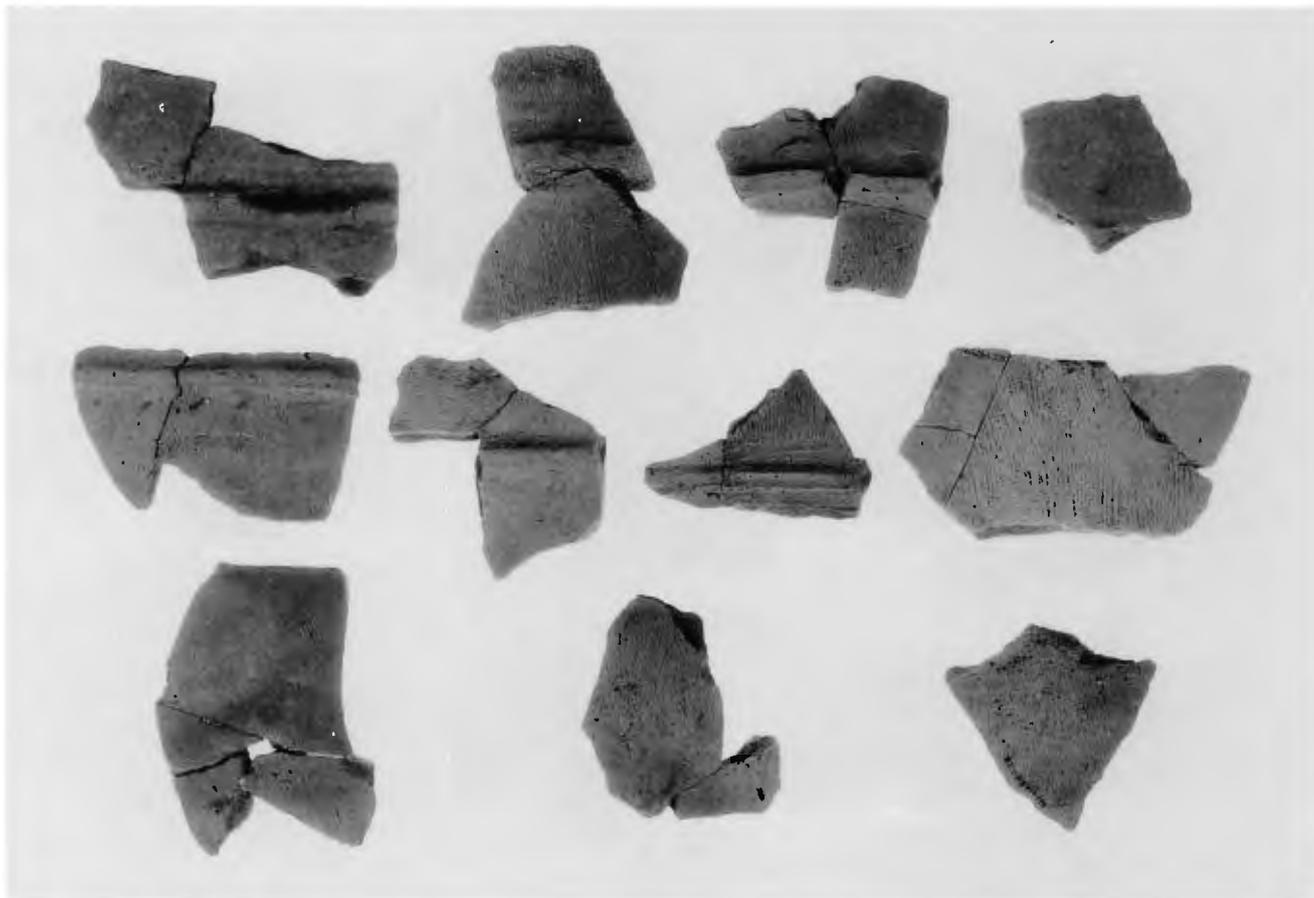
ST-12 円筒埴輪拓影資料 1~8



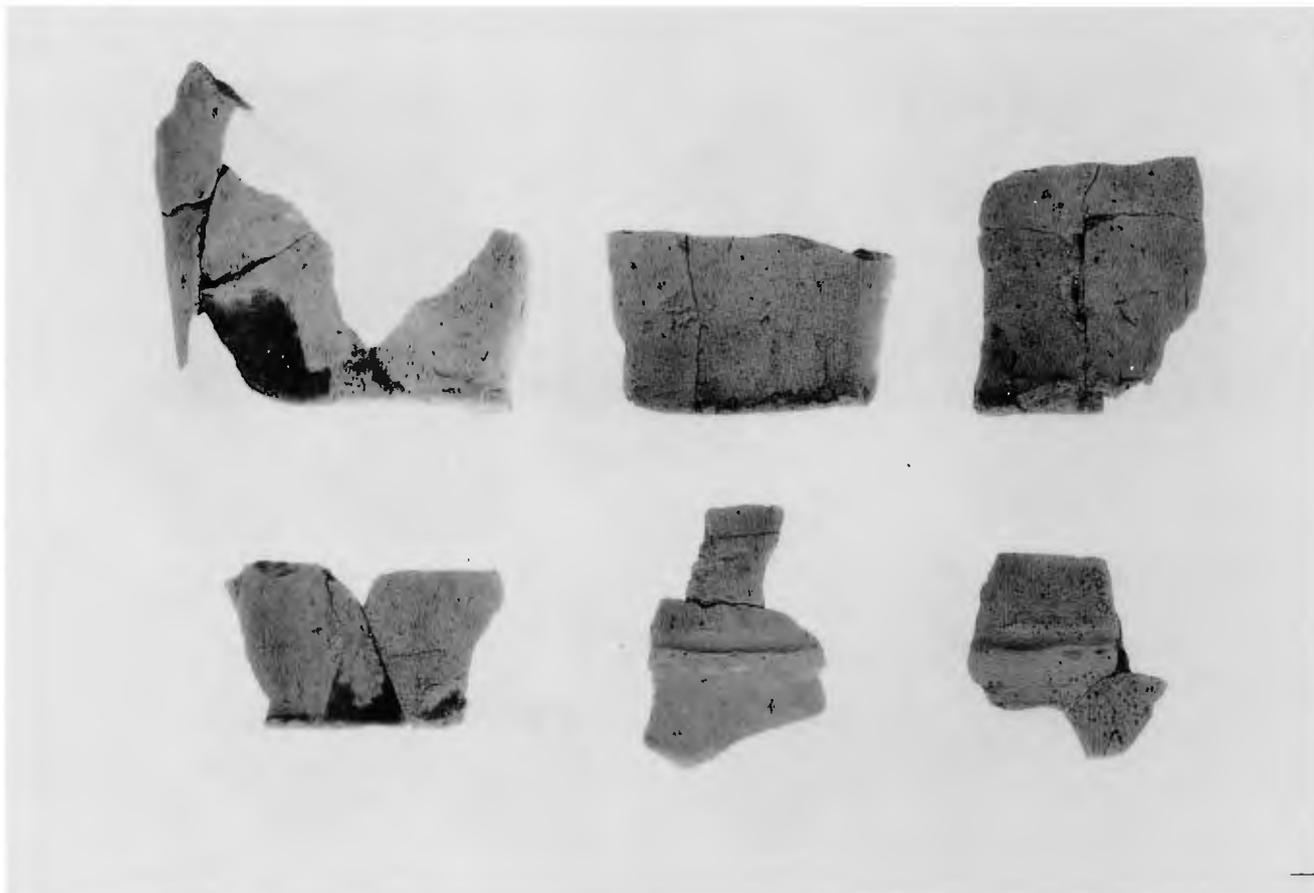
ST-11 円筒埴輪拓影資料 67~76



ST-12 円筒埴輪拓影資料 1~8



ST-12 円筒埴輪拓影資料 9~22



ST-12 円筒埴輪拓影資料 23~28



ST-12 円筒埴輪拓影資料 9~22



ST-12 円筒埴輪拓影資料 23~28



ST-17 円筒埴輪拓影資料 1~15



ST-17 円筒埴輪拓影資料 16~22



ST-17 円筒埴輪拓影資料 1~15



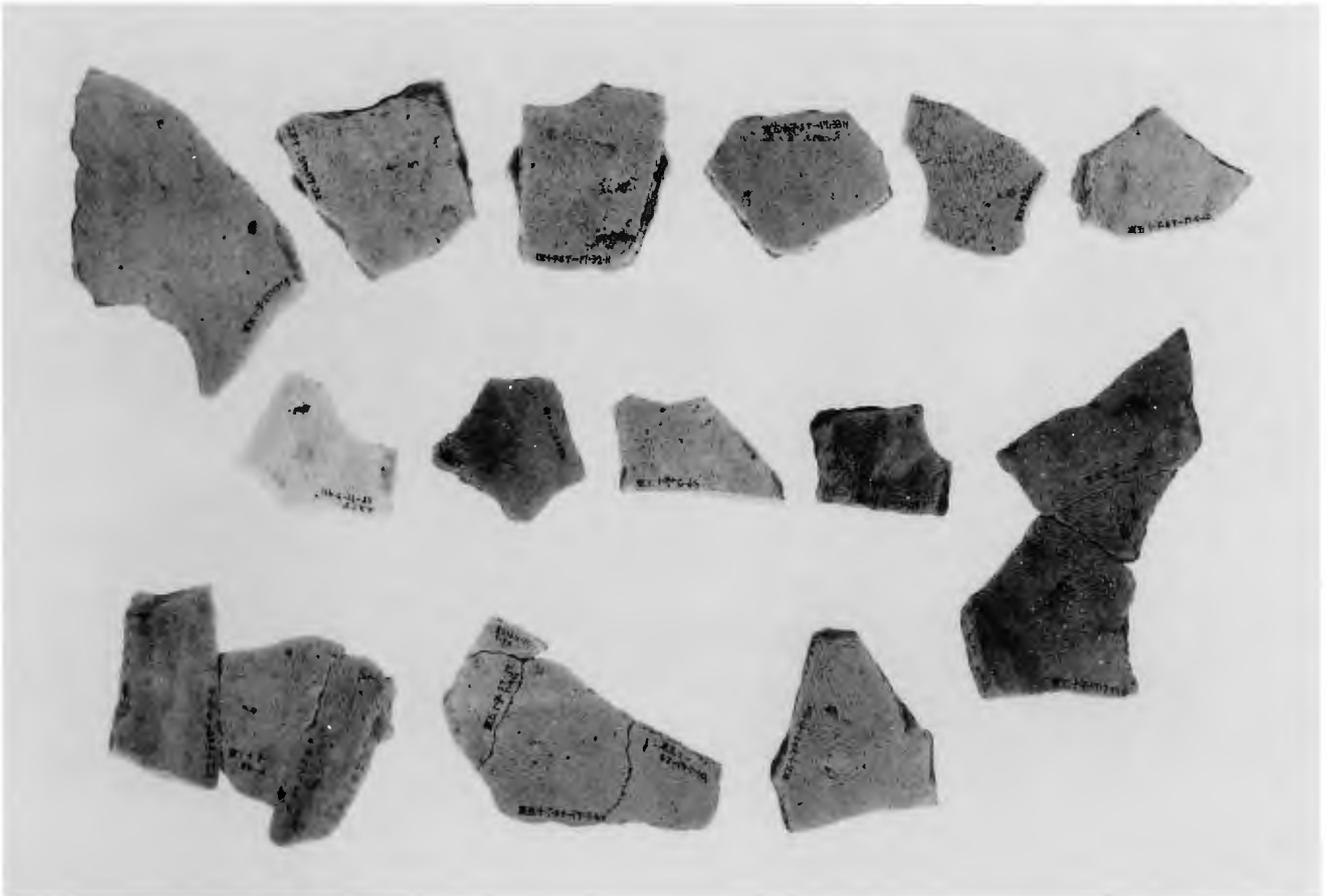
ST-17 円筒埴輪拓影資料 16~22



ST-17 円筒埴輪拓影資料 23~38



ST-17 円筒埴輪拓影資料 39~55



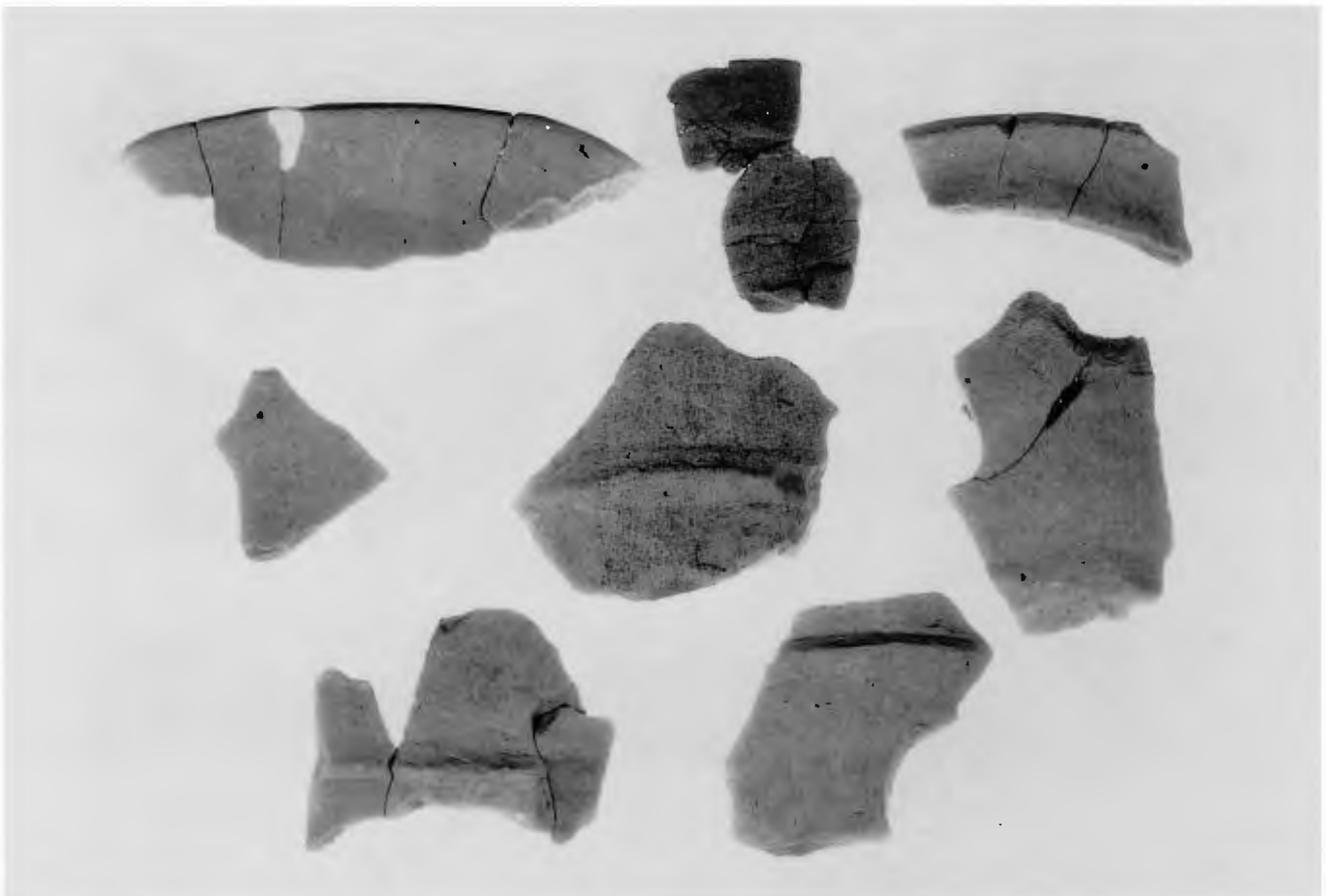
ST-17 円筒埴輪拓影資料 23~38



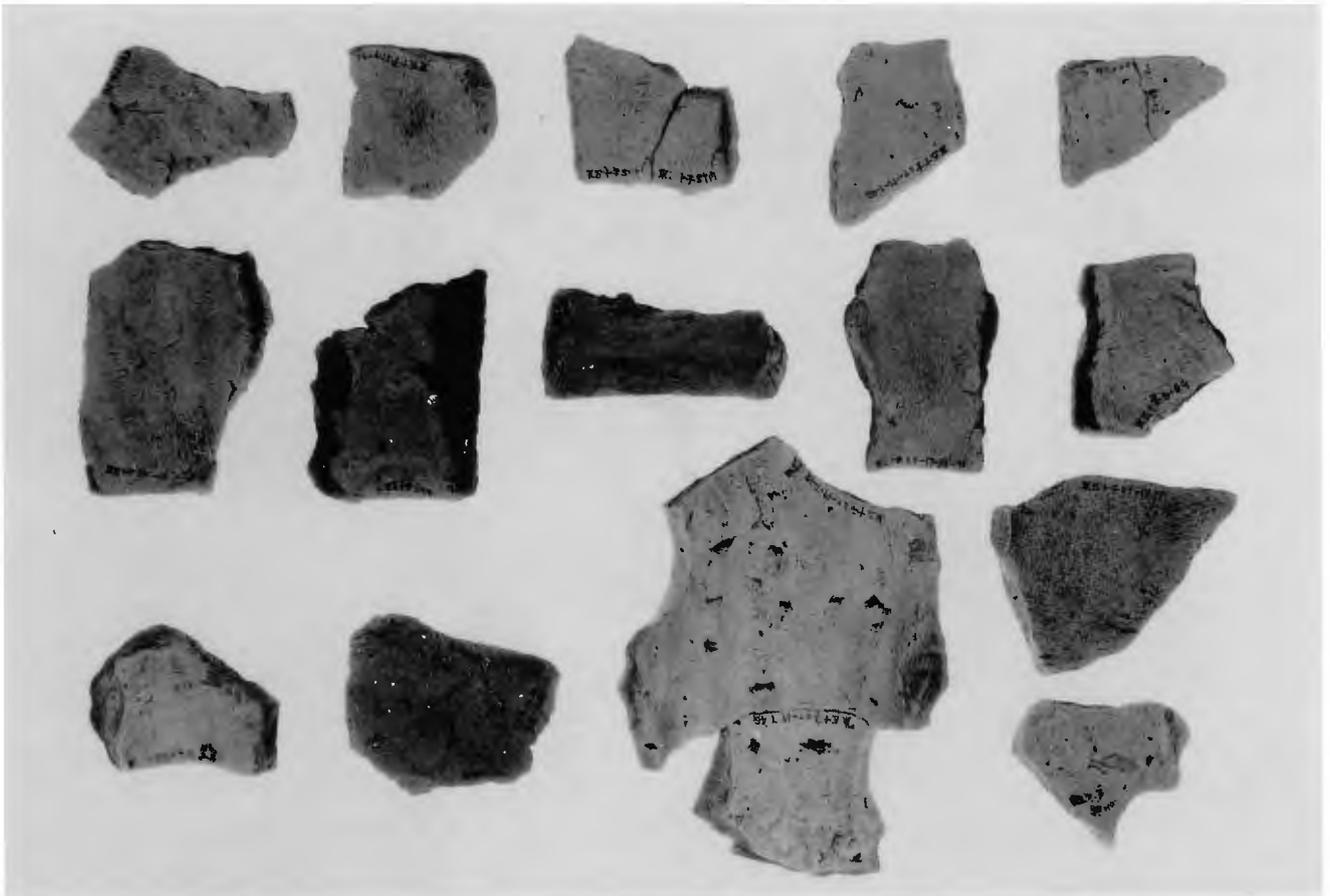
ST-17 円筒埴輪拓影資料 39~55



ST-17 円筒埴輪拓影資料 56~71



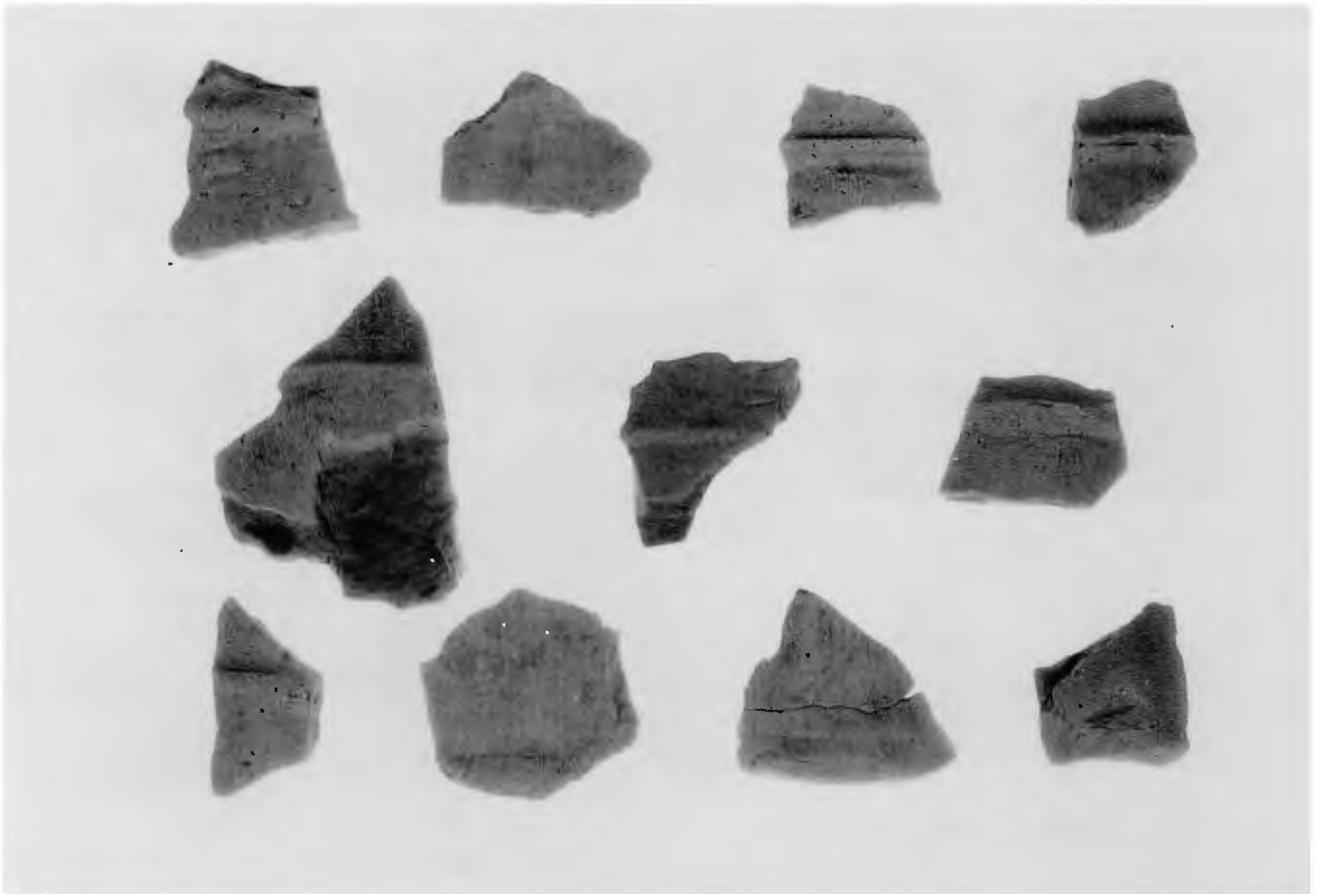
ST-18 円筒埴輪拓影資料 1~10



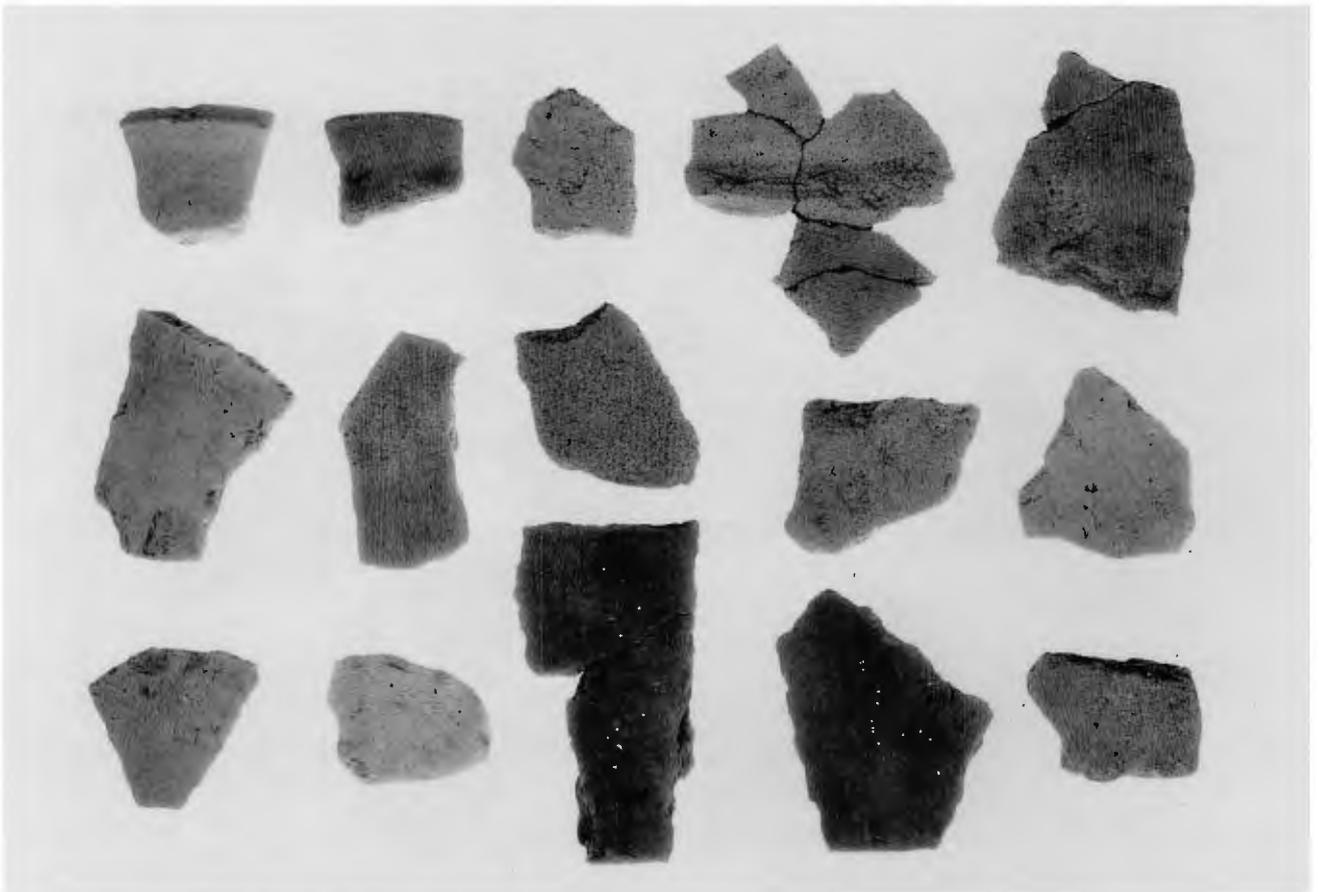
ST-17 円筒埴輪拓影資料 56~71



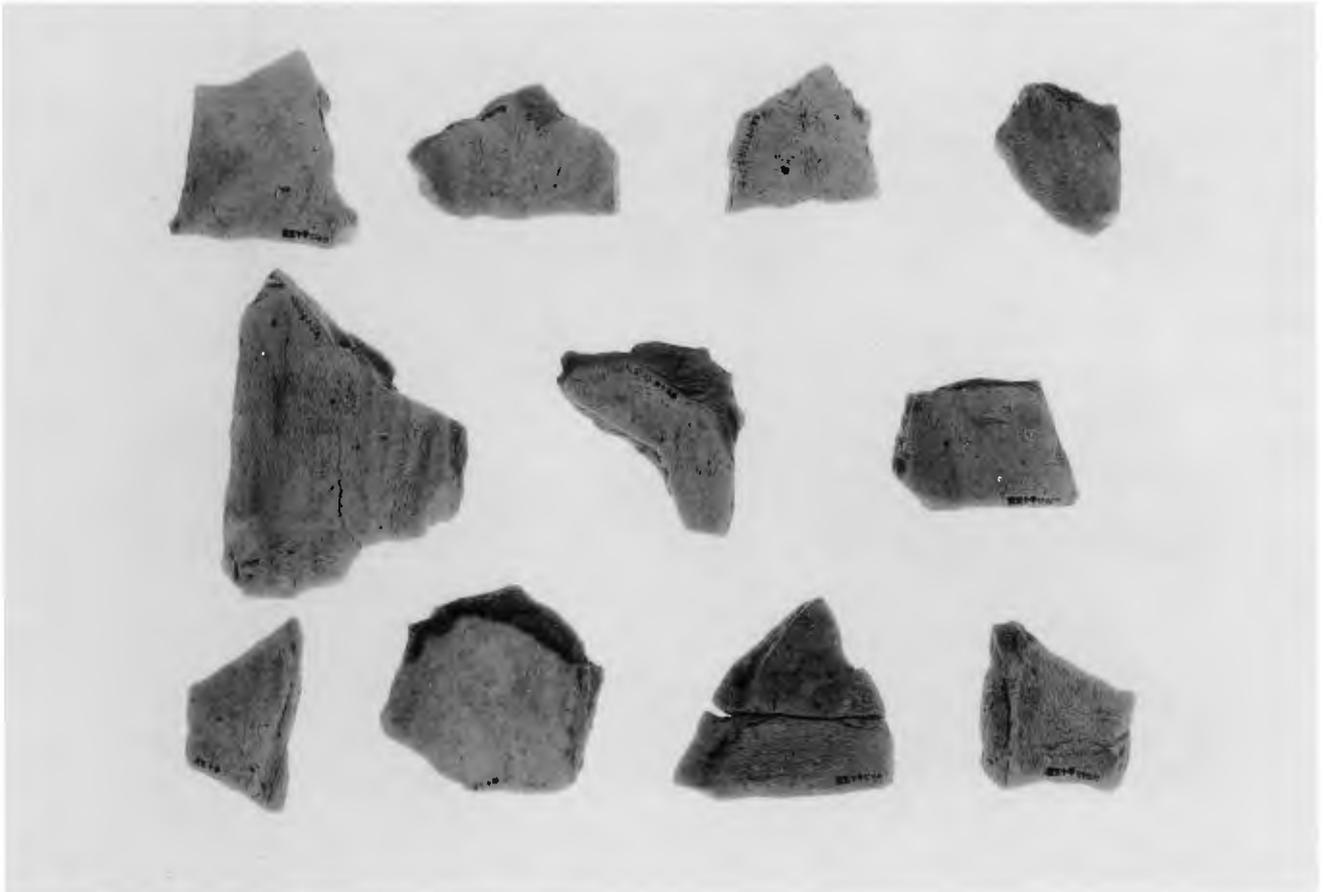
ST-18 円筒埴輪拓影資料 1~10



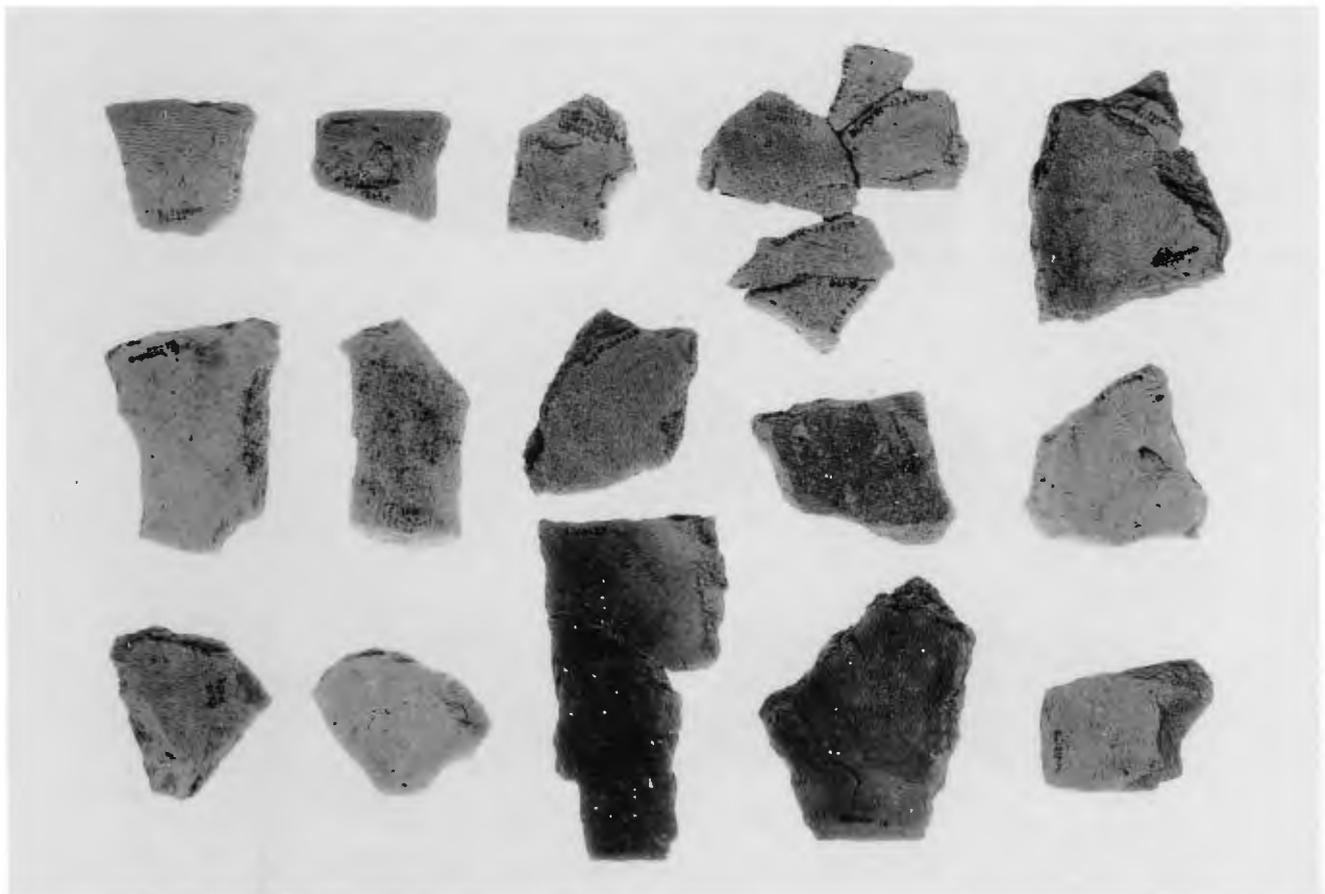
ST-18 円筒埴輪拓影資料 11~22



ST-20 円筒埴輪拓影資料 1~15



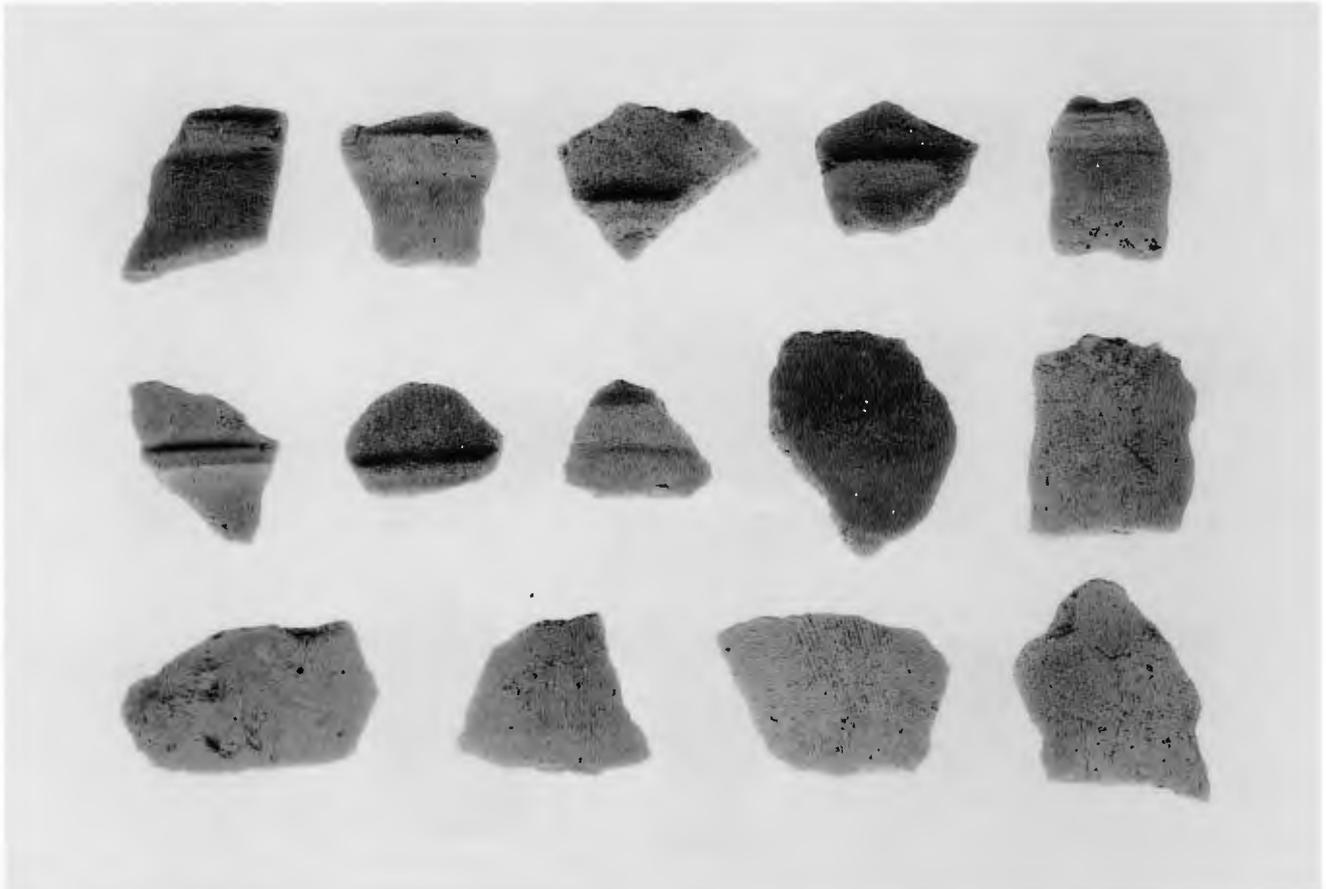
ST-18 円筒埴輪拓影資料 11~22



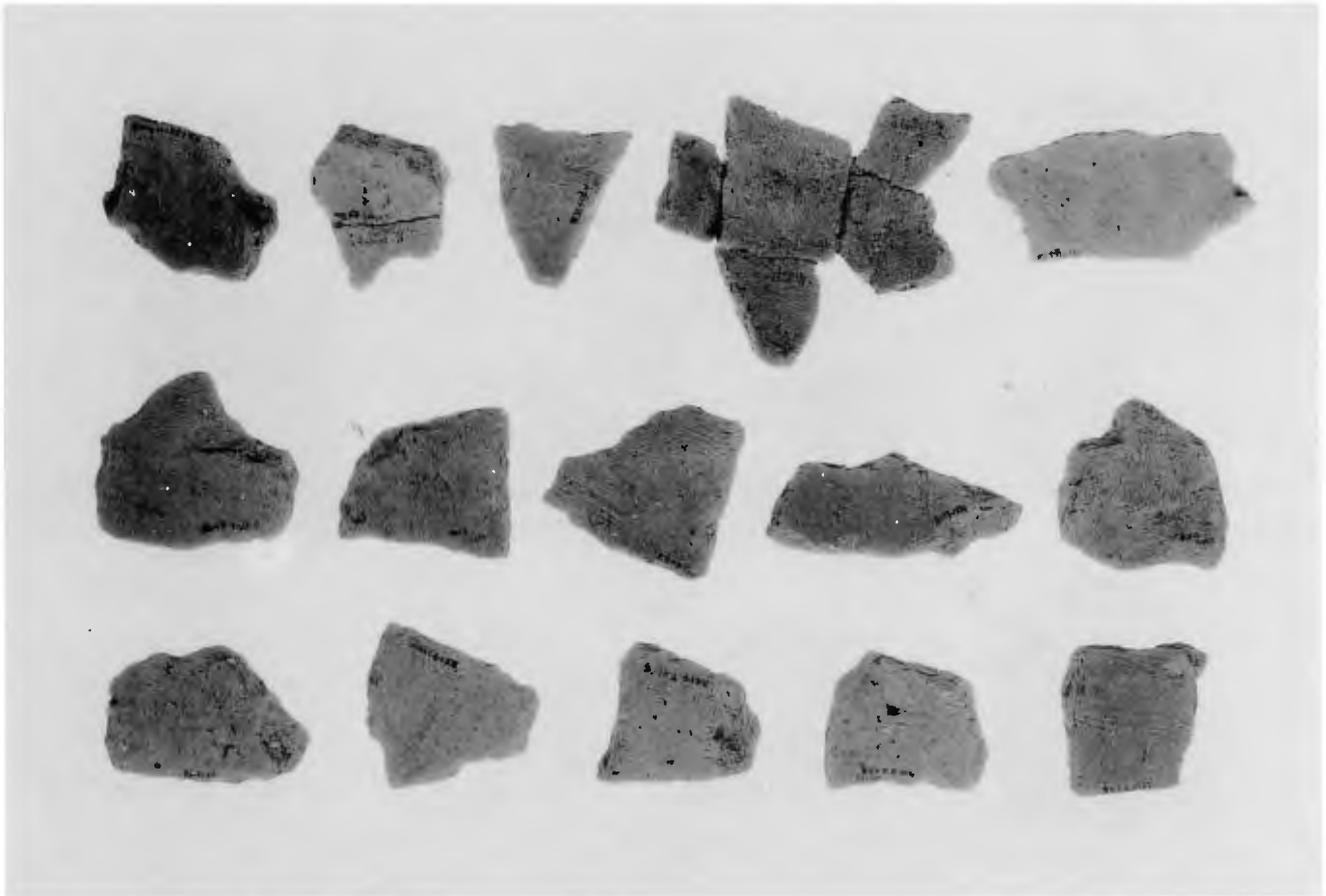
ST-20 円筒埴輪拓影資料 1~15



ST-22 円筒埴輪拓影資料 24~38



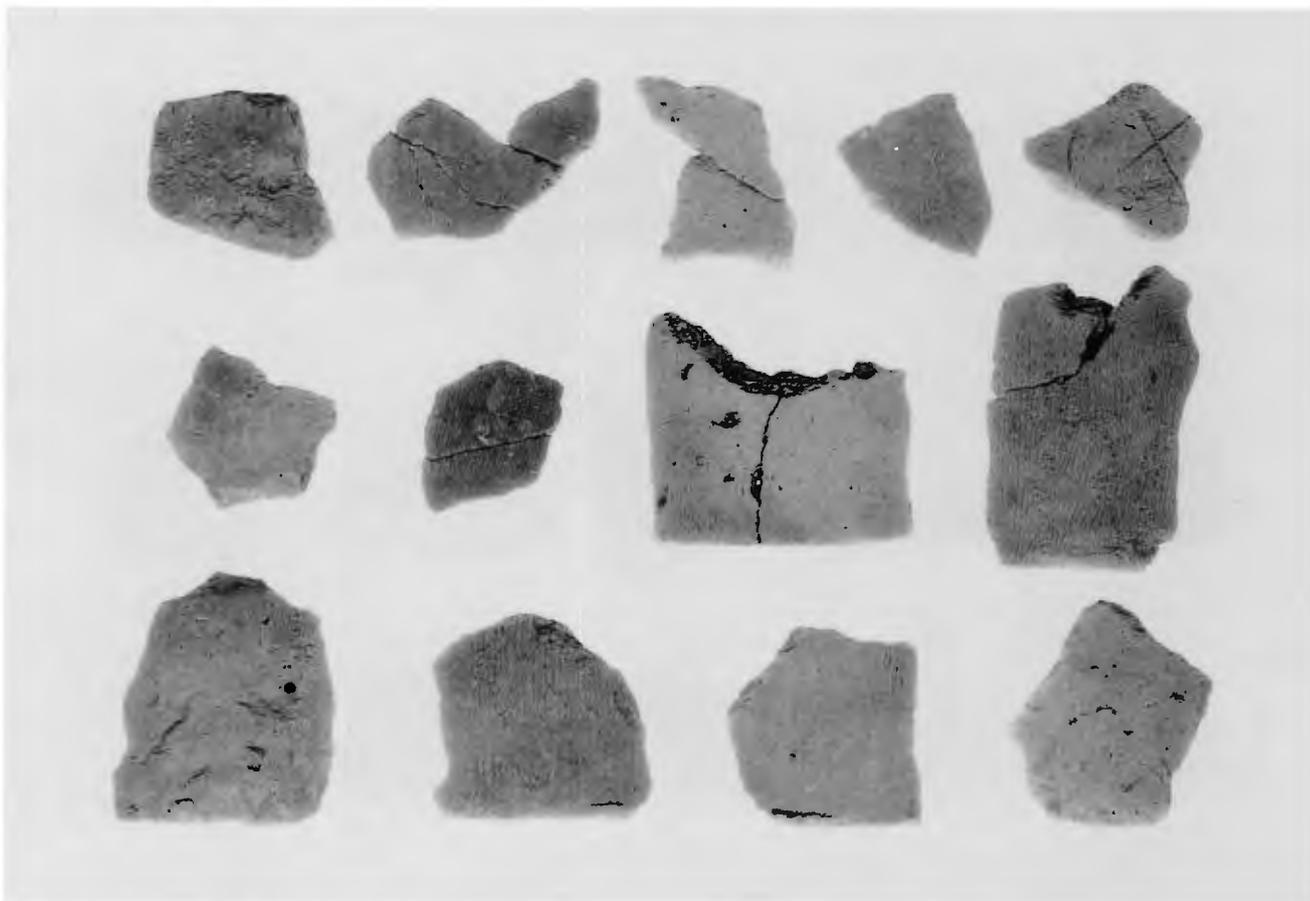
ST-22 円筒埴輪拓影資料 39~52



ST-22 円筒埴輪拓影資料 24~38



ST-22 円筒埴輪拓影資料 39~52



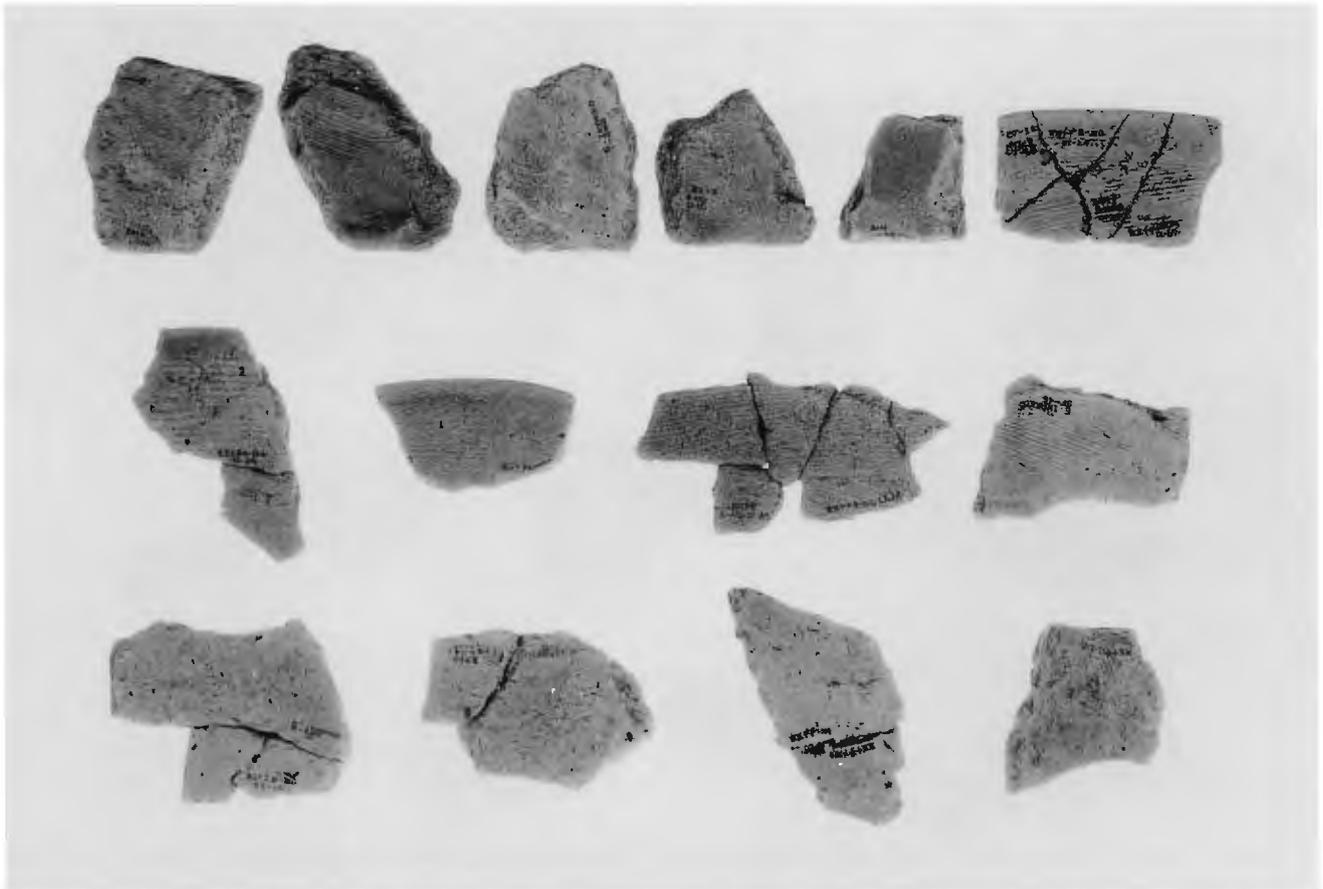
ST-22 円筒埴輪拓影資料 53~65



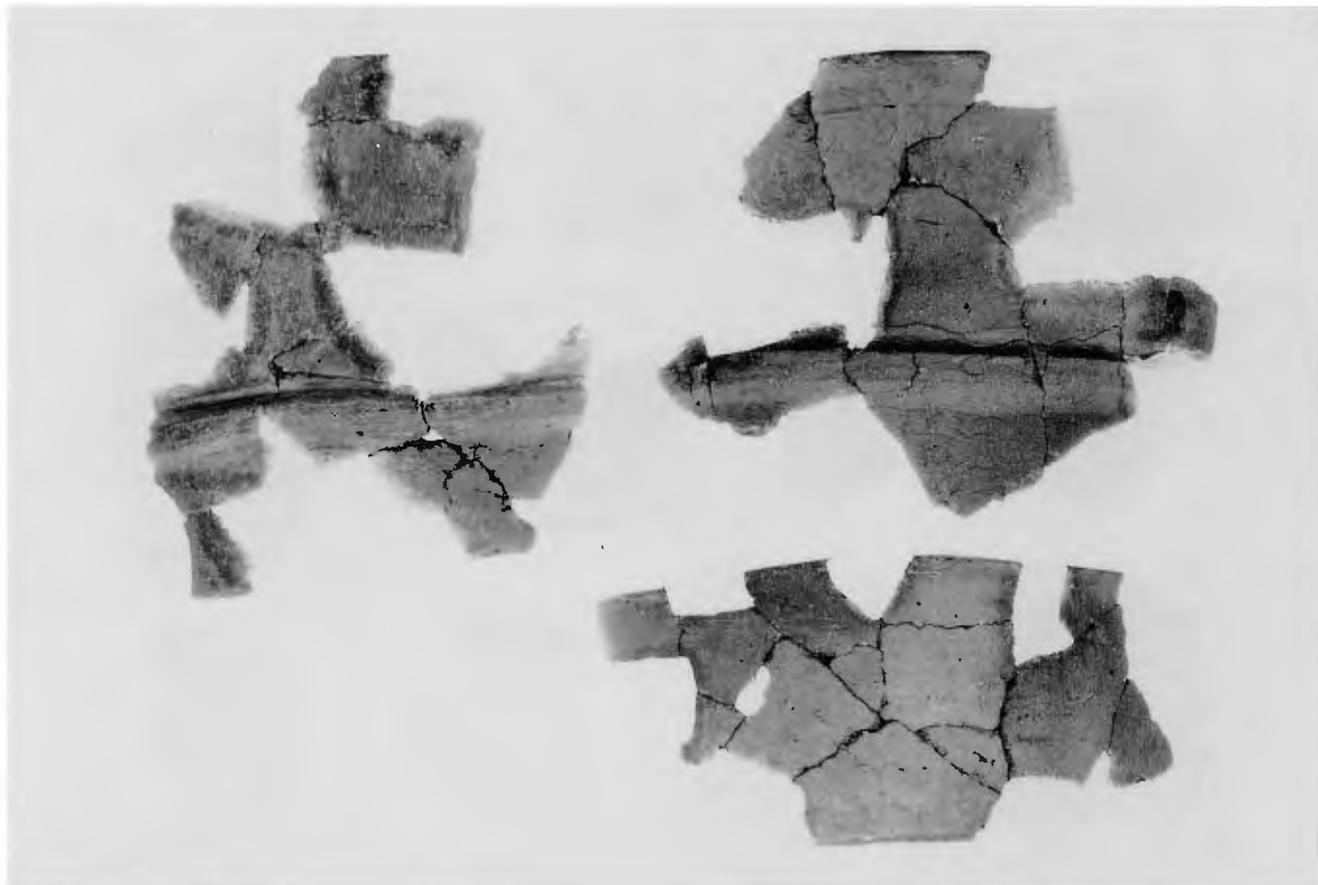
ST-22 円筒埴輪拓影資料 66~79



ST-22 円筒埴輪拓影資料 53~65



ST-22 円筒埴輪拓影資料 66~79



ST-23 円筒埴輪拓影資料 1~3



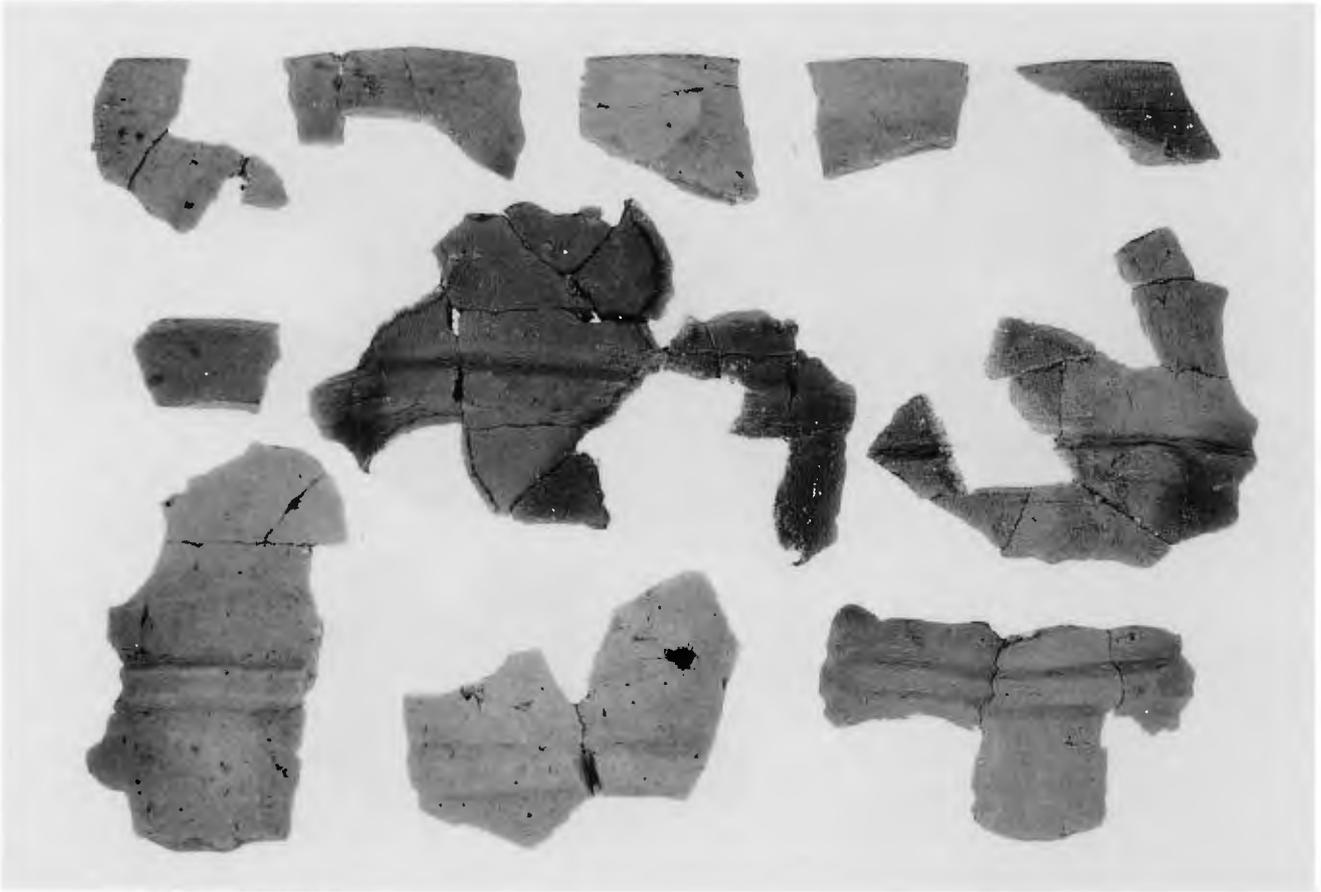
ST-23 円筒埴輪拓影資料 4~13



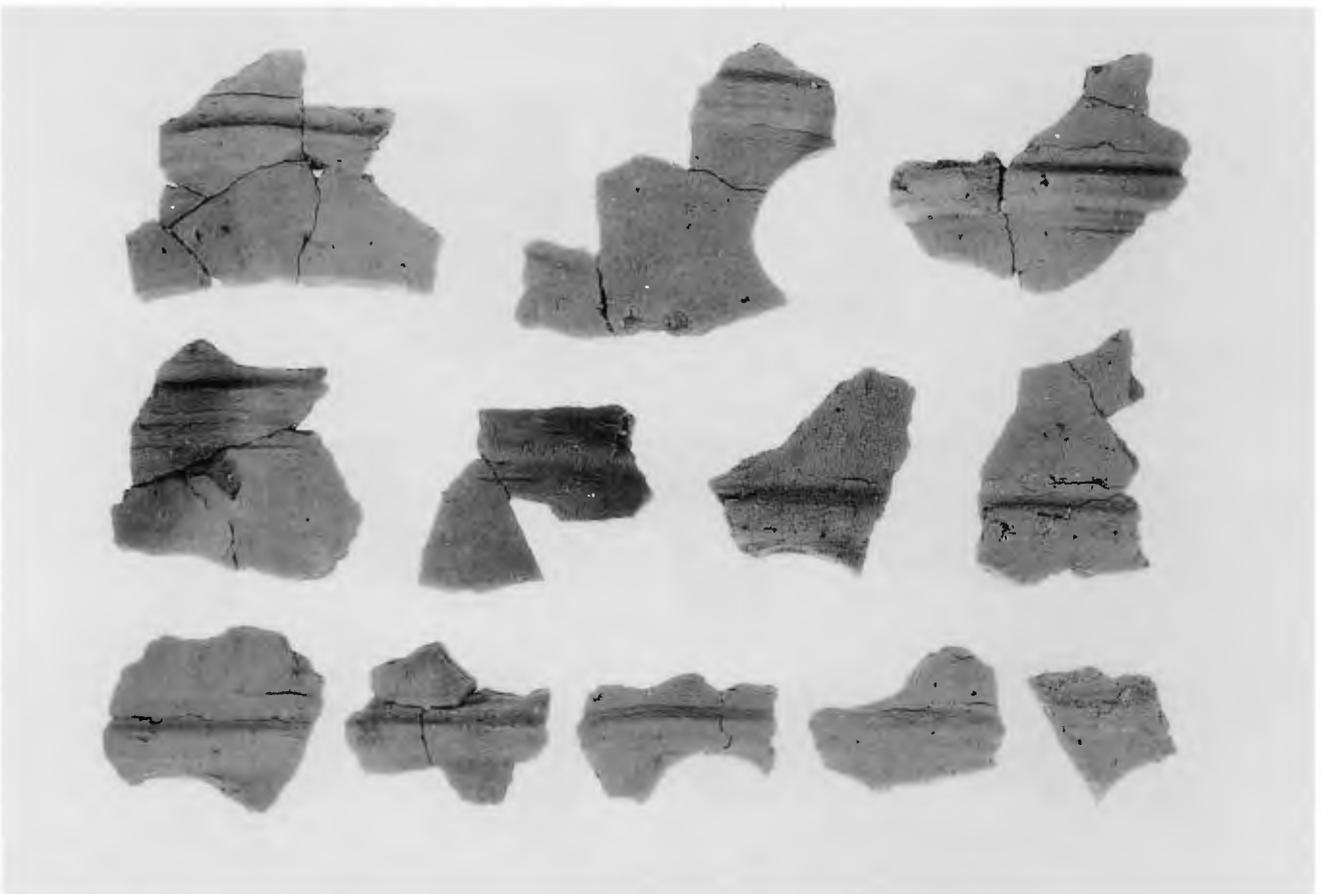
ST-23 円筒埴輪拓影資料 1~3



ST-23 円筒埴輪拓影資料 4~13



ST-23 円筒埴輪拓影資料 14~24



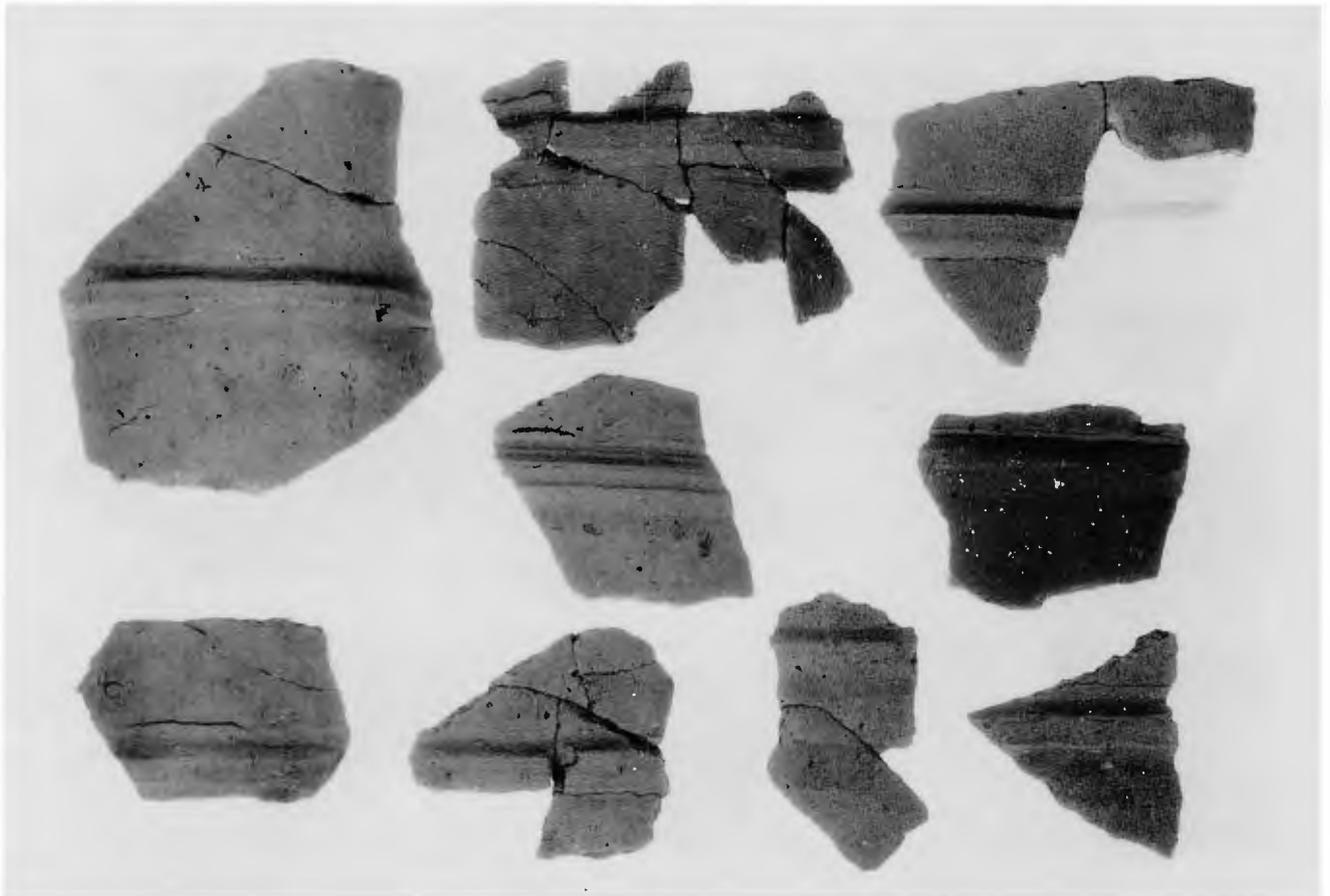
ST-23 円筒埴輪拓影資料 25~36



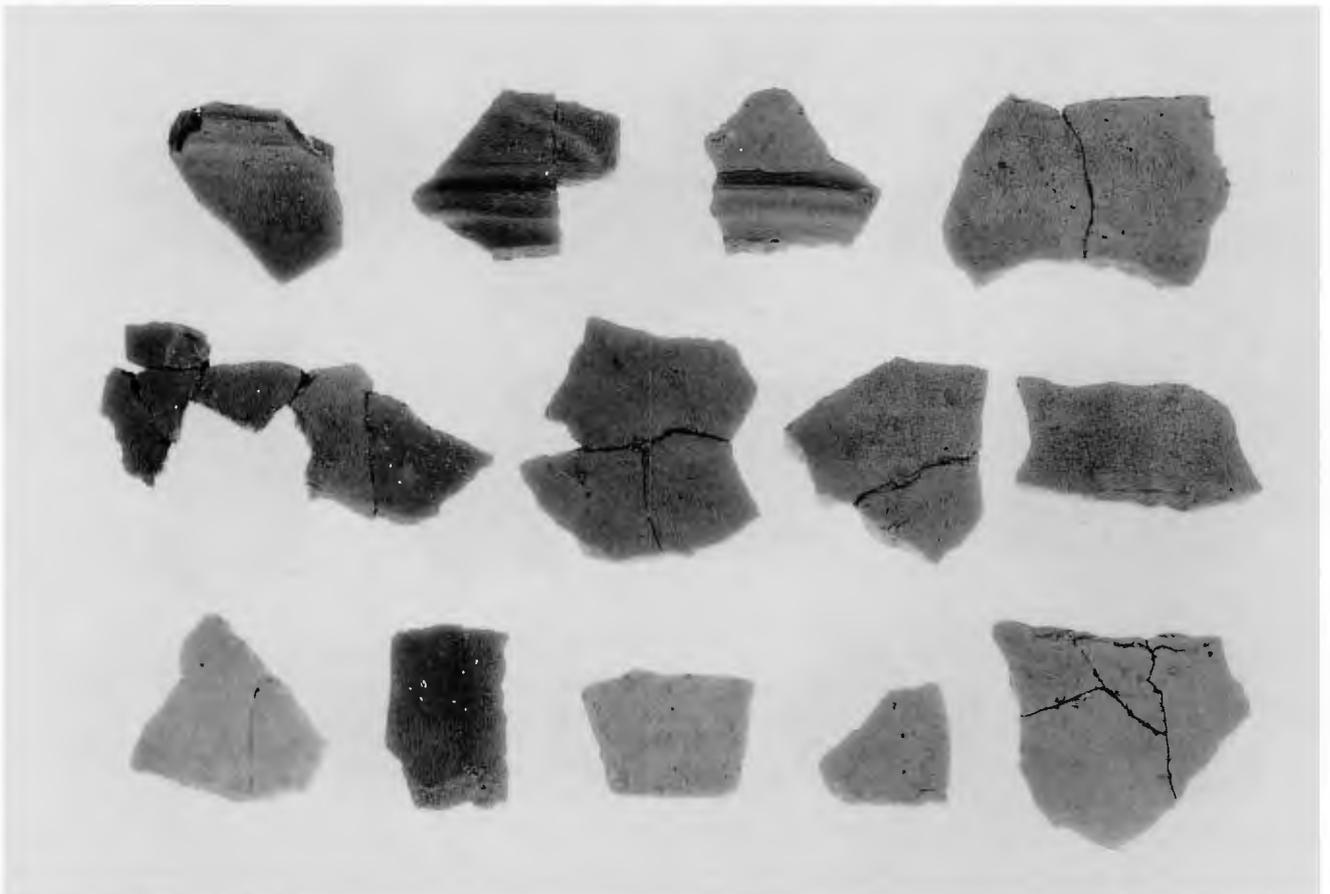
ST-23 円筒埴輪拓影資料 14~24



ST-23 円筒埴輪拓影資料 25~36



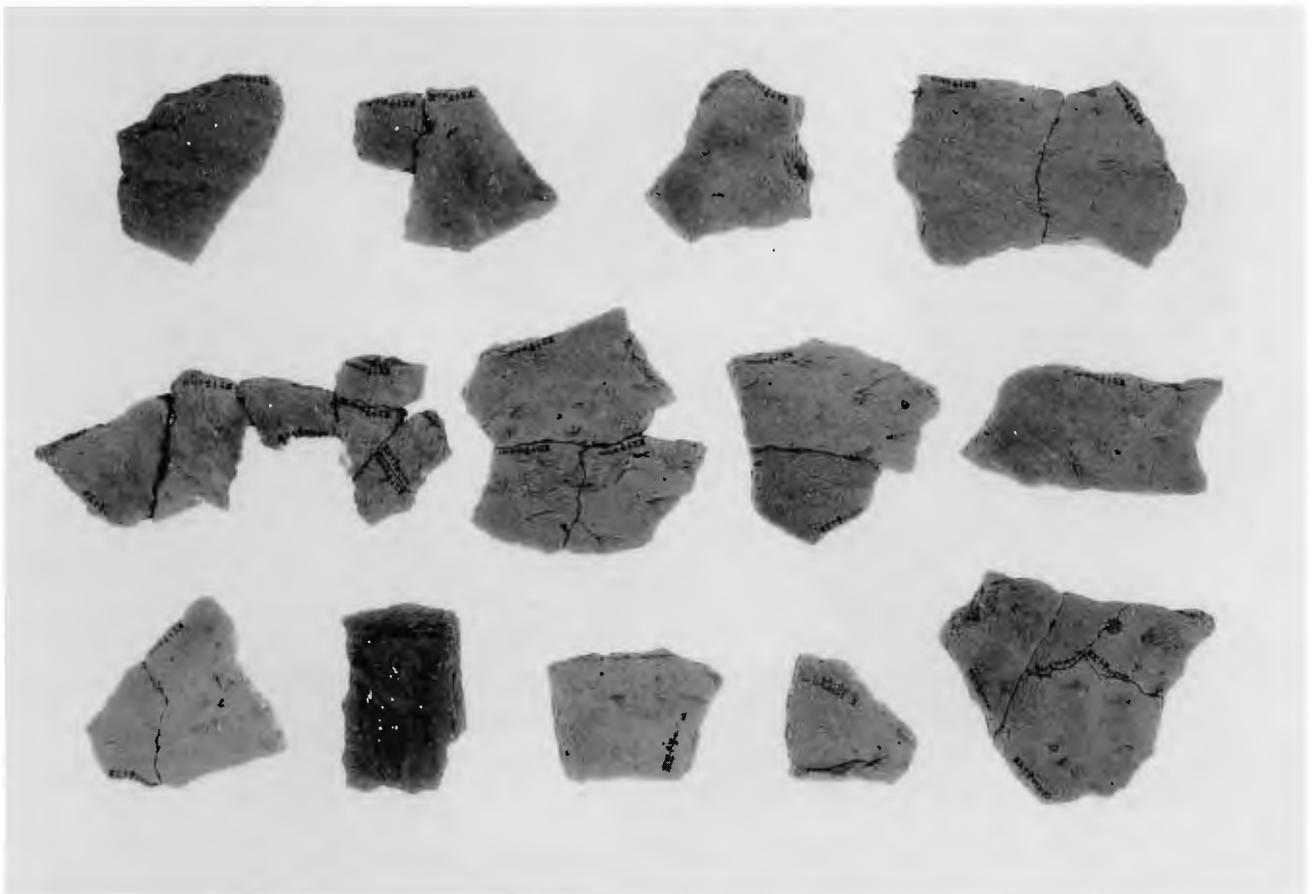
ST-23 円筒埴輪拓影資料 37~46



ST-23 円筒埴輪拓影資料 47~61



ST-23 円筒埴輪拓影資料 37~46



ST-23 円筒埴輪拓影資料 47~61



ST-26 円筒埴輪拓影資料 1~2



ST-26 円筒埴輪拓影資料 4~8



ST-26 円筒埴輪拓影資料 1~2



ST-26 円筒埴輪拓影資料 4~8



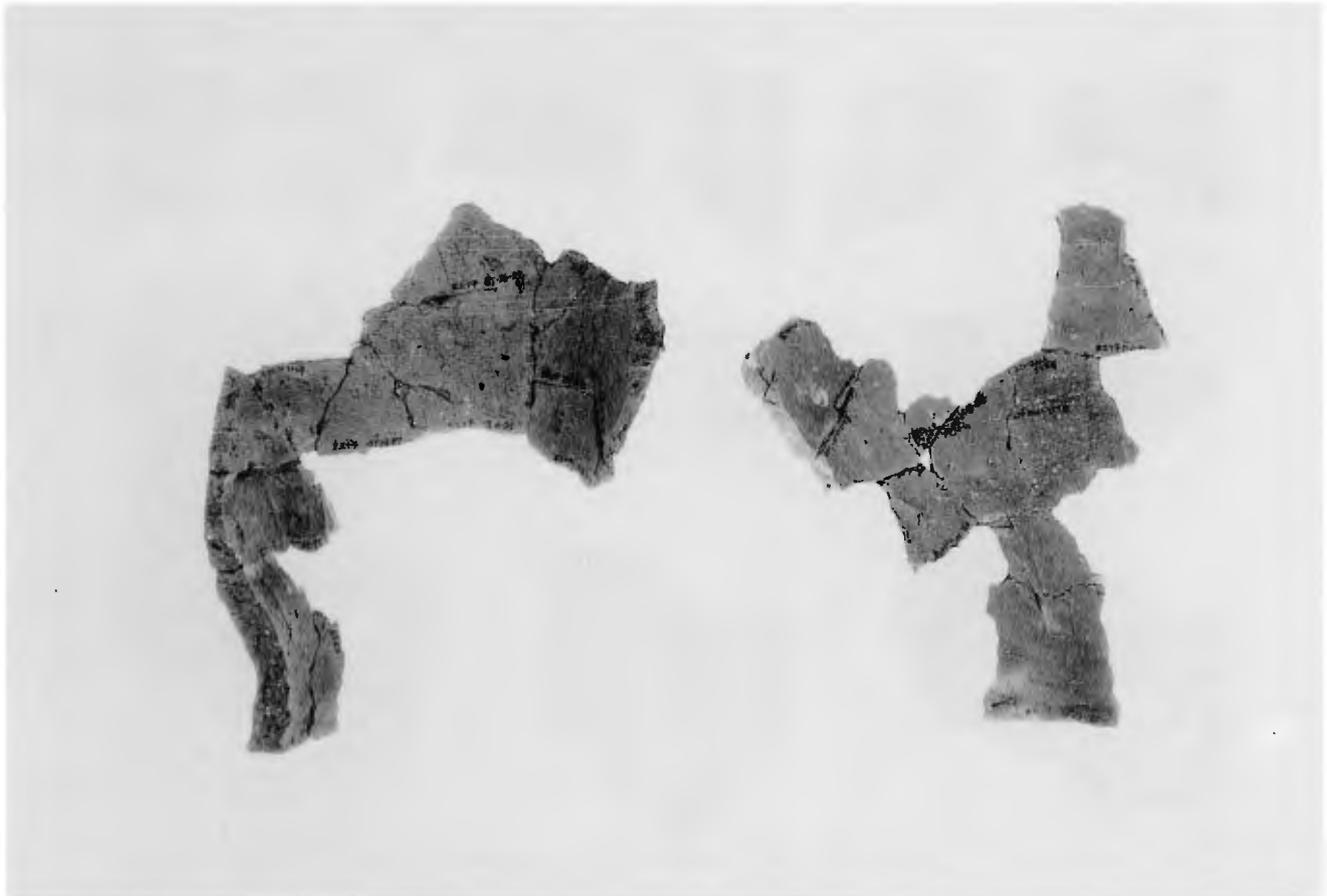
ST-26 円筒埴輪拓影資料 9~13



ST-26 円筒埴輪拓影資料 14~15



ST-26 円筒埴輪拓影資料 9~13



ST-26 円筒埴輪拓影資料 14~15



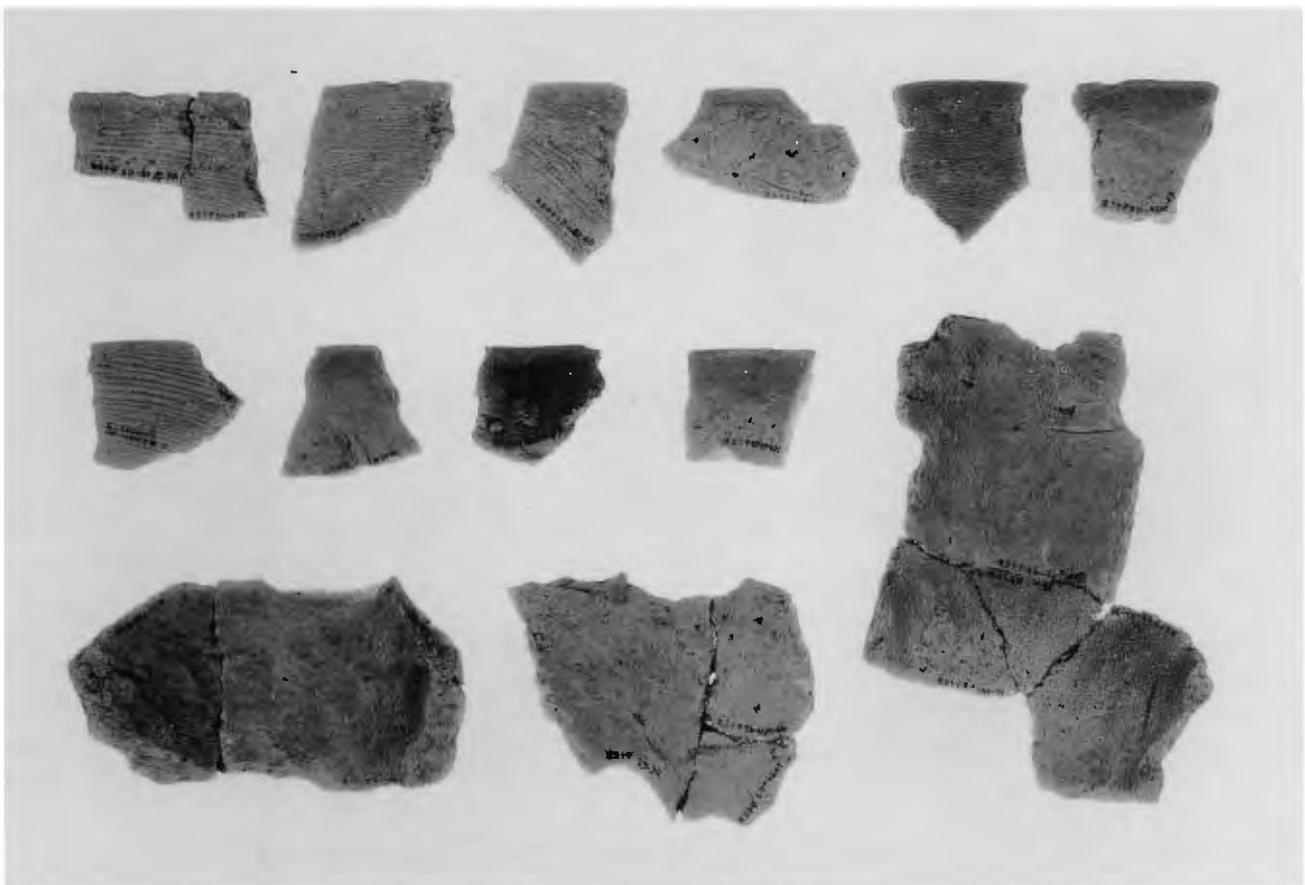
ST-29 円筒埴輪拓影資料 2~14



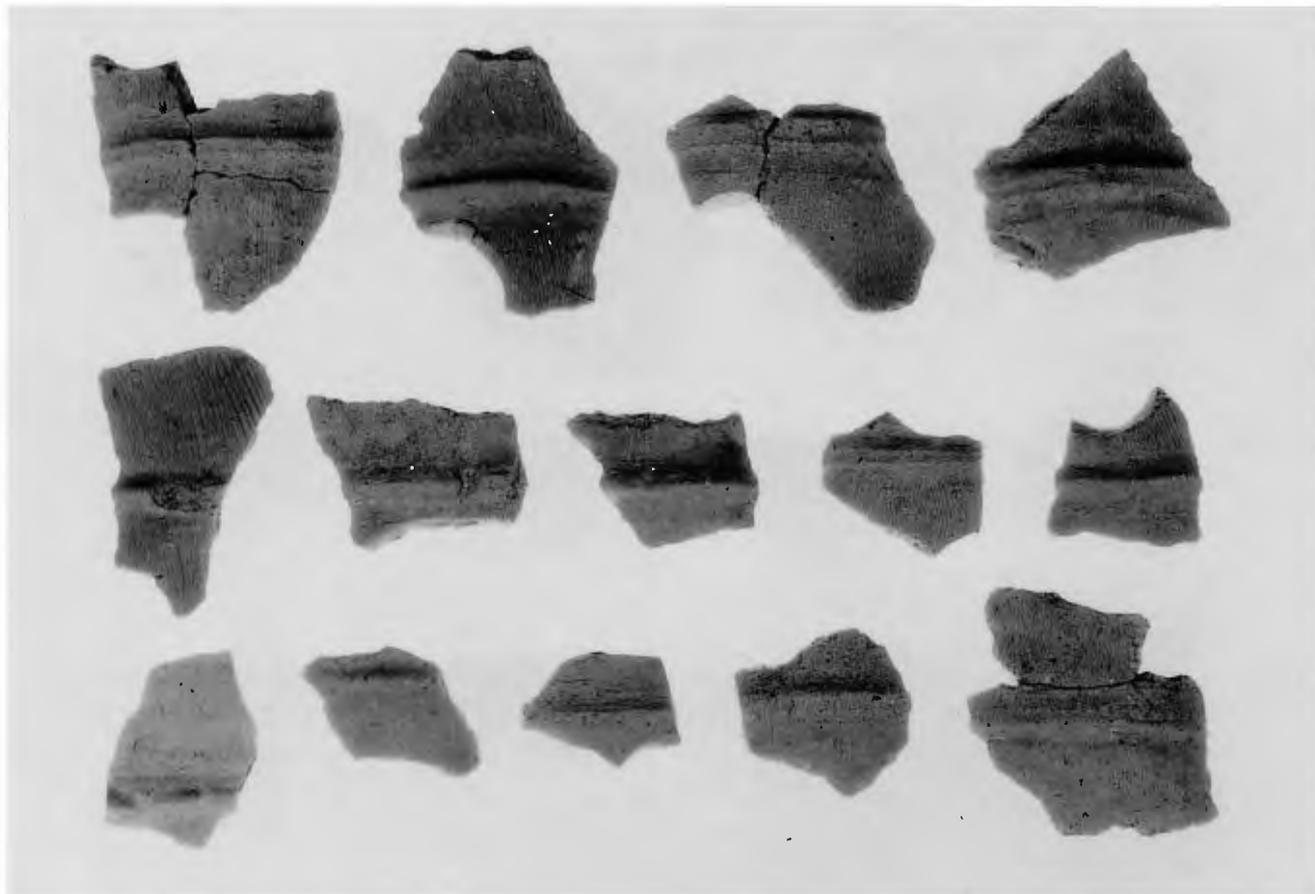
ST-29 円筒埴輪拓影資料 15~25



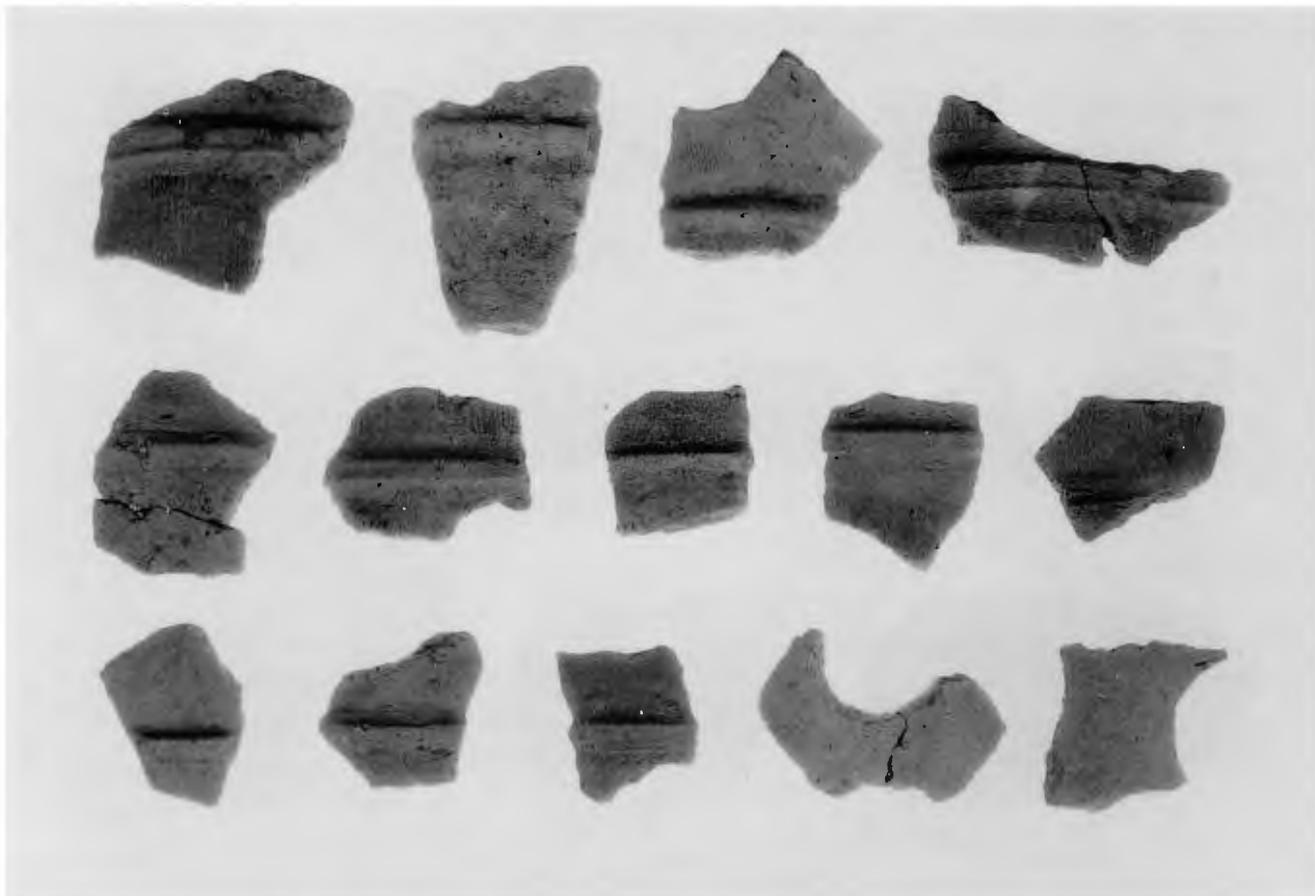
ST-29 円筒埴輪拓影資料 2~14



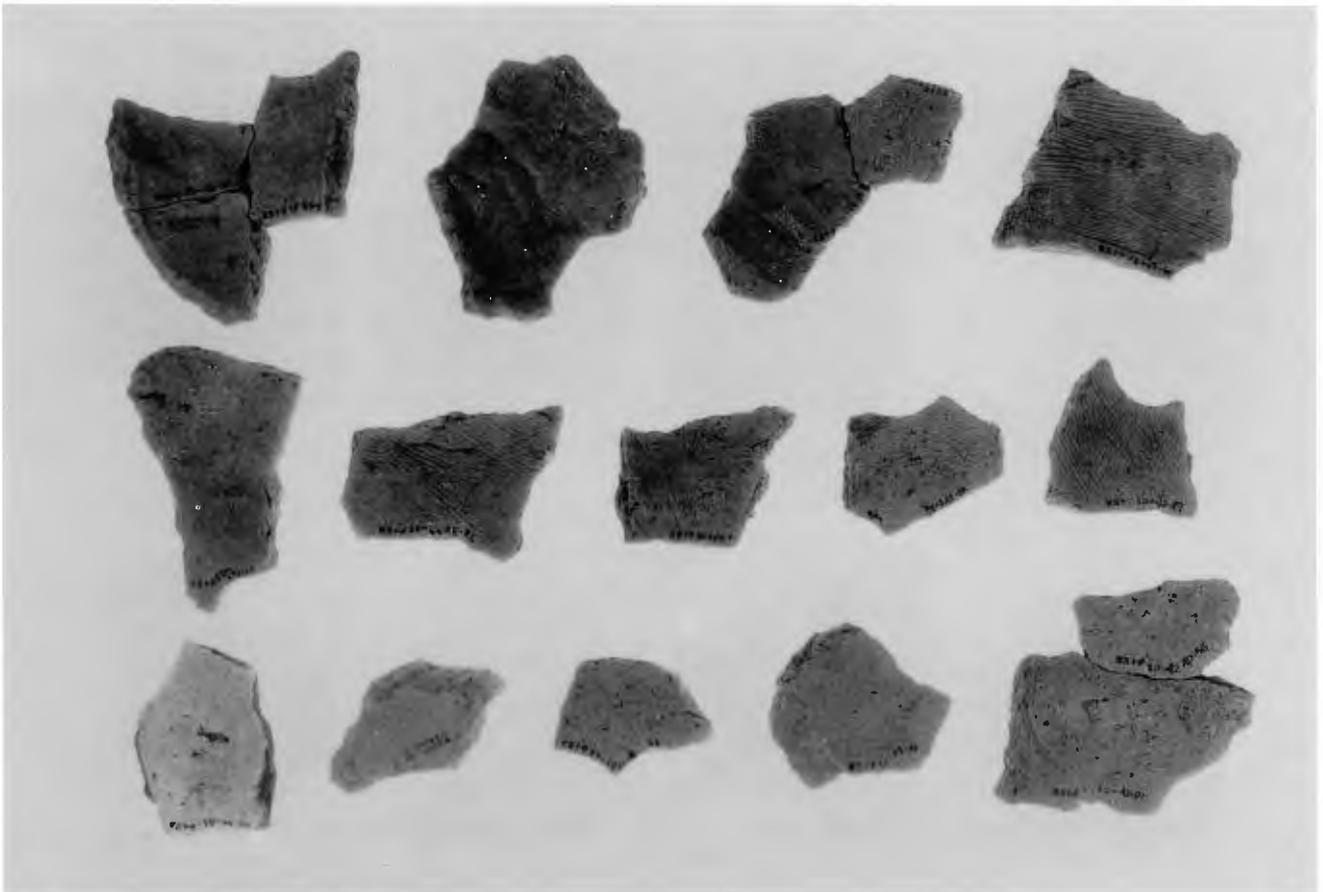
ST-29 円筒埴輪拓影資料 15~25



ST-29 円筒埴輪拓影資料 28~41



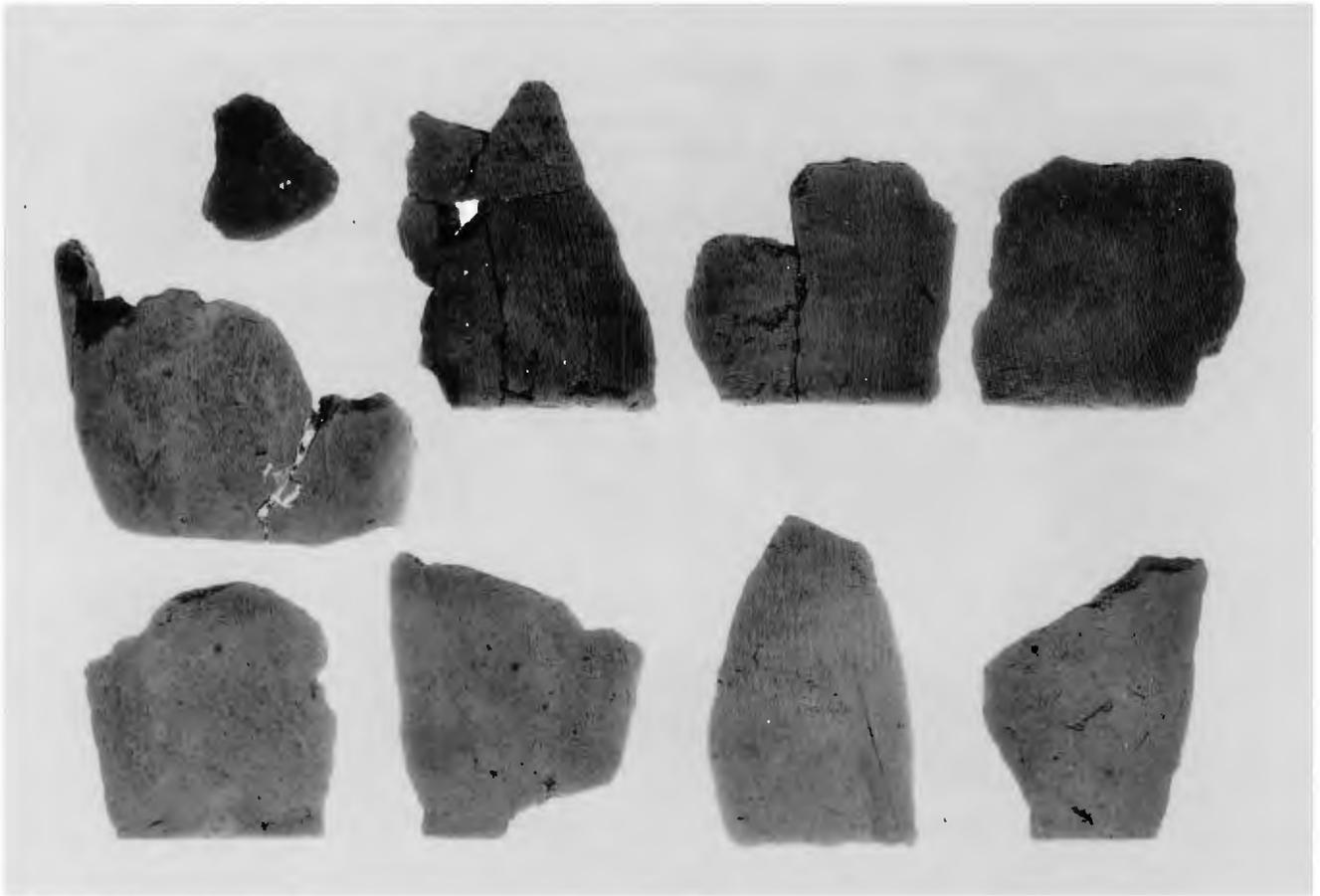
ST-29 円筒埴輪拓影資料 42~55



ST-29 円筒埴輪拓影資料 28~41



ST-29 円筒埴輪拓影資料 42~55



ST-29 円筒埴輪拓影資料 56~64



ST-29 円筒埴輪拓影資料 65~80



ST-29 円筒埴輪拓影資料 56~64



ST-29 円筒埴輪拓影資料 65~80



ST-01 形象埴輪 1



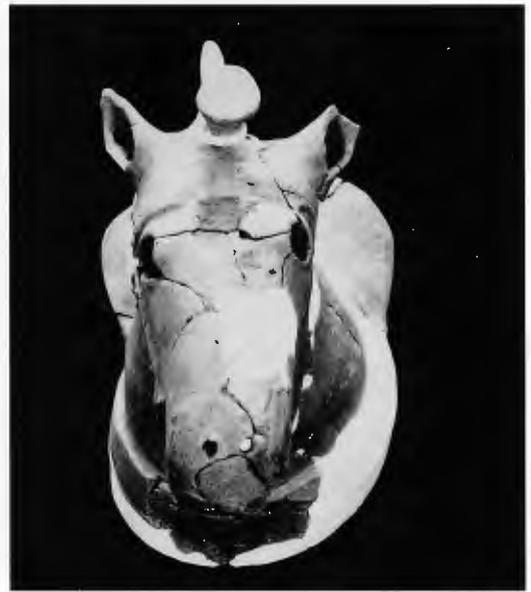
ST-02 形象埴輪 1



ST-02 形象埴輪 4



ST-11 形象埴輪 2



ST-12 形象埴輪 8



ST-18 形象埴輪 1



ST-18 形象埴輪 7



ST-18 形象埴輪 8



ST-18 形象埴輪 9





ST-23 形象埴輪 2a

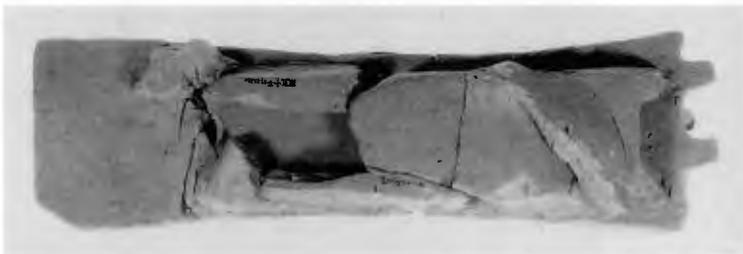
ST-23 形象埴輪 2b



ST-23 形象埴輪 2c



ST-23 形象埴輪 1a

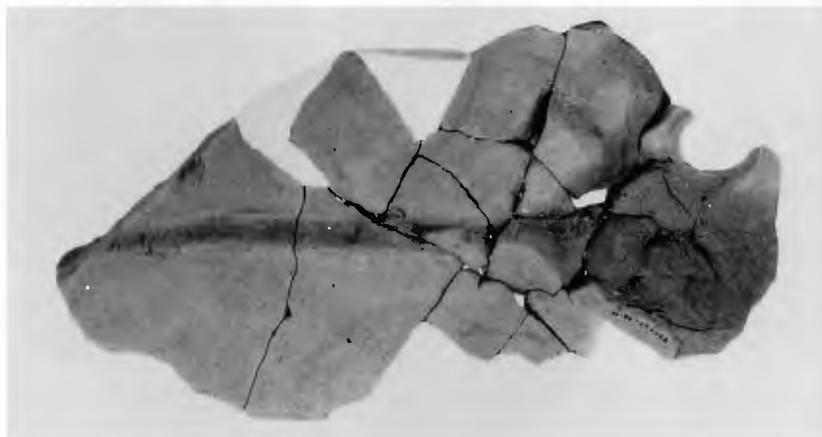


ST-23 形象埴輪 1b

ST-23 形象埴輪 1c



ST-28 形象埴輪 8



ST-28 形象埴輪 9

ST-28 形象埴輪 9



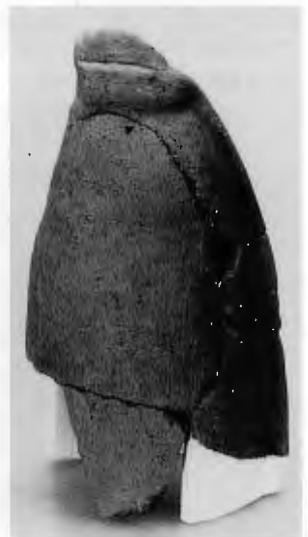
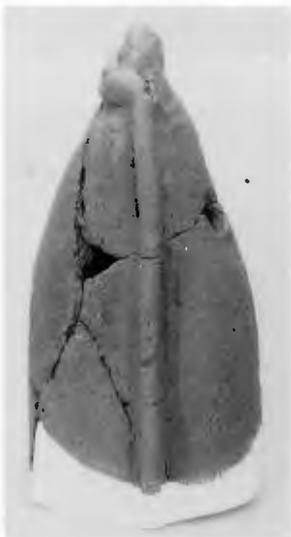
ST-28 形象埴輪 9



ST-28 形象埴輪 9



ST-29 形象埴輪 48



ST-29 形象埴輪 55



ST-00 形象埴輪 1~10 ST-01 形象埴輪 1



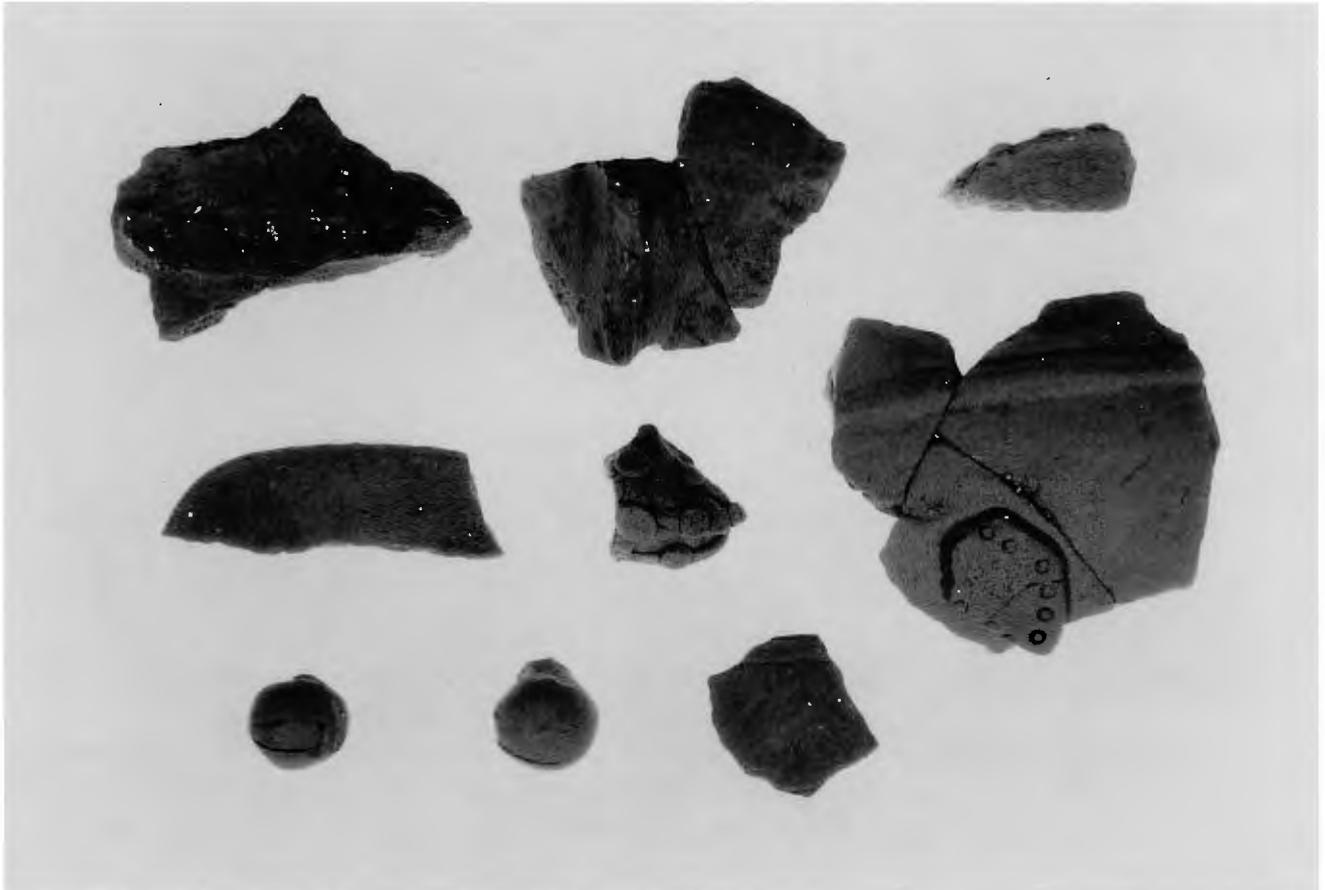
ST-01 形象埴輪 11~20



ST-02 形象埴輪 2・3・5~7 ST-03 形象埴輪 1 ST-06 形象埴輪 1・2



ST-07 形象埴輪 1~9



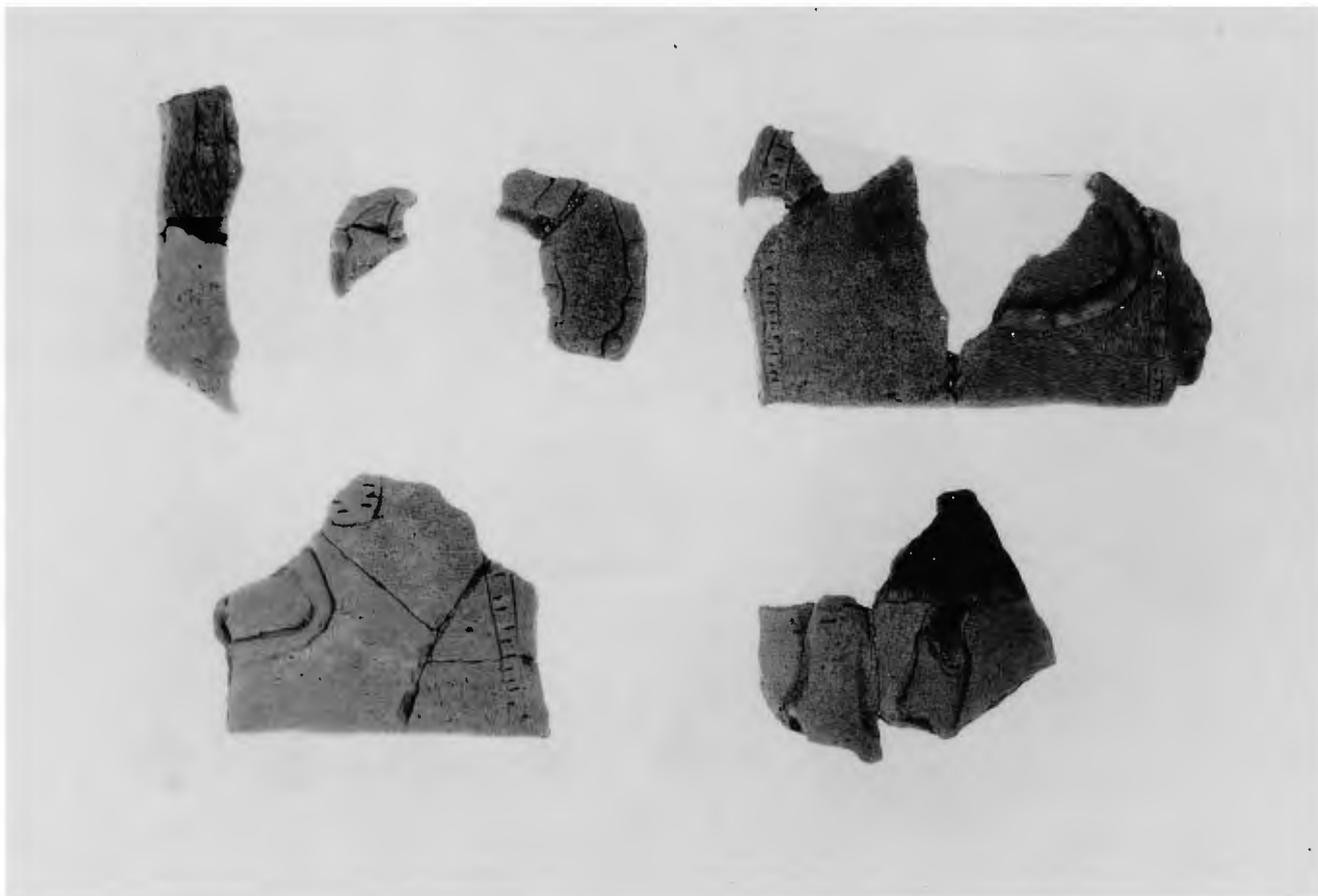
ST-07 形象埴輪 10~18



ST-10 形象埴輪 1~3 ST-11 形象埴輪 1・3~12



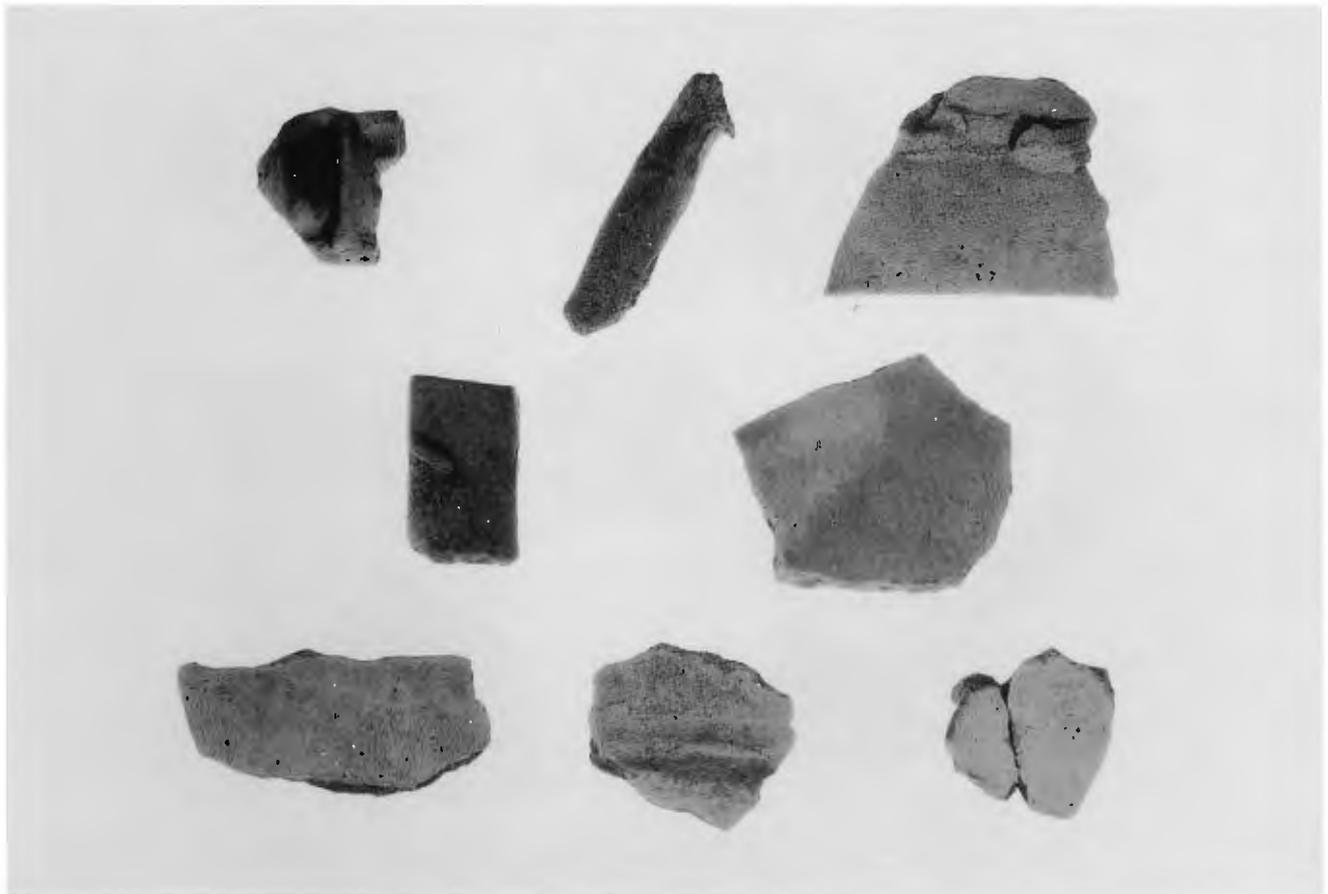
ST-12 形象埴輪 1~6



ST-12 形象埴輪 7・9~13



ST-12 形象埴輪 14~19



ST-17 形象埴輪 1~8



ST-18 形象埴輪 2~6・11~19



ST-20 形象埴輪 1~10



ST-22 形象埴輪 93~99



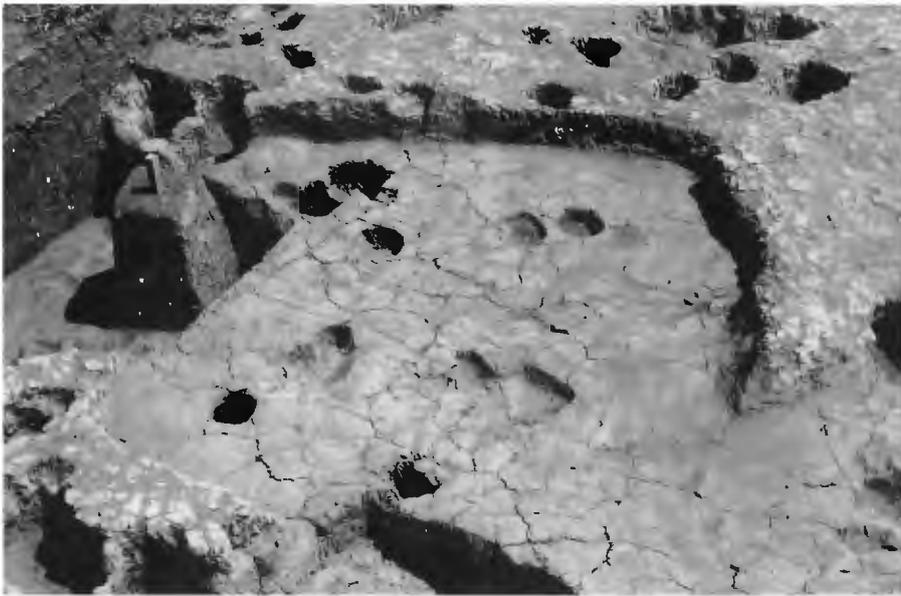
ST-23 形象埴輪 3~10



ST-23 形象埴輪 11~17



ST-28 形象埴輪 1~7



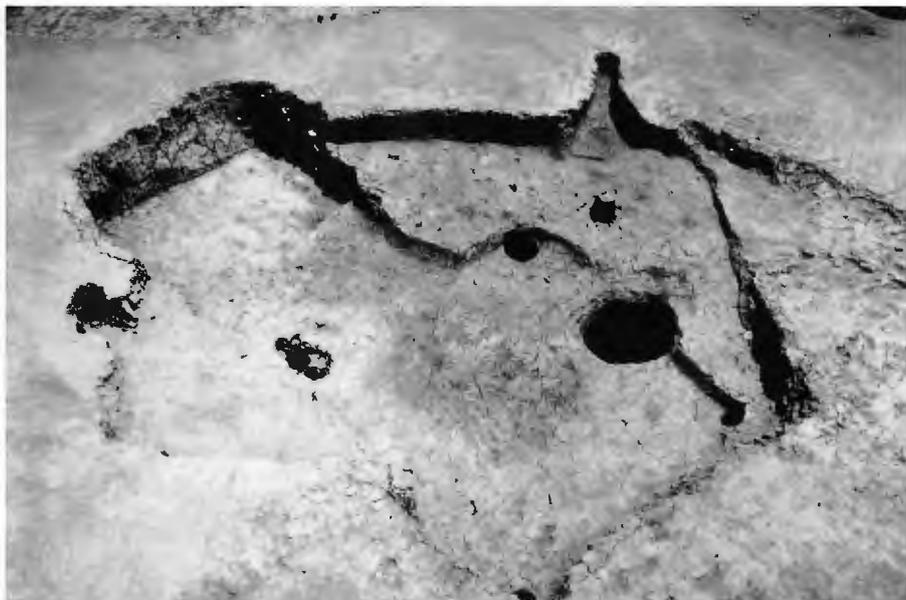
SI-02 床面検出状況



SI-02 床面遺物検出状況



SI-04 掘り方検出状況



SI-06 床面検出状況



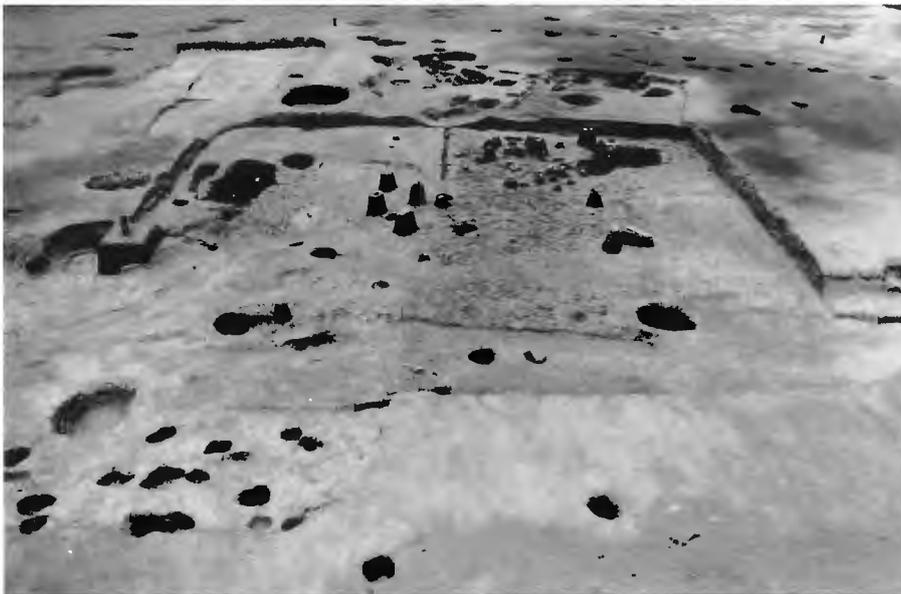
SI-13 掘り方検出状況



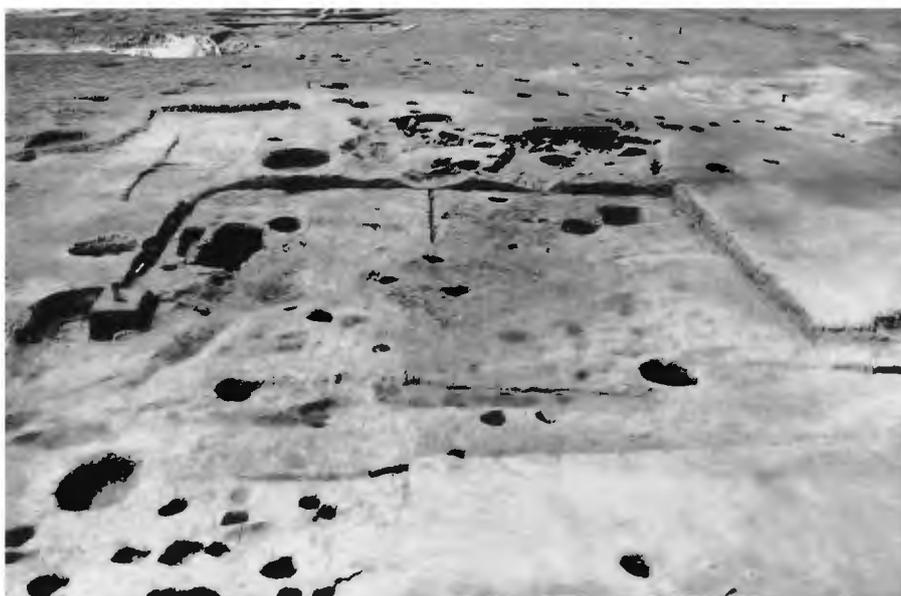
SI-14 床面遺物検出状況



SI-19 床面検出状況



SI-20 床面遺物検出状況



SI-20 掘り方検出状況



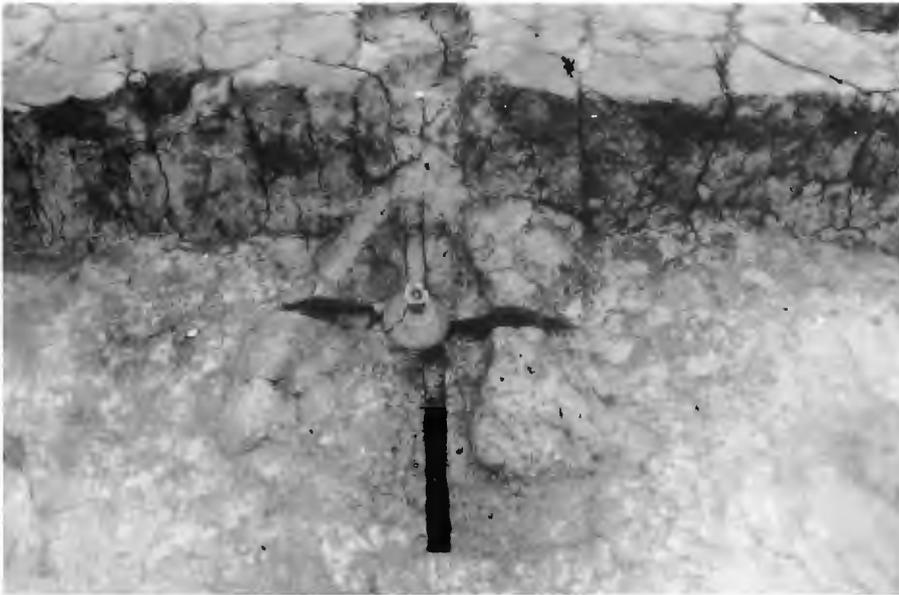
SI-23 遺物検出状況



SI-23 床面検出状況



SI-23 掘り方検出状況



SI-23 カマド検出状況



SI-23 カマド検出状況



SI-23 貯蔵穴遺物検出状況



SI-24 掘り方検出状況



SI-24 遺物検出状況



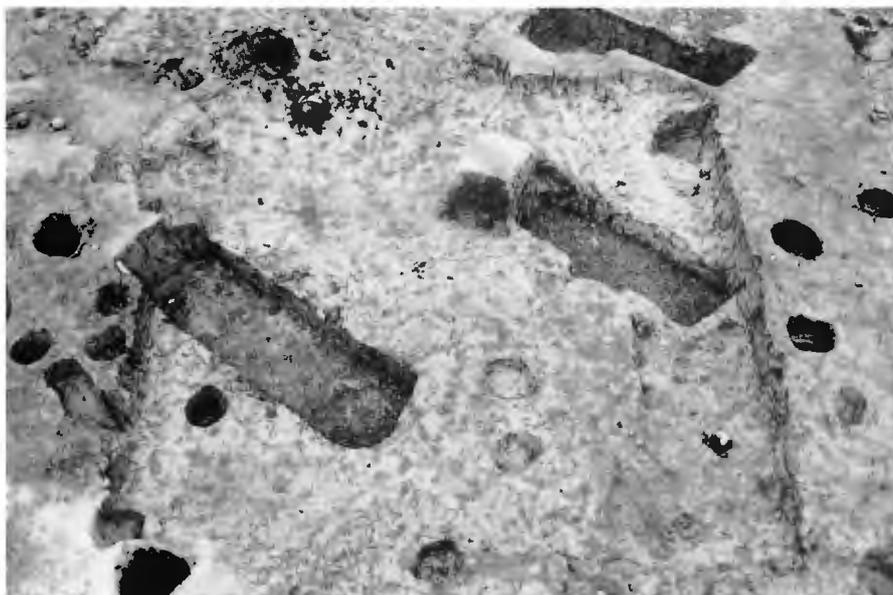
SI-28 掘り方検出状況



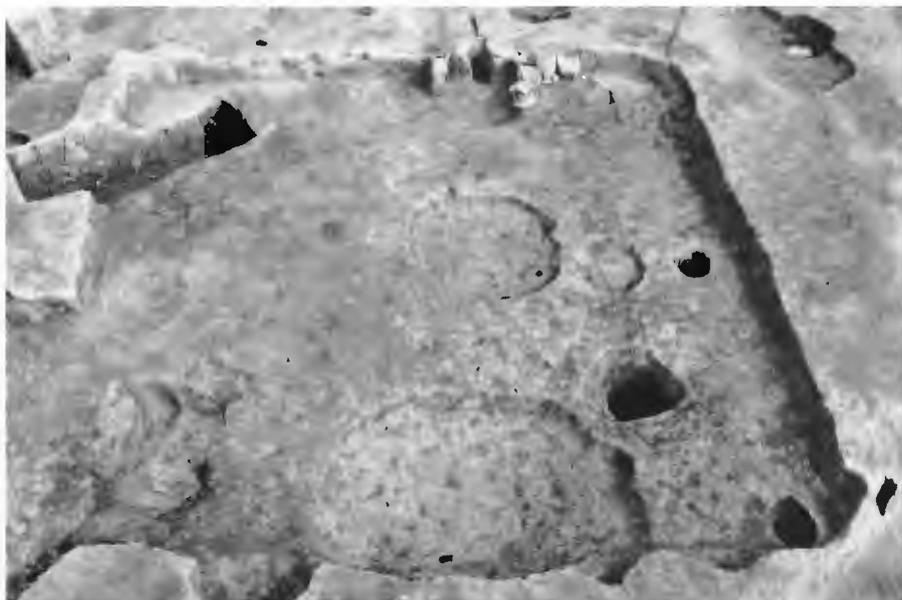
SI-30 床面検出状況



SI-30 遺物検出状況



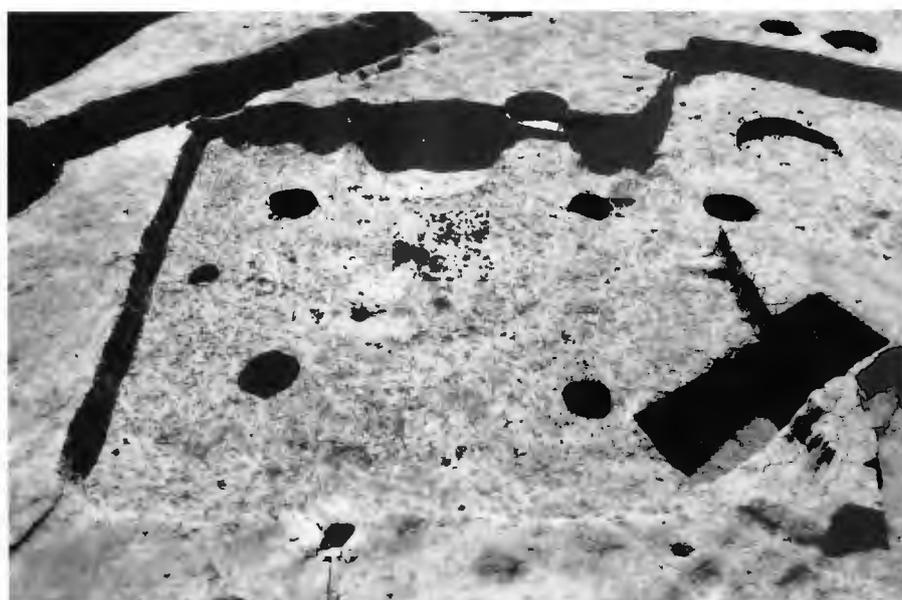
SI-31 床面検出状況



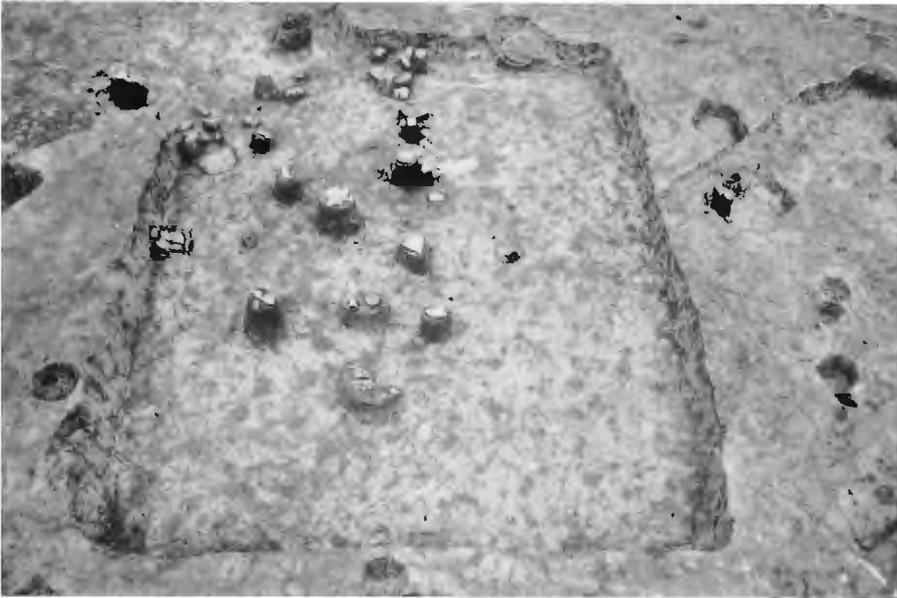
SI-32 床面遺物検出状況



SI-32 カマド検出状況



SI-32 掘り方検出状況



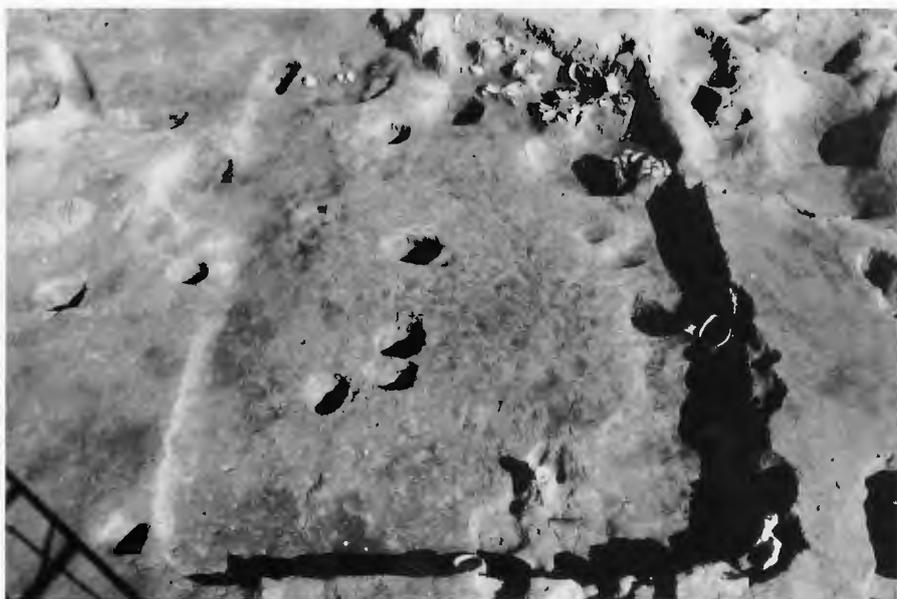
SI-33 遺物検出状況



SI-33 床面検出状況



SI-34・35 床面遺物検出状況



SI-45 遺物検出状況



SI-45 床面検出状況



SI-58 床面検出状況



SI-60 床面検出状況



SI-60 紡錘車検出状況



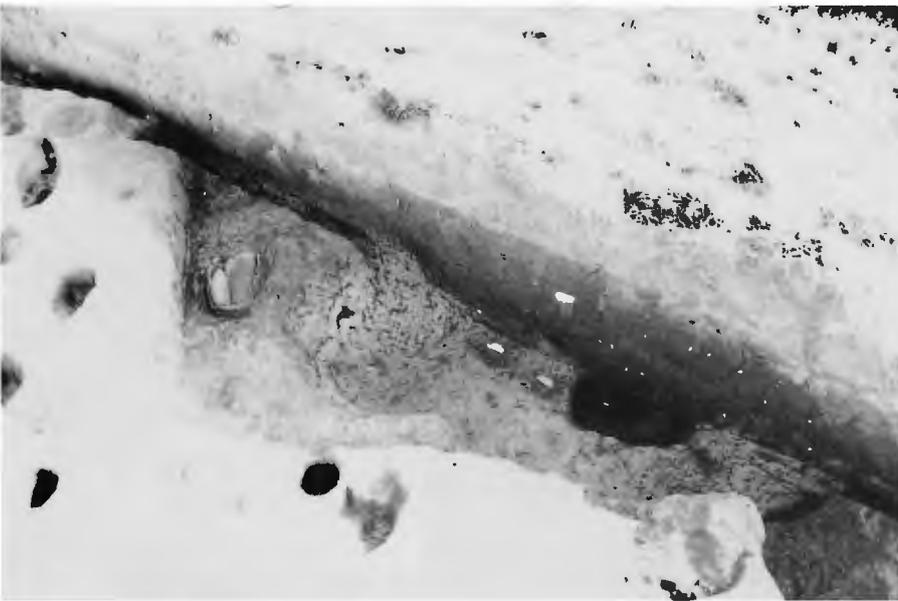
SI-59 遺物検出状況



SI-59 遺物検出状況



SI-63 床面検出状況



SI-64 掘り方検出状況



SI-65 床面遺物検出状況



SI-65 掘り方検出状況



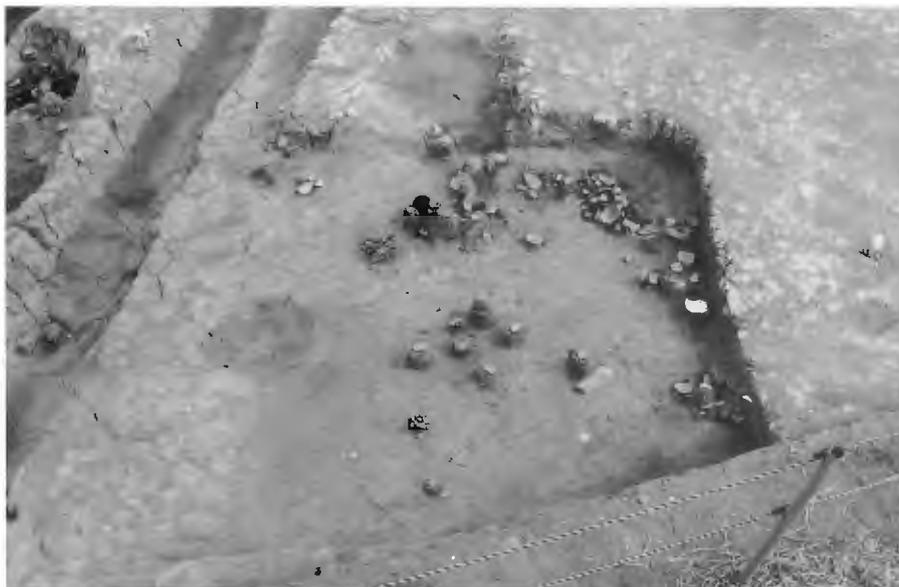
SI-65 カマド検出状況



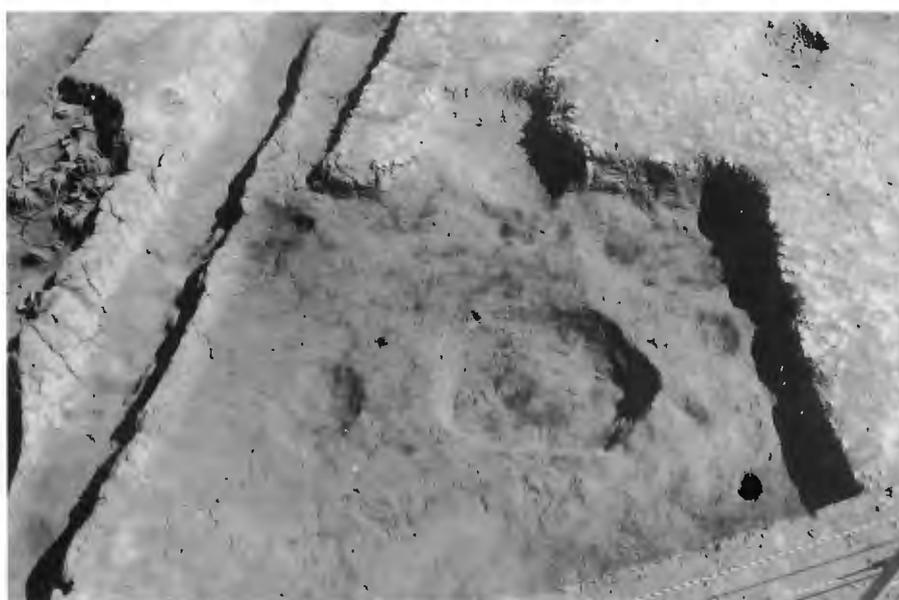
SI-66 遺物検出状況



SI-66 遺物検出状況



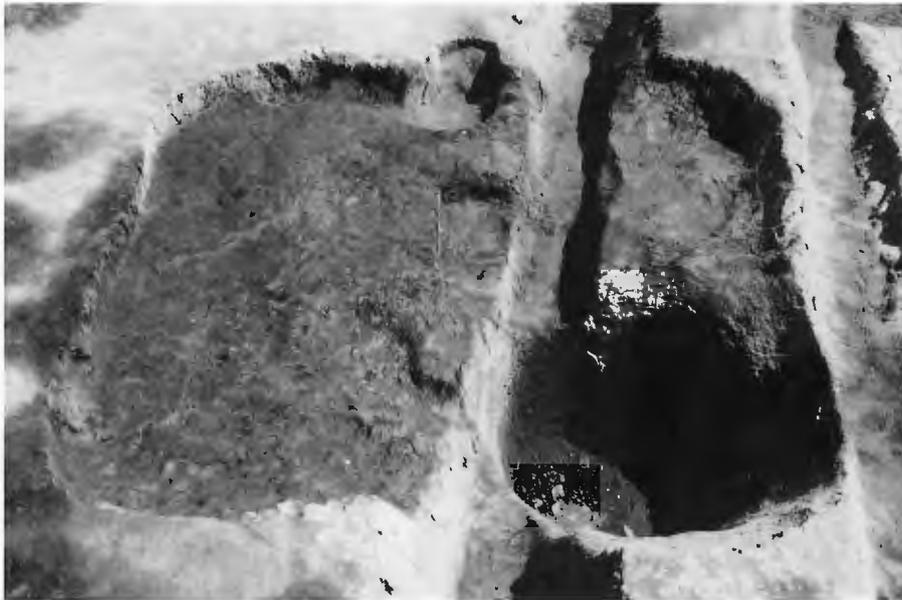
SI-70 遺物検出状況



SI-70 床面検出状況



SI-71 遺物検出状況



SI-71 床面検出状況



SI-72 床面遺物検出状況



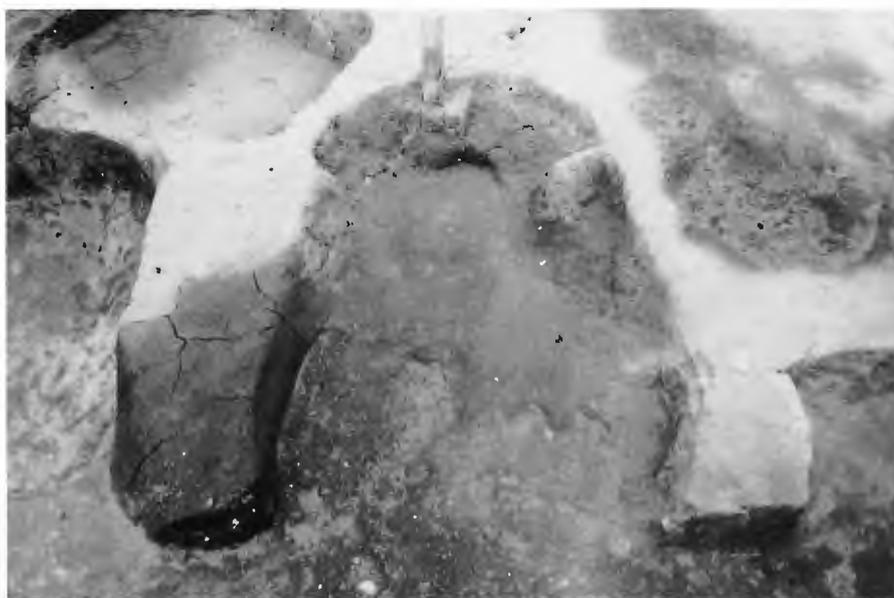
SI-73 床面遺物検出状況



SI-74 床面検出状況



SI-75 床面検出状況



SI-75 カマド検出状況



SI-77 遺物検出状況



SI-77 カマド遺物検出状況



SI-77 床面検出状況



SI-78 遺物検出状況



SI-78 床面検出状況



SI-78 掘り方検出状況



SI-04-1



SI-15-1



SI-07-1



SI-16-1



SI-13-8



SI-23-1



SI-14-1



SI-23-5



SI-14-2



SI-23-6



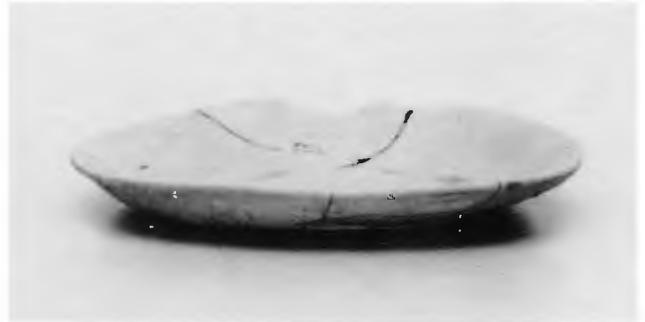
SI-23-7



SI-27-1



SI-23-8



SI-27-5



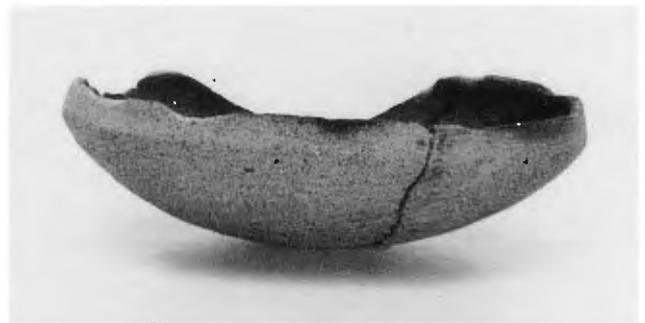
SI-23-9



SI-30-4



SI-23-13



SI-31-2



SI-23-14



SI-34-1



SI-34-2



SI-60-3



SI-40-2



SI-63-2



SI-40-3



SI-63-9



SI-58-5



SI-63-10



SI-59-1



SI-63-11



SI-69-1



SI-72-1



SI-70-3



SI-73-2



SI-71-1



SI-73-3



SI-71-2



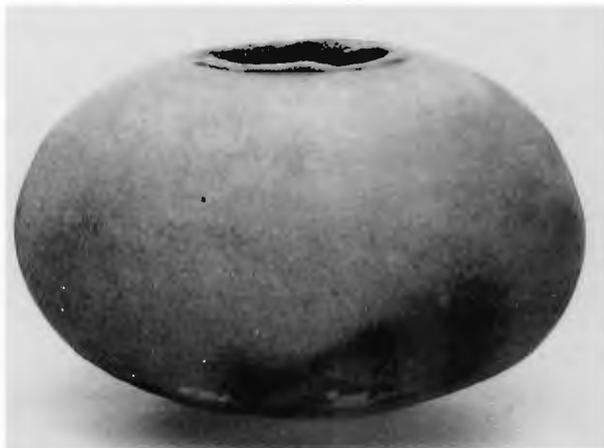
SI-76-1



SI-71-4



SI-78-9



SI-23-4



SI-23-21



SI-23-26



SI-28-11



SI-30-1



SI-30-3



SI-30-2



SI-50-4



SI-04-7



SI-14-9



SI-23-23



SI-25-4



SI-28-6



SI-30-5



SI-32-3



SI-60-9



SI-71-12



SI-71-16



SI-77-8



SI-78-11



SI-32-5



SI-32-6



SI-59-7



SI-59-8



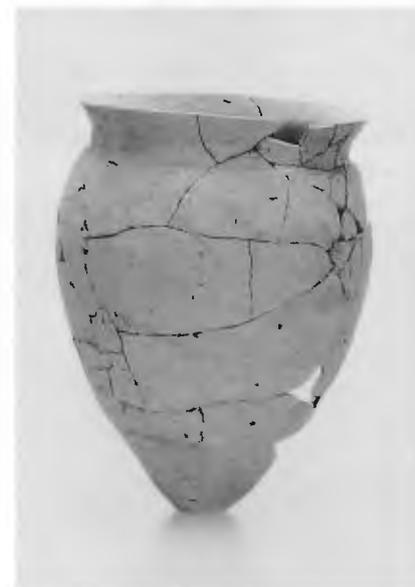
SI-60-13



SI-60-14



SI-64-1



SI-69-6



SI-73-17



SI-73-19



SI-73-20



SI-76-9



SI-76-11



SI-76-12



SI-78-13



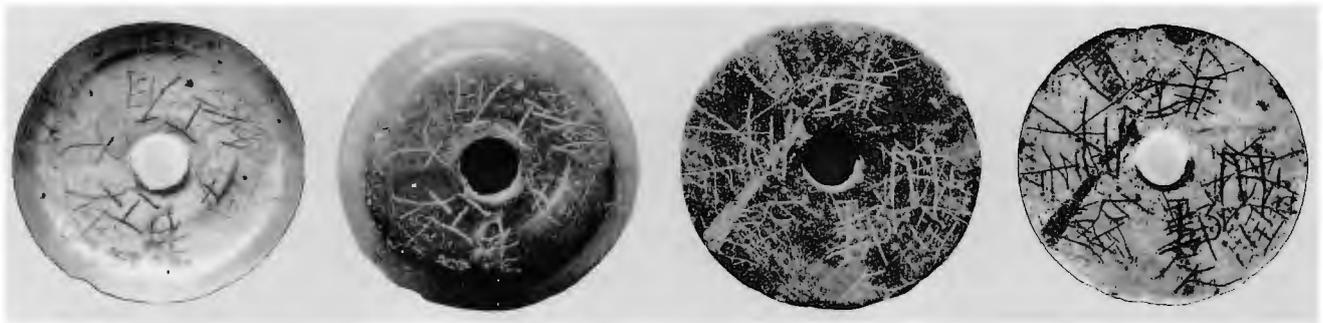
SI-78-14



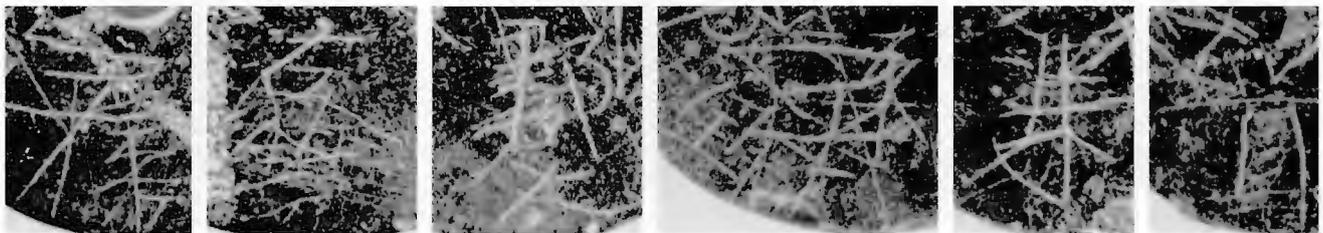
SI-78-16



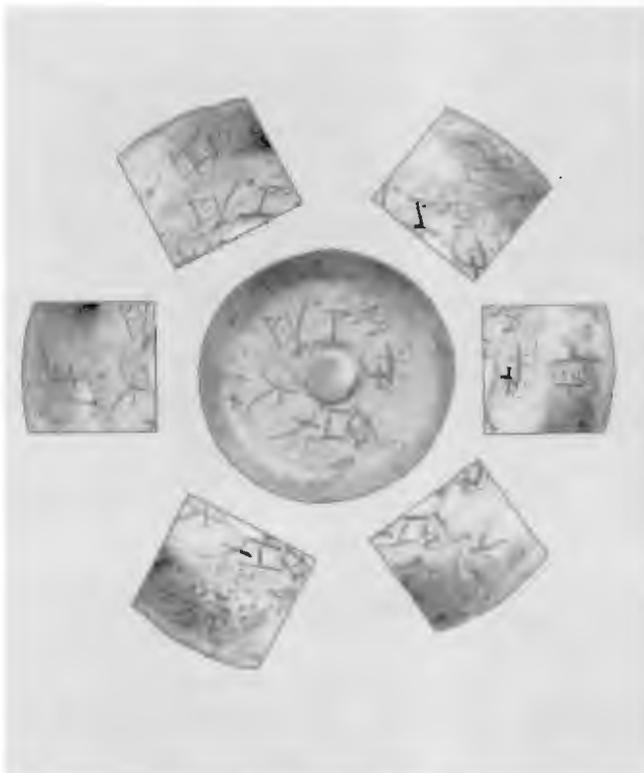
SI-78-17



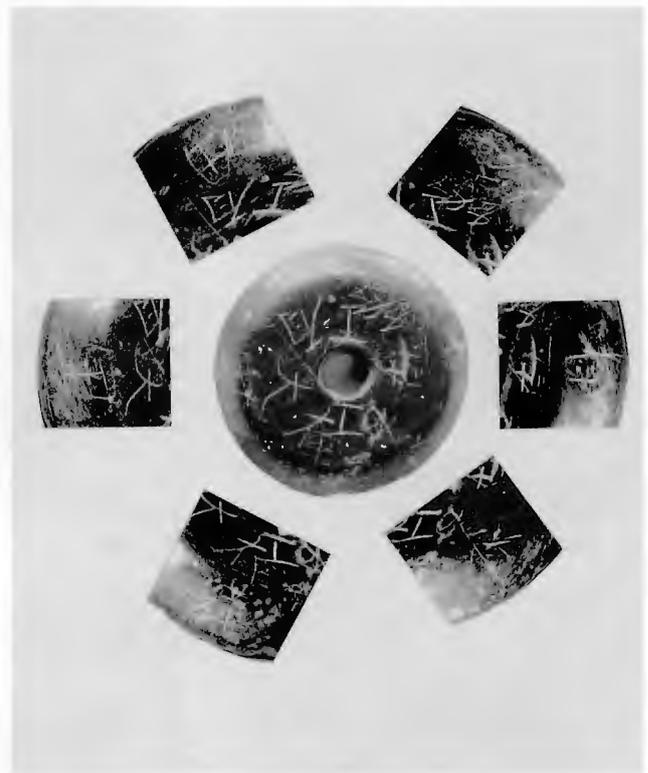
1 SI-60-22



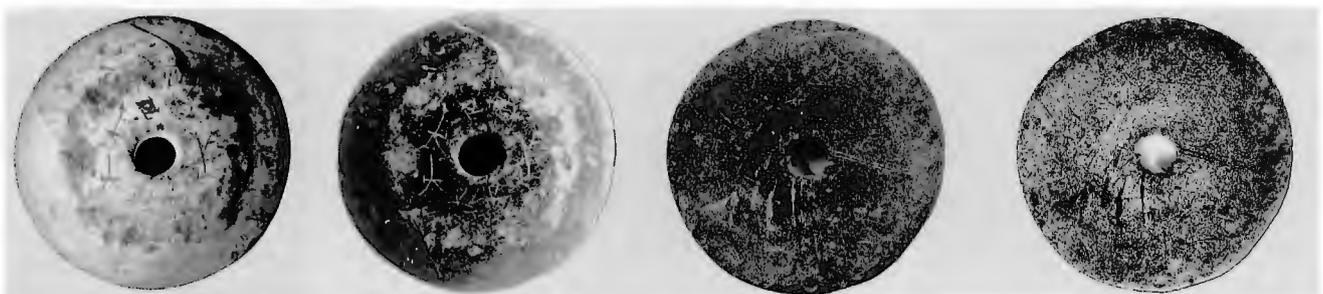
2 SI-60-22 広面文字拡大



3 SI-60-22 狭面・側面文字展開



4 N-14 グリッド (グリッド-49)





SI-02 床面遺物検出状況



SI-02 掘り方検出状況



SI-02 カマド検出状況



SI-04 床面遺物検出状況



SI-04 床面遺物検出状況



SI-04 カマド検出状況



SI-05 遺物検出状況



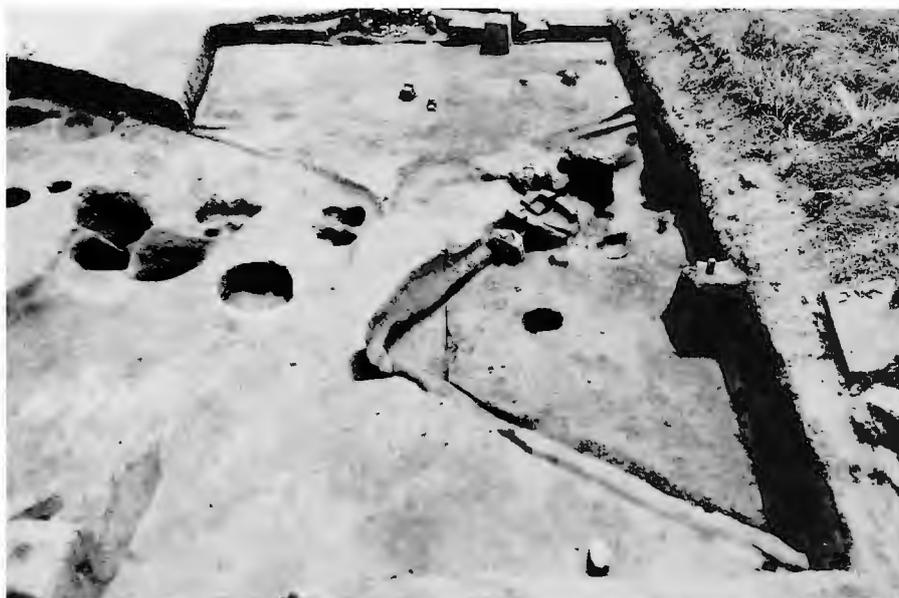
SI-05 床面遺物検出状況



SI-07 掘り方検出状況



SI-07 カマド検出状況



SI-09 床面検出状況



SI-12・13 床面検出状況



SI-12 カマド検出状況



SI-15 床面遺物検出状況



SI-15 カマド検出状況

報告書抄録

ふりがな	ひがしいかっこ かわらまち							
書名	東五十子・川原町							
副書名	児玉郡市広域市町村圏組合小山川クリーンセンター・湯かっこ建設工事関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	太田博之							
編集機関	東五十子遺跡調査会							
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 本庄市教育委員会内 電話0495-25-1186							
発行年月日	西暦2002（平成14）年3月29日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間 (m ²)	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
東五十子田端 屋敷遺跡 五十子陣跡 東五十子古墳群 川原町遺跡	埼玉県本庄市 大字東五十子 字田端屋敷		138	36°13'17"	139°13'00"	19951002～ 20020329		ゴミ処理施設 ならびに余熱 利用施設建設
			151					
			179					
	埼玉県本庄市 大字東五十子 字川原町		182					
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
東五十子田端 屋敷遺跡 五十子陣跡 東五十子古墳群	集落 古墳群 陣跡	縄文時代前～晩期 古墳時代前～後期 平安時代 中・近世	竪穴住居 78 古墳 32、埴輪集中 1 溝 49、井戸 63 方形竪穴状遺構 55 土壇 793、火葬土壇 1 建物跡 5、集石遺構 1 性格不明遺構 4		縄文土器片、石器片 土師器、須恵器 石・土製紡錘車 青磁、白磁、かわらけ かわらけ転用るつぼ 内耳土器、火鉢、手焙 三足香炉、古瀬戸播鉢、 古瀬戸小皿、耳皿、硯、 温石、石鉢、石臼、砥 石、板碑、五輪塔、宝 篋印塔、銅銭、鉄釘、 刀子、埴輪、管玉、鉄 鏃			
川原町遺跡	集落	古墳時代前～後期 平安時代	竪穴住居 19、土壇 11		土師器、須恵器 剣形・勾玉形石製品			

東五十子・川原町

児玉郡市広域市町村圏組合
小山川クリーンセンター・湯かっこ建設工事関係発掘調査報告

平成14年3月25日 印刷

平成14年3月29日 発行

発行／東五十子遺跡調査会
〒397-8510 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号
本庄市教育委員会内
電話 0495-25-1186

印刷／朝日印刷工業株式会社